

しま い せき 2 ・ しお や きん せい じん じゃ い せき 3  
島遺跡 2 ・ 塩屋金清神社遺跡 3

2012

飛驒市教育委員会



島遺跡 縄文時代中期 調査区全景（南から）

巻頭図版 2



島遺跡 縄文時代中期 調査区全景（北から）



塩屋金清神社遺跡 縄文時代中期 調査区全景（北西から）



島遺跡 縄文時代中期 遺構完掘状況（南から）



島遺跡 追加調査区 縄文時代中期 遺構完掘状況（南東から）



島遺跡 出土縄文土器



島遺跡 出土石棒類

卷頭図版 6



島遺跡 竪穴建物跡 SB384 完掘状況（南西から）

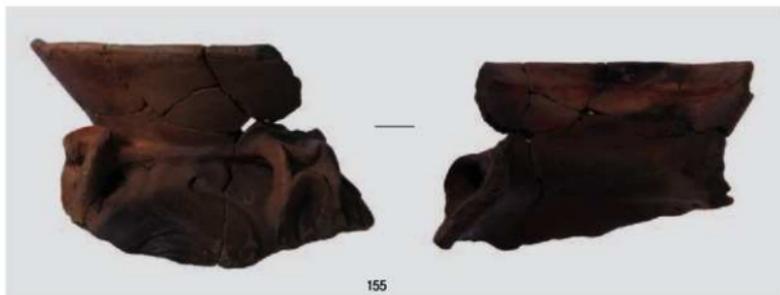


島遺跡 竪穴建物跡 SB1002 遺物出土状況（北東から）



島遺跡 竪穴建物跡 SB384 出土遺物

卷頭図版 8



鳥遺跡 竪穴建物跡 SB384 出土赤彩土器



鳥遺跡 竪穴建物跡 SB1002 出土鈎手土器及び徳利形土器

## 序

岐阜県の最北端に位置する飛騨市は、平成16年2月1日に、古川町・河合村・宮川村・神岡町の旧2町2村が合併して誕生しました。北は富山市、南東は高山市、西は白川村に接し、面積792.31km<sup>2</sup>、内、森林が約92%を占める山間地域に約27,000人の人々が生活しています。

その一つの町、宮川町は、深いV字谷の段丘上に小さな集落が点在し、その中央を清流宮川が貫流しています。人々は、厳しい自然環境の中であって、水の恵みや山の恵みを最大限に生かす工夫をしながら、強くたくましく生き抜いてきました。

さて、宮川町では、旧宮川村の時代である平成元年度より国道改良工事や観光開発に伴って、遺跡の発掘調査が行われるようになりました。その結果、旧石器時代から縄文時代草創期に遡る宮ノ前遺跡、四基の炉を持った住居跡のある堂ノ前遺跡などに続き、今回「鳥遺跡及び塩屋金清神社遺跡」の発掘調査報告書の刊行に至りました。これらの文献は、今後、先人の生きた足跡として貴重な価値をもつものになるであろうと思います。

この報告書の特筆すべきこととして、鳥遺跡においては、「石棒製作が縄文時代中期から後期と続けられ、廃棄の痕跡が確認されたこと」、また、塩屋金清神社遺跡では、「縄文時代後期に当地域で産出する塩屋石を用いての石棒製作が行われていたこと」が挙げられます。発掘された石棒などの遺物は、まさに太古の歴史を紐解くロマンの象徴です。本報告書と合わせて、今後の考古学研究の礎として、さらには、文化財保護への関心を高めるための一助となることを願っています。

終わりに、発掘調査及び出土遺物の整理、そして本報告書の作成等に対しまして、多大なるご指導・ご支援を賜りました関係諸機関・関係者の皆様にご心からお礼申し上げます。

平成24年3月

岐阜県飛騨市教育委員会

教育長 山本 幸一

## 例 言

- 1 本書は、岐阜県飛騨市宮川町塩屋に所在する鳥遺跡（岐阜県遺跡番号 21217-00037）及び塩屋金清神社遺跡（岐阜県遺跡番号 21217-00035）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、一般国道 360 号種蔵・打保バイパス道路改築事業に伴うものであり、岐阜県古川土木事務所から飛騨市が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は、飛騨市教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査は、岐阜県教育委員会社会教育文化課、金沢美術工芸大学名誉教授・小島俊彰氏、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター管理監(2008 年度当時)・林直樹氏の指導協力のもとに、発掘調査は 2008 年度に、整理作業は 2009 年度に実施した。
- 4 本書の執筆は、三好清超が行った。なお、第 5 章第 1 節については、南山大学非常勤講師（2009 年度当時）・長田友也氏に執筆頂いた。また編集は三好が行った。
- 5 発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削、測量、景観写真などの業務と、出土遺物の洗浄・注記及び二次整理作業における作業員雇用、現場管理、遺物実測、遺物の写真撮影などの業務は株式会社バスコ岐阜支店に委託して実施した。
- 6 木製品及び果子類の年代測定は、株式会社バスコ岐阜支店からバリノ・サーヴェイ株式会社に変更して実施し、その報告を第 4 章に掲載した。執筆はバリノ・サーヴェイ株式会社による結果をもとに三好が行った。
- 7 遺物の写真撮影は、株式会社バスコ岐阜支店からアートフォト右文に変更して実施した。
- 8 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順）。  
泉 拓良、伊藤正人、岩田 崇、大石崇史、長田友也、木下哲夫、瀬戸 茂、小島 功、小林正史、齊藤 華、白川 綾、関根慎二、谷藤保彦、田部 剛、寺崎祐助、戸田哲也、中村耕作、藤田富士夫、増子康真、三島 誠、山田昌久、山本暉久、山本典幸、米澤義光、綿田弘実、塩屋区
- 9 本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第Ⅶ系を使用する。水準は T.P. である。
- 10 土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2007『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
- 11 調査記録及び出土遺物は、飛騨市教育委員会で保管している。

# 目 次

巻頭図版	
序	
例言	
第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	3
第2章 遺跡の環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	8
第3章 発掘調査の成果	11
第1節 層序	11
第2節 遺構と遺物の概要	12
第3節 鳥遺跡の遺構と遺構内出土遺物	24
第4節 鳥遺跡の遺構外出土遺物	165
第5節 塩屋金清神社遺跡の遺構と遺構内出土遺物	167
第4章 自然科学分析	221
第1節 木製品等の樹種同定	221
第2節 出土木材・種実の放射性炭素年代測定	222
第3節 柱穴跡 SP145 出土木柱根の底面に付着した黒色物質の同定	226
第4節 土坑 SK335 出土骨片の同定	228
第5章 総括	229
第1節 鳥遺跡出土の石棒について	229
第2節 集落の変遷と石棒製作との関わり	239
引用・参考文献	
写真図版	
挿入写真	
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図	鳥造跡・塩屋金清神社遺跡位置図……………1	第47図	竪穴建物跡 SB384 関連遺構図……………62
第2図	試掘坑位置図……………2	第48図	竪穴建物跡 SB384 遺物出土状況図……………63
第3図	グリッド設定図……………6	第49図	竪穴建物跡 SB384 出土遺物実測図(1) ……64
第4図	周辺地形図……………7	第50図	竪穴建物跡 SB384 出土遺物実測図(2) ……65
第5図	鳥造跡・塩屋金清神社遺跡と周辺の縄文時代遺跡位置図……………9	第51図	竪穴建物跡 SB384 出土遺物実測図(3) ……66
第6図	基本層序模式図……………11	第52図	竪穴建物跡 SB384 出土遺物実測図(4) ……67
第7図	土坑分類図……………12	第53図	竪穴建物跡 SB410 遺構図……………68
第8図	遺構埋土堆積状況及び遺構断面形状分類模式図……………12	第54図	竪穴建物跡 SB410 関連遺構図……………69
第9図	1～6群遺物分類図……………15	第55図	竪穴建物跡 SB410 遺物出土状況図……………70
第10図	7～12群遺物分類図……………17	第56図	竪穴建物跡 SB410 出土遺物実測図(1) ……71
第11図	13～16、20群遺物分類図……………19	第57図	竪穴建物跡 SB410 出土遺物実測図(2) ……72
第12図	竪穴建物跡位置図……………24	第58図	竪穴建物跡 SB410 出土遺物実測図(3) ……73
第13図	竪穴建物跡 SB1・SB2 遺構図……………26	第59図	竪穴建物跡 SB456・SB610 遺構図(1) ……75
第14図	竪穴建物跡 SB2 関連遺構図……………27	第60図	竪穴建物跡 SB456・SB610 遺構図(2) ……76
第15図	竪穴建物跡 SB1・SB2 遺物出土状況図……………28	第61図	竪穴建物跡 SB456・SB610 関連遺構図……………77
第16図	竪穴建物跡 SB1 出土遺物実測図(1) ……29	第62図	竪穴建物跡 SB456・SB610 遺物出土状況図……………78
第17図	竪穴建物跡 SB1 出土遺物実測図(2) ……30	第63図	竪穴建物跡 SB456 出土遺物実測図(1) ……79
第18図	竪穴建物跡 SB1 出土遺物実測図(3) ……31	第64図	竪穴建物跡 SB456 出土遺物実測図(2) ……80
第19図	竪穴建物跡 SB2 出土遺物実測図……………32	第65図	竪穴建物跡 SB456 出土遺物実測図(3) ……81
第20図	竪穴建物跡 SB55 遺構図……………34	第66図	竪穴建物跡 SB456 出土遺物実測図(4) ……82
第21図	竪穴建物跡 SB55 関連遺構図……………35	第67図	竪穴建物跡 SB472 遺構図……………84
第22図	竪穴建物跡 SB55 遺物出土状況図……………36	第68図	竪穴建物跡 SB472 遺物出土状況図……………85
第23図	竪穴建物跡 SB55 出土遺物実測図……………37	第69図	竪穴建物跡 SB472 出土遺物実測図……………86
第24図	竪穴建物跡 SB118 遺構図……………38	第70図	竪穴建物跡 SB610・SB710 出土遺物実測図……………87
第25図	竪穴建物跡 SB118 遺物出土状況図……………39	第71図	竪穴建物跡 SB710 遺構図……………88
第26図	竪穴建物跡 SB118 関連遺構図……………40	第72図	竪穴建物跡 SB710 遺物出土状況図……………89
第27図	竪穴建物跡 SB118 出土遺物実測図(1) ……40	第73図	竪穴建物跡 SB1001・SB1006 遺構図……………92
第28図	竪穴建物跡 SB118 出土遺物実測図(2) ……41	第74図	竪穴建物跡 SB1001・SB1006 遺物出土状況図……………93
第29図	竪穴建物跡 SB119 遺構図……………43	第75図	竪穴建物跡 SB1001 出土遺物実測図……………94
第30図	竪穴建物跡 SB119 遺物出土状況図……………44	第76図	竪穴建物跡 SB1002・SB1003 遺構図……………95
第31図	竪穴建物跡 SB119 関連遺構図……………45	第77図	竪穴建物跡 SB1002 遺物出土状況図……………96
第32図	竪穴建物跡 SB119 出土遺物実測図(1) ……45	第78図	竪穴建物跡 SB1002 出土遺物実測図……………97
第33図	竪穴建物跡 SB119 出土遺物実測図(2) ……46	第79図	竪穴建物跡 SB1004 遺構図……………98
第34図	竪穴建物跡 SB119 出土遺物実測図(3) ……47	第80図	竪穴建物跡 SB1004 関連遺構図……………99
第35図	竪穴建物跡 SB120 遺構図……………48	第81図	竪穴建物跡 SB1004 遺物出土状況図……………100
第36図	竪穴建物跡 SB120 遺物出土状況図……………49	第82図	竪穴建物跡 SB1004 出土遺物実測図(1) 101
第37図	竪穴建物跡 SB120 出土遺物実測図……………50	第83図	竪穴建物跡 SB1004 出土遺物実測図(2) 102
第38図	竪穴建物跡 SB191 遺構図……………52	第84図	竪穴建物跡 SB1008・SB1033 遺構図……………103
第39図	竪穴建物跡 SB192 遺構図……………53	第85図	竪穴建物跡 SB1008・SB1033 遺物出土状況図……………104
第40図	竪穴建物跡 SB192 遺物出土状況図……………54	第86図	竪穴建物跡 SB1006 出土遺物実測図……………105
第41図	竪穴建物跡 SB194 遺構図(1)……………55	第87図	竪穴建物跡 SB1008 出土遺物実測図……………105
第42図	竪穴建物跡 SB194 遺構図(2)……………56	第88図	竪穴建物跡 SB1033 出土遺物実測図……………106
第43図	竪穴建物跡 SB194 関連遺構図……………57	第89図	竪穴建物跡 SB1046 遺構図……………107
第44図	竪穴建物跡 SB194 遺物出土状況図……………58	第90図	竪穴建物跡 SB1046 出土遺物実測図……………108
第45図	竪穴建物跡 SB191・SB192・SB194 出土遺物実測図……………59	第91図	炉跡・土器埋設遺構・柱穴跡・広場跡位置図……………109
第46図	竪穴建物跡 SB384 遺構図……………61		

第92図	跡跡SF278遺構図及び出土遺物実測図	109	第124図	遺物集積遺構SX280出土遺物実測図(6)	157
第93図	土器埋設遺構遺構図	110	第125図	遺物集積遺構SX280出土遺物実測図(7)	158
第94図	埋設土器実測図	111	第126図	遺物集積遺構SX280出土遺物実測図(8)	159
第95図	柱穴跡SP145遺構図及び木柱根実測図	113	第127図	遺物集積遺構SX471出土遺物実測図(1)	160
第96図	土坑A類位置図	118	第128図	遺物集積遺構SX471出土遺物実測図(2)	161
第97図	土坑A類遺構図	119	第129図	遺物集積遺構SX471出土遺物実測図(3)	162
第98図	土坑A類出土遺物実測図(1) SK17・SK26・SK27	120	第130図	遺物集積遺構SX471出土遺物実測図(4)	163
第99図	土坑A類出土遺物実測図(2) SK30・SK39	121	第131図	遺物集積遺構SX471出土遺物実測図(5)	164
第100図	土坑A類出土遺物実測図(3) SK42・SK85・SK133・SK134・SK179	122	第132図	遺物集積遺構SX471出土遺物実測図(6)	165
第101図	土坑A類出土遺物実測図(4) SK180・SK276・SK307・SK361・SK402	123	第133図	鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(1)	168
第102図	土坑A類出土遺物実測図(5) SK607・SK608(1)	124	第134図	鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(2)	169
第103図	土坑A類出土遺物実測図(6) SK608(2)・SK664(1)	125	第135図	鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(3)	170
第104図	土坑A類出土遺物実測図(7) SK664(2)	126	第136図	鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(4)	171
第105図	土坑A類出土遺物実測図(8) SK664(3)・SK675	127	第137図	鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(5)	172
第106図	土坑B類位置図	129	第138図	鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(6)	173
第107図	土坑B類遺構図	132	第139図	鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(7)	174
第108図	土坑B類遺物実測図 SK158・SK160・SK209・SK215・SK217・SK218	133	第140図	鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(8)	175
第109図	土坑C類位置図	135	第141図	鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(9)	176
第110図	土坑C類遺構図(1)	141	第142図	鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(10)	177
第111図	土坑C類遺構図(2)	142	第143図	鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(11)	178
第112図	土坑C類出土遺物実測図 SK183・SK257・SK709	143	第144図	鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(12)	179
第113図	土坑D類出土遺物実測図(1) SK34・SK35・SK46・SK48・SK117・SK178・SK324・SK326(1)	145	第145図	鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(13)	180
第114図	土坑D類出土遺物実測図(2) SK326(2)・SK347・SK371・SK373	146	第146図	鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(14)・塩屋金清神社遺跡出土遺物実測図	181
第115図	土坑D類出土遺物実測図(3) SK415・SK441・SK454・SK481・SK492・SK640・SK668・SK670・SK1029・SK1030	147	第147図	遺構全体図割付図	182
第116図	土坑D類出土遺物実測図(4) SK651	148	第148図	鳥遺跡遺構全体図分割図1	183
第117図	遺物集積遺構位置図	149	第149図	鳥遺跡遺構全体図分割図2	184
第118図	遺物集積遺構SU128出土遺物実測図	150	第150図	鳥遺跡遺構全体図分割図3	185
第119図	遺物集積遺構SX280出土遺物実測図(1)	152	第151図	鳥遺跡遺構全体図分割図4	186
第120図	遺物集積遺構SX280出土遺物実測図(2)	153	第152図	鳥遺跡遺構全体図分割図5	187
第121図	遺物集積遺構SX280出土遺物実測図(3)	154	第153図	鳥遺跡遺構全体図分割図6	188
第122図	遺物集積遺構SX280出土遺物実測図(4)	155	第154図	鳥遺跡遺構全体図分割図7	189
第123図	遺物集積遺構SX280出土遺物実測図(5)	156	第155図	鳥遺跡遺構全体図分割図8	190
			第156図	鳥遺跡遺構全体図分割図9	191
			第157図	塩屋金清神社遺跡遺構全体図分割図10	192
			第158図	塩屋金清神社遺跡遺構全体図分割図11	193
			第159図	塩屋金清神社遺跡遺構全体図分割図12	194
			第160図	塩屋金清神社遺跡遺構全体図分割図13	195
			第161図	塩屋金清神社遺跡遺構全体図分割図14	196
			第162図	暦年校正結果グラフ	224
			第163図	FT-IR スペクトル測定図	227
			第164図	塩屋石製棒出土遺跡分布図	229

第165図	石棒類の概念図	230
第166図	鳥道跡出土石棒類(1)	231
第167図	鳥道跡出土石棒類(2)	232
第168図	鳥道跡出土石棒類(3)	233
第169図	鳥道跡出土石棒類(4)	235
第170図	鳥道跡における石棒製作工程図	237
第171図	第Ⅰ期(古府式期)竪穴建物跡位置図	240
第172図	第Ⅱ期(古申田新式期)竪穴建物跡位置図	241

第173図	第Ⅲ期(申田新Ⅰ式期)竪穴建物跡位置図	241
第174図	第Ⅳ期(申田新Ⅱ式期)竪穴建物跡位置図	242
第175図	第Ⅴ期(申田新Ⅱ式-前田・岩崎野式期)竪穴建物跡位置図	242
第176図	塩屋石製石製品分布図	244
第177図	塩屋石製石製品製作地変遷図	244

## 表 目 次

第1表	試掘・確認調査の結果	3
第2表	寮解市教育委員会事務局の体制	3
第3表	周辺の縄文遺跡一覧表	10
第4表	縄文土器・土製品一覧表	13
第5表	石器・石製品一覧表	23
第6表	竪穴建物跡一覧表	25
第7表	竪穴建物跡SB1に伴う遺構一覧表	27
第8表	竪穴建物跡SB2に伴う遺構一覧表	33
第9表	竪穴建物跡SB55に伴う遺構一覧表	35
第10表	竪穴建物跡SB118に伴う遺構一覧表	35
第11表	竪穴建物跡SB119に伴う遺構一覧表	42
第12表	竪穴建物跡SB120に伴う遺構一覧表	49
第13表	竪穴建物跡SB191に伴う遺構一覧表	60
第14表	竪穴建物跡SB192に伴う遺構一覧表	60
第15表	竪穴建物跡SB194に伴う遺構一覧表	60
第16表	竪穴建物跡SB384に伴う遺構一覧表	62
第17表	竪穴建物跡SB410に伴う遺構一覧表	74
第18表	竪穴建物跡SB456に伴う遺構一覧表	83
第19表	竪穴建物跡SB472に伴う遺構一覧表	83
第20表	竪穴建物跡SB610に伴う遺構一覧表	83
第21表	竪穴建物跡SB710に伴う遺構一覧表	87
第22表	竪穴建物跡SB1002に伴う遺構一覧表	97
第23表	竪穴建物跡SB1004に伴う遺構一覧表	99
第24表	竪穴建物跡SB1006に伴う遺構一覧表	99
第25表	竪穴建物跡SB1008に伴う遺構一覧表	99
第26表	竪穴建物跡SB1046に伴う遺構一覧表	108
第27表	炉跡一覧表	109
第28表	土器埋設遺構一覧表	110
第29表	柱穴跡一覧表	112
第30表	土坑A類一覧表	128
第31表	土坑B類一覧表	129
第32表	土坑C類一覧表	136
第33表	遺物集積遺構一覧表	149

第34表	鳥道跡土坑D類一覧表(1)	197
第35表	鳥道跡土坑D類一覧表(2)	198
第36表	鳥道跡土坑D類一覧表(3)	199
第37表	鳥道跡土坑D類一覧表(4)	200
第38表	塩屋金清神社遺跡土坑D類一覧表	200
第39表	縄文土器観察表(1)	201
第40表	縄文土器観察表(2)	202
第41表	縄文土器観察表(3)	203
第42表	縄文土器観察表(4)	204
第43表	縄文土器観察表(5)	205
第44表	縄文土器観察表(6)	206
第45表	縄文土器観察表(7)	207
第46表	縄文土器観察表(8)	208
第47表	縄文土器観察表(9)	209
第48表	縄文土器観察表(10)	210
第49表	縄文土器観察表(11)	211
第50表	縄文土器観察表(12)	212
第51表	縄文土器観察表(13)	213
第52表	縄文土器観察表(14)	214
第53表	縄文土器観察表(15)	215
第54表	石器・石製品観察表(1)	216
第55表	石器・石製品観察表(2)	217
第56表	石器・石製品観察表(3)	218
第57表	石器・石製品観察表(4)	219
第58表	石器・石製品観察表(5)	220
第59表	樹種同定結果一覧表	221
第60表	放射性炭素年代測定結果一覧表	224
第61表	暦年校正結果一覧表	225
第62表	骨片同定結果一覧表	228
第63表	鳥道跡出土石棒類一覧表	238
第64表	竪穴建物跡時期別一覧表	239
第65表	塩屋石製石製品出土遺跡一覧表	244

## 写真図版目次

巻頭図版 1	高遺跡 縄文時代中期 調査区全景 (南から)	図版 12	遺構 (12)
巻頭図版 2	高遺跡 縄文時代中期 調査区全景 (北から)	図版 13	遺物 (1) 竪穴建物跡 SB1 (1)
	塩屋金清神社遺跡 縄文時代中期	図版 14	遺物 (2) 竪穴建物跡 SB1 (2)
	調査区全景 (北西から)	図版 15	遺物 (3) 竪穴建物跡 SB2・SB120 (1)・SB191・SB192・SB710
巻頭図版 3	高遺跡 縄文時代中期 遺構発掘状況 (南から)	図版 16	遺物 (4) 竪穴建物跡 SB55・SB120 (2)
	高遺跡 追加調査区 縄文時代中期	図版 17	遺物 (5) 竪穴建物跡 SB118
	遺構発掘状況 (南東から)	図版 18	遺物 (6) 竪穴建物跡 SB119 (1)
巻頭図版 4	高遺跡 出土縄文土器	図版 19	遺物 (7) 竪穴建物跡 SB119 (2)・SB384 (1)
巻頭図版 5	高遺跡 出土石棒類	図版 20	遺物 (8) 竪穴建物跡 SB384 (2)
巻頭図版 6	高遺跡 竪穴建物跡 SB384 発掘状況 (南西から)	図版 21	遺物 (9) 竪穴建物跡 SB384 (3)・SB472 (1)
	高遺跡 竪穴建物跡 SB1002 遺物出土状況 (北東から)	図版 22	遺物 (10) 竪穴建物跡 SB410 (1)・SB472 (2)
巻頭図版 7	高遺跡 竪穴建物跡 SB384 出土遺物	図版 23	遺物 (11) 竪穴建物跡 SB410 (2)
巻頭図版 8	高遺跡 竪穴建物跡 SB384 出土赤彩土器	図版 24	遺物 (12) 竪穴建物跡 SB410 (3)・SB456 (1)・SB610、刃跡 SF278
	高遺跡 竪穴建物跡 SB1002 出土釣手土器及び徳利形土器	図版 25	遺物 (13) 竪穴建物跡 SB456 (2)
図版 1	遺構 (1)	図版 26	遺物 (14) 竪穴建物跡 SB456 (3)・SB1001 (1)
図版 2	遺構 (2)	図版 27	遺物 (15) 竪穴建物跡 SB1001 (2)・SB1002 (1)・SB1006
図版 3	遺構 (3)	図版 28	遺物 (16) 竪穴建物跡 SB1002 (2)・SB1004 (1)・SB1008
図版 4	遺構 (4)	図版 29	遺物 (17) 竪穴建物跡 SB1004 (2)・SB1033
図版 5	遺構 (5)	図版 30	遺物 (18) 竪穴建物跡 SB194・SB1046、土坑 A 類 SK27
図版 6	遺構 (6)	図版 31	遺物 (19) 埋設土器遺構 SZ38、遺物集積遺構 SU128、土坑 A 類 SK664
図版 7	遺構 (7)	図版 32	遺物 (20) 遺物集積遺構 SX280 (1)
図版 8	遺構 (8)	図版 33	遺物 (21) 遺物集積遺構 SX280 (2)・SX471
図版 9	遺構 (9)	図版 34	遺物 (22) 石棒類
図版 10	遺構 (10)	図版 35	自然科学分析 (1)
図版 11	遺構 (11)	図版 36	自然科学分析 (2)

## 挿入写真目次

写真 1	竪穴建物跡掘削状況…………… 5	写真 4	発掘調査速報風景…………… 5
写真 2	測量作業状況…………… 5	写真 5	試料 1: SP145 出土木柱根 347 …… 222
写真 3	現地説明会風景…………… 5	写真 6	試料 2: SK158 出土木片 417 …… 222

# 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経緯

鳥遺跡及び塩屋金清神社遺跡は、岐阜県飛騨市宮川町塩屋に所在する（第1図）。当遺跡が発掘調査の対象となったのは、岐阜県古川土木事務所により、平成21～25年度事業として計画された一般国道360号種蔵・打保バイパス道路改築事業に伴うものである。

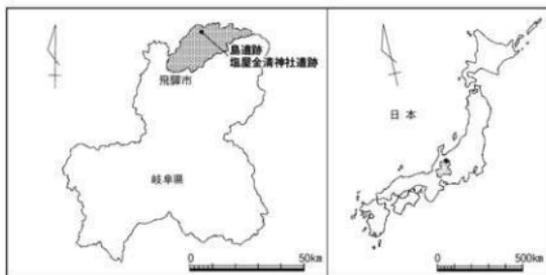
**埋蔵文化財包蔵地の有無の照会** 岐阜県古川土木事務所より平成12年3月7日付け古土第1623号にて宮川村教育委員会（現飛騨市教育委員会、以下同じ）へ行われた。回答は平成12年3月15日付け宮川教第1378号にて行われ、内容は塩屋区において周知の埋蔵文化財包蔵地である鳥遺跡・塩屋金清神社遺跡が所在するとのことであった。

**試掘・確認調査** 宮川村教育委員会では詳細な調査面積及び遺跡の性格等を把握するため、平成12年（2000）11月末～12月初旬にかけて試掘・確認調査を実施した（第2図、第1表）。試掘・確認調査では、鳥遺跡では縄文時代の土器片6点、石器20点を確認し、塩屋金清神社遺跡では土坑1基、縄文時代の石器4点を確認した（宮川村教育委員会2002）。これらの調査結果を、平成13年7月16日付け宮川教762号にて岐阜県古川土木事務所へ回答した。

**文化財保護法第94条** 周知の埋蔵文化財包蔵地における発掘の通知が、岐阜県古川土木事務所より岐阜県教育委員会へ平成20年4月3日付け古土第14号にて行われた。

**本発掘調査実施の指示** 岐阜県教育委員会では平成20年4月28日付け社文第5号の5にて、必要範囲について本発掘調査を実施するよう指示した。発掘調査は岐阜県古川土木事務所から飛騨市が委託を受け、平成20年度に飛騨市教育委員会が実施した（第2表）。

**調査範囲の決定** 平成12年度に宮川村教育委員会が実施した試掘・確認調査に基づき2,779㎡とした。事前調査により鳥遺跡において1,211㎡は遺構が無いことを明らかにしたため、平成20年9月3日に岐阜県古川土木事務所へ報告し、協議後調査面積を減少した。また調査終盤には、泉拓良氏による指導を基に、平成20年11月28日に岐阜県古川土木事務所と協議し、鳥遺跡調査区の北側において303㎡の追加発掘調査を行うこととなった。最終的に調査面積は合計1,996㎡となった。



第1図 鳥遺跡・塩屋金清神社遺跡位置図



第2図 試掘坑位置図

第1表 試掘・確認調査の結果

試掘坑	検出遺構等	出土遺物数												
		縄文土器				石器・石製品								
		中層中葉	中層後葉	後葉前期	不明	打製石片	磨製石	磨石	凹石	台石	石鏃	敲石	石棒	石錐
1	縄文時代中期後葉の遺物包含層 縄文時代後期前葉の遺物包含層	-	3	4	2	-	8	2	1	1	-	1	-	1
2	遺物包含層	-	1	-	1	3	-	-	1	1	-	-	1	-
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	-	-	1	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	2
12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	土坑	2	1	-	1	-	-	3	-	-	1	-	-	-
20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
未調査	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
合計		2	6	4	4	5	11	5	3	2	1	2	1	3

第2表 飛騨市教育委員会事務局の体制

平成20年度(2008)		平成21年度(2009)		平成23年度(2011)	
教育長	松葉 正	教育長	松葉 正	教育長	山本 幸一
事務局長	水谷兼太郎	事務局長	岩塚 泰男	事務局長	藤井 義昌
文化課長兼文化財係長	谷口 功	文化振興室長	前田 重信(4月)	文化振興室長	佐藤 康雄
主査	澤村雄一郎		岩塚 泰男(4・5月、兼務)	施設係長兼文化財係長	佐藤 直樹
担当	三好 清超	文化財係長	平澤 千人(5～3月)	担当	三好 清超
		担当	澤村雄一郎	臨時職員	上川渡理絵
			三好 清超		中畑茉莉香

## 第2節 調査の方法と経過

### 1 調査の方法

**グリッドの設定** 調査区画は、世界測地系座標を基に100m×100mの大グリッドを設定し、その中に5m×5mの小グリッドを設定した。小グリッドは北から南へAからT、西から東へ1から20とし、調査区画の呼称は北西角の杭番号を用いた(第3図)。

**掘削** 表土掘削は重機で行い、遺物包含層、遺構検出作業、遺構掘削作業はすべて人力で行った。

**記録作成** 遺構番号は検出順の通番とした。遺構平面図・断面図は三次元測量図化システムにより作成した。遺構調査に当たっては、原則としてすべて平面図を作成し、断面図については埋土が単層の土坑・柱穴以外を全て作成した。記録写真は35mmカメラ(モノクロ・カラー)、中判カメラ(モ

ノクロ・カラー)、デジタルカメラで撮影した。景観写真はラジコンヘリコプターにより撮影した。

遺物の取り上げ 遺構内から出土した遺物については一点取り上げとし、遺物包含層から出土した遺物は、小グリッドによる一括取り上げとした。

## 2 発掘調査の経過

2008年に実施した現地での調査経過は、以下のとおりである。

第1週(8/20～) 鳥遺跡表土掘削開始。試掘・確認調査で確認していなかった竪穴建物跡・立石遺構を第IV層地山上面で検出した。遺構の残りが良いと分かり、まず第IV層までの遺物包含層の厚さ並びに全体の遺構数を把握することとした。

第2週(8/25～) 鳥遺跡遺物包含層掘削開始、遺構検出開始。塩屋石製の大型石棒2点が出土。

第3～5週(9/1～) 鳥遺跡遺構検出。塩屋金清神社遺跡表土掘削開始。19日台風接近による養生。

第6週(9/22～) 鳥遺跡竪穴建物跡掘削開始。

第7週(9/29～) 鳥遺跡埋設土器掘削開始。

第8週(10/6～) 鳥遺跡炉跡半截。10日小島俊彰氏、林直樹氏調査指導。縄文時代中期の集落跡として竪穴建物跡の検出を最優先で行う旨の指導を受けた。

第9週(10/14～) 塩屋金清神社遺跡遺構検出及び掘削。

第10週(10/20～) 鳥遺跡・塩屋金清神社遺跡遺構掘削。26日現地説明会(70名参加)。

第11～13週(10/27～) 鳥遺跡遺構掘削及び遺構写真撮影、測量。

第14週(11/17～) 鳥遺跡遺構掘削及び写真撮影、測量。17日岩田崇氏・大石崇史氏調査指導。出土遺物の分類について指導を受けた。

第15週(11/25～) 鳥遺跡遺構掘削及び写真撮影、測量。27日鳥遺跡・塩屋金清神社遺跡景観写真撮影。泉拓良氏調査指導。鳥遺跡の遺構検出状況から、発掘調査範囲北側についても、もう一度遺構の有無を確認するよう指導を受けた。

第16週(12/1～) 鳥遺跡において追加調査開始。表土掘削並びに遺構検出、掘削。9日調査終了。

第17週(12/15～) 鳥遺跡・塩屋金清神社遺跡埋め戻し。

16日埋め戻し完了、現場撤収。

## 3 整理作業の経過

一次整理作業 発掘調査終了後、2009年3月10日まで、飛騨みやがわ考古民俗館において遺物洗浄・注記等の一次整理作業を行った。洗浄後、脆弱な土器類は洗浄後に強化のため合成樹脂(バンダーNa17)に24時間浸した。注記はジェットマーカーにより行った。記入事項は遺跡略号(鳥遺跡:SS、塩屋金清神社遺跡:SK)・調査年度(08)・取り上げ番号とした。同一個体として取り上げたが、別個体であった遺物にはさらに枝番号を付した。なお、石鏃や楔形石器などの小型石器については遺物に直接注記せず、収納したチャック付きポリ袋に記入した。2010年2月13日には、小島俊彰氏、林直樹氏により遺物の分類基準について指導を受けた。

二次整理作業及び報告書作成作業等 2009年5月28日～2010年3月10日にかけて飛騨みやがわ考古民俗館で行った。二次整理作業にあたり、支援業務委託先の株式会社パスコ岐阜支店整理作業場の一部出土遺物を持ち出した。出土遺物はまず遺構出土遺物と遺構外出土遺物に分けた。遺構出土土

器のうち、特に堅穴建物跡出土遺物は遺跡の時期及び性格を決定する資料と考え、時期決定資料となる遺物を報告書に掲載することとした。その他の遺構については、遺構の性格を反映する遺物、遺構の時期決定資料となる遺物を中心に掲載することとした。遺構ごとに接合・復元・拓本・実測・トレースを行った。グリッド間及び遺構間接合は行わなかった。包含層出土遺物は、遺跡の性格を反映するもの、資料的価値が高いもの、分類別の代表的なものを重視して掲載した。

出土遺物の検討として、2009年5月8日には木下哲夫氏、7月19日には伊藤正人氏、岩田崇氏、大石崇史氏、長田友也氏、木下哲夫氏、瀬藤茂氏、小島俊彰氏、齊藤華氏、白川綾氏、関根慎二氏、谷藤保彦氏、寺崎祐助氏、戸田哲也氏、中村耕作氏、増子康眞氏、綿田弘美氏に、土器の位置付けについて助言いただいた。11月8日には長田友也氏、山本暉久氏に石椀について助言いただいた。2010年2月20日には、長田友也氏、小島俊彰氏、戸田哲也氏に出土遺物の分類について助言いただいた。2011年2月14日には山田昌久氏に木製品について助言いただいた。

普及活動として、2009年10月4日には飛騨みやがわ考古民俗館において発掘調査速報展を開催し、51名の参加を得た。また2011年7月9日には、平成23年度岐阜県発掘調査報告会（主催：岐阜県文化財保護センター、於：大垣市サイトピアセンター）において報告を行った。

報告書の印刷は2011年度に実施した。



写真1 堅穴建物跡掘削状況



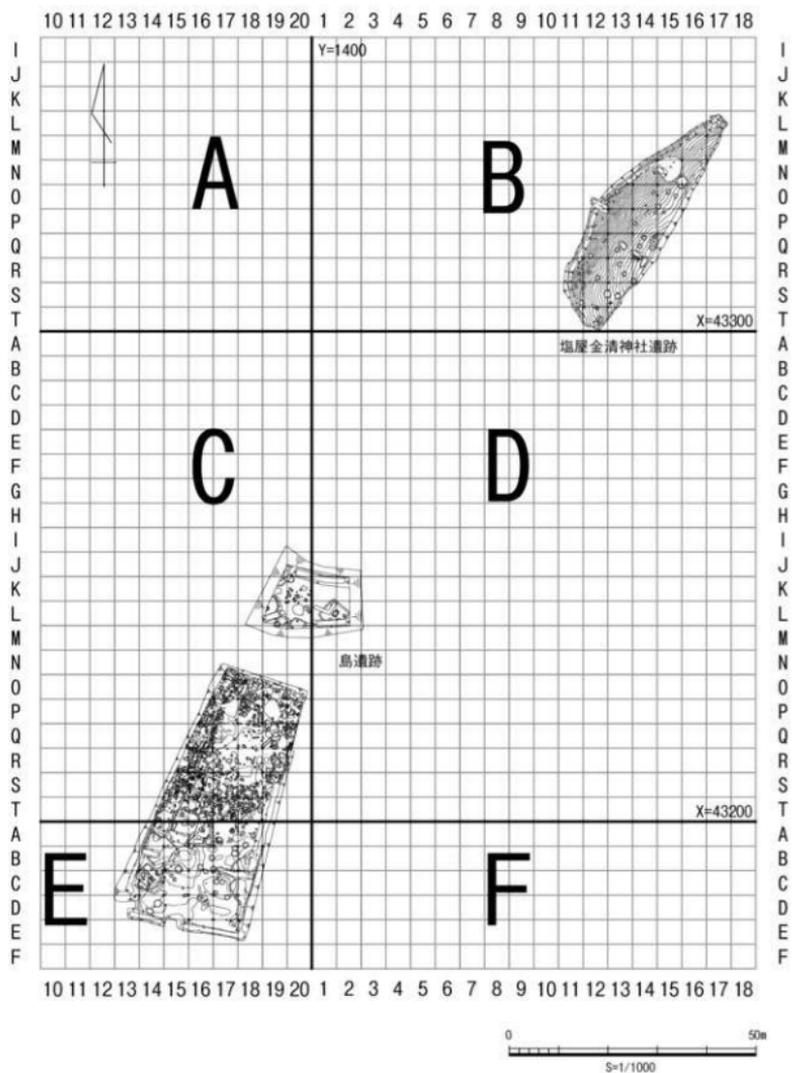
写真2 測量作業状況



写真3 現地説明会風景 (2008年10月26日)



写真4 発掘調査速報展風景 (2009年10月4日)



第3図 グリッド設定図

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

飛騨市は岐阜県最北部に位置する。2004年2月に、古川町・河合村・宮川村・神岡町が合併し誕生した。人口は約27,000人、面積は792.31k㎡である。市域のほとんどは山地・森林であり、起伏が激しく標高差が700mもある複雑な地勢である。

宮川町は、町内をほぼ縦断する形で宮川が南から北へ流れている。その宮川によって形成されたV字型の峡谷は深く、町内には河川に沿って小規模な河岸段丘が点在する。その河岸段丘上に町内の集落は立地している。

鳥遺跡・塩屋金清神社遺跡は宮川右岸の河岸段丘上、飛騨市宮川町塩屋に位置する。塩屋区は、そのほぼ中央を南北に張り出した舌状の尾根で二分され、遺跡はこのうちの下流側に位置する(第4図)。舌状尾根の麓では湧水を確認できる。遺跡の立地する河岸段丘には、東側背後の山間を流れる塩屋谷によって運ばれた土砂が堆積し、扇状地を形成している。宮川の河川敷から山麓まではゆるやかな斜面が続く、明瞭な段丘面は確認できない。扇状地の頂部に当たる山麓には塩屋金清神社が鎮座する。この神社には周辺から出土した3体の石棒がご神体として祀られている。この神社の祭神は「金精様」または「金勢明神」、「金精(金勢)権現」などと呼ばれ、子授け・安産の神様として、現在も近隣だけでなく北陸方面の人々からも信仰を集めている。神社周辺は民家が点在するが、現況はほとんどが水田である。かつて水田は宮川河川敷から山麓まで20～30区画の小さい水田が棚田として連なっていた。昭和50年代の土地改良工事により、現在は6～8区画の水田が連なっている。



第4図 周辺地形図

## 第2節 歴史的環境

### 1 宮川町周辺の歴史的環境

飛騨市宮川町には、宮川沿いの河岸段丘上に多くの遺跡が立地し、現在の集落と重なるように分布している（第5図、第3表）。ここでは発掘調査等により詳細が明らかになっている遺跡を中心に述べる。なお、文中内の括弧内の番号は第5図と第3表とが一致する。

旧石器時代では、宮川町西忍に所在する宮ノ前遺跡（16）及び同町稲葉に所在する稲葉遺跡（18）で遺物を確認している。宮ノ前遺跡では、1989～95年にかけて発掘調査を実施し、後期旧石器時代のナイフ型石器及び角錐状石器、細石刃などを確認した。細石刃と同じ土層から加工痕のある木片も確認している。材質は亜寒帯性の針葉樹である。稲葉遺跡では、1974年に南山大学が発掘調査を行っている。硬質頁岩製のチョッパーや尖頭器を確認した。

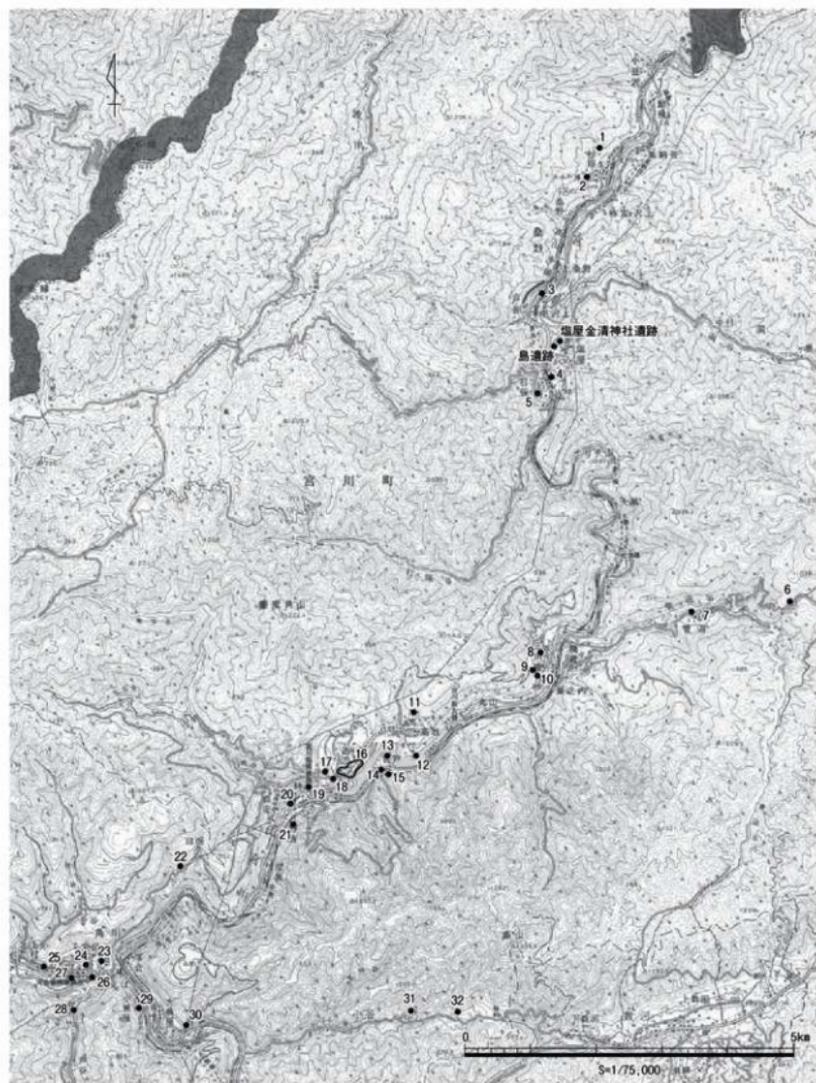
縄文時代では、宮川町杉原に所在する瑞穂遺跡（2）、塩屋金清神社遺跡、同町菅沼に所在するニコイ岩除遺跡（6）、上述した宮ノ前遺跡（16）、同町林に所在する家ノ下遺跡（19）、同町野首に所在する堂ノ前遺跡（20）、河合町角川に所在する下田遺跡（26）の遺跡において発掘調査を行っている。瑞穂遺跡では1993年に発掘調査を行った。竪穴建物跡6軒をはじめ、土坑や埋設土器を検出し、縄文時代中期後葉の集落跡であることを確認した。塩屋金清神社遺跡では1992・93年に発掘調査を実施した。1,000点を超える塩屋石（黒雲母流紋岩質溶結凝灰岩）製の石棒と石棒未製品が出土し、縄文時代後期に石棒が製作された場として全国的に注目を浴びた。遺跡の中心は塩屋金清神社の境内地及びその上方の平坦地と考えられている。境内地周辺は「塩屋金清神社と縄文遺跡」として飛騨市指定史跡となっており、出土遺物は「塩屋金清神社遺跡出土品」として岐阜県重要文化財に指定されている。ニコイ岩除遺跡は1973年に南山大学が学術調査を行った。縄文時代早期の押型土器やシカの歯が出土した。宮ノ前遺跡では縄文時代草創期から晩期まで各期の遺構・遺物を確認し、中期においては建築部材も出土した。出土遺物は「宮ノ前遺跡出土品」として岐阜県重要文化財に指定されている。家ノ下遺跡は1990年と1994年に発掘調査を行った。縄文時代後期から晩期にかけての遺構・遺物を確認した。石棒、石刀、石剣、御物石器、石冠などの石製品が多数出土した。出土遺物は「家ノ下遺跡出土品」として岐阜県重要文化財に指定されている。堂ノ前遺跡では1991～1993年にかけて発掘調査を行った。竪穴建物跡19軒などを確認し、縄文時代中期中葉の集落跡であることを確認した。出土遺物は「堂ノ前遺跡出土品」として岐阜県重要文化財に指定されている。下田遺跡では、1980・1983～1984年に発掘調査を行った。竪穴建物跡8軒を確認した。縄文時代早期の遺構と中期中葉の集落跡であることを確認した。

弥生時代から古代については、宮ノ前遺跡で弥生土器及び6・8世紀代の須恵器が出土している。

平安時代については、宮ノ前遺跡において、竪穴建物跡と灰軸陶器が出土した。

中世の遺跡については、町内に城館跡が散見している。遺物としては宮ノ前遺跡で山茶碗と青磁を確認している。

近世においては、宮川に沿って越中西街道が通っていた。飛騨と越中とを結んでいた幹線道路であり、現在の高山市・飛騨市古川町を経て、宮川沿いに富山県へと下るルートである。飛騨からは特産の和紙やたばこ、山菜などが運ばれ、また越中からは塩や海産物などが運ばれた。



第5図 島遺跡・塩屋全清神社遺跡と周辺の縄文時代遺跡位置図

第3表 周辺の縄文遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	時代	種別	備考
1	杉原遺跡	宮川町杉原	縄文	散布地	-
2	藤穂遺跡	宮川町杉原	縄文	集落跡	縄文時代中期後葉の集落跡
3	中沢上遺跡	宮川町杉原	縄文	散布地	縄文土器片、打製石斧、熱結石、石冠等を採集
4	人舟遺跡	宮川町杉原	縄文	散布地	石冠を採集
5	橋本遺跡	宮川町杉原	縄文	散布地	-
6	ニコイ岩塚遺跡	宮川町菅沼	縄文	散布地	縄文時代早期の遺物
7	家廻り遺跡	宮川町菅沼	縄文	散布地	縄文土器片採集
8	上野遺跡	宮川町三川原	縄文	散布地	-
9	宮ノ上遺跡	宮川町三川原	縄文	散布地	-
10	まつば遺跡	宮川町三川原	縄文	散布地	-
11	高牧遺跡	宮川町高牧	縄文	散布地	-
12	崎遺跡	宮川町高牧	縄文	散布地	-
13	のぼた遺跡	宮川町数戸	縄文	散布地	-
14	家ノ空遺跡	宮川町数戸	縄文	散布地	-
15	エノ口遺跡	宮川町数戸	縄文	散布地	-
16	宮ノ前遺跡	宮川町西芝	旧石器・縄文	集落跡	旧石器-縄文時代中期の遺跡
17	山ノ上遺跡	宮川町西芝	縄文・古代	散布地	-
18	結集遺跡	宮川町西芝	旧石器・縄文・古代・中世	散布地	旧石器の採集
19	家ノ下遺跡	宮川町林	縄文	散布地	縄文時代後期-晩期の遺跡
20	堂ノ前遺跡	宮川町野首	縄文	散布地	縄文時代中期中葉の集落跡
21	宮ノ尾遺跡	宮川町野首	縄文	散布地	-
22	臼取遺跡	河合町臼取	縄文・弥生	散布地	-
23	二ツ舞堂遺跡	河合町角川	縄文	散布地	-
24	中田水へそ遺跡	河合町角川	縄文	集落跡	縄文時代中期の彫刻石棒が出土
25	道下遺跡	河合町角川	縄文	散布地	-
26	下田遺跡	河合町角川	縄文・弥生・古墳・古代・中世・近世	集落跡	縄文時代中期中葉の集落跡
27	大明神遺跡	河合町角川	縄文	散布地	縄文時代中期中葉の集落跡
28	せきの平遺跡	河合町大谷	縄文	散布地	-
29	小無瀬遺跡	河合町小無瀬	縄文	散布地	-
30	岩野遺跡	宮川町小無瀬	旧石器・縄文	散布地	有舌尖頭器を採集
31	小谷遺跡	宮川町小谷	縄文	散布地	-
32	牛首遺跡	宮川町小谷	縄文	散布地	縄文時代前期の土器片の採集

※第3表の番号は第5図と同じ。

## 2 宮川町塩屋に関わる石棒研究略史

塩屋石製石棒が、広く人々に認識されるきっかけとなったのは、1886年(明治19)古川町(現飛騨市古川町)の佐藤泰郷により開催された古物陳列会である。この時、佐藤により編集された『千代乃かゝみ 拾遺』に、「金清神社神寶石植」とされた中期の大型鐮付石棒の実測図が掲載された(佐藤1886)。これは現在、塩屋金清神社の御神体となっている石棒である。

考古学的な研究の先駆者としては、『東京人類学会誌』の記載が挙げられる。岡巖による塩屋の石棒をはじめとした遺物紹介(岡1887)、吉見芳孝・神田孝平による牧戸出土の石皿等の図面掲載(吉見・神田1888)、田中正太郎による塩屋の石棒の報告(田中1894)等がある。

宮川下流域の遺物紹介は、昭和に入ってから江馬修(赤木清)の編集による『ひだびと』誌上で続く。早川莊作による塩屋出土の土製品(早川1940)、林魁一による塩屋出土の土偶(林1941)などの資料紹介が行われた。また、八幡一郎や大場磐雄による飛騨地方の踏査も行われた(八幡1932、大場1938)。しかし、ここでは石棒の具体的研究には結びつかなかった。

塩屋において初めて学術的な発掘調査を行ったのが1973年(昭和48)の南山大学である(南山大学人類学博物館1981)。調査により塩屋金清神社が石棒製作跡である可能性を示唆した。1992年には宮川村教育委員会は、同遺跡が後期前葉の石棒製作跡であることを明らかにした(宮川村教育委員会2000)。また宮川村教育委員会は、1996年に「石棒の謎を探る」と題したシンポジウムを開催した。石棒研究史の概観、飛騨出土の石棒集積、石棒出土状況からの使用例推定など石棒研究に関する様々な問題提起を行った(宮川村教育委員会1995)。

## 第3章 発掘調査の成果

### 第1節 層序

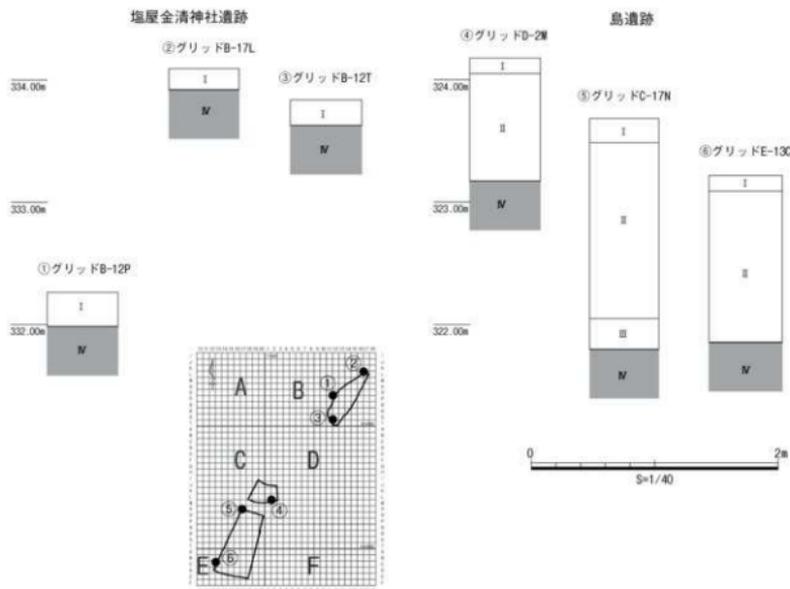
基本層序は、試掘・確認調査の結果をもとにⅠ層からⅣ層を設定した（第6図）。調査面は1面であり、遺構検出面は第Ⅲ層、第Ⅳ層のいずれかの上面である。鳥遺跡では、第Ⅲ層上面では土色土質の類似により検出作業が困難であり、多くの遺構を第Ⅳ層上面で検出した。塩屋金清神社遺跡では第Ⅱ・Ⅲ層が堆積しておらず、遺構を第Ⅳ層上面で検出した。

**第Ⅰ層** 表土である。現況の水田耕作土や腐植土である。

**第Ⅱ層** 黒褐色粘質土であり、一帯を土地改良した時の盛土である。川側では厚く、山側では薄く堆積する。大型石棒を包含していた。

**第Ⅲ層** 黒色～黒褐色粘質土であり、縄文時代中期後葉から後期初頭の土器を含む遺物包含層である。鳥遺跡調査区の北西側を中心に堆積する。遺構の切り込み面より、4層に細分することができる。部分的な堆積のため面的に追うことができなかった。第Ⅲ1層から第Ⅲ4層とする。遺跡が営まれた時期に洪水で何度も埋まり、その過程でそれぞれの層が堆積したものと考えられる。

**第Ⅳ層** 黄橙色砂及び礫層であり、河岸段丘を形成する基盤層である。この上面を遺構面として検出作業を行った。



第6図 基本層序模式図

## 第2節 遺構と遺物の概要

### 1 遺構の概要

高遺跡の調査では、縄文時代中期中葉から末葉にかけての遺構を検出した。大半の遺構を第IV層地山上面で検出している。遺構の種類と数量は、堅穴建物跡（SB）26軒、炉跡（SF）1基、土器埋設遺構（SZ）6基、柱穴跡（SP）1基、広場跡、土坑（SK）325基、遺物集積遺構（SU・SX）3基を確認した。

堅穴建物跡については、堅穴を検出できなくても、炉跡と周辺の柱穴跡の検出により堅穴建物跡と認識した遺構もある（SB1・SB191・SB192・SB710・SB1046）。

炉跡しか検出できなかったものは堅穴建物跡でなく炉跡として報告する（SF278）。炉跡は全て石組炉である。平面形状により単式円形・単式方形・単式長方形・複式に分類した。

土器埋設遺構については、堅穴建物跡の床面で検出したものを埋壙とした。周辺で遺構を伴わないものを土器埋設遺構とした（SZ38・SZ54・SZ86・SZ252・SZ297・SZ298）。

土坑については4種に分類する。底面で礫を検出したものをA類、表面で礫を検出したものをB類、立石を伴うものをC類、その他A～C類に当てはまらないものをD類とする（第7図）。数量の内訳はA類が31基、B類が21基、C類が38基、D類が235基である。

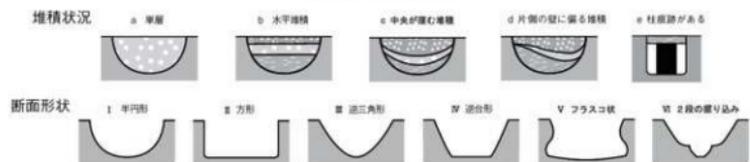
塩屋金清神社遺跡の調査では、縄文時代中期後葉の遺構を検出した。全ての遺構を第IV層地山上面で検出した。遺構の種類と数量は、土坑D類（SK）31基である。

遺構番号は原則検出順である。したがって、重複遺構の場合は必ずしも先行する番号がより新しい時期のものとはなっていない。遺構の時期は、出土遺物及び重複関係から判断した。

計測は最大幅を長軸とし、それに直行する軸を短軸とした。深さは最も深い位置で計測した。攪乱や他遺構によって切られている場合は残存値を計測し、括弧書きで記載した。平面並びに底面形状はa円形・b方形・c不定形の3種に分類した。埋土堆積状況は、a単層・b水平堆積・c中央が窪む堆積・d片側の壁に偏る堆積・e柱痕跡があるの5種に分類した。断面形状はI半円形・II方形・III逆三角形・IV逆台形・Vフラスコ形・VI二段掘りこみ形の6種に分類した（第8図）。



第7図 土坑分類図



第8図 遺構埋土堆積状況及び遺構断面形状分類模式図



**2群 北陸系古府式に比定できる深鉢（第9図）**

半截竹管状工具により半隆起線を密に重ね渦巻文等を施す。北陸系古府式に比定でき、縄文時代中期中葉に位置づけることができる。

1類：器形は、開き気味に胴部が立ち上がり口縁部が直立する。密に半隆起線を施文し渦巻文を施し、基隆帯には貝殻腹縁文や櫛状工具による刺突文、ヘラ状工具による刻みを施すものがほとんどである。口縁部形状は平縁のもの（444・599ほか）と波状のもの（585）がある。

2類：器形は、胴部がほぼ垂直に立ち上がり頸部がく字状に屈曲するものが多い。半隆起線による渦がくずれ、方形や三角形の区画を描く（273・343ほか）。

3類：区画を囲む基隆帯に刻みを施し、区画内に渦巻文を施す（255）。

**3群 北陸系古串田新式に比定できる深鉢（第9図）**

半隆起線の幅が広く浅いもので、胴下半部は縄文施文が多い。北陸系古串田新式に比定でき、縄文時代中期中葉に位置づけることができる。

1類：胴部がゆるく外反して口縁部が立ち上がり、口縁形状が平縁を呈する深鉢である。幅が広く浅い隆帯には半截竹管状工具による爪形文やヘラ状工具による刻みを施すものもある（139・472ほか）。

2類：胴部がゆるく外反して口縁部が立ち上がり、口縁形状が波状を呈する深鉢である。幅が広く浅い隆帯には貝殻腹縁や半截竹管状工具による刺突文を施す（275・494ほか）。

3類：胴部が開き口縁部が立ち上がり、口縁形状が平縁の深鉢である。突起が付くものもある。半截竹管状工具による隆帯と沈線で施文し、隆帯には貝殻腹縁による刺突文を施す（538ほか）。

4類：口縁部がほぼ垂直に立ち上がるか外傾する器形を持ち、口縁形状が平縁を呈する深鉢である。幅が広く浅い隆帯に貝殻腹縁や櫛状工具による刺突文を持つものがある（539ほか）。

5類：口縁部が緩く外反する器形を持ち、口縁形状が波状を呈する深鉢である。幅が広く浅い隆帯に櫛状工具による刺突文、半截竹管状工具やヘラ状工具による刻みを施す（505ほか）。

6類：本群の深鉢胴部破片を一括した（409・460ほか）。

**4群 東海系吹煙式に比定できる深鉢（第9図）**

器形と文様構成により東海系吹煙式に比定でき、縄文時代中期中葉に位置づけることができる。

1類：括れた頸部から外側に大きく張り出して内側に屈曲し、口縁部は外反気味に立ち上がるキャリパー形を呈する。口縁部文様帯には渦巻文を配し半截竹管状工具による押引沈線を多条に施す（303）。

2類：胴部からやや開き気味に立ち上がり、口縁部が若干内湾する。口縁部には沈線による渦巻文と楕円区画文を施し、胴部には弧線文を施す（543）。

**5群 東北系大木8b式に比定できる深鉢（第9図）**

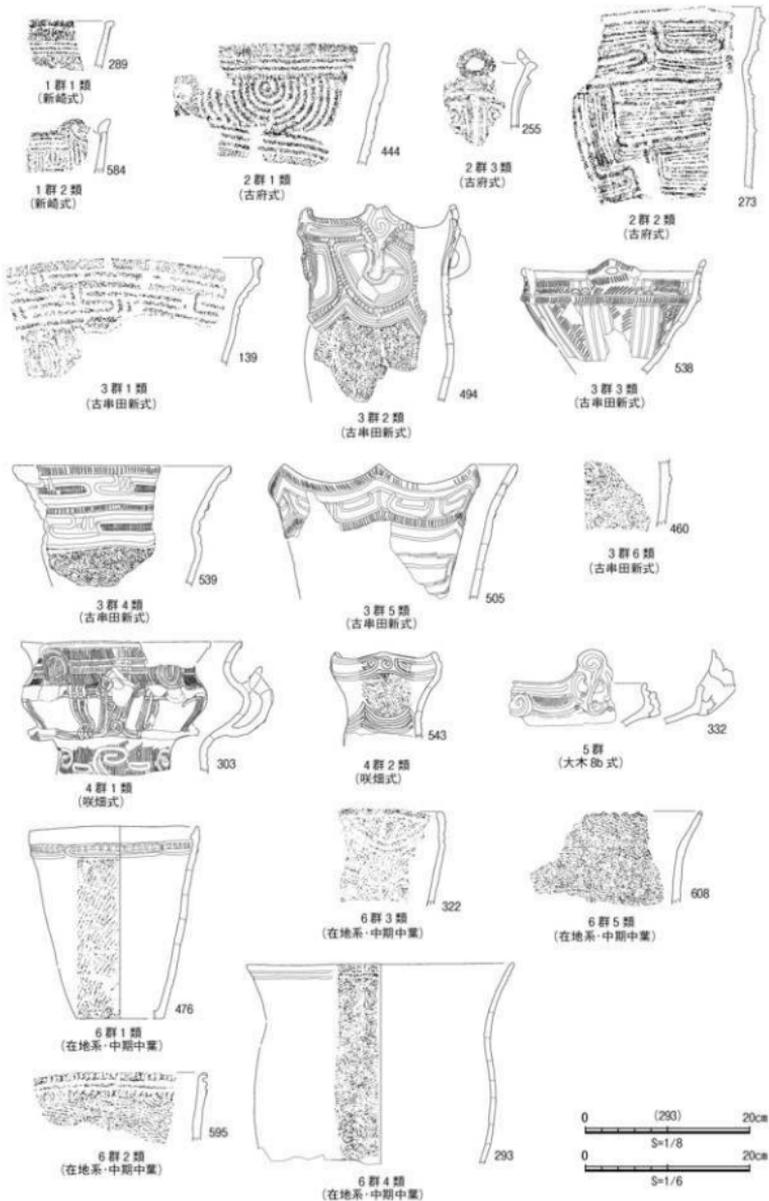
頸部から外側に大きく張り出して内傾気味に立ち上がるキャリパー形を呈する。口縁部文様帯には隆帯と沈線による渦巻文から連続的に描かれる区画の中に縄文を充填する。把手には渦巻文を施文する（332）。東北系大木8b式に比定でき、縄文時代中期中葉に位置づけることができる。

**6群 縄文時代中期中葉に位置づけることができる在り系深鉢（第9図）**

施文具等により縄文時代中期中葉に位置づけることができる。

1類：半截竹管状工具を押し当てて半弧曲線を描きだした深鉢である（476・477ほか）。

2類：半截竹管状工具により隆帯や半隆起線を施す深鉢のうち、基隆帯にはヘラ状工具による刻みを施す（595ほか）。



第9図 1～6群遺物分類図

3類：半截竹管状工具による隆帯と沈線を施す深鉢である。施文は口縁部に横位の隆帯を施すものがほとんどである。口縁下に連弧文を施文するものもある(322・545)。地文に縄文(294ほか)と櫛状工具による条線(478ほか)を施すものと、無文(604ほか)のものがある。

4類：地文に縄文か条線を施し、口縁下に1～2条の沈線を巡らす深鉢である。口縁形状は平縁のもの(293ほか)と波状のもの(534)がある。

5類：縄文を施し、口唇部を襞状に押圧している深鉢である(608)。

#### 7群 北陸系串田新I式に比定できる深鉢(第10図)

器形と施文方法により串田新I式に比定できる土器群であり、縄文時代中期後葉に位置づけることができる。

1類：沈線による工字状文を主文とする深鉢である。隆帯には貝殻腹縁文や棒状工具による刺突文、ヘラ状工具による刻みを施し、沈線による区画内には縄文や貝殻腹縁文を充填する。口縁形状は平縁のもの(613ほか)と平縁に突起を持つもの(171)、波状のもの(306ほか)がある。

2類：口縁部に2本の隆帯を横方向に施し、その間に縦方向の沈線を連続させたハシゴ状文を持つ深鉢である。隆帯には櫛状工具や棒状工具による刺突文、ヘラ状工具による刻みを施す。口縁形状は平縁のもの(379ほか)と波状のもの(349ほか)がある。

#### 8群 串田新I式の影響を受けて成立した在地系深鉢(第10図)

口縁形状が平縁であり、4単位の突起をもつバケツ形の深鉢である(270)。胴部から緩やかに外反し、平縁口縁に突起が付く形状から、串田新I式期(縄文時代中期後葉)の時期のものと考えられる。

#### 9群 北陸系串田新II式に比定できる深鉢(第10図)

器形と施文方法により北陸系串田新II式に比定でき、縄文時代中期後葉に位置づけることができる。

1類：U字状双頭突起を持ち、口縁に沿わせて隆帯を施す深鉢である。口縁部に2本の隆帯を横方向に施し、その間に縦方向の沈線を連続させたハシゴ状文を持つもの(479ほか)と、持たないもの(41ほか)がある。隆帯にはヘラ状工具による刺突文を施すものもある。

2類：小さいU字状双頭突起を持ち、口縁部に隆帯を持たない深鉢である。全面に縄文を施文している(140・232ほか)。

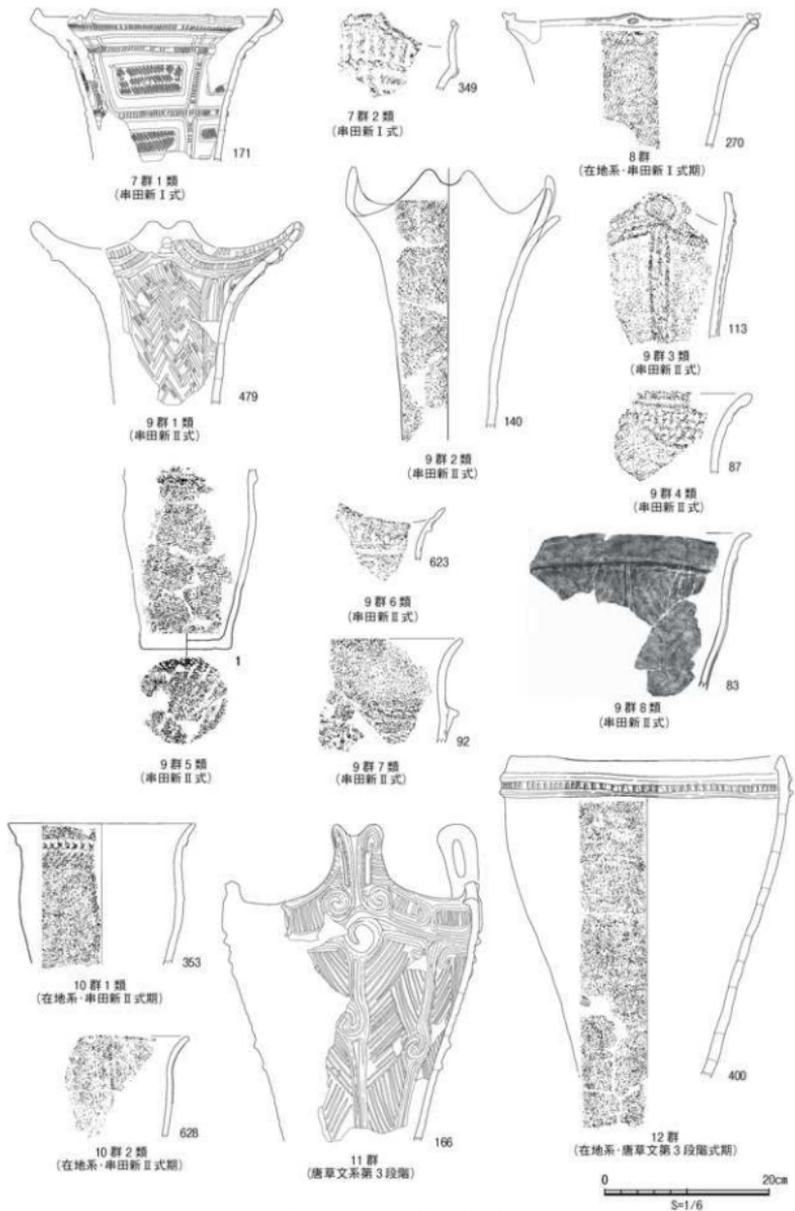
3類：波状口縁を持ち、波頂部に隆帯による円文や渦巻文を持つ。口縁に沿った隆帯から縦に2条の隆帯を下ろす深鉢である(113・356ほか)。隆帯には棒状工具による刺突文を施すものもある。地文には縄文(356ほか)と葉脈状文(434ほか)を持つものと、無文のもの(113ほか)がある。体部破片であり、口縁形状が不明なもので本類に含めたものもある(617ほか)。

4類：口縁部に1条の隆帯を巡らせ、そこから連弧状に隆帯を貼り付けた深鉢である。口縁形状は平縁(87ほか)と波状(619ほか)とがある。連弧の区画内には棒状工具による刺突文を施したものもある。

5類：口縁部に隆帯を巡らせ、器面全体は縄文か無文の深鉢である。口縁形状は平縁(1ほか)と波状(90ほか)とがある。隆帯には縄文(621)やヘラ状工具による刻み(90ほか)を施すものがある。

6類：波状口縁を持ち、隆帯と沈線により施文している深鉢である(480・623ほか)。

7類：口縁下に無文帯を持ち、頸部に隆帯を施し、ボタン状突起を持つ深鉢である。口縁部は外反する。隆帯には棒状工具による刺突文を持つもの(92)、ヘラ状工具による刻みを持つもの(93)、施文がないもの(624)がある。地文には縄文や葉脈状文を施文する。



第10図 7～12群遺物分類図

8類：口縁下に無文帯を持ち、頸部に隆帯を施し、体部に葉脈状文を施す深鉢である。口縁部は外反する。隆帯にはヘラ状工具による刻みを持つもの（625ほか）と施文がないもの（83ほか）がある。

#### 10群 北陸系串田新Ⅱ式の影響を受けて成立した在地系深鉢（第10図）

施文方法から串田新Ⅱ式期（縄文時代中期後葉）の時期と考えられる。

1類：口縁下の隆帯に、指頭押圧を施す深鉢である。口縁形状は平縁（353ほか）と波状（627ほか）とがある。

2類：体部に縦位の隆帯を施すものである（628ほか）。器面全面に櫛状工具による条線を施す。

#### 11群 信州系唐草文系第3段階に比定できる深鉢（第10図）

2本の隆線により唐草文を施文する（166・481ほか）。信州系唐草文系第3段階に比定でき、縄文時代中期後葉に位置づけられる。

#### 12群 信州系唐草文系土器の影響を受けて成立した在地系深鉢（第10図）

口縁部が若干内湾する器形を持ち、口縁下2本の隆線間を短沈線で連続して施文する。口縁内側に隆帯が巡る。体部には櫛状工具による条線を施す（400）。器形と施文方法より、信州系唐草文系第3段階期（縄文時代中期後葉）の時期を持つと考えられる。

#### 13群 関東系加曾利EⅢ式と併行関係にある深鉢（第11図）

器形はキャリバー形を呈する。隆帯により口縁部文様帯を区画する。口縁部文様帯には渦巻を連結させて区画を設け、内部には縄文を充填する。胴部には2本の隆帯でY字状の単位文を施し、全体に縄文を施す（202）。加曾利EⅢ式に併行する時期の遺物と考えられ、縄文時代中期後葉に位置づけられる。

#### 14群 縄文時代中期後葉から末葉にかけて飛騨地方を中心に分布する深鉢（第11図）

バケツ形を呈し、口縁部が外反し口唇部が肥厚する器形を特徴とする深鉢である。岐阜県奥美濃から飛騨最北端にかけて分布する土器様式である（小島2007）。

1類：口縁肥厚部の下に縦方向の沈線と、矢羽根状の沈線か上下に円形刺突のある隆帯を組み合わせて施文する。胴下半部には櫛状工具による条線地に、沈線による連弧文を施す。口縁肥厚部には沈線による横長の区画を施すもの（354ほか）と施さないもの（482ほか）がある。

2類：器面全体に縄文や櫛状工具による条線を施し、地文に連弧状の沈線を施すもの（483ほか）や、横長の沈線を施すもの（637ほか）などがある。口縁肥厚部に横長の区画を施すものもある。

3類：口唇肥厚部に施文は無く、器面全体に縄文を施文する（639ほか）。口縁が肥厚していないが、口縁下に無文帯を持つものも同類に含めた（8・642ほか）。

4類：口唇肥厚部に施文は無く、器面全体に櫛状工具による条線を施文する（458・646ほか）

5類：口唇肥厚部に施文がなく、器面は無文である（137・153ほか）。

6類：頸部が括れ、口縁部が外反する器形を持つ。口唇肥厚部に縦方向の短い沈線と円文を施文するもの（203）、口唇肥厚部が無文でその下に沈線で施文するもの（648）がある。

#### 15群 北陸系前田式に比定できる深鉢（第11図）

胴半部で膨らみ、頸部で括れて口縁部が外反する。北陸系前田式に比定でき、縄文時代中期末葉に位置づけられる。

1類：口辺部に平行沈線を施し、その間に斜線を沈線で施文する（9・10ほか）。

2類：口辺部に平行沈線を施し、その間に無文区画を広くとり、それを縦のS字状沈線で区切る（654ほか）。平行沈線と共に列点を施すものもある（652・653ほか）。



第11図 13～16、20群遺物分類図

3類：口辺部に平行沈線を施し、その間に弧線文を連続させる（12）。

4類：口辺部に数条の沈線を横方向に施し、所々で縦の沈線で上下を連結させる（656ほか）。

5類：本群に属する破片資料である（385ほか）。

#### 16群 北陸系岩崎野式に比定できる深鉢（第11図）

微隆起線文を施文することから北陸系岩崎野式に比定でき、縄文時代中期末葉に位置づけられる。

1類：胴部が膨らみ、頸部で括れて口縁部が外反する深鉢である。胴下半部に縦方向に微隆起線文を施す深鉢である（463ほか）。頸部に微隆起線文と列点で弧文を連続させるものもある（18）。

2類：微隆起線文を持つ深鉢以外の器種を一括する（186ほか）。

#### 17群 縄文地、条線地、沈線地、燃糸文地深鉢並びに無文深鉢等

地文に縄文、櫛状工具による条線、沈線、燃糸文を施すか、無文の深鉢の体部破片である。時期は縄文時代中期中葉～後葉の時期幅を持つと考えられる。

1類：胴部がやや張り、頸部が括れて口縁部が外反する。地文に縄文を持つもの（401ほか）と縦位の条線を施すもの（555）と、無文のもの（135）がある。

2類：器形がバケツ形を呈し、口縁部がほぼ垂直に立ち上がる（271ほか）か、緩やかに外反する（382）。地文は縄文か燃糸文である。口唇部に縄文を施すものもある（383）。

3類：口縁部が内湾する。地文は縄文（174ほか）、縄文と櫛状工具による条線を施すもの（362ほか）、沈線のもの（403）、がある。

4類：本群の破片であり、1～3類以外のものである。

#### 18群 深鉢の底部破片

地文に縄文、櫛状工具による条線を施すか無文の、深鉢の底部破片である。縄文時代中期中葉から末葉の時期を持つと考えられる。

1類：深鉢の底部破片である。2本超え2本潜り1本送りの網代圧痕が遺存する（229ほか）。

2類：深鉢の底部破片である。1本超え1本潜り1本送りの網代圧痕が遺存する（500ほか）。

3類：深鉢の底部破片である。2本超え2本送りで1本送りと2本送りを繰り返した網代圧痕が依存する（464ほか）。

4類：深鉢の底部破片である。底部痕跡をすり消している（672ほか）。

5類：深鉢の底部破片である。スグレ状のもじり編み圧痕が遺存する（74ほか）。

6類：深鉢の底部破片である。網状葉脈圧痕が遺存する（339・514）。

7類：深鉢の底部破片である。平行葉脈圧痕が遺存する（465ほか）。

#### 19群 北陸系高波式に比定できる深鉢

頸部が括れ、口縁部に向かって外反し、口縁端部が若干内湾する深鉢である。口縁直下に平行（290ほか）、幅が狭い波状（429ほか）、弧状（680）等に沈線を施す。三角形の押し引きで渦巻を施文するものもある（450）。北陸系高波式に比定でき、縄文時代後期初頭に位置づけられる。

#### 20群 浅鉢（第11図）

1類：口縁部がほぼ垂直に立ち上がるか内湾する。隆帯に渦巻文と横長の区画文を施し、区画内を櫛状工具による刺突文を充填する（277ほか）。施文方法より古串田新式と考えられ、縄文時代中期中葉に位置づけられる。

2類：口縁下に2本の隆帯で区画する。その間を縦の沈線でハシゴ状に施し、隆帯に貝殻腹線文を

施すもの(115・685)と、隆帯下に縦の沈線を施すものがある(220)。施文方法より串田新Ⅰ式と考えられ、縄文時代中期後葉に位置づけられる。

3類：口縁下に隆帯を施し、棒状工具による列点を刺突する浅鉢である(559ほか)。施文方法より串田新Ⅱ式と考えられ、縄文時代中期後葉に位置づけられる。

4類：口縁部に橋状把手を持つ浅鉢である(21ほか)。串田新Ⅱ式と考えられ、縄文時代中期後葉に位置づけられる。

5類：無文である。口縁端部が若干内湾するもの(327ほか)と、くの字に屈曲するもの(368ほか)がある。器形より前田・岩崎野式と考えられ、縄文時代中期末葉に位置づけられる。

6類：本群の体部破片である(692ほか)。

## 21群 台付鉢

1類：半截竹管状工具による隆帯を施し、縄文時代中期中葉に位置づけられる(75)。

2類：施文方法より北陸系串田新Ⅱ式と考えられ、縄文時代中期後葉に位置づけられる一群である。U字状双頭突起にハシゴ状文を持ち、隆帯に貝殻腹縁による刺突文を施すもの(492)と、葉脈状文を施すもの(22)を確認した。

3類：微隆起線文を施し、北陸系岩崎野式と考えられ、縄文時代中期末葉に位置づけられる(23)。

4類：台付鉢の脚部破片である(188ほか)。

## 22群 壺形土器

1類：口縁形状は平縁である。口縁部は無文であり、ほぼ垂直に立ち上がるもの(156・337)と、外傾するものがある(155)。頸部に隆帯を持ち、胴部が張る器形を持つ。肩部に4単位の把手を持ち、環状把手(156)と橋状把手(155・337)とがある。器形と施文方法から串田新Ⅱ式の鐔付土器と考えられ、縄文時代中期後葉に位置づけられる。

2類：口縁形状は平縁である。口縁部は内側へ折れた後、端部が外反するか直立する(634ほか)。橋状把手を持ち、把手の端は隆帯となって器面をめぐる。器形から前田・岩崎野式の鐔付土器と考えられ、縄文時代中期末葉に位置づけられる。

3類：微隆起線文を施し、岩崎野式と考えられる壺形土器であり、縄文時代中期末葉に位置づけられる(24)。

4類：壺形土器の破片である(696)。

## 23群 小形土器

1類：胴部で渦を巻き底部方向へ半隆起線が下がる、コスモス状文を施す。半截竹管状工具による爪形文を施す(325)。施文方法より北陸系古府式と考えられ、縄文時代中期中葉に位置づけられる。

2類：口唇部を襞状に押し込んでいる(279)。外面には縄文を施す。6群5類と同様の施文方法より、縄文時代中期中葉に位置づけられる。

3類：波状口縁であり、波頂部に小さいU字状双頭突起を持つ(503)。波頂部には沈線で渦巻文を施文する。9群2類と同様の器形により串田新Ⅱ式と考えられ、縄文時代中期後葉に位置づけられる。

4類：徳利形土器である(282)。平底をなし、底部に最大径を持つ。頸部が最も窄まり頸部が長く口縁部が緩く外反する。胴部には逆U字文を持ち全面に縄文を施す。頸部の隆帯にも縄文を施す。東北地方北部の青森県・岩手県・秋田県を中心に分布し、東北地方南部や新潟県、長野県にかけての信濃川流域にも分布を確認することができる。大木9～10式の時期と考えられ、縄文時代中期後葉

に位置づけることができる。

5類：底部からほぼ垂直に立ち上がる器形であり、体部に縄文を施す。底部には、2本超え2本潜り1本送り(100)と1本超え1本潜り1本送り(101)の網代圧痕が遺存する。

6類：底部からほぼ垂直に立ち上がる器形であり、体部には櫛状工具による条線を施す。底部には、2本超え2本潜りで1本送りと2本送りを繰り返した網代圧痕が遺存する(119)。

7類：底部からほぼ垂直に立ち上がる器形であり、体部には沈線を施す。底部には2本超え2本潜り1本送りの網代圧痕が遺存する(134)。

8類：底部からほぼ垂直に立ち上がる器形であり、体部は無文である。底部には2本超え2本潜り1本送り(518ほか)と1本越え1本潜り1本送り(25)の網代圧痕が遺存する。

9類：全体的に丸く、掌に収まる大きさの土器である(26)。

## 24群 釣手土器

二意式の釣手土器である(283・338・571)。橋部に把手を持ち、正面・側面に沈線及び隆帯で渦巻文を施文するもの(338)、縦長の器形を持ち頂部に筒状突起が付き、橋部に櫛状把手を持つもの(283)、橋部の正面を2本の沈線で施文し、その間に櫛状工具による刺突を施すもの(571)がある。

## 25群 土製品

1類：土偶か土器の面把手である。判別できないため土製品としておく(157)。

2類：土製円盤である(698)。有孔円盤もある(699)。

3類：土製蓋である(700)。

## (2) 石器・石製品

石器・石製品の分類について、下記のとおり器種別に記述する。他器種への転用や再利用が認められたものについては、原則として転用後の器種の分類に含めた。

**石鎌** 押圧剝離で形成し、鋭利な先端部と基部を持つ石器である。18点図示した。凹基鎌が主体であり15点、凹基鎌未製品が2点、有基鎌が1点である。下呂石裂が11点、チャート製5点、黒曜石裂2点であり、下呂石裂が多い。

**石錐** 鋭利で細い錐状の先端部を持つ石器である。3点図示した。つまみ部を持つ石錐が当地域の特徴であり、2点認められる。3点ともチャート製である。

**楔形石器** 相対する二側面に潰れ状の剝離痕をもつ石器である。4点図示した。チャート剥片素材の小型のものが3点、蛇紋岩製磨製石斧を転用した大型のものが1点である。

**削器** 剥片の短辺に連続的な剝離によって刃部を形成した石器である。1点図示した。砂岩製である。

**石核** 素材剥片を剝離した残骸である。10点図示した。チャート製小型剥片を剝離したものと、砂岩製の大型礫端片を剝離したものと2種類に分かれる。チャート3点、赤チャート1点、砂岩5点、凝灰岩1点である。341(砂岩)は敲石として、402(砂岩)は砥石として、438(凝灰岩)は石皿として使用を終えた後に、素材剥片を剝離した石核と考えられる。

**石錘** 礫の長軸又は短軸の両端に、打ち欠き、切り目、溝状を入れて紐掛かりの部分を作り出した石器である。6点図示した。完成品は3点であり、未製品1点、失敗品1点、受熱による断片1点である。石材は安山岩2点、砂岩4点である。

**打製石斧** 長軸の一端に刃部を持つ石器である。当遺跡の主要器種である。33点図示した。完成品29点であり、未製品3点、部分磨製石斧1点である。部分磨製石斧は稜線の高い部分のみ研磨し

た打製石斧である(195)。石材は、安山岩2点、頁岩15点、砂岩7点、斑礫岩1点、ホルンフェルス1点、流紋岩5点、輝緑凝灰岩1点、塩屋石1点である。円礫を利用して片面に自然面を残しているものも9点ある。

**磨製石斧** 敲打及び剝離により成形し、その一端に鋭い刃部を研磨によって作り出している石器である。当遺跡の主要器種である。41点図示した。完成品39点、断片2点である。石材は、硬質砂岩5点、砂岩3点、蛇紋岩33点である。

**横刃形石器** 礫端片を素材に、末端部を刃部にした石器である。5点図示した。安山岩1点、頁岩1点、砂岩3点である。

**石匙** 搔器様の刃部とつまみ部を持つ石器である。2点図示した。砂岩製縦型石匙が1点、安山岩製横型石匙が1点である。

**石皿** 川原石の平坦面又は凹面に磨痕、擦痕を観察できる石製品である。7点図示した。石材は安山岩5点、砂岩1点、流紋岩1点である。

**砥石** 礫の表面に、溝状や帯状・平面状の磨痕・擦痕・線状痕を観察できる石製品である。3点図示した。石材は3点とも砂岩製である。

**磨石** 拳大の楕円礫(川原石)の表面に磨痕を観察できる石器である。8点図示した。表裏面の磨痕とともに側面に敲打痕を確認したものは2点確認した。特殊磨石と分類する。石材は安山岩3点、砂岩3点、花崗岩1点、凝灰岩1点である。714は敲石を磨石に転用したものである。

**敲石** 礫の先端もしくは側面の一端に敲打痕を観察できる石器である。18点図示した。拳大の円礫と棒状礫との2種類がある。円礫に敲打痕を観察できるものは11点、棒状礫に敲打痕を確認できるものは7点である。磨石を敲石に転用したものは4点、砥石を敲石に転用したものは1点、礫器を敲石に転用したものは1点である。石材は、安山岩2点、花崗岩2点、凝灰岩1点、砂岩9点、濃飛流紋岩1点、流紋岩2点、輝緑凝灰岩1点である。

第5表 石器・石製品一覧表

	石 礫	石 錐	楔形 石器	削 器	石 杖	石 錘	打 製 石 斧	磨 製 石 斧	横 刃 形 石 器	石 匙	石 皿	砥 石	磨 石	敲 石	球 状 耳 飾	使用 痕 跡 片	両 面 剝 片	剝 片	加 工 線	石 棒	石 合 計
安山岩	-	-	-	-	-	2	2	-	1	1	5	-	3	2	-	-	-	7	1	-	24
黒曜石	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
下呂石	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
砂岩	-	-	-	1	5	4	7	3	3	1	1	3	3	9	-	-	-	-	-	-	40
硬質砂岩	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	6
蛇紋岩	-	-	1	-	-	-	-	33	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	35
玉髓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
チャート	5	3	3	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	5	-	-	28
斑礫岩	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
流紋岩	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	1	9
濃飛流紋岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
凝灰岩	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	3
頁岩	-	-	-	-	-	-	15	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	18
ホルンフェルス	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
輝緑凝灰岩	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2
花崗岩	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	4
塩屋石	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
合計	18	3	4	1	10	6	33	41	5	2	7	3	8	18	1	3	7	14	1	22	207

**球状耳飾** 中央に円形の穴があり、その下端から切り込みを入れた石製品である。1点出土した(111)。蛇紋岩製である。大きく欠損しているため全体形状は不明である。受熱している。形状より前期中葉のものであると考えられる。

**使用痕剥片・両極剥片・剥片** 剥片に微細な剥離痕が連絡的に付いているものを使用痕剥片とした。楔形石器から剥離したと考えられる剥片を両極剥片とした。それ以外を剥片とした。使用痕剥片は3点図示した。チャート1点、玉髓1点、硬質頁岩1点である。両極剥片は7点図示した。全てチャートである。剥片は14点図示した。安山岩7点、頁岩2点、チャート5点である。

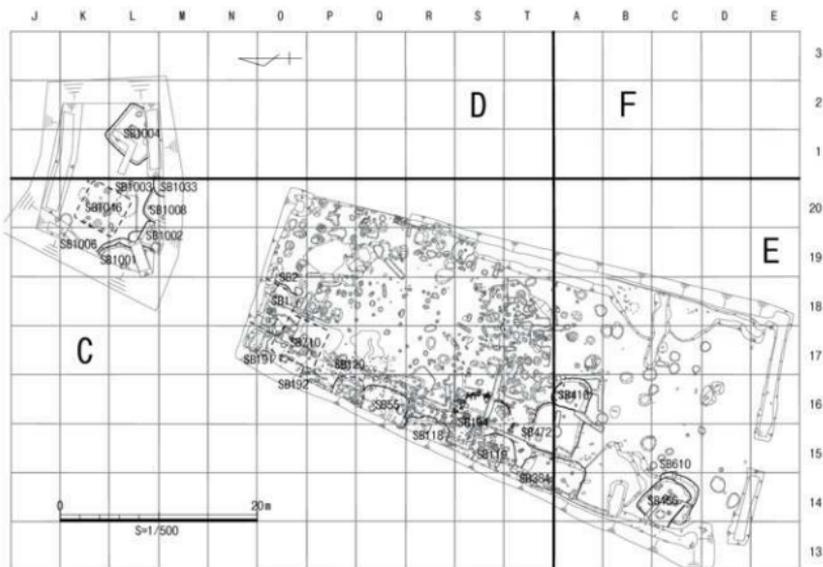
**加工礫** 剥離痕は意図的と考えられるが、用途が不明な石器である。安山岩製である。

**石棒** 長く棒状に剥離・敲打・研磨によって成形された石製品である。石棒に加工される前の自然石も含め、22点図示した。縄文時代中期の大型石棒が3点、研磨工程のものが1点、敲打工程のものが5点、剥離工程のものが7点、自然石が6点である。石材は塩屋石が21点、流紋岩が1点である。

### 第3節 鳥遺跡の遺構と遺構内出土遺物

#### 1 竪穴建物跡(第12図、第6表)

宮川向かって張り出す形で弧状に連なる竪穴建物跡26軒を確認した。竪穴建物跡は残りが良く、炉・埋壺・柱穴・貼床など竪穴建物跡に伴う遺構も確認した。出土遺物は前期中葉から後葉にかけて確認した。22軒について図示し、調査区断面のみで確認した4軒は図示しなかった。



第12図 竪穴建物跡位置図

## (1) 竪穴建物跡 SB1

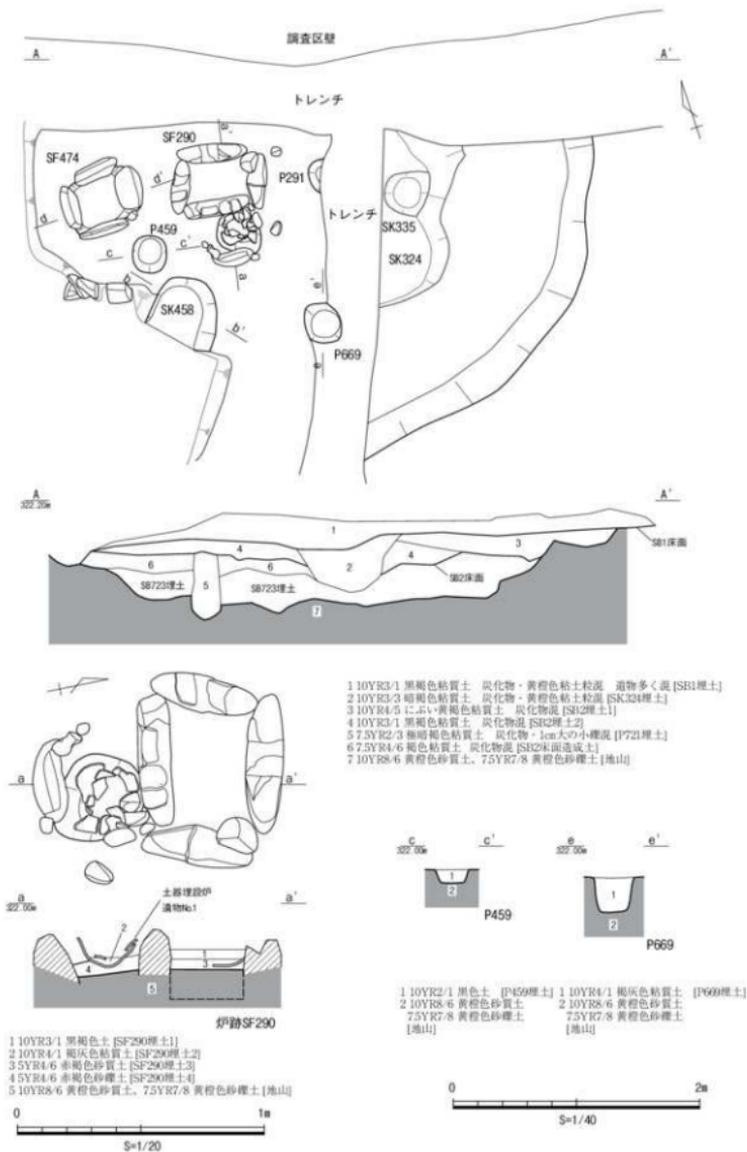
**遺構** (第13・15図、第7表) グリッドC-180において、第IV層地山及び竪穴建物跡SB2面上で検出した。2/3が残存しているが、形状は明確ではない。長径・短径は不明であり、深さ0.19mを測る。切り合いはSB2を切る。炉跡SF290は複式炉であり、主炉は石組炉、副炉は土器埋設炉である。埋土は確認できなかった。柱穴は2基P459・P669を確認した。貼床は確認できなかった。埋土には遺物が廃棄された状態で大量に出土した。

**遺物** (第16～18図) 接合前資料で土器1,267点、石器・石製品244点が出土した。炉跡SF290の副炉において中期後葉の9群5類を埋設炉(1)としていた。また中期後葉～末葉の14群3類(2)が出土した。P459からは中期中葉の2群2類が1点(3)出土した。埋土からの出土遺物について、土器は中期中葉から後期初頭にかけての時間幅を持つ(4～26)が出土した。主体となるものは、中期後葉から末葉の14群2点(7・8)、中期末葉の15群7点(9～15)及び16群3点(16～18)である。石器・石製品は、石錐が1点(27)、打製石斧が3点(28～30)、磨製石斧が3点(31～33)、横刃形石器が1点(34)、砥石が1点(35)、敲石が3点(36～38)、石棒が1点(39)出土した。敲石36は先端に敲打痕があるだけでなく、表裏面に磨痕を確認できる。砥石を敲石に転用したものと考えられる。

**時期** 炉跡では中期後葉に位置づけられる9群5類の遺物(1)がほぼ完形で出土した。また埋土からは中期後葉から末葉にかけての遺物が主体となる。これらのことから縄文時代中期後葉から末葉(串田新Ⅱ式期～前田・岩峠野式期)の竪穴建物跡と考えられる。

第6表 竪穴建物跡一覧表

遺構No.	方グリッド	サブグリッド		検出	平面	断面	法量(m)			時期	備考 (切り合い、出土遺物等)	
		東	南				北	上	深			深
SB1	C	18	O	地山	不明	不明	-	-	0.19	中期後葉～末葉 (串田新Ⅱ～前田・岩峠野式期)	SB1 > SB2. 複式炉(副炉は土器埋設炉)。柱穴。遺物が廃棄された状態で多数出土。	
SB2	C	18	O	地山	円	円	(3.92)	(2.26)	0.24	中期後葉(串田新Ⅱ式)	SB1 < SB2 < SB170・SB173. 方形石組炉・土坑。	
SB55	C	15	Q	地山	隅丸方	隅丸方	4.34	(3.50)	0.35	中期後葉(串田新Ⅰ式)	SB55 < SB120. 埋土・柱穴・貼床。	
SB118	C	15	R	地山	隅丸方	隅丸方	4.06	(1.96)	0.25	中期中葉(古串田新式)	埋土・柱穴・貼床。	
SB119	C	15	S	地山	不明	不明	(3.37)	(2.10)	0.24	中期後葉(串田新Ⅱ式)	SB119 > SB194. 複式炉・柱穴・貼床。遺物が廃棄された状態で多数出土。	
SB120	C	16	Q	地山	不明	不明	3.60	(1.20)	0.14	中期後葉(串田新Ⅱ式)	SB120 > SB55. 複式炉・柱穴・貼床。	
SB191	C	17	O	地山	隅丸方	不明	(2.90)	(2.14)	0.29	中期後葉(串田新Ⅰ式)	方形石組炉・柱穴。	
SB192	C	17	O	地山	不明	不明	(2.86)	(2.36)	0.29	中期後葉(串田新Ⅰ式)	方形石組炉・柱穴。	
SB194	C	16	S	地山	円	円	5.63	3.54	0.27	中期後葉(串田新Ⅱ式)	縁辺部に配石を施す。富山市布尻遺跡に類似。	
SB384	C	15	T	地山	隅丸方	隅丸方	5.04	3.11	0.42	中期後葉(串田新Ⅱ式)	複式炉・埋土・柱穴。遺物が廃棄された状態で多数出土。	
SB410	C	16	A	地山	隅丸方	隅丸方	(3.44)	(2.67)	0.52	中期中葉末～中期後葉初頭 (古串田新～串田新Ⅰ式)	SB410 > SB472. 石組炉(複式炉?)・柱穴・貼床。	
SB456	C	14	C	地山	隅丸方	隅丸方	4.47	3.43	0.49	中期後葉(串田新Ⅰ式)	SB456 > SB610. 方形石組炉・埋土・柱穴・貼床。	
SB472	C	15	A	地山	隅丸方	隅丸方	4.41	4.38	0.36	中期中葉(古串田新式)	SB472 < SB410. 石組炉・柱穴。	
SB610	C	14	C	地山	隅丸方	隅丸方	(3.84)	(2.80)	0.38	中期後葉(串田新Ⅰ式)	SB610 < SB456. 炉跡・埋土。	
SB705	C	17	O	地山	-	-	-	-	-	-	断面のみで確認。	
SB710	C	17	O	地山	不明	不明	(3.53)	(2.06)	-	中期後葉(串田新Ⅰ～Ⅱ式)	方形石組炉・埋土・柱穴・貼床。	
SB723	C	18	O	地山	-	-	-	-	0.20	-	SB2 > SB723. 断面のみで確認。	
SB1001	C	19	K-L	地山	隅丸方	隅丸方	(2.95)	(2.60)	0.16	中期中葉(古串田新式)	SB1001 > SB1008. 埋土に炭化物。	
SB1002	C	19	K-M	地山	隅丸方	隅丸方	(2.63)	(2.62)	0.45	中期後葉(串田新Ⅱ式)	SB1002 > SB1003・1006・1008. 長方形石組炉・柱穴。埋土に炭化物非常に多く混入。焼失したと考えられる。	
SB1003	C	19	K	地山	隅丸方	-	(1.00)	(1.02)	0.38	-	埋土に炭化物。	
SB1004	D	1	L	地山	隅丸方	隅丸方	4.92	4.79	0.30	中期中葉(古串田新式)	長方形石組炉・埋土・柱穴。	
SB1006	C	19	K-L	地山	隅丸方	隅丸方	(3.63)	(3.20)	0.68	中期中葉(古串田新式)	SB1006 > SB1006 > SB1003. 石組炉・貼床。埋土に炭化物。	
SB1007	C	20	L-M	地山	-	-	5.04	-	0.29	-	断面のみで確認。	
SB1008	C	20	L-M	地山	隅丸方	隅丸方	(2.82)	(2.28)	0.37	中期後葉(串田新Ⅱ式)	SB1008 < SB1002・SB1033. 柱穴。	
SB1033	C	20	L-M	地山	隅丸方	隅丸方	(5.36)	(0.82)	0.47	中期後葉(串田新Ⅱ式)	SB1007 > SB1033 > SB1008.	
SB1046	C	20	K	地山	-	-	-	-	0.47	-	断面・柱穴。	



第13図 竪穴建物跡 SB1・SB2 遺構図

## (2) 竪穴住居跡 SB2

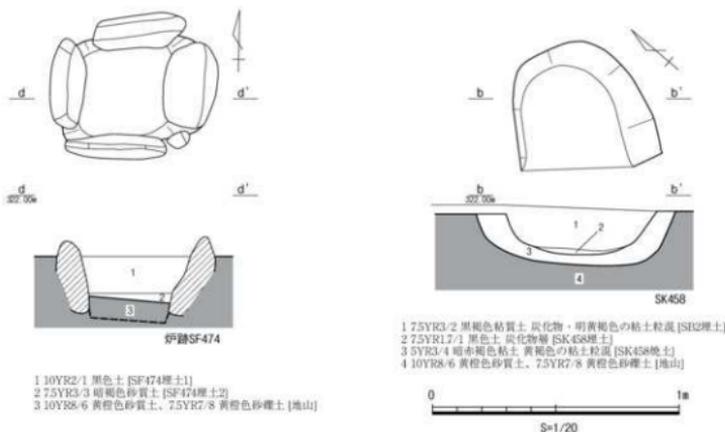
**遺構** (第13・14図、第8表) グリッドC-18Oにおいて、第IV層地山面上で検出した。2/3が残存しており、形状は隅丸方形を呈する。残存部で、長径3.92m、短径2.38m、深さ0.24mを測る。切り合いは竪穴建物跡SB710・SB723を切り、竪穴建物跡SB1に切られる。炉跡SF474は方形石囲炉である。焼土は確認できなかった。埋塞は確認できなかった。柱穴は2基P291・P721を確認した。貼床は確認できなかった。土坑SK458は埋土に炭化物を非常に多く含み、壁面は焼き締められていた。土坑内で火を焚いたと考えられる(第8表)。

**遺物** (第15・18図) 接合前資料で土器306点、石器・石製品23点が出土した。土器は、炉跡SF474から底部破片18群2類が1点(40)、床面直上で中期後葉の9群1類が1点(41)、中期後葉から末葉の14群3類が1点(42)出土した。石器・石製品は、打製石斧が2点(43・44)、小型磨製石斧が1点(45)、磨製石斧が1点(46)、磨石が1点(47)、石棒未製品が1点(48)、石棒状自然石が1点(49)出土した。

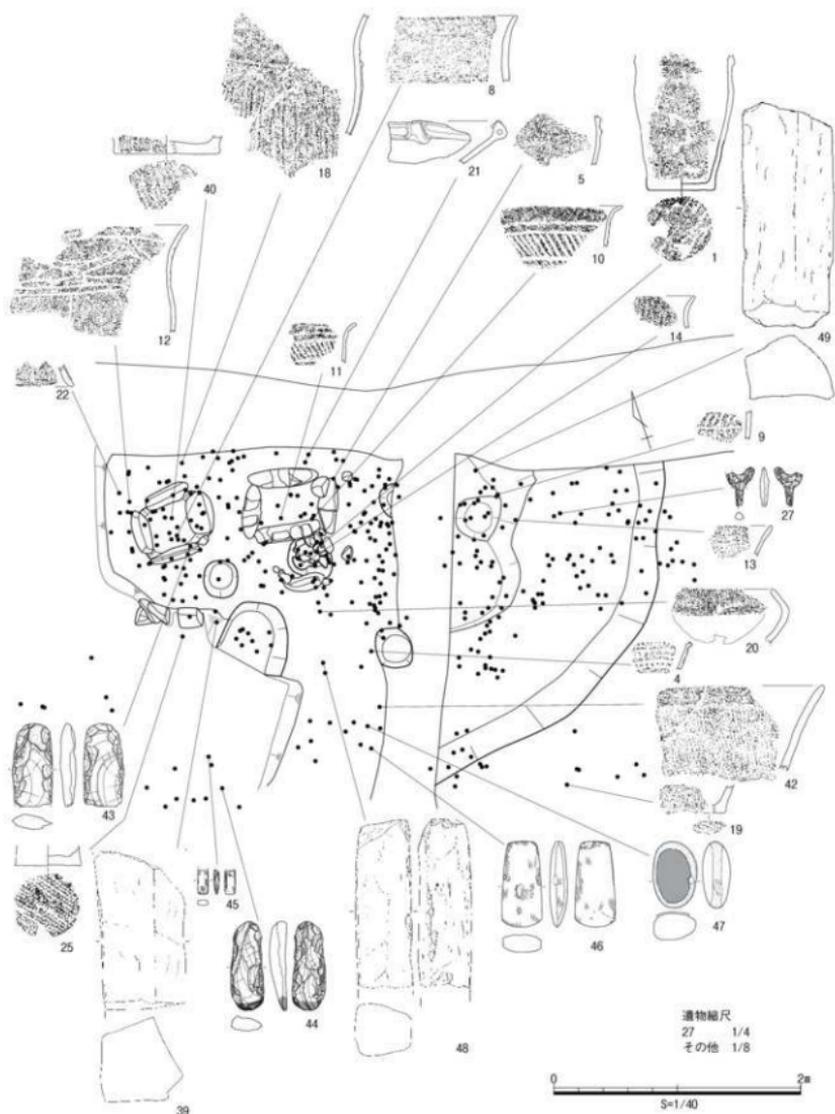
**時期** 床面直上の出土遺物41及び竪穴建物跡SB1(串田新Ⅱ式期～前田岩幹野式期)に切られることより、縄文時代中期後葉(串田新Ⅱ式期)の竪穴建物跡と考えられる。

第7表 竪穴建物跡SB1に伴う遺構一覧表

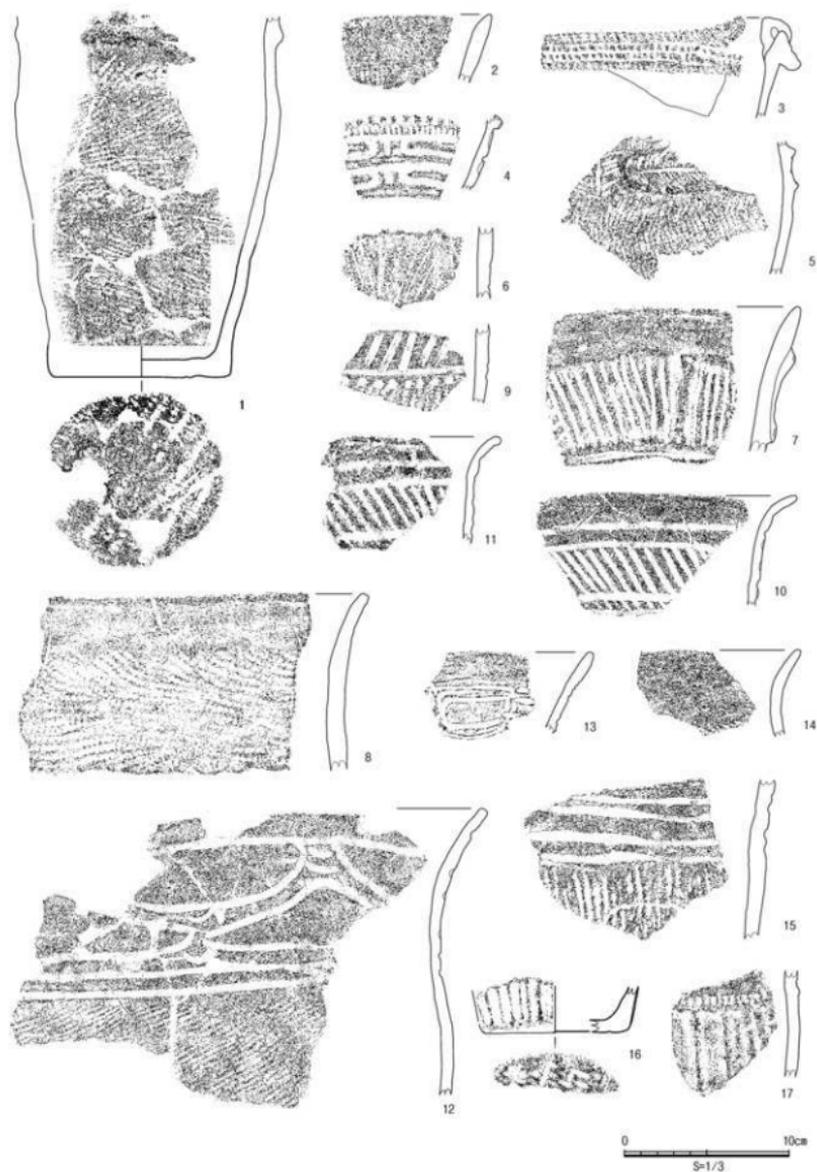
遺構NO	大方向	グリッド		検出面	地層状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量(m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)
		東西	南北						上端		深さ		
									長径	短径			
SF290	C	18	O	地山	-	-	複式切	-	1.02	0.76	0.11	1. 黒褐色土 10YR3/1 2. 褐灰色粘質土 10YR4/1 3. 赤褐色砂質土 5YR4/6 4. 赤褐色砂礫土 5YR4/6	SB1に伴う
P459	C	18	O	地山	a	IV	a	a	0.30	0.25	0.10	黒色土 10YR2/1	SB1に伴う
P669	C	18	O	地山	a	A	b	a	0.30	0.28	0.24	黒色土 10YR2/1	SB1に伴う



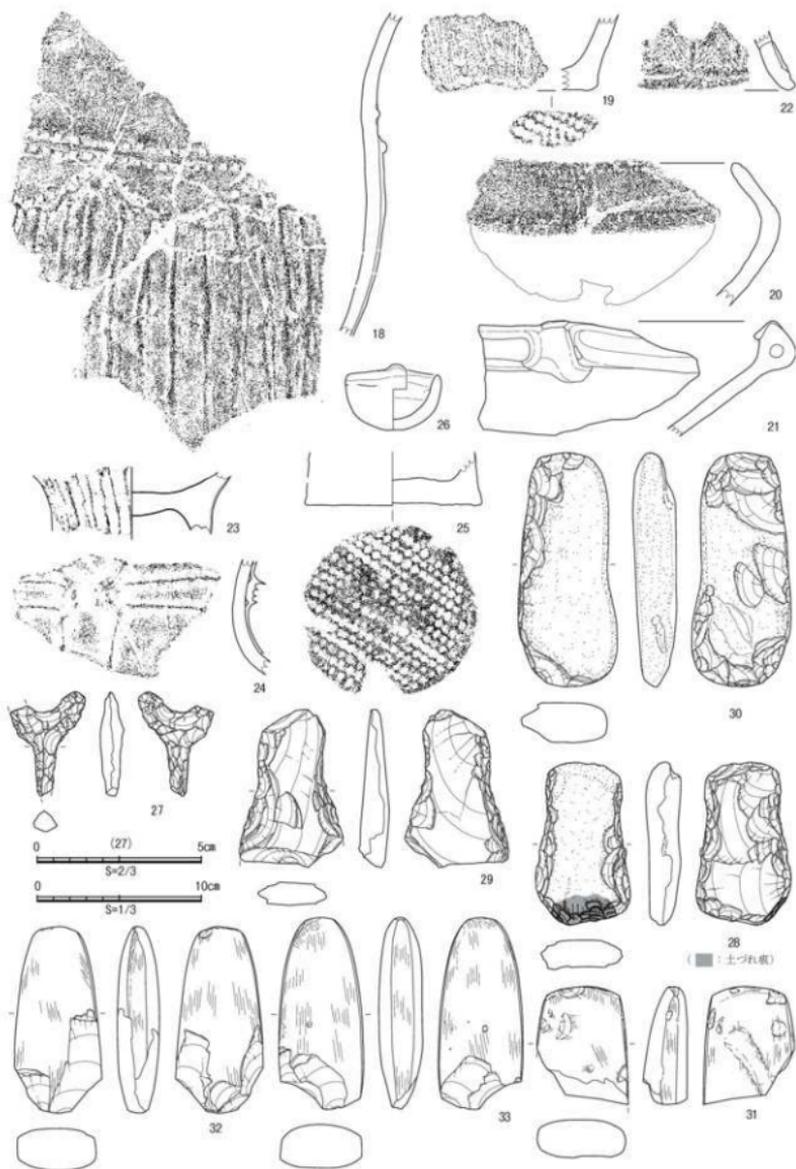
第14図 竪穴建物跡SB2関連遺構図



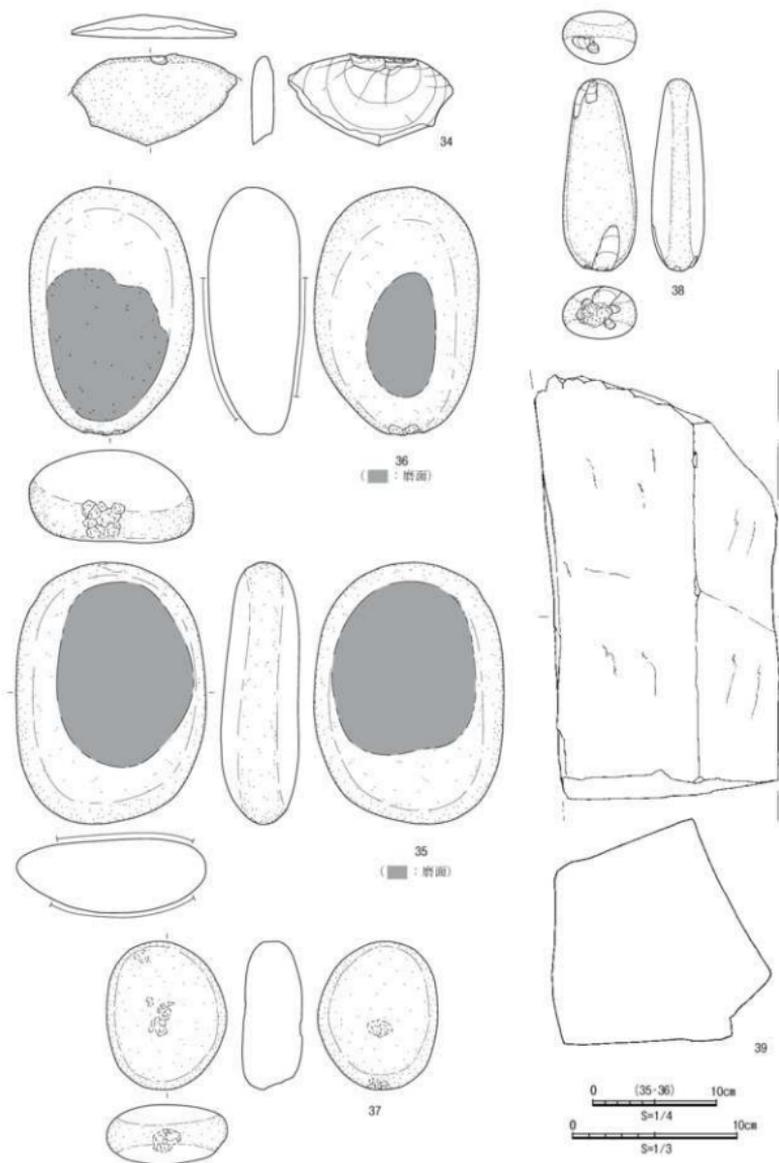
第15図 竪穴建物跡 SB1・SB2 遺物出土状況図



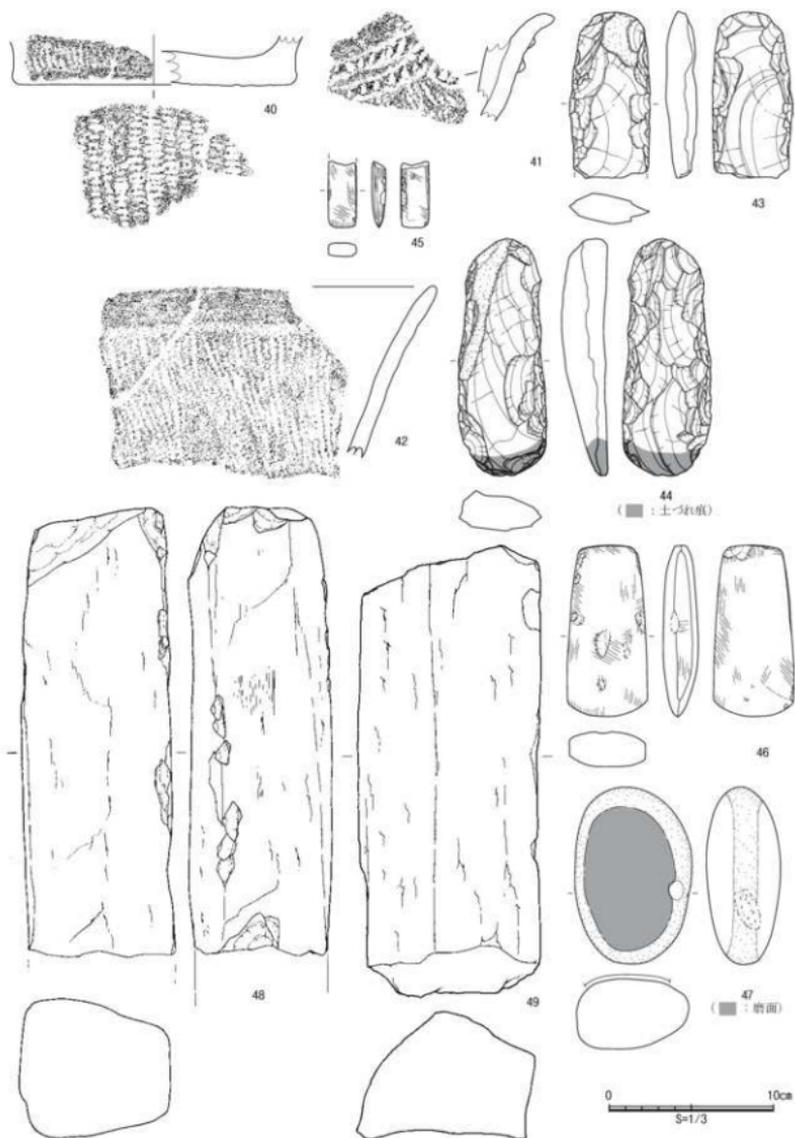
第16図 竪穴建物跡 SB1 出土遺物実測図 (1)



第17図 竪穴建物跡SB1出土遺物実測図(2)



第18図 竪穴建物跡SB1出土遺物実測図(3)



第19図 竪穴建物跡SB2出土遺物実測図

第8表 竪穴建物跡 SB2 に伴う遺構一覧表

遺構NO	去テグリッド 小アグリッド 東 西 南 北	検出 面	堆積 状況	断面 形状	平面 形状	底面 形状	法量 (m)			埋 土	備 考 (切り合い、出土遺物等)
							上端		深さ		
							長径	短径			
SF474	C 18 O	旭山	b	-	方形	-	0.69	0.58	0.21	1. 黒色土 2. 暗褐色砂質土	SB2に伴う
SK458	C 18 O	旭山	c	Ⅳ	b	b	(0.56)	0.56	0.24	1. 黒褐色粘質土 2. 黒色土 3. 暗赤褐色粘土	炭化物・明褐色の粘土粒混粘土で壁面を焼きしめ、SB2に伴う 炭化物層 黄褐色の粘土粒混
P291	C 18 O	旭山	a	ア	a	a	0.30	0.12	0.15	褐色粘質土	SB2に伴う
P721	C - - -	a	ア	-	-	-	-	-	0.52	調査区北壁	SB2に伴う

## (3) 竪穴建物跡 SB55

**遺構** (第20・21図、第9表) グリッドC-15Qにおいて、第Ⅳ層地山面上で検出した。4/5が残存している。形状は隅丸方形を呈する。残存部で長径4.34m、短径3.50m、深さ0.35mを測る。切り合いは、竪穴建物跡SB120・土坑SK204に切られる。炉跡は確認できず、上層より掘り込まれた土坑SK204に掘削された可能性がある。埋土は2基SZ228(新)・SZ468(旧)を確認した。埋土SZ468は貼床下層から出土し、また底部しか残っていなかったため、埋土SZ228に先行するものと考えられる。共に正位で掘えられていた。柱穴は3基P196・P263・P288を確認した。貼床は住居跡検出範囲の1/2程度で確認できた。

**遺物** (第22・23図) 接合前資料で土器83点、石器・石製品49点が出土した。埋土SZ228として17群1類(50)、また埋土SZ468として18群4類(51)の縄文土器が出土した。柱穴P288からは石鏃が1点(52)出土した。埋土から土器は、中期後葉と考えられる7群1類(串田新Ⅰ式)が1点(53)、縄文時代中期後葉から末葉にかけての14群3類が1点(54)、14群5類が1点(55)出土し、17群2類が1点出土した。石器・石製品は、石鏃が1点(57)、磨製石斧が3点(58～60)出土した。磨製石斧のうち、58・59は小型のものである。

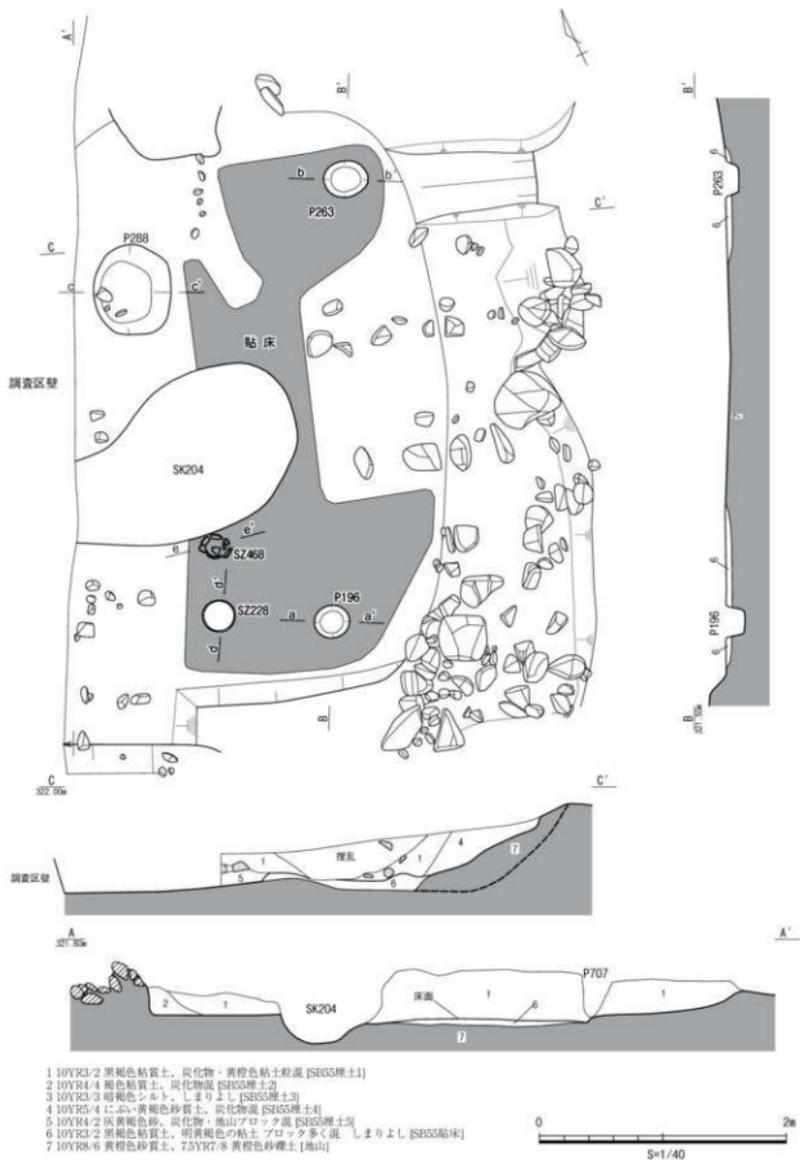
**時期** 埋土の出土遺物53及び竪穴建物跡SB120(串田新Ⅱ式期)に切られていることより、縄文時代中期後葉(串田新Ⅰ式期)の竪穴建物跡と考えられる。

## (4) 竪穴建物跡 SB118

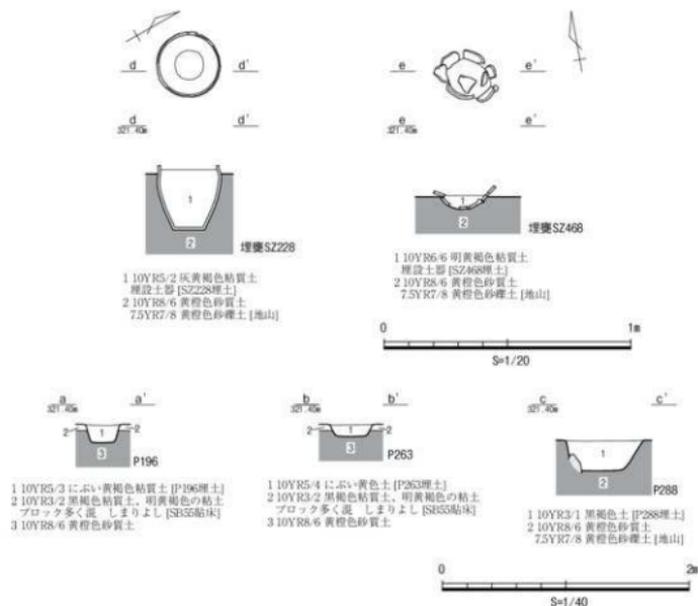
**遺構** (第24・26図、第10表) グリッドC-15Rにおいて、第Ⅳ層地山面上で確認した。1/2を検出でき、残りは調査区外へ続いている。形状は隅丸方形を呈する。残存部で長径4.06m、短径1.96m、深さ0.35mを測る。重複遺構はない。炉跡は確認できず、調査区壁内に埋まっていると考えられる。埋土SZ337は正位で掘えられていた。柱穴は2基P221・P265を確認した。貼床は検出範囲全面において確認した。埋土の残りが良く、約10cmごとに掘り分けて遺物の取り上げを行った。

**遺物** (第25・27・28図) 接合前資料で土器384点、石器・石製品47点が出土した。埋土SZ337として17群1類縄文地の土器(61)が出土した。柱穴P265からは磨製石斧1点(62)が出土した。から、土器は、下層より中期中葉(古串田新式期)の浅鉢20群1類が1点(63)出土した。中層からは中期中葉(古串田新式期)の3群1類が1点(64)、上層からは中期中葉(古串田新式期)の3群1類が1点(65)、3群2類が1点(66)、3群4類が3点(67～69)、中期後葉(串田新Ⅰ式期)の7群1類が1点(70)、中期中葉(古串田新式期)の台付鉢21群1類(75)などが出土した。石器・石製品は、石鏃が1点(93)、打製石斧が1点(94)、磨製石斧が3点(95～97)、剥片が1点(98)出土した。

**時期** 埋土の出土遺物より、縄文時代中期中葉(古串田新式期)の竪穴建物跡と考えられる。



第20図 竪穴建物跡SB55遺構図



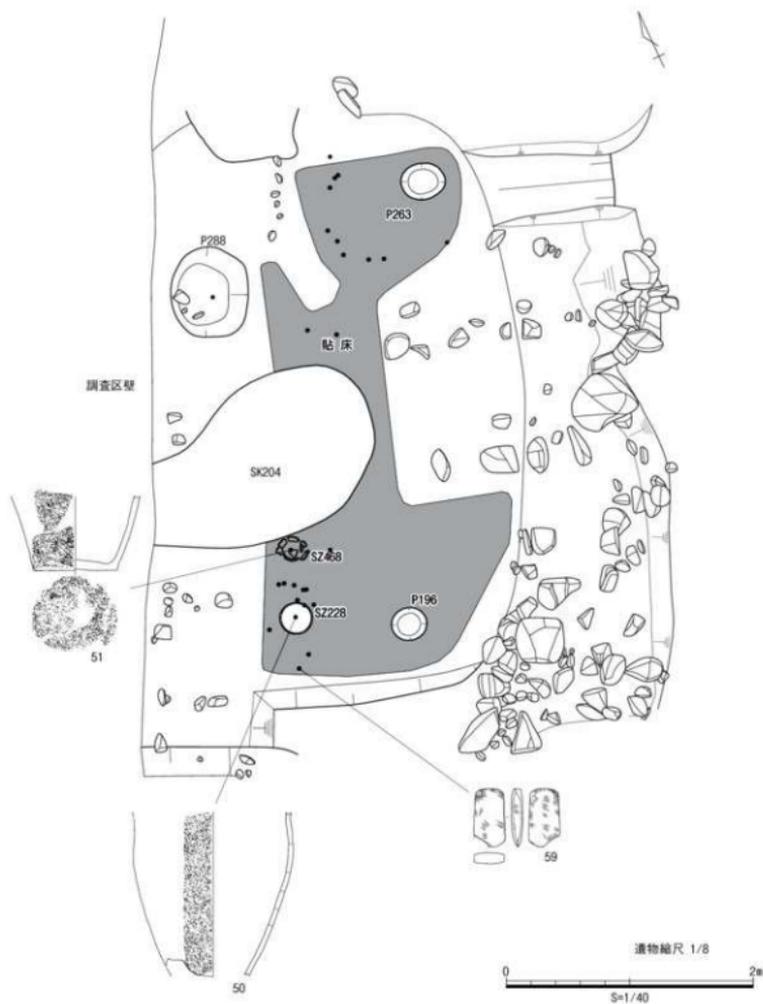
第21図 竪穴建物跡SB55関連遺構図

第9表 竪穴建物跡SB55に伴う遺構一覧表

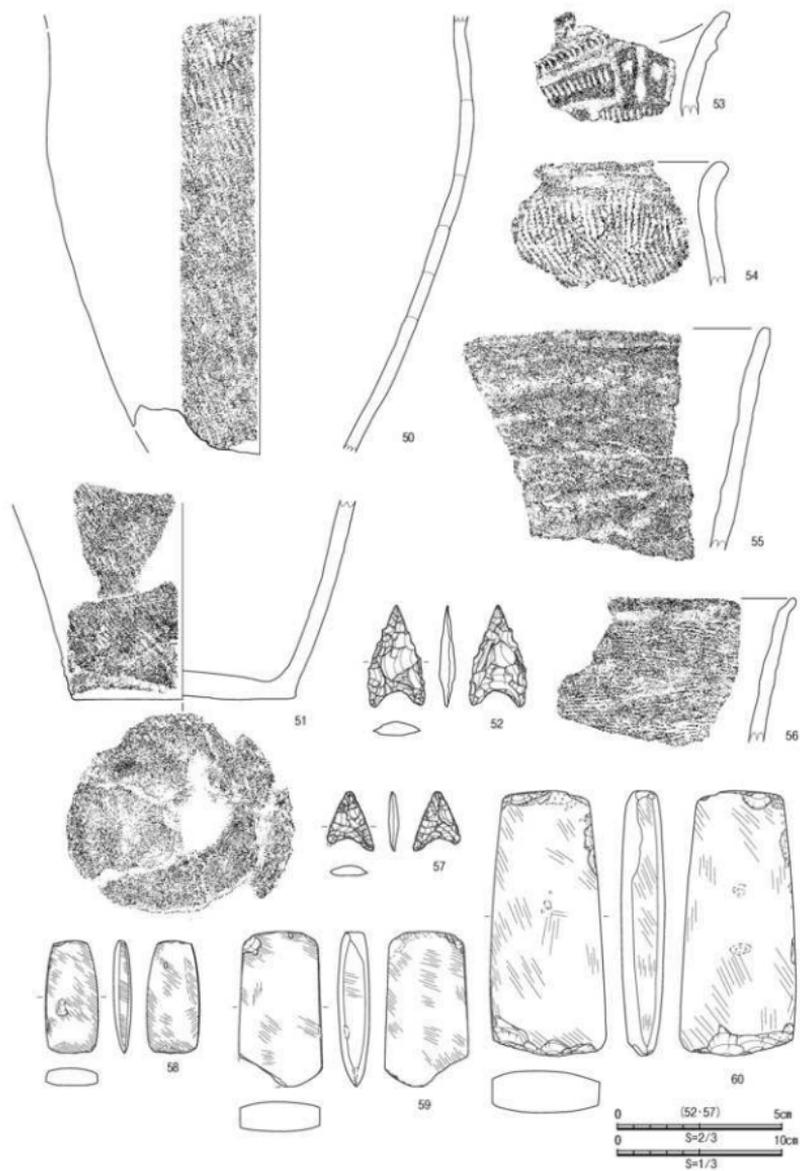
遺構NO	小グリッド		検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)
	東西	南北						上端		深さ		
								長径	短径			
SZ228	C	16	Q	堆山	a	-	-	-	-	-	1. SB55 貼り床 2. 灰黄褐色粘質土	埋裏、SB55に伴う、貼床下層より出土
SZ468	C	16	Q	堆山	a	-	-	-	-	-	明黄褐色粘質土	SB55に伴う
P196	C	16	Q	堆山	a	ア	a	0.54	0.25	0.06	黄褐色粘質土	SB55に伴う
P263	C	16	Q	堆山	a	ア	a	0.34	0.30	0.10	黄褐色土	SB55に伴う
P288	C	16	Q	堆山	a	ア	a	0.73	0.63	0.24	黒褐色土	SB55に伴う

第10表 竪穴建物跡SB118に伴う遺構一覧表

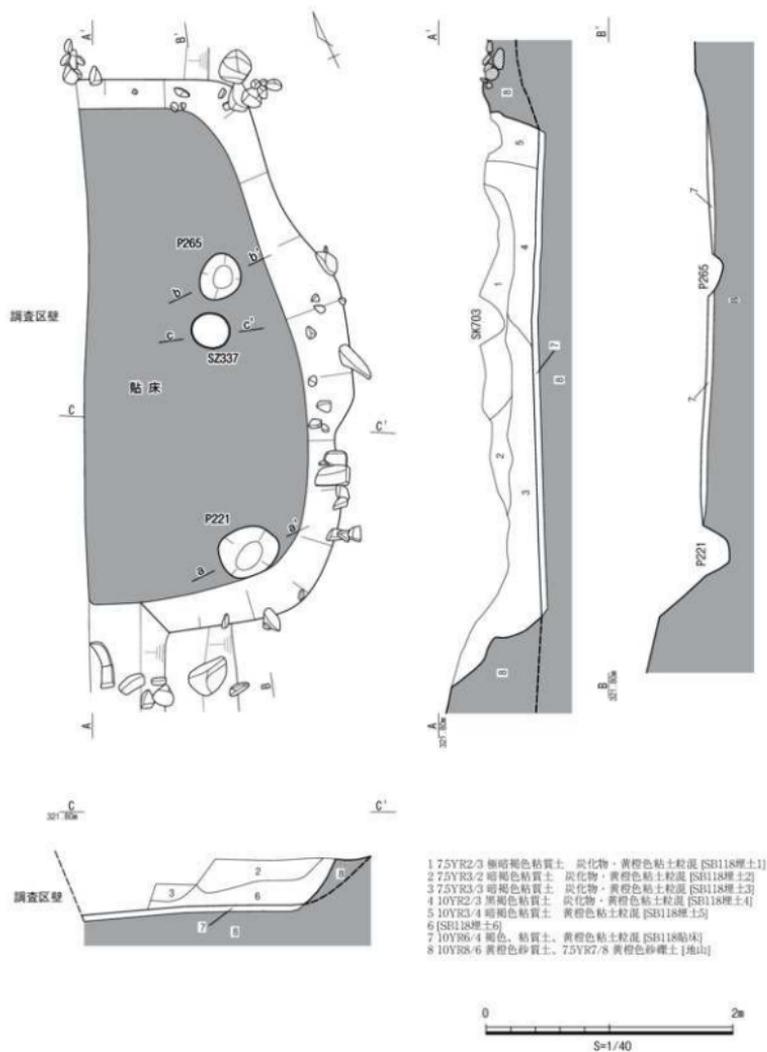
遺構NO	小グリッド		検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)
	東西	南北						上端		深さ		
								長径	短径			
SZ337	C	15	R	堆山	-	-	-	-	-	-	1. 黄褐色粘質シルト 2. 暗褐色土	埋裏、SB118に伴う
P221	C	15	R	堆山	a	ア	a	0.46	0.43	0.14	黄褐色粘質土	SB118に伴う
P265	C	15	R	堆山	a	ア	a	0.38	0.32	0.08	灰黄褐色粘質土	SB118に伴う



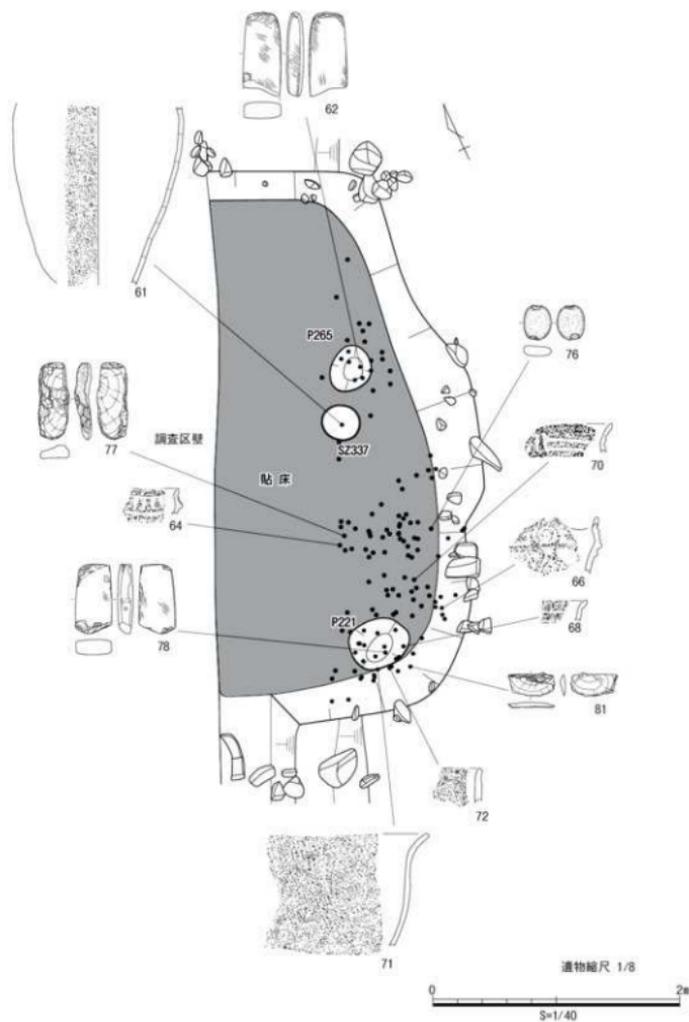
第22図 竪穴建物跡 SB55 遺物出土状況図



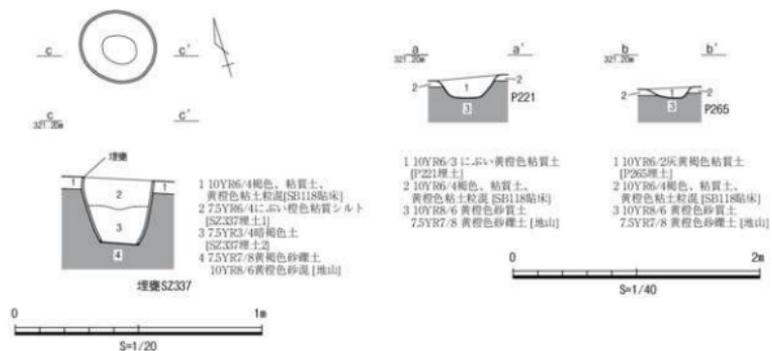
第23図 竪穴建物跡 SB55 出土遺物実測図



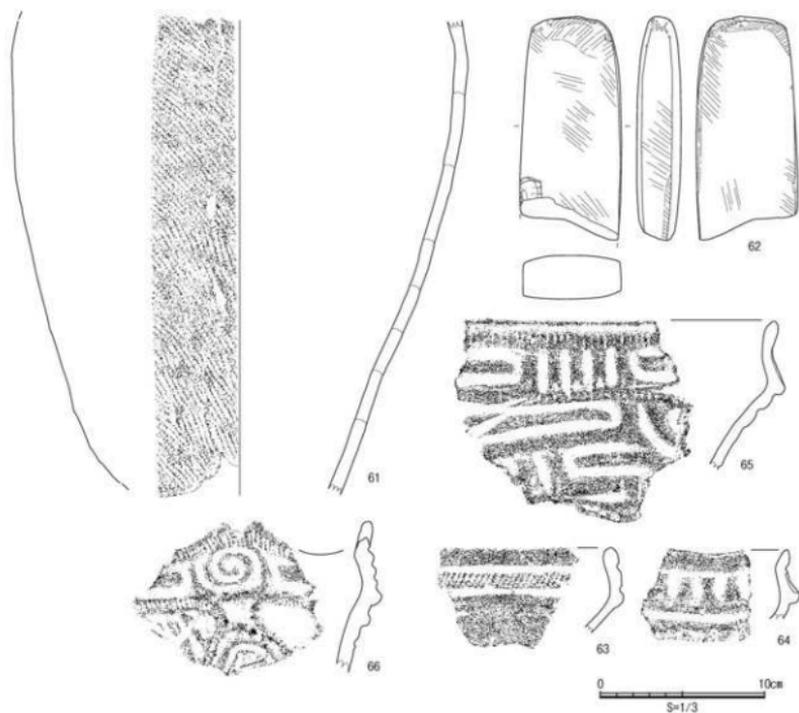
第24図 竪穴建物跡 SB118 遺構図



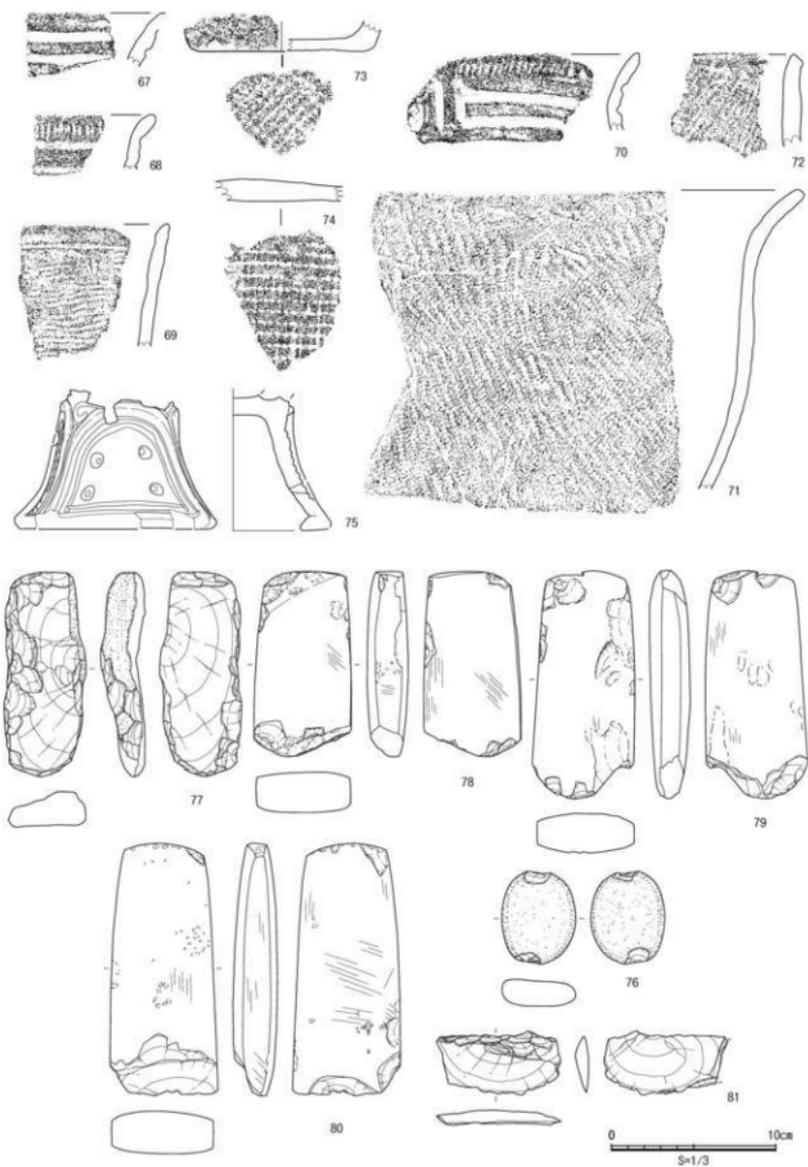
第25図 壁穴建物跡SB118遺物出土状況図



第26図 竪穴建物跡SB118関連遺構図



第27図 竪穴建物跡SB118出土遺物実測図(1)



第28図 竪穴建物跡SB118出土遺物実測図(2)

## (5) 竪穴建物跡 SB119

遺構(第29・31図、第11表) グリッドC-15Sにおいて、第IV層地山面上で確認した。3/5が残存している。上・下端を明確に確認できなかったため、形状は不明である。残存部で長径3.57m、短径2.10m、深さ0.24mを測る。切り合いは、竪穴建物跡SB194を切り、土坑SK347に切られる。炉跡SF286は石組みの複式炉である。焼土は確認できなかった。埋裏は確認できなかった。柱穴は3基P303・P304・P305を確認した。貼床は粘土を焼き締めて貼床としており、炉跡SF286周辺で確認した。埋土からは遺物が廃棄された状態で大量に出土した。

遺物(第30・32～34図) 接合前資料で土器582点、石器・石製品50点出土した。炉跡SF286から、土器は中期中葉(古串田新式)の3群4類が1点(82)、中期後葉(串田新Ⅱ式)の9群8類が1点(83)、中期末葉(前田・岩崎野式)の浅鉢20群5類が1点(84)などが出土した。床面直上では、中期後葉(串田新Ⅱ式)の9群4類が2点(86・87)並びに中期後葉(在地系・串田新Ⅱ式期)の10群1類が1点(88)出土した。埋土から、土器は9群が6点(89～94)、10群が1点(95)など、中期後葉(串田新Ⅱ式期)の遺物が多く出土した。石器・石製品は、石核が1点(104)、打製石斧が3点(105～107)、磨製石斧が1点(108)、横刃形石器が1点(109)、敲石が1点(110) 球状耳飾が1点(111) 出土した。敲石110は下方の端部は刃部を形成しており、上方の端部及び胴部には敲石として使用した敲打痕が残る。礫器・敲石として使用した可能性がある。炉跡SF286から出土した3群4類の82及び球状耳飾111は混入したものと考えられる。

時期 炉跡SF286及び床面直上、埋土の出土遺物が串田新Ⅱ式並びに同時期の在地系土器を主体とするため、縄文時代中期後葉(串田新Ⅱ式期)の竪穴建物跡と考えられる。

## (6) 竪穴建物跡 SB120

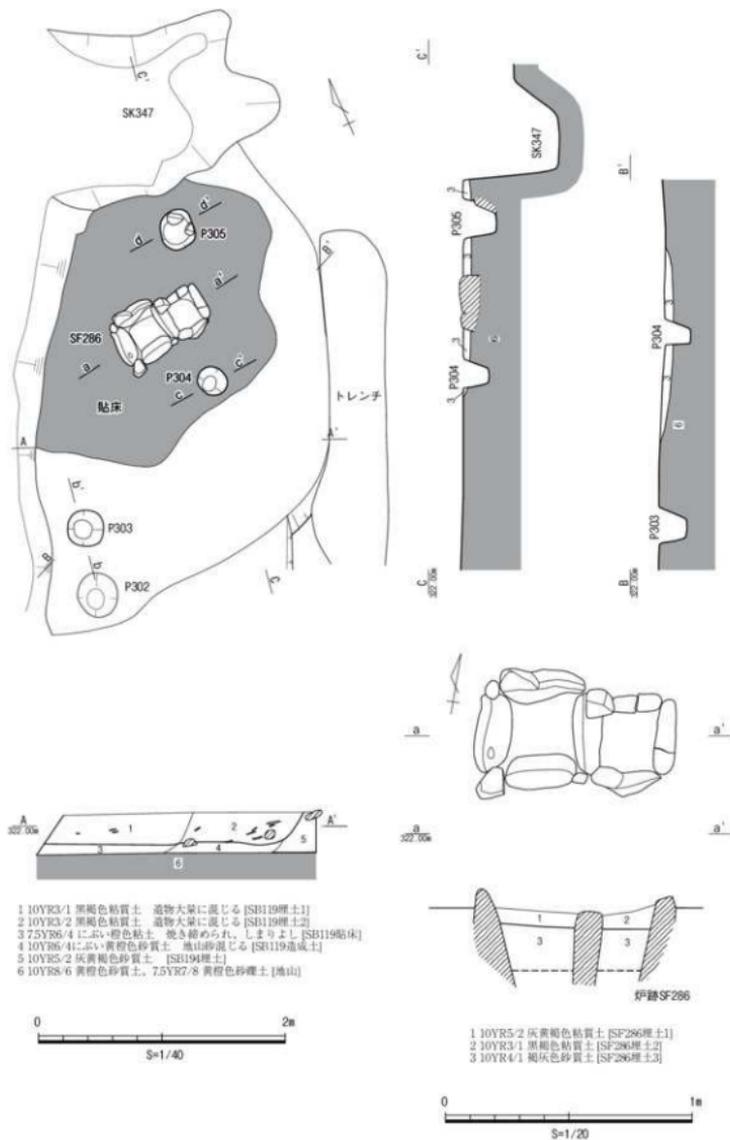
遺構(第35図、第12表) グリッドC-16Qにおいて、第IV層地山面上で検出した。1/2が残存している。上・下端を確認できなかったため形状は不明である。残存部で長径3.65m、短径1.20m、深さ0.14mを測る。切り合いは、竪穴建物跡SB55及び土坑SK289を切る。炉跡SF363は石組の複式炉であるが、1/2は調査区外である。壁面で焼土を確認した。埋裏は確認できなかった。柱穴は3基P222・P311・P365を確認した。貼床は炉跡SF363の周囲において一部確認した。

遺物(第36・37図) 接合前資料で土器180点、石器・石製品25点が出土した。埋土から、土器は中期後葉(串田新Ⅱ式)の9群が1類1点(112)・3類1点(113)・5類1点(114)、中期後葉(串田新Ⅰ式)の浅鉢20群2類1点(115)が出土した。これら北陸系の土器と共に、14群1類(116)が出土した。石器・石製品は、打製石斧が1点(120)、磨製石斧が2点(121・122)、敲石が1点(123)出土した。貼床下層の土坑SK289からは14群1類が1点(124)出土した。

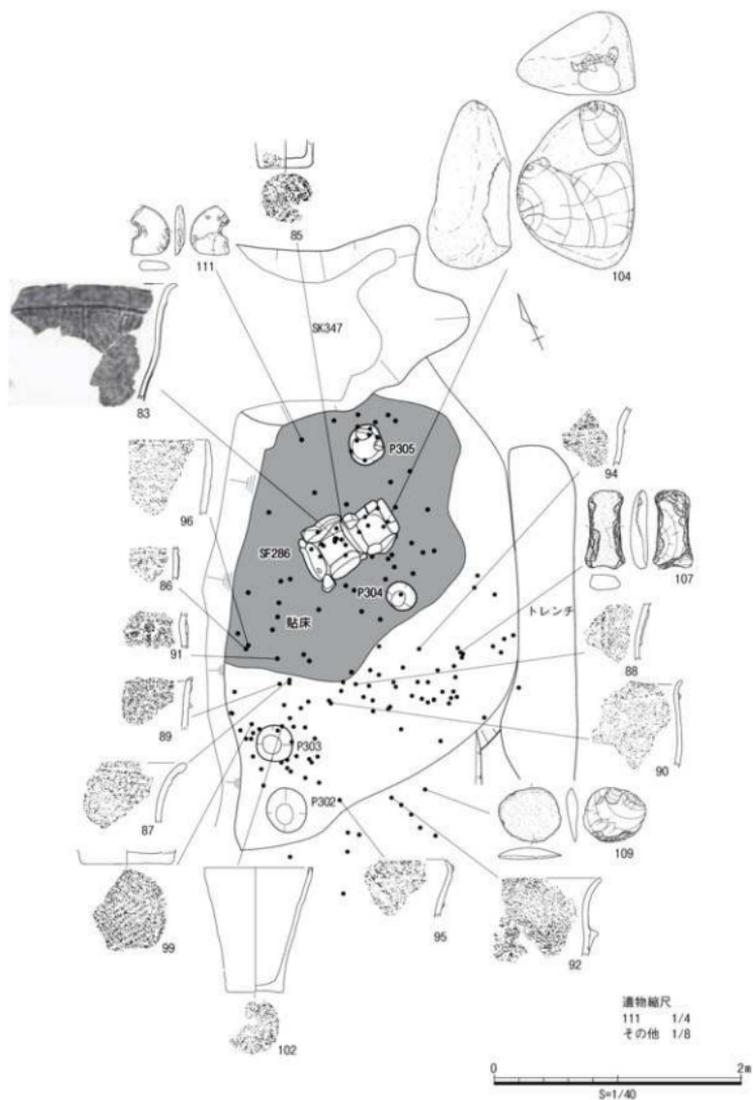
時期 埋土の出土遺物は中期後葉(串田新Ⅱ式)の9群及び中期後葉から末葉の14群が主体をなし、下層の土坑SK289からも14群1類(124)が出土している。これらのことから縄文時代中期後葉(串田新Ⅱ式期)の竪穴住居跡と考えられる。

第11表 竪穴建物跡SB119に伴う遺構一覧表

遺構NO	グリッド 座標	方位	続出 南記	地山 面	埋 裏 状 況	断面 野 状	平面 野 状	穴 野 状	法量(m)		埋土	備 考 (切り合い、出土遺物等)	
									上端 長径	深さ			
SF286	C	E	S	地山	-	-	複式炉	-	0.85	0.50	0.27	1. 灰青褐色粘質土 10YR5/2 2. 黒褐色粘質土 10YR3/1 3. 褐色砂質土 10YR4/1	SB119に伴う
P303	C	E	S	地山	a	a	b	a	0.30	0.28	0.22	黒褐色土 10YR3/2	SB119に伴う
P304	C	E	S	地山	a	a	a	a	0.24	0.23	0.20	暗褐色粘質土 10YR3/3	SB119に伴う
P305	C	E	S	地山	a	a	a	a	0.30	0.27	0.26	黒褐色砂質シルト 10YR3/2	底面に内蔵、角礫(径10～15cm)、SB119に伴う



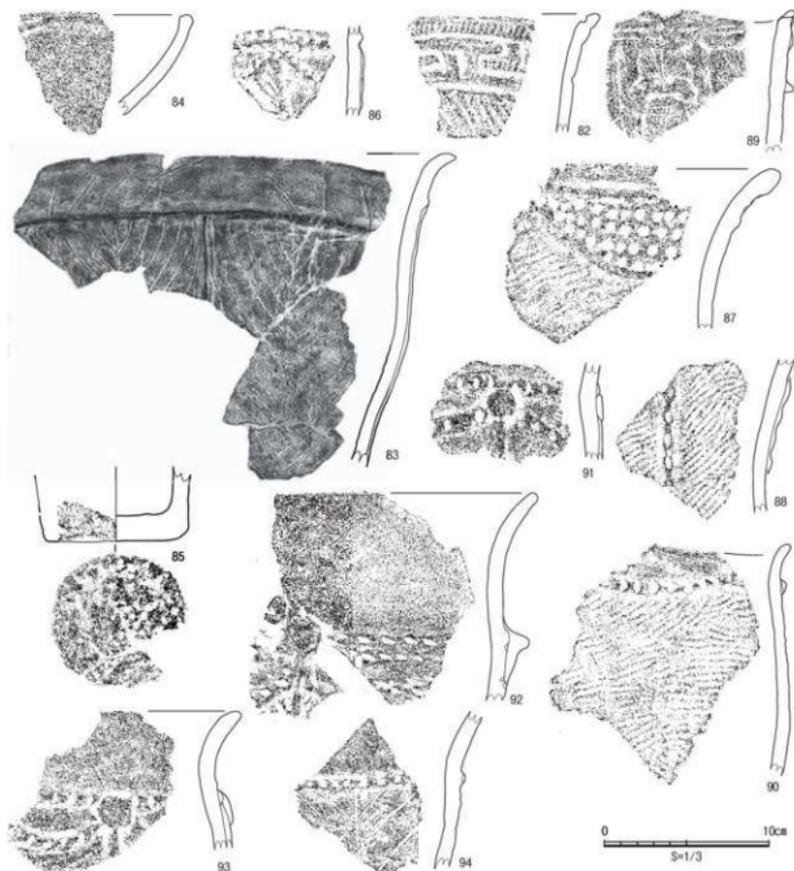
第29図 竪穴建物跡S8119遺構図



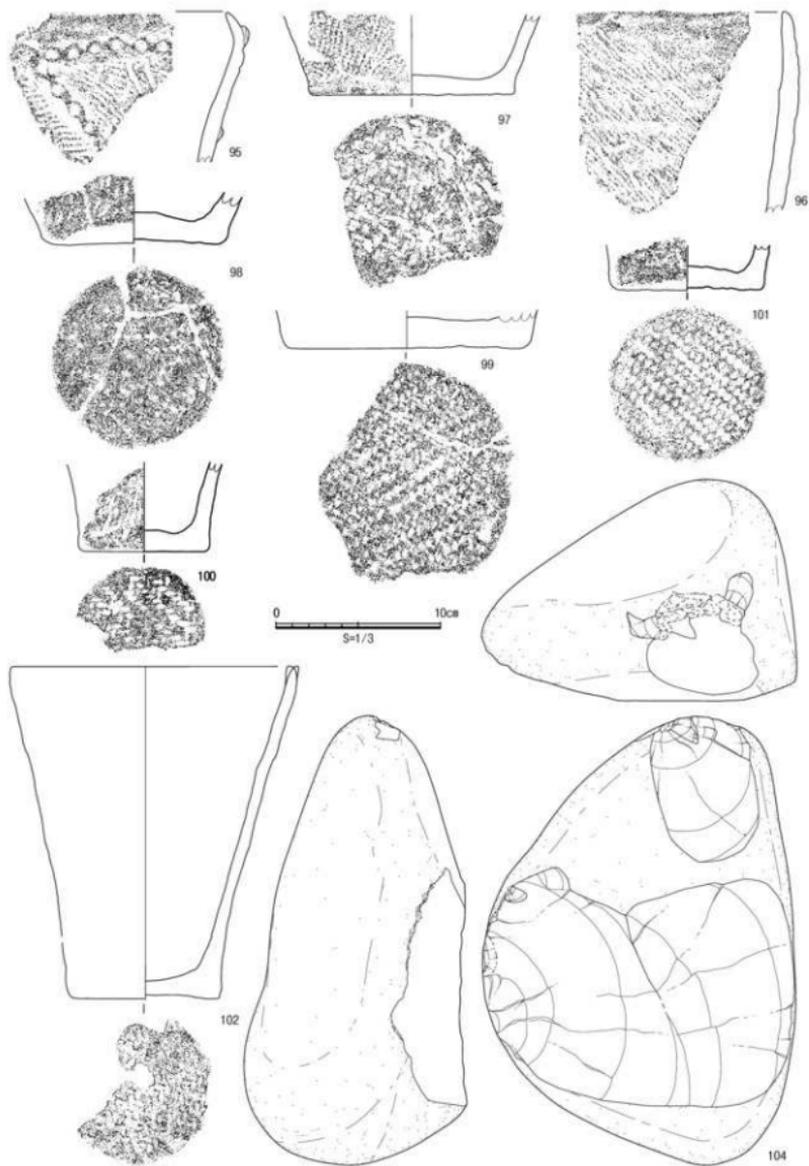
第30図 竪穴建物跡SB119遺物出土状況図



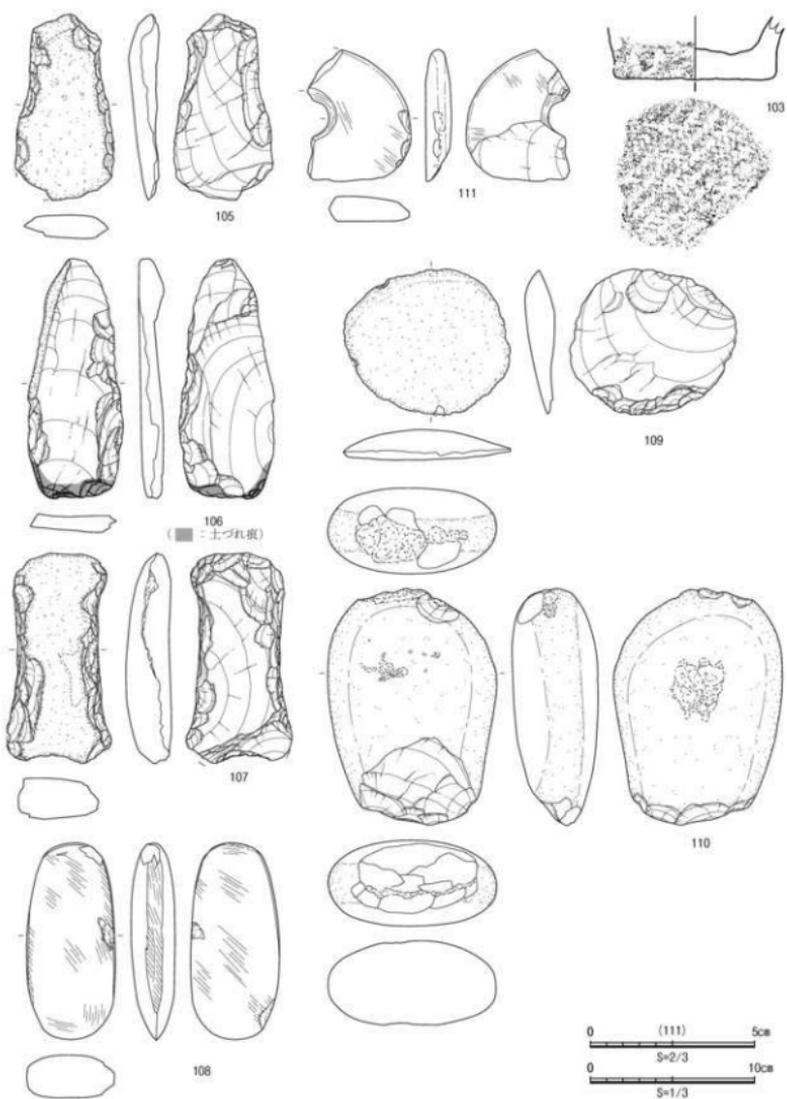
第31図 竪穴建物跡SB119関連遺構図



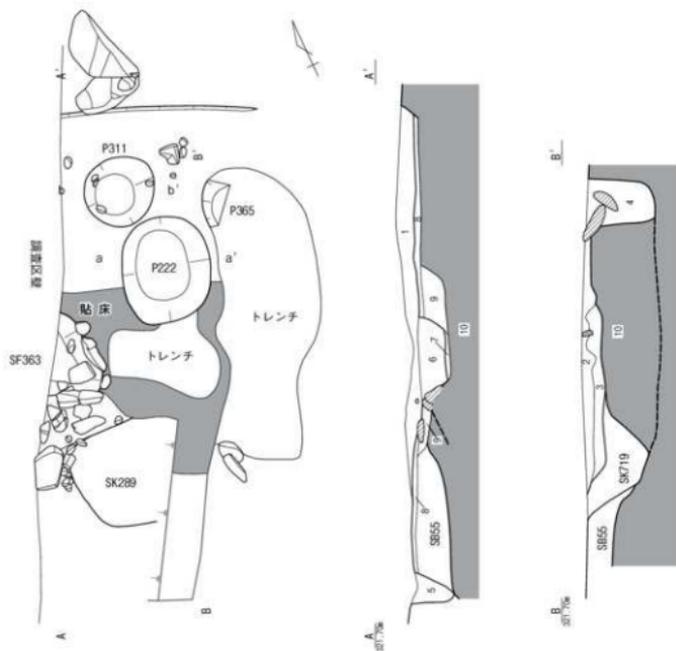
第32図 竪穴建物跡SB119出土遺物実測図(1)



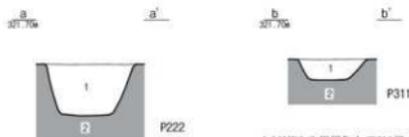
第33図 竪穴建物跡SB119出土遺物実測図(2)



第34図 竪穴建物跡SB119出土遺物実測図(3)

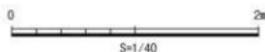


- 1 75YR3-2 極暗褐色粘質土 黄褐色粘土粒混 [SB120埋土1]  
 2 10YR4-1 暗灰色シルト しまりあり S=10cm次の小礫混 [SB120埋土2]  
 3 10YR3-3 暗褐色砂 しまりあり 2-3cm次の小礫混 [SB120埋土3]  
 4 10YR2-3 黒褐色砂 しまりあり [P365埋土]  
 5 75YR3-2 黒褐色粘質土 炭化物混 [P207埋土]  
 6 75YR2-2 黒褐色粘質土 炭化物・黄褐色粘土粒混 [SF363埋土]  
 7 75YR3-4 暗褐色粘質土 黄褐色粘土粒混 しまりよし [SF363貼床]  
 8 10YR5-8 黄褐色粘土 黄褐色粘土プロット混 しまりよし [SB120貼床]  
 9 75YR3-4暗褐色粘質土 黄褐色粘土粒混 [SF363伊右衛門土]  
 10 10YR8-6 黄褐色砂質土, 75YR7-8 黄褐色砂礫土 [地山]



- 1 10YR3-1 黒褐色土 [P222埋土]  
 2 10YR8-6 黄褐色砂質土  
 75YR7-8 黄褐色砂礫土 [地山]

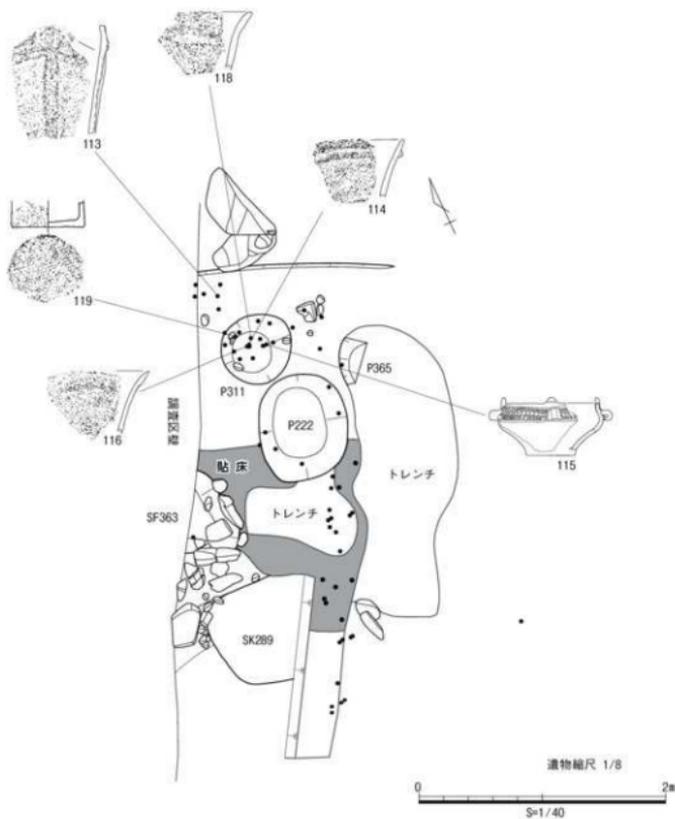
- 1 10YR3-2 黒褐色土 [P311埋土]  
 2 10YR8-6 黄褐色砂質土  
 75YR7-8 黄褐色砂礫土 [地山]



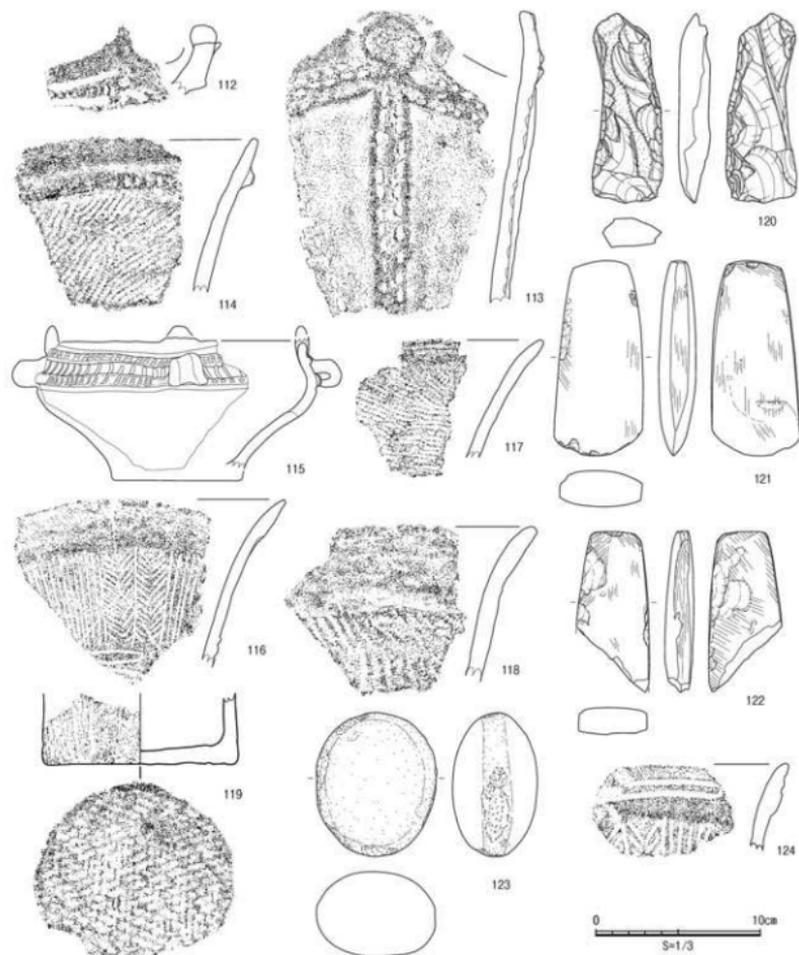
第35図 竪穴建物跡 SB120 遺構図

第12表 竪穴建物跡SB120に伴う遺構一覧表

遺構NO	大方向	小方向	検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)		
								上端		深さ				
								長径	短径					
SF363	C	16	P	地山	a	-	複式炉	-	(1.01)	(0.48)	0.15	調査区西壁断面	-	SB120に伴う複式炉
P222	C	16	P	地山	a	ア	a	a	0.86	0.72	0.41	黒褐色土	10YR3/1	SB120に伴う
P311	C	16	P	地山	a	ア	a	a	0.60	0.56	0.16	黒褐色土	10YR3/2	1cm大の小礫混SB120に伴う
P365	C	16	P	地山	a	ア	a	a	0.40	(0.18)	0.53	黒褐色砂質土	10YR2/2	SB120に伴う



第36図 竪穴建物跡SB120 遺物出土状況図



第37図 竪穴建物跡 SB120 出土遺物実測図

## (7) 竪穴建物跡 SB191

遺構(第38図、第13表) グリッドC-170において、竪穴建物跡 SB192 埋土及び第IV層地山面上で検出した。1/3が残存している。形状は隅丸方形を呈する。残存部で長径2.94m、短径2.14m、深さ0.29mを測る。切り合いは、竪穴建物跡 SB192 を切り、竪穴建物跡 SB710・SB2 に切られる。炉跡 SF711 は方形石組炉であるが、1辺の石材は紛失している。埋堯は確認できなかった。柱穴は2基 P323・P258 を確認した。貼床は断面で確認することはできたが、平面で検出することはできなかつ

た。

**遺物** (第45図) 接合前資料で土器1点、石器・石製品7点が出土した。床面直上で中期中葉(串田新I式期)の7群1類が1点(125)、埋土から石棒原石が1点(126)出土した。

**時期** 床面直上から7群1類に属す125が出土したこと、竪穴住居跡SB192及びSB710・SB2との切り合い関係より、縄文時代中期後葉(串田新I式期)の竪穴建物跡と考えられる。

#### (8) 竪穴建物跡 SB192

**遺構** (第39図、第14表) グリッドC-170において、第IV層地山面上で検出した。1/2が残存しているが、形状は不明である。残存部で長径2.88m、短径2.58m、深さ0.29mを測る。切り合いは、竪穴住居跡SB191・SB710に切られる。炉跡SF712は方形石組炉であり、中央に焼土を確認した。埋土はなかった。柱穴は4基P467・P635・P636・P643を確認した。貼床は炉跡SF712周囲において一部確認した。埋土は炭化物を含む黄橙色～褐色の砂質土であり、第IV層地山と見分けが非常に困難であった。

**遺物** (第40・45図) 接合前資料で土器28点、石器・石製品1点が出土した。床面直上で中期後葉から末葉の時期を持つ14群2類が1点(127)出土した。

**時期** 床面直上から14群2類127が出土したことより縄文時代中期後葉から末葉にかけての時期を持つと考えられる。また中期後葉(串田新I式期)の竪穴建物跡SB191に切られていることより、竪穴建物跡SB191とSB192には時期差は無く、縄文時代中期後葉(串田新I式期)の竪穴建物跡と考えられる。

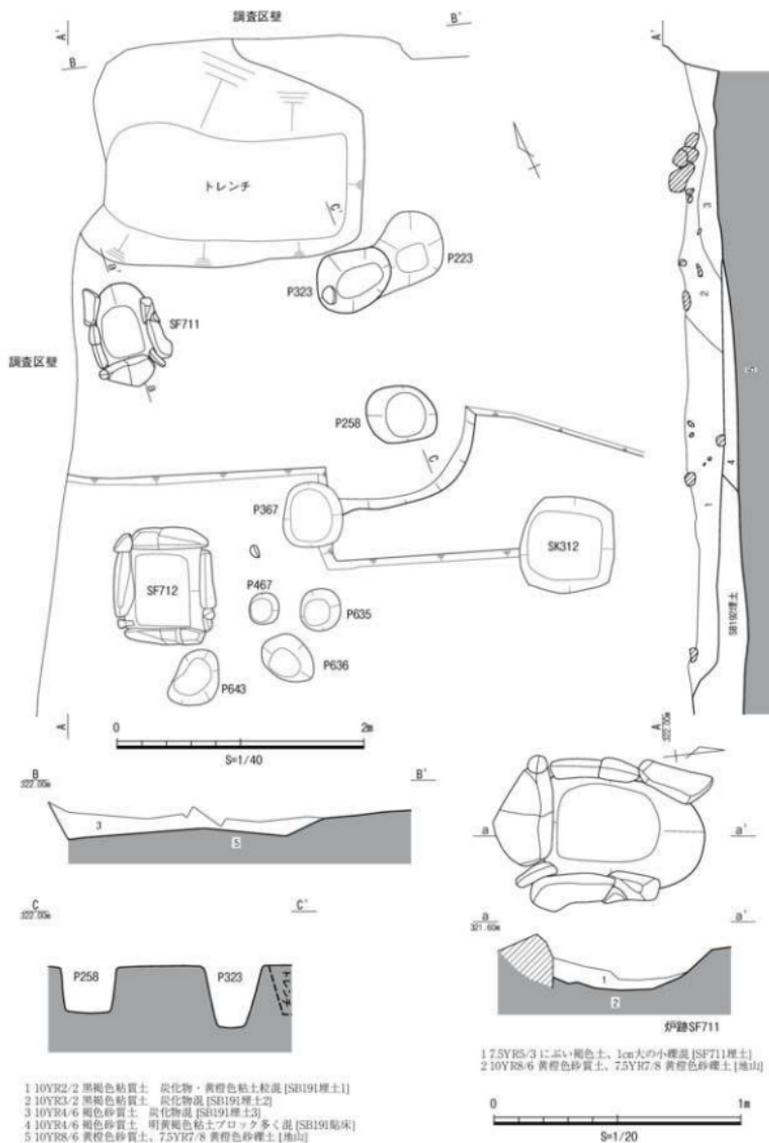
#### (9) 竪穴建物跡 SB194

**遺構** (第41～43図、第15表) グリッドC-16Sにおいて、第IV層地山面上で確認した。1/2が残存している。残存部で長径5.63m、短径3.54m、深さ0.27mを測る。縁辺部には、20～60cm幅で弧状に列石を配石した形状を持つ。北端では1.5m四方内に置石を施した配石遺構SI121が組み合わさる。弧状の列石は1周していた可能性がある。切り合いは、竪穴住居跡SB119に切られる。炉跡SF274が伴う。20cm大の川原石を円形に組む円形石組炉である。炉内全面で焼土を確認した。埋土・柱穴は確認できず、土坑SK487を確認した。縁辺部に列石を配する竪穴建物跡は、今回調査ではこの1軒のみであり、岐阜県飛騨地方では検出例がない。近隣では富山市大沢野町に所在する布尻遺跡において中期後葉の時期に出土事例を確認でき、柄鏡形住居との関連を示唆している。

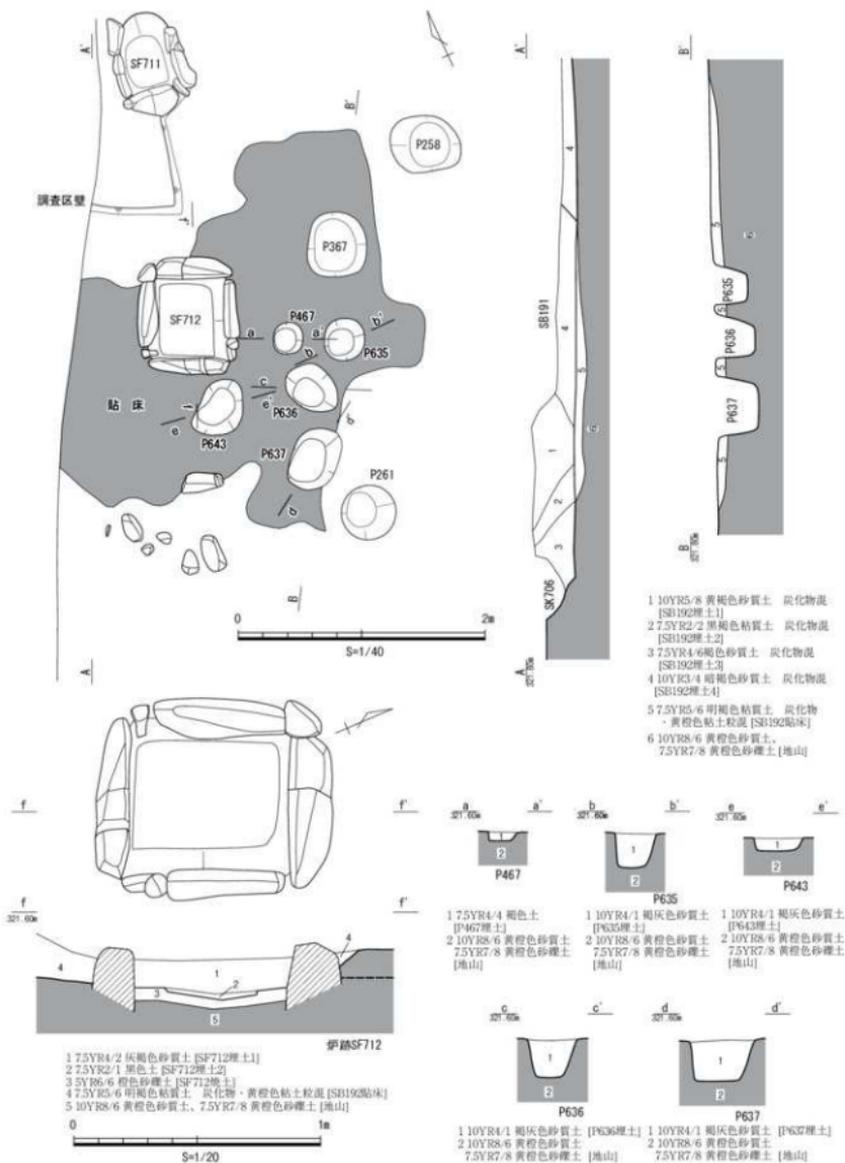
また、SB194貼床の下層で炉跡SF285を確認した。円形石組炉であり、炉内全面で焼土を確認した。小型土器が埋設されていた。炉跡SF285の炉石の形態とSF274の形態が同じであることから、SB194以前にも同様の施設が存在した可能性がある。

**遺物** (第44・45図) 接合前資料で土器337点、石器・石製品28点が出土した。炉跡SF274より、9群5類が1点(128)、17群4類が1点(129)、18群1類が1点(130)出土した。床面直上では、磨製石斧が2点(131・132)が出土し、縁辺部の列石から石棒が1点(133)出土した。石棒133は流紋岩製である。今回の調査で出土した石棒のうち塩屋石製以外のものはこの133だけである。炉跡SF285からは焼土に埋設される状況で23群7類が1点(134)出土した。

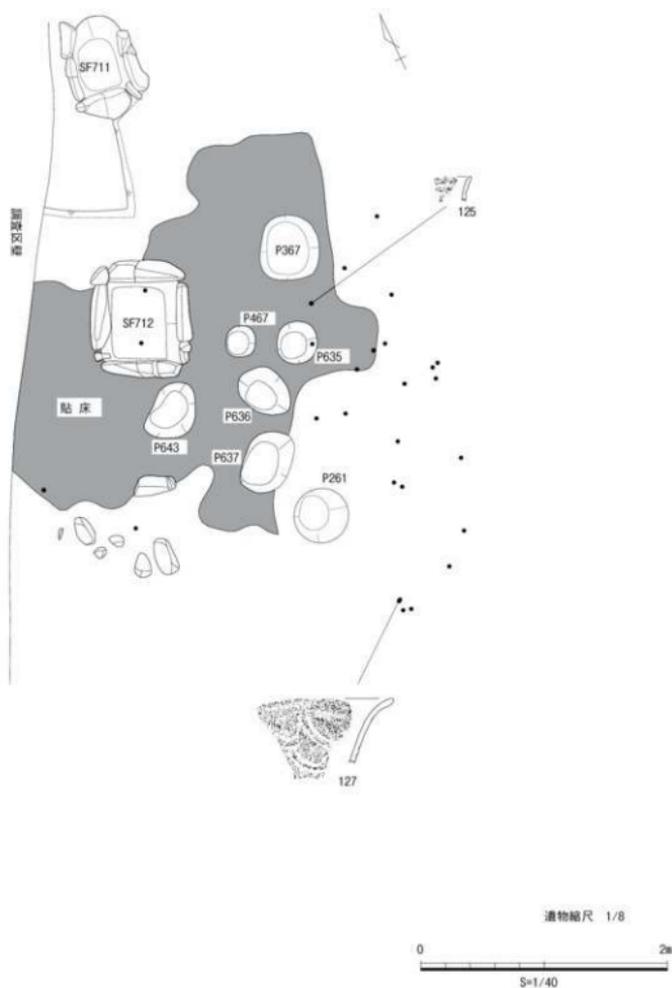
**時期** 炉跡SF274より中期後葉(串田新II式期)9群5類の破片128が出土している。中期後葉(串田新II式期)の竪穴建物跡SB119に切られることより、縄文時代中期後葉(串田新II式期)と考えられる。



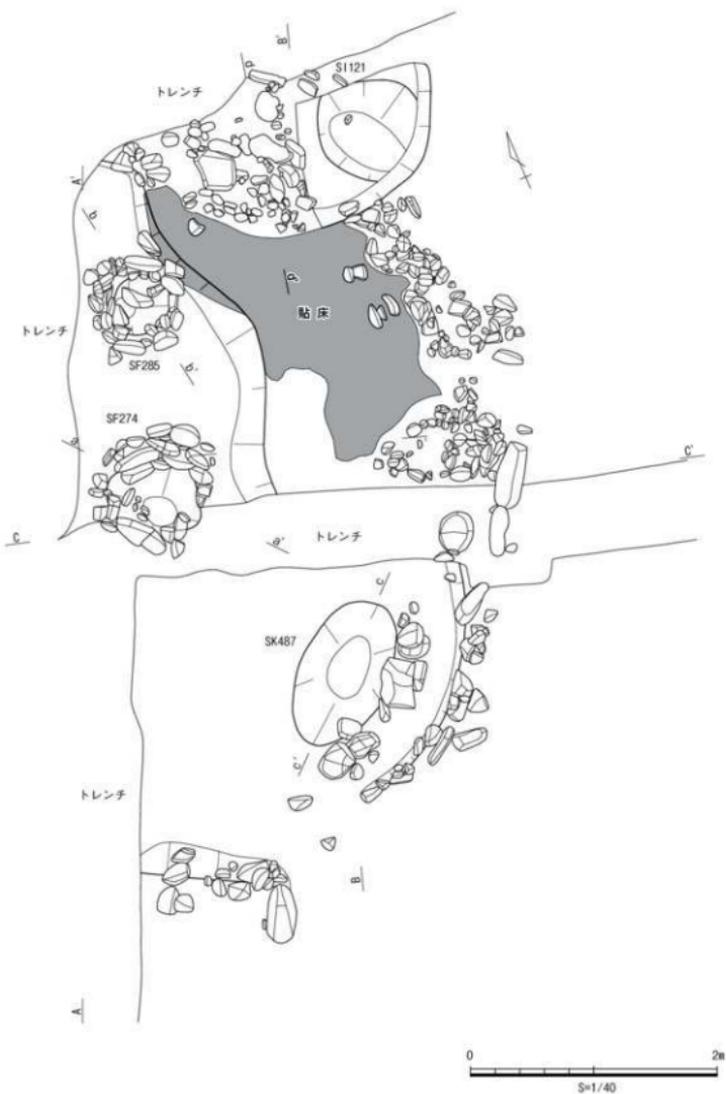
第38図 竪穴建物跡SB191遺構図



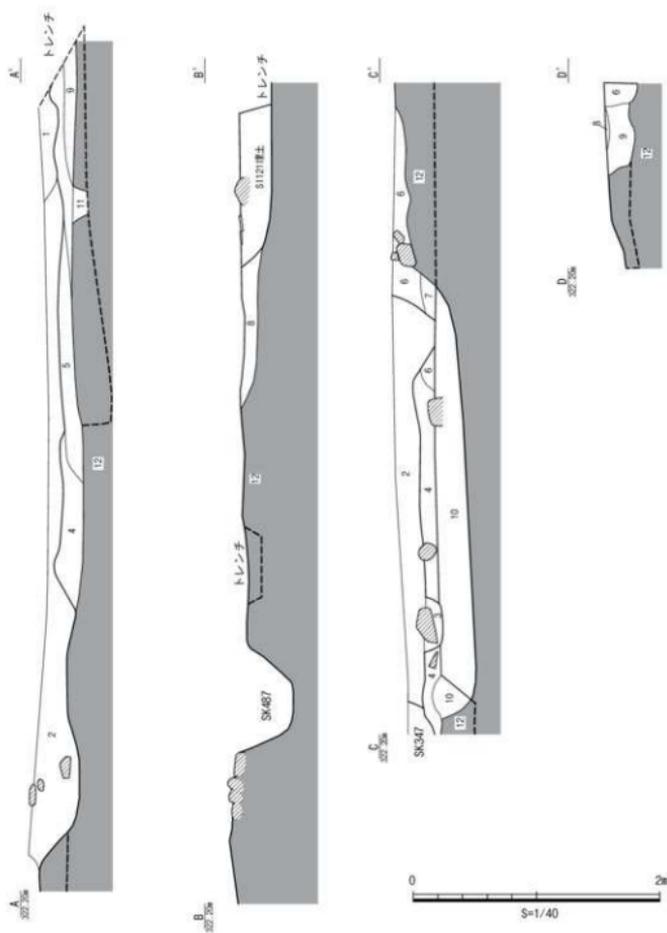
第39図 壁穴建物跡 SB192 遺構図



第40図 竪穴建物跡SB192遺物出土状況図

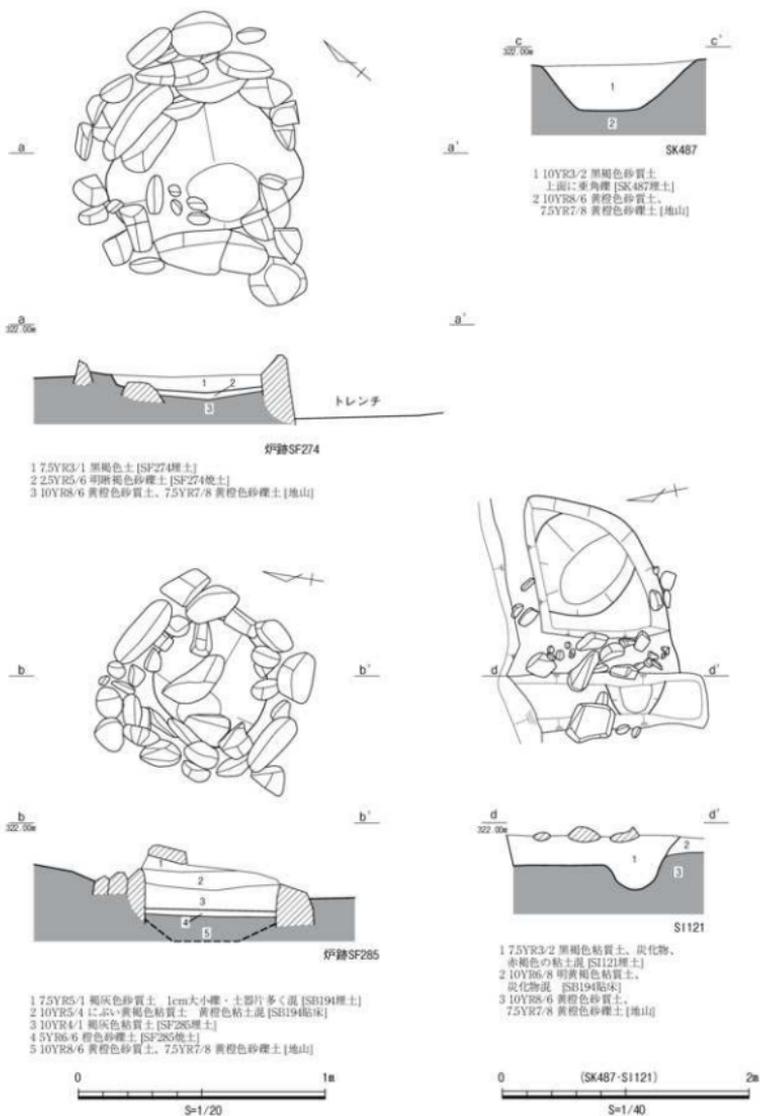


第41図 竪穴建物跡SB194遺構図(1)

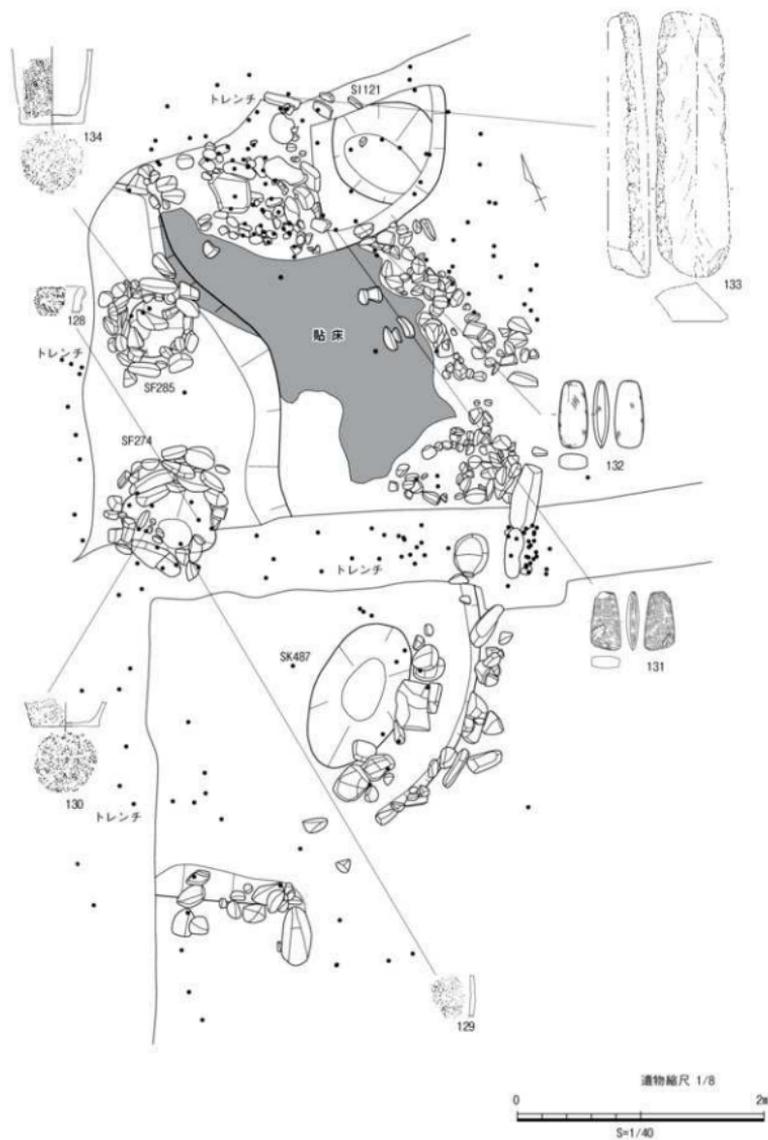


- 1 10YR3/1 黒褐色砂質土 炭化物混 [SB194埋土]  
 2 7.5YR5/1 黒灰色砂質土 1cm大小礫・土器片多く混 [SB194埋土2]  
 3 10YR3/2 黒褐色粘質土 10cm大の河石多く混 [SF27埋土]  
 4 10YR5/1 黒灰色粘質土 地山アワケ混 [SB194埋土1]  
 5 7.5YR6/4 にふい・褐色粘土 5cm大の小礫・土器片混 [SB194埋土2]  
 6 7.5YR6/6 褐色砂質土 1cm大の小礫・多く混 [SB194埋片部配石散付土1]  
 7 10YR6/4 にふい・黄褐色砂質土 炭化物混 [SB194埋片部配石散付土2]  
 8 10YR5/4 にふい・黄褐色粘質土 黄褐色粘土混 [SB194埋土]  
 9 10YR3/1 黒褐色粘質土 炭化物・黄褐色粘土粘混 [SB194床造成土1]  
 10 10YR5/2 灰黄褐色砂質土 5cm大の礫・土器片混 [SB194床造成土2]  
 11 10YR4/3 にふい・黄褐色砂質土 1cm大の小礫混 [SB194床造成土3]  
 12 7.5YR7/8 黄褐色砂質土 10YR6/6 黄褐色砂混 [地山]

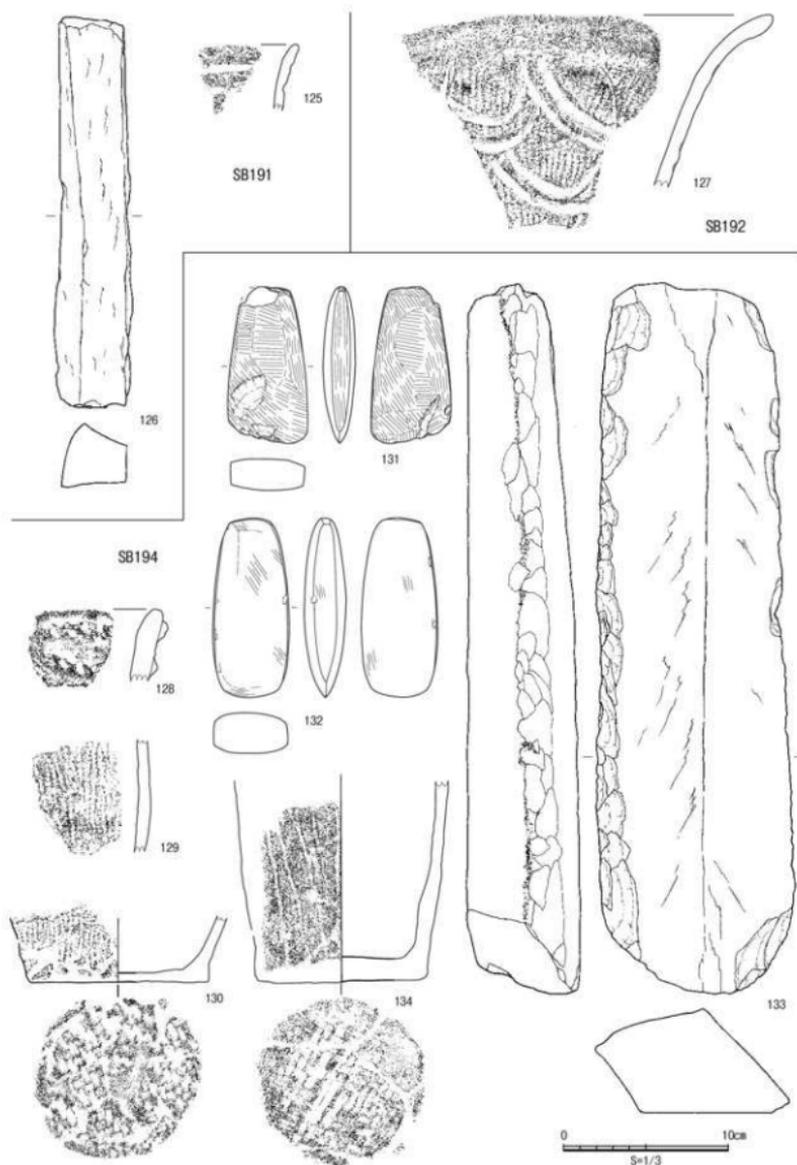
第42図 竪穴建物跡 SB194 遺構図 (2)



第43図 竪穴建物跡 SB194 関連遺構図



第44図 竪穴建物跡 SB194 遺物出土状況図



第45図 竪穴建物跡 SB191・SB192・SB194 出土遺物実測図

第13表 竪穴建物跡SB191に伴う遺構一覧表

遺構NO	方向 西 東	方位 南 北	検出 面	埋 没 状 況	断 面 形 状	平 面 形 状	底 面 形 状	法量 (m)			埋 土	備 考 (切り合い、出土遺物等)	
								上端		深さ			
								長径	短径				
SF711	C	17	O	地山	b	-	方形	0.86	0.59	0.13	にぶい褐色土	75YR5/3	1cm大の小礫混。SB191に伴う
P258	C	17	O	地山	a	ア	a	0.55	0.54	0.38	黒色粘質シルト	10YR2/1	SB191に伴う
P232	C	17	O	地山	a	ア	a	0.63	0.50	0.55	黒褐色砂質土	10YR3/3	P223 < P232, SB191に伴う

第14表 竪穴建物跡SB192に伴う遺構一覧表

遺構NO	方向 西 東	方位 南 北	検出 面	埋 没 状 況	断 面 形 状	平 面 形 状	底 面 形 状	法量 (m)			埋 土	備 考 (切り合い、出土遺物等)	
								上端		深さ			
								長径	短径				
SF712	C	17	O	地山	b	すり鉢	方形	1.00	0.80	0.20	1. 灰褐色砂質土 2. 黒色土 3. 褐色砂礫土	75YR4/2 75YR2/1 5YR6/6	SB192に伴う
F467	C	17	O	地山	a	ア	a	0.22	0.19	0.09	褐色土	75YR4/4	SB192に伴う
P635	C	17	O	地山	a	イ	a	0.33	0.32	0.30	褐灰色砂質土	10YR4/1	SB192に伴う
P636	C	17	O	地山	a	イ	a	0.46	0.33	0.32	褐灰色砂質土	10YR4/1	SB192に伴う
P637	C	17	O	地山	a	イ	a	0.53	0.38	0.34	褐灰色砂質土	10YR4/1	SB192に伴う
P643	C	17	O	地山	a	ア	e	0.50	0.38	0.10	褐灰色砂質土	10YR4/1	SB192に伴う

第15表 竪穴建物跡SB194に伴う遺構一覧表

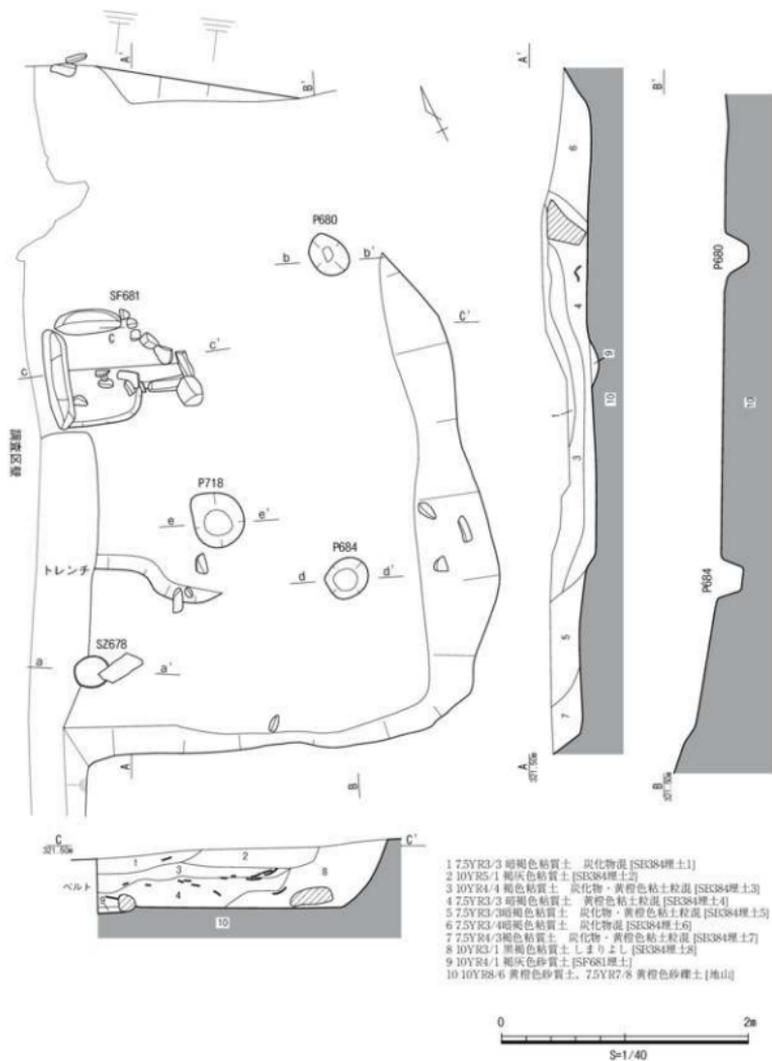
遺構NO	方向 西 東	方位 南 北	検出 面	埋 没 状 況	断 面 形 状	平 面 形 状	底 面 形 状	法量 (m)			埋 土	備 考 (切り合い、出土遺物等)	
								上端		深さ			
								長径	短径				
SF274	C	16	S	地山	a	-	円形	1.08	0.90	0.23	1. 黒褐色土 2. 明褐色砂礫土	75YR3/1 25YR5/6	SB194に伴う
SF285	C	16	S	地山	-	-	円形	0.94	0.84	0.25	別因あり	-	SB194に伴わない
SL121	C	16	S	地山	a	-	-	2.62	1.30	-	-	-	SB194に伴う
SK486	C	16	S	地山	a	IV	e	0.49	0.20	0.25	暗褐色土	10YR3/1	しまりなし、SB194に伴う
SK487	C	16	S	地山	b	IV	a	1.28	0.71	0.41	1. 黒褐色砂質土 2. 明褐色砂質土	10YR3/2 10YR3/4	上面に準角礫SB194に伴う 1層より礫粒砂少ない

## (10) 竪穴建物跡SB384

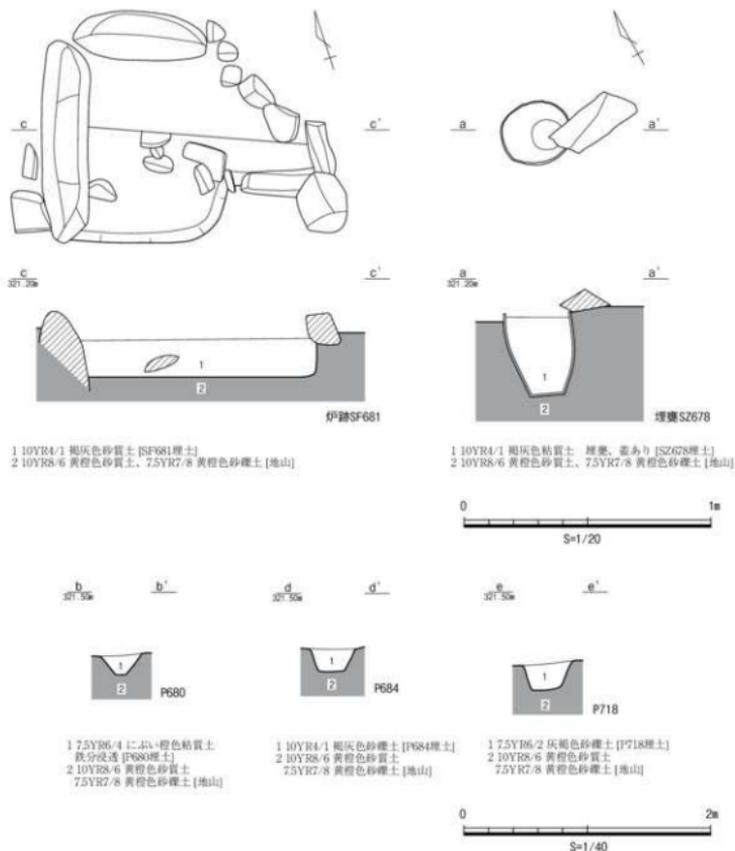
遺構 (第46・47図、第16表) グリッドC-15Tにおいて、第IV層地山面上で確認した。1/2が残存している。南東隅で上下端を確認し、形状は隅丸方形を呈する。残存部で長径5.04m、短径3.11m、深さ0.42mを測る。重複遺構はない。炉跡SF681は石組みの複式炉であるが、主炉1辺の石材は失われている。明確な焼土を確認できなかった。埋甕SZ678は正位で据えられており、塩屋石による蓋石を確認した。柱穴は3基P680・P684・P718を確認した。貼床は確認できなかった。

遺物 (第48～52図) 接合前資料で土器433点、石器・石製品23点が出土した。埋甕SZ678として無文の土器(135)、その蓋石(136)を確認した。炉跡SF681からは中期後葉から末葉の14群5類が1点(137)、楔形石器が1点(138)出土した。床面直上で、土器は中期後葉(串田新Ⅱ式)9群の2類が1点(140)、5類が1点(141)が出土し、同形式の鈎付土器22群1類が2点(155・156)出土した。155は内面に、156は内外面に赤彩を施す。それら中期後葉(串田新Ⅱ式)の遺物と共に、14群の3類が2点(142・143)、4類が7点(144～150)、5類が3点(151～153)出土した。153は補修用の穿孔がある。石器・石製品は、打製石斧が1点(158)、磨石が1点(159)、剥片が1点(160)出土した。埋土から、石器・石製品は、磨製石斧が1点(161)、横刃形石器が1点(162)、剥片が2点(163・164)出土している。163は使用痕剥片、164は両極剥片である。

時期 炉跡SF681及び床直面上、埋土の出土遺物は中期後葉(串田新Ⅱ式)の9群及び22群1類が主体をなすため、縄文時代中期後葉(串田新Ⅱ式期)の竪穴住居跡と考えられる。



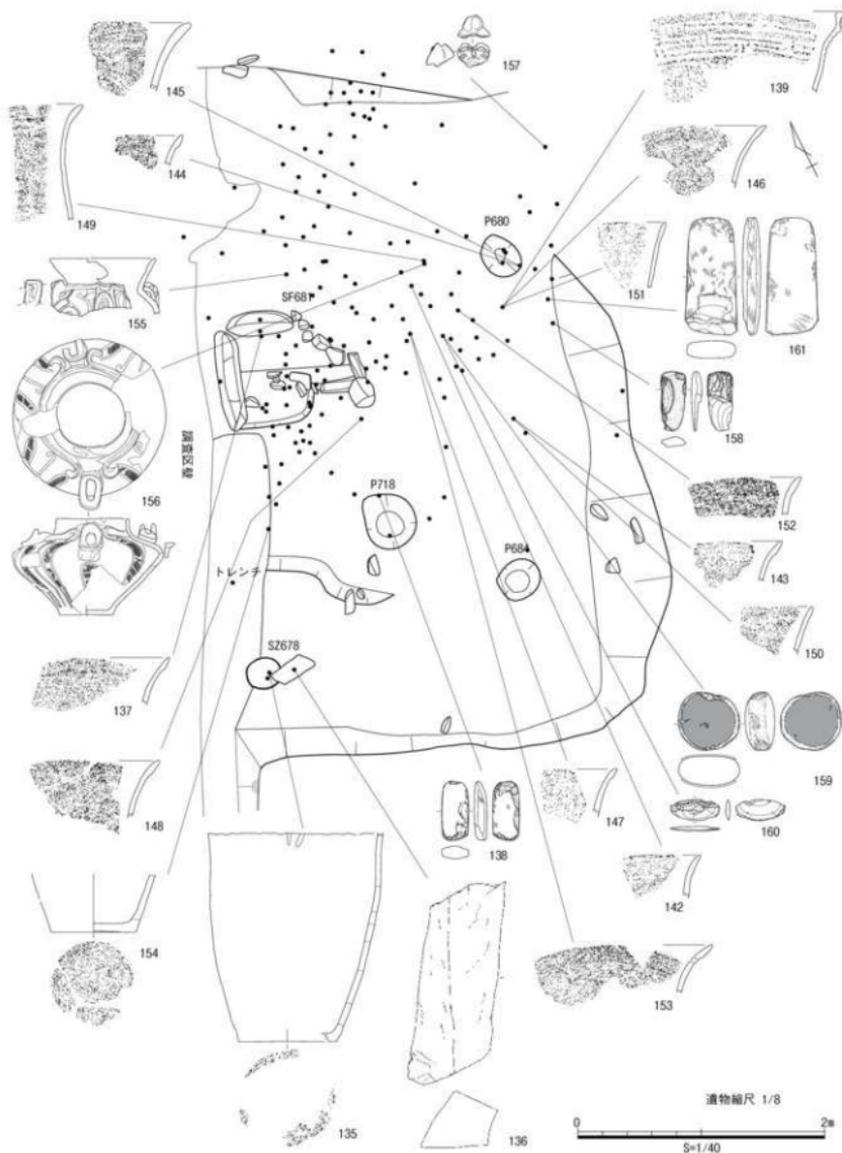
第 46 図 竪穴建物跡 SB384 遺構図



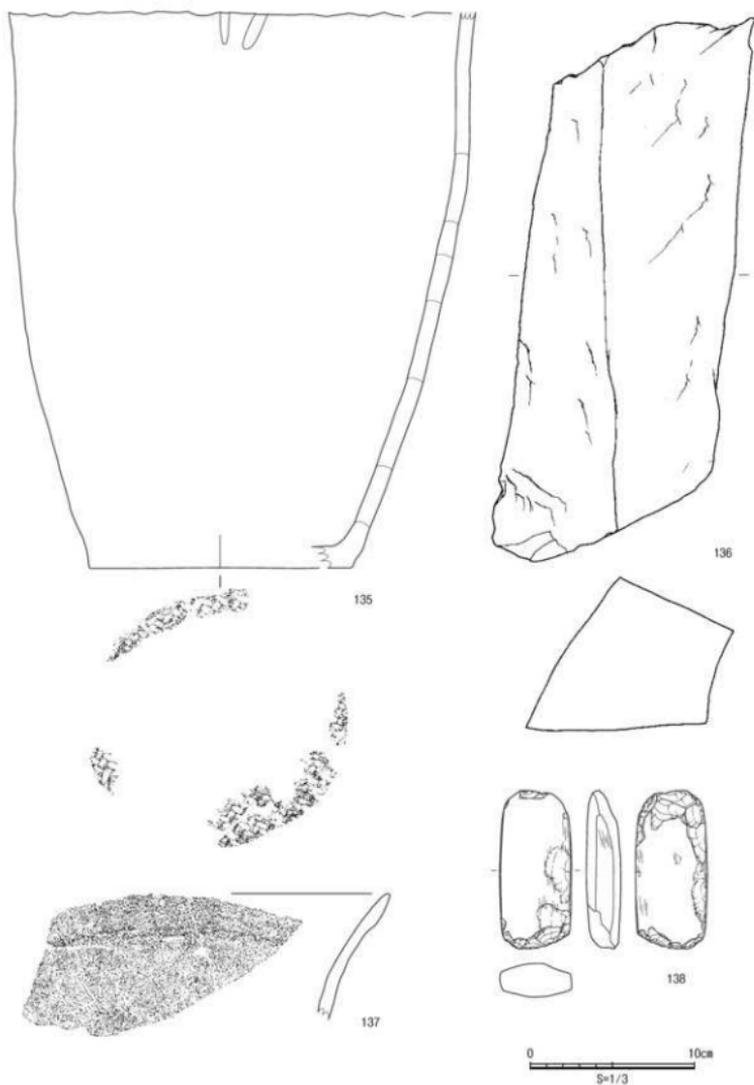
第47図 竪穴建物跡SB384関連遺構図

第16表 竪穴建物跡SB384に伴う遺構一覧表

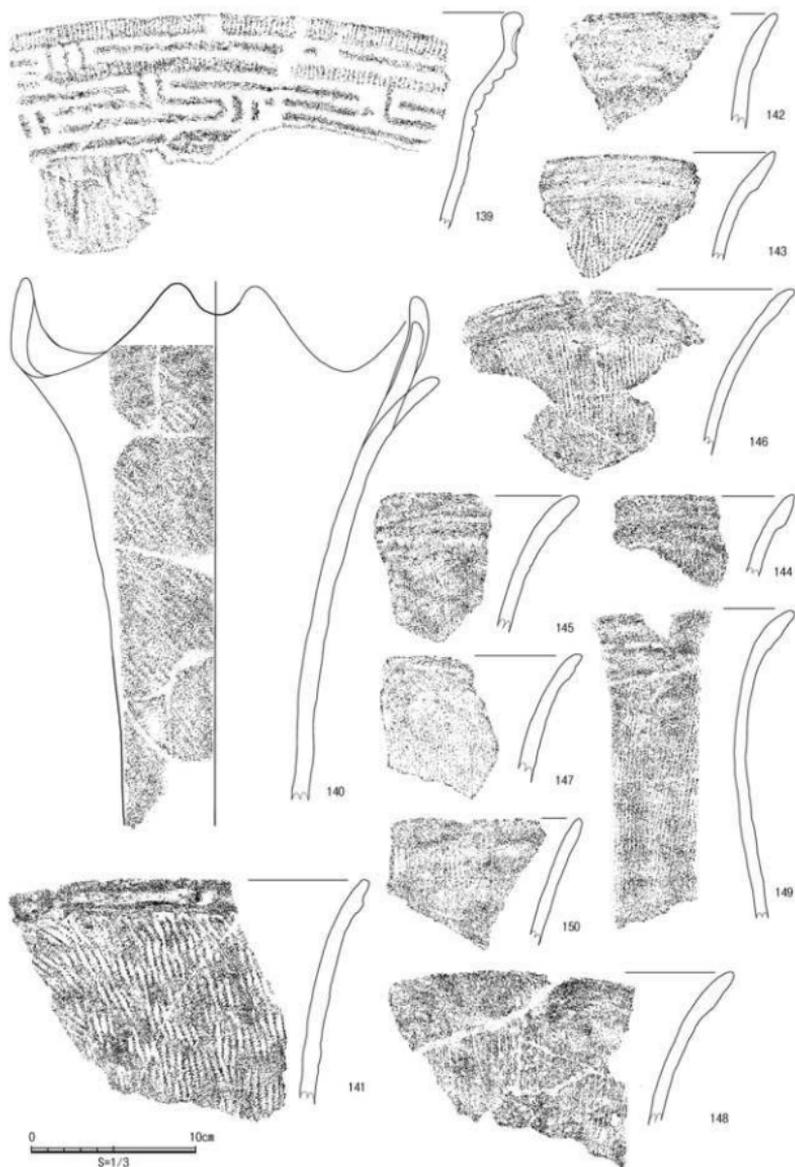
遺構NO	大グリッド	小グリッド		検出面	埋積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)		
		東西	南北						上端		長さ			短径	深さ
									長径	短径					
SF681	C	14	T	地山	a	-	複式砂 <sup>1</sup>	-	0.18	0.96	0.15	褐灰色砂質土	10YR4/1	SB384に伴う	
SZ678	E	14	A	地山	a	-	-	-	-	-	0.34	褐灰色粘質土	10YR4/1	埋塞、蓋あり、SB384に伴う	
P680	C	15	T	地山	a	ア	a	a	0.36	0.29	0.12	におい-橙色粘質土	7.5YR6/4	鉄分浸透、SB384に伴う	
P684	E	14	A	地山	a	ア	a	a	0.30	0.20	0.20	褐灰色砂礫土	10YR4/1	SB384に伴う	
P718	E	14	A	地山	a	ア	c	a	0.46	0.40	0.24	灰褐色砂礫土	7.5YR6/2	SB384に伴う	



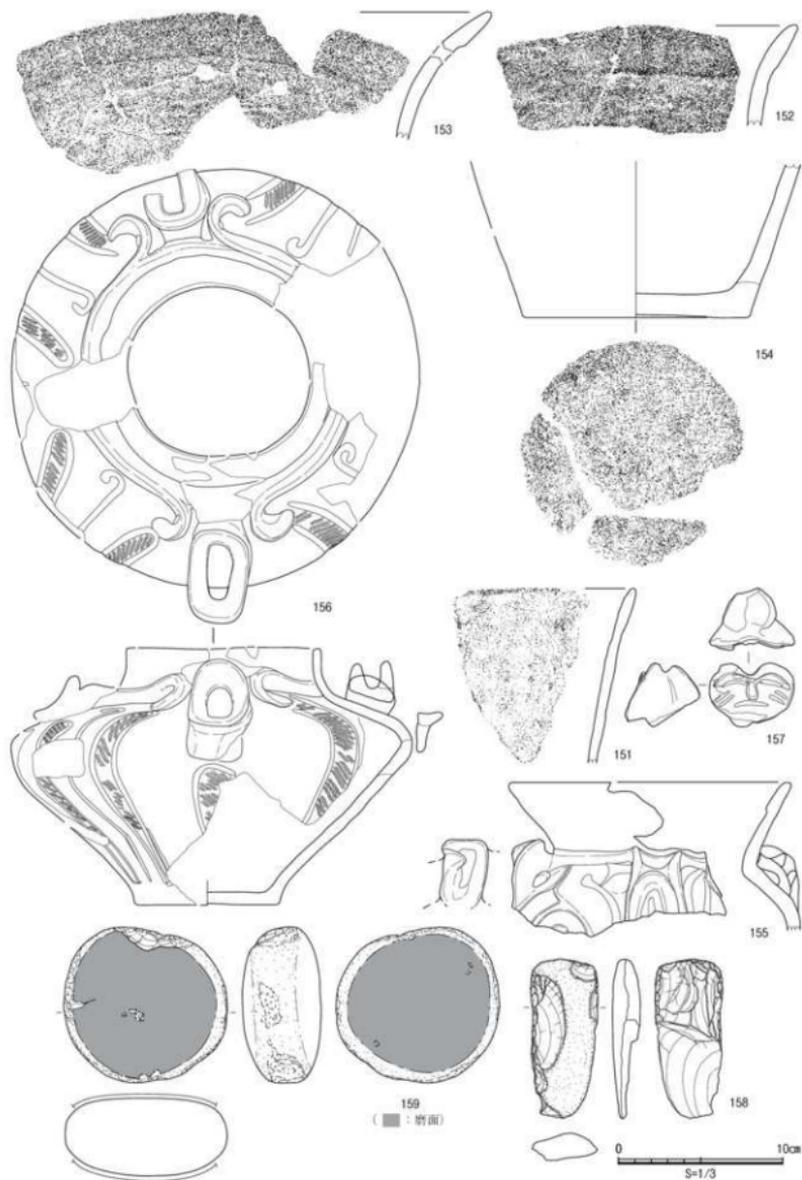
第48図 縦穴建物跡SB384遺物出土状況図



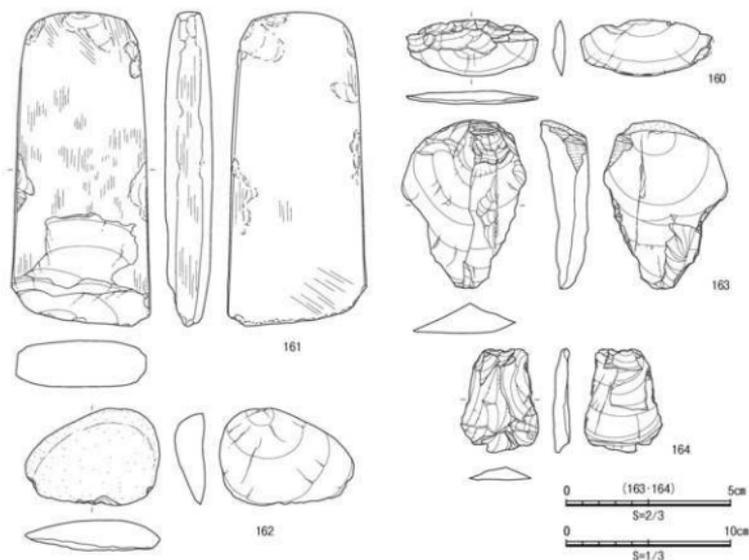
第49図 竪穴建物跡 SB384 出土遺物実測図(1)



第50図 竪穴建物跡SB384出土遺物実測図(2)



第51図 竪穴建物跡 SB384 出土遺物実測図 (3)

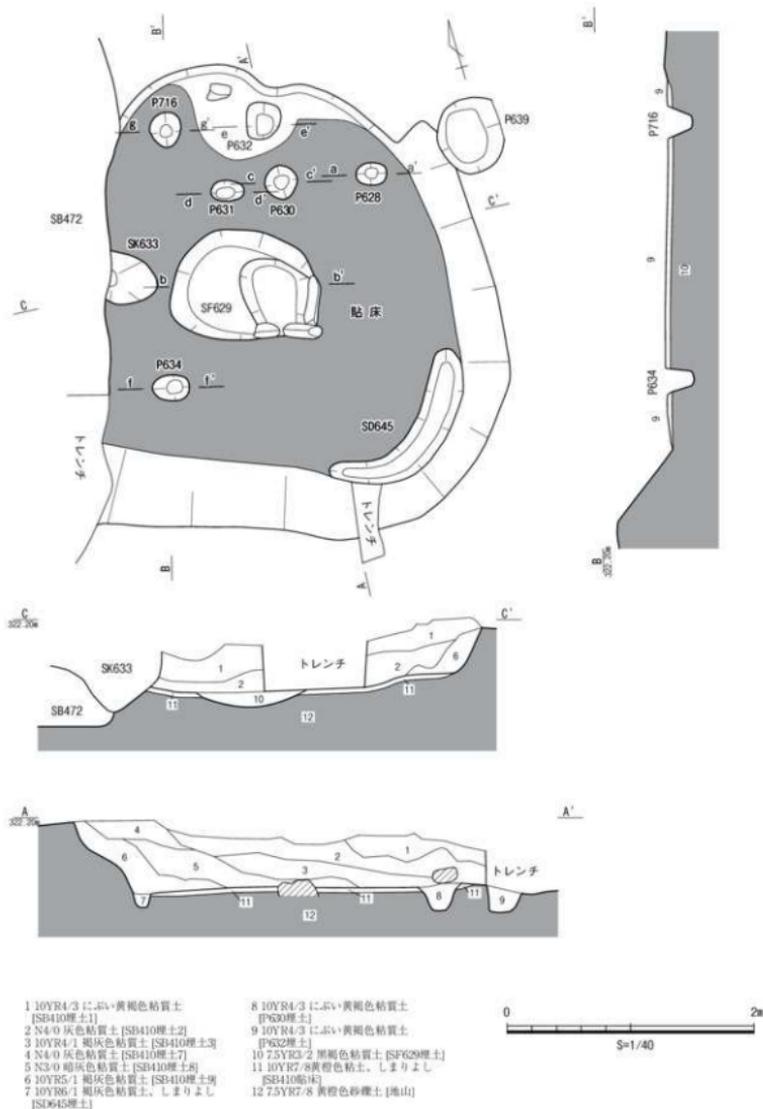


第52図 竪穴建物跡SB384出土遺物実測図(4)

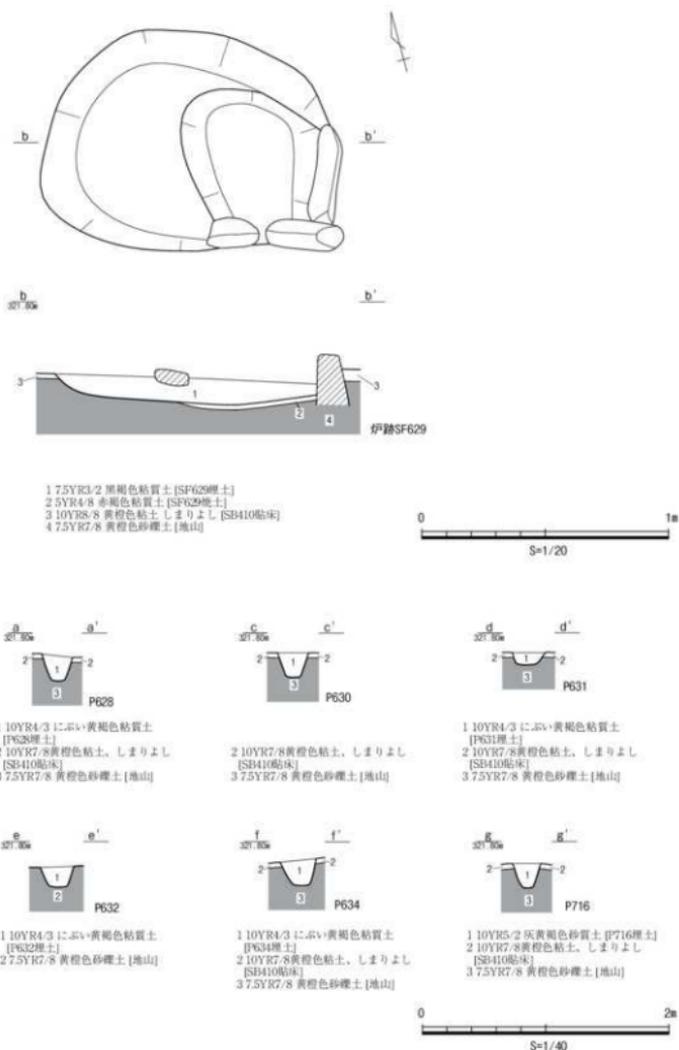
## (12) 竪穴建物跡SB410

**遺構** (第53・54図、第17表) グリッドE-16Aにおいて、第IV層地山面上で確認した。全景を確認でき、形状は隅丸方形を呈する。長径3.44m、短径2.87m、深さ0.52mを測る。切り合いは、竪穴建物跡SB472を切る。炉跡SF629は石組炉である。2辺しか石材は残っていなかった。掘り込みの大きさから、複式炉であった可能性がある。焼土を東側半分を確認した。埋土は確認できなかった。柱穴は6基P628・P630・P631・P632・P634・P716を確認した。貼床はほぼ全面で確認した。南東隅において、側壁溝SD645を確認した。埋土の残りが良く、上層・中層・下層と段階的に掘削を行った。

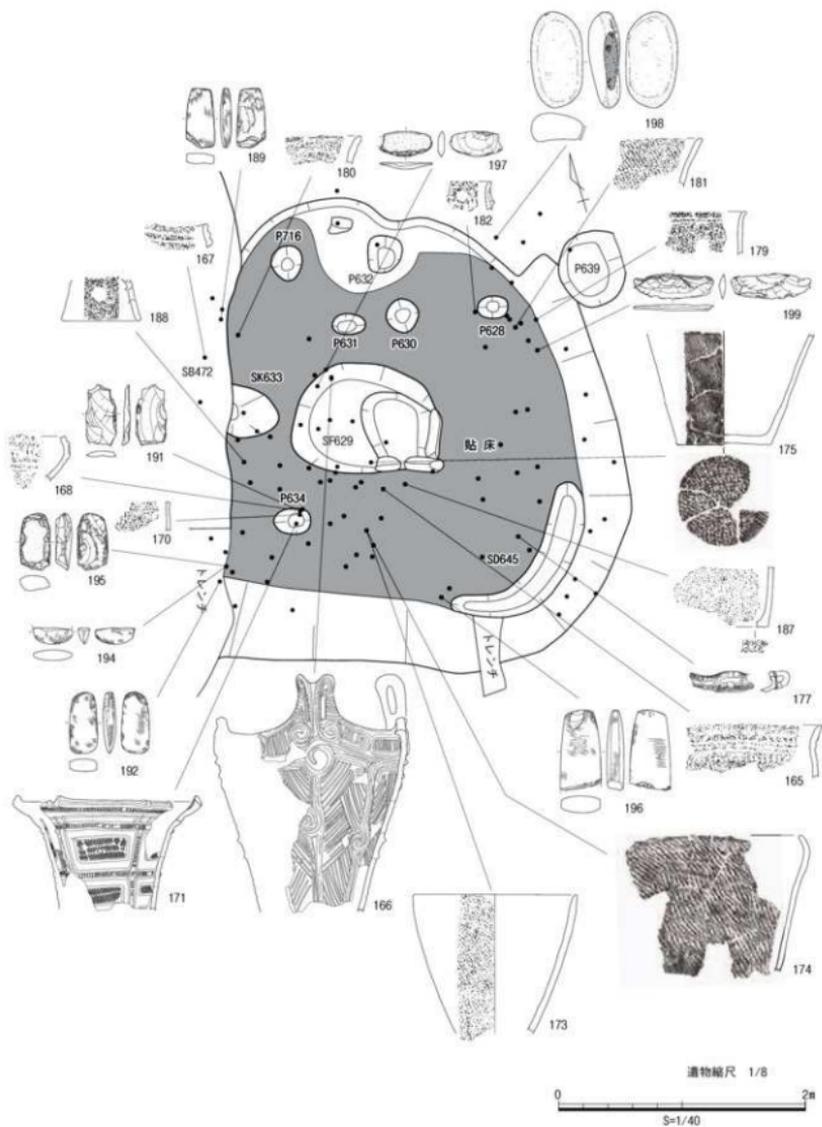
**遺物** (第55～58図) 接合前資料で土器799点、石器・石製品88点が出土した。土器は、床面直上から中期中葉(在地系)6群2類が1点(165)、中期後葉(唐草文系第3段階)11群が1点(166)出土した。埋土から、土器は下層において中期中葉(古串田新式)の3群2類が1点(167)、3類が1点(168)と浅鉢20群1類(176)、中期中葉(在地系)6群1類が1点(169)・3類が1点(170)、中期後葉(串田新I式)の7群1類が1点(171)、中期後葉から末葉の14群3類が1点(172)など出土した。中層において、中期中葉(古串田新式)の3群2類が1点(177)・3類が1点(178)、中期中葉(在地系)の6群3類が1点(179)、中期後葉から末葉の14群3類が1点(180)・4類が1点(181)など出土した。上層においては、中期後葉(串田新I式)の7群1類が1点(183)、中期後葉(串田新II式)9群5類が1点(184)、中期後葉(唐草文系第3段階)11群が1点(185)、中期末葉(岩舩野式)の16群2類が1点(186)など出土した。



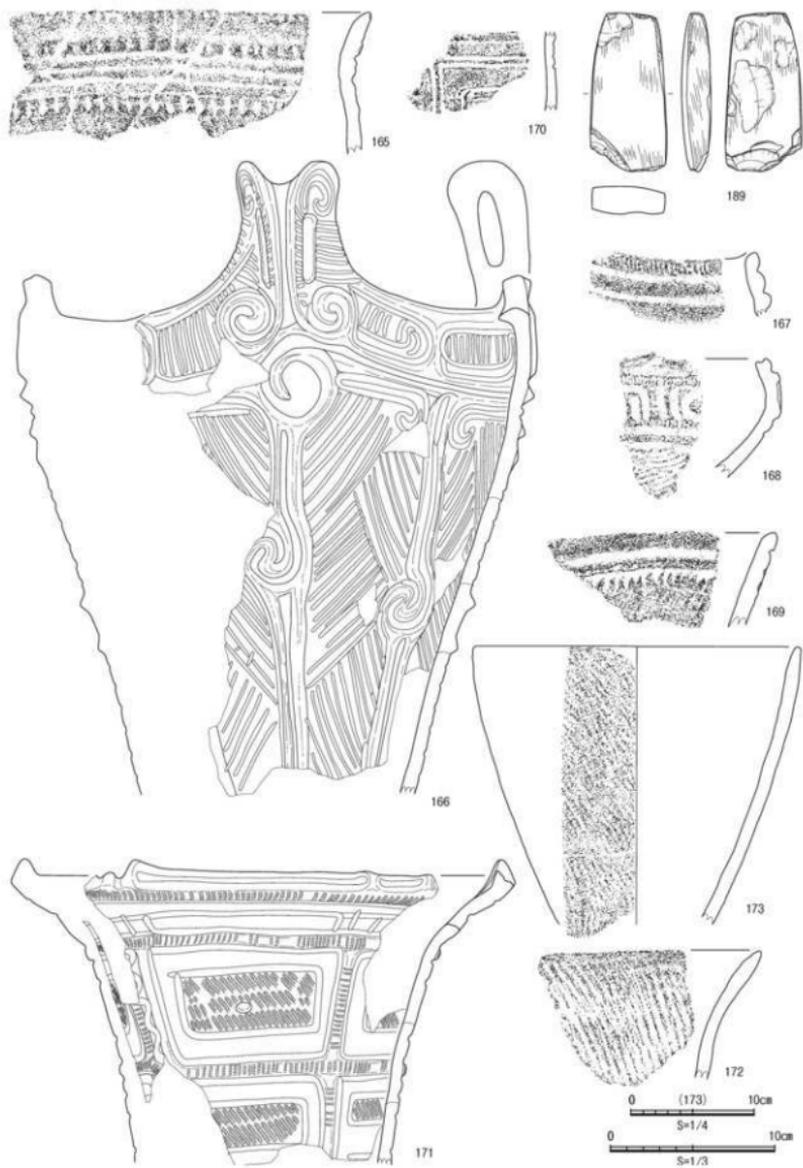
第53図 竪穴建物跡 SB410 遺構図



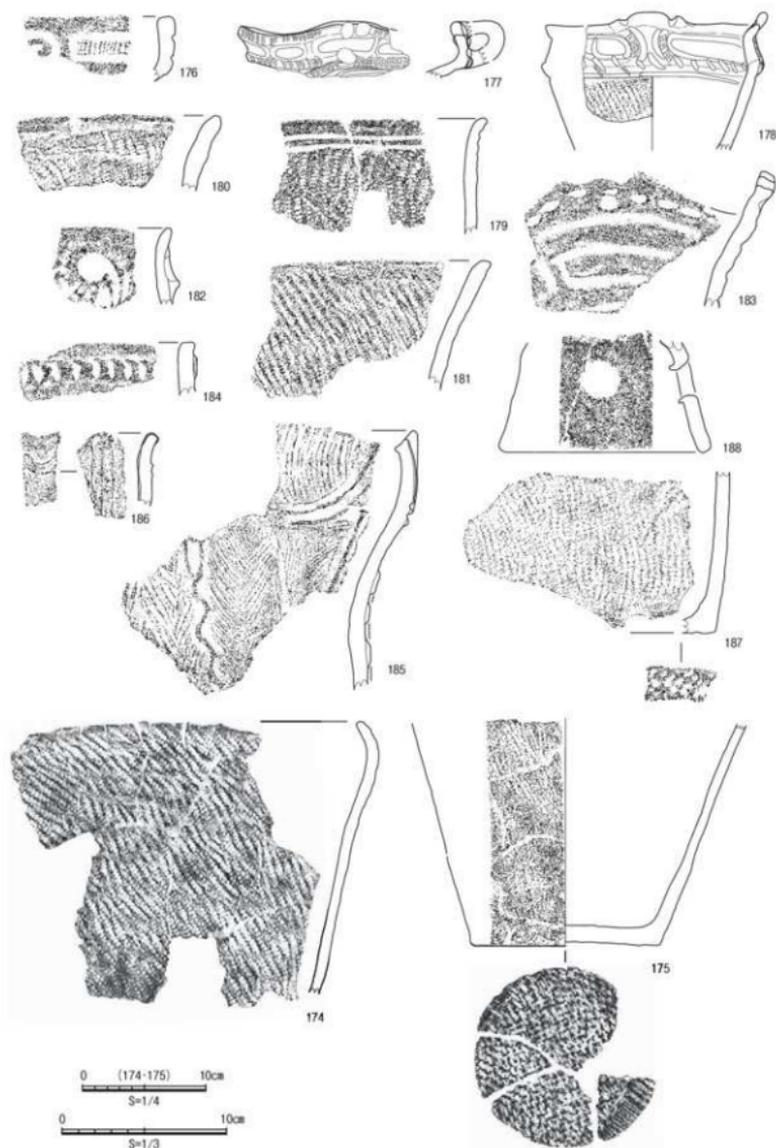
第54図 竪穴建物跡SB410関連遺構図



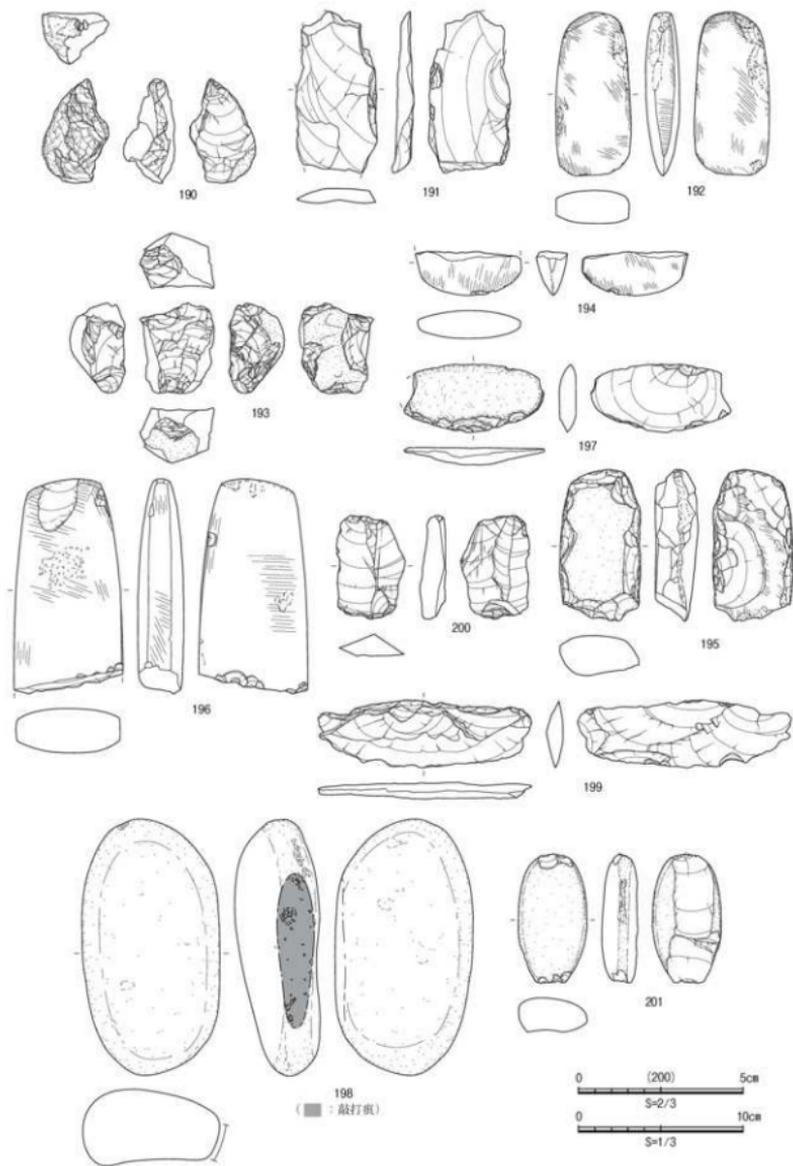
第55図 竪穴建物跡 SB410 遺物出土状況図



第56図 竪穴建物跡SB410出土遺物実測図(1)



第57図 竪穴建物跡SB410出土遺物実測図(2)



第58図 竪穴建物跡SB410出土遺物実測図(3)

第17表 竪穴建物跡SB410に伴う遺構一覧表

遺構NO	グリッド 東西 南北	検出 位置	遺構 状況	断面 形状	平面 形状	断面 形状	法量 (m)			埋 土	備 考 (切り合い、出土遺物等)	
							上端		深さ			
							長径	短径				
SF629	E 16 A	地山	a	-	楕円形か?	-	0.66	0.64	0.11	1. 黒褐色粘質土 2. 赤褐色粘質土	SB410に伴う	
SD645	E 16 A	地山	a	I	-	-	1.45	0.26	0.20	灰黄褐色砂質土	SB410に伴う御座溝	
P628	E 16 A	地山	a	A	a	a	0.25	0.19	0.19	褐色粘質土	SB410に伴う	
P630	E 16 A	地山	a	A	a	a	0.28	0.26	0.30	褐色粘質土	10YR6/1 2cm 大の小礫混	SB410に伴う
P631	E 16 A	地山	a	A	a	a	0.26	0.15	0.10	褐色粘質土	10YR6/1 2cm 大の小礫混	SB410に伴う
P632	E 16 A	地山	a	A	a	b	0.30	0.28	0.15	褐色粘質土	10YR4/1	SB410に伴う
P634	E 16 A	地山	a	A	a	a	0.30	0.20	0.18	褐色粘質土	10YR6/1 2cm 大の小礫混	SB410に伴う
P716	E 16 A	地山	a	A	a	a	0.28	0.23	0.18	灰黄褐色砂質土	10YR5/2	SB410に伴う

石器・石製品は、床面直上から磨製石斧が1点(189)出土した。埋土下層においては、石核が1点(190)、打製石斧が1点(191)、磨製石斧が1点(192)など出土した。打製石斧191は刃部が未成形である。中層においては、石核が1点(193)、磨製石斧が3点(194～196)、横刃形石器が1点(197)、特殊磨石が1点(198)、剥片が1点(199)など出土し、上層においては、楔形石器が1点(200)、礫石錘が1点(201)など出土した。

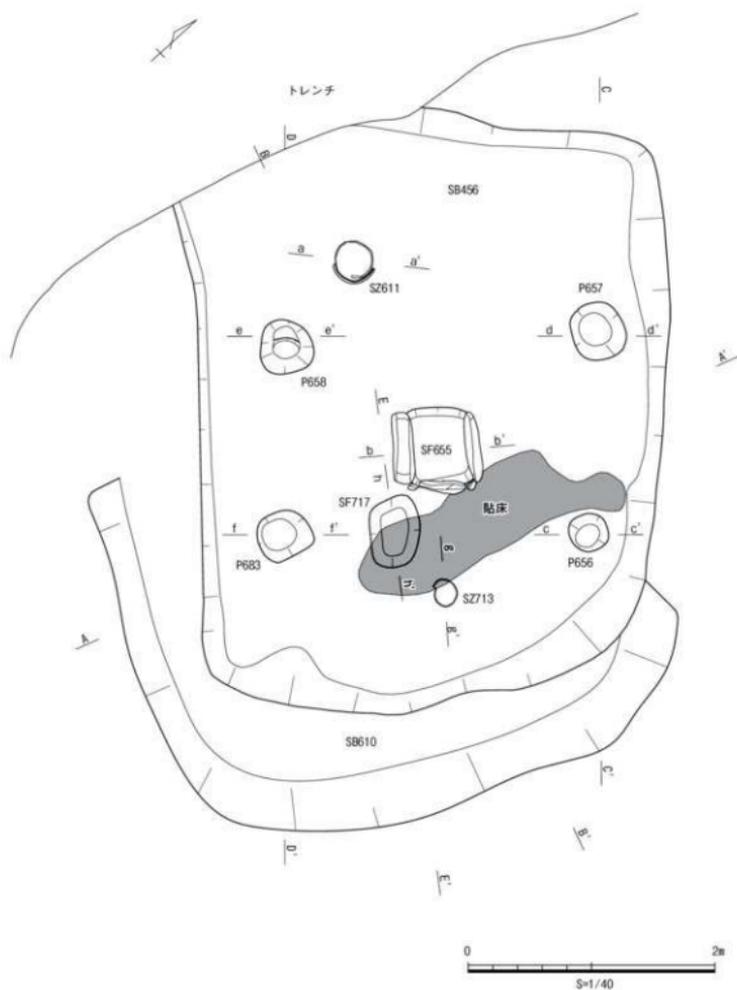
時期 床面直上及び埋土から、中期中葉の3群・6群と中期後葉の7群・14群が同じように出土するため、縄文時代中期中葉末から中期後葉初頭(古串田新～串田新I式期)の竪穴建物跡と考えられる。

#### (13) 竪穴建物跡SB456

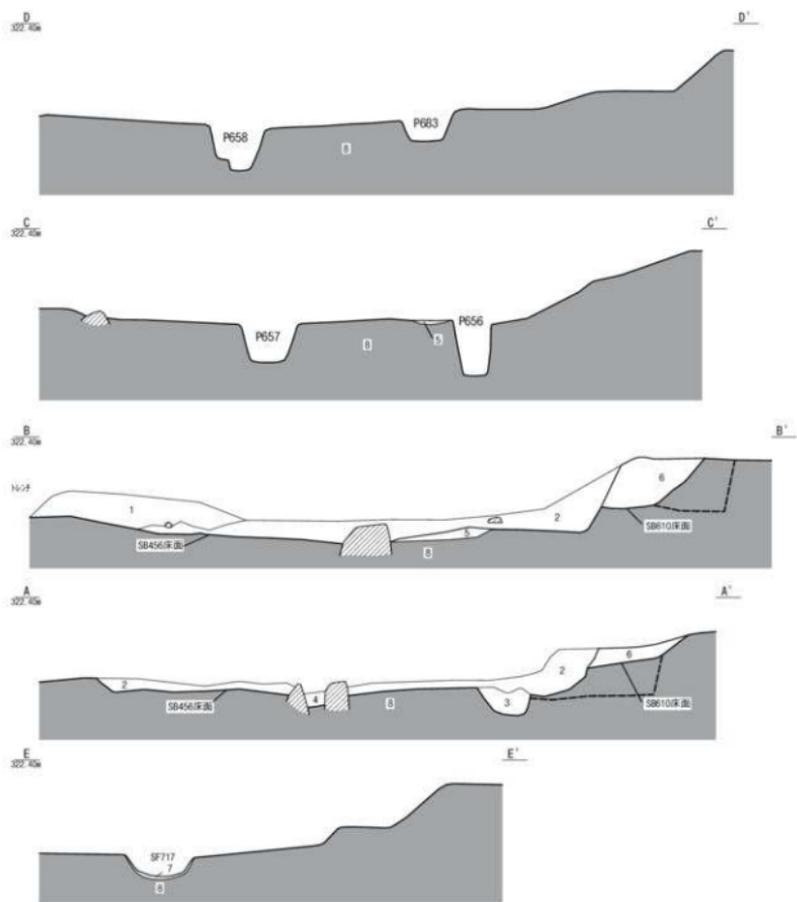
遺構 (第59～61図、第18表) グリッドE-14Cにおいて、第IV層地山面上で確認した。4/5が残存している。形状は隅丸方形を呈する。長径4.47m、短径3.43m、深さ0.49mを測る。切り合いは、竪穴建物跡SB610を切る。炉跡SF655は方形石組炉であり、1辺の石材を失っている。埋壘SZ611は逆位で据えられていたが、断面で掘方を確認することができなかった。柱穴は4基P656・P657・P658・P683を確認した。貼床は炉跡SF655東側で一部確認した。北西隅上層では、遺物が廃棄された状態で多数出土した。埋土は残りが良く、上層と下層とに分けて段階的に掘削を行った。

遺物 (第62～66図) 接合前資料で土器955点、石器・石製品88点が出土した。埋壘SZ611として13群(202)を確認した。中期後葉の加曾利EⅢ式期と併行関係にある東海系取組式のものと考えられる。炉跡SF655からは、中期後葉から末葉の14群6類が1点(203)、台付鉢21群4類が1点(204)出土した。土器は床面直上から、中期中葉(古串田新式)の3群6類が1点(205)、中期後葉(串田新I式)の7群1類が1点(206)・2類が3点(207～209)及び浅鉢20群2類が1点(220)、中期後葉から末葉の14群1類が1点(210)・3類が2点(211・212)・4類が1点(213)・5類が3点(214～216)など出土した。埋土下層から、中期後葉(串田新II式)9群5類が1点(221)、中期後葉から末葉の14群2類が4点(222～225)・3類が1点(226)など出土し、上層から中期後葉(串田新I式)の7群1類が1点(230)・2類が1点(231)、中期後葉(串田新II式)の9群2類が1点(232)・5類が1点(233)、中期後葉から末葉の14群2類が1点(234)・3類が3点(235～237)・4類が1点(238)、後期初頭(高波式)の19群が1点(239)など出土した。石器・石製品は、床面直上から、石鏃が1点(240)、礫石錘が1点(241)、打製石斧が2点(242・243)、磨製石斧が1点(244)、石皿が1点(245)、剥片が1点(246)出土した。打製石斧242・243は共に刃部が成形されておらず未製品である。剥片246は両極剥片である。埋土下層においては、打製石斧が2点(247・248)、磨製石斧が2点(249・250)、敲石が1点(251)、剥片が1点(252)など出土し、上層においては、打製石斧が1点(253)、磨製石斧が1点(254)など出土した。

時期 埋室 202 は中期後葉 13 群と考えられ、炉跡からは 14 群 6 類 203 が出土した。埋土の出土遺物も 7 群及び 14 群が主体となる。これらのことから縄文時代中期後葉（串田新 I 式期）の竪穴建物跡と考えられる。



第 59 図 竪穴建物跡 SB456・SB610 遺構図 (1)

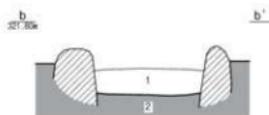


- 1 10YR3/2 黒褐色粘質土 高物・石部多数混 [SB456埋土1]  
 2 10YR5/1 褐色粘質土 炭化物少し混 [SB456埋土2]  
 3 7.5YR6/3 に近い褐色粘質土 [P683埋土]  
 4 7.5YR5/1 褐色粘質土 鉄分浸透 [SF655埋土 (SD456#)]  
 5 10YR7/6 明黄褐色粘土 10YR6/2 灰黄褐色粘質土少し混 しまりよし [SB456陥床]  
 6 10YR5/1 褐色粘質土 鉄分浸透 [SB610埋土]  
 7 7.5YR7/4 に近い褐色粘土 しまりよし [SF717埋土]  
 8 7.5YR7/8 黄褐色砂礫土 [地山]



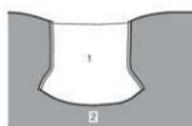
第60図 竪穴建物跡 SB456・SB610 遺構図 (2)

竪穴建物跡SB456関連遺構



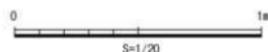
炉跡SF655

- 1 75YR5/1 褐色粘質土 鉄分浸透 [SF655埋土]  
2 10YR8/6 黄橙色砂質土、75YR7/8 黄橙色砂礫土 [地山]



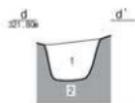
埋溝SZ611

- 1 75YR4/1 褐色色砂質土 [SZ611埋土]  
2 10YR8/6 黄橙色砂質土、75YR7/8 黄橙色砂礫土 [地山]



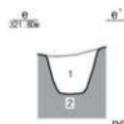
P656

- 1 75YR6/3 に灰・褐色粘質土 [P656埋土]  
2 10YR8/6 黄橙色砂質土、75YR7/8 黄橙色砂礫土 [地山]



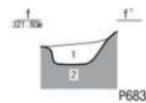
P657

- 1 75YR6/3 に灰・褐色粘質土 [P657埋土]  
2 10YR8/6 黄橙色砂質土、75YR7/8 黄橙色砂礫土 [地山]



P658

- 1 75YR6/3 に灰・褐色粘質土 1cm大の小礫混 [P658埋土]  
2 10YR8/6 黄橙色砂質土、75YR7/8 黄橙色砂礫土 [地山]



P683

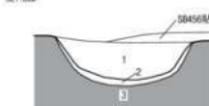
- 1 75YR6/3 に灰・褐色粘質土 1cm大の小礫混 [P683埋土]  
2 10YR8/6 黄橙色砂質土、75YR7/8 黄橙色砂礫土 [地山]



竪穴建物跡SB610関連遺構



h  
h'

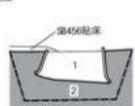


炉跡SF717

- 1 75YR4/1 褐色粘質土 [SF717埋土]  
2 75YR7/4 に灰・橙色粘土、しまりよし [SF717焼土]  
3 10YR8/6 黄橙色砂質土、75YR7/8 黄橙色砂礫土 [地山]

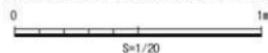


g  
g'

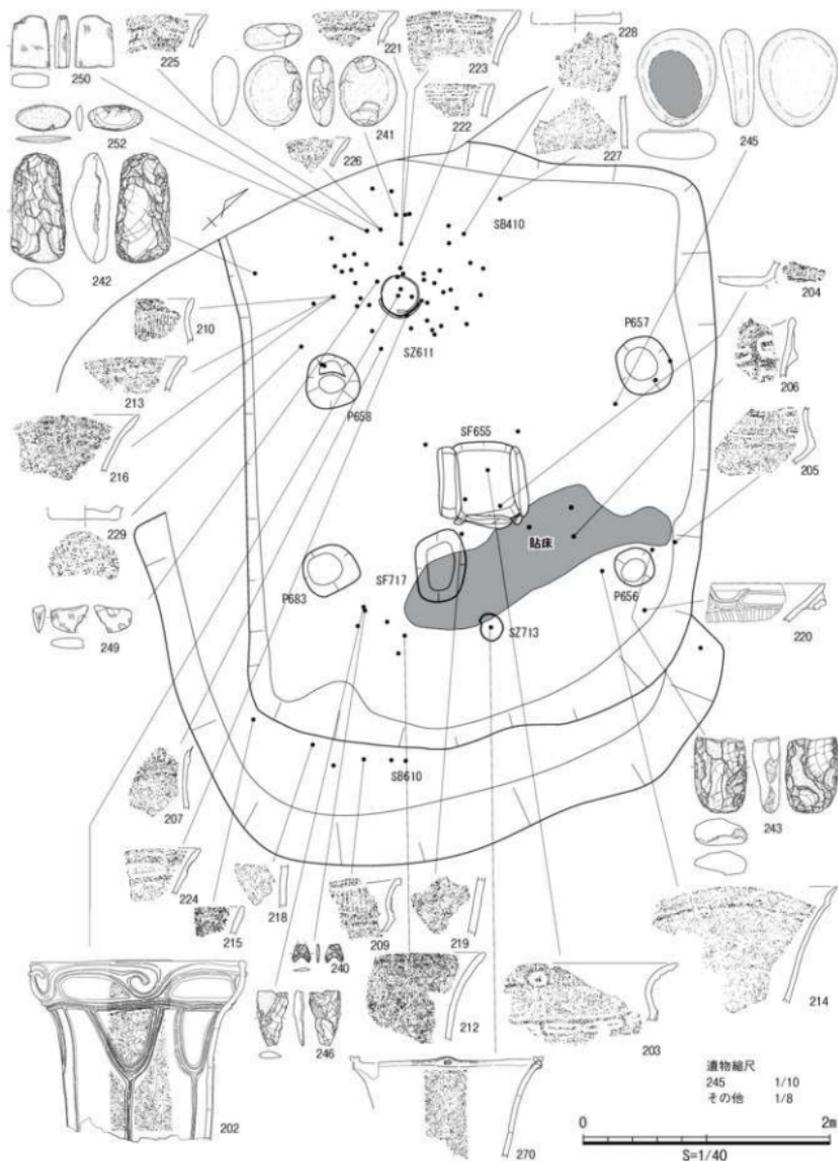


埋溝SZ713

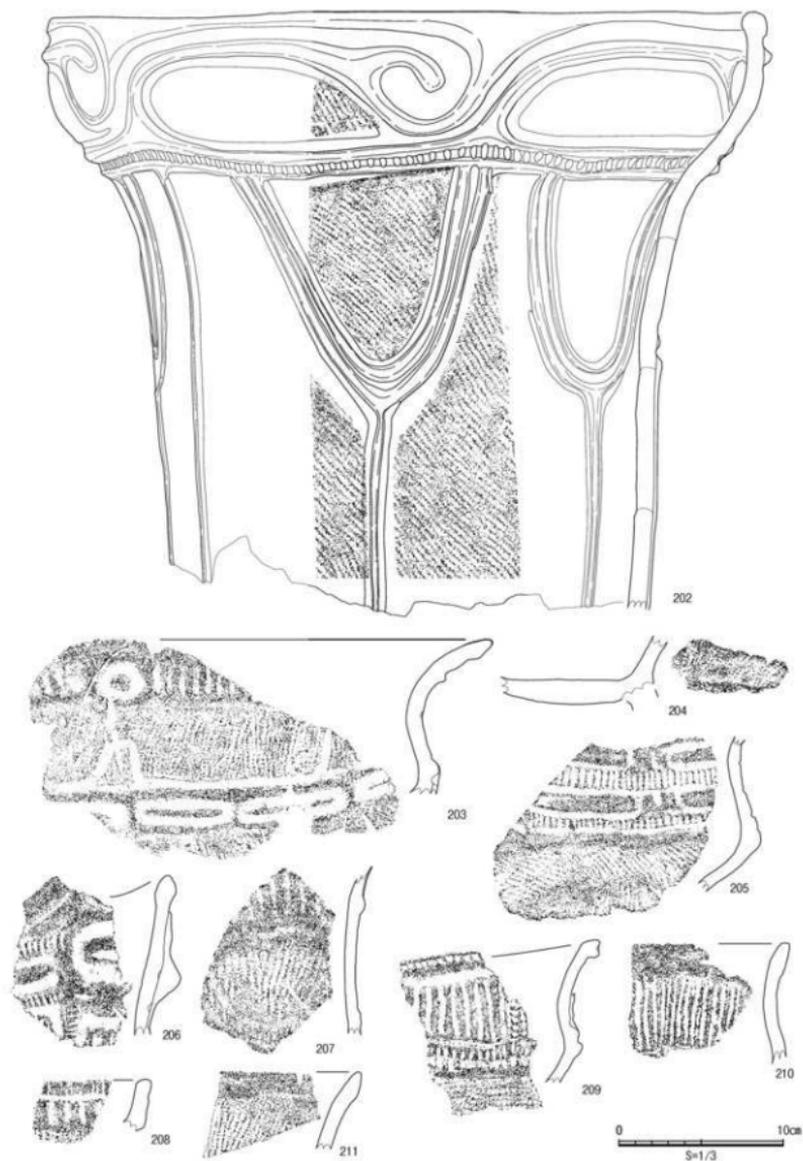
- 1 10YR4/1 褐色色砂質土 [SZ713埋土]  
2 10YR8/6 黄橙色砂質土、75YR7/8 黄橙色砂礫土 [地山]



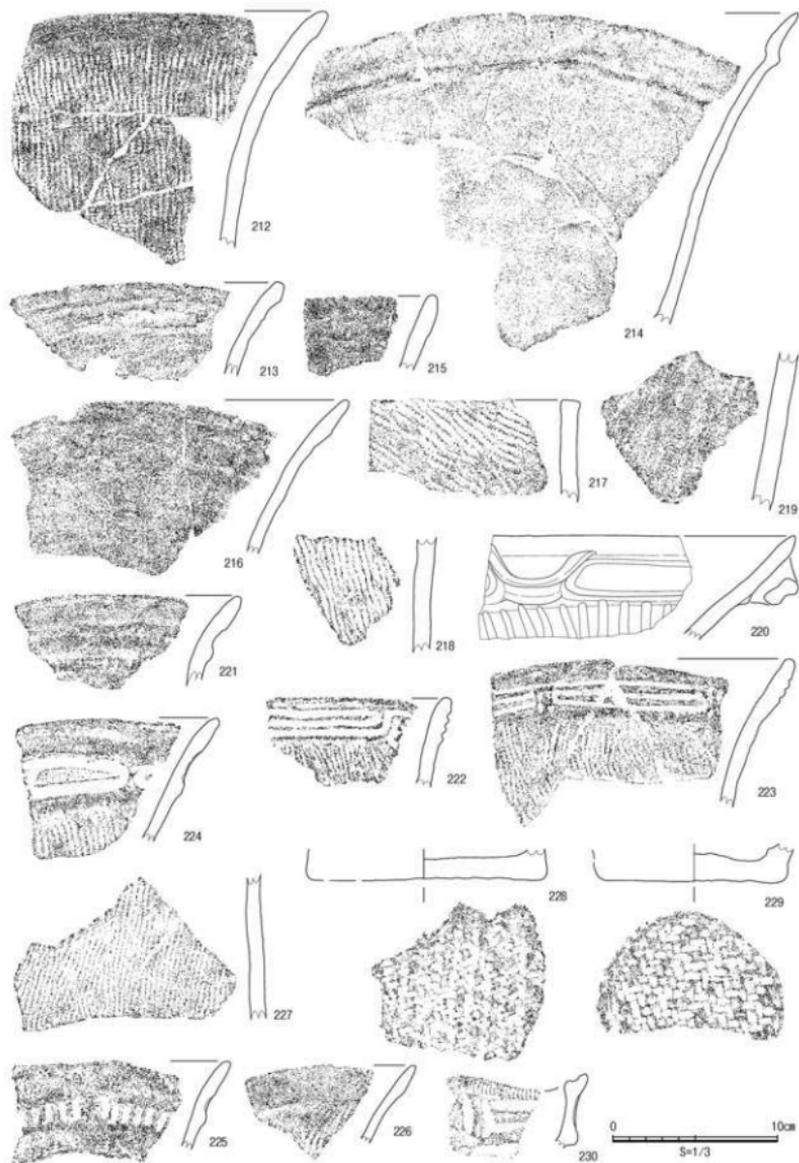
第61図 竪穴建物跡 SB456・SB610 関連遺構図



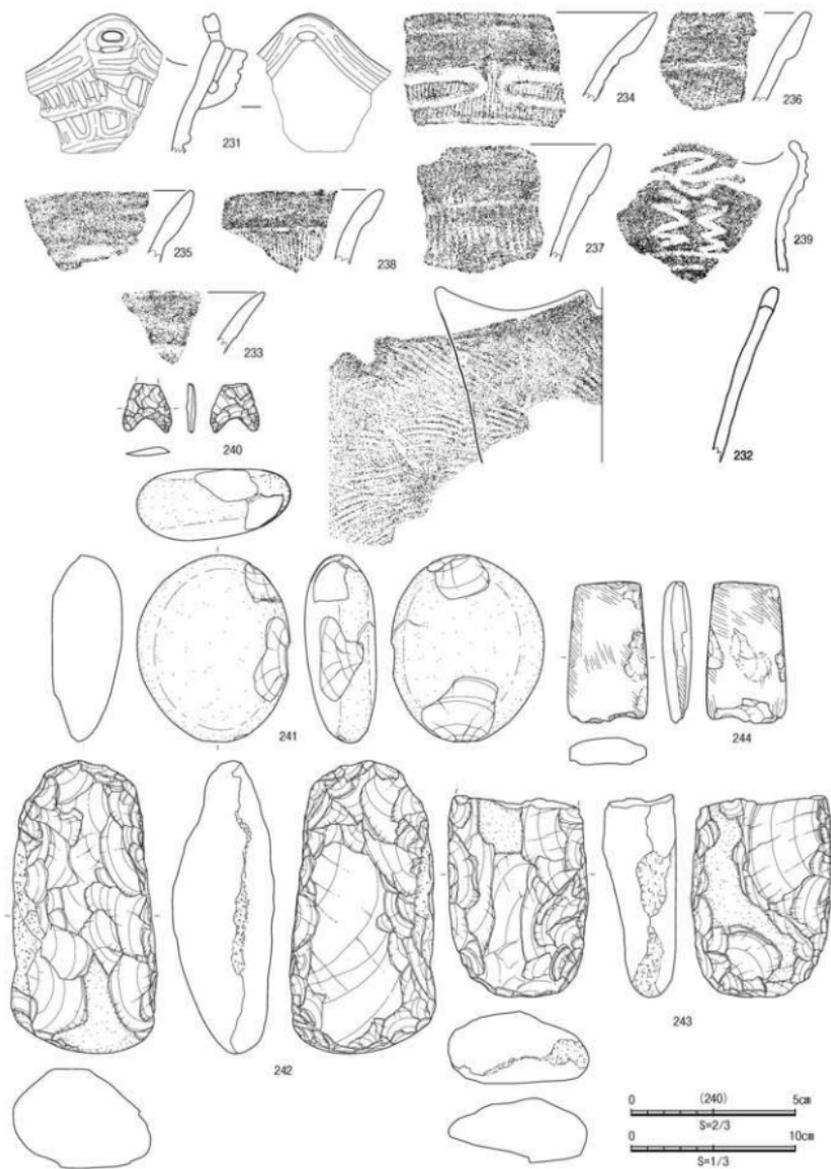
第62図 竪穴建物跡 SB456・SB610 遺物出土状況図



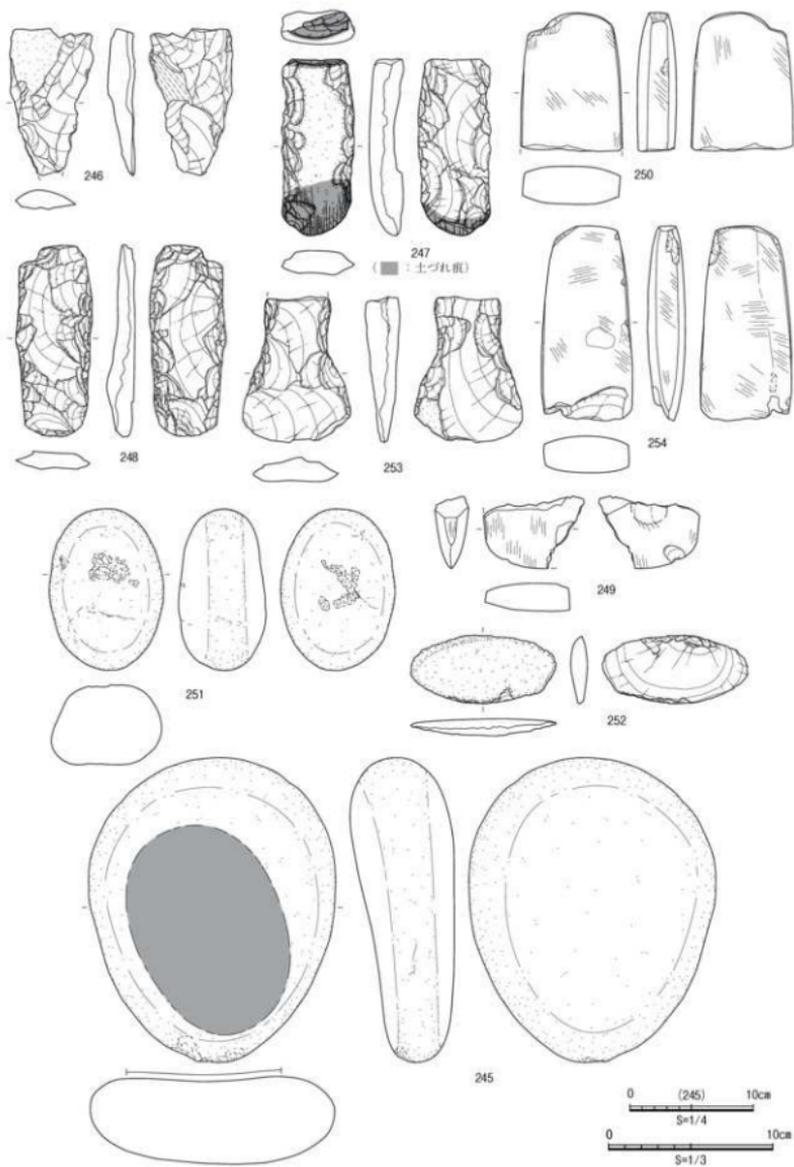
第63図 竪穴建物跡SB456出土遺物実測図(1)



第64図 竪穴建物跡 SB456 出土遺物実測図 (2)



第65図 竪穴建物跡SB456出土遺物実測図(3)



第66図 竪穴建物跡SB456出土遺物実測図(4)

## (14) 竪穴建物跡 SB472

**遺構** (第67図、第19表) グリッドE-15Aにおいて、第IV層地山面上で確認した。全景を確認でき、形状は隅丸方形を呈する。長径4.41m、短径4.38m、深さ0.36mを測る。切り合いは竪穴建物跡SB410に切られる。炉跡SF685は石組炉である。1辺以外は炉石は失われており、形状は不明である。埋塞は確認できなかった。柱穴は2基P679・P715を確認した。貼床は確認できなかった。

**遺物** (第68・69図) 接合前資料で土器398点、石器・石製品31点が出土した。埋土から、土器は、中期中葉(古府式)の2群3類が1点(255)、中期中葉(古串田新式)の3群1類が1点(256)・3類が1点(257)・浅鉢20群1類が1点(260)、中期中葉(在地系)の6群2類が1点(258)・3類が1点(259)など出土した。石器・石製品は、打製石斧が4点(261～264)、敲石が1点(265)、磨石が1点(266)、剥片が3点(267～269)など出土した。

**時期** 埋土の出土遺物は中期中葉(古串田新式)3群が主体を占め、縄文時代中期中葉(古串田新式期)の竪穴建物跡と考えられる。

## (15) 竪穴住居跡 SB610

**遺構** (第59～61図、第20表) グリッドE-14Cにおいて、第IV層地山面上で確認した。1/5が残存している。形状は隅丸方形を呈する。残存部で長径3.84m、短径2.80m、深さ0.38mを測る。切り合いは竪穴建物跡SB456に切られる。炉跡SF717を確認した。焼土のみであり、石材を失い、形状は不明である。竪穴建物跡SB456構築に伴い竪穴を掘削した際に抜かれたものと考えられる。埋塞SZ713は逆位で掘えられていた。断面で掘り込みを確認することができなかった。柱穴は確認できなかった。貼床は確認できなかった。埋土より遺物の出土はなかった。

**遺物** (第70図) 接合前資料で土器23点、石器・石製品2点が出土した。埋塞SZ713として8群を1点(270)確認した。

**時期** 埋塞の年代観及び竪穴建物跡SB456に切られているため、縄文時代中期後葉(串田新I式期)の竪穴建物跡と考えられる。

第18表 竪穴建物跡SB456に伴う遺構一覧表

遺構NO	大クワリ 東 西	全アソット 南 北	検 出 面	断面 形状 状況	平面 形状 状況	底面 形状 状況	法量 (m)			埋 土	備 考 (切り合い、出土遺物等)			
							上端		深さ					
							長径	短径						
SP655	E	14	C	地山	b	-	方形	-	0.70	0.70	0.24	褐色粘質土	75YR5/1	鉄分浸透。SB456に伴う
SZ611	E	14	C	地山	a	-	-	-	-	-	-	褐色粘質土	75YR4/1	埋塞。加骨付E3式。SB456に伴う
P656	E	14	C	地山	a	a	a	0.34	0.30	0.25	にぶい褐色粘質土	75YR6/3	SB456に伴う	
P657	E	14	C	地山	a	a	a	0.49	0.42	0.31	にぶい褐色粘質土	75YR6/3	SB456に伴う	
P658	E	14	C	地山	a	ウ	a	0.44	0.39	0.27	にぶい褐色粘質土	75YR6/3	1cm大の小礫混。SB456に伴う	
P683	E	14	C	地山	a	a	a	0.41	0.39	0.14	にぶい褐色粘質土	75YR6/3	SB456に伴う	

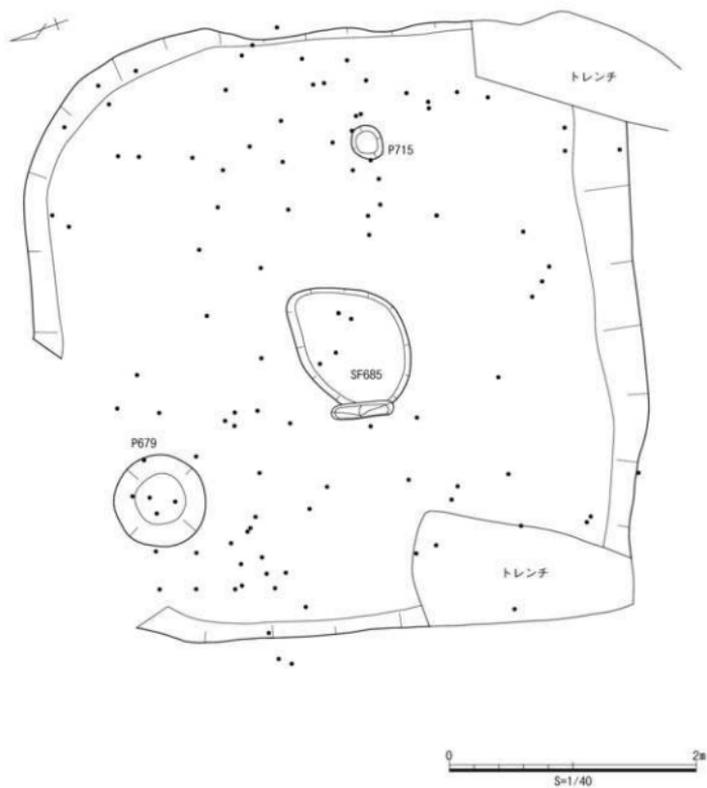
第19表 竪穴建物跡SB472に伴う遺構一覧表

遺構NO	大クワリ 東 西	全アソット 南 北	検 出 面	断面 形状 状況	平面 形状 状況	底面 形状 状況	法量 (m)			埋 土	備 考 (切り合い、出土遺物等)		
							上端		深さ				
							長径	短径					
SP685	E	15	A	地山	a	-	不明	1.04	0.84	0.12	褐色砂礫土	75YR6/4	SB472に伴う
P679	C	15	T	地山	a	a	a	0.73	0.73	0.23	褐色粘質土	10YR4/1	SB472に伴う
P715	E	16	A	地山	a	a	a	0.28	0.25	0.06	褐色粘質土	75YR5/2	1cm大の小礫混。SB472に伴う。

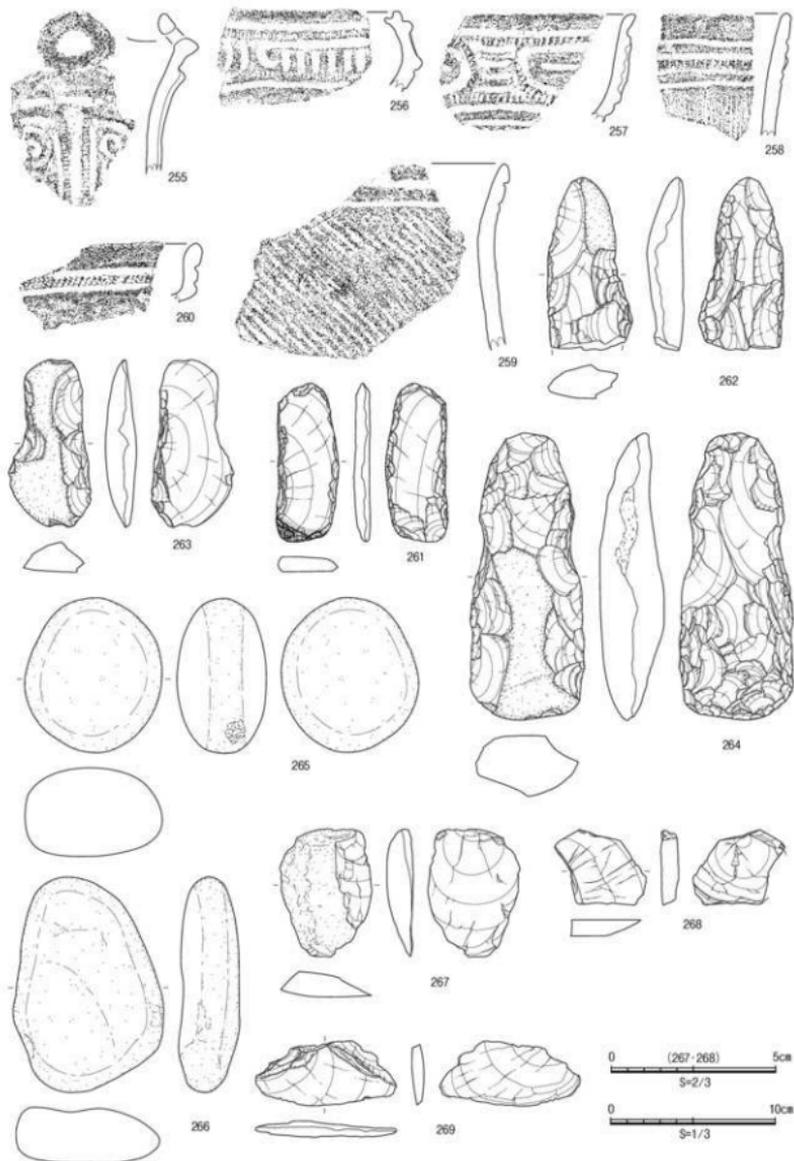
第20表 竪穴建物跡SB610に伴う遺構一覧表

遺構NO	大クワリ 東 西	全アソット 南 北	検 出 面	断面 形状 状況	平面 形状 状況	底面 形状 状況	法量 (m)			埋 土	備 考 (切り合い、出土遺物等)		
							上端		深さ				
							長径	短径					
SZ713	E	14	C	地山	a	-	不明	0.43	0.31	0.12	褐色粘質土	10YR4/1	埋塞。SB610に伴う
SF717	E	14	C	地山	a	I	b	0.56	0.44	0.15	1. 褐色粘質土 2. にぶい褐色粘質土	75YR4/1 75YR7/4	SB610に伴う。SB456貼床にフタをさる。 しまりよし。





第68図 竪穴建物跡 SB472 遺物出土状況図



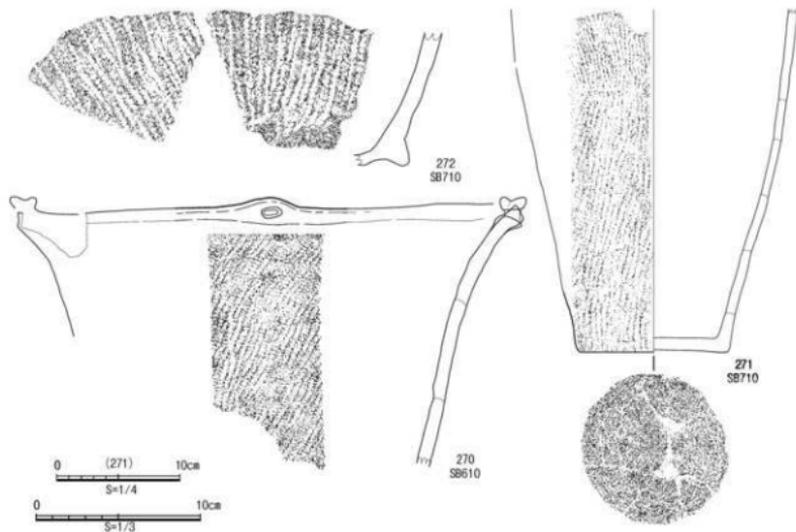
第69図 竪穴建物跡SB472出土遺物実測図

## (16) 竪穴建物跡SB710

**遺構** (第71図、第21表) グリッドC-170において、竪穴建物跡SB192埋土上で検出した。1/4が残存しているが、形状は不明である。長径3.53m、短径2.06m、深さは不明である。切り合いは、竪穴建物跡SB191・SB192を切り、土坑SK195、竪穴住居跡SB2・SB1に切られる。炉跡SF457は土坑SK195に切られ、形状は不明であるが、2辺の石材が残存している。埋壘SZ473は正位で掘えられていた。塩屋石による蓋石を確認した。柱穴は3基P261・P367・P665を確認した。貼床は一部確認することができた。平面プランを検出できず、炉跡SF457を検出した時点で竪穴建物跡との認識に至ったため、埋土を観察することができなかった。

**遺物** (第70・72図) 接合前資料で土器8点、石器・石製品1点が出土した。埋壘SZ473として縄文施文の土器17群2類を1点(271)を確認した。また柱穴P665から台付土器21群4類が1点(272)出土した。

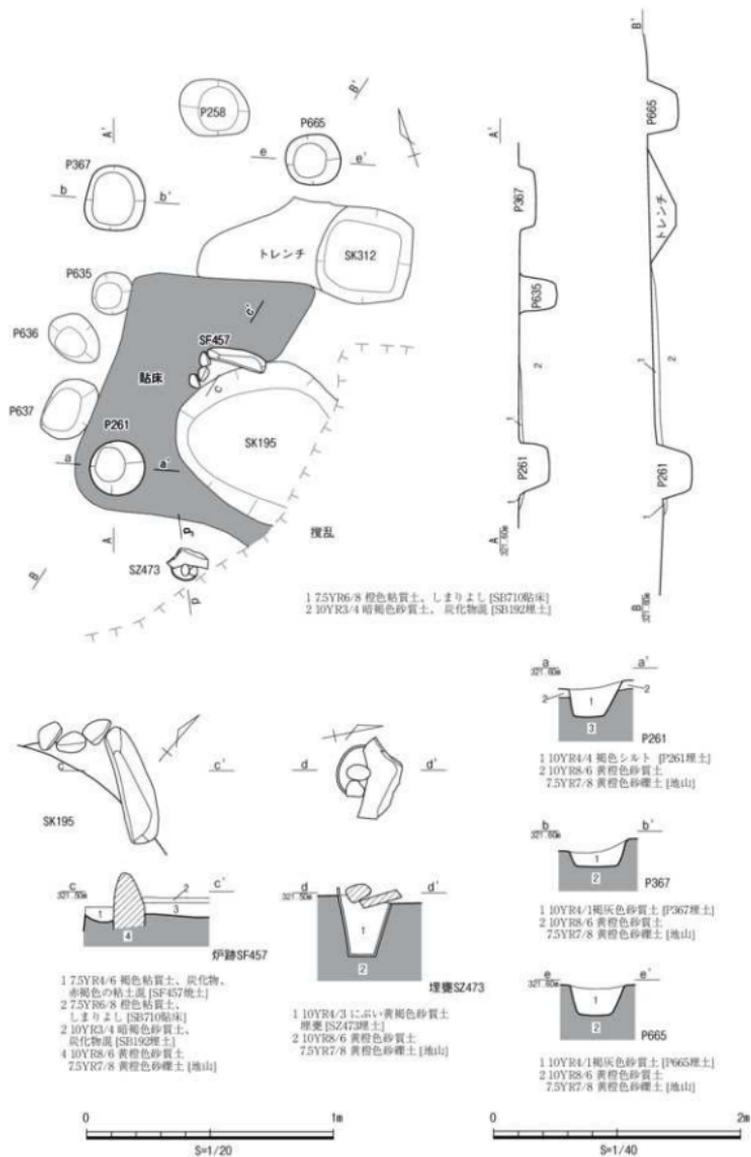
**時期** 時期が分かる出土遺物は無かったが、串田新I式期の竪穴建物跡SB192を切り、串田新II式期の竪穴建物跡SB2に切られることから、縄文時代中期後葉(串田新I式～串田新II式期)の竪穴建物跡と考えられる。



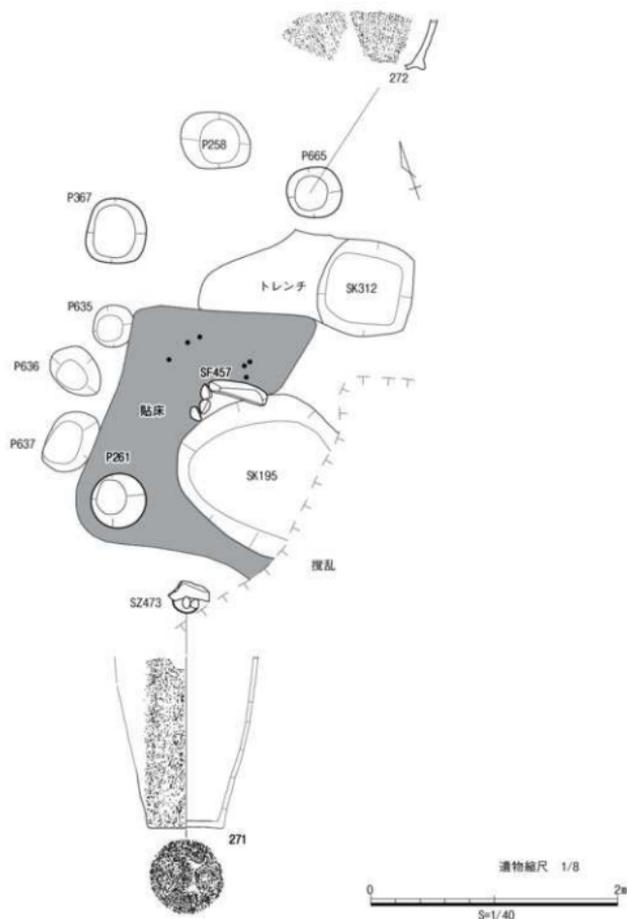
第70図 竪穴建物跡SB610・SB710出土遺物実測図

第21表 竪穴建物跡SB710に伴う遺構一覧表

遺構NO	大グリッド	小グリッド	検出 位置	検出 状況	断面 形状	平面 形状	底面 形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)		
								上端		深さ				
								長径	短径					
SF457	C	17	O	地山	a	II	不明	-	0.53	(0.38)	0.11	-	-	SB710に伴う
SZ473	C	17	P	地山	a	-	-	-	-	-	-	にぶい黄褐色砂質土	10YR4/3	埋壘、SB710に伴う
P261	C	17	O	地山	a	ア	a	a	0.43	0.43	0.30	褐色シルト	10YR4/4	SB710に伴う
P367	C	17	O	地山	a	IV	b	a	0.54	0.50	0.15	褐色砂質土	10YR4/1	SB710に伴う
P665	C	17	O	地山	a	イ	a	a	0.40	0.39	0.23	褐色砂質土	10YR4/1	SB710に伴う



第71図 竪穴建物跡 SB710 遺構図



第72図 竪穴建物跡SB710遺物出土状況図

## (17) 竪穴建物跡 SB1001

**遺構** (第73図) グリッドC-19K・19Lにおいて、竪穴建物跡SB1006埋土面上で確認した。1/3が残存している。形状は隅丸方形を呈する。残存部で長径2.95m、短径2.60m、深さ0.16mを測る。切り合いは、竪穴建物跡SB1006を切る。炉跡、埋甕、柱穴及び貼床は確認できなかった。

**遺物** (第74・75図) 接合前資料で土器213点、石器・石製品18点が出土した。土器は、中期中葉(古府式)の2群2類が1点(273)・小形土器23群1類が1点(279)、中期中葉(古串田新式)の3群1類が1点(274)・2類が1点(275)・浅鉢20群1類が3点(276～278)が出土した。石器・石製品は、床面直上から突起状の柄を持つ石錐が1点(280)、埋土から被熱している敲石が1点(281)出土した。

**時期** 埋土の出土遺物に、中期中葉(古府式)の2群・23群1類などと共に中期中葉(古串田新式)の3類・20群1類などを確認することができる。このため、縄文時代中期中葉(古府式～古串田新式期)の竪穴建物跡と考えられる。

## (18) 竪穴建物跡 SB1002

**遺構** (第76図、第22表) グリッドC-19L・19M・20Mにおいて、第IV層地山面上で確認した。1/3が残存している。形状は隅丸方形を呈する。長径2.63m、短径2.62m、深さ0.45mを測る。切り合いは、竪穴建物跡SB1003、SB1006及びSB1008を切る。炉跡SF1044は長方形石組炉であり、隅部には小形の川原石を据えている。南側の炉石では磨面を確認でき、作業台としていたものと考えられる。中央部に焼土を確認した。埋甕は確認できなかった。柱穴はSK1035を確認した。貼床は確認できなかった。埋土には炭化物が大量に混じり、焼失した竪穴建物跡と考えられる。

**遺物** (第77・78図) 接合前資料で土器242点、石器・石製品9点が出土した。土器は、床面直上で徳利形土器23群4類が1点(282)、釣手土器24群が1点(283)出土した。埋土下層において、中期中葉(在地系)の6群3類が1点(284)、中期後葉(串田新Ⅱ式)の9群3類が1点(285)、中期後葉(唐草文系第3段階)の11群が1点(286)出土した。埋土上層においては、中期前葉(新崎式)1群1類が1点(287)、中期中葉(古串田新式)の3群2類が1点(288)、中期後葉(串田新Ⅱ式)の9群1類が1点(289)・浅鉢20群4類が1点(291)、後期初頭(高波式)19群が1点(290)出土した。石器・石製品は、埋土上層において磨製石斧が1点(292)出土した。中期前葉の1群に属する287、後期初頭の19群に属する290は混入と考えられる。

**時期** 床面直上で徳利形土器282及び釣手土器283が出土し、埋土からは9群の遺物が出土している。これらのことから縄文時代中期後葉(串田新Ⅱ式期)の竪穴建物跡と考えられる。

## (16) 竪穴建物跡 SB1003

**遺構** (第76図) グリッドC-19Kにおいて、第IV層地山面上で確認した。1/6が残存している。形状は隅丸方形を呈する。残存部で長径1.06m、短径1.02m、深さ0.38mを測る。切り合いは竪穴建物跡SB1002及びSB1006に切られる。炉跡、埋甕、柱穴、貼床は確認できなかった。

**遺物** 石器・石製品が1点出土した。

**時期** 中期中葉(古府式期)の竪穴建物跡SB1006に切られる。遺跡全体を通じて、この時期より以前の遺構は無く、また遺物もごく少量しか出土していないことから、竪穴建物跡SB1003も中期中葉(古府式期)のものと考えられる。

## (17) 竪穴建物跡 SB1004

**遺構** (第79・80図、第23表) グリッドD-1L・2Lにおいて、第IV層地山面上で確認した。3/5が

残存している。形状は隅丸方形を呈する。長径4.92m、短径4.79m、深さ0.30mを測る。重複遺構はない。炉跡SF1043は長方形石組炉である。炉内全面で焼土を確認した。埋壘SZ1031は逆位で掘えられていた。柱穴は3基P1032・P1036・P1037を確認した。貼床は確認できなかった。埋土の残りが良く、上層と下層とに分けて段階的に掘削を行った。

**遺物** (第81～83図) 接合前資料で土器448点、石器・石製品41点が出土した。埋壘SZ1031として中期中葉(在地系)の6群4類(293)を確認した。土器は、床面直上で6群3類が1点(294)などが出土した。埋土下層から、中期中葉(古府式)の2群2類が1点(296)、中期中葉(古串田新式)の3群4類が3点(297～299)・浅鉢20群1類が1点(309)、中期中葉(在地系)の6群3類が1点(300)出土した。埋土上層から、中期中葉(古串田新式)の3群2類が1点(301)・5類が1点(302)、中期中葉(咲畑式)の4群1類が1点(303)、中期中葉(在地系)の6群2類が1点(304)・3類が1点(305)、中期後葉(串田新Ⅰ式)の7群1類が1点(306)・2類が1点(307)出土した。石器・石製品は、埋土下層から、石鏃1点(310)、石錐1点(311)、楔形石器1点(312)、打製石斧1点(313)、小型磨製石斧が1点(314)、石匙が1点(315)、敲石が2点(316・317)、特殊磨石が1点(318)出土した。埋土上層からは、砥石(319)が出土した。敲石317は片面に磨面を確認でき、磨石を転用したものと考えられる。

**時期** 埋土の下層において主体となる出土遺物が3群である。埋壘の時期も中期中葉と考えられることから、縄文時代中期中葉(古串田新式期)の竪穴建物跡と考えられる。

#### (16) 竪穴住居跡SB1006

**遺構** (第73図、第24表) グリッドC-19K・19Lにおいて、第IV層地山面上で確認した。1/2が残存している。形状は隅丸方形を呈する。残存部で長径3.63m、短径3.20m、深さ0.68mを測る。切り合いは竪穴建物跡SB1001に切られ、竪穴建物跡SB1003を切る。炉跡SF1045は石組炉であるが、半分は調査区壁面に埋まっているため全体形状を確認できない。中央部に焼土を確認した。埋壘は確認できなかった。柱穴は確認できなかった。貼床は全面で確認した。

**遺物** (第86図) 接合前資料で土器126点、石器・石製品15点が出土した。炉跡SF1045から縄文地の土器17群3類が1点(320)出土した。埋土から、土器は、中期中葉(在地系)の6群3類が2点(321・322)、中期後葉の14群3類が1点(323)、中期中葉(古府式)の小形土器23群1類(325)など出土した。323は混入と考えられる。石器・石製品は、磨製石斧が1点(326)出土した。

**時期** 埋土から23群1類が出土し、同時期の在地系土器321・322が出土している。このことから、縄文時代中期中葉(古府式期)の竪穴建物跡と考えられる。

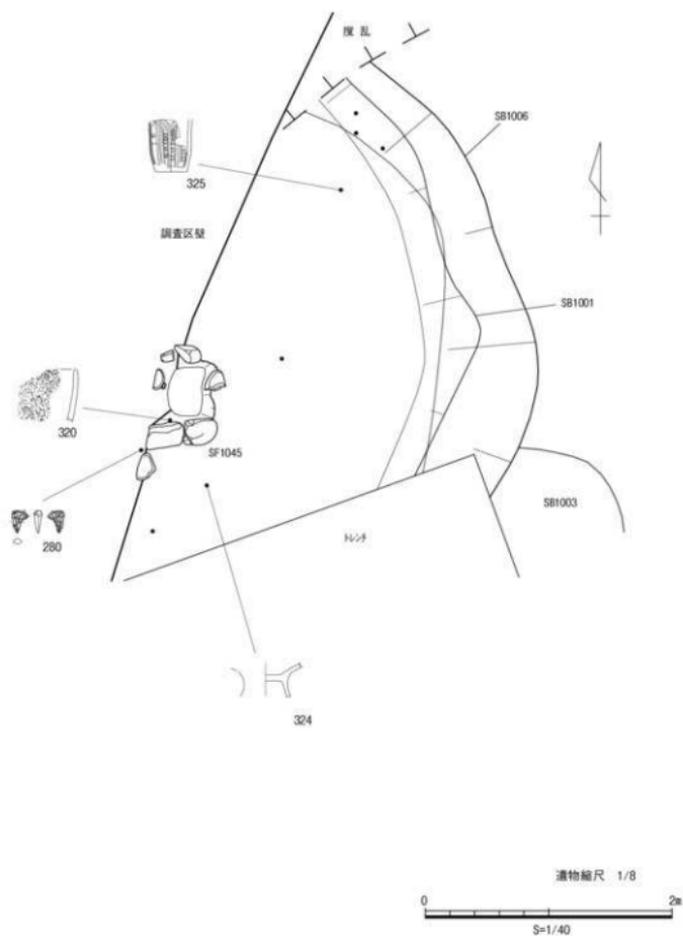
#### (17) 竪穴住居跡SB1008

**遺構** (第84図、第25表) グリッドC-20L・20Mにおいて、第IV層地山面上で確認した。1/4が残存している。形状は隅丸方形を呈する。残存部で長径2.82m、短径2.78m、深さ0.37mを測る。切り合いは、竪穴建物跡SB1002及びSB1033に切られる。炉跡は確認できなかった。埋壘は確認できなかった。柱穴は2基P1034・P1038を確認した。貼床は確認できなかった。

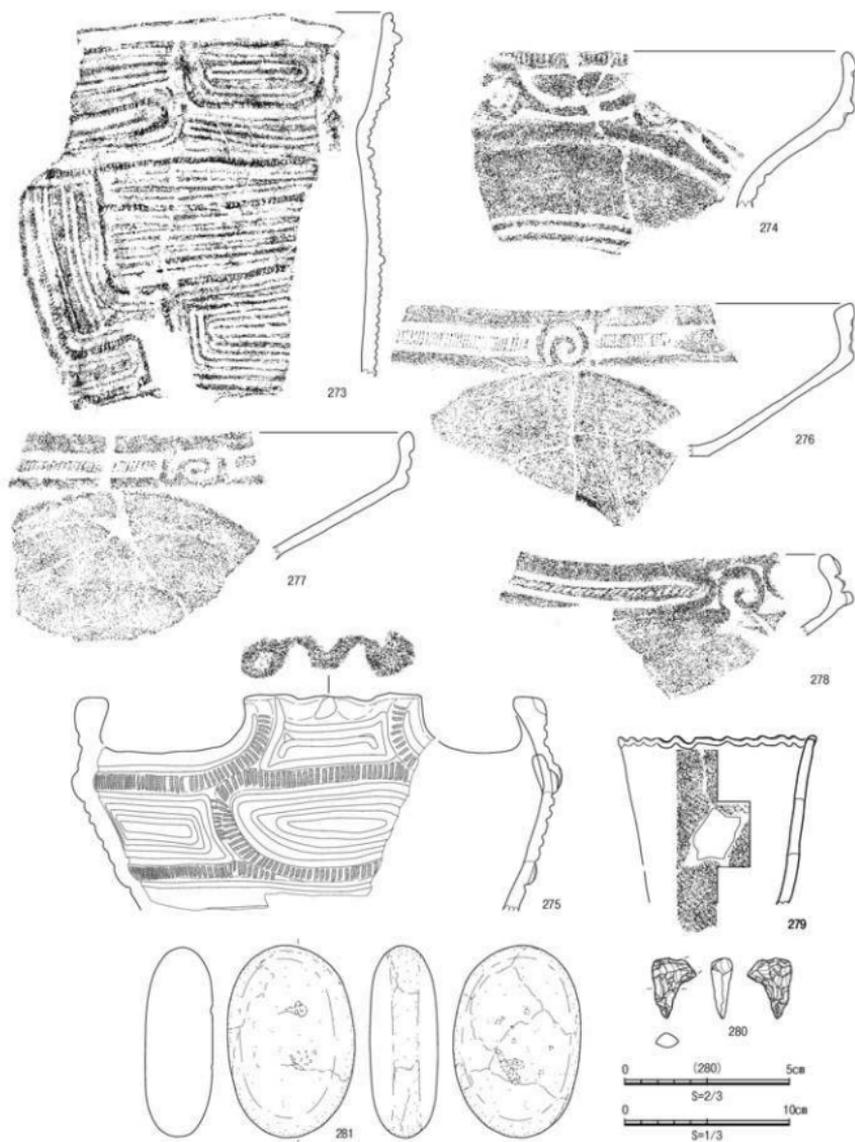
**遺物** (第85・87図) 接合前資料で土器22点、石器・石製品1点が出土した。埋土から、土器は中期末葉(前田・岩崎野式)の浅鉢20群5類が1点(327)、石器・石製品は磨製石斧が1点(328)出土した。

**時期** 中期後葉(串田新Ⅱ式期)の竪穴建物跡SB1002及びSB1033に切られる。中期末葉(前田・岩崎野式期)の浅鉢327とは時期が合わないが、縄文時代中期後葉(串田新Ⅱ式)以前の竪穴建物跡と考えられる。

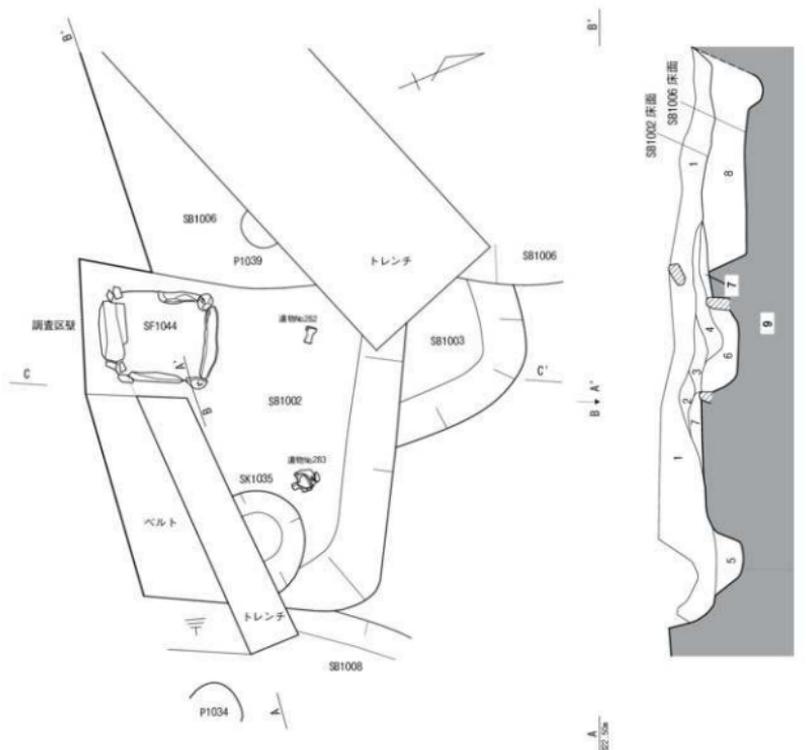




第74図 竪穴建物跡 SB1001・SB1006 遺物出土状況図

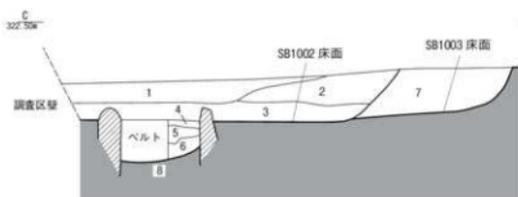


第75図 竪穴建物跡SB1001出土遺物実測図



- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質土、炭化物非常に多く混じる  
しまりよし [SB1002埋土1]
- 2 7.5YR4/2 灰褐色粘質土、炭化物が混じる [SB1002埋土2]
- 3 10YR2/1 黒色粘質土、炭化物・黄褐色粘土粒が混じる  
[SB1002埋土3]
- 4 10YR4/3 に近い黄褐色粘質土、炭化物・  
灰褐色粘土粒が混じる [SB1002埋土4]

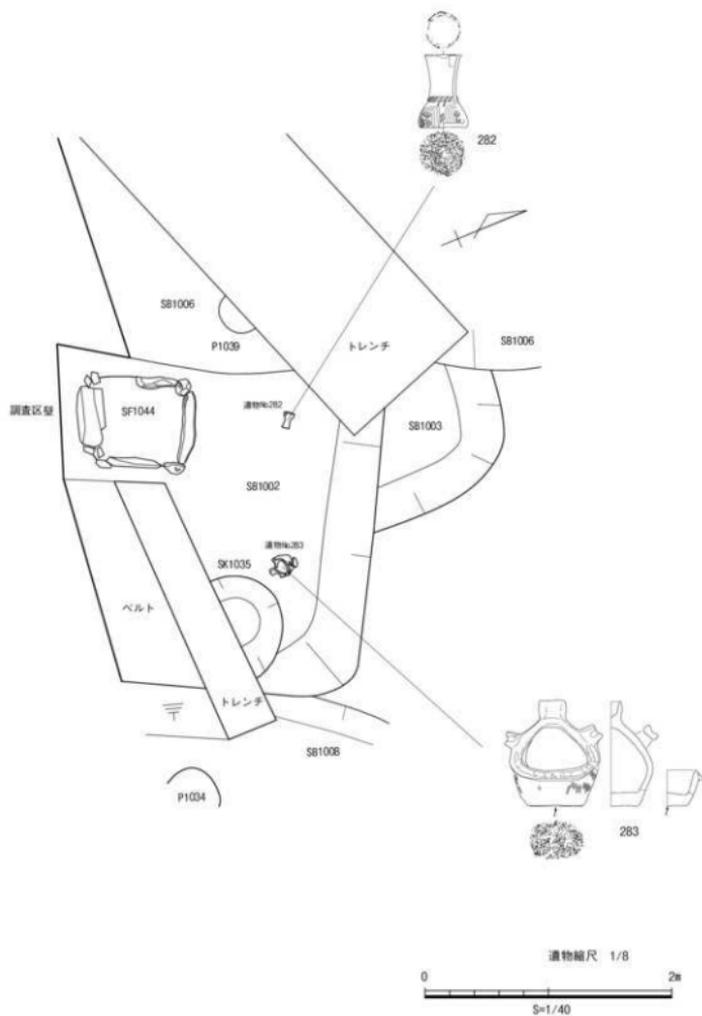
- 5 7.5YR3/1 黒褐色粘質土、炭化物非常に多く混じる  
しまりよし [P1039埋土]
- 6 10YR2/1 黒色粘質土、炭化物非常に多く混じる  
しまりよし [SF1044埋土]
- 7 5YR5/6 明赤褐色粘土、しまりよし [SB1002埋土]
- 8 10YR6/6 明黄褐色砂質土、炭化物が混じる [SB1006埋土]
- 9 10YR8/6 黄褐色砂質土 [地山]



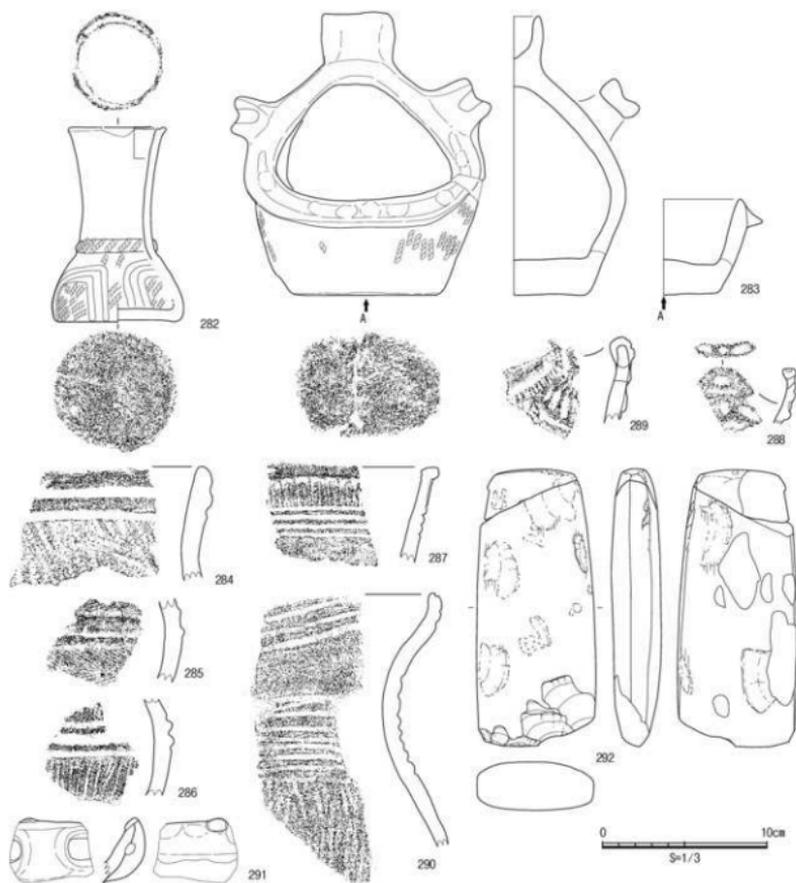
- 1 10YR3/1 黒褐色粘質土、炭化物非常に多い
- 2 10YR5/2 灰黄褐色砂質土
- 3 10YR2/1 黒色粘質土、炭化物非常に多い  
しまりよし
- 4 10YR4/1 褐灰色砂質土 [SK714埋土1]
- 5 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 [SK714埋土2]
- 6 10YR5/2 灰黄褐色砂質土 [SK28埋土1]
- 7 10YR7/4 に近い黄褐色砂質土、炭化物混  
[SB1003埋土]
- 8 7.5YR7/8 黄褐色砂質土 [地山]

0 2m  
S=1/40

第76図 竪穴建物跡 SB1002・SB1003 遺構図



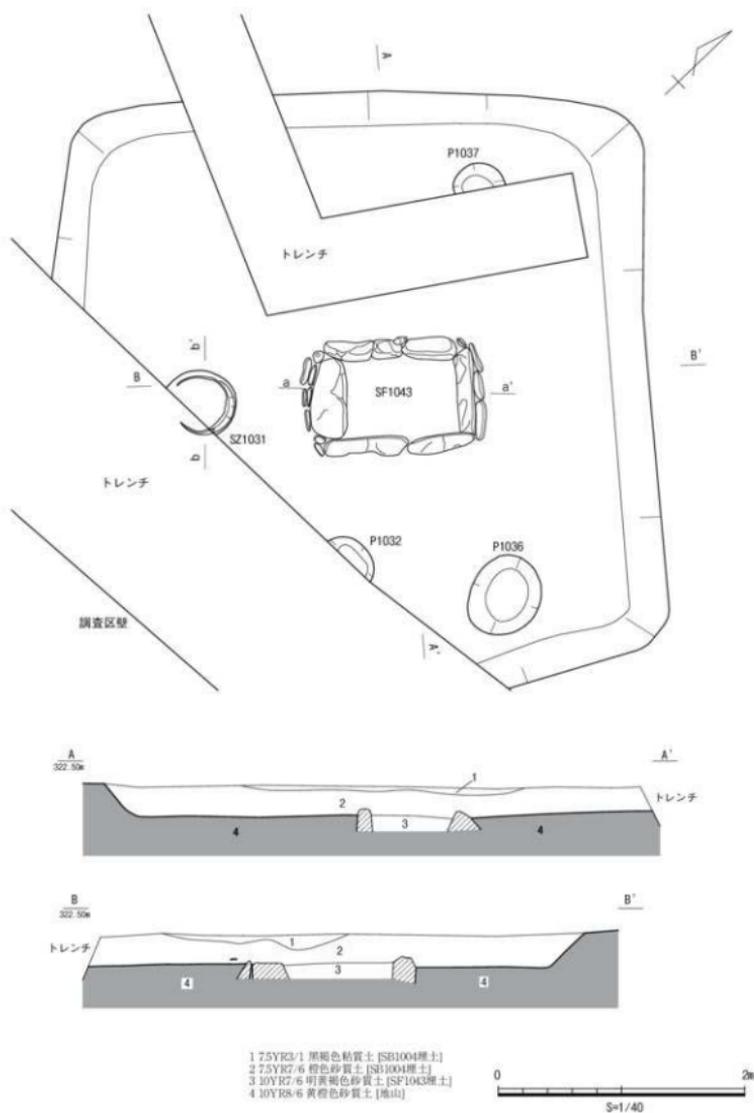
第77図 竪穴建物跡SB1002 遺物出土状況図



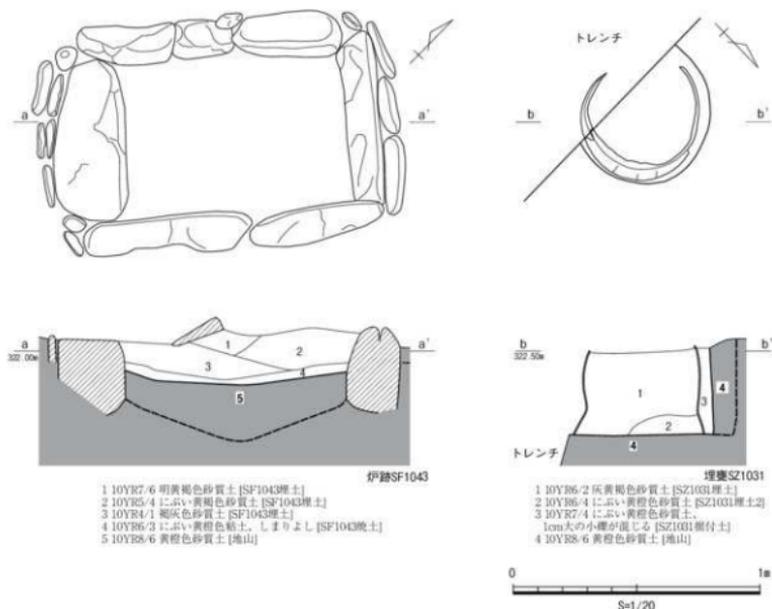
第78図 竪穴建物跡SB1002出土遺物実測図

第22表 竪穴建物跡SB1002に伴う遺構一覧表

遺構NO	大アリゾ 小アリゾ	方位	検出面	地積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土		備考 (切り合い、出土遺物等)	
								長さ	幅	高さ				
SF1044	C	19	L	地山	b	Ⅱ	長方形	-	0.96	0.85	0.30	-	-	SB1002に伴う
SK1035	C	19	L	地山	a	Ⅰ	a	a	0.89	(0.33)	0.21	黒褐色粘質土	7.5YR3/1	炭化物非常に多く混SB1002に伴う



第79図 竪穴建物跡 SB1004 遺構図



第80図 竪穴建物跡SB1004関連遺構図

第23表 竪穴建物跡SB1004に伴う遺構一覧表

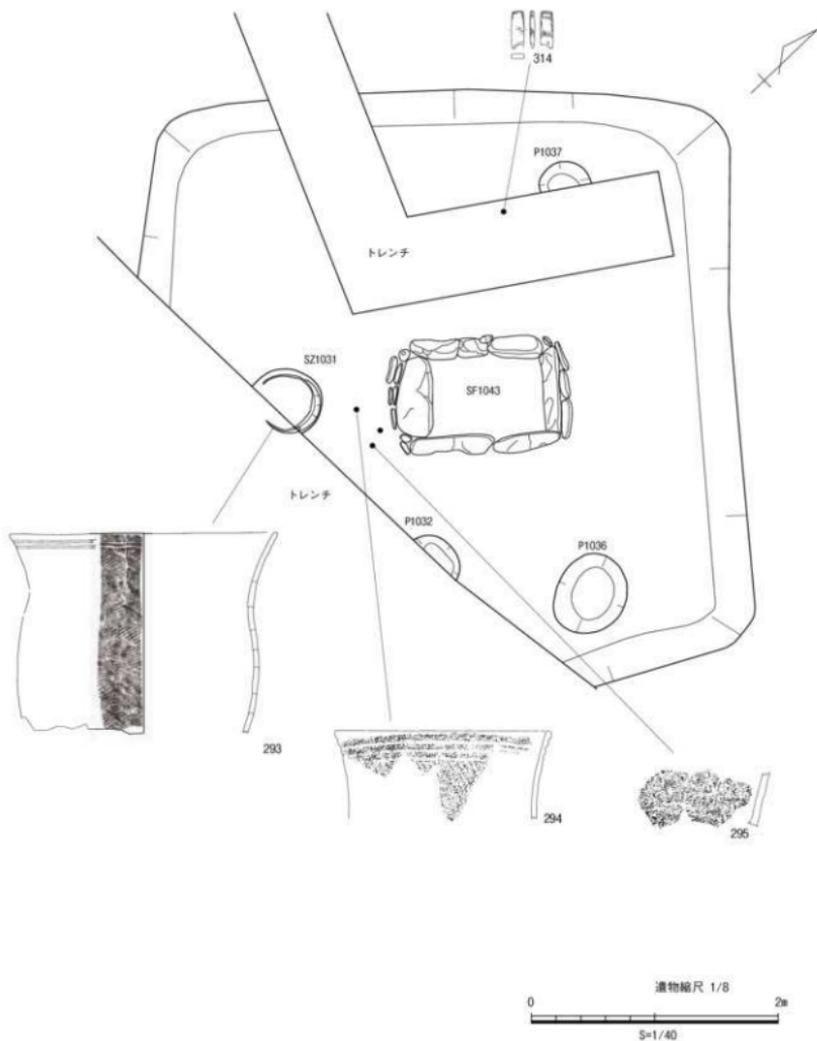
遺構NO	大グリッド		検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)	
	東西	南北						上端		深さ			
								長径	短径				
SF1043	D	1	L	地山	c	Ⅱ	長方形	-	1.49	0.96	0.16	1. 明黄褐色砂質土 10YR7/6 2. にふい黄褐色砂質土 10YR5/4 3. 褐灰色粘質土 10YR4/1 4. 灰黄褐色粘質土 10YR6/2	SB1004に伴う
SZ1031	D	1	L	地山	-	-	-	0.56	0.50	0.46	灰黄褐色砂質土 10YR6/2	SB1004に伴う	
P1032	D	1	L	地山	a	ア	a	a	0.50	(0.18)	-	にふい褐色粘質土 75YR6/4	SB1004に伴う
P1036	D	1	L	地山	a	ア	a	a	0.66	0.56	-	褐灰色砂質土 10YR5/1	SB1004に伴う
P1037	D	2	L	地山	a	ア	a	a	0.41	(0.21)	-	灰褐色砂質土 75YR5/2	SB1004に伴う

第24表 竪穴建物跡SB1006に伴う遺構一覧表

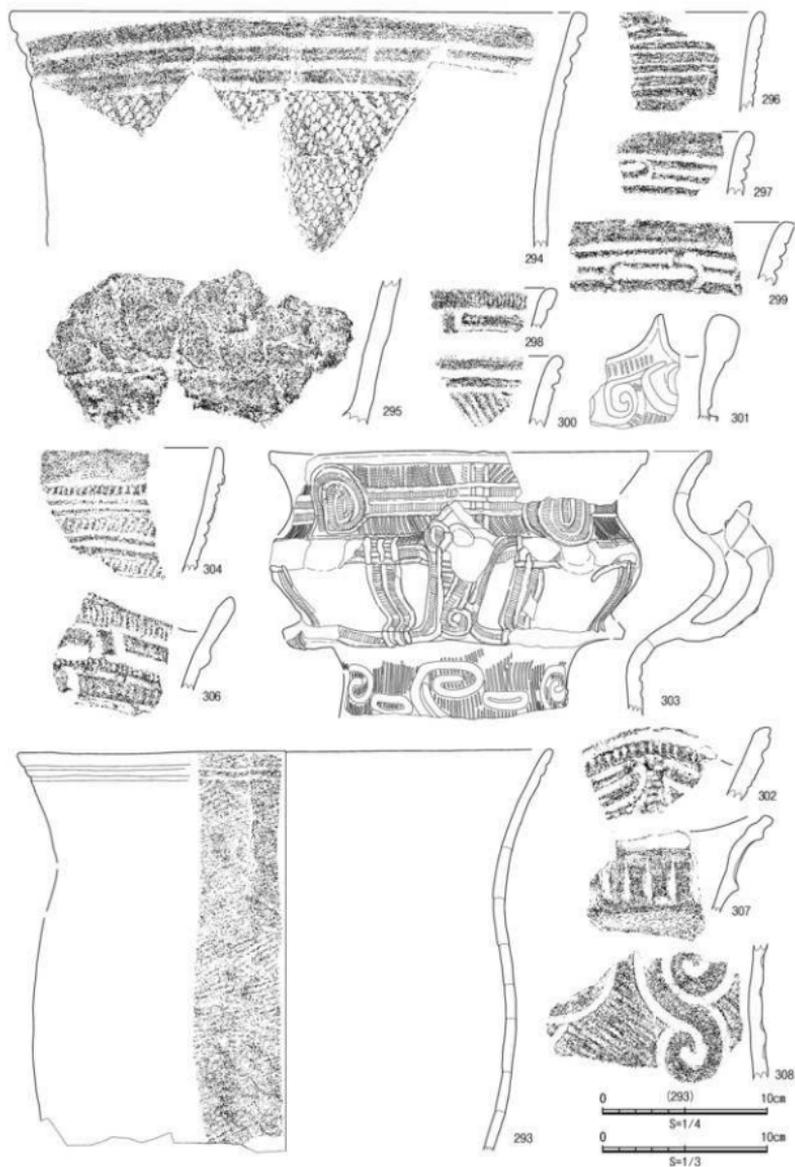
遺構NO	大グリッド		検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)		
	東西	南北						上端		深さ				
								長径	短径					
SF1045	C	19	L	地山	a	Ⅱ	不明	-	0.92	(0.48)	0.32	-	-	SB1006に伴う
P1039	C	19	L	地山	a	ア	a	a	0.38	(0.18)	0.27	灰黄褐色粘質土 10YR6/2	炭化物混、SB1006に伴う	

第25表 竪穴建物跡SB1008に伴う遺構一覧表

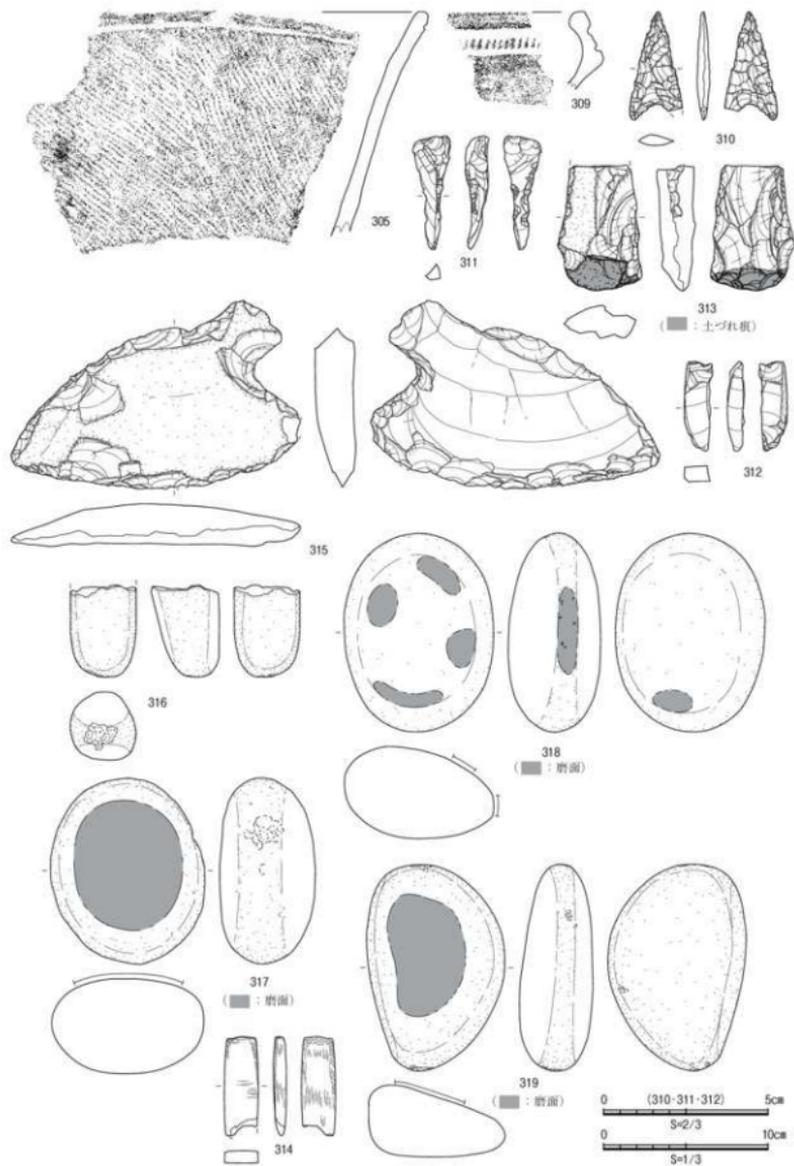
遺構NO	大グリッド		検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)	
	東西	南北						上端		深さ			
								長径	短径				
P1034	C	20	M	地山	a	ア	a	a	0.50	(0.36)	0.09	褐灰色砂質土 10YR5/1	炭化物混、SB1008に伴う
P1038	C	20	L	地山	a	ア	a	a	0.43	0.32	0.22	にふい黄褐色砂質土 10YR6/3	SB1008に伴う



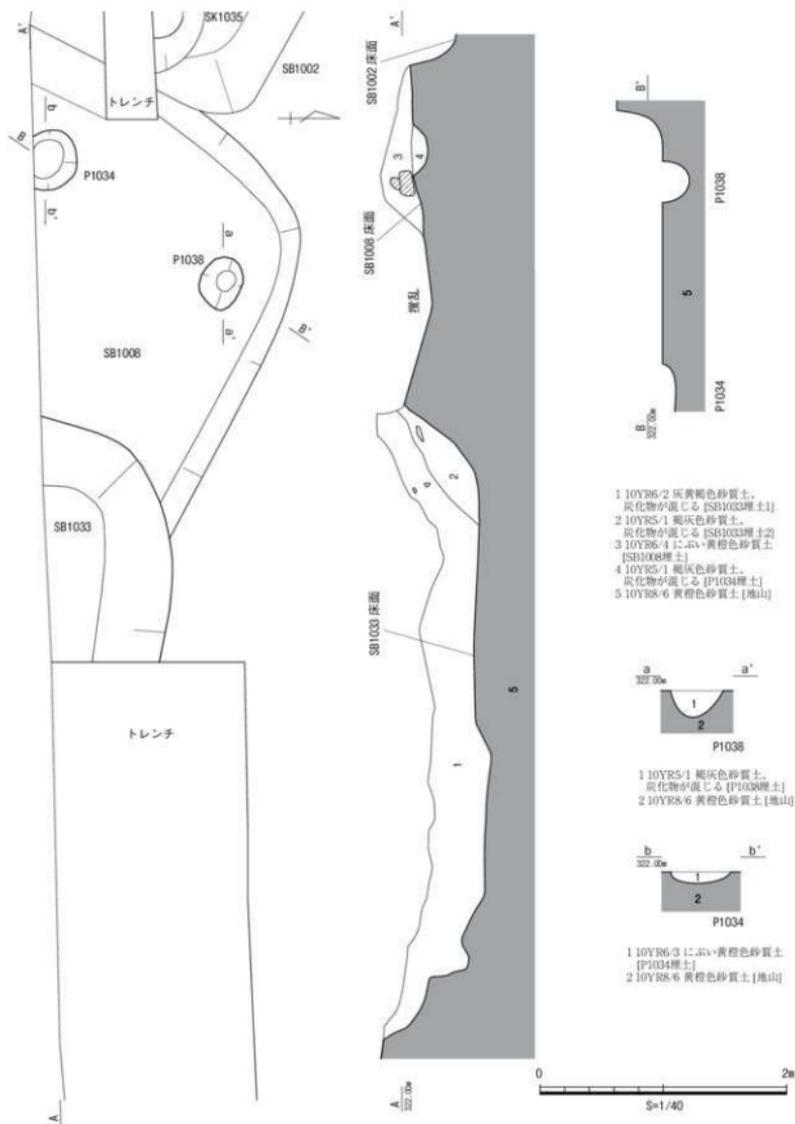
第81図 竪穴建物跡SB1004 遺物出土状況図



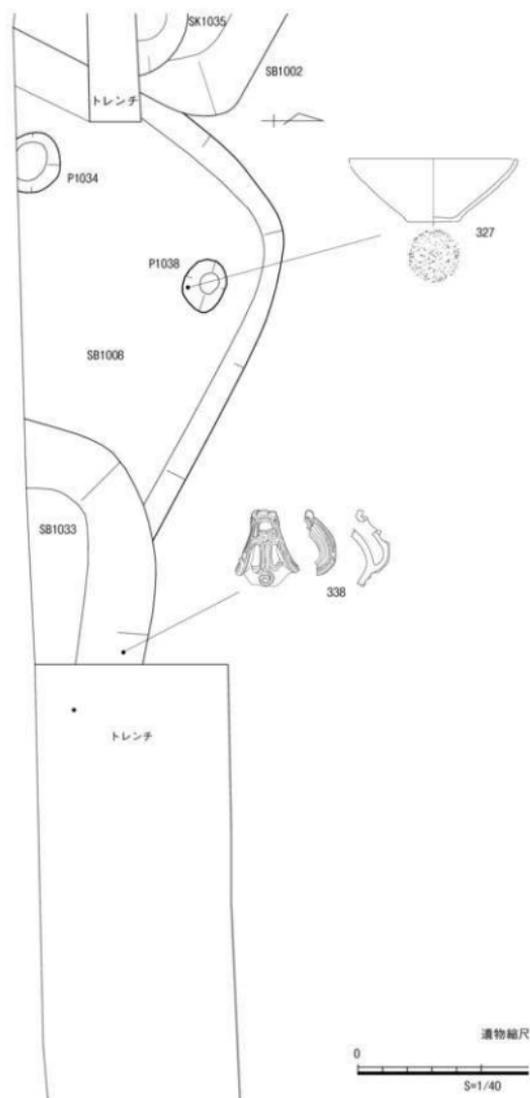
第82図 竪穴建物跡 SB1004 出土遺物実測図 (1)



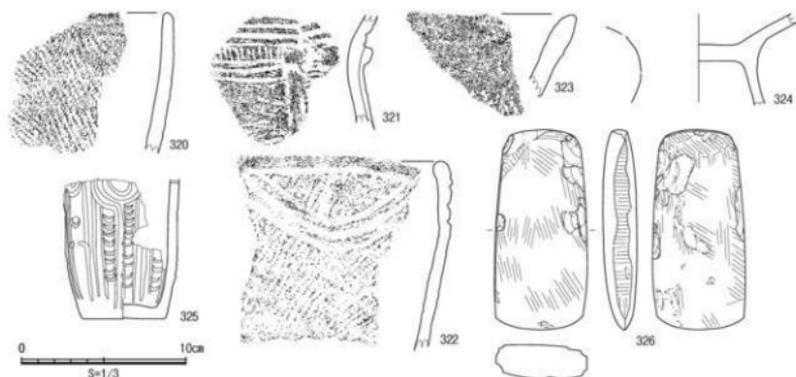
第83図 竪穴建物跡SB1004出土遺物実測図(2)



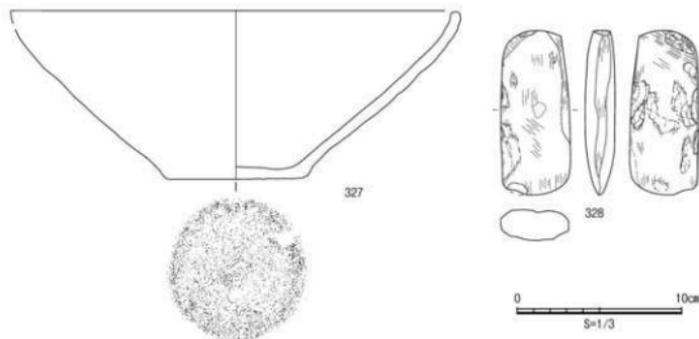
第84図 竪穴建物跡 SB1008・SB1033 遺構図



第 85 図 竪穴建物跡 SB1008・SB1033 遺物出土状況図



第86図 竪穴建物跡 SB1006 出土遺物実測図



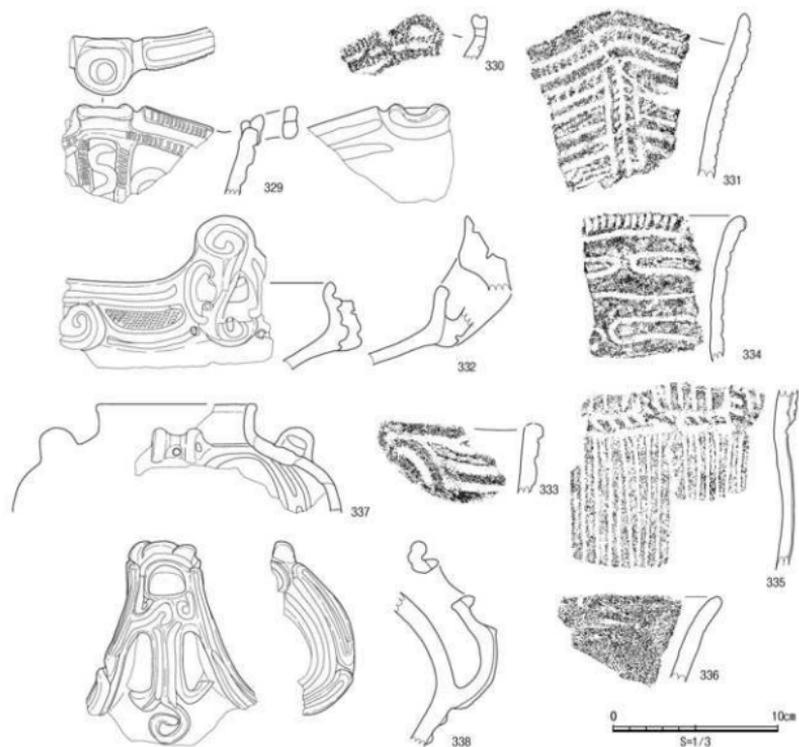
第87図 竪穴建物跡 SB1008 出土遺物実測図

## (20) 竪穴建物跡 SB1033

**遺構** (第84図) グリッドC-20L・20Mにおいて、第IV層地山面上で確認した。1/6が残存している。形状は隅丸方形を呈する。残存部で長径5.16m、短径0.82mを測る。切り合いは、竪穴建物跡SB1007に切られ、竪穴建物跡SB1008を切る。炉跡・埋壺・柱穴・貼床は確認できなかった。

**遺物** (第85・88図) 接合前資料で土器18点、石器・石製品11点が出土した。埋土から、期中中葉(古申田新式)の3群2類が2点(329・330)・5類が1点(331)、期中中葉(大木8b式)の5群が1点(332)、期中中葉(在地系)の6群3類が1点(333)、期中後葉(申田新I式)の7群1類が1点(334)・2類が1点(335)、期中後葉から末葉の14群5類が1点(336)、期中後葉(申田新II式)の鈔付土器22群1類が1点(337)、釣手土器24群が1点(338)など出土した。飛騨地方における中期の大木式の出土事例としては、高山市赤保木遺跡に続いて2例目である。

**時期** 各時期の遺物が混ざりような状態であるが、最も新しい年代を持つ遺物が鈔付土器337であり、縄文時代期中後葉(申田新II式期)の竪穴建物跡と考えられる。



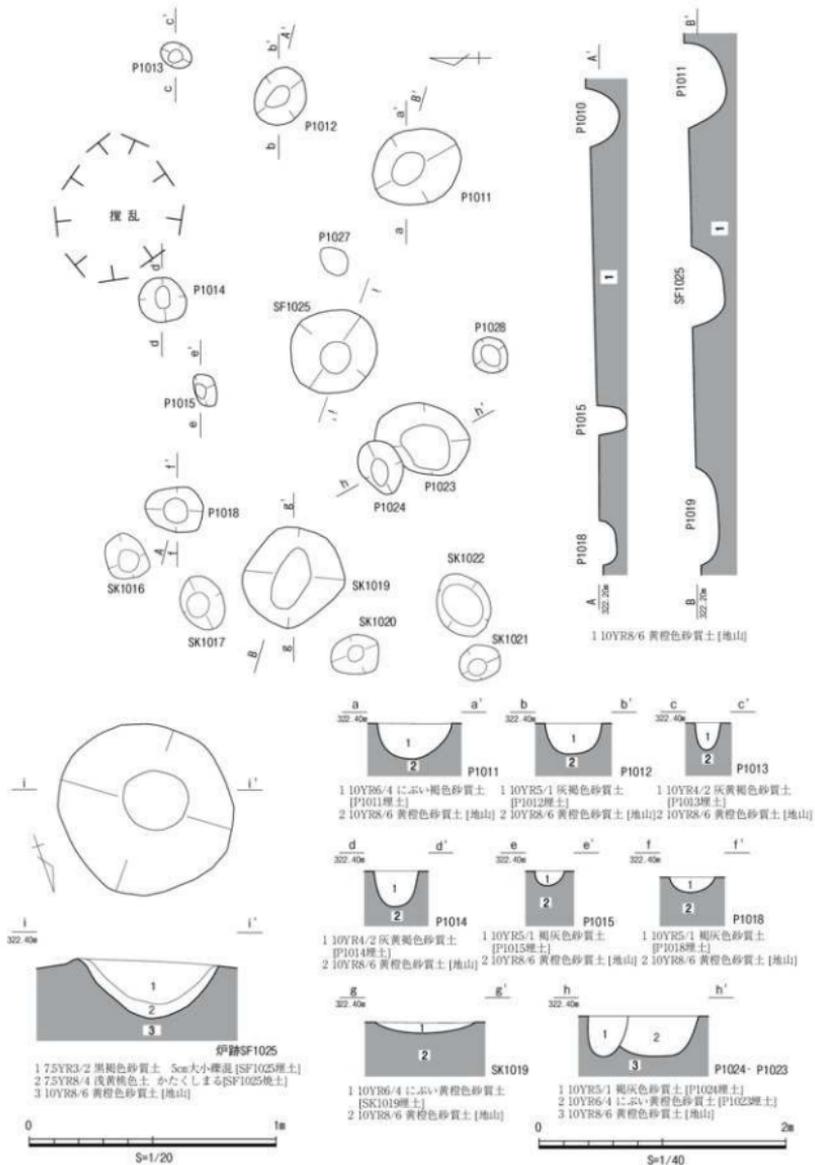
第88図 竪穴建物跡SB1033出土遺物実測図

## (21) 竪穴住居跡SB1046

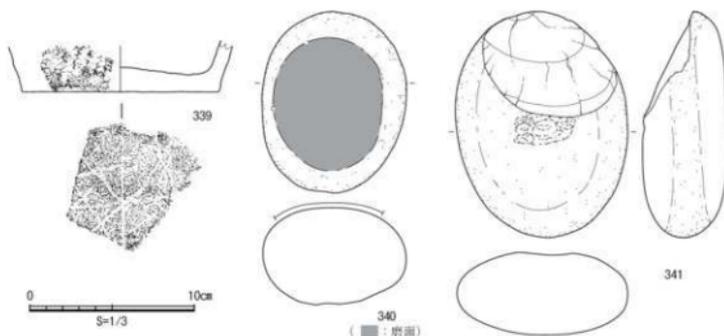
**遺構** (第89図、第26表) グリッドC-20Kにおいて、第IV層地山面上で確認した。全景を確認できるが、埋土、上端、下端及び床面を後世の削平により失っており、形状及び長径・短径・深さは不明である。重複遺構はない。炉跡SF1025は石材を失っており、焼土のみ確認できなかった。埋塞は確認できなかった。柱穴は9基P1011・P1012・P1013・P1014・P1015・P1018・P1023・P1024・P1028を確認した。また土坑1基SK1019確認した。貼床は床面が削平されているため確認できなかった。

**遺物** (第90図) 接合前資料で土器1点、石器・石製品2点が出土した。土器は柱穴P1015より底部破片18群6類が1点(339)出土した。石器・石製品は土坑SK1011より、磨石が1点(340)、石核が1点(341)出土した。340は表面中央に敲打痕が観察でき、敲石を石核に転用したものと考えられる。

**時期** 竪穴建物跡の時期を判断することはできなかった。



第89図 竪穴建物跡SB1046遺構図



第90図 竪穴建物跡SB1046出土遺物実測図

第26表 竪穴建物跡SB1046に伴う遺構一覧表

遺構NO	大分県 大分市	方位	遺構 位置	遺構 形状	断面 形状	平面 形状	法量 (m)			土質	備考 (切り合い、出土遺物等)		
							上端		深さ				
							長径	短径					
SF1025	C	20	K	地山	a	I	a	0.74	0.70	0.19	黒褐色砂質土	7.5YR3/2	5cm 大小礫混
SK1019	C	20	K	地山	a	IV	c	0.82	0.78	0.26	にぶい黄褐色砂質土	10YR6/4	SF1025に伴う
P1011	C	20	K	地山	a	IV	a	0.77	0.63	0.28	にぶい黄褐色砂質土	10YR6/4	SF1025に伴う
P1012	C	20	K	地山	a	f	a	0.47	0.40	0.21	褐灰色砂質土	10YR5/1	SF1025に伴う
P1013	C	20	K	地山	a	f	a	0.25	0.20	0.21	灰黄褐色砂質土	10YR4/2	SF1025に伴う
P1014	C	20	K	地山	a	A	a	0.37	0.34	0.28	灰黄褐色砂質土	10YR4/2	SF1025に伴う
P1015	C	20	K	地山	a	A	b	0.27	0.18	0.22	褐灰色砂質土	10YR5/1	SF1025に伴う
P1018	C	20	K	地山	a	f	a	0.43	0.37	-	褐灰色砂質土	10YR5/1	SF1025に伴う
P1023	C	20	K	地山	a	I	a	0.75	0.58	0.13	にぶい黄褐色砂質土	10YR6/4	SF1025に伴う
P1024	C	20	K	地山	a	A	a	0.48	0.32	0.23	褐灰色砂質土	10YR5/1	SF1025に伴う
P1028	C	20	K	地山	a	A	a	0.28	0.28	0.16	にぶい黄褐色砂質土	10YR6/4	SF1025に伴う

## 2 炉跡 (第91図、第27表)

## (1) 炉跡 SF278

遺構 (第92図) グリッドC-20Qにおいて、第IV層地山面上で確認した。複式の石組炉である。焼土を断面で確認した。周囲に柱穴や埋甕等の遺構を確認することはできず、竪穴建物跡に伴うものと判断することはできなかった。竪穴建物跡が並ぶ位置より離れた場所にあり、屋外炉の可能性がある。単独で検出した炉跡は当遺構だけである。

遺物 (第92図) 敲石が1点(342)出土した。磨面が敲打痕を切っているため、磨石を敲石に転用したものと考えられる。

時期 出土遺物より時期を判断することはできなかった。

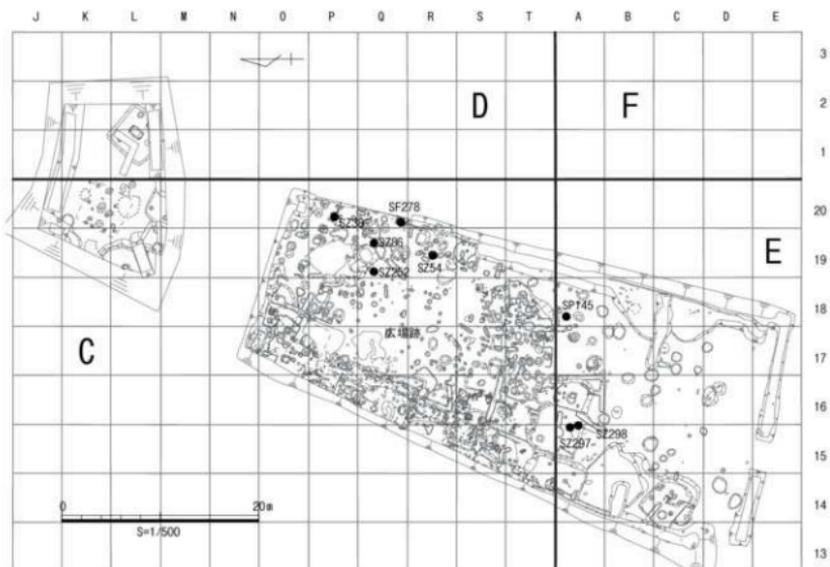
## 3 土器埋設遺構 (第91図、第28表)

## (1) 土器埋設遺構 SZ38 (第93・94図)

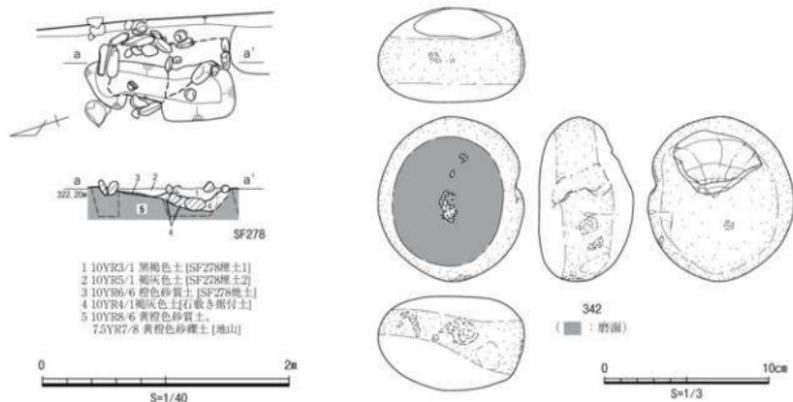
遺構 グリッドC-20Pにおいて、第IV層地山面上で確認した。完形の縄文土器が正位で出土した。重複遺構はない。平断面で掘形を確認することができなかった。埋設土器内の埋土の土色・土質が第IV層地山と異なっていることから、規模は土器の残存形とはほぼ同じと考えられる。

遺物 中期中葉(古府式)2群2類が1点(343)出土した。

時期 出土遺物より縄文時代中期中葉(古府式期)の土器埋設遺構と考えられる。



第91図 炉跡・土器埋設遺構・柱穴跡・広場跡位置図



第92図 炉跡SF278遺構図及び出土遺物実測図

第27表 炉跡一覽表

遺構NO	大グロフ		検出面	埋積状況	断面形状	平面形状	底面形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)
	東西	南北						上端	長さ	幅		
SF278	C	20	Q	地山	-	擬式印	-	1.06	0.70	-	1. 暗褐色砂質土 10YR3/3 2. 黒褐色土 7.5YR3/2 3. 明赤色砂質土 5YR5-8	-

## (2) 土器埋設遺構 SZ54

遺構(第93図) グリッドC-19Rにおいて、第IV層地山面上で確認した。胴部上半が欠損した縄文土器が正位で出土した。平面面で掘方を確認することができなかった。重複遺構はない。埋設土器内の埋土の土色・土質が第IV層地山と異っており、規模は土器の残存形とほぼ同じと考えられる。

遺物(第94図) 縄文RLの18群1類が1点(344)出土した。

時期 時期を判断することはできなかった。

## (3) 土器埋設遺構 SZ86

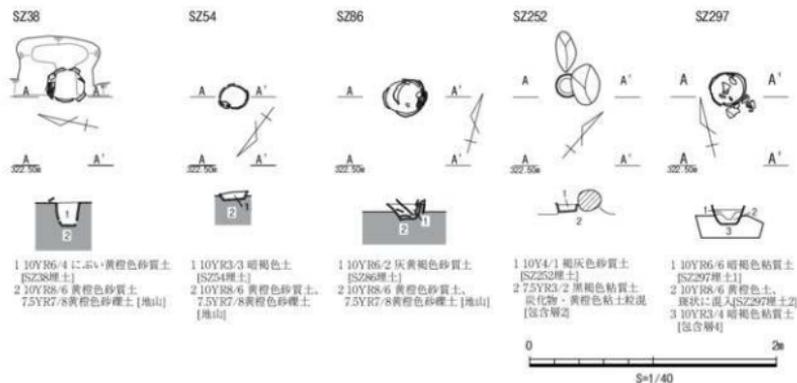
遺構(第93図) グリッドC-19Qにおいて、第IV層地山面上で確認した。胴部上半が欠損した縄文土器が正位で出土した。平面面で掘方を確認することができなかった。重複遺構はない。埋設土器内の埋土の土色・土質が第IV層地山と異っており、規模は土器の残存形とほぼ同じと考えられる。

遺物 底部が1点出土した。

時期 時期を判断することができなかった。

## (4) 土器埋設遺構 SZ252

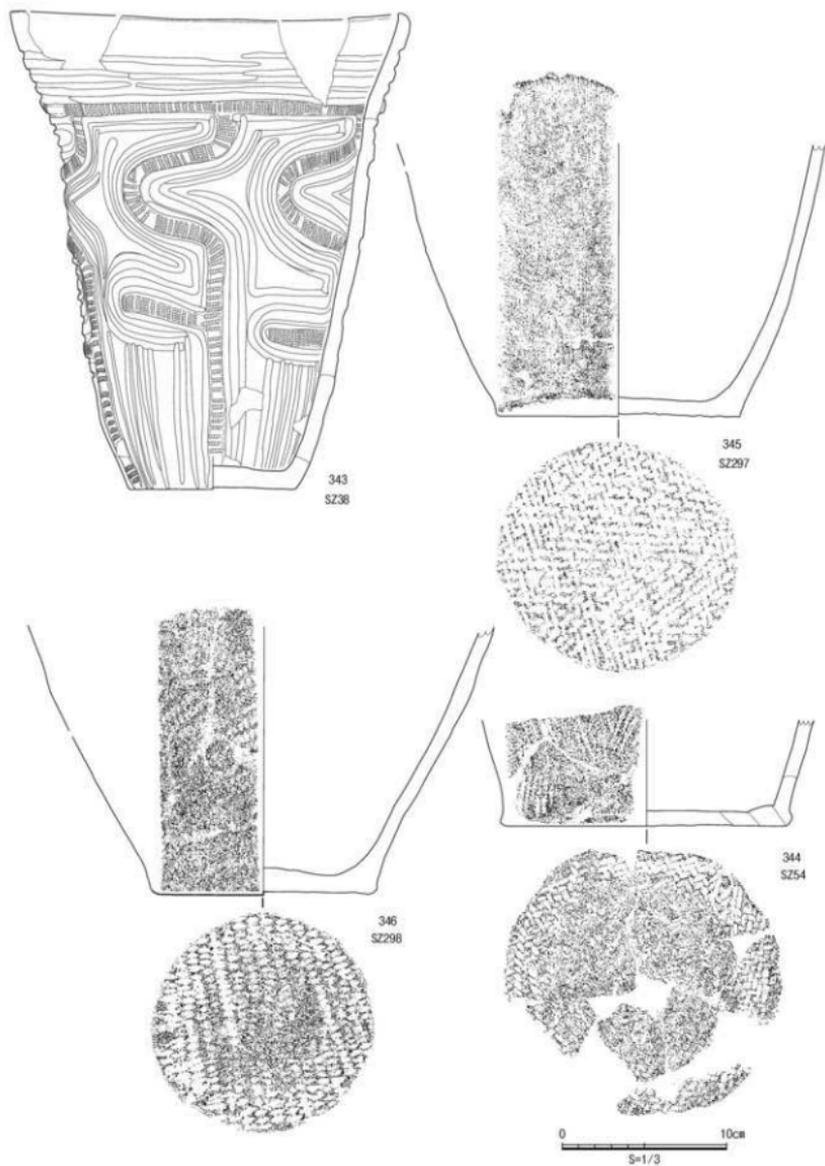
遺構(第93図) グリッドC-19Qにおいて、第III層包含層掘削中に検出した。上部を欠損した縄文土器が正位で出土した。検出面より浮いた状態で確認したため、平面形を確認できなかった。重複遺構はない。埋設土器北東側では、埋設土器に被さるように30cm大の礫1点確認した。また西側でも30cm大の礫1点を確認した。



第93図 土器埋設遺構遺構図

第28表 土器埋設遺構一覧表

遺構NO	グリッド	方位	検出 面	地層 状況	断面 形状	平面 形状	法量 (m)			埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)		
							上端	長さ					
								幅	厚				
SZ38	C	20	P	地山	a	-	-	0.34	0.29	0.19	1に近い黄褐色砂質土	10YR6/4	埋設土器。
SZ54	C	19	R	地山	a	-	-	0.24	0.21	0.08	暗褐色土	10YR3/3	埋設土器。
SZ86	C	19	Q	包含層	a	-	-	0.31	0.27	0.18	灰黄褐色砂質土	10YR6/2	埋設土器。
SZ252	C	19	Q	包含層	-	-	-	0.54	0.37	0.17	褐灰色砂質土	10YR4/1	埋設土器。検出面より浮いた状態で確認。
SZ297	E	15	A	包含層	-	-	-	0.31	0.27	0.18	1.暗褐色粘質土 2.黄褐色土	10YR6/6 10YR8/6	埋設土器。検出面より浮いた状態で確認。
SZ298	E	15	A	包含層	-	-	-	0.30	0.36	-	暗灰色粘質土	7.5YR4/1	埋設土器。検出面より浮いた状態で確認。



第94図 埋設土器実測図

遺物 底部が1点出土した。

時期 第Ⅲ2層包含層上での遺構であり、縄文時代中期後葉と考えられる。

#### (5) 土器埋設遺構 SZ297

遺構 (第93図) グリッドC-15Aにおいて、第Ⅲ4層包含層面上で確認した。縄文土器が正位で出土した。胴部上半は欠損している。断面で掘方を確認することができなかった。包含層掘削中に遺構面から浮いた状態で検出したため、平面形は不明である。重複遺構はない。埋設土器内の埋土は2層に分かれる。その土色・土質が検出面と異なっており、規模は土器の残存形とほぼ同じと考えられる。

遺物 (第94図) 全面に条線を施した土器が1点(345)出土した。

時期 第Ⅲ4層包含層中で確認したため、縄文時代中期後葉と考えられる。

#### (6) 土器埋設遺構 SZ298

遺構 グリッドC-15Aにおいて、第Ⅲ4層包含層面上で確認した。縄文土器が正位で出土した。胴部上半は欠損している。断面で掘方を確認することができなかった。包含層掘削中に遺構面から浮いた状態で検出したため、平面形は不明である。重複遺構はない。埋設土器内の埋土の土色・土質が第Ⅳ層地山と異なっていることから、規模は土器の残存形とほぼ同じと考えられる。

遺物 (第94図) 全面に縄文を施した土器18群2類が1点(346)出土した。

時期 第Ⅲ4層包含層中で確認したため、縄文時代中期後葉と考えられる。

### 4 柱穴跡 (第91図、第29表)

#### (1) 柱穴跡 SP145

遺構 (第95図) グリッドC-18Aにおいて、第Ⅳ層地山面上で確認した。底面から木柱根と考えられる木片が出土した。組み合わせるような木柱根を持つ遺構や柱穴跡を確認することはできなかった。単独の木柱であったと考えられる。木柱根の年代測定を実施したところ約4200年前の年代を得ることができた。遺跡の年代と一致すると考えられる。詳しくは第4章に述べる。

遺物 (第95図) 木柱根(347)の樹種はクリである。腐食しており、中心部から滅失しているものの外周は2/3が残存している。このため本来は円柱であったものと考えられる。外面には石斧による敲打痕が残る。底面は木柱から滲み出たタンニンと砂粒が硬化しており加工痕を観察することはできないが、水平を意識して平坦に整えられている。木柱根以外の遺物の出土はなかった。

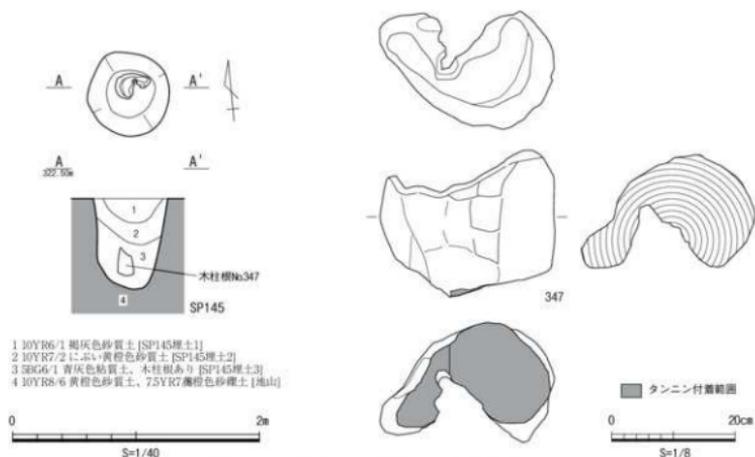
時期 年代測定の結果から、縄文時代中期後葉と考えられる。

### 5 広場跡 (第91図)

グリッドC-17Q・17R・18Q・18R・18Sにかけて、遺構密度が極端に少ない範囲が存在する。この範囲は、北～西～南側にかけて堅穴建物跡が連なり、北～東～南側にかけて土坑及び立石遺構が連なる。堅穴建物跡・立石遺構に囲まれ、意識的な理由で遺構密度が低い範囲であり、広場跡と考えられる。

第29表 柱穴跡一覧表

遺構 NO	大 ク リ ド	ホグリッド		検 出 面	地 盤 状 況	断 面 形 状	平 面 形 状	底 面 形 状	法量 (m)			埋 土	備 考 (切り合い、出土遺物等)
		東 西	南 北						上端		深さ		
									長径	短径			
SP145	E	18	A	地山	e	IV	a	a	0.72	0.67	0.52	1. 褐色砂質土 10YR6/1 2. 灰黄色砂質土 10YR7/2 3. 青灰色粘質土 5BG6/1	木柱根あり。



第95図 柱穴跡 SP145 遺構図及び木柱根実測図

## 6 土坑A類 (第96図、第30表)

土坑のうち、埋土に遺物を多く含み、底面近くで礫を検出したものを土坑A類とした。31基確認した。分布は調査区の北東隅及び中央部分に集中する。竪穴建物跡と相対して半弧状に連なる。礫は検出状況から、放り込まれたものと考えられ、廃棄土坑の可能性がある。代表的な8基 (SK17・SK26・SK27・SK30・SK134・SK276・SK607・SK664) を図示した。遺物は19基から出土した。

## (1) 土坑SK14

**遺構** グリッドC-190において、第Ⅲ2層包含層面上で確認した。調査区壁面に半分が埋まっており、残存部で、長径1.02m、短径0.70m、深さ0.71mを測り、円形を呈する。底面中央で礫6個を確認した。

**遺物** 縄文土器細片15点が出土した。

**時期** 検出面から、縄文時代中期後葉のものと考えられる。

## (2) 土坑SK17

**遺構** (第97図) グリッドC-190において、第Ⅳ層地山面上で確認した。残存部で、長径1.00m、短径1.00m、深さ0.11mを測り、円形を呈する。底面中央で礫2個を確認した。SK15に切られる。

**遺物** (第98図) 縄文土器細片21点、石器・石製品1点が出土し、横刃型石器1点(348)を図示した。

**時期** 時期を判断することはできなかった。

## (3) 土坑SK19

**遺構** グリッドC-190において、第Ⅳ層地山面上で確認した。長径0.91m、短径0.60m、深さ0.43mを測り、楕円形を呈する。底面中央より西壁にかけて礫6個を確認した。切り合いは土坑SK22を切る。

**遺物** 縄文土器細片10点が出土した。

**時期** 時期を判断することはできなかった。

## (4) 土坑SK22

**遺構** グリッドC-190において、第Ⅳ層地山面上で確認した。残存部で長径1.08m、短径0.86m、

深さ0.46mを測り、楕円形を呈する。底面南寄りで礫2個を確認した。切り合いは土坑SK19を切る。

遺物 確認しなかった。

時期 時期を判断することはできなかった。

#### (5) 土坑SK26

遺構 (第97図) グリッドC-190において、第IV層地山面上で確認した。長径1.36m、短径0.80m、深さ0.41mを測り、不整形楕円形を呈する。底面南寄りで礫4個を確認した。重複遺構はない。

遺物 (第98図) 接合前資料で縄文土器131点が出土した。中期後葉(串田新I式)の7群2類を1点(349)図示した。

時期 出土遺物から、縄文時代中期後葉(串田新I式期)のものと考えられる。

#### (6) 土坑SK27

遺構 (第97図) グリッドC-200において第IV層地山面上で確認した。長径1.21m、短径0.88m、深さ0.48mを測り、不整形を呈する。土坑内の東寄りで礫4個を確認した。重複遺構はない。

遺物 (第98図) 接合前資料で縄文土器299点が出土した。中期後葉(串田新II式)の9群5類を1点(350)・6類を1点(351)、中期後葉の10群1類を2点(352・353)、中期後葉から末葉の14群1類を1点(354)、中期末葉(岩崎野式)16群1類を1点(355)図示した。

時期 縄文時代中期後葉から末葉(串田新II～前田・岩崎野式期)のものと考えられる。

#### (7) 土坑SK28

遺構 グリッドC-20Pにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径1.03m、短径0.72m、深さ0.42mを測り、不整形を呈する。土坑内の西側壁面に沿って礫3個を確認した。重複遺構はない。

遺物 (第99図) 接合前資料で縄文土器65点、石器・石製品3点が出土した。中期後葉(串田新II式)の9群3類を1点(356)図示した。

時期 出土遺物より、中期後葉(串田新II式期)のものと考えられる。

#### (8) 土坑SK30

遺構 (第99図) グリッドC-20Pにおいて、第IV層地山面上で確認した。半分は調査区外である。残存部で長径0.86m、短径0.72m、深さ0.37mを測り、不整形楕円形を呈する。底面に礫2個を確認し、その上層で遺物がまとまって出土した。重複遺構はない。

遺物 (第99図) 接合前資料で縄文土器片325点、石器・石製品2点が出土した。中期後葉(串田新II式)の9群5類を1点(357)・浅鉢20群3類を1点(364)、中期後葉から末葉の14群2類を1点(358)・3類を2点(359・360)図示した。

時期 出土遺物より、縄文時代中期後葉(串田新II式期)のものと考えられる。

#### (9) 土坑SK36

遺構 グリッドC-19Pにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径1.02m、短径0.88m、深さ0.47mを測り、円形を呈する。上面に蓋状に礫1個、底面に礫2個を確認した。

遺物 縄文土器細片17点が出土した。

時期 時期を判断することができなかった。

#### (10) 土坑SK39

遺構 グリッドC-19Pにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径1.90m、短径1.08m、深さ0.20mを測り、円形を呈する。埋土掘削中に礫3個、底面に礫1個を確認した。

**遺物** (第99図) 接合前資料で縄文土器336点、石器・石製品10点が出土した。中期後葉(串田新Ⅱ式)の9群4類を1点(365)・8類を1点(366)、無文18群4類を1点(367)、中期末葉(前田・岩崎野式)の浅鉢20群5類を1点(368)図示した。

**時期** 出土遺物より、縄文時代中期後葉から末葉(串田新Ⅱ式～前田・岩崎野式期)と考えられる。

#### (11) 土坑 SK42

**遺構** グリッドC-19Pにおいて、第Ⅳ層地山面上で確認した。長径1.36m、短径1.04m、深さ0.40mを測り、円形を呈する。底面に礫6個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** (第100図) 接合前資料で縄文土器4点が出土した。中期末葉(前田・岩崎野式)の浅鉢20群5類を1点(369)図示した。

**時期** 出土遺物より、縄文時代中期末葉(前田・岩崎野式期)のものと考えられる。

#### (12) 土坑 SK85

**遺構** グリッドC-19Qにおいて、土坑SK675上で確認した。長径1.42m、短径0.92m、深さ0.39mを測り、円形を呈する。礫6個を確認し、その上層で遺物がまとまって出土した。切り合いは土坑SK675を切る。

**遺物** (第100図) 接合前資料で縄文土器293点、石器・石製品63点が出土した。中期後葉から末葉の14群1類を1点(370)、中期末葉(前田式)の15群1類を2点(371・372)図示した。

**時期** 出土遺物より、縄文時代中期末葉(前田・岩崎野式期)のものと考えられる。

#### (13) 土坑 SK93

**遺構** グリッドC-19Rにおいて、第Ⅳ層地山面上で確認した。長径0.59m、短径0.53m、深さ0.27mを測り、円形を呈する。底面東寄りに礫3個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 縄文土器細片5点が出土した。

**時期** 時期を判断することはできなかった。

#### (14) 土坑 SK133

**遺構** グリッドC-17Tにおいて、第Ⅳ層地山面上で確認した。長径0.81m、短径0.71m、深さ0.20mを測り、円形を呈する。底面中央に礫3個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** (第100図) 接合前資料で縄文土器83点、石器・石製品2点が出土した。中期末葉(前田式)の15群4類が1点(374)など出土した。

**時期** 出土遺物より、中期末葉(前田・岩崎野式期)のものと考えられる。

#### (15) 土坑 SK134

**遺構** グリッドC-17Tにおいて、第Ⅳ層地山面上で確認した。長径0.90m、短径0.78m、深さ0.34mを測り、円形を呈する。底面中央に礫2個、石皿1点を確認した。石皿は使用を終えて、他の礫とともに廃棄されたものと考えられる。重複遺構はない。

**遺物** (第100図) 縄文土器21点、石器・石製品4点が出土した。石皿を1点(376)図示した。

**時期** 時期を判断することはできなかった。

#### (16) 土坑 SK146

**遺構** グリッドC-18Aにおいて、第Ⅳ層地山面上で確認した。長径0.78m、短径0.47m、深さ0.25mを測り、円形を呈する。底面中央に礫3個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 確認しなかった。

**時期** 時期を判断することはできなかった。

## (17) 土坑 SK179

遺構 グリッド C-19R において、第IV層地山面上で確認した。長径 1.11 m、短径 1.04 m、深さ 0.59 m を測り、方形を呈する。底面中央に礫 1 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 (第 100 図) 中期後葉から末葉の 14 群 5 類が 2 点 (377・378) 出土した。

時期 出土遺物より、中期後葉から末葉 (串田新Ⅱ式～前田・岩崎野式期) のものと考えられる。

## (18) 土坑 SK180

遺構 グリッド C-19R において、第IV層地山面上で確認した。長径 1.08 m、短径 0.83 m、深さ 0.56 m を測り、方形を呈する。底面東寄りに礫 4 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 (第 101 図) 接合前資料で縄文土器 39 点出土した。中期後葉 (串田新Ⅰ式) の 7 群 1 類を 1 点 (379)、中期後葉から末葉の 14 群 3 類を 1 点 (380) 図示した。

時期 出土遺物より、中期後葉 (串田新Ⅰ式期) のものと考えられる。

## (19) 土坑 SK276

遺構 (第 97 図) グリッド C-19Q において、第IV層地山面上で確認した。長径 2.1 m、短径 1.38 m、深さ 0.53 m を測り、不整形を呈する。底面中央より北側で礫 10 個を確認した。切り合いは、土坑 (A 類) SK308 及び土坑 (A 類) SK361 を切る。

遺物 (第 101 図) 接合前資料で縄文土器 164 点、石器・石製品 17 点が出土した。中期後葉から末葉の 14 群 1 類を 1 点 (381)、17 群 2 類を 1 点 (382) 図示した。

時期 出土遺物より、中期後葉から末葉 (串田新Ⅱ式～前田・岩崎野式期) のものと考えられる。

## (20) 土坑 SK307

遺構 グリッド C-19R において、第IV層地山面上で確認した。長径 0.71 m、短径 0.60 m、深さ 0.22 m を測り、円形を呈する。底面中央で礫 2 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 (第 101 図) 接合前資料で縄文土器 46 点が出土した。17 群 2 類を 1 点 (383) 図示した。

時期 時期を判断することはできなかった。

## (21) 土坑 SK308

遺構 グリッド C-20Q において、第IV層地山面上で確認した。残存部で、長径 1.32 m、短径 0.60 m、深さ 0.22 m を測り、楕円形を呈する。埋土に礫 3 個、底面中央から東寄りに礫 8 個を確認した。切り合いは、土坑 A 類 SK276 に切られる。

遺物 石器・石製品 1 点が出土した。

時期 土坑 SK276 に切られることより、中期末葉以前のものと考えられる。

## (22) 土坑 SK361

遺構 グリッド C-19Q において、第IV層地山面上で確認した。残存部で長径 0.93 m、短径 0.45 m、深さ 0.21 m を測り、不整形を呈する。底面中央に礫 4 個を確認した。切り合いは、土坑 A 類 SK276 に切られる。

遺物 (第 101 図) 接合前資料で縄文土器 38 点、石器・石製品 5 点が出土した。土器は、中期後葉から末葉の 14 群 2 類を 1 点 (384)、中期末葉 (前田式) の 15 群 5 類を 1 点 (385)、石器・石製品は砥石を 1 点 (386) 図示した。

時期 出土遺物及び土坑 SK276 に切られることより、中期後葉 (前田・岩崎野式期) と考えられる。

## (23) 土坑 SK387

遺構 グリッド C-18T において、第IV層地山面上で確認した。長径 0.94 m、短径 0.76 m、深さ

0.42 mを測り、円形を呈する。底面中央から南寄りに礫4個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 縄文土器細片44点、石器・石製品4点が出土した。

**時期** 時期を判断することはできなかった。

#### (24) 土坑 SK402

**遺構** グリッドC-17Tにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径1.23 m、短径0.86 m、深さ0.21 mを測り、不整形を呈する。検出面で礫2個、掘削中に礫1個、底面で礫1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** (第101図) 縄文土器細片232点、石器・石製品16点が出土した。石鏃未製品を1点(387)、石核を1点(388)、敲石を1点(389)図示した。石核388は、大型の剝片を採ったものである。

**時期** 時期を判断することはできなかった。

#### (25) 土坑 SK408

**遺構** グリッドC-17Tにおいて、第IV層地山面上で確認した。残存部で、長径0.65 m、短径0.75 m、深さ0.24 mを測り、円形を呈する。埋土より礫4個を確認した。切り合いは土坑(A類)SK608に切られる。

**遺物** 縄文土器細片19点が出土した。

**時期** 土坑SK608に切られることより、中期後葉以前の遺構と考えられる。

#### (26) 土坑 SK607

**遺構** (第97図) グリッドC-17Tにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径0.92 m、短径0.88 m、深さ0.67 mを測り、円形を呈する。底面一帯で円礫4点、石棒2を確認した。重複遺構はないが、北側に土坑C類SK708が接する。

**遺物** (第102図) 縄文土器細片17点、石器・石製品4点出た。塩屋石製の石棒2点(390・391)が出土した。使用を終えて他の礫とともに廃棄されたものと考えられる。

**時期** 時期を判断することはできなかった。

#### (27) 土坑 SK608

**遺構** グリッドC-17Tにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径0.90 m、短径0.69 m、深さ0.19 mを測り、円形を呈する。検出面では礫1個と土器が敷かれたような状態で出た。切り合いは土坑(A類)SK408に切られる。

**遺物** (第102図) 接合前資料で縄文土器99点、石器・石製品17点が出土した。土器は、中期後葉(串田新Ⅱ式)の9群5類を1点(392)と17群1類を1点(393)図示した。石器・石製品は、石核が1点(394)、敲石が1点(395)など出た。敲石395は磨石を転用したものである。

**時期** 出土遺物より、中期後葉(串田新Ⅱ式)のものと考えられる。

#### (28) 土坑 SK641

**遺構** グリッドC-19Qにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径1.40 m、短径0.76 m、深さ0.54 mを測り、不整形を呈する。底面中央に礫1個を確認した。切り合いは土坑(C類)SK292に切られる。

**遺物** 石器・石製品1点が出土した。

**時期** 時期を判断することはできなかった。

#### (29) 土坑 SK664

**遺構** (第97図) グリッドE-14Dにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径1.52 m、短径1.45 m、深さ0.42 mを測り、円形を呈する。ほぼ完形に近い遺物と礫7個を確認した。重複遺構はない。

遺物（第103～105図） 接合前資料で縄文土器613点、石器・石製品3点が出土した。土器は、中期中葉の6群2類を1点（396）・3類を1点（397）・4類を2点（398・399）、中期後葉の12群を1点（400）図示した。石器・石製品は、石核を1点（402）図示した。石核402には研磨痕が残るため、砥石として使用していたものを転用したと考えられる。

時期 出土遺物から、縄文時代中期中葉と考えられる。

### (30) 土坑 SK675

遺構 グリッドC-19Qにおいて、第IV層地山面上で確認した。残存部で長径2.22m、短径1.74m、深さ0.73mを測り、不定形を呈する。底面で礫3個を確認した。土坑A類SK693に切られる。

遺物（第105図） 接合前資料で縄文土器81点、石器・石製品8点が出土した。土器は、中期末葉（前田・岩崎野式）の浅鉢20群5類が1点（404）など出土した。石器・石製品は、打製石斧が1点（405）、敲石が1点（406）、石棒未製品が1点（407）出土した。石棒407は剥離段階のものである。

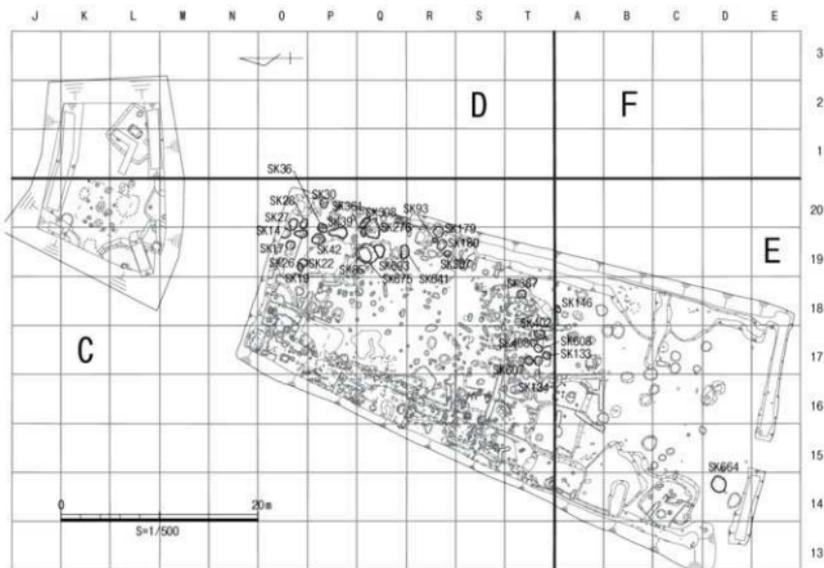
時期 出土遺物より、縄文時代中期末葉（前田・岩崎野式期）のものと考えられる。

### (31) 土坑 SK693

遺構 グリッドC-19Qにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径1.39m、短径0.99m、深さ0.30mを測り、不定形を呈する。底面で礫13個を確認した。土坑（A類）SK675を切る。

遺物 確認しなかった。

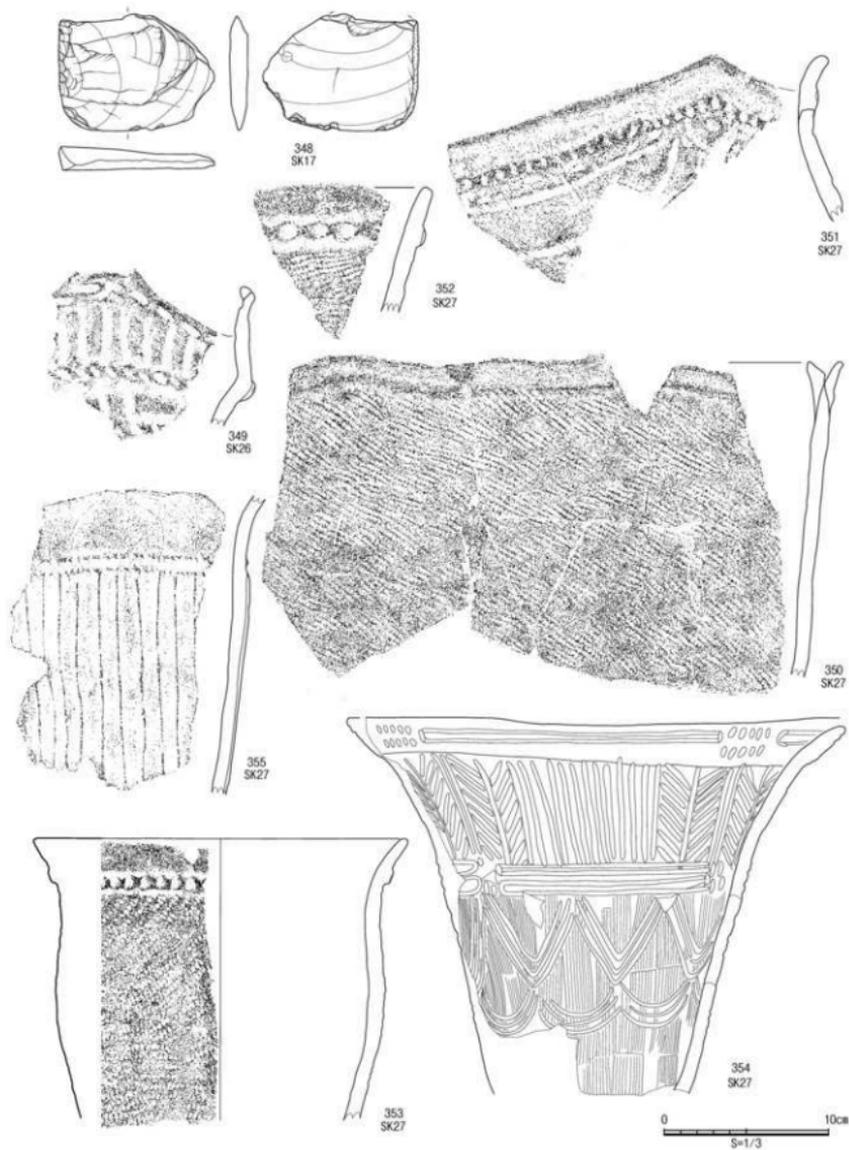
時期 土坑SK675に切られることより、中期末葉以前のものと考えられる。



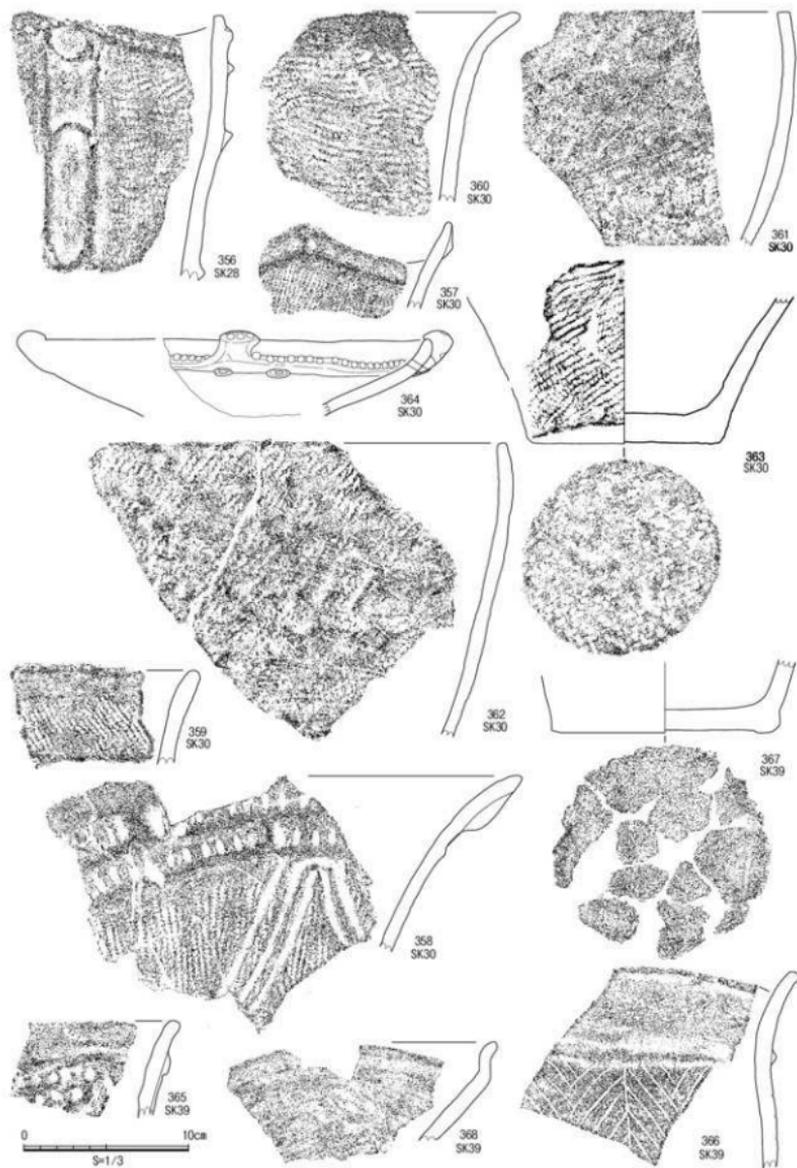
第96図 土坑A類位置図



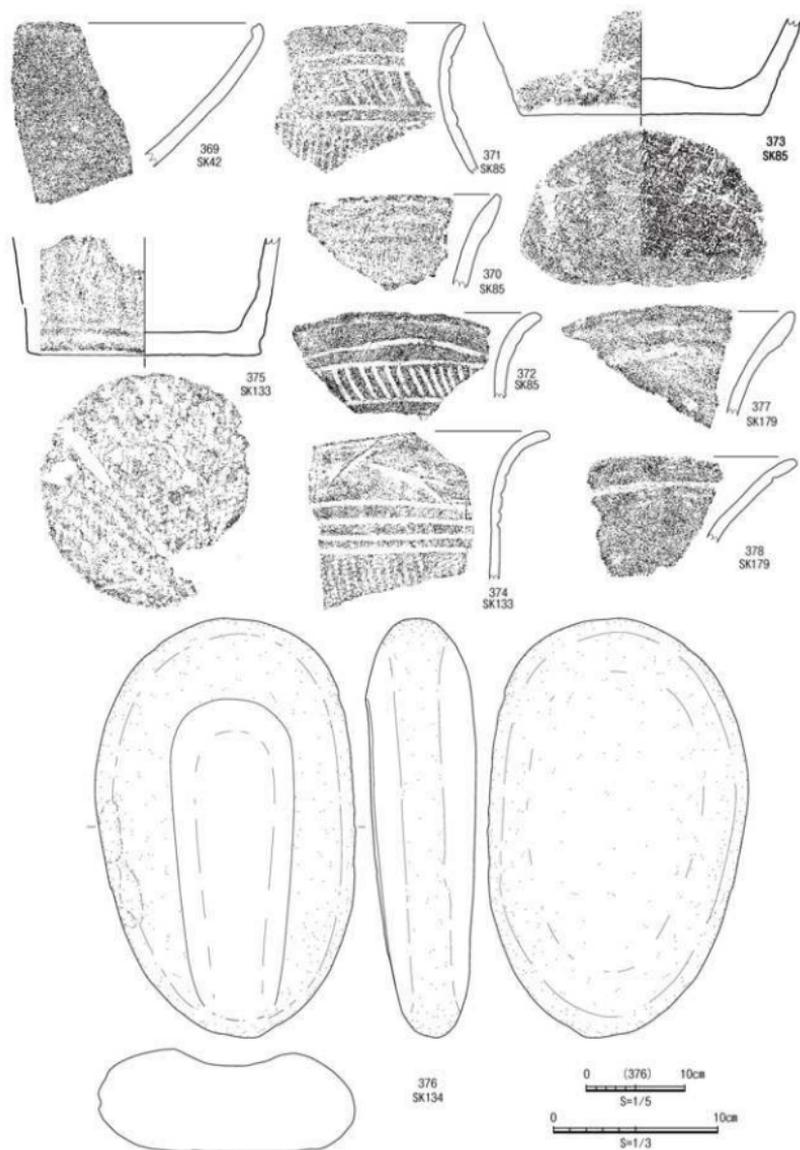
第97図 土坑A類遺構図



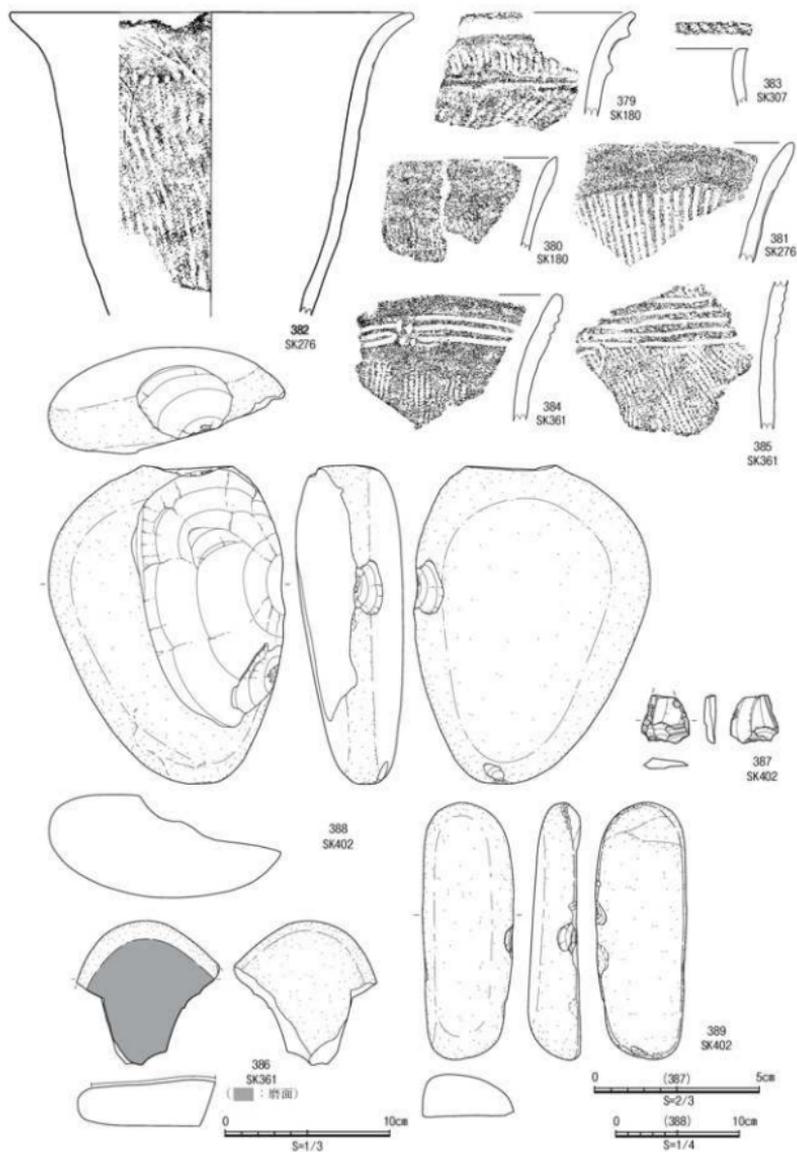
第96図 土坑A類出土遺物実測図(1) SK17・SK26・SK27



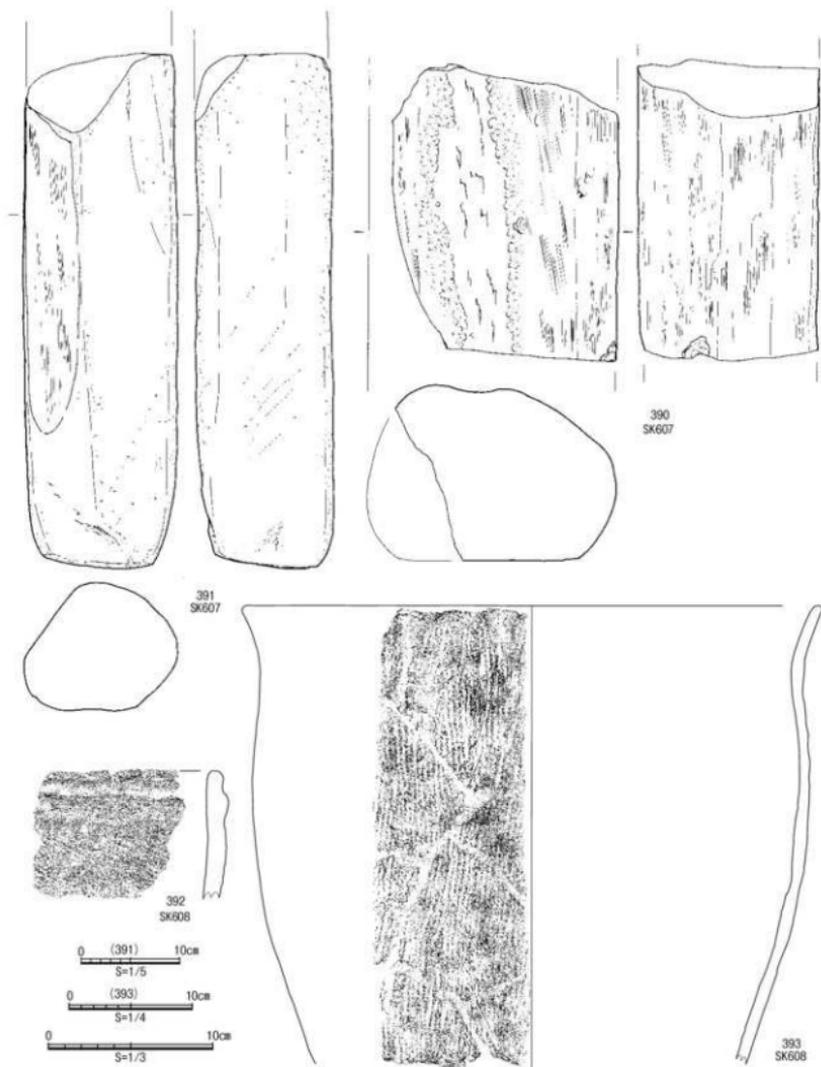
第99図 土坑A類出土遺物実測図(2) SK30・SK39



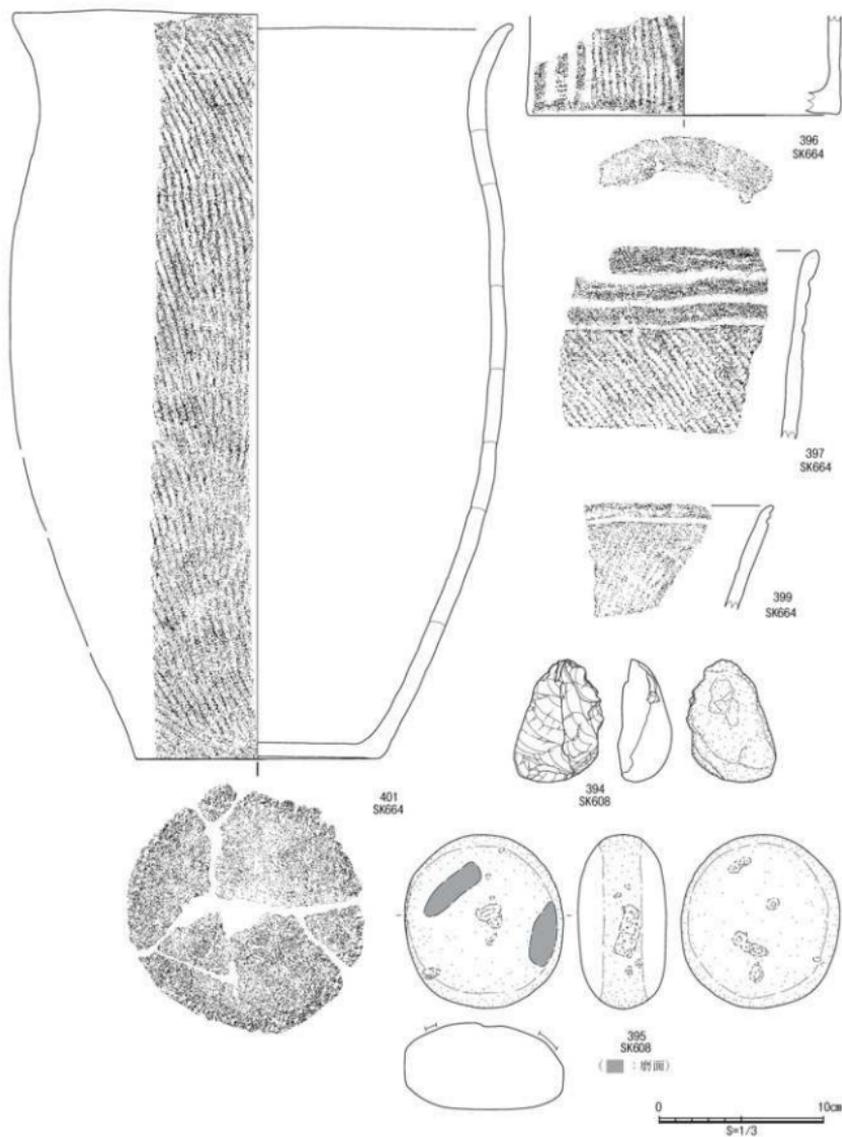
第100図 土坑A類出土遺物実測図(3) SK42・SK85・SK133・SK134・SK179



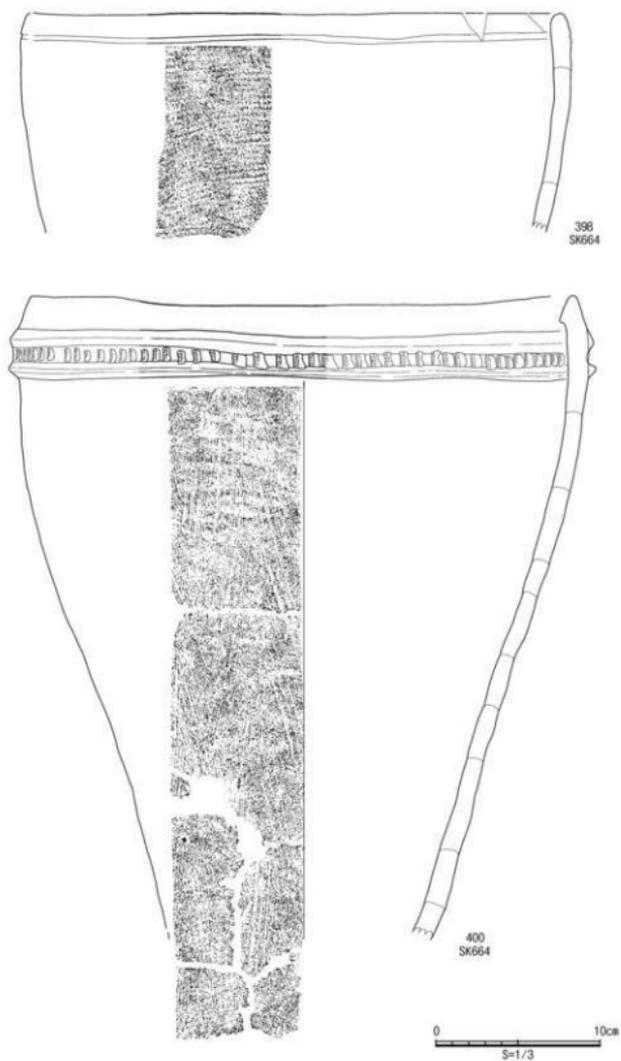
第101図 土坑A類出土遺物実測図(4) SK180・SK276・SK307・SK361・SK402



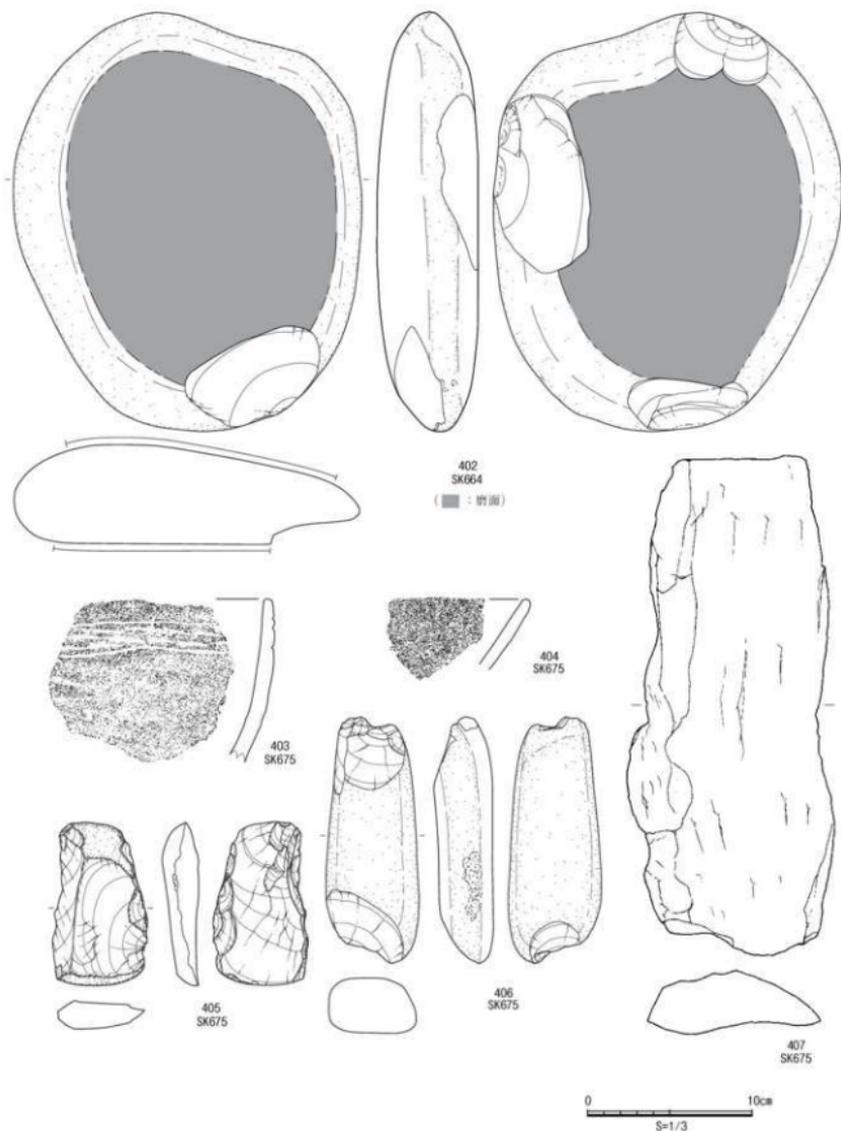
第102図 土坑A類出土遺物実測図(5) SK607・SK608(1)



第103図 土坑A類出土遺物実測図 (6) SK608 (2)・SK664 (1)



第104図 土坑A類出土遺物実測図(7) SK664(2)



第105図 土坑A類出土遺物実測図(8) SK664(3)・SK675

第30表 土坑A類一覧表

遺構NO	大方向	方位	開口形状	地層状況	平面形状	底面形状	法長 (m)			土質	備考 (切り合い、出土遺物等)			
							上層		深さ					
							長径	短径						
SK14	C	19	O	包含層	a	IV	a	a	(1.02)	(0.70)	0.71	黄褐色砂質土	10YR5/6	層6出土。
SK17	C	19	O	地山	a	IV	a	a	(1.00)	(1.00)	0.11	暗褐色粘質土	10YR3/3	SK17 > SK15。
SK19	C	19	O	地山	a	IV	c	c	0.91	0.60	0.43	褐色砂質土	7.5YR4/4	層出土。SK19 > SK22。
SK22	C	19	O	地山	a	IV	a	a	(1.08)	(0.86)	0.46	褐色砂質土	7.5YR4/3	層出土。SK19 > SK22。
SK26	C	19	O	地山	d	IV	c	c	1.36	0.80	0.41	1. 褐色砂質土 2. 黒褐色粘質土 3. 灰白色粘質土 4. 上・ふい黄褐色砂質土	10YR5/1 10YR3/1 10YR7/1 10YR6/3	層出土。
SK27	C	20	O	地山	a	IV	c	c	1.21	0.88	0.48	褐色砂質土	10YR4/1	遺物がほぼ完形で出土。
SK28	C	20	P	地山	a	IV	c	a	1.03	0.72	0.42	褐色砂質土	10YR4/1	層出土。
SK30	C	20	P	地山	a	IV	b	a	(0.86)	(0.72)	0.37	黒褐色粘質土	10YR3/1	上層より遺物出土。底面からは層出土。
SK36	C	19	P	地山	a	IV	a	a	1.02	0.88	0.47	黒褐色土	10YR2/2	底面より層出土。
SK39	C	19	P	地山	a	IV	c	c	1.90	1.08	0.20	上・ふい黄褐色砂質土	10YR5/3	底面に大礫・遺物有り。
SK42	C	19	P	地山	a	IV	c	c	1.36	1.04	0.40	暗褐色土	10YR3/3	埋土が砂質土系。
SK85	C	19	Q	包含層	a	IV	c	c	1.42	0.92	0.39	黒褐色砂質土	7.5YR3/1	腐食された状態で遺物出土。
SK93	C	19	R	地山	a	IV	a	a	0.59	0.53	0.27	黒色砂質土	10YR3/2	粗砂粒土。底面に円筒含む。
SK133	C	17	T	地山	a	IV	a	b	0.81	0.71	0.20	黒褐色粘質土	7.5YR3/1	底面より層出土。
SK134	C	17	T	地山	a	IV	a	a	0.90	0.78	0.34	黒褐色粘質土	7.5YR3/1	底面より層出土。
SK146	C	18	A	地山	a	IV	a	a	0.78	0.47	0.25	褐色砂質土	10YR6/1	底面より層出土。
SK179	C	19	R	地山	a	IV	b	a	1.11	1.04	0.59	褐色土	7.5YR4/3	底面より層1出土。
SK180	C	19	R	地山	c	IV	b	b	1.08	0.83	0.56	1. 暗褐色土 2. 褐色土	10YR3/3 7.5YR4/3	ブロック形状に含む。
SK276	C	19	Q	地山	a	IV	c	b	2.10	1.38	0.53	褐色砂質土	10YR6/1	底面に層出土。SK276 > SK308・SK361。
SK307	C	19	R	地山	a	IV	a	a	0.71	0.60	0.22	灰黄褐色砂質土	10YR6/2	層出土。
SK308	C	20	Q	地山	a	IV	a	a	1.32	(0.60)	0.22	灰黄褐色砂質土	10YR6/2	底面より層出土。SK276 > SK308。
SK361	C	19	Q	地山	a	IV	c	c	0.93	(0.45)	0.21	黒褐色土	7.5YR3/2	層出土。SK276 > SK361。
SK387	C	18	T	地山	a	IV	a	a	0.94	0.76	0.42	黒褐色土	7.5YR3/1	層出土。
SK402	C	17	T	地山	b	IV	c	c	1.23	0.86	0.21	1. 黒褐色土 2. 黒褐色土 3. 褐色砂質土	10YR3/1 10YR2/2 7.5YR4/4	川原石検出。層出土。 色調は1層と同じ。炭粒の含有率が多いため、色調は暗い。
SK408	C	17	T	地山	a	IV	a	c	(0.65)	0.75	0.24	灰黄褐色砂質土	10YR5/2	1,2層とは色調が異なる。別遺構か?
SK907	C	17	T	地山	a	I	a	a	0.92	0.88	0.67	灰褐色粘質土	7.5YR6/2	底面より層出土。
SK908	C	17	T	地山	a	IV	a	a	0.90	0.69	0.19	褐色砂質土	10YR4/1	上面に遺物の散乱。SK908 > SK408。
SK941	C	19	Q	地山	a	IV	c	c	1.40	0.76	0.54	黒褐色砂質土	7.5YR2/2	-
SK964	E	14	D	地山	a	IV	a	a	1.52	1.45	0.42	1. 暗褐色土 2. 暗褐色粘質シルト	7.5YR3/3 10YR3/4	完形遺物出土。
SK975	C	19	Q	地山	a	IV	c	c	(2.22)	1.74	0.73	褐色砂質土	10YR5/1	底面より層出土。
SK993	C	19	Q	地山	a	IV	c	c	1.39	0.99	0.30	褐色砂質土	10YR2/3	底面から層出土。

## 7 土坑B類 (第106図、第31表)

検出面で礫を確認したものを土坑B類とした。21基確認した。分布は調査区の南東、堅穴建物跡群や土坑A群の外側に集中する。調査区の南東隅には湧水があり、一帯は低湿地のように遺構検出面が湿った状態であった。土坑B類の掘削後は、底面に水分を含んだ状態であった。21基の内、3基 (SK158・SK215・SK219) ではオニグルミを確認した。このため土坑B類はオニグルミの灰汁抜きや虫抜きを伴った貯蔵穴であったと考えられる。代表的な9基 (SK141・SK158・SK172・SK209・SK211・SK212・SK215・SK220・SK322) を図示した。

## (1) 土坑SK141

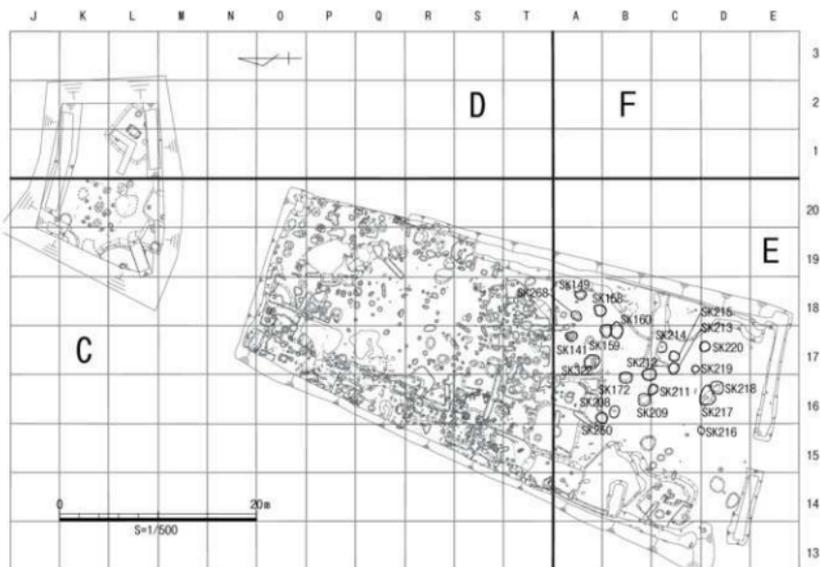
**遺構** (第107図) グリッドE-17Aにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径1.10m、短径1.05m、深さ0.06mを測り、楕円形を呈する。検出時に中央で5～40cm大の礫9個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 縄文土器1点が出土した。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (2) 土坑SK149

**遺構** グリッドE-18Aにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径1.19m、短径0.89m、深さ0.32mを測り、楕円形を呈する。土坑検出時に中央で5～40cm大の礫9個を確認した。重複遺構はない。



第106図 土坑B類位置図

第31表 土坑B類一覧表

遺構NO	大方向	セグメント	検出面	掘削状況	断面形状	法量 (m)			土	備考 (切り合い、出土遺物等)			
						長さ	幅	深さ					
SK141	E	17	A	地山	a	VI	a	1.10	1.05	0.06	にぶい赤褐色粘質シルト	5YR6/4	検出時に産9確認。
SK149	E	18	A	地山	a	IV	a	1.19	0.89	0.32	灰色砂質土	7.5Y4/1	検出時に産確認。
SK158	E	18	B	地山	a	IV	a	1.30	1.15	0.22	黒色粘土シルト	7.5YR4/3	検出時に産29確認。オニグルミ出土。
SK159	E	17	B	地山	a	IV	c	1.33	1.12	0.10	灰色砂質土	5Y5/1	検出時に産9確認。SK159 > SK160。
SK160	E	17	B	地山	a	IV	c	1.23	1.22	0.09	灰色砂質土	5Y5/1	検出時に産確認。SK159 > SK160。
SK172	E	16	B	地山	a	IV	b	1.29	1.11	0.05	オリブ黒色砂質土	7.5YR3/1	検出時に産17確認。
SK208	E	16	B	地山	a	IV	a	1.21	0.95	0.30	灰色砂質土	7.5YR6/1	検出時に産2確認。
SK209	E	16	B	地山	a	IV	b	1.33	1.38	0.10	灰色砂質土	7.5YR6/1	検出時に産44確認。
SK211	E	16	C	地山	a	IV	a	1.20	0.95	0.22	灰色砂質土	7.5YR6/1	検出時に産9確認。
SK212	E	16	B	地山	a	IV	a	1.42	1.30	0.30	黒粘土	10YR1.7/1	検出時に産15確認。
SK213	E	17	C	地山	a	IV	c	1.20	1.05	0.15	1. 灰色砂質土	7.5Y5/1	検出時に産確認。
											2. オリブ黒色粘土	7.5Y3/1	
SK214	E	17	C	地山	a	IV	a	1.11	0.78	0.11	黒粘土	10YR1.7/1	検出時に産確認。
SK215	E	17	C	地山	a	IV	b	1.00	1.00	0.17	灰色砂質土	7.5Y5/1	検出時に産18確認。オニグルミ出土。
SK216	E	15	C	地山	a	IV	c	0.94	0.68	0.28	灰褐色粘質シルト	10YR4/1	検出時に産確認。
SK217	E	16	D	地山	a	IV	c	(1.74)	1.61	0.19	1. オリブ黒色砂質土	5Y5/4	検出時に産4確認。SK218 > SK217。
											2. オリブ黒色粘質シルト	7.5Y3/1	
SK218	E	16	D	地山	a	IV	b	1.44	1.33	0.51	1. 暗灰色粘質シルト	N3	検出時に産4確認。木片出土。 SK218 > SK217。
											2. 灰色粘質土	5Y5/1	
											3. オリブ黒色砂質土	5Y3/1	
											4. オリブ黒色粘質土	7.5YR2/1	
											5. 黒色粘質シルト	7.5YR2/1	
SK219	E	17	C	地山	a	IV	a	0.74	0.74	0.17	灰色砂質土	7.5Y4/1	検出時に産確認。オニグルミ出土。
SK220	E	17	D	地山	a	IV	a	1.08	1.04	0.11	黒粘土	10YR1.7/1	検出時に産10確認。
SK250	E	16	A	地山	c	IV	a	1.15	1.12	0.50	褐色粘土シルト	7.5YR4/1	検出時に産確認。
SK268	E	18	A	地山	a	IV	a	1.12	0.83	0.29	灰色粘質シルト	5Y5/1	検出時に産確認。
SK322	E	17	A	地山	a	IV	c	1.65	1.42	0.16	灰色砂質土	5Y5/1	検出時に産24確認。

遺物 縄文土器7点、石器・石製品1点が出土した。

時期 時期を断定することはできなかった。

### (3) 土坑 SK158

遺構 (第107図) グリッドE-18Bにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径130m、短径115m、深さ0.22mを測り、円形を呈する。検出時に中央で4～30cm大の礫27個を確認した。重複遺構はない。

遺物 (第108図) 接合前資料の土器102点出土し、3群5類を1点(408)、6類を1点(409)図示した。またオニグルミが3点出土した。オニグルミの自然科学分析については第4章で詳述する。

時期 出土遺物より、縄文時代中期中葉(古串田新式期)と考えられる。

### (4) 土坑 SK159

遺構 グリッドE-17Bにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径133m、短径112m、深さ0.10mを測り、不整形を呈する。土坑検出時に礫9個を確認した。土坑SK160を切る。

遺物 接合前資料で土器34点、石器・石製品が1点出土した。

時期 時期を断定することはできなかった。

### (5) 土坑 SK160

遺構 グリッドE-17Bにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径123m、短径122m、深さ0.09mを測り、不整形を呈する。土坑検出時に礫を確認した。土坑SK159に切られる。

遺物 (第108図) 接合前資料で縄文土器が10点出土した。2群1類を1点(410)図示した。

時期 出土遺物より、縄文時代中期中葉(古府式期)と考えられる。

### (6) 土坑 SK172

遺構 (第107図) グリッドE-16Bにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径129m、短径111m、深さ0.05mを測り、方形を呈する。土坑検出時に10～60cm大の礫17個を確認した。重複遺構はない。

遺物 縄文土器細片5点、石器・石製品3点が出土した。

時期 時期を断定することはできなかった。

### (7) 土坑 SK208

遺構 グリッドE-16Bにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径121m、短径0.95m、深さ0.30mを測り、円形を呈する。土坑検出時に礫2個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

### (8) 土坑 SK209

遺構 (第107図) グリッドE-16Bにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径133m、短径138m、深さ0.10mを測り、方形を呈する。土坑検出時に5～30cm大の礫44個を確認した。重複遺構はない。

遺物 (第108図) 縄文土器細片が2点、打製石斧が1点(411)出土した。

時期 時期を断定することはできなかった。

### (9) 土坑 SK211

遺構 (第107図) グリッドE-16Cにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径120m、短径0.95m、深さ0.22mを測り、楕円形を呈する。土坑検出時に5～15cm大の礫8個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

## (10) 土坑 SK212

**遺構** (第107図) グリッド E-16B において、第IV層地山面上で確認した。長径 1.42 m、短径 1.20 m、深さ 0.20 m を測り、円形を呈する。土坑検出時に 3～15 cm 大の礫 15 個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 縄文土器細片 5 点、石器・石製品 4 点が出土した。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (11) 土坑 SK213

**遺構** グリッド E-17C において、第IV層地山面上で確認した。長径 1.20 m、短径 1.06 m、深さ 0.15 m を測り、不定形を呈する。土坑検出時に礫を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 縄文土器細片 7 点が出土した。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (12) 土坑 SK214

**遺構** グリッド E-17C において、第IV層地山面上で確認した。長径 1.11 m、短径残存部で 0.78 m、深さ 0.11 m を測り、円形を呈する。土坑検出時に礫を確認した。

**遺物** 遺物の出土はなかった。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (13) 土坑 SK215

**遺構** (第107図) グリッド E-17C において、第IV層地山面上で確認した。長径 1.00 m、短径 1.00 m、深さ 0.17 m を測り、隅丸方形を呈する。土坑検出時に 3～40 cm 大の礫 18 個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** (第108図) 接合前資料で縄文土器が 75 点、石器・石製品が 9 点、オニグルミが 30 点出土した。土器は 6 群 3 類が 1 点 (412)、7 群 1 類が 1 点 (413) 出土した。石器・石製品は打製石斧が 1 点 (414)、敲石が 1 点 (415) が出土した。378 は表裏に磨面を確認でき、敲打痕が磨面を切っていることから、磨石を敲石に転用したものと考えられる。オニグルミの自然科学的分析については第 4 章で詳述する。

**時期** 土器 413 及びオニグルミの年代より、縄文時代中期後葉(申田新 I 式期) であると考えられる。

## (14) 土坑 SK216

**遺構** グリッド E-15C において、第IV層地山面上で確認した。長径 0.94 m、短径 0.68 m、深さ 0.28 m を測り、不定形を呈する。土坑検出時に礫を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 石器・石製品が 1 点出土した。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (15) 土坑 SK217

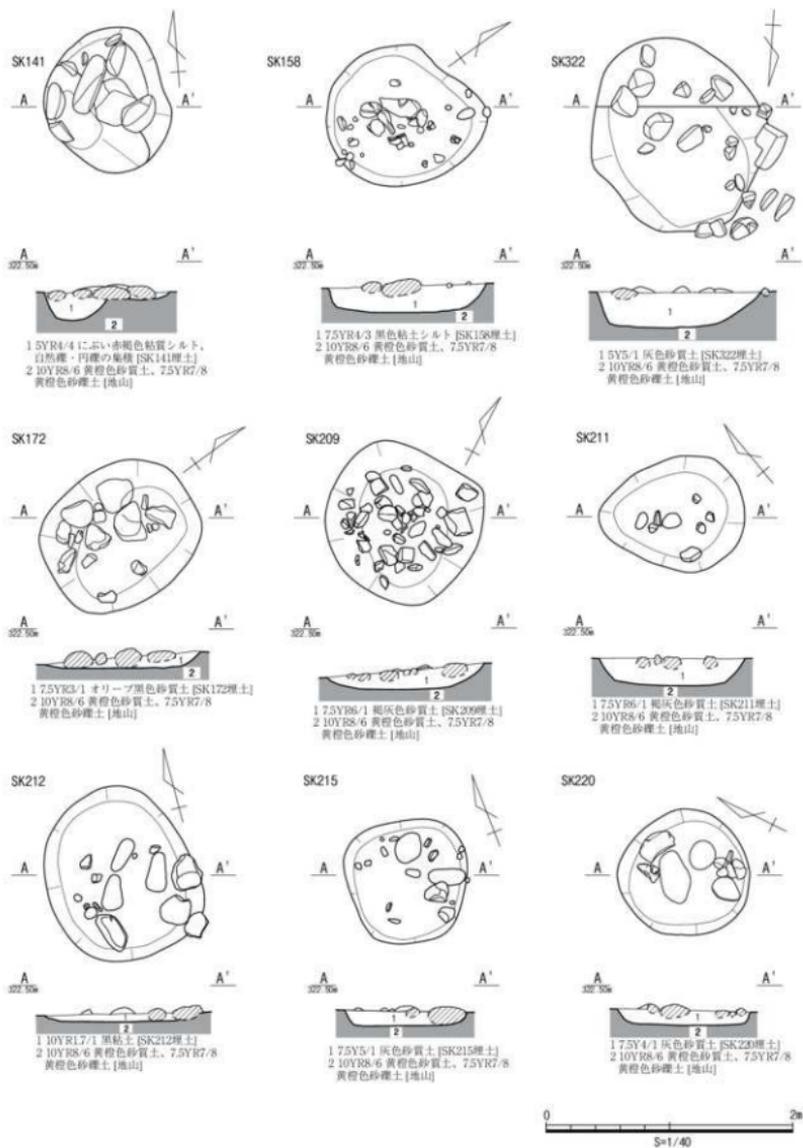
**遺構** グリッド E-16D において、第IV層地山面上で確認した。残存部長径 1.74 m、短径 1.61 m、深さ 0.19 m を測り、不定形を呈する。土坑検出時に礫 4 個を確認した。土坑 SK218 に切られる。

**遺物** (第108図) 縄文土器細片 10 点、石器・石製品 4 点が出土し、磨製石斧 1 点 (416) を図示した。

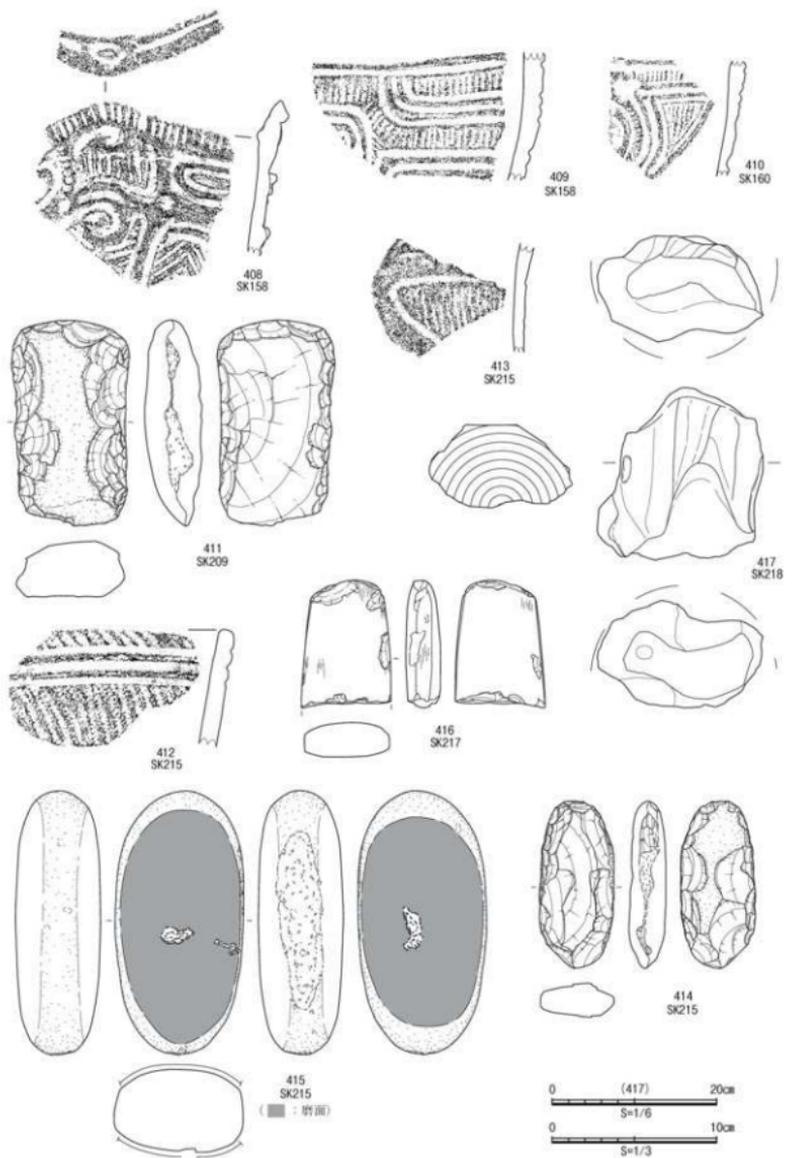
**時期** 土坑 SK218 に切られることより、縄文時代中期末から後期初頭と考えられる。

## (16) 土坑 SK218

**遺構** グリッド E-16D において、第IV層地山面上で確認した。長径 1.44 m、短径 1.33 m、深さ 0.51 m を測り、方形を呈する。土坑検出時に礫 4 を確認した。土坑 SK217 を切る。



第107図 土坑B類遺構図



第108図 土坑B類遺物実測図 SK158・SK160・SK209・SK215・SK217・SK218

遺物（第108図） 縄文土器細片が4点、木材片が1点（417）出土した。木材片の自然科学分析については第4章で詳述する。

時期 417は一辺に切断痕を観察できるトチノキの木材片である。それ以上の加工は無く、表皮が失われていることから、水漬けにした後の利用を意図し、埋めていたものの可能性がある。自然科学分析の年代より縄文時代中期末葉から後期前葉と考えられる。

#### (17) 土坑 SK219

遺構 グリッドE-17Cにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径0.74m、短径0.74m、深さ0.17mを測り、円形を呈する。土坑検出時に礫を確認した。重複遺構はない。

遺物 縄文土器細片44点、石器・石製品6点、オニグルミ44点が出土した。オニグルミの自然科学的分析については第4章で詳述する。

時期 オニグルミの年代より、縄文時代中期後葉と考えられる。

#### (18) 土坑 SK220

遺構（第107図） グリッドE-17Dにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径1.08m、短径1.04m、深さ0.11mを測り、円形を呈する。土坑検出時に5～50cm大の礫10個を確認した。重複遺構はない。

遺物 縄文土器細片5点、石器・石製品1点が出土した。

時期 時期を断定することはできなかった。

#### (19) 土坑 SK250

遺構 グリッドE-16Aにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径1.15m、短径1.12m、深さ0.50mを測り、円形を呈する。土坑検出時に礫を確認した。重複遺構はない。

遺物 縄文土器細片26点、石器・石製品2点が出土した。

時期 時期を断定することはできなかった。

#### (20) 土坑 SK268

遺構 グリッドE-18Aにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径1.12m、短径0.83m、深さ0.29mを測り、円形を呈する。土坑検出時に礫を確認した。重複遺構はない。

遺物 縄文土器細片12点、石器・石製品2点が出土した。

時期 時期を断定することはできなかった。

#### (21) 土坑 SK322

遺構（第107図） グリッドE-17Aにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径1.65m、短径1.42m、深さ0.16mを測り、不定形を呈する。土坑検出時に西・南側で5～40cm大の礫24個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

### 8 土坑C類（第109図、第32表）

立石を伴うものを土坑C類とした。38基確認した（第32表）。分布は、調査区の中央部である。竪穴建物跡・土坑A類・土坑B類の内側で広場跡を囲み、山側に張り出す形で弧状に連なる（第109図）。22基（SK461・SK41・SK183・SK313・SK317・SK319・SK378・SK87・SK257・SK292・SK101・SK316・SK293・SK294・SK315・SK300・SK709・SK244・SK687・SK690・SK692・SK708）を図示

した。広場跡で行われた祭祀に関わる遺構か、墓であった可能性がある。

ほとんどは土坑1基につき立石1個である。立石2個はSK293・SK294・SK690の3基である。立石3個はSK692のみであった。

立石に塩屋石を使用していたものは、SK257・SK638・SK709の3基である。塩屋石は、当地で石椁の材料として使用される石材である。

立石の大きさ・土中に埋まっている深さと土坑の大きさ・深さが変わらないものが多い。土坑の大きさが立石に対して特に大きいものはSK293のみである。土坑の深さが立石に対して特に深いものはSK183・SK294の2基である。

#### (1) 土坑 SK41

**遺構** (第110図) グリッドC-19Pにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径0.38m、短径0.30m、深さ0.13mを測り、円形を呈する。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 接合前資料で縄文土器51点、石器・石製品6点が出土した。

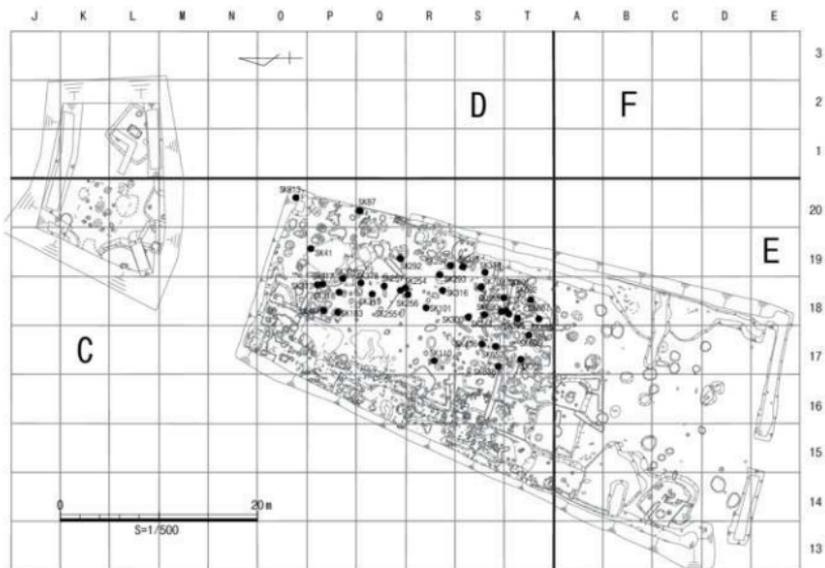
**時期** 時期を断定することはできなかった。

#### (2) 土坑 SK87

**遺構** (第110図) グリッドC-20Qにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径0.28m、残存部短径0.15m、深さ0.20mを測り、円形を呈する。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 接合前資料で縄文土器114点が出土した。

**時期** 時期を断定することはできなかった。



第109図 土坑C類位置図

## (3) 土坑 SK101

遺構 (第110図) グリッドC-18Rにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径0.29m、残存部短径0.12m、深さ0.38mを測り、円形を呈する。立石1個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

## (4) 土坑 SK110

遺構 グリッドC-17Rにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径0.38m、短径0.33m、深さ0.55mを測り、円形を呈する。立石1個を確認した。重複遺構はない。

遺物 接合前資料で縄文土器2点が出土した。

時期 時期を断定することはできなかった。

第32表 土坑C類一覧表

遺構NO	方グリッド	方位	検出面	地山	断面形状	埋積状況	平面形状	穴底形状	注量 (m)		土質	備考 (切り合い、出土遺物等)		
									土層					
									長径	短径				
SK41	C	19	P	地山	a	I	a	a	0.38	0.30	0.13	褐色砂質土	10YR4/4	立石。
SK87	C	20	Q	地山	a	I	a	a	0.28	(0.15)	0.20	灰黄褐色砂質土	10YR4/2	立石。
SK101	C	18	R	地山	a	I	a	a	0.29	(0.12)	0.38	灰黄褐色砂質土	10YR5/2	立石。
SK110	C	17	R	地山	a	I	a	a	0.38	0.33	0.55	褐色砂質土	7.5YR4/4	上面に軍角礫10cm～35cm、立石。
SK183	C	18	P	地山	c	VI	b	a	1.28	1.22	0.76	1. 褐色砂質土 2. 褐色砂質土	10YR4/1 10YR6/1	立石。
SK244	C	18	S	地山	a	II	b	a	0.33	0.26	0.06	黒褐色砂質土	10YR3/1	立石。
SK254	C	18	Q	地山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	立石。東方不明。
SK255	C	18	Q	地山	a	IV	a	-	0.40	0.34	-	灰褐色砂質土	7.5YR5/2	立石2石。
SK256	C	18	R	地山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	立石。東方不明。
SK257	C	18	Q	地山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	立石。東方不明。
SK292	C	19	Q	地山	a	VI	a	a	0.34	(0.30)	0.30	オリーブ褐色砂質土	2.5YR4/4	立石。
SK293	C	19	R	地山	-	IV	c	a	1.74	1.62	0.56	1. 褐色砂質土 2. 褐色砂質土	7.5YR4/3 7.5YR4/3	立石2石。 1層と同じ層に砂であるかやや径が大きい。
SK294	C	19	R	地山	-	IV	b	a	1.16	1.00	0.30	1. 暗褐色砂質土 2. 褐色砂質土	10YR3/3 10YR4/4	1層が塊状に混入しやや全体が暗くなる。
SK300	C	18	S	地山	b	II	a	a	(0.48)	0.47	0.51	1. 褐色砂質土 2. にぶい黄褐色砂 3. にぶい黄褐色砂質土 4. 黒褐色粘質土	10YR5/1 10YR7/3 10YR5/4 10YR3/1	立石。
SK301	C	18	P	地山	a	-	-	-	-	-	-	褐色砂質土	10YR5/1	立石。
SK313	C	18	P	地山	a	VI	c	c	0.31	0.28	0.29	暗褐色砂質土	10YR3/3	立石。
SK314	C	19	S	地山	-	II	-	-	-	-	-	1. 褐色砂質土 2. 灰色砂質土	7.5YR4/3 7.5YR4/2	立石。 1層に比して、粒子は細かく、色調は暗い。
SK315	C	19	S	地山	a	II	c	c	0.53	(0.28)	-	1. 褐色砂質土 2. 褐色砂質土	7.5YR5/1 7.5YR7/6	立石。
SK316	C	18	R	地山	a	I	-	-	(0.25)	(0.15)	-	黄褐色砂質土	2.5YR5/4	立石。
SK317	C	18	P	地山	a	VI	c	c	0.40	0.22	0.38	暗褐色砂質土	10YR3/3	立石。
SK318	C	18	P	地山	a	II	-	-	-	-	-	黄褐色砂	10YR8/6	立石。東方不明。
SK319	C	18	Q	地山	a	II	-	-	-	-	-	褐色砂質土	10YR4/1	立石。東方不明。
SK378	C	18	Q	地山	a	II	b	a	0.55	0.45	0.29	暗褐色砂質土	10YR3/3	立石。
SK395	C	18	T	地山	a	II	a	-	(0.26)	0.26	-	褐色土	7.5YR4/3	立石。
SK436	C	17	S	地山	a	IV	a	a	0.38	0.30	0.20	黒褐色砂質土	10YR3/2	立石。
SK461	C	18	P	地山	a	I	-	-	-	-	-	黄褐色砂質土	2.5Y5/4	立石。東方不明。
SK495	C	18	T	地山	a	II	-	-	-	-	-	暗褐色砂質土	10YR3/3	立石。東方不明。
SK906	C	17	T	地山	a	IV	a	-	0.32	0.22	-	褐色砂質土	10YR4/1	立石。
SK913	C	20	O	地山	a	IV	-	-	-	-	-	黄褐色砂質土	10YR7/8	立石。
SK938	C	17	S	地山	a	IV	c	c	1.92	2.01	0.45	褐色砂質土	10YR5/1	埋積石立石。
SK952	C	17	S	地山	a	IV	-	-	-	-	-	明黄褐色土	10YR7/6	立石。東方不明。
SK987	C	18	T	地山	a	II	a	a	0.40	0.21	0.27	褐色砂質土	10YR4/1	立石。
SK988	C	18	S	地山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	立石。東方不明。
SK990	C	18	S	地山	a	I	a	a	0.38	0.30	0.15	黒褐色土	10YR2/3	立石2石。
SK991	C	18	T	地山	a	II	c	a	0.40	0.29	0.13	褐色砂質土	10YR5/1	立石。
SK992	C	18	T	地山	a	II	a	a	0.52	0.36	0.25	黒褐色土	10YR2/3	立石3石。
SK708	C	17	T	地山	a	II	-	-	-	-	-	灰褐色砂質土	7.5YR6/2	立石。東方不明。
SK709	C	18	S	地山	a	II	-	-	-	-	-	褐色砂質土	7.5YR4/1	SK709～SK123、灰化物少し混。埋積石立石。

## (5) 土坑 SK183

**遺構** (第110図) グリッドC-18Pにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径1.28m、短径1.22m、深さ0.76mを測り、方形を呈する。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** (第112図) 接合前資料で縄文土器31点、石器・石製品5点が出土した。小形浅鉢20群6類1点(418)を図示した。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (6) 土坑 SK244

**遺構** (第110図) グリッドC-18Sにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径0.33m、短径0.26m、深さ0.06mを測り、方形を呈する。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 遺物の出土はなかった。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (7) 土坑 SK254

**遺構** グリッドC-18Qにおいて、第IV層地山面上で確認した。掘方が不明である。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 遺物の出土はなかった。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (8) 土坑 SK255

**遺構** グリッドC-18Qにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径0.40m、短径0.34mを測り、円形を呈する。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 遺物の出土はなかった。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (9) 土坑 SK256

**遺構** グリッドC-18Rにおいて、第IV層地山面上で確認した。掘方が不明である。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 遺物の出土はなかった。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (10) 土坑 SK257

**遺構** (第110図) グリッドC-18Qにおいて、第IV層地山面上で確認した。掘方が不明である。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** (第112図) 塩屋石の石棒未製品(419)・剝離段階のものを立石としていた。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (11) 土坑 SK292

**遺構** (第110図) グリッドC-19Qにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径0.34m、残存部短径0.30m、深さ0.30mを測り、円形を呈する。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 遺物の出土はなかった。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (12) 土坑 SK293

**遺構** (第110図) グリッドC-19Rにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径1.74m、短径1.62m、

深さ 0.56 m を測り、不定形を呈する。立石 2 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 接合前資料で縄文土器 2 点が出土した。

時期 時期を断定することはできなかった。

#### (13) 土坑 SK294

遺構 (第 110 図) グリッド C-19R において、第 IV 層地山面上で確認した。長径 1.16 m、短径 1.00 m、深さ 0.30 m を測り、方形を呈する。立石 1 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

#### (14) 土坑 SK300

遺構 (第 110 図) グリッド C-18S において、第 IV 層地山面上で確認した。残存部長径 0.48 m、短径 0.47 m、深さ 0.51 m を測り、円形を呈する。立石 1 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 接合前資料で縄文土器 10 点が出土した。

時期 時期を断定することはできなかった。

#### (15) 土坑 SK301

遺構 グリッド C-18P において、第 IV 層地山面上で確認した。掘方が不明である。立石 1 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

#### (16) 土坑 SK313

遺構 (第 111 図) グリッド C-18P において、第 IV 層地山面上で確認した。長径 0.31 m、短径 0.28 m、深さ 0.29 m を測り、不定形を呈する。立石 1 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 接合前資料で縄文土器 29 点、石器・石製品 1 点が出土した。

時期 時期を断定することはできなかった。

#### (17) 土坑 SK314

遺構 グリッド C-19S において、第 IV 層地山面上で確認した。掘方が不明である。立石 1 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

#### (18) 土坑 SK315

遺構 (第 111 図) グリッド C-19S において、第 IV 層地山面上で確認した。長径 0.53 m、残存部短径 0.28 m を測る。立石 1 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

#### (19) 土坑 SK316

遺構 (第 111 図) グリッド C-18R において、第 IV 層地山面上で確認した。残存部で長径 0.25 m、短径 0.15 m を測る。立石 1 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

## (20) 土坑 SK317

**遺構** (第111図) グリッドC-18Pにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径0.40m、短径0.22m、深さ0.38mを測り、不定形を呈する。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 接合前資料で縄文土器14点、石器・石製品4点が出土した。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (21) 土坑 SK318

**遺構** グリッドC-18Pにおいて、第IV層地山面上で確認した。掘方が不明である。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 遺物の出土はなかった。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (22) 土坑 SK319

**遺構** (第111図) グリッドC-18Qにおいて、第IV層地山面上で確認した。掘方が不明である。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 接合前資料で縄文土器6点が出土した。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (23) 土坑 SK378

**遺構** (第111図) グリッドC-18Qにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径0.55m、短径0.45m、深さ0.29mを測り、方形を呈する。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 遺物の出土はなかった。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (24) 土坑 SK395

**遺構** グリッドC-18Tにおいて、第IV層地山面上で確認した。残存部長径0.26m、短径0.26mを測り、円形を呈する。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 遺物の出土はなかった。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (25) 土坑 SK436

**遺構** グリッドC-17Sにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径0.38m、短径0.20m、深さ0.20mを測り、円形を呈する。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 遺物の出土はなかった。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (26) 土坑 SK461

**遺構** (第111図) グリッドC-18Pにおいて、第IV層地山面上で確認した。掘方が不明である。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 遺物の出土はなかった。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (27) 土坑 SK495

**遺構** グリッドC-18Tにおいて、第IV層地山面上で確認した。掘方が不明である。立石1個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

(28) 土坑 SK606

遺構 グリッド C-17T において、第IV層地山面上で確認した。長径 0.32 m、短径 0.22 m を測り、円形を呈する。立石 1 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

(29) 土坑 SK613

遺構 グリッド C-20O において、調査区北壁断面で確認した。深さ 0.56 m を測る。被熱を受けた痕跡がある大形の立石 1 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

(30) 土坑 SK638

遺構 グリッド C-17S において、第IV層地山面上で確認した。長径 1.92 m、短径 2.01 m、深さ 0.45 m を測り、不定形を呈する。立石 1 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 塩屋石を立石としていた。石器・石製品が 2 点出土した。

時期 時期を断定することはできなかった。

(31) 土坑 SK652

遺構 グリッド C-17S において、第IV層地山面上で確認した。掘方が不明である。立石 1 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

(32) 土坑 SK687

遺構 (第 111 図) グリッド C-18T において、第IV層地山面上で確認した。長径 0.40 m、短径 0.21 m、深さ 0.27 m を測り、円形を呈する。立石 1 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

(33) 土坑 SK688

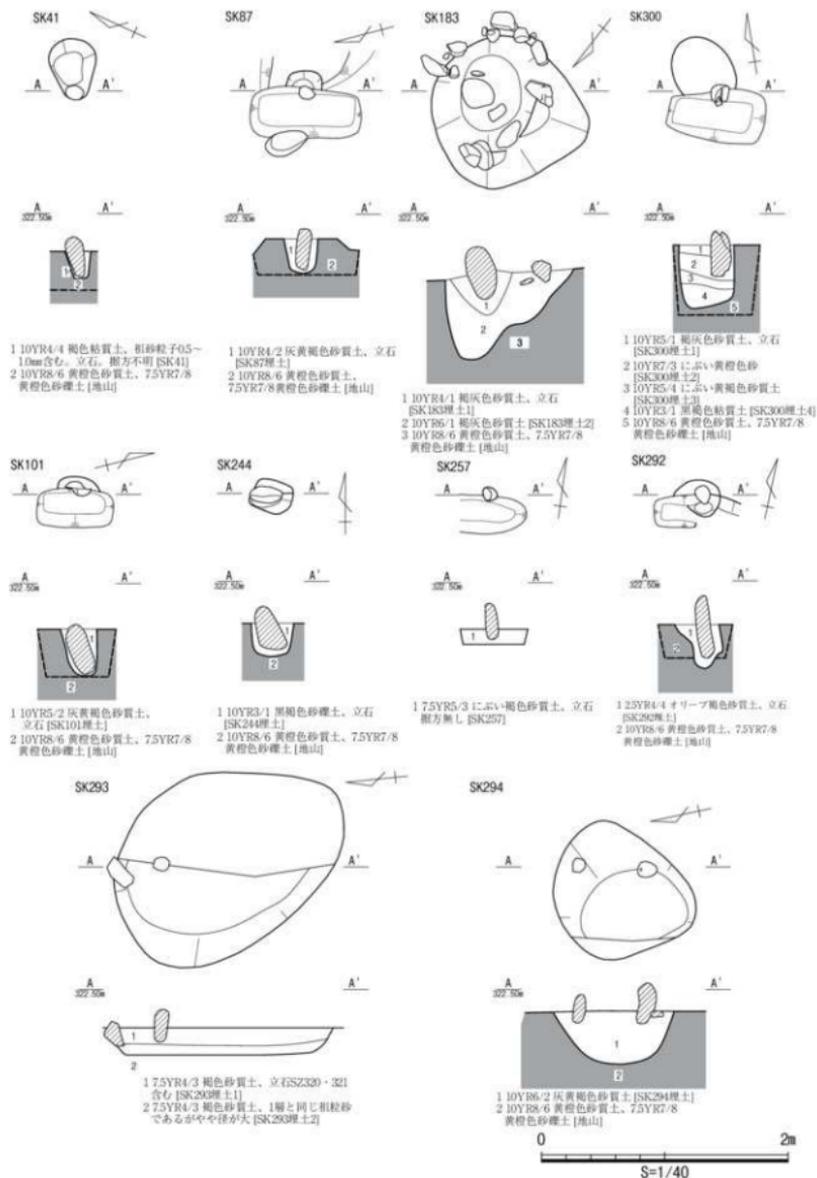
遺構 グリッド C-18S において、第IV層地山面上で確認した。掘方が不明である。立石 1 個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

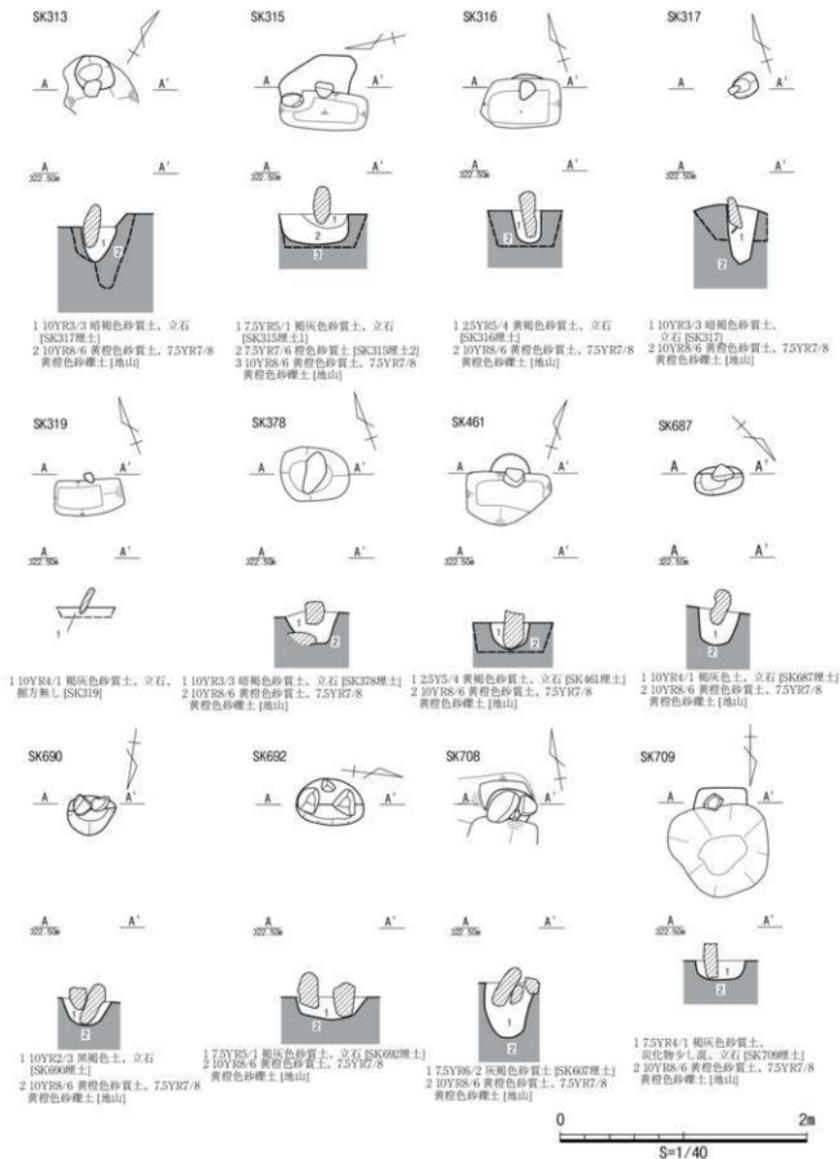
時期 時期を断定することはできなかった。

(34) 土坑 SK690

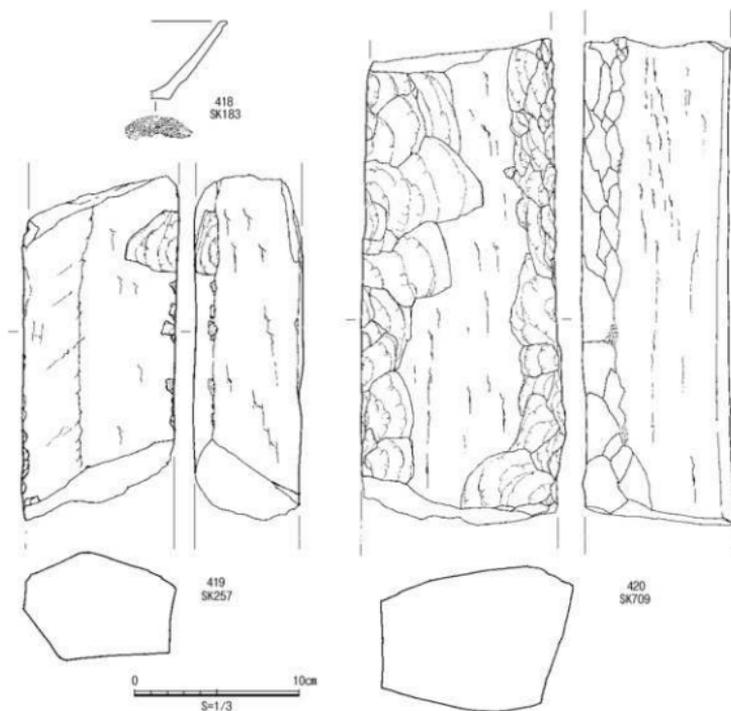
遺構 (第 111 図) グリッド C-18S において、第IV層地山面上で確認した。長径 0.38 m、短径 0.30 m、深さ 0.15 m を測り、円形を呈する。立石 2 個を確認した。重複遺構はない。



第110図 土坑C類遺構図(1)



第111図 土坑C類遺構図(2)



第112図 土坑C類出土遺物実測図 SK183・SK257・SK709

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

(35) 土坑 SK691

遺構 グリッドC-18Tにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径0.40m、短径0.20m、深さ0.13mを測り、不定形を呈する。立石1個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

(36) 土坑 SK692

遺構 (第111図) グリッドC-18Tにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径0.52m、短径0.36m、深さ0.25mを測り、円形を呈する。立石3個を確認した。重複遺構はない。

遺物 遺物の出土はなかった。

時期 時期を断定することはできなかった。

## (37) 土坑 SK708

**遺構** (第111図) グリッドC-17Tにおいて、第IV層地山面上で確認した。長径0.38m、短径0.30m、深さ0.13mを測り、円形を呈する。立石1個を確認した。重複遺構はない。

**遺物** 遺物の出土はなかった。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

## (38) 土坑 SK709

**遺構** (第111図) グリッドC-18Sにおいて、第IV層地山面上で確認した。深さ0.32mを測る。立石1個を確認した。SK709はSK123の上層に位置する。SK123内からは10cm大の小礫・炭化物が非常に多く出土した。SK123の壁面に焼土が見られないことから、他の場所で焼いた礫で埋めて、その上にSK709を掘って礫を立てたと考えられる。

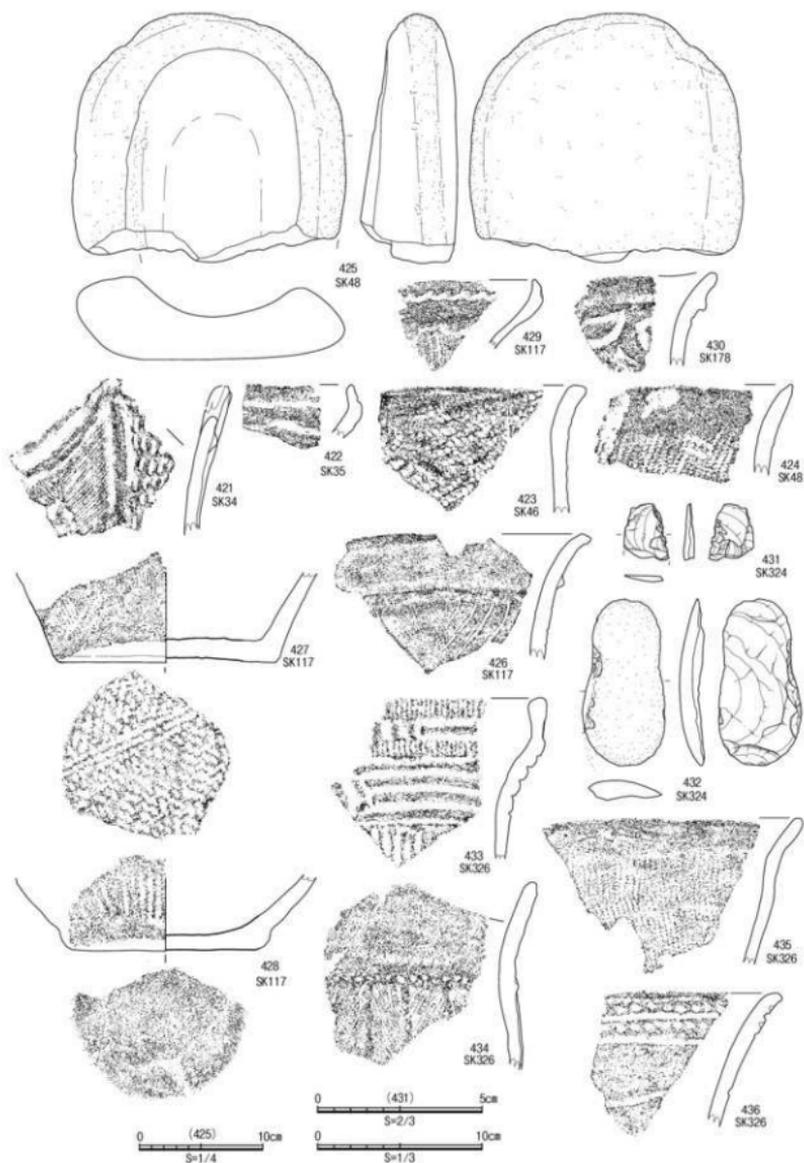
**遺物** (第112図) 塩屋石の石棒未製品(420)・剥離段階のものを立石としていた。

**時期** 時期を断定することはできなかった。

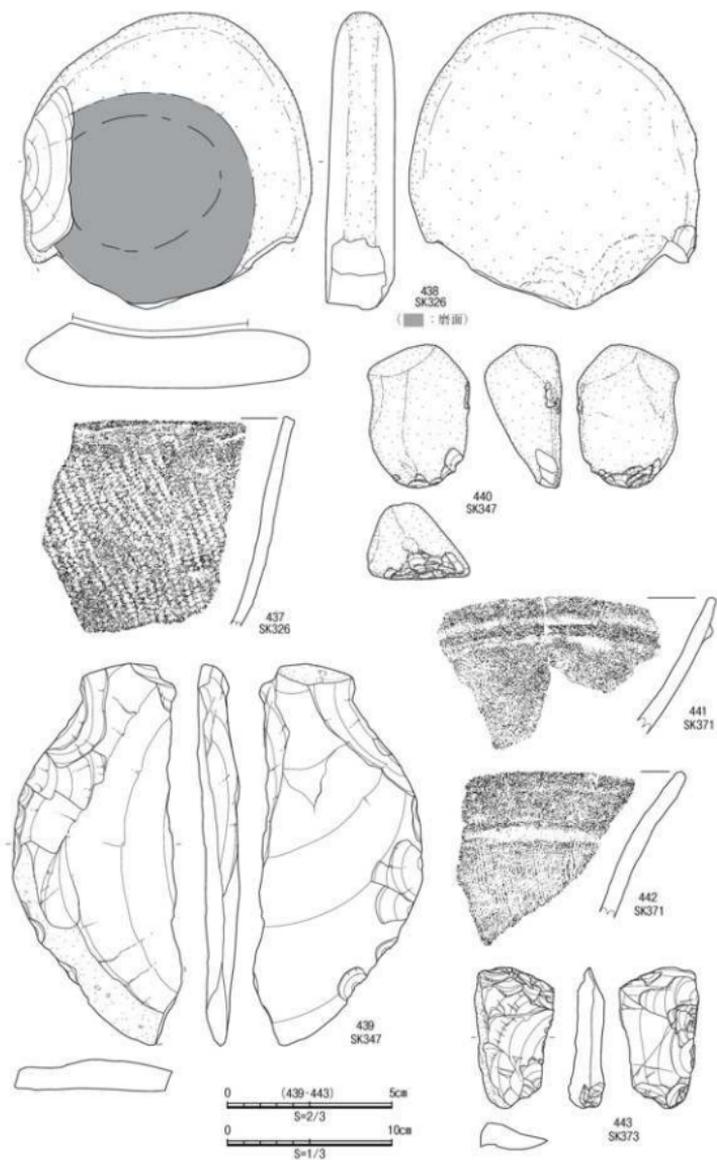
## 9 土坑D類(第34～37表)

**遺構** 土坑A～C類以外のものを土坑D類とした。235基確認した。第IV層地山で検出したものは226基(96.2%)、第III層包含層で検出したものは9基(3.8%)である。平面形状は円形か楕円形が133基(56.6%)、方形が33基(14.1%)、不定形が52基(22.1%)、不明が17基(7.2%)であり、円形が最も多い。規模は長径1m未満が189基(80.4%)とほとんどであり、1mを越えるものが27基(11.5%)、2mを越えるものが3基(1.3%)、3mを越えるものが2基(0.9%)と続き、不明は14基(5.9%)である。深さは最も深いものがSK371であり、0.8mを測る。続いて0.7m台がSK633の1基、0.6m台が8基、0.5m台が13基であり、ほとんどが0.5m未満の浅い土坑である。遺物は少なく、時期不明とした遺構が多い。

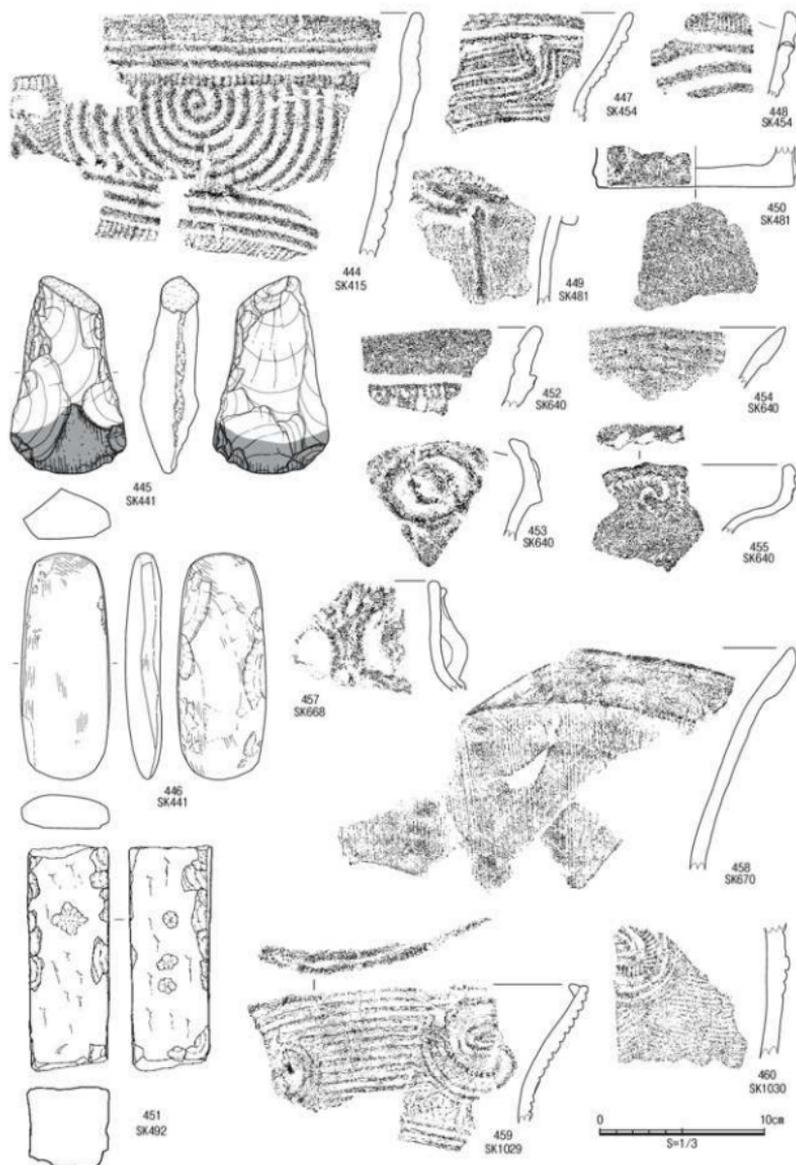
**遺物** 421はSK34から出土した、2本の縦隆帯に列点を施す土器である。中期後葉(串田新Ⅱ式期)の9群4類に属する。422はSK35から出土した、口縁直下に平行の押し沈線を施す土器であり、後期初頭(高波式期)の19群に属する。423はSK46から出土し、424はSK48から出土した、口縁が外反肥厚し、体部外面には縄文を施す土器であり、中期後葉から末葉の14群4類に属する。425はSK48から出土した石皿である。426～429はSK117から出土した土器である。426は体部に葉脈状文を施す土器である。中期後葉(串田新Ⅱ式期)の9群8類に属する。427・428は底部破片であり、網代瓦痕が残る。429は口縁直下に幅が狭い波状文を施し、後期初頭(高波式期)の19群に属する。430はSK178から出土した、口縁下に一条の隆帯が巡り、その下部には沈線が施文がある土器である。中期後葉(串田新Ⅱ式期)の9群6類に属する。431・432はSK324から出土した石器・石製品である。431は石鏃未製品であり、432は打製石斧である。433～437はSK326から出土した土器、438は石製品である。433は幅広の隆帯で施文し、中期中葉(古串田新期)の3群1類に属する。434は葉脈状文を施し、中期後葉(串田新Ⅱ式期)の9群8類に属する。435は口縁が肥厚外反し、14群3類に属する。436は口辺部に平行沈線を施し、中期末葉(前田式期)の15群2類に属する。437は無文であり、17群2類に属する。438は石皿として使用した後の石核である。439・440はSK347から出土した石器・石製品である。439は縦形石匙、440は敲石である。441・442はSK371から出土した土器である。441は中期後葉(串田新Ⅱ式期)の9群5類であり、442は中期後葉から末葉の14群



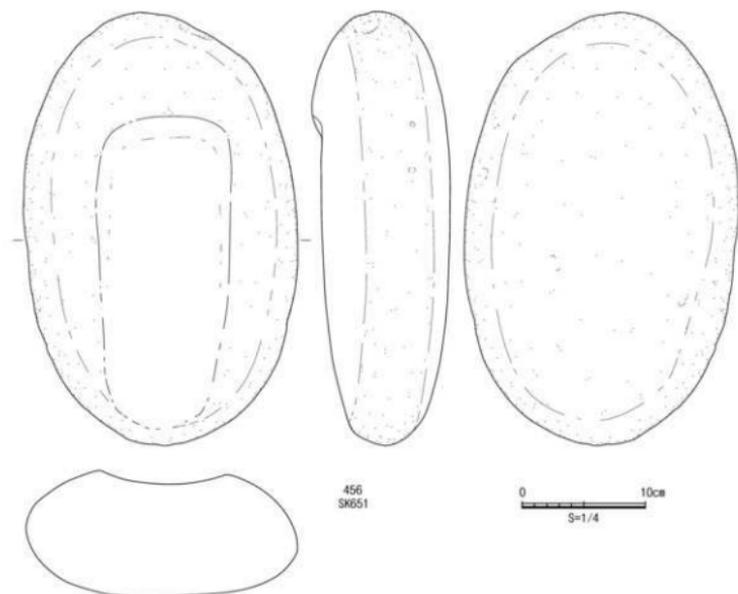
第113図 土坑D類出土遺物実測図 (1) SK34・SK35・SK46・SK48・SK117・SK178・SK324・SK326 (1)



第114図 土坑D類出土遺物実測図(2) SK326(2)・SK347・SK371・SK373



第115図 土坑D類出土遺物実測図(3) SK415・SK441・SK454・SK481・SK492・SK640・SK668・SK670・SK1029・SK1030



第116図 土坑D類出土遺物実測図(4) SK651

4類に属する。443はSK373から出土した楔形石器である。444はSK415から出土した、半截竹管による隆帯で渦卷文を施した土器であり、中期中葉（古府式期）の2群1類に属する。445・446はSK441から出土した石器である。445は打裂石斧であり、446は磨裂石斧である。447・448はSK454から出土した土器である。447は半截竹管による細く密な隆帯で施文を施し、中期中葉（古府式期）の2群2類に属する。448は幅広の隆帯と沈線で施文し、中期中葉（古串田新式）の3群5類に属する。449・450はSK481から出土した土器である。共に縦位の隆帯を施し、中期後葉（串田新Ⅱ式期）の10群2類に属する。450は底部痕をすり消している。451はSK492から出土した敲石である。柱状節理状の塩屋石を敲石として使用したものである。452～455はSK640から出土した土器である。452は半截竹管による隆帯と沈線で施文し、中期中葉の6群2類に属する。453は胴部に葉脈状文を施し、中期後葉（串田新Ⅱ式期）の9群3類に属する。454は口縁が肥厚外反し、14群4類に属する。455は口縁直下に三角押しによる渦卷文を施し、19群に属する。456はSK651から出土した石皿である。457はSK668から出土した、波状口縁の波長部外面に吊り手が付く鐙付土器である。中期末葉（前田・岩崎野式期）の22群2類に属する。458はSK670から出土した、口縁が肥厚外反し、体部外面には条直文を施す土器である。14群4類に属する。459はSK1029から出土した土器である。半截竹管による細く密な隆帯で施文を施し、中期中葉（古府式期）の2群1類に属する。460はSK1030から出土した土器である。隆帯と沈線による渦卷文を施し、中期中葉（古串田新式期）の3群6類に属する。

## 10 遺物集積遺構 (第117図、第33表)

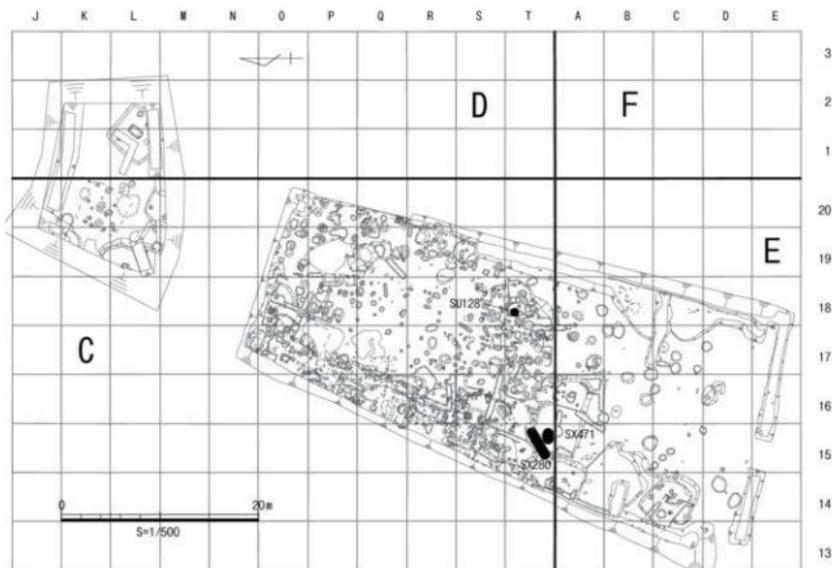
今回の調査では、遺物集積遺構を3カ所確認した。遺構と考えて平面精査を行ったが、性格を明らかにすることはできなかった。SX471とSX280とは隣接するが、ここでは別遺構として報告する。

## (1) 遺物集積遺構 SU128

**遺構** グリッドC-18Tにおいて、包含層掘削中に遺物集積遺構を確認した。0.60m四方の範囲、厚さ0.05cmの中で、土器小破片を中心に固まって出土した。

**遺物** (第118図) 接合前資料で土器が1214点、石器・石製品23点が出土した。土器は中期末葉(前田式期)の15群1類が1点(461)、15群2類が1点(462)出土し、中期末葉(岩崎野式)の16群1類が1点(463)出土した。底部破片の18群3類が1点(464)、18群7類が1点(465)出土した。後期初頭(高波式期)の19群が2点(466・467)出土した。石器・石製品は石皿が1点(468)出土した。

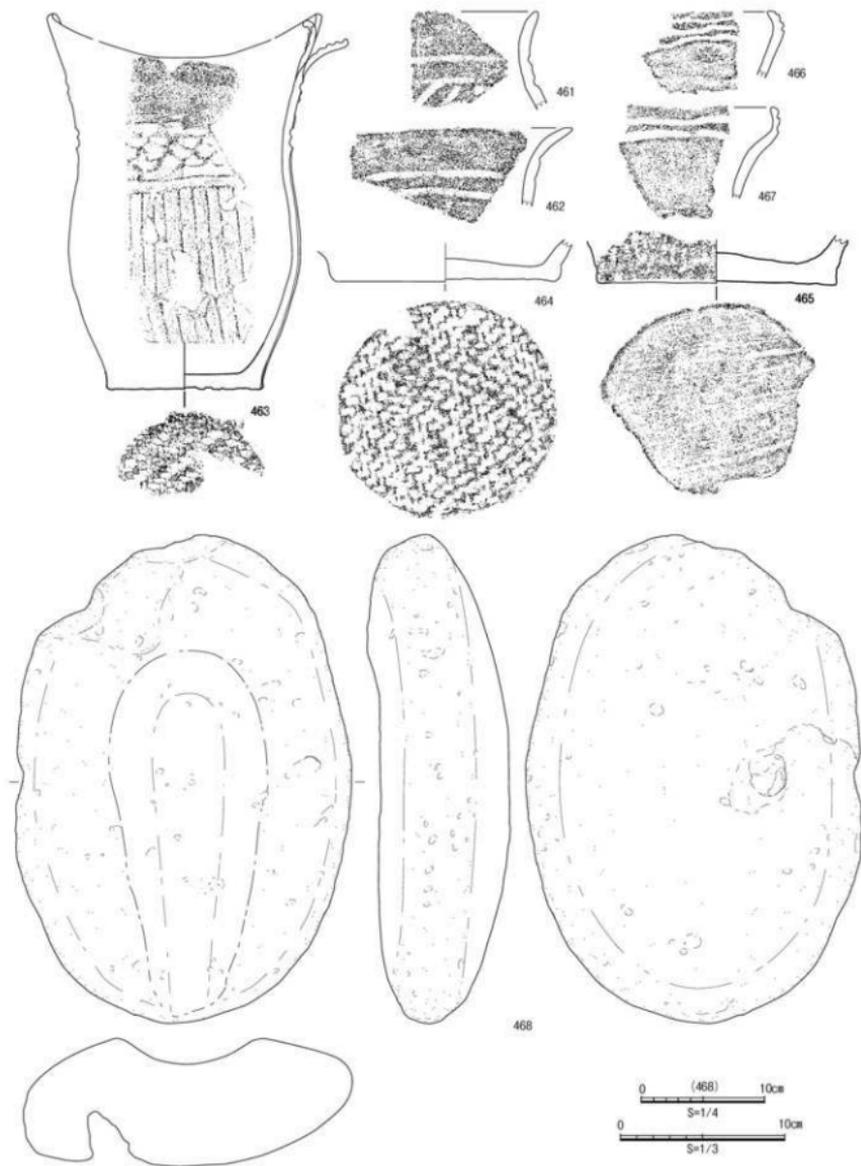
**時期** 出土遺物より、遺構の時期は中期末葉～後期初頭と考えられる。



第117図 遺物集積遺構位置図

第33表 遺物集積遺構一覧表

遺構NO	グリッド		検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	法量 (m)		埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)		
	東西	南北					上端	深さ				
											長径	短径
SU128	18	T	包含層	-	-	-	0.60	0.60	0.05	褐色砂質土 7.5YR5/1	遺物集積。	
SX280	15	T	包含層	-	-	-	3.45	0.89	0.68	-	-	遺物集積。
SX471	15	T	包含層	-	-	-	0.60	0.95	0.54	-	-	遺物集積。



第118図 遺物集積遺構 SU128 出土遺物実測図

## (2) 遺物集積遺構 SX280

**遺構** グリッドC-15Tにおいて、包含層掘削中に遺物集積遺構を確認した。0.89 m × 3.45 mの範囲、厚さ0.68 mの中で、完形に近い遺物が壊れた状態で出土した。最下層・下層・中層・上層として、4層に分けて遺物取り上げを行った。

**遺物** (第119～126図) 接合前資料で、土器が3801点、石器・石製品が318点出土した。

土器は、最下層より、中期後葉の7群2類(串田新1式)が1点(469)、中期後葉の14群4類が1点(470)、底部破片18群1類が1点(471)出土した。

下層より、中期中葉(古串田新式期)の3群は1類が2点(472・473)・2類が1点(474)、中期中葉の6群は1類が3点(475～477)・3類が1点(478)、中期後葉(串田新2式)の9群は1類が1点(479)・6類が1点(480)・台付鉢21群2類が1点(492)、中期後葉(唐草文系)の11群が1点(481)、中期後葉から末葉の14群は1類が1点(482)・2類が1点(483)・3類が1点(484)・4類が4点(485～488)、無文の17群4類が2点(489・490)、小形土器23群6類が1点(493)出土した。

中層より、中期中葉(古串田新式期)の3群2類が1点(494)、中期中葉の6群3類が1点(495)、中期後葉(串田新2式期)の小形土器23群3類が1点(503)、中期後葉から末葉の14群は1類が1点(496)・3類が2点(497・498)・4類が1点(499)、底部破片18群は2類が2点(500・501)・4類が1点(502)出土した。

上層より、中期後葉(古串田新式)の3群は4類が1点(504)・5類が1点(505)、中期中葉の6類1類が1点(506)、中期後葉(串田新2式)の9群5類が2点(507・508)、中期後葉の14群4類が2点(509・510)、中期末葉(前田式)の15群1類が1点(511)、中期末葉(前田・岩崎野式期)の浅鉢20群5類が1点(516)、無文17群4類が1点(512)、底部破片18群は1類が1点(513)・5類が1点(514)、後期初頭(高波式期)の19群が1点(515)、小形土器23群は6類が1点(517)・8類が1点(518)出土した。石器・石製品は、最下層より、石鏃が1点(519)出土し、下層より、石鏃が2点(520・521)、削器1点(522)、石核1点(523)が出土した。中層より打製石斧が2点(524・525)、石棒1点(526)が出土した。526は塩屋石製であり、胴下半部の破片である。上層より、石鏃1点(527)、石核1点(528)、打製石斧1点(529)、敲石1点(530)、磨石1点(531)が出土した。

**時期** 各層において中期中葉から後期初頭の遺物が混在していた。SX280の下層に位置するSB472が中期中葉(古串田新式期)の遺構であるため、中期中葉以降であると考えられる。

## (3) 遺物集積遺構 SX471

**遺構** グリッドC-15Tにおいて、包含層掘削中に遺物集積遺構を確認した。0.60 m × 0.95 mの範囲、厚さ0.54 mの中で、完形に近い遺物が壊れた状態で出土した。下層・中層・上層として、3層に分けて遺物取り上げを行った。

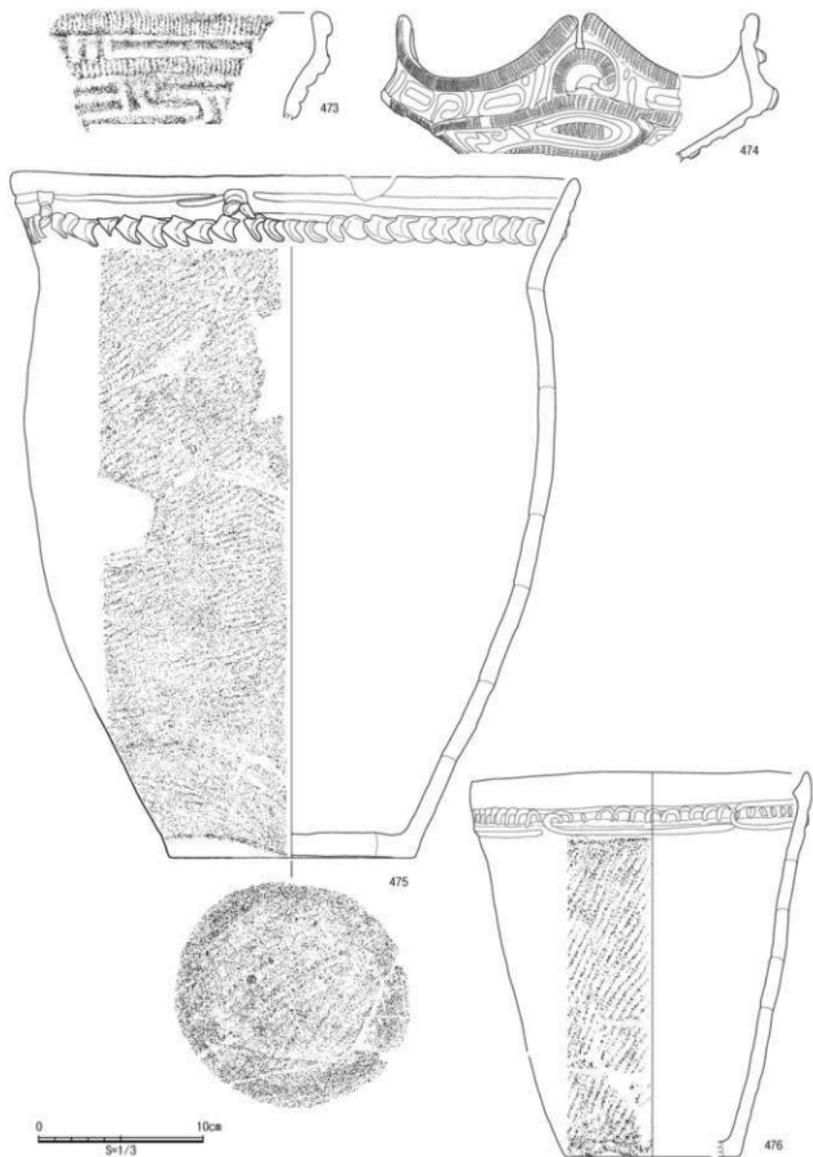
**遺物** (第127～132図) 接合前資料で土器が1,018点、石器・石製品が23点出土した。

土器は、下層より、中期中葉(古串田新式)の3群4類が1点(532)、中期中葉の6群は3類が1点(533)・4類が1点(534)、底部破片18群5類が1点(535)、中期後葉(串田新2式)の浅鉢20群3類が1点(536)出土した。

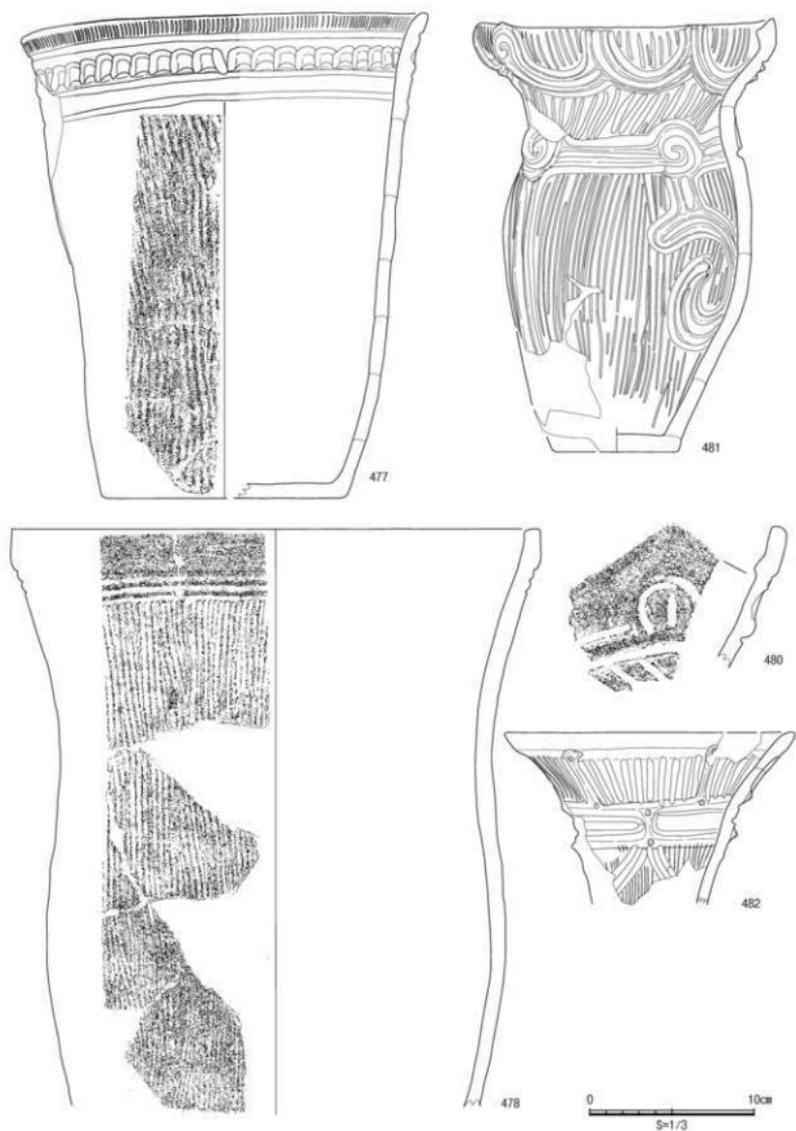
中層より、中期中葉(古串田新式期)の3群は1類が1点(537)・3類が1点(538)・4類が3点(539～541)・5類が1点(542)、中期中葉(咲畑式)の4群2類が1点(543)、中期中葉の6群3類が8点(544～551)、中期後葉(串田新2式)の9群2類が1点(552)・浅鉢20群3類が1点(559)、中期後葉(唐



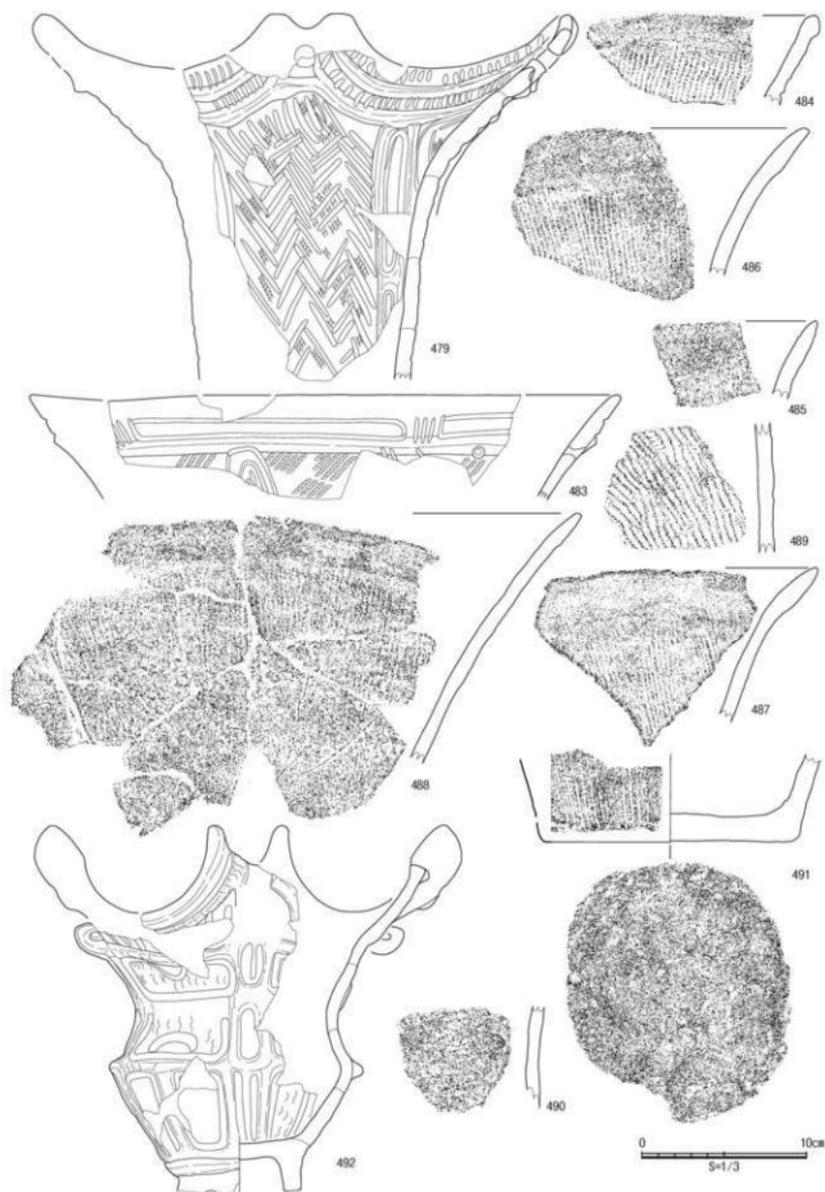
第119図 遺物集積遺構 SX280 出土遺物実測図 (1)



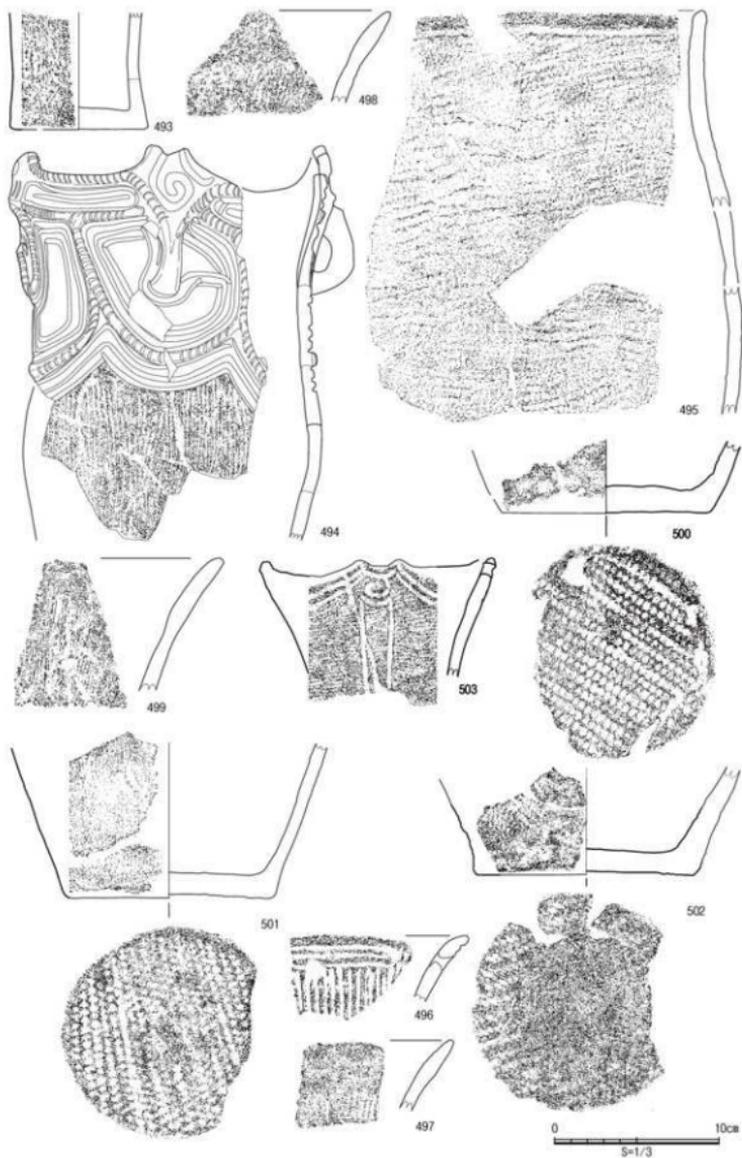
第120図 遺物集積遺構 SX280 出土遺物実測図(2)



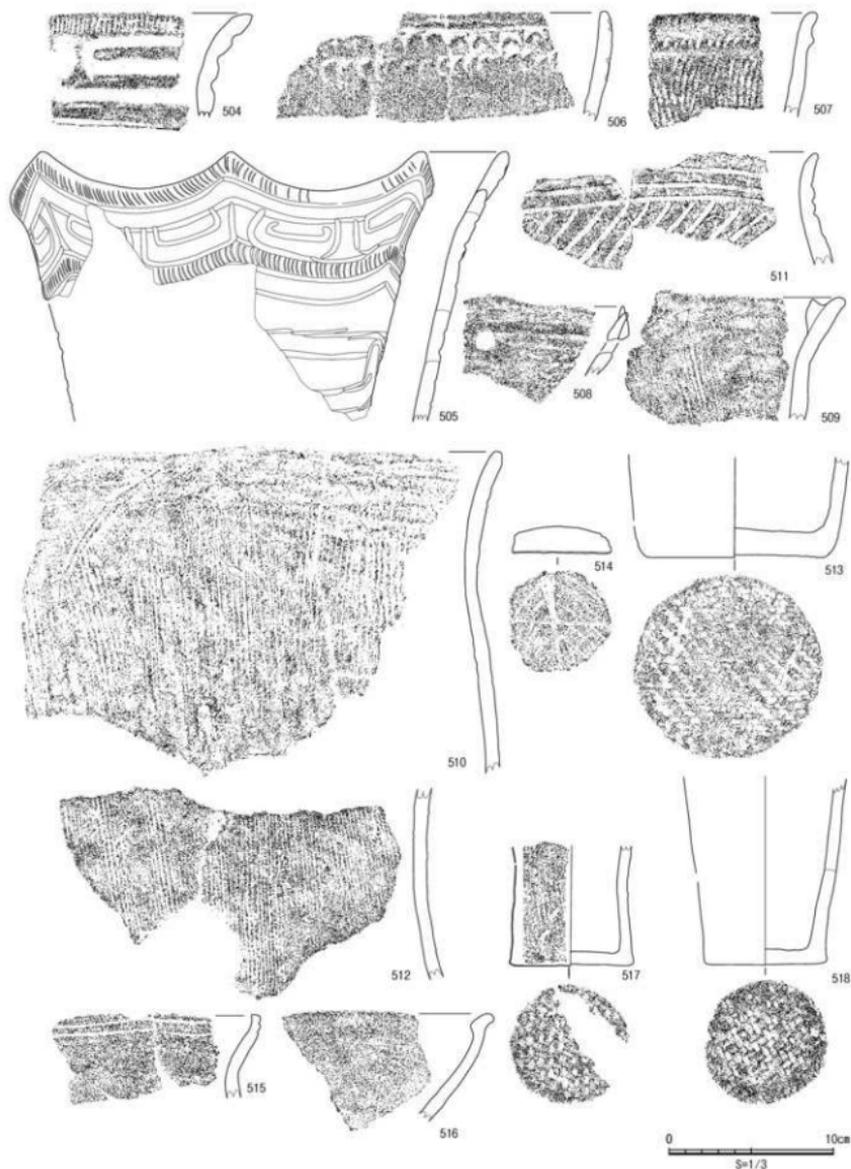
第121図 遺物集積遺構 SX280 出土遺物実測図(3)



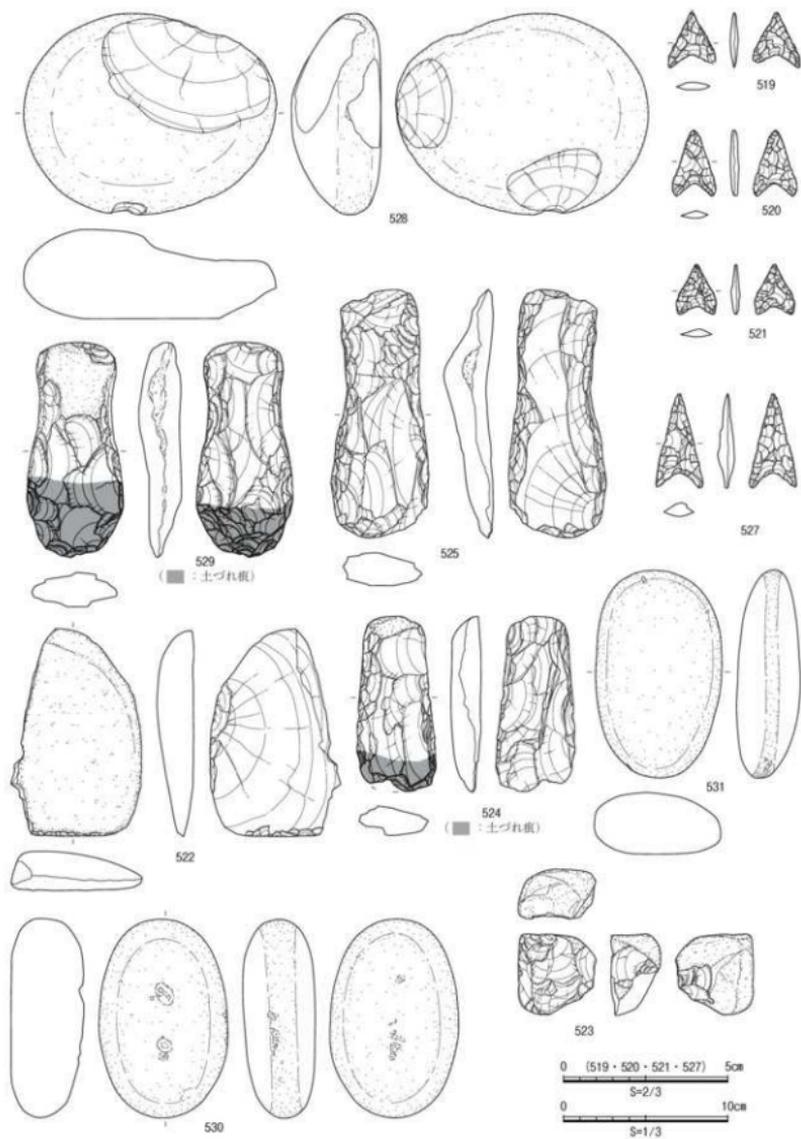
第122図 遺物集積遺構 SX280 出土遺物実測図(4)



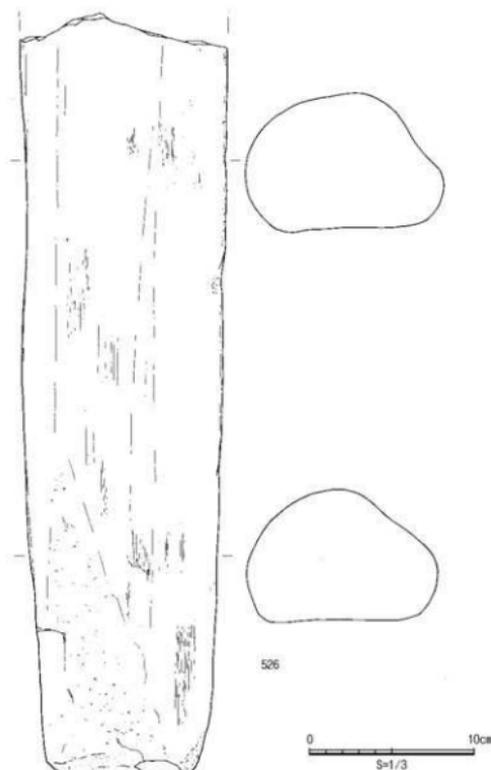
第123図 遺物集積遺構 SX280 出土遺物実測図 (5)



第124図 遺物集積遺構 SX280 出土遺物実測図(6)



第125図 遺物集積遺構 SX280 出土遺物実測図 (7)



第126図 遺物集積遺構SX280出土遺物実測図(8)

草文3)の11群が1点(553)、中期後葉の14群2類が1点(554)、無文の17群は1類が1点(555)・4類が1点(556)、底部破片18群は2類が1点(557)・4類が1点(558)、台付鉢21群1類が1点(560)出土した。

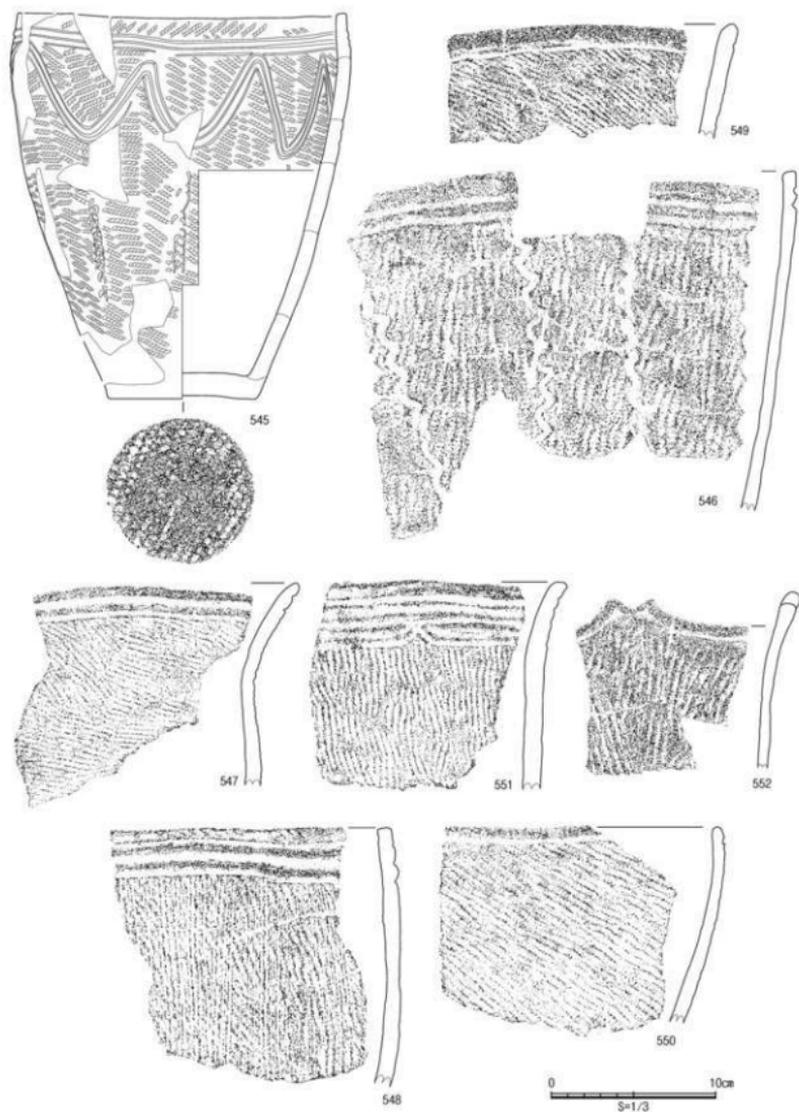
上層より、期中中葉(古府式期)の2群1類が1点(561)、期中中葉(古串田新式期)の3群は1類が1点(562)・4類が1点(563)・5類が1点(564)、期中中葉の6群は3類が3点(565～567)・4類が2点(568・569)、中期後葉の14群4類が1点(570)、釣手土器24群が1点(571)出土した。

石器・石製品は、下層より、石錘が1点(572)、敲石が1点(573)出土した。中層より、磨製石斧が6点(574～579)、石皿が1点(580)が出土した。上層より、磨製石斧が1点(581)、石皿が1点(582)出土した。

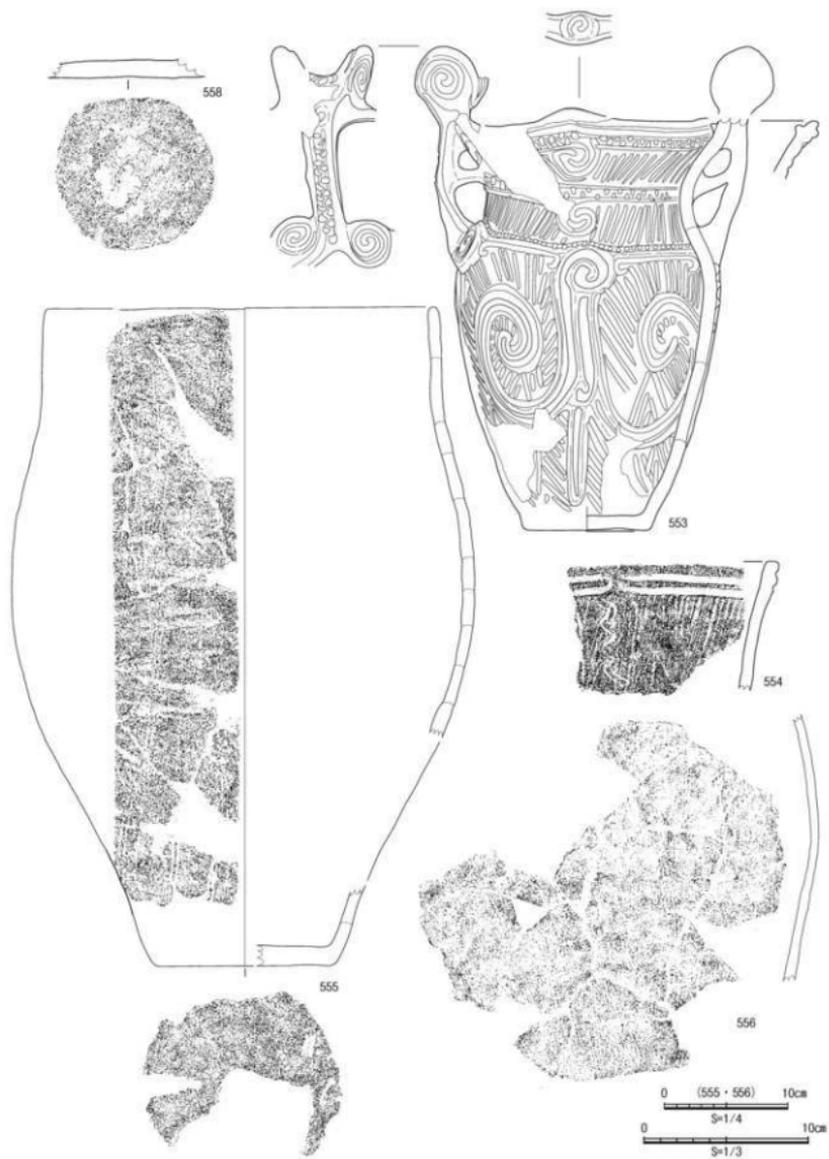
時期 各層より期中中葉から中期後葉の遺物が混在していた。SX471の下層に位置するSB472が期中中葉(古串田新式期)の遺構であるため、期中中葉以降であると考えられる。



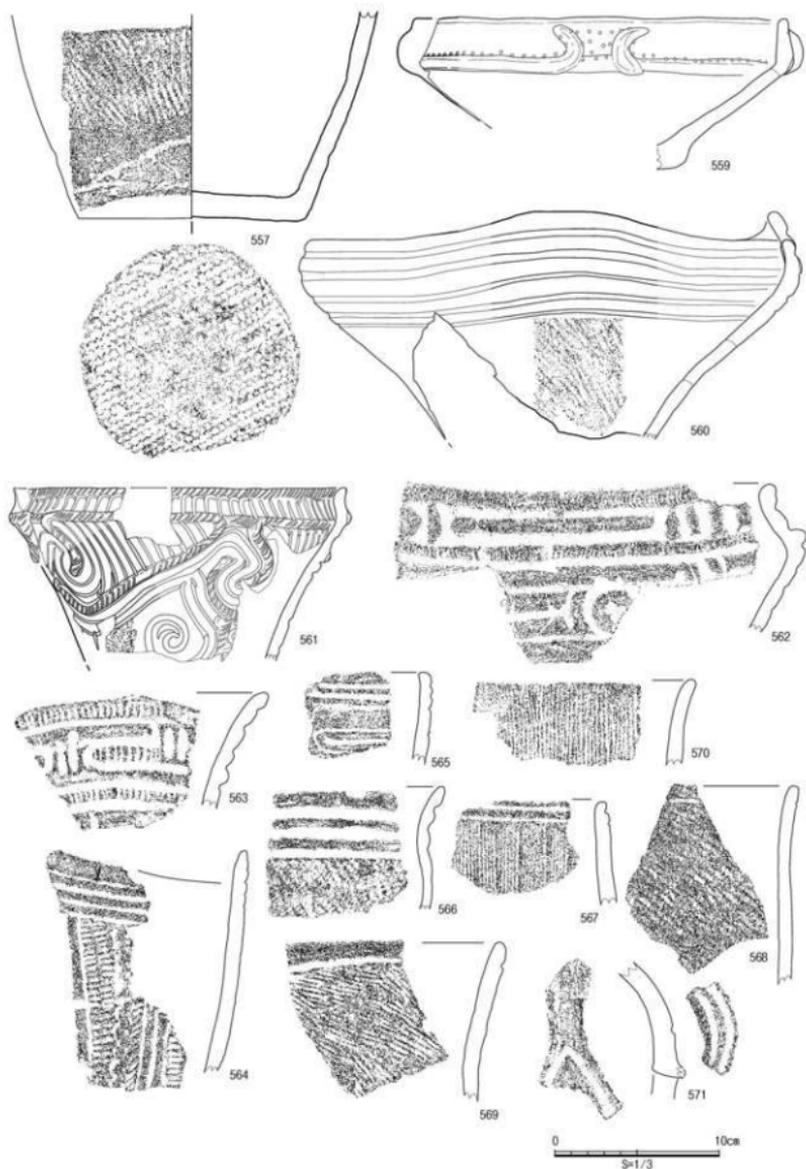
第127図 遺物集積遺構 SX471 出土遺物実測図 (1)



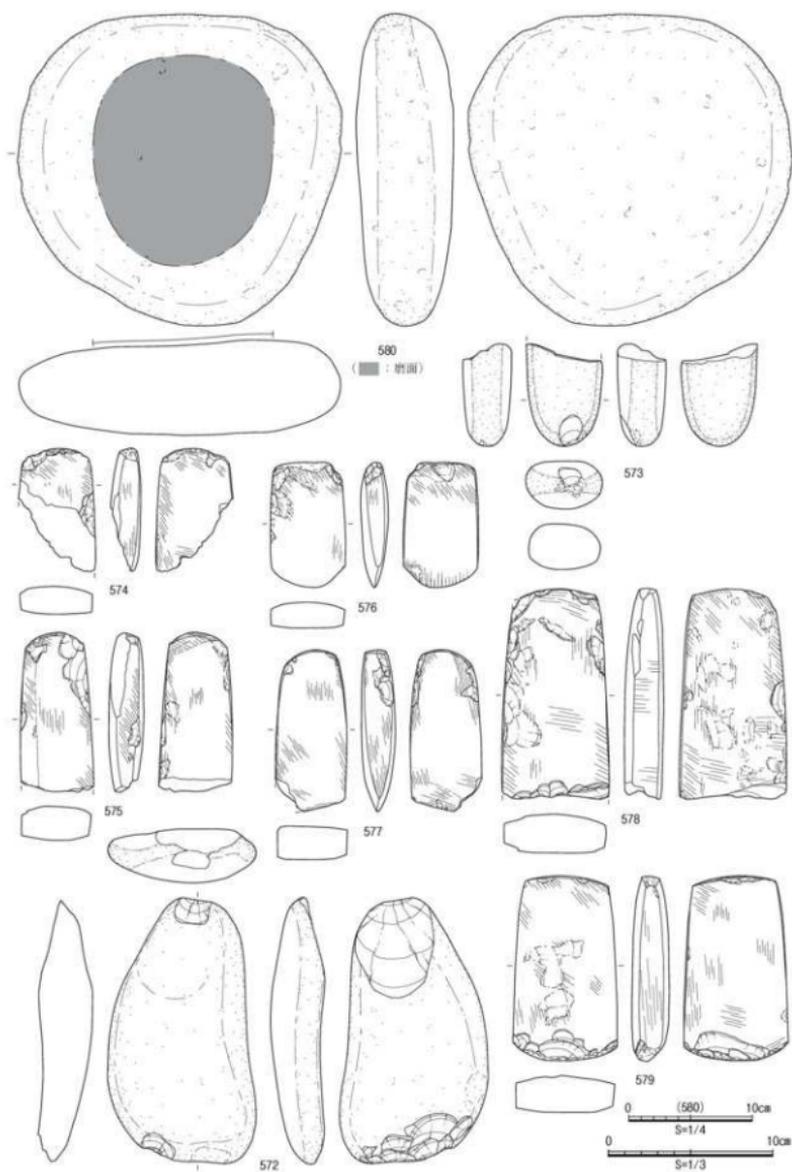
第128図 遺物集積遺構 SX471 出土遺物実測図(2)



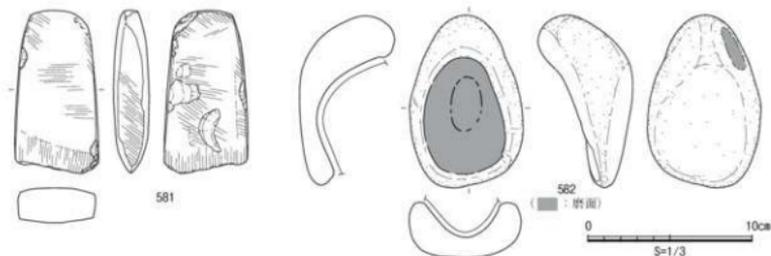
第129図 遺物集積遺構 SX471 出土遺物実測図(3)



第130図 遺物集積遺構 SX471 出土物実測図(4)



第131図 遺物集積遺構 SX471 出土遺物実測図 (5)



第132図 遺物集積遺構 SX471 出土遺物実測図 (6)

## 第4節 鳥遺跡の遺構外出土遺物

鳥遺跡の遺構外出土遺物として、縄文土器 115 点、土製品 3 点、石器・石製品 25 点を図示した。

### 1 縄文土器 (第133～140図)

583・584 は中期前葉 (新崎式期) の 1 群 2 類である。1 群に関わる遺構は今回の調査では確認していない。

585 は中期中葉 (古府式期) の 2 群 1 類である。半載竹管による隆帯と沈線で渦巻文を施す。

幅広の隆帯と沈線で施文する中期中葉 (古申田新式期) の 3 群は、9 点 (586～591) 出土した。586～588 は胴部がゆるく外反して口縁部が立ち上がり、3 群 1 類に属する。589～591 は口縁部が垂直に立ち上がるか外傾し、3 群 4 類に属する。

592～594 は半載竹管による爪形文を施し、中期中葉の 6 群 1 類に属する。595 は口縁部に沿って半載竹管による隆帯と沈線で施文し、基隆帯にはへら状工具でキザミを施す、6 群 2 類に属する。596～605 は口縁下に半載竹管による隆帯を施し、6 群 3 類に属する。606・607 は口縁下に沈線を施し、6 群 4 類に属する。608 は口唇部を袋状に押し、6 群 5 類に属する。堂ノ前遺跡 9 号住居跡 (中期中葉) から同じ型式の遺物が出土している。

609～614 は沈線により工字状文を主文とし、中期後葉 (申田新 I 式期) の 7 群 1 類に属する。

中期後葉 (申田新 II 式期) の 9 群は 11 点 (615～625) 出土した。615・616 は、波状口縁の波長部に U 字状双頭突起を持ち、9 群 2 類に属する。617・618 は隆帯に棒状工具による刺突文を施し、9 群 3 類に属する。620～622 は口縁下に隆帯を巡らせ、9 群 5 類に属する。623 は波状口縁を持ち、隆帯と沈線で施文しており、9 群 6 類に属する。624 は口縁下の無文帯を持ち、頸部に隆帯を巡らせ、ボタン状突起を持つ。9 群 7 類に属する。625 は口縁下の無文帯を持ち、頸部に隆帯を巡らせ、体部に葉脈状文を施す。9 群 8 類に属する。

626・627 は口縁下の隆帯に指頭押しを施し、中期後葉の 10 群 1 類に属する。628 は体部に縦方向の隆帯を施し、10 群 2 類に属する。

629～633 は隆帯で唐草文を施文し、中期後葉 (唐草文系第 3 段階) の 11 群に属する。624・625 は深鉢の把手である。

口縁が肥厚外反する14群は15点(634～638)出土した。634～636は、口縁肥厚部の下に縦方向の沈線で施文し、14群1類に属する。634は円形刺突がある隆帯を持つ。637・638は、横長の楕円文を施し、14群2類に属する。639～645は、器面全体に縄文を施し、14群3類に属する。646・647は、器面全体に条線を施し、14群4類に属する。648は頸部が括れ、口縁部が外反する器形を持ち、14群6類に属する。

中期末葉(前田式期)の15群は12点(649～660)出土した。649～654は口辺部の平行沈線間に広い無文帯を持ち、それを縦のS字状沈線で区切り、15群2類に属する。652・653は平行沈線と共に列点を施す。655～657は口辺部に数条の沈線を横方向に施文し、15群4類に属する。658～660は破片資料であり、15群5類に属する。

中期末葉(岩崎野式期)の16群は1点(661)出土した。661は口辺部に弧状の微隆起線文を施し、16群2類に属する。

662は体部外面に縄文を施し、内湾する器形を持つ17群2類に属する。663は体部外面に縄文を施し、外反する器形を持つ17群3類を施す。664は体部外面に沈線による渦巻文を施し、内湾する器形を持つ17群4類に属する。

底部破片は11点(665～675)出土した。665～670は網代圧痕が残る。671～674はすり消しており、18群4類に属する。675はスダゲ状圧痕が残る、18群5類に属する。676・677は平行葉脈圧痕が残る、18群7類に属する。

後期初頭(高波式期)の19群は6点(678～683)出土した。678は押引平行沈線を施す。

浅鉢20群は9点(684～692)出土した。684は隆帯により渦巻文を施し、中期中葉(古申田新式期)の20群1類に属する。685は口縁に沿った2本の隆帯間を沈線でハシゴ状に施文し、隆帯には貝殻腹縁文を施し、中期後葉(申田新I式期)の20群2類に属する。686・687は口縁直下に橋状把手を持ち、中期後葉(申田新II式期)の20群4類に属する。688～690は無文であり、中期末葉(前田・岩崎野式期)の20群5類に属する。689は補修痕と考えられる有孔を持つ。

壺形土器22群は4点出土した。693は外傾して立ち上げる口縁を持ち、中期後葉(申田新II式期)の罏付土器と考えられ、22群1類に属する。補修痕と考えられる有孔を持ち、内外面に赤彩を施す。694・695は外反して立ち上がる口縁と、その下に隆帯と橋状把手を持ち、中期末葉(前田・岩崎野式期)の22群2類に属する。696はつまみ状突起を持つ体部破片であり、22群4類に属する。

小形土器23群は、体部に縄文を施す23群5類が1点(697)出土した。

## 2 土製品(第141図)

土製品25群は3点(698～700)出土した。698・699は土製円盤25群2類である。700は土製蓋25群3類である。699には1つ有孔があり、700には4つ有孔がある。

## 3 石器・石製品(第141～146図)

石鏃8点(701～708)出土した。708は有茎鏃であり、今回の調査で出土した唯一の例である。後期中葉以降のものと考えられる。

石錘は1点(709)出土した。下端部には挟れておらず、未製品の可能性がある。

打製石斧は2点(710・711)出土した。710は土づれ痕が顕著である。円鏃利用で製作されたものであり、自然面が残る。

小型磨製石斧は2点(712・713)出土した。

磨石は1点(714)出土した。敲石として使用した後に、磨石に転用している。裏面の敲打痕の周囲には赤色付着物が残る。

石棒は未製品・自然石を含めて8点(715～722)出土した。715は研磨段階のものであり、上端・下端は整形されており、破損のない完形品である。包含層出土であるが、堅穴建物跡SB194の近辺から出土しており、完成品として使用されていた可能性がある。718は敲打段階のものである。破損しておらず、包含層出土であるが土坑C類の立石遺構近辺から出土しており、使用していた可能性がある。718も敲打段階のものである。721・722は加工痕を観察することはできず、自然石である。

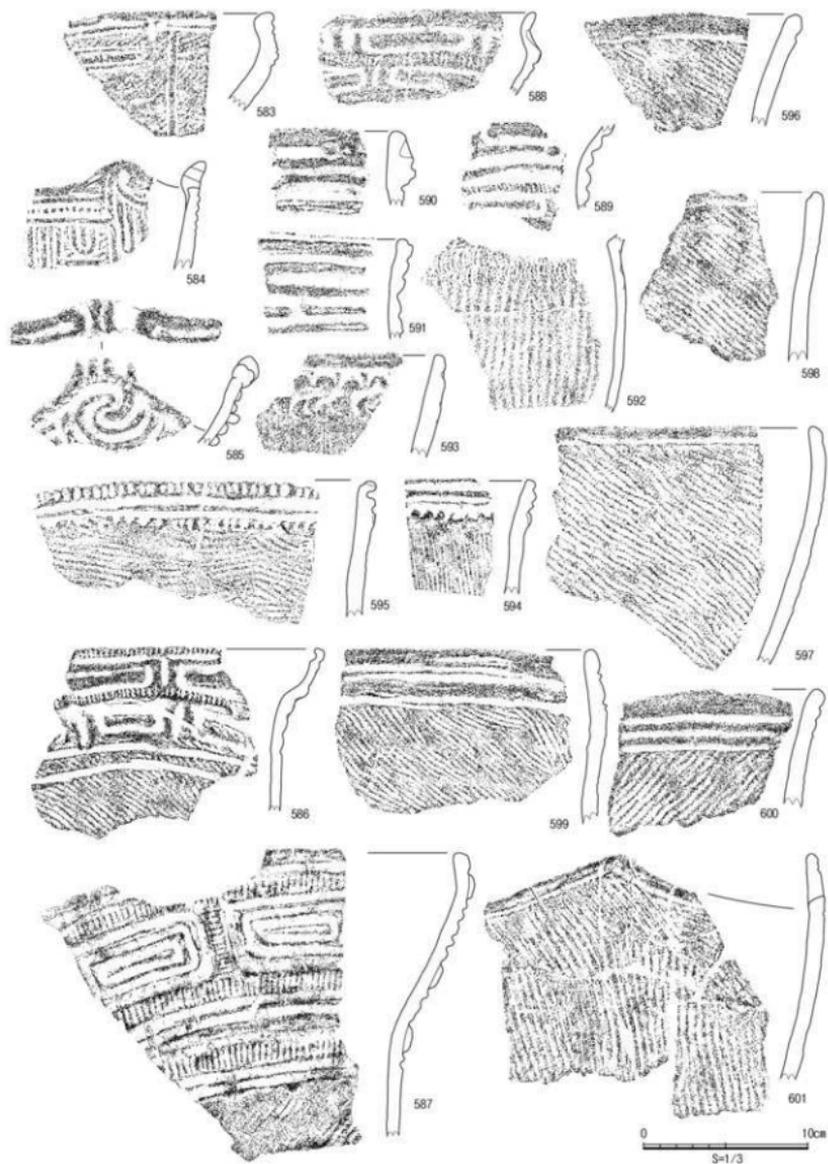
使用痕剥片を1点(723)、両極剥片を1点(724)、加工礫を1点(725)図示した。

## 第5節 塩屋金清神社遺跡の遺構と遺構内出土遺物

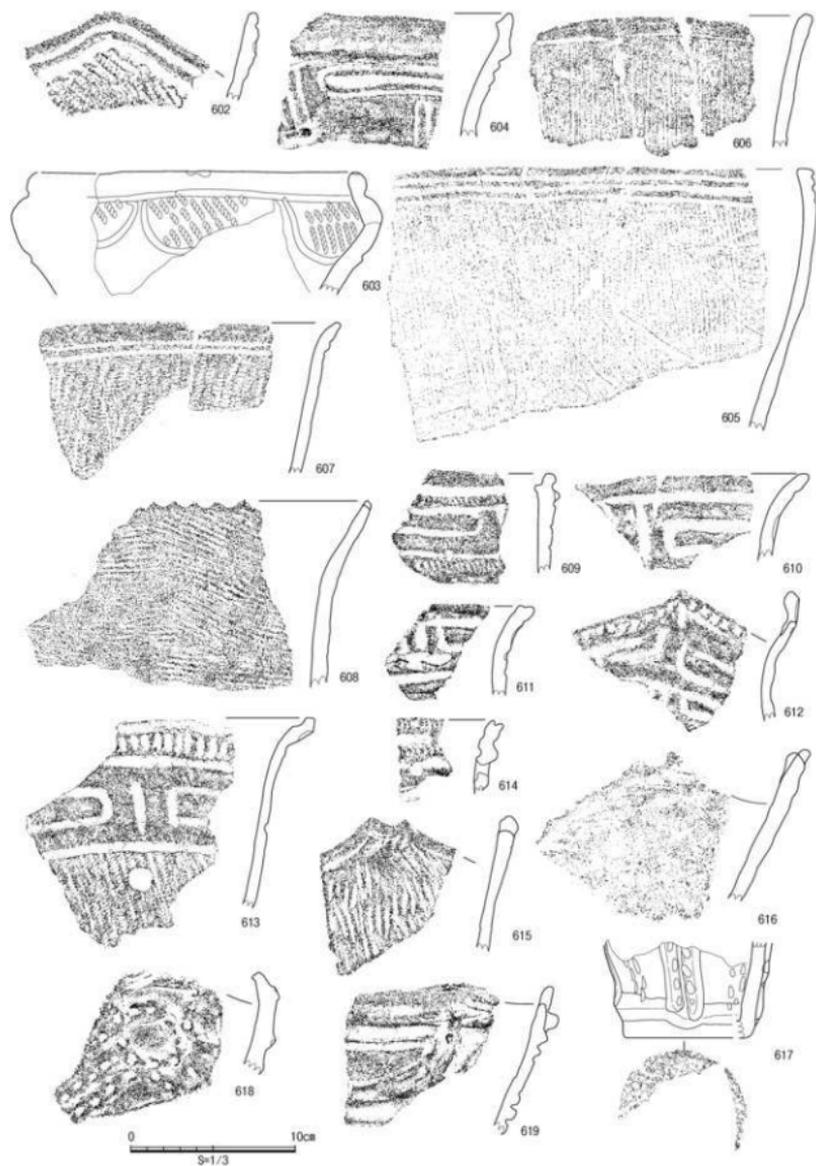
**過去の調査と遺跡の性格** 塩屋金清神社遺跡では、過去の調査で1,056点の塩屋石製の石棒・石刀及びその未製品と共に、剥片、敲石や手持ち砥石・据え置き砥石を確認している。主体となる縄文土器は気屋Ⅱ式・堀之内Ⅱ式段階～加曾利B1式古段階であり、縄文時代後期前葉に営まれた石棒製作跡であると考えている。過去の調査範囲では、石棒を製作していた明確な遺構を検出はしておらず、遺跡の中心地は塩屋金清神社境内地及びその上方の平坦地と考えられる(宮川村教育委員会2000)。神社境内地の南接地における調査では、縄文時代晩期終末の包含層で、浮線網状文系土器と共に塩屋石製の石棒を検出している(宮川村教育委員会1999)。このため、塩屋石を利用した石棒儀礼は、縄文時代晩期終末まで遡るものと考えられていた。今回の調査範囲は、これら後期から晩期にかけての遺物を検出した地点の西側に当たる。同一緩斜面での一連の遺跡と捉えられ、調査区の西端は段丘崖となっていることから、遺跡の西端に当たると考えられる。試掘・確認調査では縄文時代中期後葉の土坑を確認した(宮川村教育委員会2002)。遺跡の中心地とは性格・時代が異なる遺構を検出するものと想定された。

**遺構**(第147・157～161図、第38表) 調査では、土坑D類を31基検出した。全て第Ⅳ層地山面上で検出した。平面形状は、円形か楕円形が26基(83.9%)、方形が4基(12.9%)、不定形が1期(3.2%)であり、円形が最も多い。規模は1m未満が15基(48.4%)、1mを越えるものが13基(41.9%)、2mを越えるものが3基(9.7%)である。深さは、最も深いものがSK511とSK522であり、0.59mを測る。25基は0.5m未満の浅い土坑である。このことは鳥遺跡の土坑D類と共通している。第Ⅲ層包含層がなく、遺物は遺構に伴って出土した。

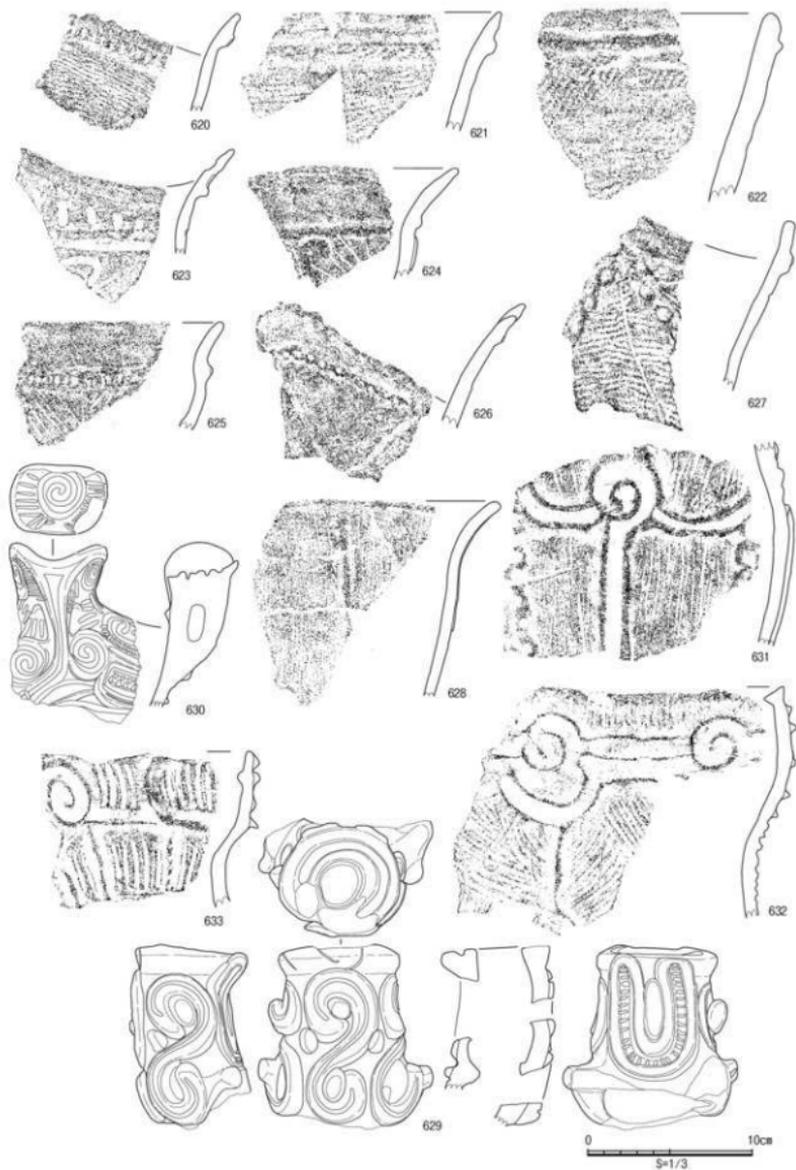
**遺物**(第146図) 遺物は、接合前資料で縄文土器61点、石器・石製品4点である。遺構に伴う遺物がほとんどであり、SK504から石器・石製品1点(726)、SK511から石器・石製品1点(727)SK514から土器12点、SK516から土器4点、SK518から土器1点、SK520から土器2点、SK522から土器18点、SK524から土器3点、SK529から土器1点、SK530から土器12点、SK531から土器6点、石器・石製品2点、SK532から土器1点、SK533から土器1点、包含層から石器・石製品1点が出土した。726は使用痕剥片である。727は石棒であり、剥離段階のものである。



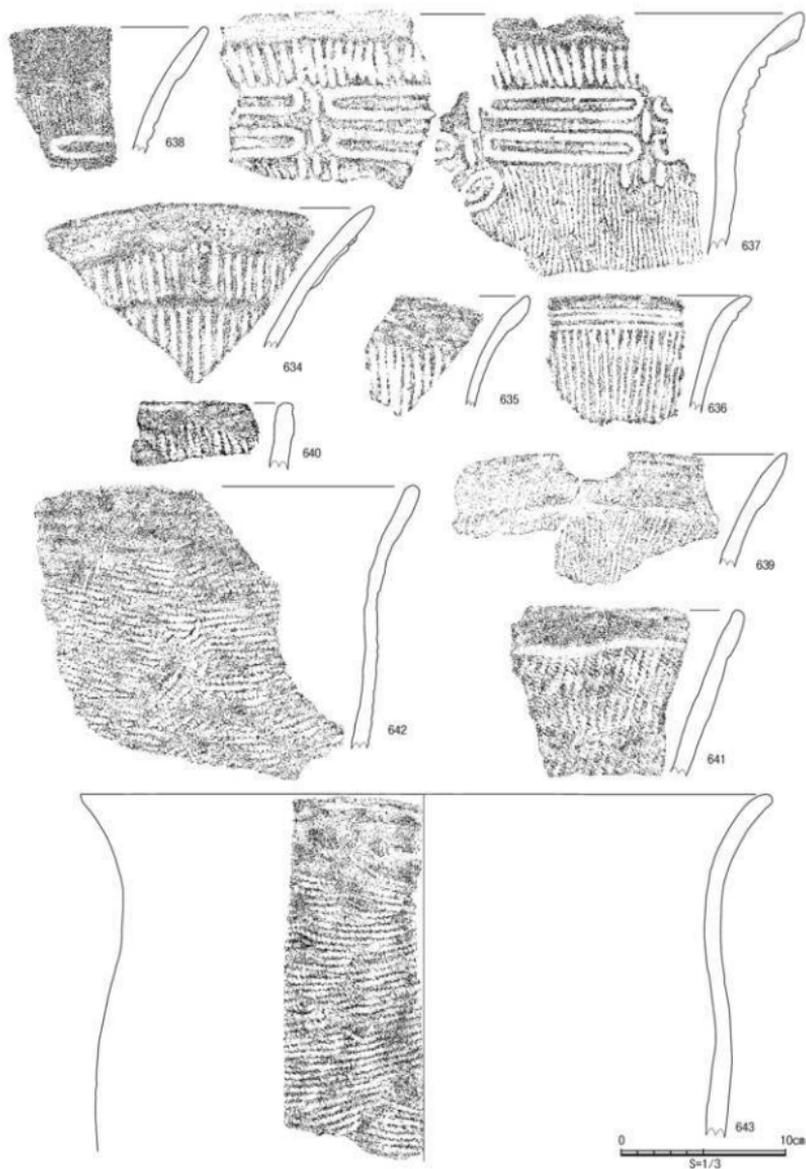
第133図 島遺跡遺構外出土物実測図(1)



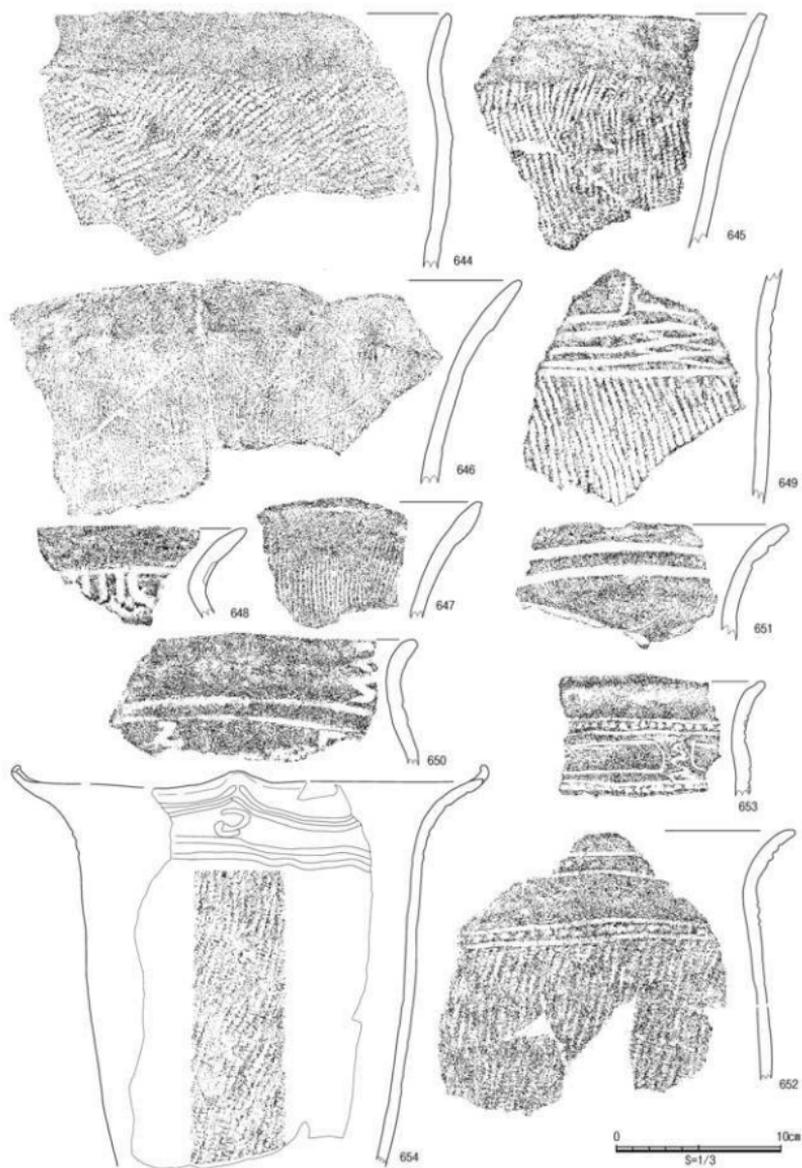
第134図 島遺跡遺構外出土遺物実測図(2)



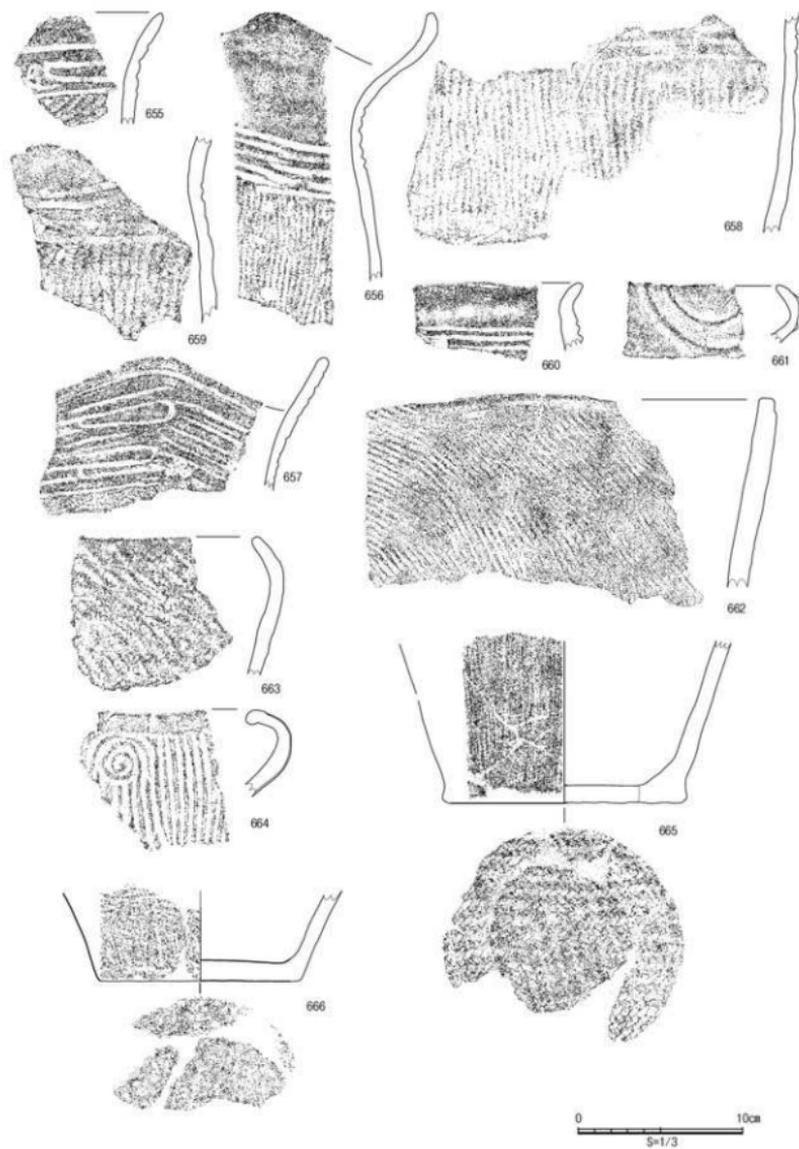
第135図 鳥遺跡遺構外出土物実測図(3)



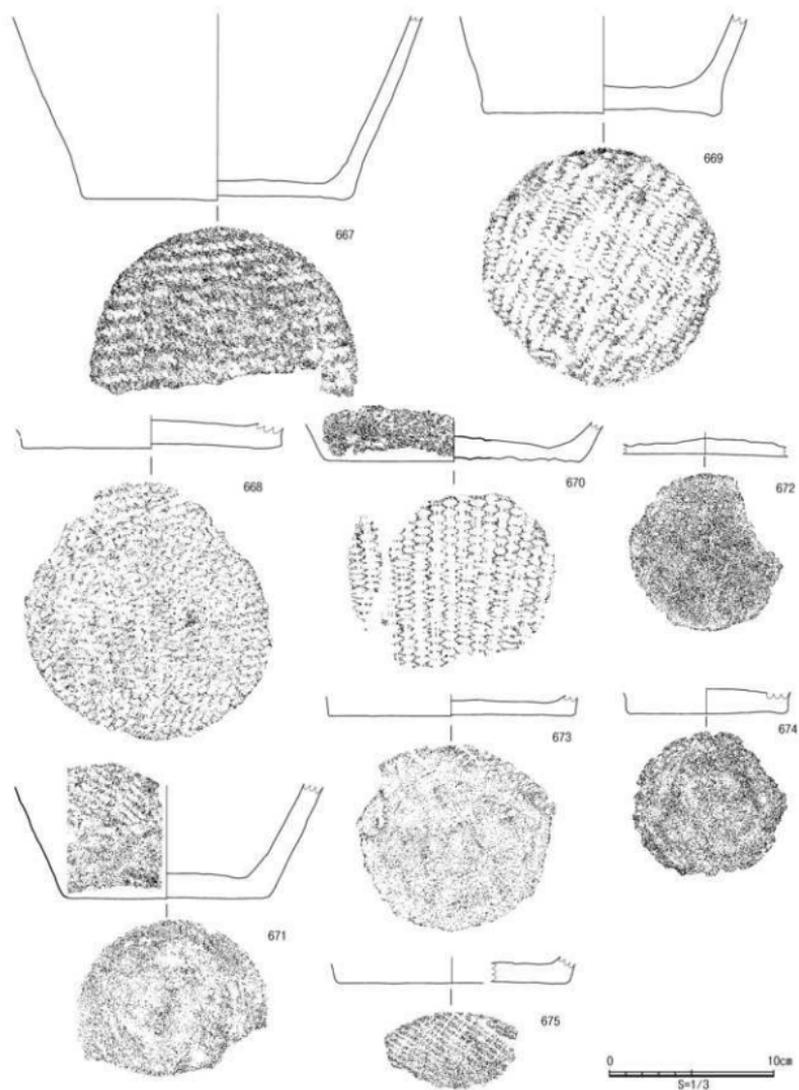
第136図 島遺跡遺構外出土遺物実測図(4)



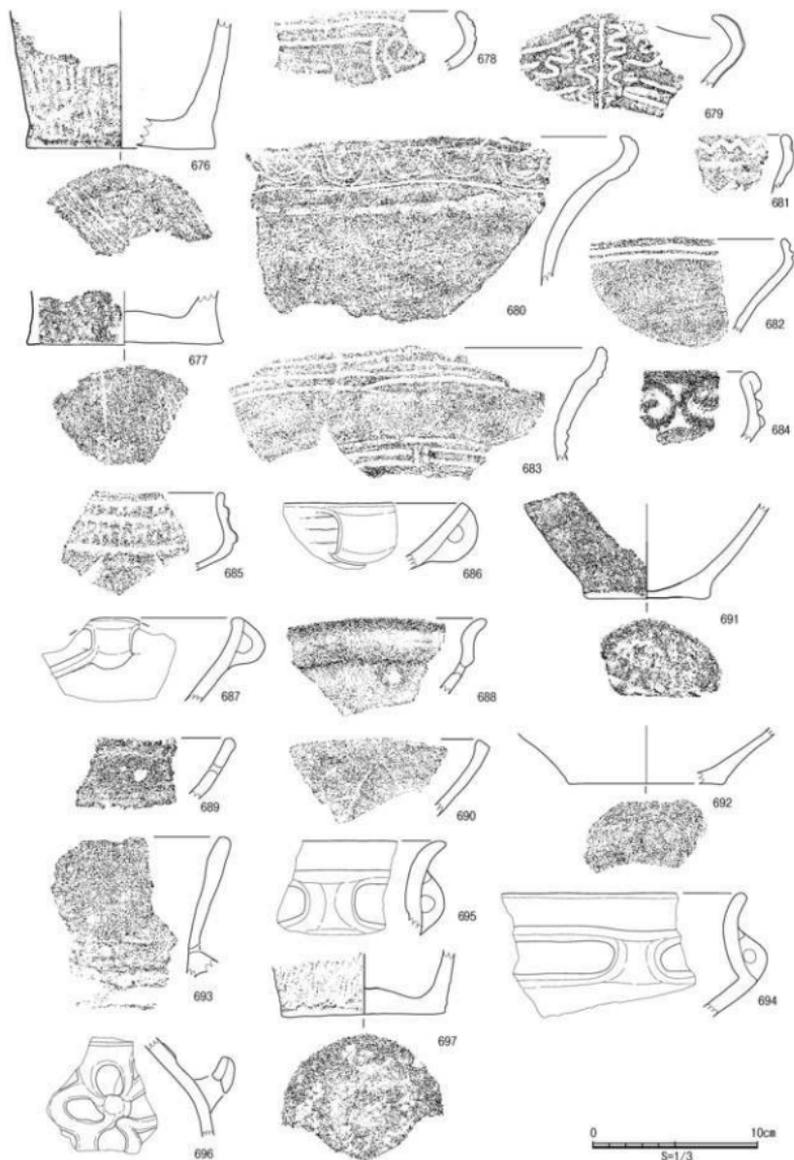
第137図 鳥瀬跡遺構外出土遺物実測図(5)



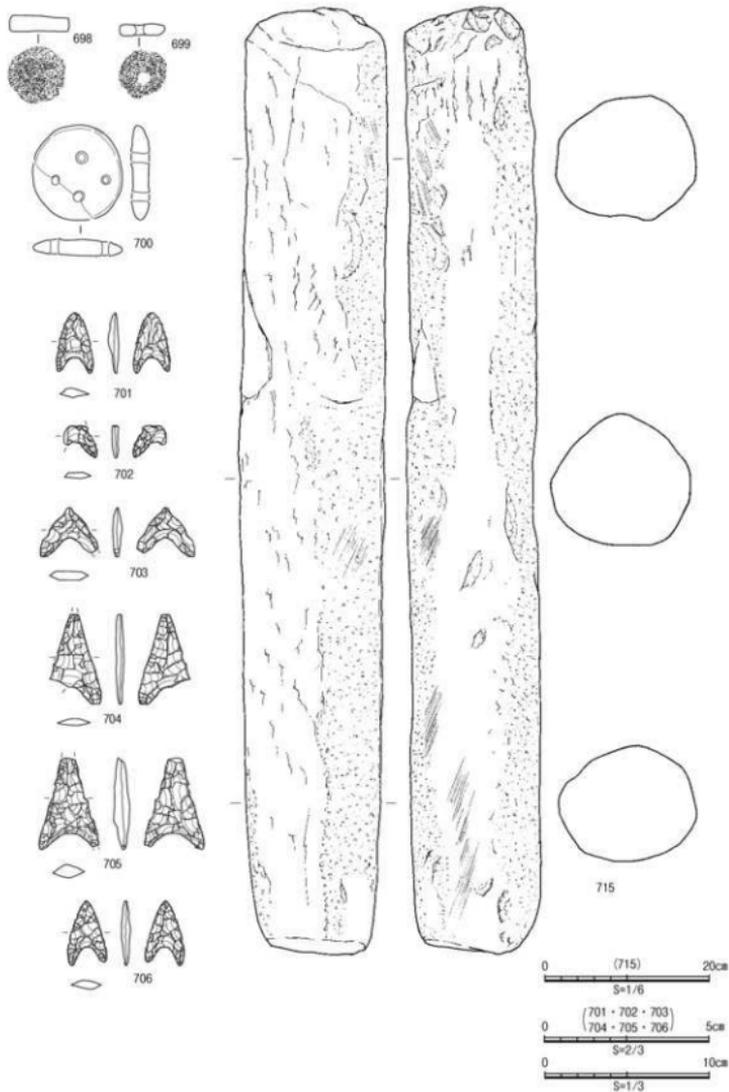
第138図 鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(6)



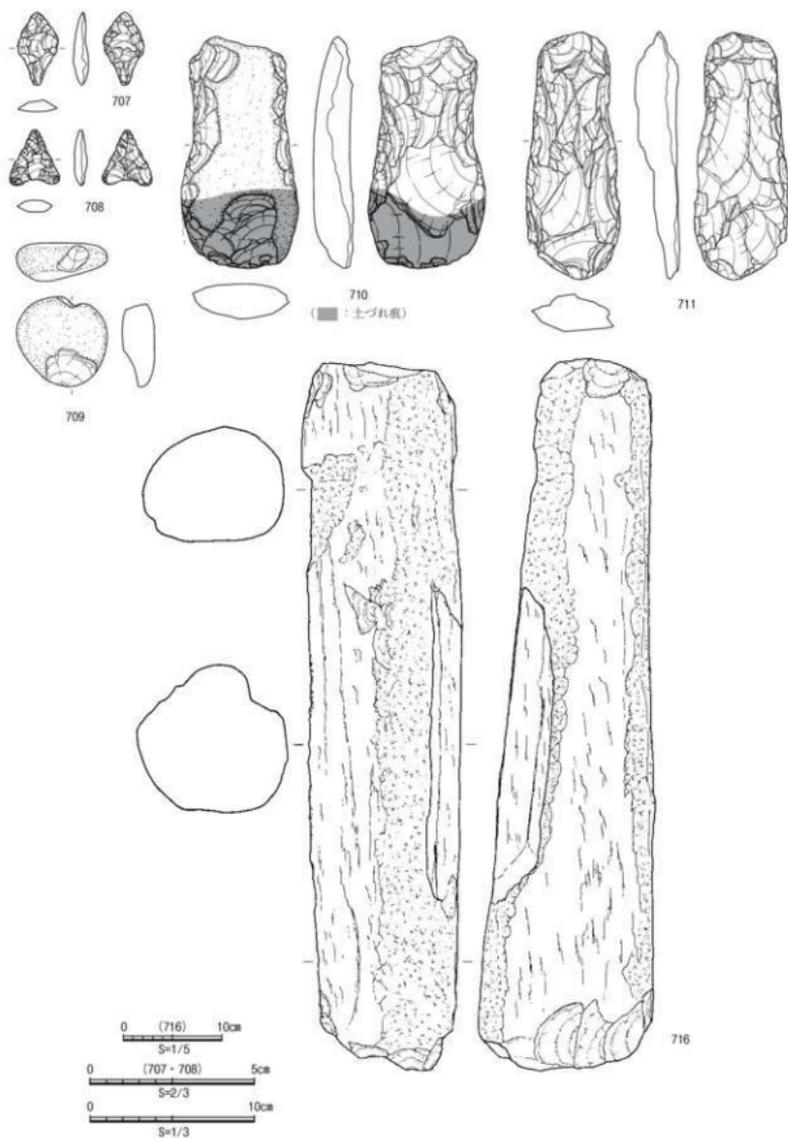
第139図 鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(7)



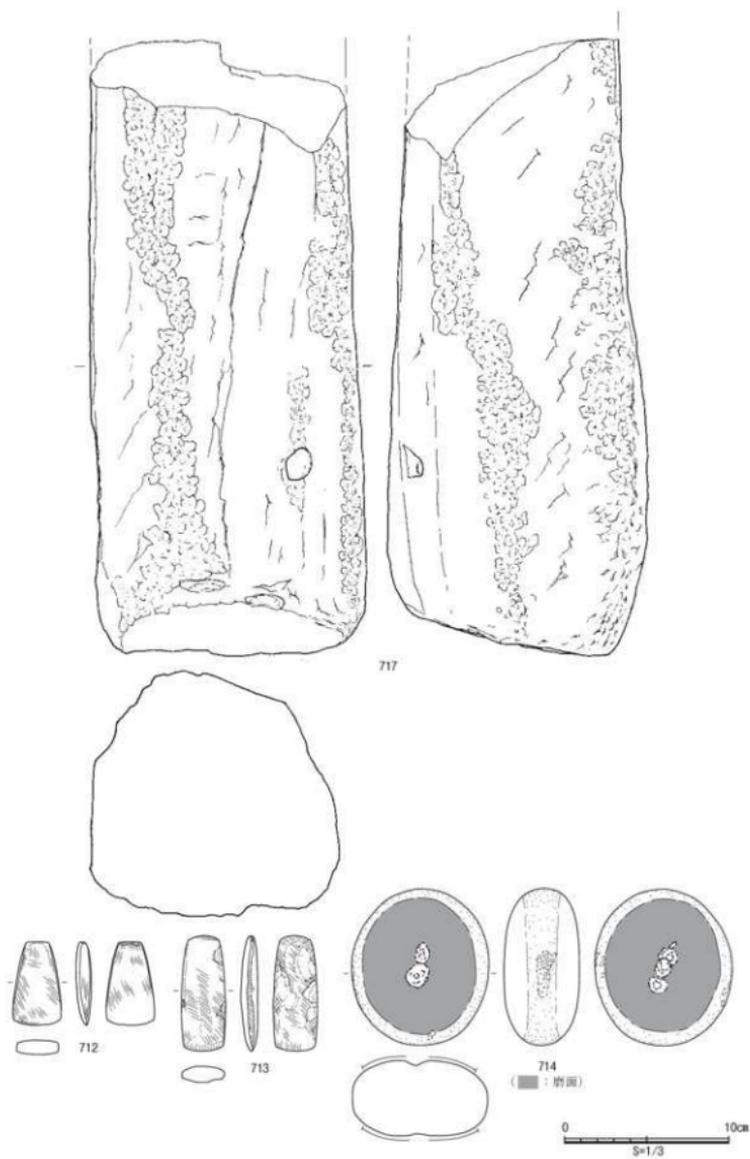
第140図 島遺跡遺構外出土遺物実測図(8)



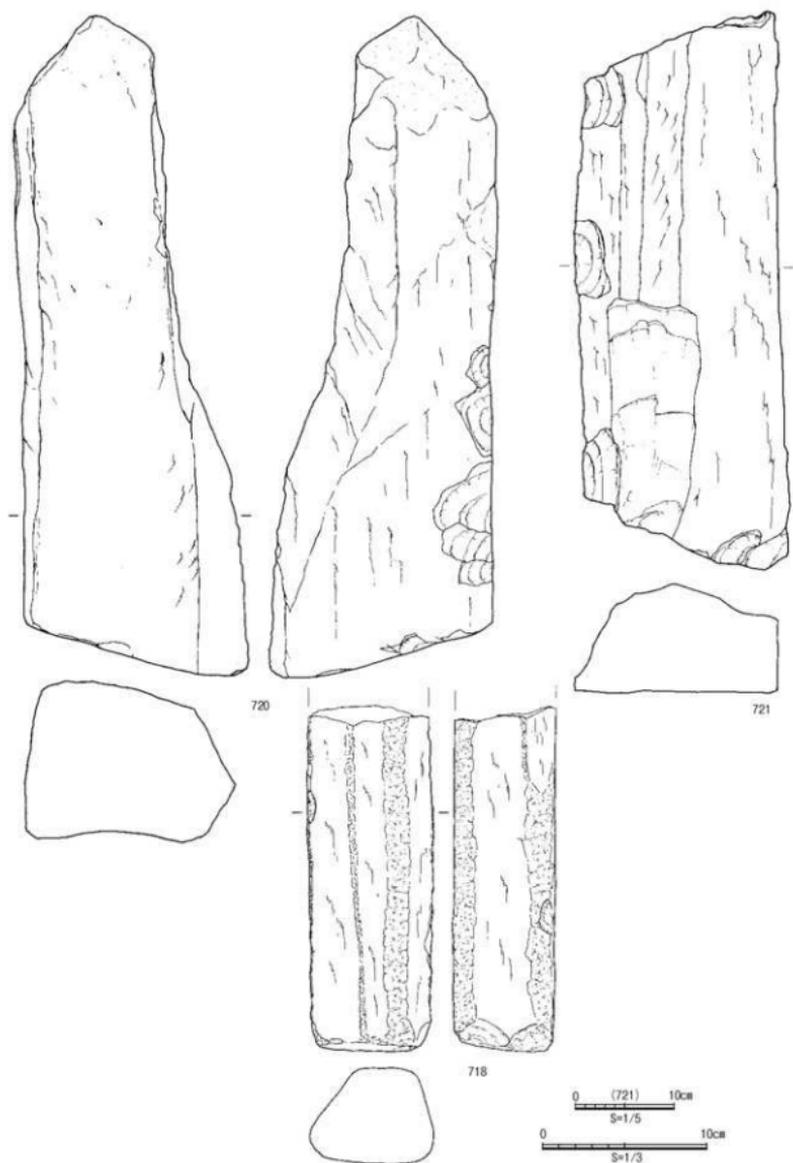
第141図 島遺跡遺構外出土遺物実測図(9)



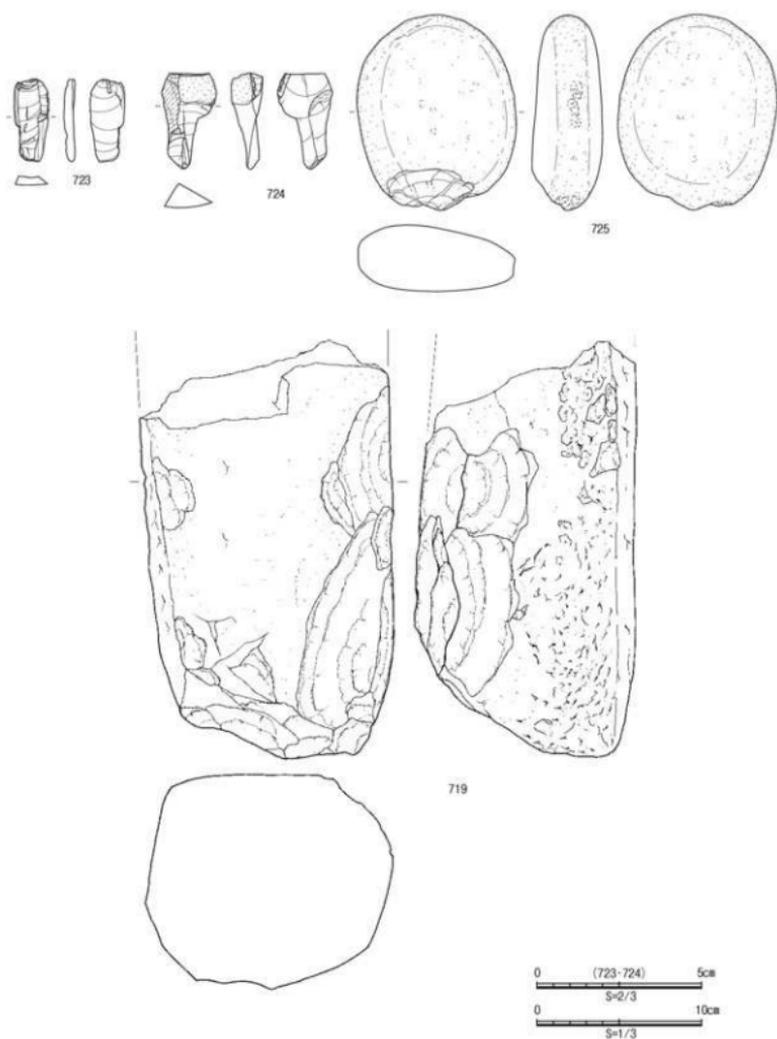
第142図 島遺跡遺構外出土遺物実測図(10)



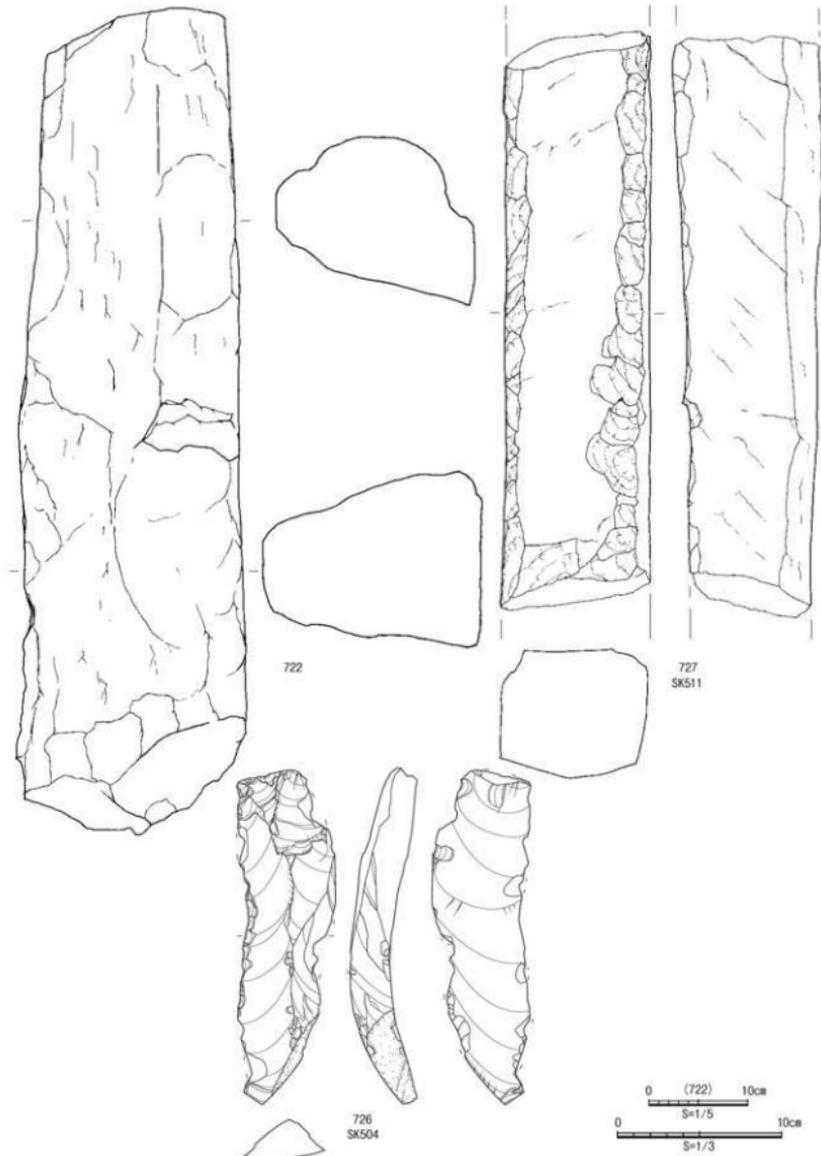
第143図 島遺跡遺構外出土遺物実測図(11)



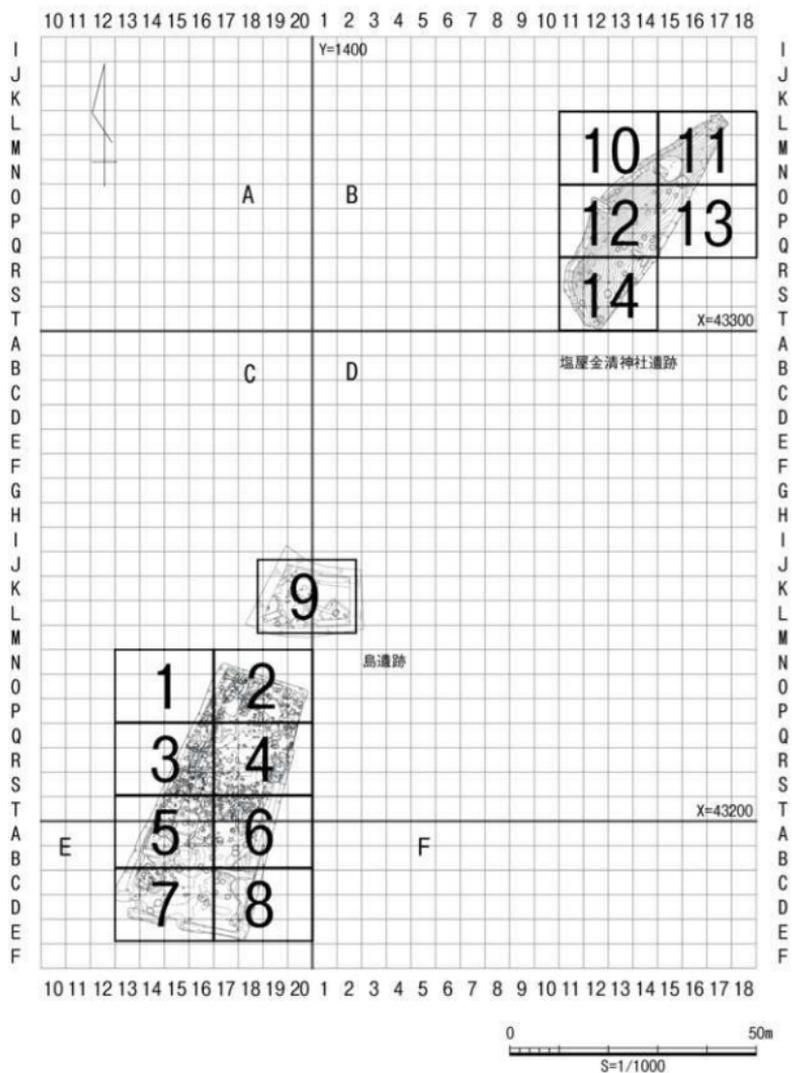
第144図 島遺跡遺構外出土遺物実測図(12)



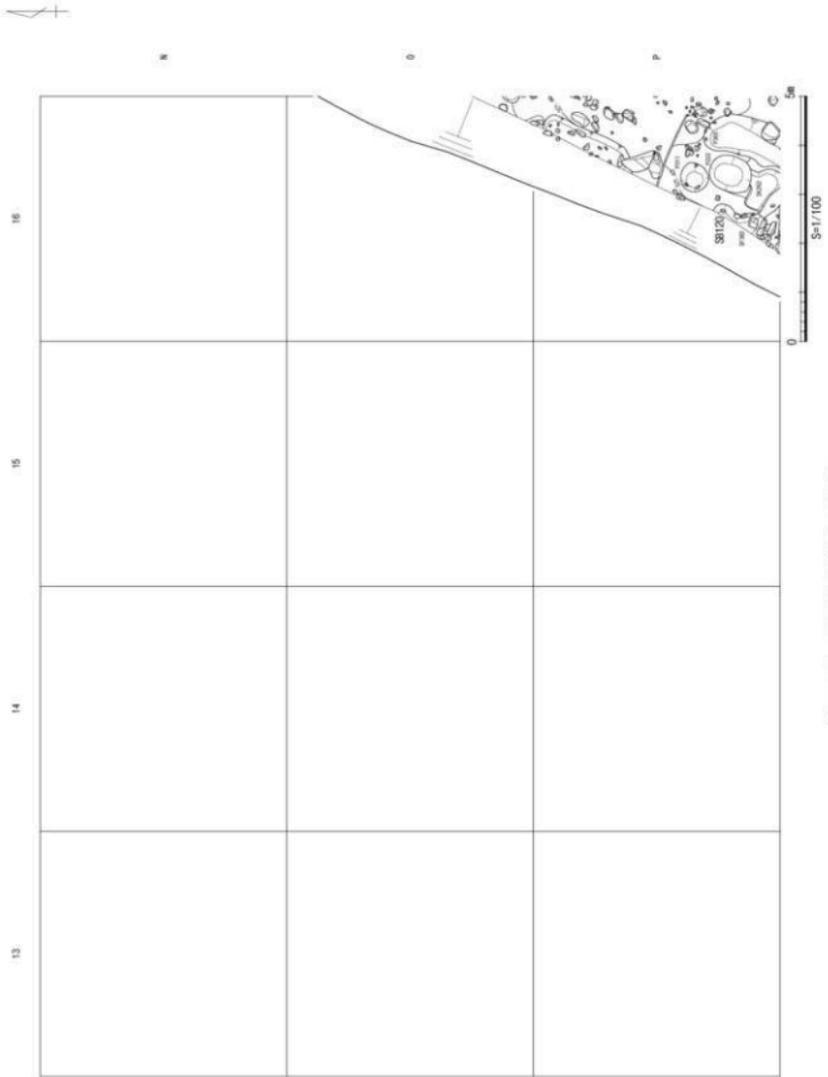
第145図 島遺跡遺構外出土遺物実測図(13)



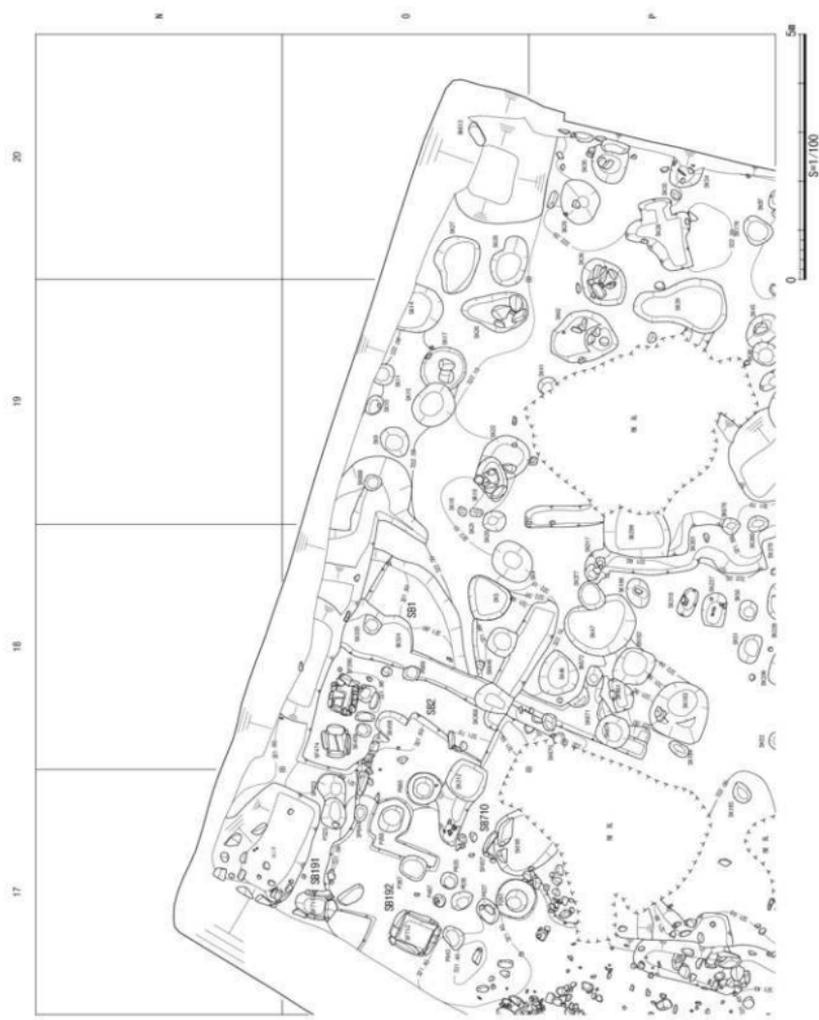
第146図 鳥遺跡遺構外出土遺物実測図(14)・塩屋金清神社遺跡出土遺物実測図



第 147 図 遺構全体図割付図



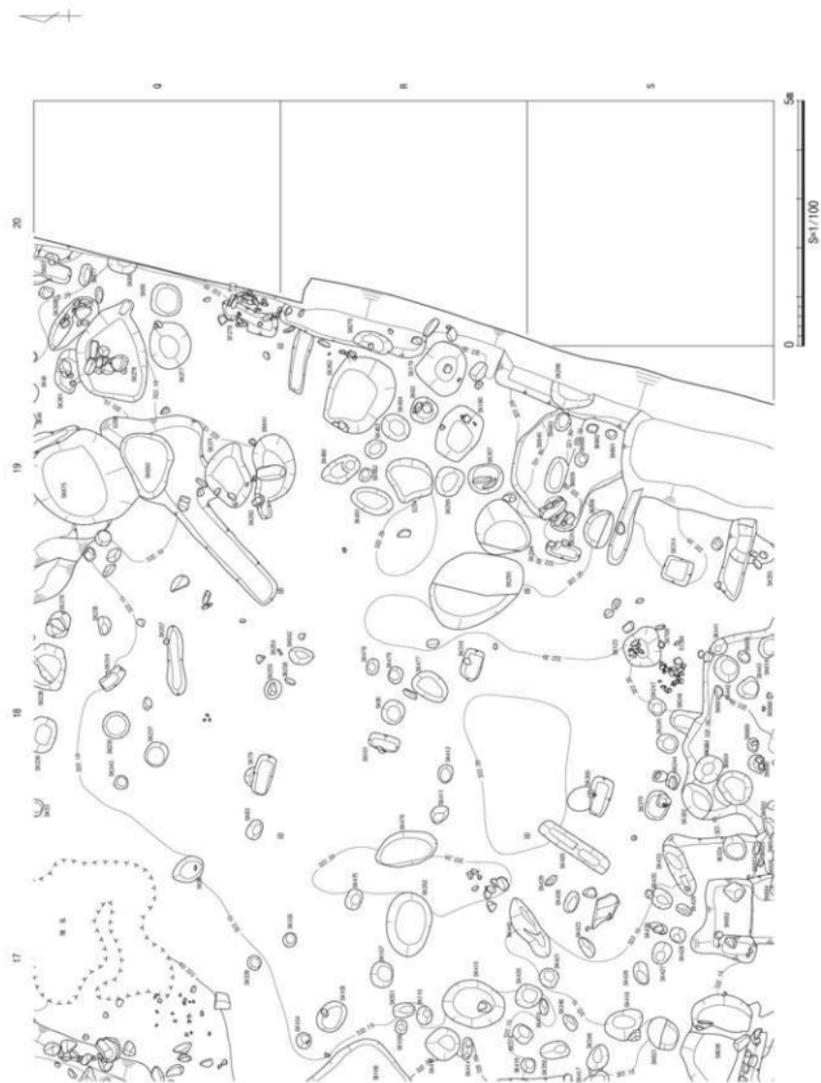
第148図 島遺跡遺構全体図分割図1



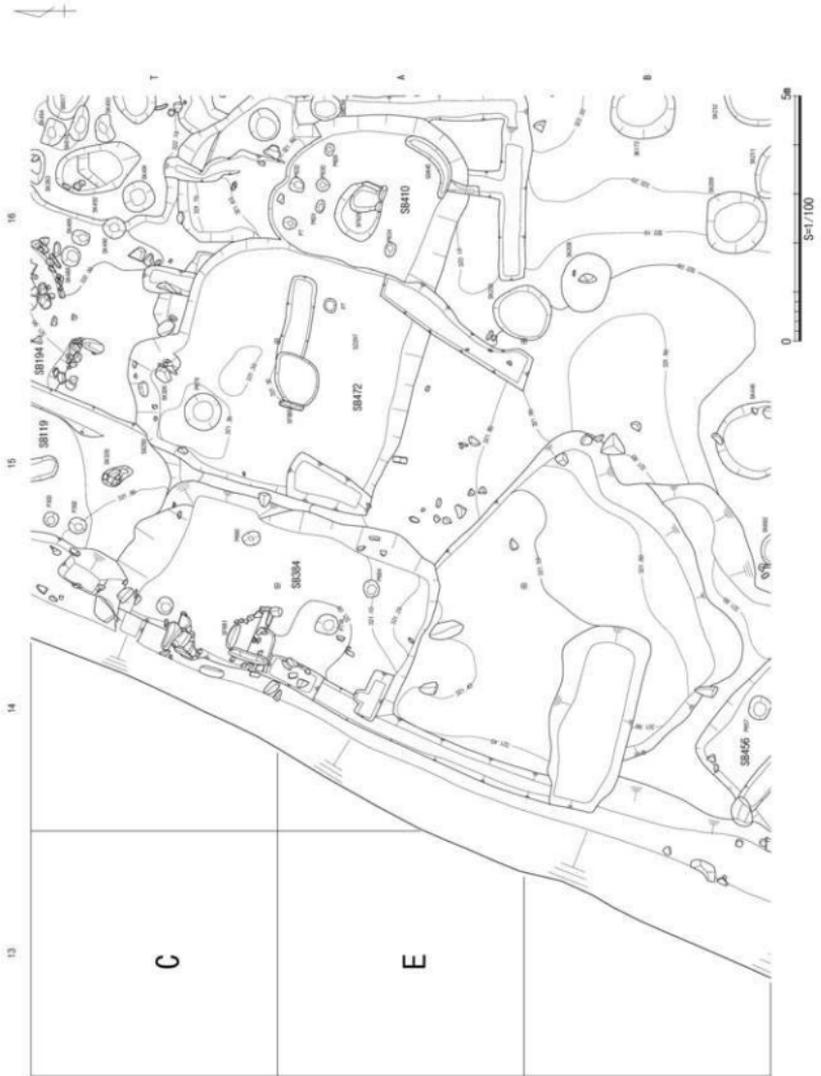
第149図 鳥渡跡遺構全体図分割図2



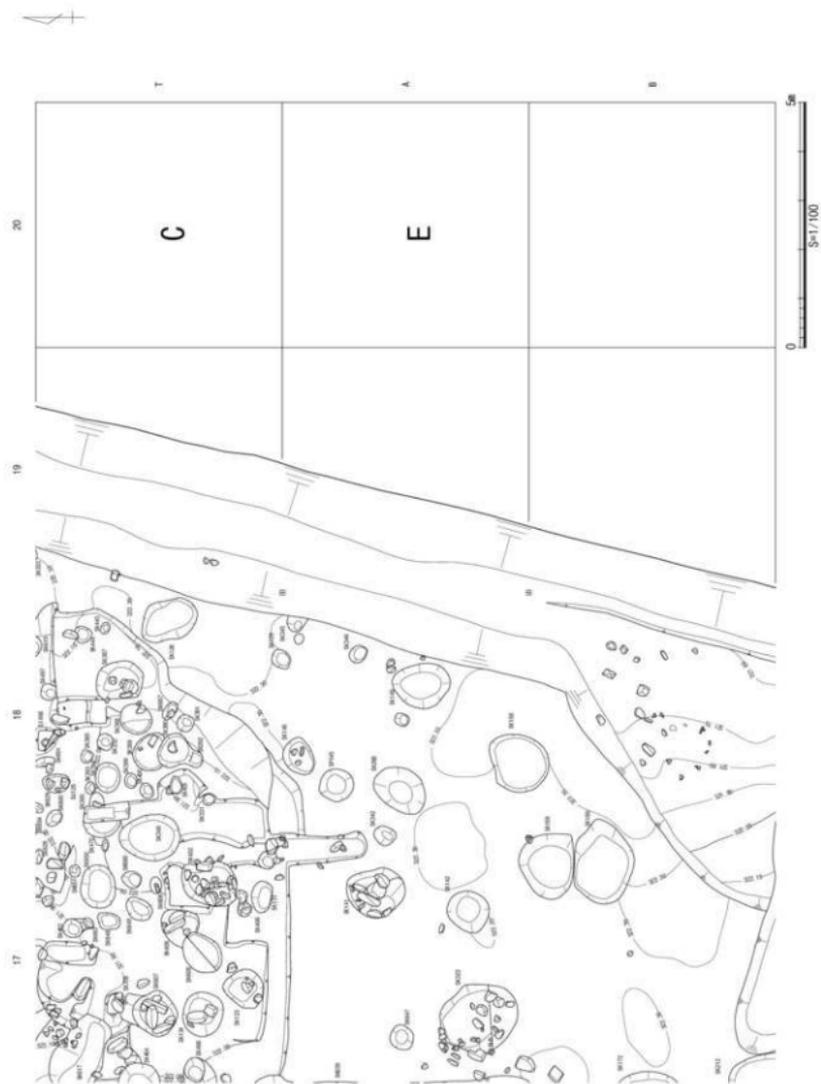
第150図 鳥道跡遺構全体図分割図3



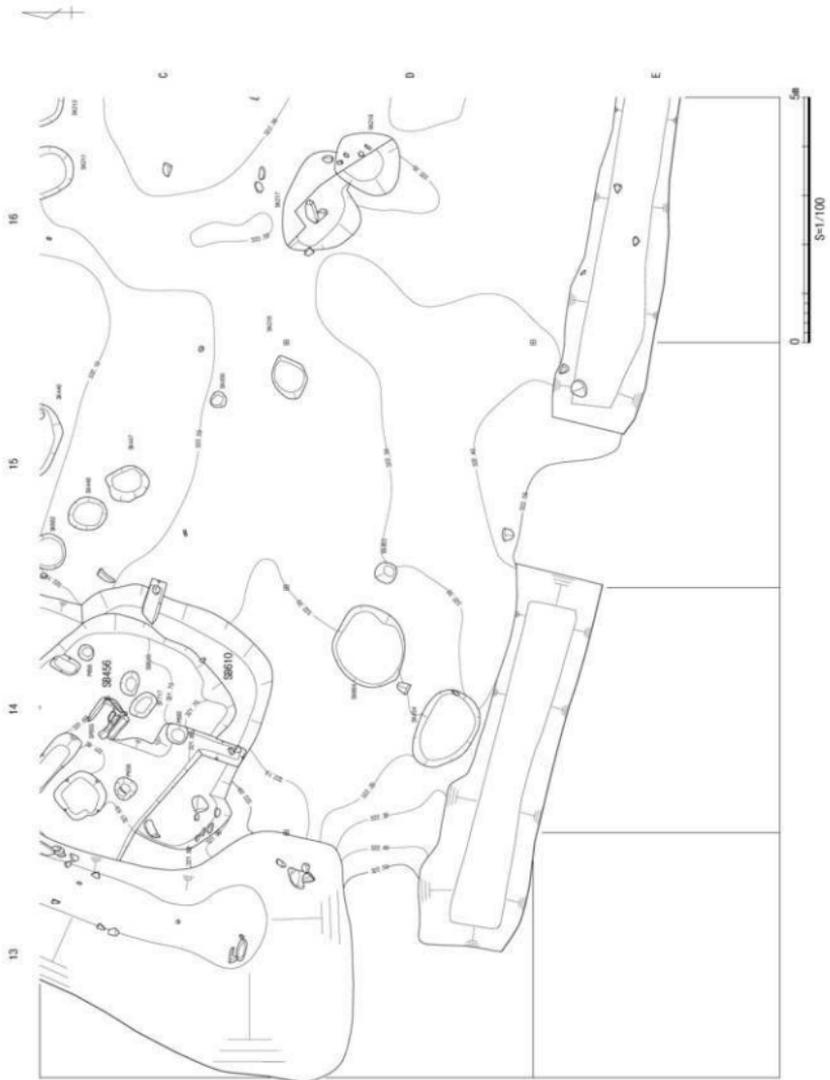
第151図 鳥遺跡遺構全体図分割図4



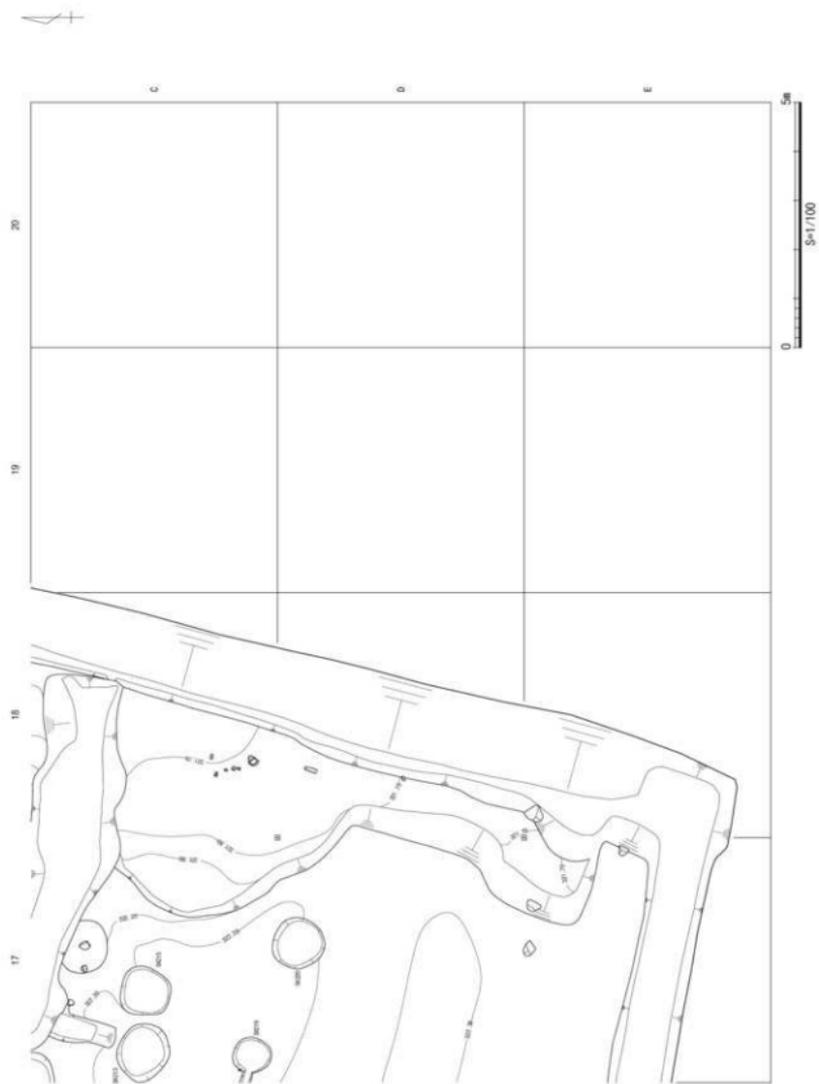
第152図 鳥瀧跡遺構全体図分断図5



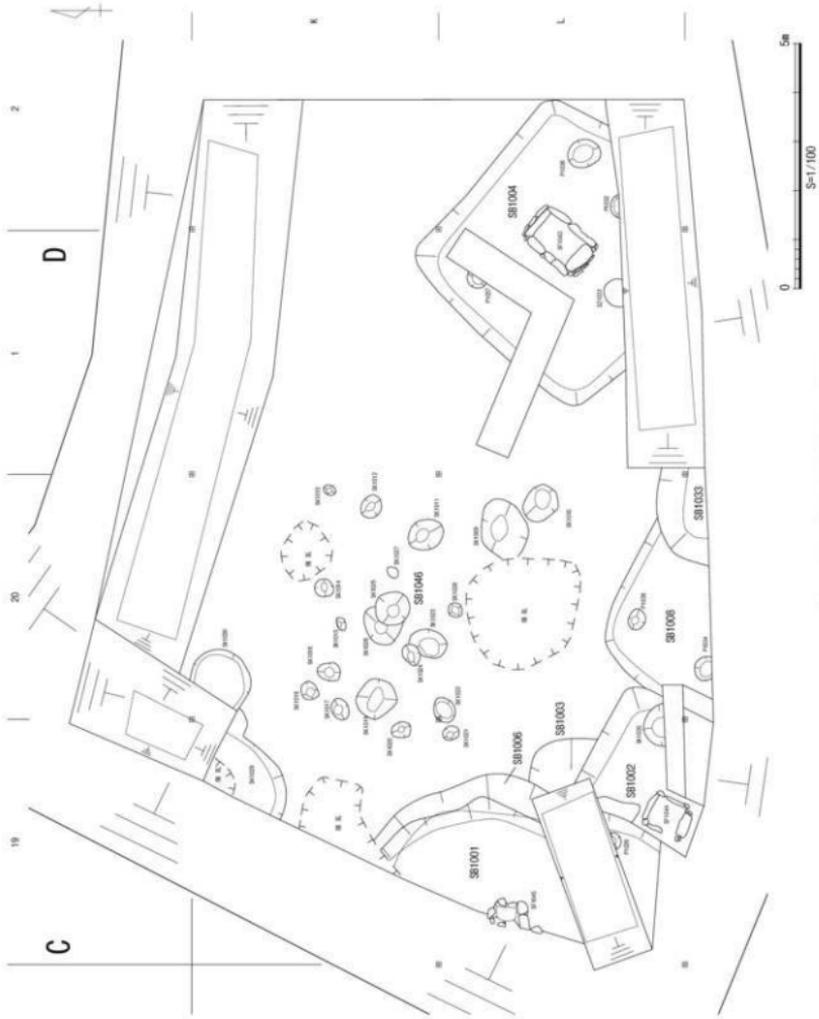
第153図 鳥渡跡遺構全体図分割図6



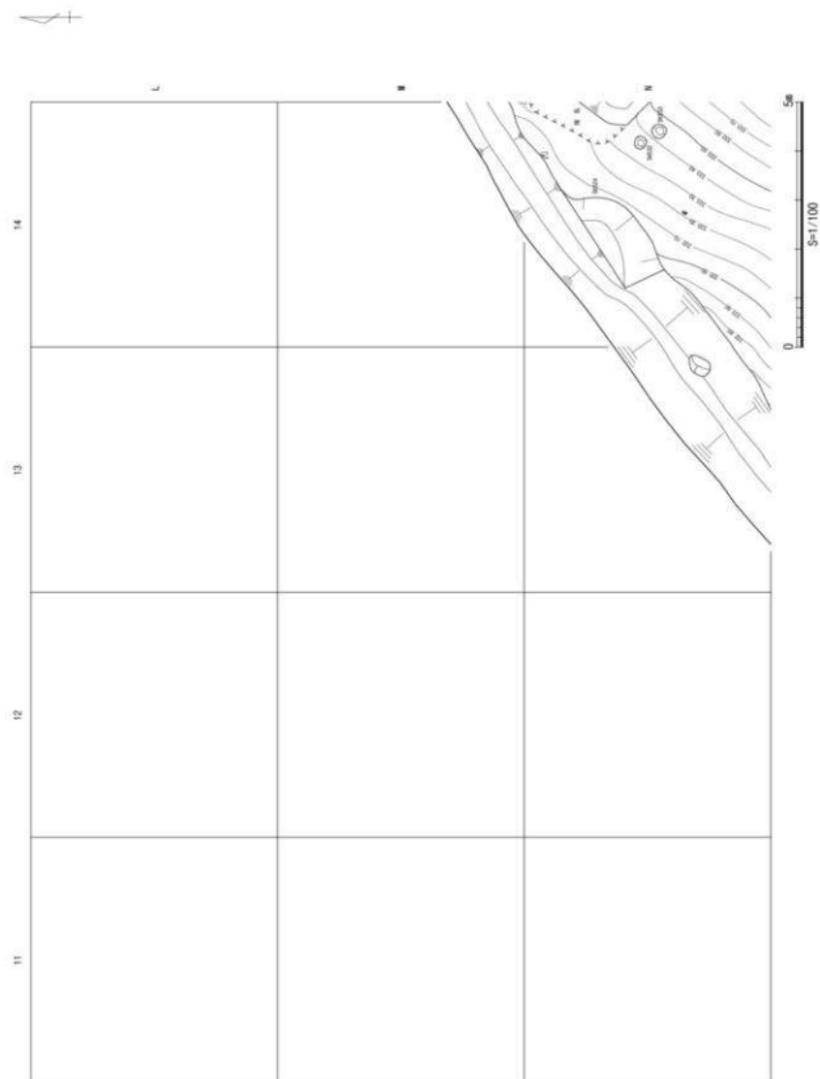
第154図 鳥渡跡遺構全体図分割図7



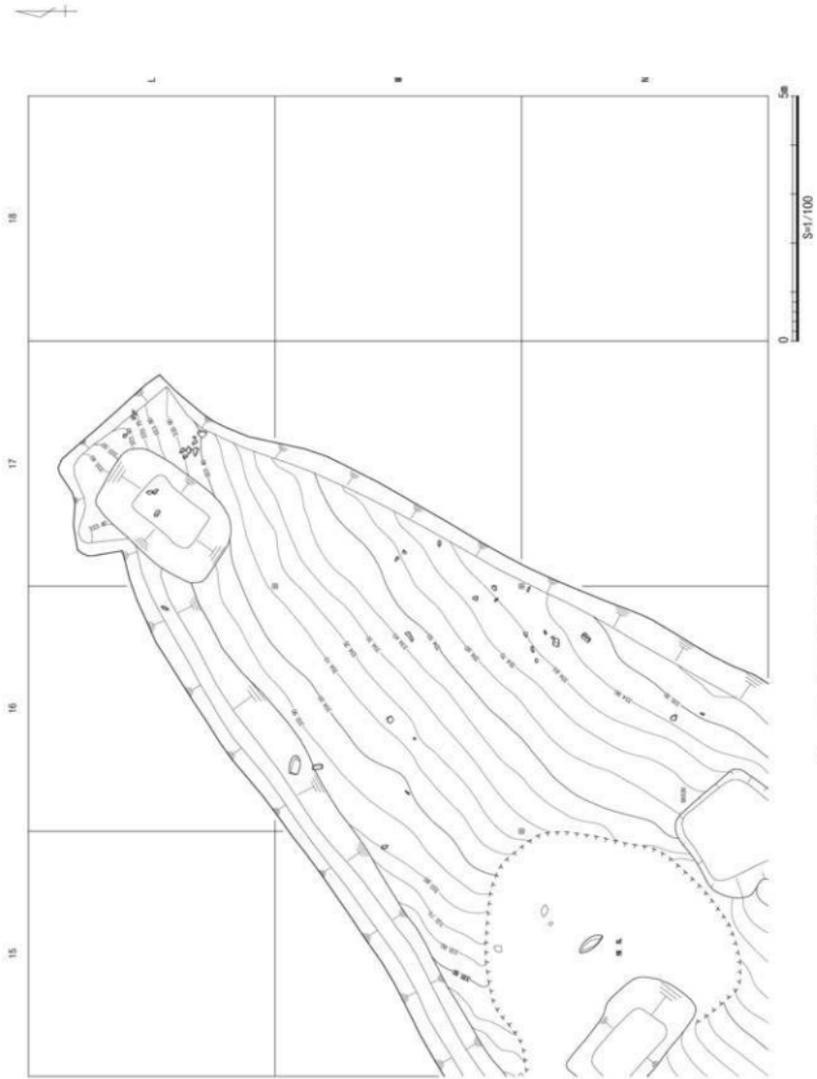
第155図 鳥渡跡遺構全体図分割図B



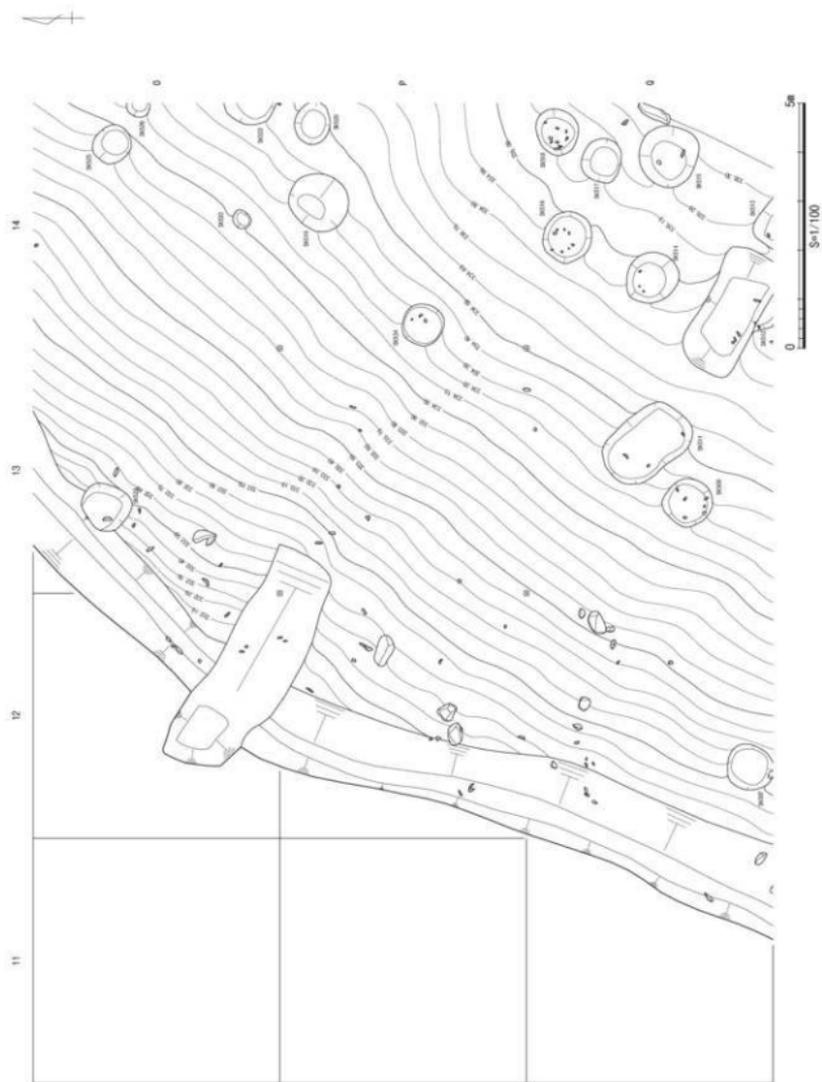
第156図 鳥遺跡遺構全体区分割図9



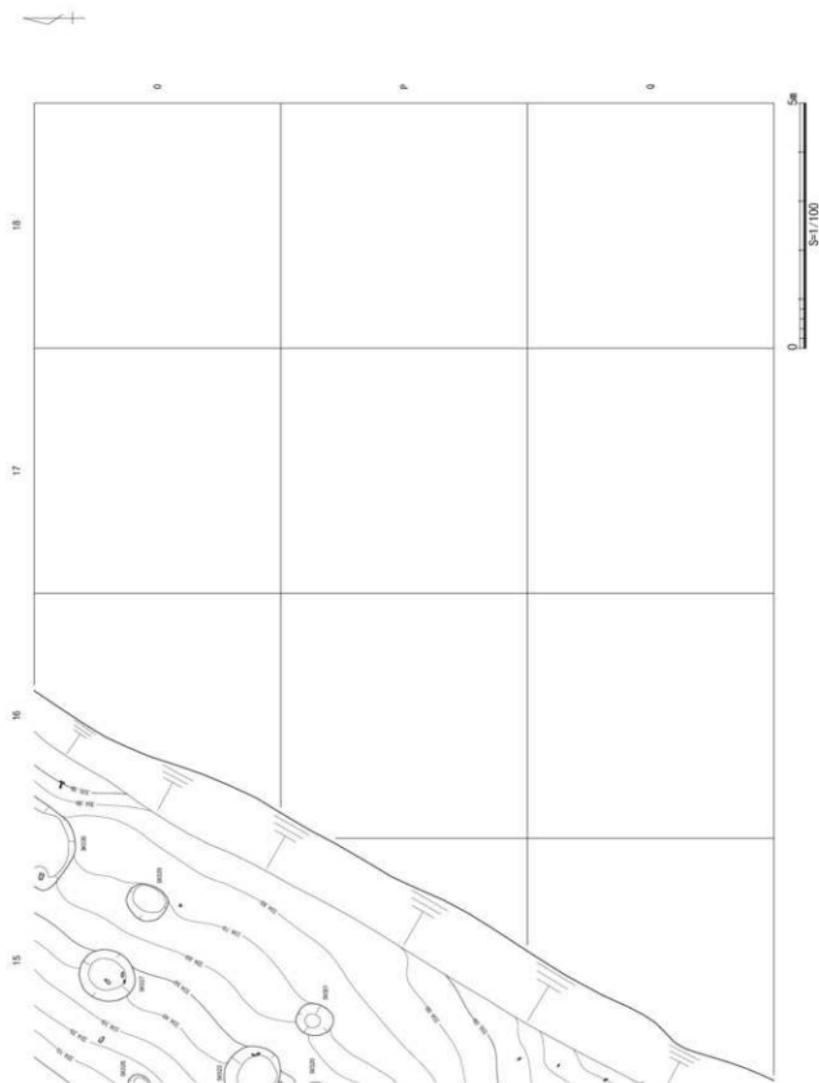
第157図 榎屋全清神社遺跡の遺構全体図分割図10



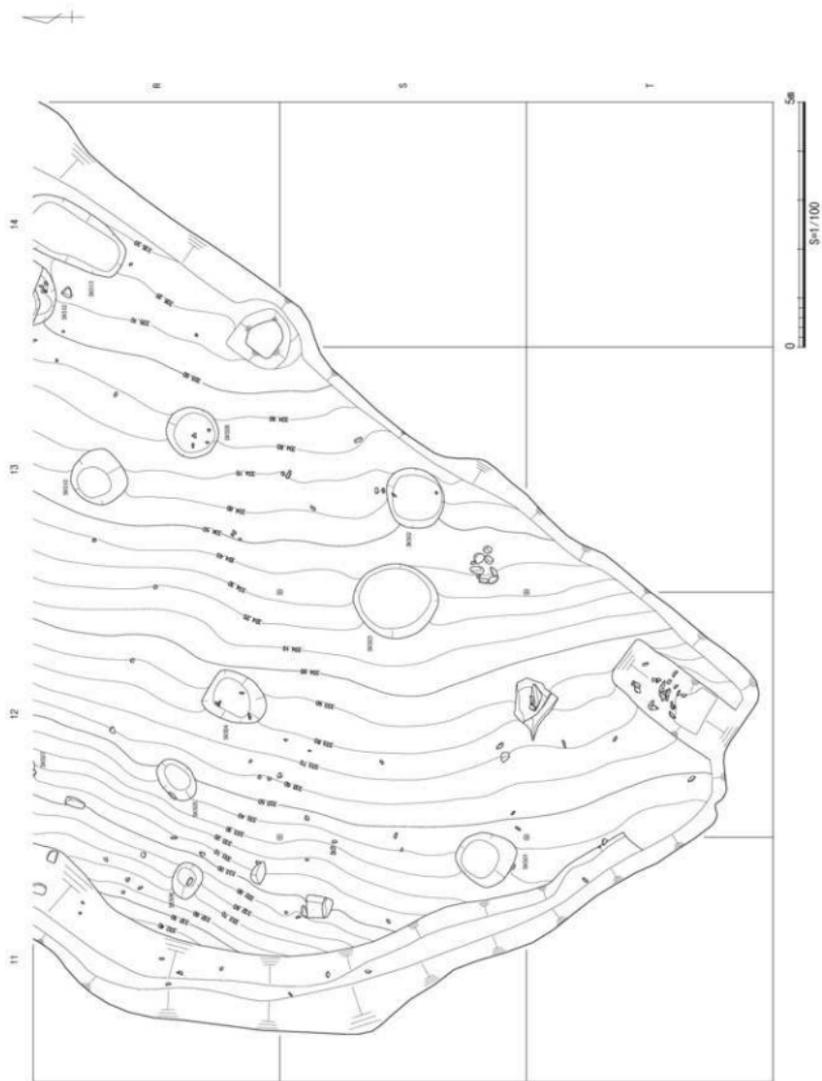
第158図 塩屋金清神社遺跡遺構全体図分割図11



第159図 榊屋全清神社遺跡の遺構全体図(分割図12)



第160図 塩屋金清神社遺跡遺構全体図分割図13



第161図 塩屋全清神社遺跡遺構全体図分割図14

第34表 鳥遺跡土坑D類一覽表(1)

遺構NO	カテゴリー	土質	形状	用途	開口形状	底面形状	法長 (m)			層	備考 (知り合い、出土遺物等)			
							上層		深さ					
							長径	短径						
SK4	C	18	O	地山	a	IV	a	a	0.87	0.70	0.36	褐色砂質土	75YR4-3	-
SK5	C	18	O	地山	a	IV	c	c	0.96	0.14	0.49	褐色砂質土	75YR4-3	-
SK9	C	19	O	地山	a	IV	c	c	0.60	0.53	0.33	褐色砂質土	75YR4-3	-
SK10	C	19	O	地山	a	IV	a	a	0.40	0.30	0.15	褐色砂質土	75YR4-3	-
SK11	C	19	O	地山	a	IV	a	a	0.44	0.34	0.13	-	-	-
SK15	C	19	O	地山	a	IV	a	a	0.92	0.80	0.42	褐色粘質土	10YR4-3	SK15 < SK17
SK18	C	19	O	地山	a	IV	a	a	0.21	0.16	0.11	褐色砂質土	75YR4-3	-
SK20	C	19	O	地山	a	IV	a	a	0.48	0.42	0.16	褐色砂質土	75YR4-3	-
SK21	C	19	O	地山	a	IV	c	c	0.26	0.16	0.11	褐色砂質土	75YR4-3	-
SK29	C	20	P	地山	a	I	a	a	0.92	0.80	0.51	褐色粘質土	10YR4-1	-
SK34	C	20	P	地山	a	IV	c	c	0.72	0.66	0.46	赤褐色粘質土	10YR3-1	-
SK35	C	20	P	地山	a	IV	a	a	0.22	0.17	0.17	褐色粘質土	10YR4-1	-
SK45	C	19	P	地山	a	II	a	a	0.77	0.55	0.03	-	-	-
SK46	C	19	P	地山	a	IV	a	a	0.52	0.47	0.35	黒色土	10YR2-1	炭灰によって更に暗くになっている
												赤褐色粘質土	75YR2-2	1層の粗粒砂 3% 混
SK47	C	18	P	地山	c	IV	c	c	1.45	1.21	0.37	-	-	1層の粗粒砂 1% 混入 1・2層に比して白色微粒砂が1%混入
												-	-	2層より暗く、2・3層より炭灰の混入は少なく、土粒子が多数含む
SK48	C	18	P	地山	a	IV	c	a	0.91	0.79	0.56	暗褐色砂質シルト	10YR3-4	-
SK50	C	18	P	地山	a	IV	b	b	0.42	0.36	0.31	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4-3	-
SK51	C	18	P	地山	a	IV	c	b	0.60	0.42	0.32	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4-3	-
SK53	C	18	P	地山	a	IV	c	b	0.37	0.32	0.29	褐色砂質土	7.5YR4-3	底面に大礫有り
SK59	C	17	Q	地山	a	IV	a	a	0.66	0.50	0.29	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4-3	-
SK79	C	18	Q	地山	a	IV	a	a	0.40	0.18	0.15	褐色砂質土	7.5YR4-4	-
SK83	C	18	Q	地山	a	IV	b	a	0.42	0.28	0.29	褐色砂質土	7.5YR4-6	-
SK88	C	20	Q	地山	a	IV	a	a	0.61	0.26	0.21	黒色土	10YR2-2	-
SK89	C	20	Q	地山	a	IV	a	a	0.67	0.60	0.31	黒色土	10YR2-2	-
SK95	C	18	R	地山	a	IV	a	a	0.49	0.45	0.33	赤褐色粘質土	10YR3-1	-
SK103	C	17	R	地山	a	IV	a	a	0.30	0.28	0.33	にじみ赤褐色粘質土	10YR3-1	-
SK104	C	17	R	地山	a	IV	a	a	0.32	0.32	0.29	赤褐色土	10YR2-2	-
SK105	C	17	R	地山	a	IV	a	a	0.68	0.51	0.46	暗褐色土	10YR3-3	-
SK106	C	16	R	地山	a	IV	b	b	2.61	1.72	0.24	にじみ赤褐色粘質土	10YR3-4	5cm 大の小礫混
SK107	C	17	R	地山	a	IV	a	a	0.52	0.46	0.54	灰黄色粘質土	10YR5-2	-
SK108	C	17	R	地山	a	IV	a	a	0.29	0.26	0.38	赤色土	10YR2-2	-
SK109	C	16	R	地山	a	IV	a	a	12.40	1.80	0.14	にじみ赤褐色粘質土	10YR3-4	5cm 大の小礫混
SK115	C	16	R	地山	a	IV	b	b	3.76	1.25	0.24	赤褐色粘質土	10YR3-2	-
SK116	C	16	R	地山	a	IV	a	a	0.34	0.32	0.21	暗褐色粘質土	10YR3-4	白色微粒子混
SK117	C	16	R	地山	a	IV	b	b	0.58	0.58	0.35	にじみ赤褐色粘質土	10YR3-4	5cm 大の小礫・炭化物大量に混入
SK123	C	18	S	地山	a	IV	c	c	0.82	0.74	0.61	赤褐色粘質土	7.5YR3-1	SK123 > SK709 底面に 10cm 大の小礫・炭化物大量に混入
SK126	C	18	T	地山	a	IV	c	c	1.22	0.78	0.14	暗褐色粘質土	10YR3-3	-
SK129	C	18	T	地山	a	IV	b	b	0.38	0.32	0.18	褐色粘質土	7.5YR6-1	磨製石斧出土
SK131	C	17	T	地山	a	IV	c	c	0.62	0.42	0.26	灰褐色粘質土	10YR6-3	-
SK142	E	17	A	地山	a	IV	a	a	0.90	0.81	0.28	灰色粘質土	7.5YR4-1	-
SK176	C	20	P	地山	a	IV	b	a	0.62	0.53	0.17	褐色粘質土	10YR6-1	-
SK177	C	16	T	地山	a	IV	a	a	1.40	0.85	0.11	にじみ赤褐色土	7.5YR5-3	-
SK178	C	16	T	地山	a	IV	a	a	1.61	1.09	0.20	褐色粘質土	7.5YR2-1	-
SK182	C	18	P	地山	a	IV	b	b	0.76	0.74	0.57	褐色粘質土	10YR6-1	-
SK184	C	18	P	地山	a	IV	a	a	0.43	0.23	0.35	褐色粘質土	10YR6-1	-
SK185	C	17	P	地山	a	IV	a	a	0.46	0.33	0.31	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4-3	-
SK186	C	18	P	地山	a	IV	a	a	0.60	0.43	0.61	赤褐色粘質土	10YR1-3	-
SK186	C	17	O	地山	d	IV	a	a	1.12	1.28	0.30	褐色粘質土	7.5YR2-1	-
SK204	C	16	Q	地山	a	a	c	c	1.80	1.29	0.41	暗褐色粘質土	10YR2-2	炭化物・黄褐色土粒混
SK223	C	17	O	地山	a	IV	b	b	0.58	0.58	0.40	にじみ赤褐色粘質土	10YR4-3	底面に大礫径 20cm 有り SK223 < SK223
SK226	C	18	Q	地山	d	IV	b	b	0.96	0.95	0.25	1. 暗褐色土 2. 黄色砂質土	10YR3-3 2.5Y5-8	-
SK227	C	18	P	地山	a	IV	b	a	0.69	0.49	0.33	赤色土	10YR2-2	-
SK230	C	18	Q	地山	a	IV	a	a	0.54	0.53	0.05	灰褐色粘質土	7.5YR5-2	-
SK233	C	18	Q	地山	a	IV	c	a	0.38	0.25	0.36	灰褐色粘質土	7.5YR5-2	-
SK237	C	18	Q	地山	a	IV	c	a	0.51	0.45	0.28	灰褐色粘質土	7.5YR5-2	-
SK345	C	18	S	地山	a	IV	a	a	0.42	0.30	0.17	褐色粘質土	10YR4-1	-
SK247	C	18	S	地山	a	IV	b	a	0.33	0.31	0.12	赤色土	10YR7-3	炭化物非常に多く混入
SK248	C	18	S	地山	a	IV	c	b	0.47	0.48	0.12	褐色粘質土	10YR4-1	-
SK260	C	17	O	地山	a	IV	a	a	0.44	0.37	0.40	褐色粘質土	10YR4-1	-
SK262	C	16	P	地山	a	IV	b	b	0.90	0.40	0.19	赤褐色土	10YR3-1	-
SK277	C	19	Q	地山	a	IV	a	a	0.90	0.84	0.47	褐色粘質土	7.5YR4-1	-
SK279	C	19	R	地山	a	IV	c	c	0.82	0.36	0.29	褐色土	7.5YR4-3	-
SK280	C	15	T	地山	a	IV	c	c	7.00	4.00	0.66	-	-	-
SK281	C	15	T	地山	a	IV	c	c	-	-	-	-	-	-
SK282	C	15	T	地山	d	IV	c	c	1.90	-	0.63	-	-	-
SK284	C	15	T	地山	a	IV	c	c	0.73	-	0.16	-	-	-
SK289	C	16	Q	地山	a	IV	c	b	0.90	0.80	0.19	赤褐色土	10YR3-1	-
SK294	C	19	R	地山	a	IV	b	a	1.16	1.00	0.30	1. 暗褐色粘質土 2. 褐色粘質土	10YR3-3 10YR4-4	10YR5-6 黄褐色ブロック状に混入 1層が炭灰に混入し、やや全体が暗くなる
SK295	C	19	R	地山	a	IV	a	a	0.60	0.53	0.33	褐色土	7.5YR4-3	ブロックが炭灰に含む
SK296	C	19	S	地山	a	IV	c	a	0.90	0.40	0.25	褐色粘質土	10YR5-1	-

第35表 鳥遺跡土坑D類一覧表(2)

遺構NO	タイプ	方位	遺構形状	平面形状	断面形状	土質	法量 (m)		備考 (切り合い、出土遺物等)					
							長さ	深さ						
SK299	C	18	P	地山	a	b	b	1.23	0.90	0.18	褐色色砂質土	10YR5/1	-	
SK302	C	15	T	地山	a	a	a	0.26	0.32	0.17	暗褐色砂質土	10YR3/4	-	
SK304	C	19	S	地山	a	a	a	0.80	0.37	0.31	褐色色砂質土	10YR5/1	-	
SK312	C	17	O	地山	a	b	b	0.60	0.78	-	暗褐色砂質土	10YR3/4	-	
SK324	C	18	O	地山	a	c	c	(1.44)	0.55	0.41	暗褐色粘質土	10YR3/3	炭化物・黄褐色粘土混入	
SK328	C	15	T	地山	a	c	c	0.63	0.48	0.21	1. にごい・黄褐色土 2. 灰青褐色砂質土	10YR4/3 10YR5/2	-	
SK332	C	18	T	地山	a	a	a	0.33	0.29	0.25	褐色色砂質土	10YR4/1	1cm 次の小礫混入	
SK333	C	19	S	地山	a	c	c	-	0.80	0.75	0.69	褐色色砂質土	10YR4/1	1cm 次の小礫混入
SK334	C	17	S	地山	a	b	a	0.50	0.45	0.15	1. 褐色色砂質土 2. 灰青褐色砂質土	10YR4/1 10YR4/2	-	
SK335	C	18	O	地山	a	a	a	0.44	0.32	0.19	灰青褐色砂質土	10YR4/2	骨片出土	
SK336	C	18	Q	地山	a	b	b	0.73	0.56	0.45	褐色土	7.5YR4/3	-	
SK339	C	17	Q	地山	a	a	a	0.30	0.26	0.27	黄褐色砂質土	7.5YR3/2	-	
SK342	E	18	A	地山	a	b	a	0.42	0.39	0.28	褐色色砂質土	10YR4/1	-	
SK343	C	18	Q	地山	a	a	a	0.28	0.26	0.22	褐色色砂質土	7.5YR4/3	-	
SK345	E	18	A	地山	a	c	a	(0.30)	0.37	0.12	オリーブ褐色砂質土	2.5YR4/3	-	
SK346	E	18	A	地山	a	a	a	0.28	0.32	0.18	暗褐色砂質土	10YR3/3	-	
SK347	C	15	S	地山	a	c	c	(1.30)	1.30	0.36	黒色土	7.5YR3/1	重い粒砂が全体に散じる	
SK348	C	17	S	地山	a	c	a	0.53	0.40	0.39	暗褐色土	10YR3/4	-	
SK349	C	17	S	地山	a	a	a	0.36	0.23	0.37	黄褐色土	7.5YR3/2	黄褐色は縦筋に混入	
SK350	C	17	S	地山	a	c	a	0.61	0.35	0.41	黄褐色土	7.5YR3/1	-	
SK351	C	17	R	地山	a	b	a	0.46	0.30	0.41	暗褐色砂質土	7.5YR3/4	-	
SK352	C	17	R	地山	a	a	a	1.31	0.92	0.45	黄褐色砂質土	2.5YR5/6	縦粒砂、プロットが塊状に混入	
SK356	C	19	P	地山	a	a	a	0.43	0.30	0.22	黄褐色土	7.5YR3/2	-	
SK362	C	19	R	地山	c	c	c	1.61	1.30	0.61	1. 灰褐色粘質土 2. 暗褐色土 3. 褐色砂質土	7.5YR4/2 7.5YR3/3 7.5YR4/3	礫土 1cm 次の小礫混入 1層より明るく、同じく縦粒砂が混入する	
SK368	C	18	O	地山	a	b	b	0.76	0.58	0.31	-	-	-	
SK371	C	19	Q	地山	a	c	b	1.21	0.89	0.80	黄褐色砂質土	7.5YR2/2	-	
SK372	C	16	R	地山	a	-	-	-	-	0.10	褐色色砂質土	7.5YR4/3	縦粒砂と炭粒の混合層	
SK373	C	16	S	地山	a	a	a	0.83	0.59	0.36	暗褐色土	10YR3/4	-	
SK374	C	17	R	地山	a	b	a	0.41	0.33	0.35	黄褐色土	7.5YR3/2	-	
SK377	C	18	P	地山	a	a	a	0.58	0.47	0.23	黄褐色色砂質土	10YR3/1	-	
SK379	C	18	S	地山	a	b	b	0.60	0.46	0.20	1. にごい・黄褐色砂質土 2. 灰色砂質土 暗褐色砂質土	10YR4/3 7.5YR3/2 10YR3/3	-	
SK381	C	18	S	地山	a	a	a	0.59	0.52	0.30	暗褐色砂質土	10YR3/3	-	
SK382	C	18	S	地山	a	e	a	0.74	0.53	0.37	黒色土	10YR2/2	-	
SK383	C	16	S	地山	a	e	e	0.72	0.56	0.51	褐色色砂質土	10YR4/1	-	
SK385	C	18	T	地山	a	a	a	0.26	0.22	0.13	黄褐色土	10YR3/2	-	
SK388	C	18	T	地山	d	a	a	0.62	0.63	0.33	1. 暗褐色土 2. 褐色土 3. 褐色色砂質シート	10YR3/4 7.5YR4/6 7.5YR4/3	色調は2層と比べて、灰・粘土によってやや暗くなる 炭粒は多い	
SK389	C	18	T	地山	a	a	a	0.79	0.66	0.21	灰青褐色砂質土	10YR4/2	表面には鉄分の沈着が混入	
SK390	C	18	T	地山	a	a	a	0.72	0.65	0.46	オリーブ黒色土	5Y3/1	礫土	
SK391	C	18	T	地山	a	a	a	0.31	0.31	0.38	灰褐色砂質土	7.5YR4/2	灰褐色を基調に鉄分の沈着により土色が色調が変わる	
SK392	C	18	T	地山	a	a	a	0.32	0.21	0.26	黄褐色砂質土	10YR1/3	-	
SK393	C	18	T	地山	a	a	a	0.22	0.19	0.20	黄褐色土	7.5YR3/2	-	
SK394	C	18	T	地山	a	a	a	0.60	0.49	0.30	暗褐色砂質土	10YR3/4	-	
SK399	C	18	T	地山	a	a	a	0.31	0.22	0.30	黄褐色土	10YR2/3	-	
SK400	C	18	T	地山	a	a	a	0.31	0.24	0.30	暗褐色土	10YR3/4	-	
SK401	C	18	T	地山	a	a	a	0.28	0.23	0.10	黄褐色土	10YR2/3	-	
SK406	C	17	T	地山	a	c	c	0.53	0.31	0.29	灰褐色砂質土	10YR5/1	-	
SK408	C	17	T	地山	a	c	c	(0.65)	0.73	0.24	灰青褐色砂質土	10YR5/2	土面に礫を混入、SK308に切られる	
SK411	C	18	R	地山	a	c	c	0.33	0.32	0.37	灰青褐色砂質土	10YR4/2	-	
SK412	C	18	R	地山	a	a	a	0.38	0.28	0.35	にごい・黄褐色土	10YR4/3	-	
SK413	C	17	R	地山	a	b	b	0.68	0.65	0.33	灰青褐色砂質土	10YR4/2	-	
SK414	C	17	R	地山	a	a	a	0.44	0.18	0.17	灰青褐色砂質土	10YR4/2	-	
SK415	C	17	R	地山	a	a	a	1.23	0.96	0.35	1. 暗褐色土 2. 黄褐色砂質土	10YR3/3 7.5YR3/2	暗褐色土を基調として土間に暗褐色プロットと黄褐色砂が混入する礫土 色調は1層よりは明るく、縦粒砂は細かい	
SK416	C	17	S	地山	a	a	a	0.28	0.28	0.25	にごい・黄褐色土	10YR4/3	-	
SK417	C	16	S	地山	a	e	a	0.53	0.38	0.39	暗褐色土	10YR3/4	-	
SK418	C	17	S	地山	a	a	a	0.78	0.59	0.44	1. 暗褐色土 2. 黄褐色砂質土	10YR3/3 7.5YR3/2	-	
SK419	C	17	S	地山	c	c	a	0.32	0.15	0.35	1. 暗褐色土 2. 褐色色砂質土	10YR3/4 7.5YR4/4	黄褐色砂が混入	
SK420	C	17	S	地山	a	a	a	0.55	0.49	0.37	灰青褐色砂質土	10YR4/2	-	
SK421	C	17	S	地山	a	b	b	0.36	0.32	0.37	黄褐色砂質土	10YR3/1	-	
SK423	C	17	S	地山	a	a	a	0.45	0.23	0.25	黄褐色砂質土	10YR3/2	-	
SK426	C	17	S	地山	a	c	a	0.49	0.23	0.28	黄褐色砂質土	10YR3/2	-	
SK427	C	17	S	地山	a	c	a	0.46	0.38	0.25	にごい・黄褐色砂質土	10YR4/3	-	
SK428	C	17	S	地山	a	b	a	0.33	0.29	0.27	黄褐色砂質土	10YR3/2	-	
SK429	C	17	S	地山	a	a	a	0.32	0.20	0.16	黄褐色砂質土	7.5YR3/2	黄褐色土を基調に、黄褐色砂(中粒砂)が混入	
SK433	C	17	S	地山	a	a	a	1.15	0.35	0.40	灰青褐色砂質土	10YR4/2	-	

第36表 鳥遺跡土坑D類一覧表(3)

遺構NO	グリッド	サブタイプ	築造年代	遺出状況	土質	底面形状	法長 (m)		深さ	層土	備考 (切り合い、出土遺物等)		
							上層						
							長径	短径					
SK435	C	17	S	地山	a	IV	a	0.40	0.36	0.26	黒褐色砂質土	75YR3-1	-
SK438	C	17	S	地山	a	IV	a	0.45	0.28	0.29	灰黄色砂質土	10YR4-2	-
SK439	C	17	S	地山	a	VI	a	0.30	0.15	0.14	黒褐色砂質土	7.5YR3-1	-
SK440	C	17	S	地山	a	VI	a	0.28	0.46	0.47	黒褐色砂質土	10YR3-2	-
SK441	C	18	S	地山	a	IV	a	0.33	0.28	0.48	黒褐色土	10YR3-1	-
SK442	C	18	S	地山	a	IV	a	0.49	0.49	0.27	暗褐色砂質土	10YR3-3	-
SK443	C	18	S	地山	a	IV	c	0.46	0.42	0.30	黒褐色土	10YR3-2	黒褐色土を基調に黄褐色が混入する
SK444	C	18	T	地山	a	IV	a	0.35	0.32	0.13	灰黄色砂質土	10YR4-2	-
SK445	C	18	T	地山	a	IV	a	0.26	0.19	0.12	暗褐色砂質土	7.5YR5-1	黄褐色砂ブロックが混入
SK446	E	15	B	地山	a	IV	a	1.66	1.48	0.26	1. 褐色砂礫土 2. 黄褐色砂質シルト	10YR4-4 10YR2-2	礫土 瀬り過ぎもしくは他層
SK447	E	15	C	地山	a	IV	c	0.82	0.69	0.29	灰色砂質土	5Y4-17.5Y 7.5YR4-1	灰マリアツト砂との互層
SK448	E	15	C	地山	-	IV	a	0.78	0.69	0.33	1. オリーブ褐色粘質シルト 2. 灰色砂質土	7.5YR3-1 7.5YR4-1	-
SK460	E	15	C	地山	a	IV	a	0.32	0.32	0.12	灰色粘質シルト	7.5Y	灰色粘土質シルトを基調として黄褐色土の互層
SK463	E	15	D	地山	a	IV	a	0.48	0.45	0.32	暗褐色砂質土	10YR3-3	底面よりすざ
SK464	E	14	D	地山	c	IV	a	1.68	1.19	0.26	1. 暗褐色シルト 2. 暗褐色土 3. 褐色土	10YR3-3 7.5YR3-3 10YR4-4	2層に比して暗褐色の混入はない
SK462	C	17	T	地山	a	IV	a	0.38	0.38	0.23	暗褐色砂質シルト	10YR3-4	-
SK463	C	17	T	地山	a	IV	a	0.24	0.15	0.21	にぶい黄褐色砂質土	10YR4-3	-
SK464	C	16	T	地山	a	IV	a	0.96	0.80	0.49	暗褐色粘質シルト	7.5YR3-4	下層には25Y5-2暗褐色粘質シルトのブロック
SK466	C	17	T	地山	c	IV	a	0.49	0.38	0.51	1. 黒褐色砂質土 2. 黒色粘土	7.5YR3-1 10Y2-1	黒褐色砂を基調とし、7.5YR 黒褐色砂ブロックを含み、上層には鉄分を含む黄褐色の塊い砂がある
SK470	C	18	T	地山	a	IV	a	0.75	(0.30)	0.47	1. 黒褐色土 2. 褐色土	10YR3-2 10YR4-4	-
SK475	C	17	R	地山	a	IV	b	0.42	0.30	0.55	黄褐色粘質シルト	7.5YR3-1	-
SK476	C	17	R	地山	a	IV	c	1.25	0.70	0.29	暗褐色粘質シルト	10YR4-4	-
SK477	C	18	R	地山	a	IV	a	0.76	0.50	0.44	褐色砂質土	7.5YR4-3	-
SK478	C	18	R	地山	a	IV	a	0.33	0.23	0.21	黄褐色粘質シルト	10YR3-1	-
SK479	C	18	R	地山	a	IV	a	0.38	0.29	0.33	にぶい黄褐色粘質シルト	10YR4-3	-
SK480	C	19	R	地山	a	VI	c	0.85	0.49	0.28	暗褐色砂質土	10YR3-4	-
SK481	C	19	R	地山	a	IV	a	0.86	0.53	0.23	暗褐色粘土	10YR3-5	-
SK482	C	19	R	地山	a	IV	a	0.30	0.23	0.16	にぶい黄褐色粘土シルト	10YR4-3	-
SK483	C	19	R	地山	a	IV	a	0.40	0.38	0.31	暗褐色砂質土	10YR3-4	-
SK484	C	19	R	地山	a	IV	a	0.62	0.49	0.28	にぶい黄褐色粘土シルト	10YR4-3	-
SK485	C	17	S	地山	d	VI	b	1.60	0.34	0.63	1. 灰黄色砂質土 2. 暗褐色粘土	10YR5-2 10YR4-1	-
SK488	C	16	T	地山	a	IV	a	0.41	0.39	0.31	黄褐色粘質シルト	10YR3-1	-
SK489	C	16	T	地山	a	IV	a	0.36	0.28	0.39	暗褐色砂質土	10YR3-1	-
SK490	C	16	T	地山	a	IV	a	0.46	0.42	0.34	暗褐色砂質土	7.5YR3-3	-
SK491	C	16	T	地山	a	IV	a	0.61	0.60	0.28	暗褐色砂質土	7.5YR3-3	-
SK492	C	16	T	地山	a	VI	c	1.76	0.98	0.58	暗褐色砂質土	7.5YR3-3	-
SK493	C	16	T	地山	a	IV	c	0.58	0.38	0.31	にぶい黄褐色粘質シルト	10YR4-3	-
SK494	C	16	T	地山	a	IV	b	0.52	0.40	0.40	暗褐色砂質土	10YR4-6	-
SK497	C	18	T	地山	a	IV	a	0.55	0.29	0.16	暗褐色土	7.5YR3-3	-
SK498	C	18	S	地山	a	IV	a	0.25	0.16	0.13	暗褐色砂質土	7.5YR4-4	-
SK498	C	18	S	地山	a	IV	a	0.29	0.18	0.25	暗褐色粘土	10YR4-1	-
SK499	C	18	S	地山	a	IV	a	0.31	0.60	0.24	暗褐色粘土	10YR4-1	-
SK505	C	18	S	地山	a	IV	a	0.27	0.20	0.22	暗褐色粘土	0YR4-1	-
SK517	C	16	T	地山	a	IV	c	1.90	1.01	0.39	暗褐色砂質土	10YR3-3	-
SK518	C	16	T	地山	a	IV	c	0.70	0.33	0.42	黄褐色粘質シルト	10YR3-2	5cm 大の小礫混
SK519	C	18	S	地山	a	IV	a	0.50	0.38	0.18	暗褐色砂質土	10YR3-3	黄褐色砂ブロック 混入する
SK521	C	17	S	地山	a	IV	a	0.69	0.63	0.29	暗褐色砂質土	7.5YR4-1	-
SK525	C	17	S	地山	a	IV	b	0.24	0.12	0.18	暗褐色砂質土	7.5YR4-1	-
SK526	C	17	S	地山	a	IV	a	0.30	0.19	0.21	黄褐色粘土	7.5YR3-2	-
SK533	E	16	A	地山	a	IV	-	-	-	0.70	暗褐色粘土	7.5YR3-2	-
SK539	E	16	A	地山	a	IV	a	0.60	0.53	0.31	暗褐色砂質土	10YR4-1	鉄分混
SK540	C	19	S	地山	a	IV	c	(2.20)	(2.06)	0.41	にぶい黄褐色粘土	10YR6-4	3cm 大の小礫混
SK541	C	19	Q	地山	a	IV	c	1.40	0.76	0.54	黄褐色砂質土	7.5YR2-2	-
SK542	C	18	R	地山	a	IV	a	0.49	0.34	0.34	暗褐色砂質土	10YR5-1	-
SK544	C	17	O	地山	a	V	a	0.38	0.23	0.20	暗褐色砂質土	10YR4-1	-
SK546	C	18	O	地山	a	IV	a	0.19	0.16	0.25	暗褐色砂質土	10YR6-1	-
SK547	E	17	A	地山	a	IV	a	0.46	0.46	0.27	黄褐色土	10YR3-2	-
SK548	C	17	T	地山	a	IV	b	0.44	0.33	0.15	にぶい黄褐色砂質土	10YR4-3	-
SK549	C	17	T	地山	a	IV	a	0.54	0.42	0.15	暗褐色砂質土	10YR4-1	-
SK550	C	17	T	地山	a	IV	a	0.87	0.69	0.16	にぶい黄褐色砂質土	10YR4-3	-
SK551	C	17	T	地山	a	IV	a	0.24	0.19	0.19	にぶい黄褐色砂質土	10YR4-3	-
SK553	C	17	S	地山	a	IV	a	0.22	0.11	0.16	暗褐色砂質土	7.5YR4-1	-
SK554	C	18	S	地山	a	IV	c	0.38	0.19	0.20	暗褐色砂質土	7.5YR4-1	-
SK559	C	19	S	地山	a	IV	a	0.74	0.40	0.33	暗褐色砂質土	10YR3-3	1cm 大の小礫混
SK560	C	19	S	地山	a	IV	b	0.29	0.22	0.11	暗褐色砂質土	10YR3-3	1cm 大の小礫混

第37表 鳥遺跡土坑D類一覽表(4)

遺跡NO	大ノド	小ノド	方位	構造	出土	掘出	遺物	平面	断面	法量 (m)		土質	備考 (切り合い、出土遺物等)	
										長さ	深さ			
SK661	C	19	S	地山	a	IV	a	a	0.21	0.18	0.08	暗褐色砂質土	10YR3/3	1cm 大の小礫混
SK662	C	19	S	地山	a	IV	b	b	0.22	0.18	0.10	暗褐色砂質土	10YR3/3	1cm 大の小礫混
SK663	C	19	S	地山	a	IV	a	a	0.30	0.28	0.07	暗褐色砂質土	10YR3/3	1cm 大の小礫混
SK668	C	19	O	地山	a	IV	a	a	0.32	0.29	0.06	暗灰色粘質土	7.5YR5/1	-
SK670	C	18	P	地山	a	IV	-	-	10.30	0.25	0.10	灰黄色粘質土	10YR5/2	-
SK671	C	18	P	地山	a	IV	a	a	0.42	0.21	0.13	灰黄色粘質土	10YR5/2	-
SK672	C	18	P	地山	a	IV	a	a	0.42	0.40	0.47	灰黄色粘質土	10YR5/2	-
SK674	C	18	P	地山	a	IV	a	a	0.64	0.60	0.34	灰黄色粘質土	10YR5/2	-
SK676	C	19	P	地山	a	IV	b	b	0.31	0.31	0.41	灰黄色粘質土	10YR5/2	-
SK677	C	20	Q	地山	a	IV	a	a	0.46	0.21	0.26	暗褐色砂質土	10YR3/3	1cm 大の小礫混
SK682	E	15	C	地山	a	IV	a	a	0.70	0.70	0.40	黄色土	10YR2/1	-
SK686	C	17	T	地山	a	IV	a	a	0.40	0.32	0.11	暗灰色粘質土	10YR4/1	-
SK689	C	18	S	地山	a	IV	a	a	0.29	0.21	0.19	暗灰色粘質土	10YR4/1	-
SK694	C	17	S	地山	a	IV	-	-	-	-	0.09	暗灰色粘質土	7.5YR4/1	-
SK700	-	-	-	区	a	IV	-	-	-	-	0.58	-	-	
SK701	-	-	-	区	a	IV	-	-	-	-	0.42	黒褐色粘質土	7.5YR2/2	黄褐色粘土粒混
SK702	-	-	-	区	a	IV	-	-	-	-	0.18	黒褐色粘質土	7.5YR2/2	炭化物・黄褐色粘土粒混
SK703	-	-	-	区	a	IV	-	-	-	-	0.17	黒褐色粘質土	7.5YR3/2	炭化物・黄褐色粘土粒混
SK704	-	-	-	地山	a	IV	-	-	-	-	0.32	黒褐色粘質土	7.5YR3/2	炭化物・黄褐色粘土粒混
SK706	-	-	-	区	a	IV	-	-	-	-	0.50	黒褐色粘質土	10YR3/3	-
SK707	-	-	-	地山	a	I	-	-	-	-	0.30	黒褐色粘質土	7.5YR3/2	炭化物混
SK714	C	16	T	地山	b	IV	-	-	-	-	0.30	-	-	
SK719	-	-	-	地山	a	IV	-	-	-	-	0.46	-	-	
SK720	-	-	-	地山	a	IV	-	-	-	-	0.27	-	-	
SK1009	C	20	L	地山	a	I	c	a	1.14	1.00	0.20	にぶい黄褐色砂質土	10YR6/4	-
SK1010	C	20	L	地山	a	IV	c	a	0.77	0.65	0.10	にぶい褐色砂質土	7.5YR5/4	-
SK1017	C	20	K	地山	a	I	a	a	0.47	0.30	-	にぶい黄褐色砂質土	10YR6/4	-
SK1039	C	19	K	地山	a	IV	c	a	0.40	0.32	-	にぶい黄褐色砂質土	10YR6/4	-
SK1021	C	20	L	地山	a	IV	a	a	0.34	0.27	0.13	にぶい黄褐色砂質土	10YR6/4	-
SK1022	C	20	L	地山	a	IV	a	a	0.67	0.44	0.10	にぶい黄褐色砂質土	10YR6/4	-
SK1036	C	20	K	地山	a	IV	c	a	0.85	0.30	-	にぶい黄褐色砂質土	10YR6/4	-
SK1029	C	19	K	地山	a	I	c	a	1.76	1.65	0.32	暗灰色粘質土	10YR4/1	炭化物混
SK1030	C	20	K	地山	a	IV	a	a	1.26	0.95	-	灰黄色粘質土	10YR4/2	15cm 大の礫中黒黄褐色粘土

第38表 塚屋金清神社遺跡土坑D類一覽表

遺跡NO	大ノド	小ノド	方位	構造	出土	掘出	遺物	平面	断面	法量 (m)		土質	備考 (切り合い、出土遺物等)	
										長さ	深さ			
SK501	B	11	S	地山	a	I	b	a	1.11	1.01	0.31	褐色粘質土	7.5YR4/3	
SK502	B	13	S	地山	a	I	a	a	1.18	1.12	0.23	暗褐色粘質土	7.5YR3/4	
SK503	B	12	S	地山	a	I	a	a	1.61	1.48	0.27	暗褐色粘質土	7.5YR3/4	
SK504	B	12	R	地山	a	I	a	a	1.20	0.97	0.34	黄褐色土	10YR5/8	
SK505	B	12	R	地山	a	I	a	a	0.92	0.59	0.21	黄褐色土	10YR5/8	
SK506	B	11	R	地山	a	I	a	a	0.70	0.55	0.24	黄褐色土	10YR5/8	
SK507	B	12	Q	地山	a	I	a	a	0.88	0.87	0.21	黄褐色土	10YR5/8	
SK508	B	13	R	地山	a	II	a	a	1.01	0.97	0.42	黄褐色土	10YR5/8	
SK509	B	13	Q	地山	a	II	a	a	0.95	0.88	0.31	暗褐色粘質土	10YR3/3	
SK510	B	13	R	地山	a	I	a	a	1.09	1.09	0.15	黄褐色土	10YR5/8	
SK511	B	13	Q	地山	a	I	b	b	1.79	1.20	0.39	暗褐色粘質土	10YR3/3	
SK512	B	14	Q	地山	a	II	a	a	1.47	0.57	0.59	黄褐色粘質土	7.5YR2/2	
SK513	B	14	R	地山	a	I	b	b	2.13	1.13	0.38	褐色粘質土	10YR4/4	黄褐色粘土粒混
SK514	B	14	Q	地山	a	I	a	a	1.09	0.91	0.26	暗褐色粘質土	10YR3/3	
SK515	B	14	Q	地山	a	II	a	a	1.29	1.11	0.57	褐色粘質土	10YR4/4	黄褐色粘土粒混
SK516	B	14	Q	地山	a	II	a	a	0.98	0.95	0.44	褐色粘質土	10YR4/4	黄褐色粘土粒混
SK517	B	14	Q	地山	a	II	a	a	0.84	0.74	0.21	褐色粘質土	10YR4/4	黄褐色粘土粒混
SK518	B	14	Q	地山	a	I	a	a	0.90	0.78	0.36	褐色粘質土	10YR4/4	炭化物・黄褐色粘土粒混
SK519	B	14	P	地山	a	I	a	a	1.12	1.04	0.29	褐色粘質土	10YR4/4	黄褐色粘土粒混
SK520	B	14	P	地山	a	I	a	a	0.67	0.69	0.37	黄褐色粘質土	7.5YR2/2	炭化物・黄褐色粘土粒混
SK521	B	15	P	地山	a	II	a	a	0.70	0.63	0.16	褐色粘質土	10YR4/4	黄褐色粘土粒混
SK522	B	15	P	地山	a	II	a	a	1.15	1.06	0.59	黄褐色粘質土	7.5YR2/2	炭化物混
SK523	B	13	O	地山	a	I	a	a	0.96	0.87	0.56	黄褐色粘質土	7.5YR2/2	
SK524	B	14	N	地山	a	I	b	a	12.141	0.90	0.22	黄褐色粘質土	7.5YR2/2	
SK525	B	14	O	地山	a	I	a	a	0.74	0.69	0.54	暗褐色粘質土	10YR3/3	
SK526	B	14	O	地山	a	I	a	a	0.43	0.43	0.47	暗褐色粘質土	7.5YR3/4	
SK527	B	15	O	地山	a	I	a	a	1.09	0.95	0.56	褐色粘質土	10YR4/4	炭化物・黄褐色粘土粒混
SK529	B	15	O	地山	a	I	a	a	0.83	0.67	0.33	褐色粘質土	10YR4/4	炭化物混
SK530	B	16	N	地山	a	II	c	e	2.32	1.96	0.36	褐色粘質土	10YR4/4	黄褐色粘土粒混
SK533	B	14	O	地山	a	I	a	a	0.35	0.31	0.15	黄褐色粘質土	10YR5/6	
SK534	B	14	P	地山	a	II	a	a	0.83	0.78	0.25	暗褐色粘質土	7.5YR3/4	

第39表 縄文土器観察表(1)

調査番号	地区遺構	層位	器種	分類	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	構成	色調				文様	備考	図録 番号	
										内面	外面	断面	底面・内部				
1	SF290	Ⅱ内	深鉢	9群5類	胴部 一底部	16.0	11.0	-	不具	明黄褐色	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	-	口縁に沿って1本の発条。胴部には縦文とノミ文が施す	表層1層1番1目の新代瓦葺。内外面発条付	16	14
2	SF290	Ⅱ内	深鉢	14群3類	口縁部	-	-	-	普通	明黄褐色	明黄褐色	明黄褐色	-	縄文	平口縁・肥厚・外反 内外面発条付	16	13
3	F409	Ⅱ上	深鉢	2群2類	口縁部	-	-	-	不具	橙	黄	灰黄褐色	-	発条3本あり。口縁内面に十字	平口縁に肥厚・外反 内外面発条付	16	-
4	SB1	Ⅱ上	深鉢	3群1類	胴部	-	-	-	不具	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	黒灰	-	縦文の発条。口縁より上 縁部には横線あり	-	16	-
5	SB1	Ⅱ上	深鉢	9群5類	胴部	-	-	-	普通	橙	にぶい 黄褐色	明黄褐色	-	口縁に沿った2本の発条で 口文。口縁内に縦文とノミ文	内外面発条付	16	13
6	SB1	Ⅱ上	深鉢	9群8類	胴部	-	-	-	普通	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	-	葉文	-	16	13
7	SB1	Ⅱ上	深鉢	14群1類	口縁部	-	-	-	普通	橙	橙	橙	-	口縁部厚部下に縦文と横文と 下口縁部厚部の縁部で縦文	平口縁・肥厚・外反 内外面発条付	16	13
8	SB1	Ⅱ上	深鉢	14群3類	口縁部	-	-	-	普通	橙	浅黄褐色	黒灰	-	縄文・口縁下に無文	平口縁・外反	16	13
9	SB1	Ⅱ上	深鉢	15群1類	胴部	-	-	-	普通	橙	明赤褐色	明赤褐色	-	口縁部の平行波線面に斜交縦 線・胴下部に縦文	内外面発条付	16	13
10	SB1	Ⅱ上	深鉢	15群1類	口縁部	-	-	-	不具	橙	にぶい 黄褐色	-	-	口縁部の平行波線面に斜交縦 線	平口縁・外反・内 外面発条付	16	13
11	SB1	Ⅱ上	深鉢	15群1類	口縁部	-	-	-	普通	にぶい 黄褐色	橙	にぶい 黄褐色	-	口縁部の平行波線面に斜交縦 線	平口縁・外反・内 外面発条付	16	13
12	SB1	Ⅱ上	深鉢	15群3類	口縁部 一胴部	-	-	-	不具	浅黄褐色	灰黄褐色	黒灰	-	口縁部の平行波線面に斜交縦 線・胴下部に縦文	平口縁・外反	16	13
13	SB1	Ⅱ上	深鉢	15群4類	口縁部	-	-	-	普通	黒色	黒	黒	-	口縁部の縁状波線を用いた 斜交縦線と横線	平口縁・外反・内 外面発条付	16	13
14	SB1	Ⅱ上	深鉢	15群5類	口縁部	-	-	-	普通	にぶい 黄褐色	橙	にぶい 黄褐色	-	口縁下に無文	平口縁・外反・内 外面発条付	16	13
15	SB1	Ⅱ上	深鉢	15群5類	胴部	-	-	-	普通	浅黄褐色	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	-	胴部に縁状波線・胴下部に 縦文	内外面発条付	16	13
16	SB1	Ⅱ上	深鉢	16群1類	胴部 一底部	-	(8.6)	-	普通	にぶい 黄褐色	明黄褐色	明黄褐色	-	胴下に縦文の縁状波線	表層2層2番1目の新 代瓦葺。内外面発条付	16	13
17	SB1	Ⅱ上	深鉢	16群1類	胴部	-	-	-	普通	にぶい 黄褐色	黒	にぶい 黄褐色	-	胴部に縁状の斜交文・胴下 部に縦文の縁状波線	内外面発条付	16	13
18	SB1	Ⅱ上	深鉢	16群1類	口縁部 一胴部	-	-	-	普通	浅黄褐色	にぶい 黄褐色	灰白	-	胴部に縁状の斜交文。その下 に縦文と・胴下部に縦文の 縁状波線と・ボツツ状突起	口縁下に無文	17	13
19	SB1	Ⅱ上	深鉢	18群1類	胴部 一底部	-	(14.5)	-	普通	赤褐色	橙	にぶい 黄褐色	-	葉文	表層2層2番1目の新 代瓦葺。内外面発条付	17	13
20	SB1	Ⅱ上	浅鉢	20群3類	口縁部	-	-	-	不具	黄褐色	黄褐色	黒灰	-	口縁部と胴部に斜交に斜交文	平口縁・内反	17	13
21	SB1	Ⅱ上	浅鉢	20群4類	口縁部 一胴部	-	-	-	普通	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	黒灰	斜交・縦線	口縁内面にボツツ状突起	平口縁・内反・縁状 波線・外外面発条付	17	13
22	SB1	Ⅱ上	台付鉢	21群2類	胴部	-	-	-	不具	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	灰白	-	葉文。透かし	-	17	13
23	SB1	Ⅱ上	台付鉢	21群3類	胴部 一胴部	-	-	-	普通	浅黄褐色	橙	黒灰	-	縦文の縁状波線	内外面発条付。外縁 部発条付	17	13
24	SB1	Ⅱ上	器上蓋	22群3類	胴部	-	-	-	不具	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	黒灰	-	くびれ部に縁状波線	把手あり	17	13
25	SB1	Ⅱ上	小形	23群8類	胴部 一底部	-	10.7	-	普通	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	明褐色	-	無文	表層1層1番1目の新 代瓦葺	17	13
26	SB1	Ⅱ上	小形	23群9類	口縁部 一底部	5.8	1.4	4.0	普通	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	-	無文。口縁部に2単位程度の 突起	-	17	13
40	SF474	Ⅱ内	深鉢	16群2類	底部	-	(17.5)	-	普通	明赤褐色	橙	黒褐色	-	縄文	表層1層1番1目の新 代瓦葺。内外面発条付	19	13
41	SB2	Ⅱ底	深鉢	9群1類	口縁部	-	-	-	普通	明褐色	明褐色	にぶい 黄褐色	-	口縁に沿って発条を施す。胴 部にはヘタキヤシと縦文あり	表層1層1番1目の新 代瓦葺。外反・口 縁部発条付。内外面 発条付	19	13
42	SB2	Ⅱ底	深鉢	14群3類	口縁部	-	-	-	不具	にぶい 黄褐色	明黄褐色	にぶい 黄褐色	-	縄文	平口縁・肥厚・外反 内外面発条付	19	13
50	SZ228	Ⅱ埋	深鉢	17群1類	胴部	-	-	-	普通	灰黄褐色	灰黄褐色	灰黄褐色	-	縄文瓦	胴部くびれ・透かし あり。縦線あり。外 面に斜交文あり。口 縁部に凸凹状。内 外面発条付	23	16
51	SZ408	Ⅱ埋	深鉢	18群4類	胴部 一底部	-	13.6	-	普通	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	黒灰	-	縄文	表層中層下位部。外 面に2層2番1目の新 代瓦葺あり。内面 に凸凹状。外外面 発条付	23	-
53	SB55	Ⅱ上	深鉢	7群1類	口縁部	-	-	-	普通	明黄褐色	オレンジ 褐色	にぶい 黄褐色	-	口縁部に波線状縦文。胴部 にはヘタキヤシと縦文あり	表層1層1番1目の新 代瓦葺。外反・内 外面発条付	23	16
54	SB55	Ⅱ上	深鉢	14群3類	口縁部	-	-	-	普通	橙	橙	明褐色	-	縄文・口縁下に無文	平口縁・外反	23	16
55	SB55	Ⅱ上	深鉢	14群5類	口縁部	-	-	-	普通	にぶい 黄褐色	灰黄褐色	黒灰	-	無文	平口縁・外反・内 外面発条付	23	16
56	SB55	Ⅱ上	深鉢	17群2類	口縁部	-	-	-	普通	にぶい 黄褐色	灰黄褐色	黒灰	-	無文・口縁内面に波線	平口縁・外反・内 外面発条付	23	16
61	SZ337	Ⅱ埋	深鉢	17群1類	胴部	-	-	-	普通	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	黒灰	-	縄文瓦	表層中に内外面から 斜交文あり。口縁部 に凸凹状。内外面 に凸凹状。内外面 発条付。外縁部発条付	27	17





第42表 縄文土器観察表(4)

発掘 地区 遺構 番号	層位	器種	分期	部位	口径 (cm, 括弧内は推定)			焼成	色調				成形・調整	文 様	備 考	層位	採取 番号
					口径	底径	器高		内面	外面	断面	柄取/内面					
157	SB384	埴土 土製品	25群1類	土質小 椀子	-	-	-	不具	に濃い 橙	に濃い 黄褐色	黒褐色	黒	-	沈殿・焼成による施文	-	51	21
165	SB410	埴土 深鉢	6群2類	口縁部 →胴部	-	-	-	普通	に濃い 橙	に濃い 橙	黒褐色	黒	-	手動による施文・沈殿による施文・焼成による平文・縄文	平口縁・外縁・胴部 に凸凹	56	23
166	SB410	埴土 深鉢	11群	平縁部 [30.6] 小底径 [28.6]	-	-	-	普通	に濃い 橙	に濃い 黄	黒褐色	黒	-	焼成・沈殿による施文・縄文・手動による施文・刻文	腹口縁部・内面・平縁部 に施文・手動による施文・内 面に施文・柄取部付着	56	22
167	SB410	下層 深鉢	3群2類	口縁部	-	-	-	不具	橙	に濃い 黄	黒褐色	黒	-	焼成・沈殿による施文・焼成による施文	腹口縁部・内面・柄取部 付着	56	23
168	SB410	下層 深鉢	3群3類	口縁部 →胴部	-	-	-	普通	に濃い 黄褐色	灰青褐色	黒褐色	黒	-	口縁部・柄取部・沈殿による施文・焼成による施文・刻文・手動による施文	平口縁・内面・胴部 に凸凹・内面に施文・柄取部 付着	56	23
169	SB410	下層 深鉢	6群1類	口縁部	-	-	-	不具	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒	-	口縁部に柄取部付による沈殿と凸凹	平口縁・外縁・柄取部 付着	56	-
170	SB410	下層 深鉢	6群3類	胴部	-	-	-	不具	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒	-	手動による施文	柄取部付着	56	23
171	SB410	下層 深鉢	7群1類	口縁部 [28.6] 平縁径 [28.6]	-	-	-	普通	に濃い 黄褐色	灰白	黒褐色	黒	-	焼成による施文・焼成・沈殿による凸凹・平縁部・内面に施文	平口縁・内面・内面 に施文	56	22
172	SB410	下層 深鉢	14群3類	口縁部 →胴部	-	-	-	普通	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒褐色	黒	-	施文	平口縁・外縁	56	23
173	SB410	下層 深鉢	17群3類	口縁部 →胴部	35.6	-	-	普通	に濃い 橙	に濃い 橙	灰褐色	黒	-	施文(手取まで)	平口縁・内面・内面 に施文・柄取部付着	56	22
174	SB410	下層 深鉢	17群3類	口縁部 →胴部	-	-	-	不具	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒褐色	黒	-	施文(手取まで)	平口縁・内面・内面 に施文・柄取部付着	57	23
175	SB410	下層 深鉢	18群1類	胴部→ 底部	-	15.2	-	不具	に濃い 橙	に濃い 橙	黒褐色	黒	-	条線による施文	底面・口縁部・内面 に施文・柄取部付着	57	22
176	SB410	下層 浅鉢	20群1類	口縁部	-	-	-	不具	に濃い 黄褐色	明黄褐色	黒褐色	黒	-	焼成による施文と横線状施文・沈殿による施文	平口縁・内面・胴部 に凸凹	57	23
177	SB410	中層 深鉢	3群2類	口縁部	-	-	-	不具	黒褐色	に濃い 赤褐色	に濃い 赤褐色	黒	-	焼成・沈殿による施文・焼成による施文・刻文	平口縁・内面・柄取部 付着	57	23
178	SB410	中層 深鉢	3群3類	口縁部 →胴部	-	-	-	普通	暗黄褐色	に濃い 黄褐色	暗黄褐色	黒	-	口縁部・柄取部・沈殿による施文・焼成による施文・刻文・手動による施文	平口縁・内面・内面 に施文・柄取部付着	57	23
179	SB410	中層 深鉢	6群3類	口縁部 →胴部	-	-	-	普通	黒褐色	に濃い 黄褐色	灰青褐色	黒	-	口縁部・柄取部・沈殿による施文	平口縁・外縁・柄取部 付着	57	23
180	SB410	中層 深鉢	14群3類	口縁部	-	-	-	普通	橙	に濃い 黄	黒褐色	黒	-	施文	平口縁・外縁・内面 に施文	57	23
181	SB410	中層 深鉢	14群4類	口縁部 →胴部	-	-	-	不具	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒褐色	黒	-	施文	平口縁・外縁・内面 に施文	57	23
182	SB410	中層 深鉢	17群4類	口縁部	-	-	-	普通	黒褐色	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒	-	沈殿による施文	平口縁・外縁・内面 に施文	57	23
183	SB410	上層 深鉢	7群1類	口縁部	-	-	-	不具	に濃い 黄褐色	灰褐色	黒褐色	黒	-	口縁部・柄取部・沈殿による施文・焼成による施文	腹口縁部・外縁・胴部 に凸凹・内面に施文・柄取部 付着	57	23
184	SB410	上層 深鉢	9群5類	口縁部	-	-	-	普通	に濃い 黄	明黄褐色	灰青褐色	黒	-	口縁部・柄取部・沈殿による施文・焼成による施文	平口縁・底面・外縁 に施文	57	23
185	SB410	上層 深鉢	11群	口縁部 →胴部	-	-	-	普通	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒褐色	黒	-	焼成・沈殿による施文・焼成による施文・刻文・手動による施文・刻文・手動による施文	内面・内面・胴部 に凸凹・外縁・内面に施文・柄取部 付着	57	23
186	SB410	上層 深鉢	16群2類	口縁部	-	-	-	普通	暗黄褐色	暗黄褐色	暗黄褐色	黒	-	口縁部・柄取部・沈殿による施文・焼成による施文	腹口縁部・外縁	57	23
187	SB410	上層 深鉢	18群1類	胴部→ 底部	-	-	-	普通	黒	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒	-	施文	底面・口縁部・内面 に施文・柄取部付着	57	23
188	SB410	上層 台付鉢	21群4類	底部	-	(13.1)	-	不具	橙	明黄褐色	明黄褐色	黒	-	施文・透かし	-	57	23
202	S2611	埴土 深鉢	13群	口縁部 →胴部	43.6	-	-	普通	に濃い 橙	に濃い 橙	黒褐色	黒	-	口縁部・柄取部・沈殿による施文・焼成による施文・刻文・手動による施文	平口縁・内面・外縁 に凸凹・内面に施文・柄取部 付着	63	24
203	SF655	埴内 深鉢	14群6類	口縁部 →胴部	-	-	-	普通	に濃い 黄	明赤褐色	橙	黒	-	口縁部・柄取部・沈殿による施文・焼成による施文・刻文・手動による施文	平口縁・内面・内面 に施文・柄取部付着	63	24
204	SF655	埴内 台付鉢	21群4類	胴部	-	-	-	不具	明赤褐色	橙	に濃い 黄褐色	黒	-	施文	-	63	24
205	SB456	埴土 深鉢	3群6類	胴部	-	-	-	不具	に濃い 黄	に濃い 黄	黄褐色	黒	-	腹口の焼成による施文・焼成による施文・刻文・手動による施文	腹口縁部	63	25
206	SB456	埴土 深鉢	7群1類	口縁部 →胴部	-	-	-	普通	に濃い 橙	に濃い 黄	に濃い 黄	黒	-	口縁部・柄取部・沈殿による施文・焼成による施文・刻文・手動による施文	腹口縁部	63	25
207	SB456	埴土 深鉢	7群2類	胴部	-	-	-	普通	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒	-	腹口の焼成による施文・焼成による施文・刻文・手動による施文	-	63	25
208	SB456	埴土 深鉢	7群2類	口縁部	-	-	-	不具	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒褐色	黒	-	口縁部に凸凹による施文・焼成による施文・刻文・手動による施文	平口縁・内面・内面 に施文・柄取部付着	63	25
209	SB456	埴土 深鉢	7群2類	口縁部 →胴部	-	-	-	普通	に濃い 黄	黒	灰褐色	黒	-	口縁部・柄取部・沈殿による施文・焼成による施文・刻文・手動による施文	腹口縁部・外縁・胴部 に凸凹・内面に施文・柄取部 付着	63	25
210	SB456	埴土 深鉢	14群1類	口縁部	-	-	-	普通	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	灰青褐色	黒	-	口縁部・柄取部・沈殿による施文	内面・外縁・外縁・内面 に凸凹・内面に施文・柄取部 付着	63	25

第43表 縄文土器観察表(5)

調査番号	地区遺構	層位	器種	分類	部位	土量 (cm, 柄内は推定)	構成	色調				成形・装束	文様	備考	図録番号			
								内面	外面	断面	柄内・内部							
211	SB456	床底	深鉢	14群3類	口縁部	-	-	-	不貞	にじい 黄緑	にじい 黄緑	黒灰	-	縄文	平口編・肥厚・外反 / 内面残存者	63	25	
212	SB456	床底	深鉢	14群3類	口縁部 →胴部	-	-	-	不貞	明赤	にじい 黄緑	黒灰	-	縄文	平口編・肥厚・外反 / 内面残存者	64	24	
213	SB456	床底	深鉢	14群4類	口縁部	-	-	-	普通	橙	黒	にじい 黄緑	-	赤銅	平口編・肥厚・外反 / 内面残存者	64	25	
214	SB456	床底	深鉢	14群5類	口縁部 →胴部	(20)	-	-	不貞	にじい 黄緑	にじい 黄緑	にじい 黄緑	-	新灰地	平口編・外反・基部 くびれ・内面残・灰 化部・外面残存者	64	25	
215	SB456	床底	深鉢	14群5類	口縁部	-	-	-	不貞	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	平口編・肥厚・外反 / 内面残存者	64	25	
216	SB456	床底	深鉢	14群5類	口縁部 →胴部	-	-	-	不貞	橙	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	平口編・肥厚・外反 / 内面残存者	64	25	
217	SB456	床底	深鉢	17群2類	口縁部	-	-	-	普通	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	平口編・直立・内面 残存者	64	25	
218	SB456	床底	深鉢	17群4類	胴部	-	-	-	普通	明赤	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	外面灰化残存者	64	25	
219	SB456	床底	深鉢	17群4類	胴部	-	-	-	普通	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	内面残・灰化部存 者・外面残存者	64	25	
220	SB456	床底	浅鉢	20群2類	把手部	-	-	-	不貞	12.5い 黄緑	灰黄緑	-	-	縄文	平口編・外反・頸状 把手	64	25	
221	SB456	下層	深鉢	9群5類	口縁部	-	-	-	普通	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	1層に合って1本の残存。装束はヘラキ等	平口編・外反	64	25
222	SB456	下層	深鉢	14群2類	口縁部	-	-	-	普通	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	口縁肥厚部に類似した編・縄文	平口編・肥厚・外反 / 外面残存者	64	25
223	SB456	下層	深鉢	14群2類	口縁部 →胴部	-	-	-	普通	12.5い 黄緑	明赤	灰黄緑	-	縄文	口縁肥厚部に類似した編・縄文 / 外面残・灰化部存者	64	25	
224	SB456	下層	深鉢	14群2類	口縁部	-	-	-	普通	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	縄文地に沈積による柄内文	平口編・肥厚・外反 / 外面灰化部存者	64	25
225	SB456	下層	深鉢	14群2類	口縁部	-	-	-	普通	明赤	12.5い 黄緑	12.5い 赤黒	-	縄文	1層の1群で横長方形の器内文 の、ヘラキの沈積層も文・縄文	平口編・肥厚・外反	64	25
226	SB456	下層	深鉢	14群3類	口縁部	-	-	-	普通	12.5い 赤黒	12.5い 黄緑	黒灰	-	縄文	平口編・肥厚・外反	64	25	
227	SB456	下層	深鉢	17群4類	胴部	-	-	-	普通	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	内面残存者	64	25	
228	SB456	下層	深鉢	18群1類	底部	-	-	-	不貞	12.5い 黄緑	黒灰	明赤	-	-	-	-	64	25
229	SB456	下層	深鉢	18群1類	底部	-	11.4	-	不貞	橙	12.5い 黄緑	黒灰	-	無装飾縄文	表面2層と層1上の 縄文の表	64	25	
230	SB456	上層	深鉢	7群1類	口縁部	-	-	-	普通	明赤	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	口縁部に沈積で灰黄文。表面に 明赤文。1層の内面に沈積	灰黄・明赤・外反・内面 残存者・外面残存者	64	24
231	SB456	上層	深鉢	7群2類	口縁部	-	-	-	不貞	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	1層に合って2本の残存。1層内 にヘラキの沈積層も文。1層の内 面に沈積層も文。	表面2層・外反・面 部有孔・内面残存者	64	25
232	SB456	上層	深鉢	9群2類	口縁部 →胴部	21.5	-	-	不貞	黄	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	表面1層・外反・口 手反縁部・内面 残存者	64	25	
233	SB456	上層	深鉢	9群3類	口縁部	-	-	-	不貞	黄緑	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	1層に合って1本の残存・赤銅	平口編・外反	64	24
234	SB456	上層	深鉢	14群2類	口縁部 →胴部	-	-	-	不貞	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	赤銅	1層に沈積による縄文	平口編・肥厚・外反	64	25
235	SB456	上層	深鉢	14群3類	口縁部	-	-	-	普通	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	平口編・肥厚・外反 / 外面残存者	64	25	
236	SB456	上層	深鉢	14群3類	口縁部	-	-	-	普通	橙	12.5い 黄緑	黒灰	-	縄文	平口編・肥厚・外反	64	25	
237	SB456	上層	深鉢	14群3類	口縁部	-	-	-	不貞	12.5い 黄緑	黒	12.5い 黄緑	-	縄文	平口編・肥厚・外反 / 外面残存者	64	25	
238	SB456	上層	深鉢	14群4類	口縁部	-	-	-	普通	12.5い 黄緑	黒	12.5い 黄緑	-	赤銅	平口編・肥厚・外反 / 外面残存者	64	25	
239	SB456	上層	深鉢	19群	口縁部 →胴部	-	-	-	普通	明赤	黄緑	黄緑	-	縄文	1層直下に沈積による紀行	表面1層・内面・内 面残存者	64	24
240	SB472	埋土	深鉢	2群3類	口縁部	-	-	-	不貞	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	灰黄	-	縄文	ヘラキ等を持ち区別された 口縁部で黄赤文	表面1層・外反・面 部有孔・内面残・灰 化部・外面残存者	69	21
241	SB472	埋土	深鉢	3群1類	口縁部	-	-	-	普通	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	黒灰	-	縄文	装束・沈積による灰文。表面に 明赤文。1層の内部に沈積	平口編・内面・内 面残存者	69	21
242	SB472	埋土	深鉢	3群3類	口縁部	-	-	-	普通	12.5い 黄緑	黒	12.5い 黄緑	-	赤銅	沈積・装束による編文。表面に 明赤文	平口編・外面残存者	69	21
243	SB472	埋土	深鉢	6群2類	口縁部	-	-	-	普通	12.5い 黄緑	灰黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	表面有孔による装束・沈積に よる編文。表面にヘラキ等。表面	平口編・外反・外面 残存者	69	21
244	SB472	埋土	深鉢	6群3類	口縁部	-	-	-	普通	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	黒灰	-	縄文	1層下に沈積による編文・縄文	平口編・外反	69	21
245	SB472	埋土	深鉢	口縁部 →胴部	-	-	-	-	普通	橙	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	装束で横長灰黄文。表面に 明赤文を文	平口編・内面・内面 残存者	69	21
246	SB472	埋土	深鉢	8群	口縁部 →胴部	31.4	-	-	普通	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	-	縄文	4層下の厚土のある灰化部。縄文	平口編に類似・外反	70	24
247	SB473	埋土	深鉢	17群2類	胴部 →底部	-	120	-	普通	12.5い 黄緑	12.5い 黄緑	黒灰	-	縄文	表面より少し・内面 灰化部。外面残存者	70	13	

第44表 縄文土器観察表(6)

発掘 番号	地区 遺構	層位	器種	分期	部位	口径 (cm, 括弧内は測定)		口径 底径	器高	焼成	色調			成形・修整	文 様	備 考	層位	採掘 位置
						口径					内面	外面	断面					
						口径	底径											
272	P663	壇土	白土 21 番 1 型	群部	-	-	-	-	不具	12.5± 黄	12.5± 黄	灰青陶	-	縦文	内外両面化粧付者	70	-	
273	SB1001	壇土	深鉢 2 群 2 型	1 群部 → 2 群部	(2)2	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	灰青陶	-	手轆轤による隆帯・沈帯で 方形文・縦文。底縁部縦刺文。	1 群部・内湾・底縁に 凸・凹両面化粧付者。内外両面化粧 付者。	75	27	
274	SB1001	壇土	深鉢 3 群 1 型	1 群部 → 2 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	-	縦文の隆帯・沈帯による隆文。 底縁部に縦刺文。	手白陶・内湾	75	27	
275	SB1001	壇土	深鉢 3 群 2 型	1 群部 → 2 群部	表面部 (28)0 底縁部 (26)0	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	-	隆帯・沈帯による隆文。隆帯に 目取線文。中央部による隆文。 方形文と垂刺文。	底縁1 群部・内湾縦刺 文。1 群部隆帯は移動 部に対して内湾につ いていない。	75	27	
276	SB1001	壇土	浅鉢 20 群 1 型	1 群部 → 2 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	灰青陶	磨削/修整	隆帯で隆帯文と横長区画文。 区画内に縦刺文と光斑。	手白陶・内湾・内湾 くびれ。	75	26	
277	SB1001	壇土	浅鉢 20 群 1 型	1 群部 → 2 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	-	隆帯で隆帯文と横長区画文。 区画内に縦刺文と光斑。	手白陶・内湾・内湾 くびれ。	75	26	
278	SB1001	壇土	浅鉢 20 群 1 型	1 群部 → 2 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	-	隆帯で隆帯文と横長区画文。 区画内に縦刺文と光斑。	手白陶・内湾・内湾 くびれ。内外両面化粧 付者。	75	26	
279	SB1001	壇土	小形 23 群 2 型	1 群部 → 2 群部	12D	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	-	1 群部を磨削し磨削し隆帯を 施文・縦文付。	手白陶・内湾・内湾 くびれ。内外両面化粧 付者。	75	26	
280	SB1002	床土 栗判土器	23 群 4 型	1 群部 → 2 群部	5.9	(7.6)	11.9	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	-	1 群部に沈帯・隆帯による隆文。 底縁部は隆帯文と光斑。隆帯部 底縁部区画内に横文・L 形・光斑。	手白陶・内外・内湾 くびれ。底縁部は内湾 ・底縁部9割し・内湾 ・底縁部化粧付者。	78	27	
281	SB1002	床土 釣子 土器	24 群	頂部 → 底部	4.5 3.5	17.3	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削文。 浅い十字	底縁部縦文。底 縁部磨削文。	底縁部沈帯・隆帯 に磨削付。内湾・外 両面・化粧付者。	78	27	
284	SB1002	下層	深鉢 6 群 3 型	1 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	灰青陶	磨削	1 群部部に手轆轤による隆帯・ 沈帯を施文・縦文。	手白陶・内外化粧 付者。	78	28	
285	SB1002	下層	深鉢 9 群 3 型	1 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	隆帯・沈帯による隆文。底縁部 に隆帯文・縦文。	手白陶・内外化粧 付者。	78	28	
286	SB1002	下層	深鉢 11 群	1 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	隆帯・沈帯を施文。底縁部 に隆帯文・縦文。	手白陶・内外化粧 付者。	78	28	
287	SB1002	上層	深鉢 1 群 1 型	1 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	手轆轤による隆帯・沈帯。1 群 部内に沈帯。	手白陶・直立	78	28	
288	SB1002	上層	深鉢 3 群 2 型	1 群部	-	-	-	-	不具	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	隆帯・沈帯による隆文。隆帯に 目取線文。1 群部部に沈帯を施 文。	底縁部・底縁部孔	78	28	
289	SB1002	上層	深鉢 9 群 1 型	1 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	手轆轤による隆帯・沈帯による 隆文。隆帯にヘラキキリ。 1 群部に文様。	底縁1 群部・底縁部 ・底縁部9割し・内湾 ・底縁部化粧付者。	78	28	
290	SB1002	上層	深鉢 19 群	1 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	1 群部部下くびれ部に手轆轤 ・磨削下部に隆帯文。	手白陶・内外・底縁 内湾	78	28	
291	SB1002	上層	浅鉢 20 群 4 型	1 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	1 群部内に十字状突起。無文。	手白陶・内外・磨削 把手	78	28	
292	SZ1031	埋 藏	深鉢 6 群 4 型	1 群部 → 2 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	1 群部下手轆轤2条。縦文・L 形。	手白陶・内外・外両 面化粧付者	82	28	
294	SB1004	床土 栗判土器	深鉢 6 群 3 型	1 群部 → 2 群部	(35)0	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	1 群部部に隆帯・沈帯を施文・ 縦文。	手白陶・内外	82	28	
295	SB1004	床土	深鉢 17 群 4 型	1 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	隆帯・沈帯による隆文。隆帯に 目取線文。	内湾部・化粧付。外 両面化粧付者。	82	28	
296	SB1004	下層	深鉢 2 群 2 型	1 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	手轆轤による隆帯・沈帯を施 文。底縁部に隆帯。	内湾部・化粧付。外 両面化粧付者。	82	-	
297	SB1004	下層	深鉢 3 群 4 型	1 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	隆帯の隆帯・沈帯による隆文。 隆帯にヘラキキリ。	手白陶・内外	82	28	
298	SB1004	下層	深鉢 3 群 4 型	1 群部	-	-	-	-	不具	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	隆帯の隆帯・沈帯による隆文。 隆帯にヘラキキリ。	手白陶・内外・内湾 化粧付者	82	28	
299	SB1004	下層	深鉢 3 群 4 型	1 群部	-	-	-	-	不具	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	隆帯の隆帯・沈帯による隆文。 隆帯にヘラキキリ。	手白陶・内外・内湾 化粧付者	82	28	
300	SB1004	下層	深鉢 6 群 3 型	1 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	1 群部部に手轆轤による隆帯・ 沈帯を施文・縦文。	手白陶・外飾	82	28	
301	SB1004	上層	深鉢 3 群 2 型	1 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	隆帯・沈帯による隆文。隆帯に 目取線文。中央部に2条の垂文。	底縁1 群部・内湾・底 縁部化粧付者。	82	28	
302	SB1004	上層	深鉢 3 群 5 型	1 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	隆帯・沈帯による隆文。隆帯に ヘラキキリと支。	底縁部・内湾化粧付者	82	-	
303	SB1004	上層	深鉢 4 群 1 型	1 群部 → 2 群部	25D	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	1 群部部に隆帯・沈帯を施文。隆 帯を施文。隆帯は底縁部に 沈帯で隆帯文。	手白陶・内外・外 両面・底縁部化粧付者。	82	28	
304	SB1004	上層	深鉢 6 群 2 型	1 群部	-	-	-	-	不具	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	手轆轤による隆帯・沈帯の 隆文。隆帯に縦刺文。	手白陶・底く内湾	82	-	
305	SB1004	上層	深鉢 6 群 3 型	1 群部 → 2 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	1 群部部に手轆轤による隆帯・ 沈帯。隆帯・縦文。	手白陶・内外・内湾 化粧付者	83	28	
306	SB1004	上層	深鉢 7 群 1 型	1 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	1 群部部に隆帯・沈帯を施文。隆帯に 目取線文。	底縁1 群部・内外・外 両面・化粧付者。	82	-	
307	SB1004	上層	深鉢 7 群 2 型	1 群部	-	-	-	-	不具	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	1 群部に凸・凹による隆帯を施文。 隆帯にヘラキキリ。1 群部 部に隆帯2条。	底縁1 群部・内外・外 両面・化粧付者。	82	-	
308	SB1004	上層	深鉢 17 群 4 型	1 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	隆帯文に沈帯・隆帯・磨削で 十字部。	外両面化粧付者	82	28	
309	SB1004	上層	浅鉢 20 群 1 型	1 群部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	磨削	隆帯で横長区画文。区画内に 縦刺文と光斑。	手白陶・内湾	83	28	



第46表 縄文土器観察表(8)

発掘番号	地区・遺構	層位	器種	分期	部位	口径 (cm, 括弧内は推定)			焼成	色調			成形・装束	文 様	備 考	層位	採取層位	
						口径				内面	外面	断面						内面・外面
						口徑	底徑	器高										
300	SK20	埴土	深鉢	14群3型	口縁部→胴部	-	-	-	普通	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	灰黄	-	縄文	平口縁・肥厚・外反・外縁面化粧付	99	-	
302	SK20	埴土	深鉢	17群3型	口縁部→胴部	-	-	-	普通	灰黄緑	灰黄緑	灰黄	-	条線に縄文	平口縁・内面・外縁面化粧付	99	-	
302	SK20	埴土	深鉢	17群3型	口縁部→胴部	-	-	-	普通	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	灰黄	-	条線に縄文	平口縁・内面・外縁面化粧付	99	-	
303	SK20	埴土	深鉢	18群1型	胴部→底部	-	(11.7)	-	不貞	暗灰黄	12.0以上の黄緑	黒褐	-	縄文	底面2層2部1部の縄文に条線・内面・外縁面化粧付	99	-	
304	SK20	埴土	浅鉢	20群3型	口縁部→胴部	黄褐色多量(2)	-	-	普通	12.0以上の黄緑	灰白	黒	縦帯・斜帯	幾何学的縄文	平口縁に黄緑・黒褐色・紅土類付着・底面・外縁面化粧付	99	-	
305	SK29	埴土	深鉢	9群4型	口縁部	-	-	-	不貞	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	灰黄緑	-	口縁に白→黄褐色から濃灰黄緑帯・條状区画内に散在文を施す	平口縁・外反・外縁面化粧付	99	-	
306	SK009	埴土	深鉢	9群8型	口縁部→胴部	-	-	-	普通	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	-	口縁下に黒文帯・断面に條帯・胴下半部に条線文	平口縁・外反・外縁面化粧付	99	-	
307	SK009	埴土	深鉢	18群4型	胴部→底部	-	13.8	-	普通	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	-	縄文	底面平出し・内面に黄緑を施す・内面・外縁面化粧付	99	-	
306	SK009	埴土	浅鉢	20群5型	口縁部	-	-	-	普通	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	灰黄緑	縦帯・斜帯	口縁部・十字に黄緑を施す(9.0)・外縁面化粧付	99	-		
309	SK42	埴土	浅鉢	20群5型	口縁部→胴部	-	-	-	普通	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	縦帯	口縁内面に黄緑・黒文	平口縁・内面・外縁面化粧付	100	-	
320	SK85	埴土	深鉢	14群4型	口縁部	-	-	-	普通	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	-	条線	平口縁・肥厚・外反	100	-	
371	SK85	埴土	深鉢	15群1型	口縁部→胴部	-	-	-	普通	12.0以上の黄緑	灰黄緑	灰黄	-	口唇部の平行波線間に斜状文・胴下半部に条線	平口縁・外反・外縁面化粧付	100	-	
372	SK85	埴土	深鉢	15群1型	口縁部	-	-	-	不貞	灰黄緑	12.0以上の黄緑	黒褐	-	口唇部の平行波線間に斜状文	平口縁・外反・外縁面化粧付	100	-	
373	SK85	埴土	深鉢	18群1型	胴部→底部	-	(15.0)	-	不貞	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	-	条線	底面2層2部1部の縄文に条線・外縁面化粧付	100	-	
374	SK133	埴土	深鉢	15群4型	口縁部→胴部	-	-	-	普通	12.0以上の黄緑	灰黄緑	灰黄緑	-	口唇部の斜状波線・胴下半部に条線	平口縁・外反・外縁面化粧付	100	-	
325	SK133	埴土	深鉢	18群1型	胴部→底部	-	14.2	-	普通	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	-	縄文	底面2層2部1部の縄文に条線	100	-	
377	SK179	埴土	深鉢	14群5型	口縁部	-	-	-	不貞	灰黄	明黄	12.0以上の黄緑	-	無文	平口縁・肥厚・外反	100	-	
378	SK179	埴土	深鉢	14群5型	口縁部	-	-	-	不貞	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	浅灰黄	-	無文・口縁下に波線2本	平口縁・外反・外縁面化粧付	100	-	
379	SK180	埴土	深鉢	7群1型	口縁部	-	-	-	不貞	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	灰黄	-	口縁に白→たよ本の條帯帯間にハシゴ状波線を施す	平口縁・外反・外縁面化粧付	101	-	
380	SK180	埴土	深鉢	14群3型	口縁部	-	-	-	不貞	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	灰黄緑	-	縄文	平口縁・肥厚・外反	101	-	
381	SK226	埴土	深鉢	14群1型	口縁部	-	-	-	普通	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	灰黄緑	-	口縁下に條状文	平口縁・肥厚・外反・外縁面化粧付	101	-	
382	SK226	埴土	深鉢	17群2型	口縁部→胴部	(24.4)	-	-	普通	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	灰黄緑	-	断面に黄緑・赤・灰文・縄文	平口縁・外反・外縁面化粧付	101	-	
383	SK307	埴土	深鉢	17群2型	口縁部	-	-	-	普通	灰黄緑	灰黄緑	灰黄緑	斜線付帯	口唇部に縄文・無文	平口縁・外反・外縁面化粧付	101	-	
384	SK361	埴土	深鉢	14群2型	口縁部→胴部	-	-	-	普通	橙	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	-	口唇肥厚部に條状波線・縄文	平口縁・肥厚・外反・外縁面化粧付	101	-	
385	SK361	埴土	深鉢	15群5型	胴部	-	-	-	普通	橙	明赤褐	12.0以上の黄緑	-	断面に條状波線・胴下半部に縄文	-	101	-	
392	SK698	埴土	深鉢	9群5型	口縁部→胴部	-	-	-	普通	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	灰黄	-	口縁に白→たよ本の條帯帯・縄文・化粧付	平口縁・外反・外縁面化粧付	102	-	
393	SK698	埴土	深鉢	17群1型	口縁部→胴部	35.2	-	-	普通	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	-	縄文(口縁部まで)	平口縁・外反・外縁面化粧付	102	-	
396	SK664	埴土	深鉢	6群2型	胴部→底部	-	19.0	-	普通	12.0以上の黄緑	橙	灰黄	-	手載物型による條帯・波線の施文・黄緑(ハシゴ状)・縄文	底面平出し・内面に黄緑・化粧付・外縁面化粧付	103	-	
397	SK664	埴土	深鉢	6群3型	口縁部→胴部	-	-	-	普通	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	-	口縁部に條帯・波線を施す・縄文	平口縁・外反・外縁面化粧付	103	-	
398	SK664	埴土	深鉢	6群4型	口縁部→胴部	(32.4)	-	-	普通	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	-	口縁平出し条・縄文・灰	平口縁・内面・外縁面化粧付	104	-	
399	SK664	埴土	深鉢	6群4型	口縁部→胴部	-	-	-	不貞	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	-	口縁下に波線1条・縄文	平口縁・外反・外縁面化粧付	103	-	
400	SK664	埴土	深鉢	12群	口縁部→胴部	23.1	-	-	普通	12.0以上の赤褐	12.0以上の黄緑	12.0以上の赤褐	-	口縁下の赤褐色帯を有す・口唇内面に條帯・条線による斜状文	底面・黄緑・外縁面化粧付	104	31	
401	SK664	埴土	深鉢	17群1型	口縁部→底部	30.0	15.0	46.0	普通	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	12.0以上の黄緑	-	縄文・灰	平口縁・外反・断面にびり・底面中央部に黄緑を施す・外縁面・化粧付	103	31	
403	SK675	埴土	深鉢	17群3型	口縁部	-	-	-	普通	灰黄緑	灰黄緑	灰黄緑	-	口縁下の2本の平行波線間に三角状文・無文	外縁面・内面・外縁面・化粧付	105	-	
404	SK675	埴土	浅鉢	20群5型	口縁部	-	-	-	不貞	明黄緑	12.0以上の黄緑	灰黄	縦帯・斜帯	無文	平口縁・内面・外縁面化粧付	105	-	

第47表 縄文土器観察表(9)

調査番号	地区・遺構	層位	器種	分類	部位	土質 (色、硬さ・内径・厚さ)	焼成	色調				底形・裏面	文様	備考	層位	調査番号		
								内面	外面	断面	底面・内面							
408	SK156	埋土	深鉢	3群5類	口縁部 ～胴部	-	-	-	青褐色	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	手取竹管による隆帯と丸帯の隆帯、口縁部は外平上・樽形隆帯、口縁内面に沈線による隆帯	表裏1面・外縁面付着	108	-	
409	SK156	埋土	深鉢	3群6類	胴部	-	-	-	青褐色	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	手取竹管による隆帯と丸帯の隆帯、口縁部は外平上・樽形隆帯、口縁内面に沈線による隆帯	表裏1面・外縁面付着	108	-	
410	SK160	埋土	深鉢	2群1類	胴部	-	-	-	不貞	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	手取竹管による隆帯と丸帯の隆帯、口縁部は外平上・樽形隆帯、口縁内面に沈線による隆帯	表裏1面・外縁面付着	108	-	
412	SK215	埋土	深鉢	6群3類	口縁部	-	-	-	不貞	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	手取竹管による隆帯と丸帯の隆帯、口縁部は外平上・樽形隆帯、口縁内面に沈線による隆帯	表裏1面・外縁面付着	108	-	
413	SK215	埋土	深鉢	7群1類	胴部	-	-	-	不貞	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	手取竹管による隆帯と丸帯の隆帯、口縁部は外平上・樽形隆帯、口縁内面に沈線による隆帯	表裏1面・外縁面付着	108	-	
418	SK183	埋土	小形浅鉢	20群6類	胴部 ～底部	-	-	-	不貞	灰青褐色	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	手取竹管による隆帯と丸帯の隆帯、口縁部は外平上・樽形隆帯、口縁内面に沈線による隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	112	-
421	SK34	埋土	深鉢	9群4類	口縁部 ～胴部	-	-	-	不貞	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部に沈線による隆帯と丸帯の隆帯、口縁内面に沈線による隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	113	-	
422	SK35	埋土	深鉢	19群	胴部	-	-	-	青褐色	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部以下に平行的な隆帯	表裏1面・内面	113	-	
423	SK46	埋土	深鉢	14群4類	口縁部	-	-	-	不貞	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	手取竹管による隆帯と丸帯の隆帯、口縁部は外平上・樽形隆帯、口縁内面に沈線による隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	113	-	
424	SK48	埋土	深鉢	14群4類	口縁部	-	-	-	不貞	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	手取竹管による隆帯と丸帯の隆帯、口縁部は外平上・樽形隆帯、口縁内面に沈線による隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	113	-	
426	SK117	埋土	深鉢	9群8類	口縁部 ～胴部	-	-	-	青褐色	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部に無文隆帯・胴部に隆帯・胴下半部に隆帯	表裏1面・外縁面	113	-	
427	SK117	埋土	深鉢	18群3類	胴部 ～底部	-	(132)	-	青褐色	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部より平行的な隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	113	-	
428	SK117	埋土	深鉢	18群4類	胴部 ～底部	-	(120)	-	青褐色	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部より平行的な隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	113	-	
429	SK117	埋土	深鉢	19群	口縁部	-	-	-	不貞	明赤褐色	明赤褐色	内面隆帯	無文	口縁部以下に平行的な隆帯・口縁部に丸帯・胴下半部に隆帯	表裏1面・内面・外縁面付着	113	-	
430	SK178	埋土	深鉢	9群6類	口縁部	-	-	-	不貞	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部に沈線・沈線による隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	113	-	
430	SK205	埋土	深鉢	9群8類	口縁部 ～胴部	-	-	-	青褐色	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部に無文隆帯・胴部に隆帯・胴下半部に隆帯・胴下半部に隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	113	-	
433	SK205	埋土	深鉢	3群1類	口縁部 ～胴部	-	-	-	不貞	青褐色	明赤褐色	-	無文	口縁部は隆帯の隆帯・沈線による隆帯、口縁部は外平上・樽形隆帯、口縁内面に沈線による隆帯	表裏1面・内面	113	-	
435	SK205	埋土	深鉢	14群3類	口縁部 ～胴部	-	-	-	不貞	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部以下に平行的な隆帯・口縁部に丸帯・胴下半部に隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	113	-	
436	SK205	埋土	深鉢	15群2類	口縁部 ～胴部	-	-	-	不貞	灰青褐色	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部以下に平行的な隆帯・口縁部に丸帯・胴下半部に隆帯	表裏1面・外縁面	113	-
437	SK205	埋土	深鉢	17群2類	口縁部 ～胴部	-	-	-	青褐色	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部以下に平行的な隆帯・口縁部に丸帯・胴下半部に隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	114	-	
441	SK371	埋土	深鉢	9群5類	口縁部 ～胴部	-	-	-	青褐色	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部に沈線・沈線による隆帯	表裏1面・内面・外縁面付着	114	-	
442	SK371	埋土	深鉢	14群4類	口縁部 ～胴部	-	-	-	不貞	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部に沈線・沈線による隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	114	-	
444	SK415	埋土	深鉢	2群1類	口縁部 ～胴部	-	-	-	青褐色	明赤褐色	明赤褐色	-	無文	手取竹管による隆帯と丸帯の隆帯、口縁部は外平上・樽形隆帯、口縁内面に沈線による隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	115	-	
445	SK454	埋土	深鉢	3群5類	口縁部	-	-	-	青褐色	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部は隆帯の隆帯・沈線による隆帯、口縁部は外平上・樽形隆帯、口縁内面に沈線による隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	115	-	
447	SK454	埋土	深鉢	2群2類	口縁部 ～胴部	-	-	-	不貞	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	手取竹管による隆帯と丸帯の隆帯、口縁部は外平上・樽形隆帯、口縁内面に沈線による隆帯	表裏1面・外縁面	115	-	
449	SK481	埋土	深鉢	10群2類	胴部	-	-	-	不貞	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部に隆帯・隆帯	内面・外縁面・灰化物付着	115	-	
450	SK481	埋土	深鉢	10群2類	底部	-	(118)	-	青褐色	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	胴部に隆帯・隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	115	-	
450	SK640	埋土	深鉢	19群	口縁部 ～胴部	-	-	-	青褐色	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部以下に平行的な隆帯・口縁部に丸帯・胴下半部に隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	115	-	
452	SK640	埋土	深鉢	6群2類	胴部	-	-	-	青褐色	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	手取竹管による隆帯と丸帯の隆帯、口縁部は外平上・樽形隆帯、口縁内面に沈線による隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	115	-	
453	SK640	埋土	深鉢	9群3類	口縁部	-	-	-	青褐色	青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部に隆帯による隆帯・胴下半部に隆帯	表裏1面・内面・外縁面付着	115	-	
454	SK640	埋土	深鉢	14群4類	口縁部	-	-	-	不貞	青褐色	明赤褐色	-	無文	口縁部以下に平行的な隆帯・口縁部に丸帯・胴下半部に隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	115	-	
457	SK668	埋土	筒付土器	22群2類	口縁部 ～胴部	-	-	-	不貞	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部以下に平行的な隆帯・口縁部に丸帯・胴下半部に隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	115	-	
458	SK670	埋土	深鉢	14群4類	口縁部 ～胴部	-	-	-	青褐色	明赤褐色	明赤褐色	-	無文	口縁部以下に平行的な隆帯・口縁部に丸帯・胴下半部に隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	115	-	
459	SK1029	埋土	深鉢	2群1類	口縁部 ～胴部	-	-	-	青褐色	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	手取竹管による隆帯と丸帯の隆帯、口縁部は外平上・樽形隆帯、口縁内面に沈線による隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	115	-	
460	SK1030	埋土	深鉢	3群6類	胴部	-	-	-	不貞	灰青褐色	灰青褐色	-	無文	口縁部に隆帯による隆帯・隆帯・口縁部は外平上・樽形隆帯、口縁内面に沈線による隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	115	-	
461	SK128	埋土	深鉢	15群1類	口縁部	-	-	-	青褐色	青褐色	明赤褐色	-	無文	口縁部以下に平行的な隆帯・口縁部に丸帯・胴下半部に隆帯	表裏1面・外縁面・内面付着	118	-	

第48表 縄文土器観察表 (10)

発掘 番号	地区 遺構	層位	器種	分期	部位	口径 (cm, 柄内/口縁定)		底径	器高	底成	色調				成形・調整	文 様	備 考	種 別	図 録 番号	
						口縁	底径				内面	外面	断面	柄内/口縁						
																				褐色
462	SU28	埴土	深鉢	15群2型	口縁部	-	-	-	-	不具	褐色	12.5± 黄褐色	12.5± 黄褐色	-	-	口縁部の平行波線跡に似てい く文様	平口皿・片瓦	118	-	
463	SU28	埴土	深鉢	16群1型	口縁部 →一部	-	(36)	-	-	不具	赤褐色	12.5± 赤褐色	12.5± 黄褐色	-	-	胴下1部/口縁部の波線跡と 口縁内に2本の条痕/口 縁部に波線によるうろこ文	底成1皿・片瓦・底 成2皿2群1皿/波線 化紋・内面磨行書	118	31	
464	SU28	埴土	深鉢	18群3型	底部	-	13.8	-	-	不具	12.5± 褐色	12.5± 褐色	-	-	-	底成2皿2群1皿か 2皿の胴代/片瓦	118	-		
465	SU28	埴土	深鉢	18群7型	底部	-	14.2	-	-	不具	褐色	褐色	褐色	-	-	底成平行波線跡/口 縁磨行書	118	-		
466	SU28	埴土	深鉢	19群	口縁部	-	-	-	-	不具	12.5± 黄褐色	12.5± 黄褐色	褐色	-	-	口縁部下1/3平行波線	平口皿・底部内面/口 縁磨行書	118	-	
467	SU28	埴土	深鉢	19群	口縁部 →一部	-	-	-	-	不具	12.5± 黄褐色	12.5± 黄褐色	12.5± 黄褐色	-	-	口縁部下1/3平行波線	平口皿・底部内面	118	-	
469	SX280	埴土	深鉢	7群2型	口縁部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄褐色	12.5± 黄褐色	12.5± 黄褐色	-	-	口縁部付近の条痕跡内に ハシジ状条痕を施す。口縁内 面に施す。	底成1皿・内面/外 面磨行書	119	-	
470	SX280	埴土	深鉢	14群4型	口縁部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄褐色	明黄褐色	12.5± 黄褐色	-	-	条痕	平口皿・肥厚・片瓦 /外面磨行書	119	-	
471	SX280	埴土	深鉢	18群1型	胴部 →一部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄褐色	12.5± 黄褐色	褐色	-	-	条痕	底成2皿2群1皿の 胴代/片瓦・内面 波化紋、外面磨行書	119	-	
472	SX280	下層	深鉢	3群1型	口縁部 →一部	37.4	-	-	-	普通	12.5± 黄褐色	12.5± 黄褐色	褐色	-	-	口縁部に縦位の條痕・波線で 施す。発射にキズ/胴下平 部に波線施す。	平口皿・片瓦/内面 波化紋、外面磨行書	119	32	
473	SX280	下層	深鉢	3群1型	口縁部	-	-	-	-	普通	褐色	褐色	褐色	-	-	縦位の條痕・波線で施す。条 痕部に横位波文	平口皿・底部くびれ	120	-	
474	SX280	下層	深鉢	3群2型	口縁部	21.7	-	-	-	普通	褐色	褐色	灰黄褐色	-	-	條痕と波線による施文。條痕 部に横位波文。波線は胴内に 施す。発射にキズ/胴下平 部に波線施す。	平口皿・内面波 化紋、外面磨行書	120	32	
475	SX280	下層	深鉢	6群1型	口縁部 →一部	34.4	15.0	42.1	-	普通	12.5± 褐色	褐色	褐色	-	-	口縁部に半横位管を押し当て た半波線/胴部は横位波文に 似ていない	平口皿・片瓦/内面 波化紋、外面磨行書	120	32	
476	SX280	下層	深鉢	6群1型	口縁部 →一部	21.5	-	23.6	-	普通	12.5± 褐色	12.5± 褐色	褐色	-	-	口縁部に半横位管を押し当て た半波線。胴部は横位波文 に似ていない	片瓦/内面磨行書	120	33	
477	SX280	下層	深鉢	6群1型	口縁部 →一部	(24.8)	(15.0)	29.7	-	普通	12.5± 褐色	12.5± 褐色	褐色	-	-	口縁部に半横位管を押し当て た半波線。口縁部に半横位 管を押し	片瓦/内面磨行書	121	32	
478	SX280	下層	深鉢	6群3型	口縁部 →一部	(32.2)	-	-	-	普通	褐色	褐色	灰褐色	-	-	口縁部に半横位管による波 痕・波線/横位波文・条痕	平口皿・片瓦・内面 磨行書	121	32	
479	SX280	下層	深鉢	9群1型	口縁部 →一部	黄褐色 (32.4)	-	-	-	普通	12.5± 褐色	12.5± 赤褐色	12.5± 褐色	-	-	口縁部に横位波線跡による シジク文。胴部に横位波文。 波線による施文あり	底成1皿・片瓦・底部 内面/外面磨行書	122	32	
480	SX280	下層	深鉢	9群6型	口縁部	-	-	-	-	不具	12.5± 黄褐色	12.5± 黄褐色	褐色	-	-	黄褐色面に波線跡による円文/口 縁内面に波線	底成1皿・底部内面 /外面磨行書	122	-	
481	SX280	下層	深鉢	11群	口縁部 →一部	38.3	7.6	36.5	-	普通	12.5± 褐色	赤褐色	灰黄褐色	-	-	條痕と波線による施文。口 縁内に波線施す。	平口皿・内面・底部く びれ。片瓦/外面磨行書	121	33	
482	SX280	下層	深鉢	14群1型	口縁部 →一部	-	-	-	-	不具	12.5± 褐色	12.5± 褐色	12.5± 褐色	-	-	口縁部厚部に縦位波線と上 半部に横位管のみを押し当て た半波線の条痕を施す。口 縁部に条痕を施す	平口皿・肥厚・片瓦 /内面波化紋、外面 磨行書	121	-	
483	SX280	下層	深鉢	14群2型	口縁部 →一部	(36.0)	-	-	-	普通	明赤褐色	12.5± 黄褐色	12.5± 褐色	-	-	口縁部厚部に横位波線。その 下半部は波文・横位波文。	平口皿・肥厚・片瓦 有孔/表面から半 波線跡/下半部は 波線に似ていない	122	-	
484	SX280	下層	深鉢	14群3型	口縁部	-	-	-	-	普通	12.5± 褐色	褐色	褐色	-	-	条痕	平口皿・肥厚・片瓦 /外面磨行書	122	-	
485	SX280	下層	深鉢	14群4型	口縁部	-	-	-	-	普通	12.5± 褐色	褐色	褐色	-	-	条痕	平口皿・肥厚・片瓦 /外面波化紋行書	122	-	
486	SX280	下層	深鉢	14群4型	口縁部 →一部	-	-	-	-	不具	12.5± 黄褐色	褐色	褐色	-	-	条痕	平口皿・肥厚・片瓦 /内面磨行書	122	-	
487	SX280	下層	深鉢	14群4型	口縁部 →一部	-	-	-	-	普通	褐色	褐色	褐色	-	-	条痕	平口皿・肥厚・片瓦 /外面磨行書	122	-	
488	SX280	下層	深鉢	14群4型	口縁部 →一部	-	-	-	-	不具	明赤褐色	12.5± 黄褐色	12.5± 黄褐色	褐色	-	-	條痕	平口皿・肥厚・片瓦 /外面波化紋行書	122	-
489	SX280	下層	深鉢	17群4型	胴部	-	-	-	-	普通	12.5± 黄褐色	12.5± 黄褐色	褐色	-	-	条痕	内面波化紋、外 面磨行書	122	-	
490	SX280	下層	深鉢	17群4型	胴部	-	-	-	-	普通	褐色	褐色	褐色	-	-	条痕	-	122	-	
491	SX280	下層	深鉢	18群4型	底部	-	16.0	-	-	不具	12.5± 黄褐色	12.5± 黄褐色	褐色	-	-	条痕	底成半片口皿。外 面に波線跡/内面 波化紋行書	122	-	
492	SX280	下層	白付鉢	23群2型	口縁部 →一部	(24.0)	(7.5)	22.5	-	普通	12.5± 褐色	12.5± 褐色	褐色	-	-	胴に貝殻磨文。波線は胴 内に貝殻磨文を施す	底成1皿・片瓦/口 縁波化紋/半波 線跡/内面磨行書	122	32	
493	SX280	下層	小形	23群6型	胴部 →一部	-	8.4	-	-	普通	12.5± 黄褐色	12.5± 黄褐色	褐色	-	-	条痕	底成半片口皿	123	-	
494	SX280	中層	深鉢	3群2型	口縁部 →一部	黄褐色 跡 黄褐色 (19)	-	-	-	普通	12.5± 褐色	12.5± 褐色	12.5± 褐色	-	-	口縁部に縦位の條痕・波線で 施す。波線と黄褐色を施す。条痕部 に横位波文/半波線の条痕。胴下 平部に条痕	底成半片口皿。外 面に波線跡/内面 波化紋行書	123	32	

第49表 縄文土器観察表 (11)

品目番号	地区・遺構	層位	器種	分類	部位	土質 (cm, 柄杓内は推定)	焼成	色調				底形・裏面	文様	備考	層位	図録番号	
								口縁	底縁	器底	内面						外面
495	SX280	中層	深鉢	6群3類	口縁部 一側部	-	-	-	普通	にじい 黄緑	にじい 黄緑	黒灰	-	口縁部に半軌竹管による隆起・沈没/黒文	平口縁・縁・内底・内面 灰化・外底・外底 灰化・外底	123	-
496	SX280	中層	深鉢	14群1類	口縁部	-	-	-	普通	にじい 黄緑	にじい 黄緑	黒灰	-	口縁部部に横筋状沈没, 口縁部下に縦筋状沈没	平口縁・肥厚・外底/赤丸	123	-
497	SX280	中層	深鉢	14群3類	口縁部	-	-	-	普通	にじい 黄緑	にじい 黄緑	灰黄緑	-	黒文	平口縁・肥厚・外底	123	-
498	SX280	中層	深鉢	14群3類	口縁部	-	-	-	普通	明赤黒	にじい 黄緑	黒灰	-	黒文	平口縁・肥厚・外底	123	-
499	SX280	中層	深鉢	14群4類	口縁部	-	-	-	普通	黄緑	にじい 黄緑	にじい 黄緑	-	赤黒	平口縁・赤丸・外底・内面 灰化・外底	123	-
500	SX280	中層	深鉢	18群2類	底部	-	12.5	-	普通	明赤黒	にじい 黄緑	灰黄緑	-	赤黒	底面1層目2層目1位の 側面付着・内面灰化 付着	123	-
501	SX280	中層	深鉢	18群2類	側部 一底部	-	(13.0)	-	普通	明黒	明黒	明黒	-	赤黒	底面1層目1位の 側面付着・内面灰化 付着	123	-
502	SX280	中層	深鉢	18群3類	側部 一底部	-	13.1	-	普通	にじい 黄緑	明	明黄緑	-	黒文地	底面中央より直上・ 外底に2層目1位の 側面付着・内面・ 内面灰化付着	123	-
503	SX280	中層	小形	23群3類	口縁部 一側部	(13.7)	-	-	普通	にじい 黄緑	にじい 黄緑	にじい 黄緑	-	口縁部に平行沈没, 底面部に 沈没による赤丸文/黒文	平口縁・外底・内 底・外底付着	123	32
504	SX280	上層	深鉢	3群3類	口縁部	-	-	-	普通	橙	にじい 黄緑	黒灰	-	底面の隆起・沈没による横筋 文・隆起に縦筋状文	平口縁・外底・外底 付着	124	-
505	SX280	上層	深鉢	3群5類	口縁部 一側部	-	-	-	不良	にじい 黄緑	にじい 黄緑	黒灰	-	口縁部に縦筋の隆起・沈没に よる十字文・隆起に点状 文/側面付着	底面1層目・内面・ 外底付着	124	-
506	SX280	上層	深鉢	6群1類	口縁部	-	-	-	普通	灰黄緑	灰黄緑	灰黄緑	-	腹に2層目縦筋に半軌竹管に よる赤丸文	平口縁・縁・内底	124	-
507	SX280	上層	深鉢	9群5類	口縁部	-	-	-	普通	にじい 黄緑	にじい 黄緑	にじい 黄緑	-	口縁に沿って1本の隆起・隆 起にヘラキキス/黒文	平口縁・外底・内面 側面付着	124	-
508	SX280	上層	深鉢	9群5類	口縁部	-	-	-	不良	ナリゾ 黄	にじい 黄緑	暗灰黄	-	口縁に沿って1本の隆起/黒文	平口縁・外底・内底 一部内面にナリゾ赤 丸文・内面・外底・ 外底・内面・外底 付着	124	-
509	SX280	上層	深鉢	14群4類	口縁部 一側部	-	-	-	普通	にじい 黄緑	にじい 黄緑	灰黄緑	-	赤黒	平口縁・肥厚・外 底・一部内面に点状 の隆起・内面・外 底・内面・外底 付着	124	-
510	SX280	上層	深鉢	14群4類	口縁部 一側部	-	-	-	不良	にじい 黄緑	にじい 黄緑	灰黄緑	-	赤黒	平口縁・肥厚・外底	124	-
511	SX280	上層	深鉢	15群1類	口縁部	-	-	-	不良	黒	黒	黒	-	口縁部の平行沈没部・斜筋状沈没	平口縁・外底・外底 付着	124	-
512	SX280	上層	深鉢	17群4類	側部	-	-	-	普通	にじい 黄緑	にじい 黄緑	にじい 黄緑	-	赤黒	内面側面付着	124	-
513	SX280	上層	深鉢	18群1類	側部 一底部	-	10.5	-	普通	にじい 黄緑	にじい 黄緑	灰黄緑	-	赤黒	底面2層目2層目1位の 側面付着	124	-
514	SX280	上層	深鉢	18群6類	底部	-	-	-	不良	にじい 黄緑	にじい 黄緑	黒灰	-	-	底面側面付着	124	-
515	SX280	上層	深鉢	19群	口縁部	-	-	-	普通	にじい 黄緑	灰黄緑	にじい 黄緑	-	口縁部直下に平行沈没	平口縁・内底・外底 側面付着	124	-
516	SX280	上層	浅鉢	20群5類	口縁部	-	-	-	普通	にじい 黄緑	にじい 黄緑	黒灰	斜筋・縦筋	無文	平口縁・十字筋に隆 起して外底・内面 側面付着	124	-
517	SX280	上層	小形	23群6類	側部 一底部	-	7.5	-	普通	にじい 黄緑	にじい 黄緑	黒	-	赤黒	底面2層目2層目1位の 側面付着・内面側面 付着	124	-
518	SX280	上層	小形	23群8類	側部 一底部	-	7.4	-	普通	灰黒	灰黒	黒灰	縦筋方向の 十字	無文	底面2層目2層目1位の 側面付着	124	-
532	SX471	下層	深鉢	3群4類	口縁部	-	-	-	普通	橙	にじい 黄緑	黒灰	-	底面の隆起・沈没による横筋 文・横筋状文	平口縁・外底	127	-
533	SX471	下層	深鉢	6群3類	口縁部 一側部	-	-	-	普通	にじい 黄緑	にじい 黄緑	灰黄緑	-	半軌竹管による隆起・沈没に よる横筋文・隆起に 横筋文/黒文	平口縁・外底・外底 側面付着	127	-
534	SX471	下層	深鉢	6群4類	口縁部 一側部	-	-	-	普通	黒	灰黄緑	黒	-	口縁下部2層目/黒文	平口縁・外底・外底 側面付着	127	-
535	SX471	下層	深鉢?	18群5類	底部	-	-	-	普通	にじい 黄緑	橙	黒灰	-	底面スグミ状付着	平口縁・外底・外底 側面付着	127	-
536	SX471	下層	浅鉢	30群3類	口縁部	-	-	-	普通	にじい 黄緑	にじい 黄緑	黒灰	-	隆起に横筋状文	平口縁・外底・外底 側面付着	127	-
537	SX471	中層	深鉢	3群1類	口縁部	-	-	-	普通	橙	橙	橙	-	底面の隆起・沈没による横筋 文	平口縁・内底	127	-
538	SX471	中層	深鉢	3群3類	口縁部 一側部	22.5	-	-	普通	にじい 黄緑	にじい 黄緑	黒灰	-	半軌竹管による隆起・沈没に よる横筋文・隆起に 横筋文	平口縁に1層目・赤 丸・外底・内面・ 外底・外底・外底 付着	127	-
539	SX471	中層	深鉢	3群4類	口縁部 一側部	26.4	-	-	普通	にじい 黄緑	にじい 黄緑	黒灰	-	口縁部に縦筋の隆起・沈没に よる横筋文・隆起に 横筋文・腹に半軌 付着	平口縁・外底・外底 側面付着	127	-
540	SX471	中層	深鉢	3群4類	口縁部 一側部	-	-	-	不良	にじい 赤黒	にじい 黄緑	黒灰	-	口縁部に縦筋の隆起・沈没に よる横筋文・隆起に 点状文/側面付着	平口縁・外底・内面 側面付着	127	-
541	SX471	中層	深鉢	3群4類	口縁部	-	-	-	普通	にじい 黄緑	にじい 黄緑	にじい 黄緑	-	底面の隆起による横筋文・隆起 に点状沈没	平口縁・外底・外底 側面付着	127	-

第50表 縄文土器観察表(12)

発掘 番号	地区 遺構	層位	器種	分期	部位	口径 (cm, 括弧内は推定)			構成	色調		成形・調整		文 様	備 考	種 別	図 録番号	
						口径				内面	外面	断面	内面/外面					
						口徑	底徑	器高										
542	SX47	中層	深鉢	3群5期	口縁部→胴部	-	-	-	普通	灰黄緑	12.5± 黄緑	黄緑	-	縄文の條帶・流線による渦文 文・横文(上縁・縁部)の十字文 ・斜下字部に横文	灰白/黒・内面黄・ 灰化部、内面黄付着	127	-	
543	SX47	中層	深鉢	4群2期	口縁部→胴部	22.4	-	-	普通	12.5± 黄緑	12.5± 黄緑	黄緑	-	口縁部に流線による渦文文 と横文(横文・胴部)に横文・ 斜下に横文	灰白/黒・ネグリ トイ一部分・内面黄 付着、灰化部付着	127	33	
544	SX47	中層	深鉢	6群3期	口縁部→胴部	-	-	-	普通	12.5± 黄緑	12.5± 黄緑	灰黄緑	-	縄文、流線	内面黄・灰化部付着	127	-	
545	SX47	中層	深鉢	6群3期	口縁部→胴部	20.0	9.0	24.6	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	黄	-	口縁下に半軌竹管による條 帯・流線文(上縁・胴部)と流 線に十字文・流線に十字文 ・斜下字部に横文	口縁下1層1層1層・内 面黄・流線に十字文・ 斜下字部	128	33	
546	SX47	中層	深鉢	6群3期	口縁部→胴部	-	-	-	不具	12.5± 黄緑	12.5± 黄緑	灰黄緑	黄緑	口縁部に半軌竹管による條 帯・流線文(上縁・胴部) を横文	口縁下・内面・内面 黄付着	128	-	
547	SX47	中層	深鉢	6群3期	口縁部→胴部	-	-	-	不具	12.5± 黄緑	12.5± 黄緑	黄緑	-	口縁下に半軌竹管による條 帯・流線文(上縁・胴部) を横文	口縁下・内面・内面 黄付着	128	-	
548	SX47	中層	深鉢	6群3期	口縁部→胴部	-	-	-	不具	12.5± 黄緑	12.5± 黄緑	黄緑	-	口縁下に半軌竹管による條 帯・流線文(上縁・胴部) を横文	口縁下・内面・内面 黄付着	128	-	
549	SX47	中層	深鉢	6群3期	口縁部→胴部	-	-	-	普通	浅黄緑	12.5± 黄緑	黄緑	-	口縁部に半軌竹管による條 帯・流線・横文	口縁下・内面・内面 黄付着	128	-	
550	SX47	中層	深鉢	6群3期	口縁部→胴部	-	-	-	普通	12.5± 黄緑	12.5± 黄緑	黄緑	-	口縁部に半軌竹管による條 帯・流線・横文	口縁下・内面・内面 黄付着	128	-	
551	SX47	中層	深鉢	6群3期	口縁部→胴部	-	-	-	普通	黄	12.5± 黄	黄	-	口縁下に半軌竹管による條 帯・流線付文・横文	口縁下・内面・内面 黄付着	128	-	
552	SX47	中層	深鉢	9群2期	口縁部→胴部	-	-	-	不具	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	-	縄文文、口縁に付く半軌竹 管による横文	口縁下1層1層1層・内 面黄・流線に十字文・ 斜下字部	128	-	
553	SX47	中層	深鉢	11群	口縁部→ 底部	39.0	7.6	29.6	普通	黄	12.5± 赤黒	12.5± 赤黒	-	條帯・流線で横文	口縁下・内面・内面 黄付着	129	33	
554	SX47	中層	深鉢	14群2期	口縁部→ 底部	-	-	-	普通	黄	12.5± 赤黒	12.5± 赤黒	-	口縁部流線に横文・流線・ 条帯・流線に付く半軌竹管	口縁下・内面・内面 黄付着	129	-	
555	SX47	中層	深鉢	17群1期	口縁部→ 底部	(32.0)	(14.0)	(33.6)	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	-	条帯に横文	口縁下・内面・内面 黄付着	129	33	
556	SX47	中層	深鉢	17群4期	胴部	-	-	-	不具	黄	12.5± 黄	12.5± 黄	-	条帯に横文(十字文)	内面黄付着、内面 黄付着	129	-	
557	SX47	中層	深鉢	18群2期	胴部→ 底部	-	(13.7)	-	不具	12.5± 黄	12.5± 黄	灰白	明黄緑	縄文	口縁下1層1層1層・内 面黄・流線に十字文・ 斜下字部	130	-	
558	SX47	中層	不明	18群4期	底部	-	(10.2)	-	不具	12.5± 黄	12.5± 黄	黒	黒	-	底面十字筋	129	-	
559	SX47	中層	浅鉢	20群3期	口縁部→ 胴部	23.3	9.0	9.1	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	-	口縁部に半軌竹管による條 帯・流線文・胴部に横文 付	口縁下・内面・内面 黄付着	130	33	
560	SX47	中層	深鉢	21群1期	口縁部→ 胴部	最大 (27.6) 最小 26.5	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	-	口縁部に半軌竹管による條 帯・流線文・胴部に横文 付	口縁下・内面・内面 黄付着	130	-	
561	SX47	上層	深鉢	2群1期	口縁部→ 胴部	20.2	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	-	胴部に半軌竹管で十字状に 横文文、条帯帯に付く半軌 竹管による横文	口縁下・内面・内面 黄付着	130	33	
562	SX47	上層	深鉢	3群1期	口縁部	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	-	口縁部に半軌竹管による條 帯・流線文(上縁・胴部) を横文	口縁下	130	-	
563	SX47	上層	深鉢	3群4期	口縁部	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	12.5± 黄	-	縄文の條帶・流線による渦 文、横帯・付く半軌竹管 ・流線に付く半軌竹管	口縁下・内面・内面 黄付着	130	-	
564	SX47	上層	深鉢	3群5期	口縁部→ 胴部	-	-	-	不具	灰黒	12.5± 黄	12.5± 黄	黄緑	-	口縁部に半軌竹管による條 帯・流線文(上縁・胴部) に横文	灰白/黒・内面黄・ 灰化部付着	130	-
565	SX47	上層	深鉢	6群3期	口縁部	-	-	-	普通	黒	12.5± 黄	12.5± 黄	-	口縁下に半軌竹管による條 帯・流線・横文	口縁下・内面・内面 黄付着	130	-	
566	SX47	上層	深鉢	6群3期	口縁部	-	-	-	普通	明赤黒	12.5± 黄	12.5± 黄	黄緑	-	口縁部に半軌竹管による條 帯・流線文	口縁下・内面・内面 黄付着	130	-
567	SX47	上層	深鉢	6群3期	口縁部	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	灰白	-	口縁下に半軌竹管による條 帯・流線文(上縁・胴部) を横文	口縁下・内面・内面 黄付着	130	-	
568	SX47	上層	深鉢	6群4期	口縁部	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	灰黄緑	-	口縁下流線1条・横文	口縁下・内面・内面 黄付着	130	-	
569	SX47	上層	深鉢	6群4期	口縁部	-	-	-	普通	浅黄緑	12.5± 黄	12.5± 黄	-	口縁下流線1条・横文	内面黄付着	130	-	
570	SX47	上層	深鉢	14群4期	口縁部	-	-	-	普通	明黄緑	12.5± 黄	12.5± 黄	-	条帯	口縁下・内面・内面 黄付着	130	-	
571	SX47	上層	釣子土器	24群	胴部	-	-	-	不具	12.5± 黄	12.5± 黄	浅黄緑	黄緑	横線部は流線と流線で横文、 胴部は2条の流線部を横文	内面黄・灰化部付着 ・胴部流線の内十字筋	130	-	
583	盆	笠倉	深鉢	1群2期	口縁部→ 胴部	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	灰黄緑	-	半軌竹管で十字状に横文、 条帯帯に付く半軌竹管	口縁下・内面・内面 黄付着	133	-	
584	盆	笠倉	深鉢	1群2期	口縁部→ 胴部	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	灰黄緑	灰黄緑	半軌竹管で十字状に横文、 条帯帯に付く半軌竹管	口縁下・内面・内面 黄付着	133	-	
585	盆	笠倉	深鉢	2群1期	口縁部	-	-	-	普通	12.5± 黄	12.5± 黄	黄緑	-	半軌竹管による条帯・流線・ 流線文、口縁部に横文	口縁下・内面・内面 黄付着	133	-	
586	CT18	笠倉	深鉢	3群1期	口縁部→ 胴部	-	-	-	普通	灰黄緑	12.5± 黄	12.5± 黄	灰黄緑	-	口縁部に半軌竹管による條 帯・流線文、流線・流線 ・流線に付く半軌竹管	口縁下1層1層1層・内 面黄・流線に十字文・ 斜下字部	133	-

第51表 縄文土器観察表 (13)

調査年度	地区・遺構	層位	器種	分類	部位	土質 (色、硬さ/内径/厚さ)	構成	色調				文様	備考	図録番号		
								内面	外面	断面	内径・内面					
587	-	包	深鉢	3群1類	口縁部 →胴部	-	-	不具	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	灰青	-	口縁部に施した隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・内径・胴部がくびれ・外縁部付着	133	-
588	EA16	包	深鉢	3群1類	口縁部 →胴部	-	-	不具	にじい 赤褐色	にじい 黄褐色	灰青褐色	-	口縁部・胴部に施した隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・胴部内径・内径部付着	133	-
589	CO17	包	深鉢	3群4類	胴部	-	-	不具	にじい 赤褐色	明赤褐色	黒	-	隆帯の隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁・内径部付着	133	-
590	CO18	包	深鉢	3群4類	口縁部	-	-	普通	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	-	隆帯の隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁・内径部付着	133	-
591	EA16	包	深鉢	3群4類	口縁部	-	-	不具	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	-	隆帯の隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁・内径部付着	133	-
592	包	包	深鉢	6群1類	胴部	-	-	不具	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	-	平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	1層内径の部分がある・内径部付着	133	-
593	包	包	深鉢	6群1類	口縁部	-	-	普通	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	黒灰	-	口縁下に平鉢竹管に施した隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・隆帯	133	-
594	EC15	包	深鉢	6群2類	口縁部 →胴部	-	-	普通	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	黒灰	-	口縁下に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁	133	-
595	包	包	深鉢	6群2類	口縁部 →胴部	-	-	普通	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	黒灰	-	平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁	133	-
596	EA16	包	深鉢	6群3類	口縁部	-	-	普通	浅黄褐色	にじい 黄褐色	黒灰	-	口縁部に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁・内径部付着	133	-
597	EA15	包	深鉢	6群3類	口縁部 →胴部	-	-	普通	にじい 黄褐色	黄褐色	黒灰	-	口縁部に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁・内径部付着	133	-
598	包	包	深鉢	6群3類	口縁部	-	-	普通	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	黒灰	-	口縁部に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁	133	-
599	EA16	包	深鉢	6群3類	口縁部 →胴部	-	-	不具	にじい 黄褐色	明赤褐色	黄褐色	-	口縁部に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・内径	133	-
600	EA16	包	深鉢	6群3類	口縁部	-	-	不具	明赤褐色	黄褐色	黄褐色	-	口縁下に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁	133	-
601	CT16	包	深鉢	6群3類	口縁部 →胴部	-	-	普通	灰黄褐色	灰黄褐色	黒灰	-	口縁部に平鉢竹管に施した隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	浅黄褐色・中々内径部付着	133	-
602	EC17	包	深鉢	6群3類	口縁部	-	-	不具	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	-	口縁部に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	浅黄褐色・外縁・内径部付着	134	-
603	包	包	深鉢	6群3類	口縁部 →胴部	-	-	不具	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	-	平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・内径	134	-
604	包	包	深鉢	6群3類	口縁部	-	-	普通	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	灰黄褐色	-	平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・内径	134	-
605	EA16	包	深鉢	6群3類	口縁部 →胴部	(28)	-	普通	にじい 黄褐色	灰黄褐色	黒灰	-	口縁部に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	細く成り口縁・内径部付着	134	-
606	トロンテ	包	深鉢	6群4類	口縁部 →胴部	-	-	不具	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	灰褐色	-	口縁下に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁	134	-
607	EA16	包	深鉢	6群4類	口縁部 →胴部	-	-	普通	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	灰黄褐色	-	口縁下に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁・内径部付着	134	-
608	包	包	深鉢	6群5類	口縁部 →胴部	-	-	普通	浅黄褐色	にじい 黄褐色	灰黄褐色	-	口縁部に平鉢竹管に施した隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁・内径部付着	134	-
609	包	包	深鉢	7群1類	口縁部	-	-	普通	灰黄褐色	黒褐色	黒灰褐色	-	口縁部に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	浅黄褐色・外縁・内径部付着	134	-
610	CS17	包	深鉢	7群1類	口縁部	-	-	不具	にじい 黄褐色	黒褐色	黒灰	-	口縁下に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁・内径部付着	134	-
611	包	包	深鉢	7群1類	口縁部	-	-	普通	にじい 黄褐色	灰黄褐色	黒灰	-	口縁下に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁・内径部付着	134	-
612	QK16	包	深鉢	7群1類	口縁部	-	-	不具	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	黒褐色	-	口縁下に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	浅黄褐色・内径・内径部付着	134	-
613	包	包	深鉢	7群1類	口縁部 →胴部	-	-	普通	黒灰	にじい 黄褐色	黒灰	-	口縁部に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁・内径部付着	134	-
614	CO17	包	深鉢	7群1類	口縁部	-	-	不具	不明	黒	明褐色	内縁部付着	口縁部に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁・内径部付着	134	-
615	EA16	包	深鉢	9群2類	口縁部 →胴部	-	-	普通	にじい 黄褐色	灰黄褐色	灰黄褐色	-	口縁下に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	浅黄褐色・外縁・内径部付着	134	-
616	-	包	深鉢	9群2類	口縁部 →胴部	-	-	普通	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	黒灰	-	口縁部に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁・内径部付着	134	-
617	CR16	包	深鉢	9群3類	胴部 →底底	-	(77)	普通	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	黒灰	-	口縁下に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	浅黄褐色・内径部付着	134	-
618	CS16	包	深鉢	9群3類	口縁部 →胴部	-	-	普通	にじい 黄褐色	灰黄褐色	黒灰	-	口縁部に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	浅黄褐色・内径部付着	134	-
619	-	包	深鉢	9群4類	口縁部	-	-	不具	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	黒灰	-	口縁下に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	浅黄褐色・内径	134	-
620	-	包	深鉢	9群5類	口縁部 →胴部	-	-	不具	黒灰褐色	にじい 黄褐色	黒灰褐色	-	口縁下に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁・内径部付着	135	-
621	-	包	深鉢	9群5類	口縁部 →胴部	-	-	不具	灰黄褐色	にじい 黄褐色	灰黄褐色	-	口縁下に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁	135	-
622	CT17	包	深鉢	9群5類	口縁部 →胴部	-	-	不具	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	黒灰	-	口縁下に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・外縁・内径部付着	135	-
623	EC14	包	深鉢	9群6類	口縁部	-	-	不具	にじい 黄褐色	にじい 黄褐色	黒	-	隆帯と口縁直下の帯状の凸縁・口縁内径に施した凸縁文	浅黄褐色・外縁・内径部付着	135	-
624	CO18	包	深鉢	9群7類	口縁部 →胴部	-	-	不具	灰黄褐色	にじい 黄褐色	黒灰2	-	口縁下に平鉢竹管による隆帯・口縁直下の帯状の凸縁・取付部に施した稜状文・肩下平部に施した凸縁文	平口縁・内径部付着	135	-

第52表 縄文土器観察表(14)

発掘層 号	地区 遺構	層位	器種	分期	部位	口径 (cm, 括弧内は推定)			構成	色調				成形・調整	文 様	備 考	種 別	注目 点
						口徑	底徑	器高		内面	外面	断面	柄取・内底					
625	CT15	包含層	深鉢	9群8期	口縁部 →胴部	-	-	-	不良	明黄褐色	黄褐色	黒い 黄褐色	-	口縁下に無文字・胴部に黄褐色を伴う褐色・胴下半部に黒褐色	甲10群・内丸・内丸 外縁付付き	135	-	-
626	CT14	深鉢	10群1期	口縁部 →胴部	-	-	-	普通	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	灰黄褐色	-	口縁下の喉部に黄褐色・黒文	甲10群・内丸・内 外縁付付き	135	-	-	
627	CO19	深鉢	10群1期	口縁部 →胴部	-	-	-	不良	灰黄褐色	灰黄褐色	黒灰	-	口縁下に黄褐色を伴う黄褐色と沈濁により黒文・黒文	甲10群・内丸・黒 内縁付	135	-	-	
628	-	包含層	深鉢	10群2期	口縁部 →胴部	-	-	普通	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	に濃い 橙	-	口縁下に付いた褐色から黄褐色帯・赤褐色	黄褐色・内丸・内縁 外縁部・黄化物付付き	135	-	-	
629	CP20	包含層	深鉢	11群	把手	-	-	不良	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	-	黄褐色・沈濁で5字状・黄褐色で 口字状に褐色を伴う黄褐色文	-	135	-	-	
630	包	包含層	深鉢	11群	口縁部	-	-	不良	に濃い 黄褐色	期	に濃い 黄褐色	-	黄褐色・沈濁による褐色文・黒文 口字状に褐色を伴う赤褐色	黄褐色口縁・内丸・把 手・内丸外縁付付き	135	-	-	
631	包	包含層	深鉢	11群	胴部	-	-	普通	暗褐色	黒褐色	黒褐色	-	黄褐色で黄褐色文	丸丸のある胴部	135	-	-	
632	包	包含層	深鉢	11群	口縁部 →胴部	-	-	不良	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒	-	黄褐色で黄褐色文・黄褐色に沈 濁による褐色文・口縁部内縁部 に黄褐色	甲10群・内丸・黒部 付	135	-	-	
633	包	包含層	深鉢	11群	口縁部 →胴部	-	-	普通	に濃い 黄褐色	黄褐色	黒褐色	-	黄褐色で黄褐色文・黄褐色に沈 濁に黄褐色文・口縁部内縁部 に黄褐色	甲10群・内丸・黒部 付	135	-	-	
634	-	包含層	深鉢	14群1期	口縁部	-	-	普通	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	-	口縁部を黒下下に黄褐色と上 下に付いた褐色を伴う黄褐色文	甲10群・把柄・内丸 付	136	-	-	
635	CP19	深鉢	14群1期	口縁部	-	-	不良	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	中～下 黄褐色	-	口縁部を黒下下に黄褐色と上 下に付いた褐色を伴う黄褐色文	甲10群・把柄・内丸 付	136	-	-		
636	CT15	深鉢	14群1期	口縁部 →胴部	-	-	不良	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	-	口縁部を黒下に褐色と口縁 部下に褐色と黄褐色	甲10群・把柄・内丸 内丸黄化物付付き	136	-	-		
637	包	包含層	深鉢	14群2期	口縁部 →胴部	-	-	普通	橙	橙	明黄褐色	-	口縁下に褐色付着・黄褐色に黄 褐色	甲10群・把柄・内丸 付	136	-	-	
638	CT15	包含層	深鉢	14群2期	口縁部 →胴部	-	-	普通	黄褐色	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	-	黄褐色に沈濁による黄褐色文	甲10群・把柄・内丸 付	136	-	-	
639	EC14	包含層	深鉢	14群3期	口縁部 →胴部	-	-	不良	黄褐色	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	-	黒文	甲10群・把柄・内丸 付	136	-	-	
640	包	包含層	深鉢	14群3期	口縁部 →胴部	-	-	不良	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒灰	-	黒文	甲10群・把柄・内丸 付	136	-	-	
641	包	包含層	深鉢	14群3期	口縁部 →胴部	-	-	普通	に濃い 黄褐色	橙	黒灰	-	黒文	甲10群・内丸	136	-	-	
642	包	包含層	深鉢	14群3期	口縁部 →胴部	-	-	不良	浅黄褐色	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	-	黒文・口縁下に無文字	黄褐色・内丸・内縁 外縁部・黄化物付付き	136	-	-	
643	-	包含層	深鉢	14群3期	口縁部 →胴部	(20)	-	普通	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒灰	-	黒文・口縁下に無文字	甲10群・内丸・内丸 外縁付付き	136	-	-	
644	CT16	包含層	深鉢	14群3期	口縁部 →胴部	-	-	普通	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒灰	-	黒文・口縁下に無文字	甲10群・内丸・内丸 外縁付付き	137	-	-	
645	包	包含層	深鉢	14群3期	口縁部 →胴部	-	-	不良	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	-	黒文・口縁下に無文字	甲10群・内丸・内丸 外縁付付き	137	-	-	
646	-	包含層	深鉢	14群4期	口縁部 →胴部	-	-	不良	明褐色	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	-	黄褐色	甲10群・把柄・内丸 内丸黄化物付付き	137	-	-	
647	包	包含層	深鉢	14群4期	口縁部 →胴部	-	-	普通	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	-	黄褐色	甲10群・把柄・内丸 付	137	-	-	
648	包	包含層	深鉢	14群6期	口縁部	-	-	普通	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒灰	-	口縁部を黒下下に沈濁で褐色 文と黄褐色	甲10群・把柄・黒 内丸	137	-	-	
649	CN18	包含層	深鉢	15群2期	胴部	-	-	不良	灰黄褐色	に濃い 黄褐色	黒灰	-	口縁部の平行沈濁部に濃い 黄褐色・胴下半部に黒文	内丸外縁付付き	137	-	-	
650	CP14	包含層	深鉢	15群2期	口縁部 →胴部	-	-	普通	浅黄褐色	浅黄褐色	灰白	-	口縁部の平行沈濁部に濃い 黄褐色・胴下半部に黒文	甲10群・把柄・内丸 付	137	-	-	
651	CS8	包含層	深鉢	15群2期	口縁部 →胴部	-	-	普通	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	-	口縁部の平行沈濁部に濃い 黄褐色	甲10群・内丸・内丸 外縁付付き	137	-	-	
652	一点	包含層	深鉢	15群2期	口縁部 →胴部	-	-	普通	橙	に濃い 黄褐色	灰褐色	-	口縁部の平行沈濁部に濃い 黄褐色・胴下半部に黒文	甲10群・内丸・内丸 外縁付付き	137	-	-	
653	EA6	深鉢	15群2期	口縁部 →胴部	-	-	普通	に濃い 黄褐色	灰 オリーブ	灰 オリーブ	-	口縁部の平行沈濁部に濃い 黄褐色・胴の5字状沈濁で5群・口 縁部と胴部の沈濁部に黄褐色文	甲10群・内丸・内丸 外縁付付き	137	-	-		
654	CS9	包含層	深鉢	15群2期	口縁部 →胴部	-	-	不良	浅黄褐色	に濃い 黄褐色	黒	内面に 黄褐色と 黄褐色	口縁部の平行沈濁部に濃い 黄褐色・胴下半部に黒文	黄褐色口縁・内丸・黒 内丸外縁付付き	137	-	-	
655	CT17	包含層	深鉢	15群4期	口縁部	-	-	不良	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒灰	-	口縁部の横位沈濁を伴う黄褐色 沈濁で黄褐色・胴下半部に黒文	甲10群・内丸・内丸 外縁付付き	138	-	-	
656	包	包含層	深鉢	15群4期	口縁部 →胴部	-	-	普通	に濃い 黄褐色	灰黄褐色	黒灰	-	口縁部に横位沈濁・胴下半部 に黒文	黄褐色口縁・内丸・口 縁部・一部の内丸に 赤褐色・内丸外縁 黄化物付付き	138	-	-	
657	包	包含層	深鉢	15群4期	口縁部 →胴部	-	-	普通	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒灰	-	口縁部の横位沈濁を伴う黄褐色 沈濁で黄褐色・胴下半部に黒文	黄褐色口縁・内丸・内 外縁付付き	138	-	-	
658	CP19	包含層	深鉢	15群5期	胴部	-	-	不良	橙	に濃い 黄褐色	黒	-	胴部に沈濁・胴下半部に黒文	内丸外縁付付き	138	-	-	
659	CP19	包含層	深鉢	15群5期	胴部	-	-	不良	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒灰	-	胴部に横位沈濁・胴下半部 に黒文	内丸付・内丸外縁 付付き	138	-	-	
660	CT15	包含層	深鉢	15群5期	口縁部	-	-	普通	灰 オリーブ	灰黄褐色	灰 オリーブ	-	口縁部に平行沈濁	甲10群・内丸・内丸 外縁付付き	138	-	-	
661	包	包含層	深鉢	16群2期	口縁部	-	-	普通	明褐色	灰黄褐色	黒灰	縦位・斜位	口縁部に黄褐色縦位による 黄褐色文	甲10群・内丸	138	-	-	
662	包	包含層	深鉢	17群2期	口縁部 →胴部	-	-	普通	に濃い 黄褐色	に濃い 黄褐色	黒灰	-	黒文	甲10群・内丸・内丸 外縁付付き	138	-	-	

第53表 縄文土器観察表 (15)

調査番号	地区遺構	層位	器種	分類	部位	口径 (cm, 柄内は推定)	底径	器高	構成	色調			形状・装束	文様	備考	図録番号		
										内面	外面	断面						
663	EA16	包	深鉢	17群3類	1口縁部一胴部	-	-	-	普通	にじい色 黄緑	灰黄緑	黒灰	-	縄文	平口縁・内湾・内折縁・底平坦	138	-	
664	包	包	深鉢	17群4類	1口縁部	-	-	-	不良	にじい色 橙	にじい色 橙	灰黒	-	灰黒による渦巻文等	平口縁・内湾・内折縁	138	-	
665	包	包	深鉢	18群1類	胴部一底部	-	14.8	-	普通	にじい赤褐	にじい赤褐	黒	-	赤	底面2群2類1口の胴代取巻・内湾縁・底平坦	138	-	
666	-	包	深鉢	18群1類	胴部一底部	-	(122)	-	普通	にじい赤褐	にじい赤褐	灰黄緑	-	縄文	底面2群2類1口の胴代取巻・内湾縁・底平坦	138	-	
667	EA15	包	深鉢	18群1類	胴部一底部	-	(16.0)	-	普通	にじい赤褐	にじい赤褐	黒灰	-	縄文	底面2群2類1口の胴代取巻・内湾縁・底平坦	139	-	
668	-	包	深鉢	18群1類	底部	-	15.8	-	普通	にじい赤褐	にじい赤褐	灰黄緑	-	-	底面2群2類1口の胴代取巻・外折縁	139	-	
669	-	包	深鉢	18群2類	底部	-	14.4	-	普通	にじい赤褐	にじい赤褐	黒灰	-	縄文	底面1群1類1口の胴代取巻・内湾縁・底平坦	139	-	
670	-	包	深鉢	18群2類	底部	-	(15.2)	-	普通	浅黄緑	にじい赤褐	黒灰	-	縄文	底面1群1類1口の胴代取巻	139	-	
671	一点	包	深鉢	18群4類	胴部一底部	-	12.0	-	普通	にじい赤褐	にじい赤褐	黒灰	-	縄文	底面すり折し・内湾縁・底平坦	139	-	
672	EA15	包	深鉢?	18群4類	底部	-	10.0	-	普通	にじい赤褐	にじい赤褐	黒	-	-	底面すり折し・外折縁	139	-	
673	CO18	包	深鉢	18群4類	底部	-	(15.0)	-	普通	灰青	にじい赤褐	黒灰	-	-	底面すり折し・外折縁・底平坦	139	-	
674	CT14	包	深鉢	18群4類	底部	-	9.5	-	普通	にじい赤褐	にじい赤褐	黒灰	-	-	底面すり折し・外折縁・底平坦	139	-	
675	CT15	包	深鉢	18群5類	底部	-	(14.2)	-	普通	灰黄緑	橙	灰黄緑	-	-	底面すり折し・外折縁・底平坦	139	-	
676	CO18	包	深鉢	18群7類	胴部一底部	-	(11.2)	-	普通	にじい赤褐	橙	黒灰	-	縄文	底面すり折し・外折縁・底平坦	140	-	
677	CS19	包	深鉢	18群7類	底部	-	(12.0)	-	普通	橙	橙	黒灰	-	縄文	底面すり折し・外折縁・底平坦	140	-	
678	Q616	包	深鉢	19群	1口縁部	-	-	-	不良	橙	にじい赤褐	-	内面緑青	-	1口縁部下に磨りによる平行線と渦巻文	140	-	
679	CT15	包	深鉢	19群	1口縁部	-	-	-	普通	にじい赤褐	にじい赤褐	黒灰	-	-	1口縁部下に底縁による平行線と渦巻文	140	-	
680	一点	包	深鉢	19群	1口縁部一胴部	-	-	-	普通	にじい赤褐	にじい赤褐	黒灰	-	-	1口縁部下に底縁による平行線・内湾縁・外折縁	140	-	
681	CT19	包	深鉢	19群	1口縁部	-	-	-	不良	灰黄緑	にじい赤褐	灰黄緑	-	-	1口縁部下に底縁による細い底縁	140	-	
682	CT18	包	深鉢	19群	1口縁部	-	-	-	普通	ナリツ赤	にじい赤褐	にじい赤褐	-	-	1口縁部下に平行底縁	140	-	
683	包	包	深鉢	19群	1口縁部一胴部	-	-	-	不良	橙	にじい赤褐	黒灰	-	-	1口縁部下に平行底縁・外折縁・底平坦	140	-	
684	CP16	包	浅鉢	20群1類	1口縁部	-	-	-	普通	にじい赤褐	にじい赤褐	黒灰	内面緑青	-	底面すり折し・外折縁・底平坦	140	-	
685	CP16	包	浅鉢	20群2類	1口縁部	-	-	-	不良	灰白	にじい赤褐	黒灰	-	-	1口縁部下に2本の磨りによる底縁	140	-	
686	CT14	包	浅鉢	20群4類	1口縁部	-	-	-	不良	ナリツ赤	黒	内面緑青	-	-	平口縁・外折縁・磨り	140	-	
687	CT15	包	浅鉢	20群4類	1口縁部	-	-	-	不良	にじい赤褐	にじい赤褐	黒灰	内面緑青	-	磨りによる底縁	140	-	
688	Q619	包	浅鉢	20群5類	1口縁部一胴部	-	-	-	不良	にじい赤褐	橙	黒灰	内面緑青	-	平口縁・外折縁・底面すり折し・外折縁・底平坦	140	-	
689	一点	包	浅鉢	20群5類	1口縁部	-	-	-	普通	黒灰	黒灰	黒灰	研ぎ・研ぎ	無文	平口縁・内湾・外折縁	140	-	
690	包	包	浅鉢	20群5類	1口縁部	-	-	-	普通	赤黒	赤黒	研ぎ・研ぎ	無文	-	底面すり折し・内湾縁・外折縁・底平坦	140	-	
691	CR19	包	浅鉢	20群6類	胴部一底部	-	(7.8)	-	不良	にじい赤褐	にじい赤褐	研ぎ・研ぎ	無文	-	底面すり折し・内湾縁・外折縁・底平坦	140	-	
692	包	包	浅鉢	20群6類	胴部一底部	-	(9.4)	-	普通	明赤黒	明赤黒	研ぎ・研ぎ	無文	-	底面すり折し・外折縁・底平坦	140	-	
693	EA15	包	罌付土器	22群1類	1口縁部一胴部	-	-	-	普通	黒灰	にじい赤褐	黒灰	-	無文	平口縁・外折縁・底面すり折し・内湾縁・外折縁・底平坦	140	-	
694	包	包	罌付土器	22群2類	1口縁部	-	-	-	不良	黒	灰黄	灰黄	研ぎ・研ぎ	磨りによる底縁	平口縁・外折縁・底面すり折し	140	-	
695	Q619	包	罌付土器	22群2類	1口縁部	-	-	-	不良	黒灰	灰黄	灰黄	研ぎ・研ぎ	磨りによる底縁	平口縁・外折縁・底面すり折し	140	-	
696	一点	包	罌付土器	22群4類	胴部一底部	-	-	-	不良	にじい赤褐	淡青	灰黄	-	-	つまみ虎斑	内湾縁	140	-
697	CT17	包	小形	23群5類	底部	-	9.9	-	普通	にじい赤褐	にじい赤褐	黒灰	-	縄文	底面すり折し・外折縁・底平坦	140	-	
698	CP16	包	土製品	25群2類	土製盤	-	-	-	普通	黒灰	にじい赤褐	黒灰	-	無文	内湾縁	141	-	
699	CS16	包	土製品	25群2類	土製盤	-	-	-	普通	橙	明赤黒	橙	-	無文	有孔	141	-	
700	CT16	包	土製品	25群3類	土製盤	-	-	-	普通	赤黒	赤黒	赤黒	内面にナリツとじい赤褐	無文	有孔・磨り・底面すり折し	141	-	

第54表 石器・石製品観察表(1)

発掘番号	地区・遺構	層位	器種	石材	成形加工	刃部属性(作業面属性)	所見	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	検出層	採集番号
27	SB1	Ⅲ上	石鏃	チャート	SP	SP/急角度	鋸歯状の端の付いた石鏃。先端は欠損。刃部の一部は割断面。	32.1	22.9	7.3	2.5	17	14
28	SB1	Ⅲ上	打製石斧	頁岩	HVD	MP・土づれ痕	刃部は階段状割断で土づれ痕となっている。	99.7	56	21.7	369.4	17	14
29	SB1	Ⅲ上	打製石斧	頁岩	HVD	欠損	刃部は垂直に折れているので、事故割断であろう。	96.4	63.6	18.7	116.3	17	14
30	SB1	Ⅲ上	打製石斧	砂岩	HVD	HD・潰れ	他刃部が折れ。左刃部は垂直打撃で加工。刃部は直線打撃で加工し、その先端は潰れている。	143.8	60.5	26.9	318.4	17	14
31	SB1	Ⅲ上	磨製石斧	砂岩	研削	欠損	欠損部は削り残し。おそらく事故割断であろう。	72.6	33.7	27.3	137.6	17	14
32	SB1	Ⅲ上	磨製石斧	砂岩	研削	MF	刃部の大きな割断面は刃部反対方向からの垂直打撃。これは鋭い刃こぼれ痕であろう。	114.7	53.8	26.1	229.8	17	14
33	SB1	Ⅲ上	磨製石斧	砂岩	研削	欠損	刃部の大きな割断面は刃部反対方向からの垂直打撃。これは鋭い刃こぼれ痕であろう。	117.3	52	27.1	250.3	17	14
34	SB1	Ⅲ上	横方形石鏃	砂岩	HVD	欠損	横断片の割断の開始部を垂直打撃で加工。刃部は大きく欠損している。	56.4	100.2	14.9	78.4	18	14
35	SB1	Ⅲ上	砥石	砂岩	なし	磨面	磨製石斧の砥石と鑑定される。表面が磨面となっている。	214	154.7	63.4	3122.7	18	14
36	SB1	Ⅲ上	砥石・敲石	砂岩	なし	磨面・敲打痕	大形磨材素材。鋭い磨面が表面側に残される。先端には敲打痕。	303.2	133.6	7.6	2639.3	18	14
37	SB1	Ⅲ上	砥石	花崗岩	なし	敲打痕	円筒素材。表面中央と表面やや手前に敲打痕。また先端にも敲打痕がある。	91.4	73.2	36.9	375.8	18	14
38	SB1	Ⅲ上	砥石	流紋岩	なし	敲打痕	先端りの楕円磨材素材。両端に敲打痕がみられる。石器製作のハンマーか。	117.7	44.9	32.5	230.1	18	14
39	SB1	Ⅲ上	長状燧石	燧石	-	-	-	25.7	13.9	13.7	65.0	18	-
43	SB2	Ⅲ上	打製石斧	砂岩	HVD	欠損	中部高地の中部にみられる典型的な打製石斧。刃部は欠損。	102.1	49.4	19.6	309.1	19	15
44	SB2	Ⅲ上	打製石斧	頁岩	HVD	土づれ痕	正面右側部の刃部と縁部に土づれ痕あり。	145.4	54.1	28.4	227.3	19	15
45	SB2	Ⅲ上	磨製石斧	砂岩	研削	研削	小形の磨製石斧。右縁部に接切痕が観察される。	40.7	17.5	8.7	11.5	19	15
46	SB2	Ⅲ上	磨製石斧	砂岩	研削	研削・使用痕	使用痕は光沢をとまとうたい線状痕。木灰灰床であろうか。要検証。	105.2	49.4	21.7	395.9	19	15
47	SB2	Ⅲ上	磨石	砂岩	なし	磨面	磨面に、赤色の付着物あり。焼熱材料による半化にはみられない。要分析。	108.9	72	4.2	507.1	19	15
48	SB2	Ⅲ上	石棒部未製品	燧石	-	-	細断段階	27.7	9.2	8.6	31.0	19	15
49	SB2	Ⅲ上	長状燧石	燧石	-	-	SD2床面直上で検出	27.4	10.8	7.9	28.0	19	-
52	P28	Ⅲ上	石鏃	下段石	SP・磨面	SP・磨面	径の広い工具の押打痕で、縁部をやや鋭角状に加工している。	31.2	17.3	5	1.6	23	-
57	SB26	Ⅲ上	石鏃	チャート	SP	SP	部分欠損の石鏃。押打痕は2.5ミリ。	18.3	14.4	3.2	0.6	23	16
58	SB26	Ⅲ上	磨製石斧	砂岩	研削	研削	大型の磨製石斧。刃部には小割断痕が観察されるが、身はほぼ直であるかは不明。	69.2	32.5	10.9	42.6	23	16
59	SB26	Ⅲ上	磨製石斧	砂岩	研削	欠損・潰れ	刃部は半分欠損。残った刃部には鋭い刃部に対して垂直にあてたつぶれ痕が観察される。	95.1	51	19.6	185.5	23	16
60	SB26	Ⅲ上	磨製石斧	砂岩	研削	つぶれ痕・MP	大型の磨製石斧。基部は敲打痕が観察される。刃部は両側面に割断。垂直打撃の使用痕か。	162.3	70.8	26.7	526.2	23	16
62	P26	Ⅲ上	磨製石斧	砂岩	研削	欠損	表面基部に敲打痕。	137.1	62.2	26.9	445.7	27	17
26	SB118	Ⅲ上	磨石	安山岩	敲打	なし	小形の磨材の磨石。	57	45.1	17.5	64.4	28	17
77	SB118	Ⅲ上	打製石斧	不明	HD	潰れ痕	刃部は垂直の潰れ。右刃の割断もあるか。	125.3	50.2	27.4	144.5	28	17
78	SB118	Ⅲ上	磨製石斧	砂岩	研削	欠損・潰れ	刃部は一度欠損しており、その後につぶれ痕が観察される。	113.8	59.8	25	347	28	17
79	SB118	Ⅲ上	磨製石斧	砂岩	研削	つぶれ痕・MP	大型の磨製石斧。刃部は表面側のみに大きな割断痕とその先端が潰れている。	139.8	62.6	25.3	280.9	28	17
80	SB118	Ⅲ上	磨製石斧	砂岩	研削	HD	刃部は両刃のために割断されている。表面と表面に打った鋭いハンマーの敲打痕がみられる。	154.8	66.1	27	331.9	28	17
81	SB118	Ⅲ上	磨石	安山岩	なし	なし	垂直打撃で割られた割片。先端部が鋭いので、使用痕跡の可能性もある。	39.4	75.4	9.4	22.6	28	-
104	SB119	Ⅲ上	石鏃	砂岩	なし	HD	大型の横断片を創製する石鏃。	275.4	191.6	135.9	800.0	33	-
105	SB119	Ⅲ上	打製石斧	流紋岩	HVD	差刃	縦長割片素材の打製石斧。刃部は差刃であり、一部欠損している。	113.9	60.2	18.4	110.9	34	19
106	SB119	Ⅲ上	打製石斧	頁岩	HVD	HD・土づれ痕	刃部は加工と鑑定され、そこに土づれ痕が覆っている。	147.1	58.1	15.9	136.2	34	19
107	SB119	Ⅲ上	打製石斧	頁岩	HVD	欠損	刃部は欠損といってもよいくらいの変形の刃こぼれ痕。表面側の刃部が割断にあっている。	129	65	27.7	304.3	34	19
108	SB119	Ⅲ上	磨製石斧	砂岩	研削	研削	表面は基部の一部を除いて磨削に表面変化している。焼熱資料か。	130.8	54.4	27.3	310	34	19
109	SB119	Ⅲ上	横方形石鏃	安山岩	HD	反HD	横断片素材。打割面に成形のために一般の割断面。刃部はHDで構成される。	89.3	101.8	18.6	175	34	19
110	SB119	Ⅲ上	磨石・砥石・杵石	砂岩	なし	HD・敲打痕	重量のある他刃部の端部に直線打撃で刃部を形成。反対の端部は叩石として使用。側面に敲打痕。	144.9	103.1	52.4	1096	34	19
111	SB119	Ⅲ上	砥石	砂岩	なし	研削	半欠状態のけつ状磨石。	40.3	31.6	8.1	122	34	19
120	SB120	Ⅲ上	打製石斧	頁岩	HVD	差刃	器体はやや「く」の字状に屈曲しており、磨削の可能性もある。	116.2	43.5	19.6	103.6	37	15
121	SB120	Ⅲ上	磨製石斧	砂岩	研削	研削	刃部に刃こぼれ痕がみられるが、使用によるものかは不明。	119.6	54.4	22.8	230.2	37	15
122	SB120	Ⅲ上	磨製石斧	砂岩	研削	欠損	両側面に研削面を切る割断痕がみられる。	98.9	44.6	18	109.7	37	15
123	SB120	Ⅲ上	砥石	砂岩	なし	敲打痕	円筒の縁部に敲打痕が観察される。	88.5	73.7	52.1	388.9	37	15
126	SB191	Ⅲ上	長状燧石	燧石	-	-	-	24	4.2	4	598.5	45	15

第55表 石器・石製品観察表(2)

調査番号	地区遺構	層位	器種	石材	成形加工	刃部属性(作業者属性)	所見	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	検出層	図説番号
131	SB194	埋土	磨製石斧	板状岩	研磨	MP・研磨	縦状直が明瞭に観察される磨製石斧。刃部はいったん角削したのが内磨製されている。	962	49.1	20	154.5	45	30
132	SB194	埋土	磨製石斧	硬砂岩	研磨	研磨	完成、よく研磨された磨製石斧。	1102	47	25.4	200.9	45	30
133	SB194	埋土	石核型未製品	流紋岩	-	-	制御段階	43.9	12	6.3	42.20	45	-
136	S2678	埋土	石核型自然石	流紋岩	-	-	重量 S2678 の最石であった。	33.1	12.8	9.3	47.20	49	-
138	SP881	埋土	磨製石斧	板状岩	HVD	なし	よく研磨された磨製石斧を素材に、楔形石斧として再利用された石斧。	92.2	44.1	21	156.4	49	21
138	SB384	床直	打製石斧	頁岩	HVD	欠損	製作途中で、裏面の右側面側から大きな割片が割がれてしまい、加工が完了した打製石斧。	97.8	43.2	17.1	68.9	51	21
139	SB384	床直	磨石	安山岩	なし	磨面	円筒の表面を使用して磨面が形成されている。	96.6	99.8	47.7	656.3	51	21
140	SB384	床直	磨製石斧	安山岩	なし	MP	垂直打撃で割られた割片。未磨面が鋭いので、使用段階での可動性もある。	34.5	80.2	8.1	22.1	52	21
161	SB384	埋土	磨製石斧	板状岩	研磨	MP	刃部先端は割れ、垂直方向の力で刃部が大きく磨製されている。刃部に差込のダメージをもつ磨製石斧。	192.5	84.8	29.2	808.2	52	21
162	SB384	埋土	楔形石斧	砂岩	なし	MP	磨面側の未磨面に刃こぼれ痕が付いている楔形石斧。	59.6	82.1	18.8	92.5	52	21
163	SB384	埋土	使用痕割片	チャート	なし	MP	両側面に刃こぼれ痕。打面は自然面打面。制御角120度。	50.7	38	13.2	18.9	52	21
164	SB384	埋土	両側割片	チャート	なし	なし	垂直打撃で割られた割片。背面側は磨製石斧から割がれた状態を示す。	31.9	23.0	3.2	3.5	52	-
189	SB410	床直	磨製石斧	板状岩	研磨	MP	垂直打撃の刃こぼれ痕が観察される磨製石斧。	97.4	46.6	18.3	149.2	56	23
190	SB410	下層	石核	チャート	なし	HVD	チャートの円筒を垂直打撃で制御している残核。両側打撃も併用している可能性がある。	64	40.3	31.4	62.9	58	24
191	SB410	下層	打製石斧未製品	安山岩	HD	刃部未形成	横長割片素材。磨面に傷が多く、二次的な重複状況と思われる。加工は少ない。	99	49.7	13.3	60.3	58	23
192	SB410	下層	磨製石斧	板状岩	研磨	研磨	よく研磨された磨製石斧。刃部は背面側に再磨加工の可能性が高い。	100.3	45.8	20.8	171.3	58	23
193	SB410	中層	石核	チャート	なし	HVD	チャートの分割面を素材にして、垂直打撃で割片を制御している石核。	55.6	45.4	33.7	95.8	58	24
194	SB410	中層	磨製石斧割片	板状岩	研磨	研磨	刃部割片。刃部先端に傷がみられるが、使用による損傷小形。	27.1	64.4	19	40.3	58	23
195	SB410	中層	部分磨製石斧	頁岩	HVD・研磨	HD	打製石斧の制御段階の高い部分を研磨で成形。刃部は一度削れたものが、再度加工している。	93	49.4	26.3	178.2	58	23
196	SB410	中層	磨製石斧	硬砂岩	研磨	欠損	正面基部より、小さな径のハンマーによる磨打痕がみられる。差込の固定のため。	131.6	66.8	28.1	438.1	58	23
197	SB410	中層	楔形石斧	砂岩	なし	HD	垂直打撃の磨面片を素材にして、未磨面を刃部にしている。正面の刃部側面は加工と磨製した。	41.8	85.3	11	40.2	58	24
198	SB410	中層	磨製石斧	安山岩	なし	磨打痕	磨面に磨打痕。この磨打痕は柔らかい対象物に対して形成される。理解しやすいうまうにトンンと割った。	157.3	84.3	32.6	894.4	58	24
199	SB410	中層	割片	頁岩	なし	なし	垂直打撃の横長割片。打製石斧の製作途中。	41.8	130	10.4	33.8	58	23
200	SB410	上層	楔形石斧	チャート	HVD	なし	割片素材の磨製石斧。	31.9	21	8	5	58	24
201	SB410	上層	磨石	砂岩	磨打	なし	磨石を製作途中。磨打痕が制御となって磨石の形をなすようになった物品。	79.2	42.2	21.9	88.8	58	24
240	SB456	床直	石核	下石石	SP	SP	やや扁平の形状で、縦向きに磨製されている。差込部は磨製加工ではない。	15.2	14.9	2.8	5	65	26
241	SB456	床直	磨石	砂岩	HD	なし	重量のある円筒の磨面を加工した石核。	115	93.9	43.9	623.6	65	-
242	SB456	床直	打製石斧未製品	流紋岩	HVD	刃部未形成	大形打製石斧の未製品。刃部は形成されていない。差込加工も差込で完了。磨面は磨製していない。	179.5	89.3	62.1	1230.1	65	26
243	SB456	床直	打製石斧未製品	輝緑岩	HVD	刃部未形成	大形打製石斧の未製品。刃部は形成されていない。	123.8	85.3	44.6	537.1	65	26
244	SB456	床直	磨製石斧	板状岩	研磨	MP	刃部は正面からの打撃で制御している。原因は不明。	86.7	49	18.1	134.7	65	26
245	SB456	床直	石皿	流紋岩	なし	磨面	三角形の輪郭をもつ石皿。自然の形状を活かして抜き出ししをもつ石皿としている。	289.1	200.8	84.7	3357.5	66	-
246	SB456	床直	両側割片	チャート	なし	なし	大形の磨製石斧から割がれた割片。未磨面の円筒面に差込部観察があるが、使用段階と推定できない。	45	25.3	8.3	8	66	26
247	SB456	下層	打製石斧	流紋岩	HVD	土づれ痕	基部の折れ痕は確認している。	108.4	44.6	20.9	127.9	66	-
248	SB456	下層	打製石斧	頁岩	HVD	HD	典型的な中部高形の打製石斧。	117.5	46.7	17.6	100.5	66	26
249	SB456	下層	磨製石斧	硬砂岩	研磨	研磨	器体の中央に磨打痕があり、磨石に転用している可能性がある。	44.3	61.3	35.5	60.4	66	26
250	SB456	下層	磨製石斧	板状岩	研磨	欠損	よく研磨された磨製石斧。	85.3	62.2	24.2	223.6	66	26
251	SB456	下層	磨石	砂岩	なし	磨打痕	円筒の表面側に磨打痕。	99.2	70.2	53.7	499.3	66	-
252	SB456	下層	割片	安山岩	なし	なし	磨面片。未磨面側の制御痕は、割片が割がれた落ちたときにできる制御痕。	41.9	88.4	10.7	42.9	66	-
253	SB456	上層	打製石斧	砂岩	HVD	差込	基部欠損。差方の打製石斧。	89.4	65.7	21.1	107.5	66	26
254	SB456	上層	磨製石斧	磨製石斧	研磨	MP	刃部は裏面からの打撃で制御されている。原因は不明。	119.5	35.5	23.2	288.9	66	26
361	SB472	埋土	打製石斧	カルネブルス	HVD	MP	磨面は垂直打撃で成形。刃部の制御はおそらく使用による刃こぼれ痕かと思われる。	107.2	38.2	10.1	52.1	69	22
362	SB472	埋土	打製石斧	砂岩	HVD	欠損	裏面に鉄分が付着している。	95.8	52.1	22.9	112.8	69	22
363	SB472	埋土	打製石斧	頁岩	HVD	差込	表面は加工なし。	102.8	50.3	19.5	94.1	69	22
364	SB472	埋土	打製石斧	流紋岩	HVD	MP	刃部は裏面に刃こぼれ痕がみられ、鋭い。	176.1	69.5	39.6	540.7	69	22
365	SB472	埋土	磨石	流紋岩	なし	磨打痕	円筒の一部に磨打痕。	95.2	84.3	54.5	596.5	69	22

第56表 石器・石製品観察表(3)

発掘 層位	地区 遺構	層位	器種	石材	成形加工	刃部属性 (作業面属性)	所見	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	種 別	国 産	推定 年代	
266	SB472	Ⅲ土	磨石	花崗岩	なし	不明	焼熱資料。磨石の可能性があるが、結論は不明。焼熱を受けているので資料化した。	1325	925	37.4	397.4	69	-	-	
267	SB472	Ⅲ土	削片	チャート	なし	なし	自然面から垂直打撃で削ぎられた削片。本遺跡の特徴的な割製法由来とされている。	393	281	8.2	9	69	22	-	
268	SB472	Ⅲ土	削片	チャート	なし	なし	ハードハンマーの直接打撃の削片。コーン痕は23.1ミリ。	28.4	22.3	5.6	3.6	69	22	-	
269	SB472	Ⅲ土	削片	安山岩	なし	なし	垂直打撃の縦長削片。本遺跡は縦割製である。	39.9	85.8	10.1	292	69	22	-	
280	SB1001	Ⅲ土	石鏝	チャート	SP	SP	楔状の削片をもつ石鏝。	187	136	6.7	1.3	75	-	-	
281	SB1001	Ⅲ土	磨石	砂岩	なし	磨打痕	表裏面に磨打痕。焼熱資料で、集打付着。	117.9	77.9	41.4	387.6	75	-	-	
292	SB1002	Ⅲ土	磨石	砂岩	磨打	割製痕	焼熱資料。刃部は裏面から割製されているが、裏面は不明。	170.4	73.2	30.6	623.3	78	28	-	
330	SB1004	Ⅲ土	石鏝	下呂石	SP	SP	やや幅広い押圧割製。231の押圧割製と同じ工具の割製である。	33.2	16.1	3.9	1.3	83	29	-	
311	SB1004	Ⅲ土	石鏝	チャート	なし	SP	縦長い四角削片(縦形石器の削片)を素材にして、先端に部分的に加工を施した石鏝。	35	11.5	7.3	1.8	83	29	-	
332	SB1004	Ⅲ土	縦形石鏝	チャート	HVD	なし	よく研磨された縦形石鏝。	27.6	8.8	5.3	1.7	83	29	-	
333	SB1004	Ⅲ土	打製石鏝	頁岩	HVD	上げれ痕	刃部は上向きが顕著。	77	51.5	23.8	98.4	83	29	-	
314	SB1004	Ⅲ土	磨石	花崗岩	磨打	磨打	定角式磨製石鏝。刃部はよく研磨されている。刃部欠損。	60.7	30.9	8.1	21.9	83	29	-	
335	SB1004	Ⅲ土	磨石	色砂岩	HD	HD	成形加工。刃部加工ともにHDの石鏝。	57.8	88.1	31	64.3	83	29	-	
336	SB1004	Ⅲ土	磨石	花崗岩	なし	磨打痕	塊状の先端に磨打痕がある。垂直打撃の磨石。磨打痕にテール状の付着物あり。	56.5	40.4	41.7	130.2	83	29	-	
337	SB1004	Ⅲ土	磨石	安山岩	なし	磨打痕・磨面	表面は顕著な磨面。側面に磨打痕。	114.3	94.4	58.1	899.7	83	29	-	
338	SB1004	Ⅲ土	特殊磨石	凝灰岩	なし	磨打痕・磨面	表裏の一部に磨面。右側面に磨打痕。磨面のように滑らかになっている。断面を示すためにトンネルを削った。	121.9	91.1	56.5	939.4	83	29	-	
339	SB1004	Ⅲ土	磨石	砂岩	なし	磨面	磨製石鏝の砥石と推定される。表面の一部が磨面となっている。	126.7	84.5	45.1	619.7	83	29	-	
336	SB1006	Ⅲ土	磨石	花崗岩	磨打	磨打・使用痕	よく研磨された磨製石鏝。刃部先端は鈍くならぬかになっている。	122.6	57.2	21.1	326.2	86	27	-	
328	SB1008	Ⅲ土	磨石	花崗岩	磨打	磨打	側面に割製痕。使用痕あり。刃部はよく研磨されており、部分的に垂直割製がみられる。	101.2	42.9	18.7	186	87	-	-	
340	SK1011	Ⅲ土	磨石	安山岩	なし	磨面	表面に顕著な磨面。	111.3	88.3	61.1	811.6	90	30	-	
341	SK1011	Ⅲ土	磨石	石核	砂岩	なし	磨打痕・HD	器体中に顕著な磨打痕。またハードハンマーの痕跡打撃による割製痕が形成される。	138.6	105.1	51.8	953.4	90	-	-
342	SF258	Ⅲ土	磨石	磨石	砂岩	なし	磨打痕・磨面	磨石として使用の前に、磨石として磨打痕が磨面を切る。裏面の割製面は自然磨面。	100.9	89	57.7	679.9	92	24	-
348	SK17	Ⅲ土	縦形石鏝	頁岩	なし	MF	素材は垂直打撃の縦長削片とみられるが、割製の端部が折れているので不明。	72.4	94.8	14.9	118.6	96	-	-	
326	SK134	Ⅲ土	石鏝	安山岩	磨打	磨面・磨打痕	大形の石鏝。磨打によって抜き出しはよく研磨を形成している。機軸面の一部は磨面となっている。	428.8	205.6	112.1	1600.0	100	-	-	
386	SK361	Ⅲ土	磨石	砂岩	なし	磨面	磨製石鏝を磨製する砥石。破損しているが、事故面から断面的な面が不明。焼熱資料。	118.4	115.6	38.7	521.6	101	-	-	
387	SK402	Ⅲ土	石鏝	下呂石	SP	刃部未形成	打面の折れた小形の削片を素材に、部分的に押圧割製がなされている。	14.9	14.7	3.6	0.7	101	-	-	
388	SK402	Ⅲ土	石核	砂岩	なし	HD	大形の磨石を磨製する石核。	260.5	192.2	87.3	4858.4	101	-	-	
389	SK402	Ⅲ土	磨石	砂岩	なし	割製痕	マゴゴ状の機内角が素材。右側面の機内角が刃部であろうか。裏面に2枚の割製痕が打付く。	157.8	56.2	32.3	400.7	101	-	-	
390	SK007	Ⅲ土	大型石核	凝灰岩	-	-	割製片	13.1	13.4	10.7	340.0	102	34	-	
396	SK007	Ⅲ土	大型石核	凝灰岩	-	-	割下半部	53	15.7	13.2	160.0	102	34	-	
394	SK608	Ⅲ土	石核	チャート	なし	HD	分節線素材。正面石の割製面が平直。	75.4	54.5	32.9	131.5	103	-	-	
396	SK608	Ⅲ土	磨石	安山岩	なし	磨打痕・磨面	表面の一部に磨面が残る。石材の風化のために磨面が剥離したと思われる。側面と表面に深い磨打痕。	106.8	92.2	53.6	357.6	103	-	-	
402	SK664	Ⅲ土	砥石	石核	砂岩	なし	磨面・HD	大形の磨石。砥石として使用の後に、機軸片を磨製する砥石となっている。	257	212.6	61.8	4718.7	105	-	-
406	SK675	Ⅲ土	打製石鏝	頁岩	反HD	裏刃	刃部は湾曲して縁状。	100.4	58.1	22.6	136.2	105	-	-	
406	SK675	Ⅲ土	磨石	砂岩	なし	割製痕・磨打痕	両面の割製面は、垂直打撃による割製痕とみられる。右側面下部にも打撃痕。右側製作のハンマーか。	150.8	57	36.6	428.8	105	-	-	
407	SK675	Ⅲ土	石鏝	下呂石	-	-	割製設備	30.5	10.6	8	180.0	105	-	-	
411	SK209	Ⅲ土	打製石鏝	凝灰岩	HVD	裏刃	表面は深凹は磨打痕。刃部は鋭い。	126.2	71.9	34.9	410.6	108	-	-	
414	SK215	Ⅲ土	打製石鏝	安山岩	HVD	HD・上げれ	小形の打製石鏝。先端は尖り、刃部側面は滑らか。	102.6	45.8	23.2	144.2	108	-	-	
415	SK215	Ⅲ土	磨石	磨石	なし	磨打痕・磨面	表面に顕著な磨面。裏面、側面と側面に磨打痕。裏面の磨打痕は磨面を切っている。	161.8	78.9	51.9	1018.5	108	-	-	
416	SK217	Ⅲ土	磨石	花崗岩	磨打	欠損	よく研磨された磨製石鏝。	78.3	55.1	21.3	173	108	-	-	
419	SK252	Ⅲ土	割製設備	凝灰岩	-	-	割製設備	21.2	9	6.7	180.0	112	-	-	
420	SK709	Ⅲ土	石鏝	下呂石	-	-	割製設備	29.6	11.6	8.8	494.0	112	34	-	
425	SK48	Ⅲ土	石鏝	安山岩	磨打	磨面	安山岩をくりぬいて作られた石鏝。機軸面の一部は滑らかな面となっている。	203.6	222.6	78.7	3599.2	113	-	-	
431	SK324	Ⅲ土	石鏝	下呂石	SP	刃部未形成	表面左側に押圧割製がみられる。径の大きな工具。矢張り割製である。	17.5	13.8	3.3	0.7	113	-	-	
432	SK324	Ⅲ土	打製石鏝	砂岩	HVD	裏刃	機軸片を素材にして、素材のくりぬかれた部分に加工を施した打製石鏝。	102.3	50.4	15.3	69.4	113	-	-	

第57表 石器・石製品観察表(4)

調査番号	地区遺構	層位	器種	石材	成形加工 (作業面属性)	刃部属性 (作業面属性)	所見	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	検出 層	図記 番号
438	SK206	Ⅲ土	石皿・石杖	黒炭岩	なし	磨面・HD	中央に窪みをもつ石皿。側面は磨面となっている。左側辺の割縁はおそらく磨面を創製している。	2428	2359	563	44587	114	-
439	SK347	Ⅲ土	磨石石籠	砂岩	HD	素芳	磨石の割片が素材。縦面を挟みの石籠法に加工して、右側辺に加工で組みを形成している。	1171	516	129	71	114	-
440	SK347	Ⅲ土	磨石	燧石	チャート	なし	磨石の割片が素材。縦面を挟みの石籠法に加工して、右側辺に加工で組みを形成している。前面三角形の中央部素材。端部は磨石と割縁で構成される。	879	621	47	294.4	114	-
441	SK373	Ⅲ土	磨石石籠	チャート	HVD	なし	大形の磨石石籠から割かれた割片を素材に、さらに上下に両側打撃を施した磨石石籠。	433	242	11	10.3	114	-
445	SK441	Ⅲ土	打撃石斧	砂岩	HVD	土づけ痕	刃部に土づけ痕が顕著。	121	705	35.1	276.2	115	-
446	SK441	Ⅲ土	磨石石斧	板状岩	磨面	磨面	表面に素材の主要割縁が部分的に残っている。	138.8	54.4	22.3	296.3	115	-
451	SK492	Ⅲ土	磨石	燧石	-	-	-	137	5.2	5.1	538.5	115	-
456	SK651	Ⅲ土	石皿	安山岩	敲打	磨面・敲打痕	大形の石皿。敲打によって縁き出しをもつ窪みを形成している。側面の一部は磨面となっている。	354.6	223.5	112.3	13000	116	-
468	SU328	Ⅲ土	石皿	安山岩	敲打	磨面・敲打痕	大形の石皿。敲打によって縁き出しをもつ窪みを形成している。側面の一部は磨面となっている。	399.4	273.4	116.4	14000	118	-
519	SK280	Ⅲ土層	石籠	下石石	SP	SP	小形の石籠。	169	144	2.6	0.4	125	-
520	SK280	Ⅲ土層	石籠	下石石	SP	SP	細い径のハンマーの押圧割縁。	30.3	33.3	2.6	0.5	125	-
521	SK280	Ⅲ土層	石籠	チャート	SP	SP	小形の石籠。	155	122	2.8	0.4	125	-
522	SK280	Ⅲ土層	磨石	砂岩	明石	素芳・MF	刃部に窪みか方こぼれ痕が付く。素材の未端辺は叩削で成形されている。	127.5	79.9	24.4	264.1	125	-
523	SK280	Ⅲ土層	石杖ブランク	チャート	HVD	なし	垂直打撃で分割された石杖ブランク。ブランクは加工された素材のこと。	49.6	47.3	30.6	90.4	125	-
524	SK280	Ⅲ土層	打撃石斧	頁岩	HVD	HD	刃部部分欠損。典型的な中部高地の打撃石斧。	107.6	48.3	19.2	109.6	125	-
525	SK280	Ⅲ土層	打撃石斧	砂岩	HVD	素芳・MF	刃部にわずかな方こぼれ痕。刃部は鋭い。	152	59.7	30.2	226.6	125	-
526	SK280	Ⅲ土層	大型石棒	燧石	-	-	側下平部	47.1	123	8.5	6120	136	34
527	SK280	Ⅲ土層	石籠	下石石	SP	SP	空形。	291	144	5.2	1.1	125	-
528	SK280	Ⅲ土層	石杖	砂岩	なし	HD	磨面を創製する石杖。	123.3	133.8	54.8	1261.9	125	-
529	SK280	Ⅲ土層	打撃石斧	頁岩	HVD	HD・土づけ痕	刃部に土づけ痕が顕著。	131.7	39	26.1	235.9	125	-
530	SK280	Ⅲ土層	磨石	燧石	なし	敲打痕	円盤の表裏面に敲打痕。	122.1	78.5	44.2	573.3	125	-
531	SK280	Ⅲ土層	磨石	砂岩	なし	不明	磨石の可能性のある種。狭い磨面は確認できない。	127.7	77.4	38.8	538.6	125	-
572	SK471	Ⅲ土層	磨石石籠	砂岩	HD	なし	大形の磨石石籠。	163.3	91	33.2	596.7	131	-
573	SK471	Ⅲ土層	磨石	砂岩	なし	敲打痕	棒状磨石の先端に敲打痕がある。垂直打撃の明石	62.8	47	30	114.2	131	-
574	SK471	Ⅲ土層	磨石石斧	板状岩	磨面	欠損	磨面に敲打痕が観察される。刃部欠損に類似し磨石として転用された可能性もある。	75.6	47	18.5	79.5	131	-
575	SK471	Ⅲ土層	磨石石斧	板状岩	磨面	欠損	正面左側辺の割縁面は加工であるのか不明。	97.5	45.3	22.5	190	131	-
576	SK471	Ⅲ土層	磨石石斧	板状岩	磨面	磨面	よく磨製された磨石石斧。	76.9	46.2	17.4	108.9	131	-
577	SK471	Ⅲ土層	磨石石斧	板状岩	磨面	磨面	よく磨製された磨石石斧。	99	44.1	21.3	173.8	131	-
578	SK471	Ⅲ土層	磨石石斧	板状岩	磨面	欠損	よく磨製された磨石石斧。	128.8	65.7	24.2	354.9	131	-
579	SK471	Ⅲ土層	磨石石斧	板状岩	磨面	磨面	刃部は極度に磨かれている。	113.4	64.2	22.9	352.7	131	-
580	SK471	Ⅲ土層	石皿	安山岩	なし	磨面	皿状の石皿。磨面は磨面。	254.9	263.6	79.5	7000	131	-
581	SK471	Ⅲ土層	磨石石斧	板状岩	磨面	磨面	刃部は再生しており、刃角が鋭角になっている。	100.1	51.4	21.8	212.8	132	-
582	SK471	Ⅲ土層	石皿	砂岩	敲打・磨面	磨面	手のひらサイズの磨石を敲打でくぼませてつくった小形の石皿。裏面石籠法同様に両側打撃のために磨面。	105.7	69.6	5.8	200.6	132	-
701	Ⅲ土層	包含層	石籠	下石石	SP/磨面	SP/磨面	表面は顕微鏡の加工を施している。	187	11.3	3.3	0.5	141	-
702	Ⅲ土層	包含層	石籠	燧石	SP	SP	割縁割片。	10	10.2	2.1	0.2	141	-
703	Ⅲ土層	包含層	石籠	下石石	SP	SP	割縁が大きく開く形態。	15.2	12.7	2.9	0.5	141	-
704	Ⅲ土層	包含層	石籠	下石石	SP	SP	細い径のハンマーの押圧割縁。	27.7	15.7	2.5	0.7	141	-
705	Ⅲ土層	包含層	石籠	チャート	SP	SP	やや急角度の押圧割縁で、割縁面は37ミリの径。	28.2	18.2	5	1.7	141	-
706	Ⅲ土層	包含層	石籠	下石石	SP	SP	空形の石籠。押圧割縁は細いハンマーで、押圧印は1ミリでコンタクト。	20	12.1	2.8	0.4	141	-
707	Ⅲ土層	包含層	石籠	燧石	SP	SP	透明な燧石の石籠。	17.2	15.2	4.1	0.7	142	-
708	Ⅲ土層	包含層	有蓋籠	チャート	SP	SP	小形の有蓋籠。後期中葉以降に出現するので、中期の文化層とは異なる石籠。	22.4	12.6	4.9	1	142	-
709	Ⅲ土層	包含層	石籠	砂岩	HD	なし	円盤素材。下縁部は挟れないので、未製籠か。	35.4	55.5	23.9	90.7	142	-
710	Ⅲ土層	包含層	打撃石斧	板状岩	HVD	HD・土づけ痕	刃部に土づけ痕が顕著。	142.1	71.3	24.2	289.8	142	-
711	Ⅲ土層	包含層	打撃石斧	頁岩	HD	HD	刃部縁辺は鋭い。	151.4	57.3	27.4	209.7	142	-
712	Ⅲ土層	包含層	磨石石斧	板状岩	磨面	磨面	直角式磨石石斧。表面はよく磨製されている。	51.1	29.6	9.3	21.4	143	-
713	Ⅲ土層	包含層	磨石石斧	板状岩	磨面・HD	磨面	直角式磨石石斧。表面は成形のための割縁面が残存している。	70.8	27.1	10.5	33.4	143	-
714	Ⅲ土層	包含層	磨石・磨石	砂岩	なし	敲打痕・磨面	磨石として使用の後に磨石として使用されている。裏面の敲打痕の周囲に赤色付着物あり。	96.3	83.7	46.3	530.1	143	-
715	表土(Ⅲ土)	土壌改良土	石棒類未製籠	燧石	-	-	研削段階	116.6	17.4	16.2	5000	141	34

第58表 石器・石製品観察表(5)

発掘 番号	地区 遺構	層位	器種	石材	成形加工	刃部属性 (作業面属性)	所見	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	種 別	図 録 番号
716	表土 (包)	土地 改良土	石棒型未製品	燧石	-	-	鋸打段階	72.6	17.8	15	2500	142	34
717	CQ17 (包)	土地 改良土	石棒型未製品	燧石	-	-	鋸打段階	37.8	16.1	15.2	1240	143	34
718	包	土地 改良土	石棒型未製品	燧石	-	-	鋸打段階	21.2	7.2	5.7	1340	144	34
719	-	土地 改良土	石棒型未製品	燧石	-	-	鋸打段階	25.4	15.3	12.8	5800	145	34
720	CP18 (包)	土地 改良土	石棒型未製品	燧石	-	-	割離段階	41.1	12.9	9.5	6340	144	-
721	表土 (包)	土地 改良土	長尺割離自然石	燧石	-	-	-	57.2	20.5	11.1	854.4	144	-
722	表土 (包)	土地 改良土	長尺割離自然石	燧石	-	-	-	84.6	22.4	18.1	4800	146	-
723	包	包含層	使用面割片	玉髄	なし	MF	垂直打撃の割片。刃部は正面右側辺り。コーンタイプと曲ブレイクの割離面が付く。	25.4	10.7	3.5	1.1	145	-
724	包	包含層	両面割片	チャート	なし	なし	楔形石器から割離された割片。	29.5	16.8	9.8	3.1	145	-
725	包	包含層	加工面	安山岩	なし	割離面	片端の端部に割離面が形成されている。加工の痕跡は不明。	119.7	97.2	43.3	682.1	145	-
726	SK204	雑土	使用面割片	縦貫頁岩	なし	MF	打面がズリ、傷の多い割片。左側面は曲りの割離の刃こぼれ痕。	102.6	30.1	20.5	33.5	146	-
727	SK211	雑土	石棒型未製品	燧石	-	-	割離段階	35	8.8	9.8	4280	146	-

## 第4章 自然科学分析

### 第1節 木製品等の樹種同定

#### 1 試料

鳥遺跡では、柱穴跡 SP145 から木柱根 (347) が出土した。今回の調査において唯一使用されたと考えられるものである。また、土坑 B 類 SK218 から加工木片 1 点 (417)、木片 1 点が出土した。宮川町内での木材利用を検討するため、試料を 3 点とし、樹種同定を行った。年代測定を実施した柱穴跡 SP145 の木柱根 347 を試料 1、土坑 B 類 SK218 の加工木片 417 を試料 2、及び木片を試料 3 とした。分析は、辻本裕也・高橋敦・齊藤紀行・金井慎司 (パリオ・サーヴェイ株式会社) が担当した。

#### 2 分析方法

それぞれの試料から、剃刀の刃を用いて木口 (横断面)・柀目 (放射断面)・板目 (接線断面) の 3 断面の徒手切片を採取した。切片をガム・クロラール (抱水クロラール・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液) で封入し、プレパラートを作製する。生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴については、島地・伊東 (1982) や Wheeler 他 (1998) を、日本産木材の組織配列については、林 (1991) や伊東 (1995, 1996, 1997, 1998, 1999) を参考にする。

#### 3 結果

試料 1 はクリ、試料 2・3 はトチノキに同定された (第 59 表)。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

##### (1) クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)

ブナ科クリ属である。環孔材で、孔圏部は 3～4 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15 細胞高である。現在の飛騨市でも山林に自生が多く、建築物にも多く使用される。

##### (2) トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume)

トチノキ科トチノキ属である。散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または 2～3 個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1～15 細胞高で階層状に配列する。現在の飛騨市内の山林においても自生が認められる。種子の利用は近年まで行われていたが、現在ではあまり行われていない。

第 59 表 樹種同定結果一覧表

試料 No.	遺物 No.	遺構名	層位	器種	樹種	備考
1	347	SP145	埋土	木柱根	クリ	年代測定実施
2	417	SK218	埋土	加工材	トチノキ	年代測定実施
3	-	SK218	埋土	木片	トチノキ	-

#### 4 考察

柱穴跡 SP145 の木柱根 347 の樹種（試料 1）は、落葉広葉樹のクリであった。クリは、辺材は柔らかいが心材は重硬で強度・耐朽性が高く、割裂性は高いが加工は困難な部類に入る。この材質から、加工性よりも強度や耐朽性からクリ材が柱材に選択・利用されたことが推定される。飛騨市内では宮川町西忍に所在する宮ノ前遺跡において、縄文時代中期のクリ堅果並びに縄文時代中期末のクリ製構造部材が出土し、縄文時代中期の建築材として一般的であると認識している（宮川村教育委員会 1998）。今回の木柱根の樹種がクリ材であったことから、同様の認識を持つことができる。

また、土坑 B 類 SK218 から出土した木片 2 点（試料 2・3）の樹種はともに落葉広葉樹のトチノキであった。トチノキは、加工は容易であるが、強度や耐朽性は低いことから、加工性等から選択された可能性がある。特に 417（試料 2）には一部加工痕が認められ、今後の利用を考えて水漬けにし、土坑 B 類 SK218 に埋めていた可能性がある。トチノキの利用として、飛騨市内では宮ノ前遺跡で縄文時代早期の堆積物から幼種子と越冬芽を、中期の湧水ポットから種子・幼種子・幼果・外果皮片を検出しており、食用での利用を確認していた。今回は材木として使用された可能性も考えられるため、当該期の木材利用を知る上で重要な知見を得ることができた。



写真 5 試料 1: SP145 出土木柱根 347



写真 6 試料 2: SK158 出土木片 417

## 第 2 節 出土木材・種実の放射性炭素年代測定

### 1 試料

高遺跡では、弧状に連なる堅穴建物跡群の南側に貯蔵穴と考えられる土坑 B 類群を検出している。今回の分析調査では、遺構から出土した木材や種実遺体を対象として、遺構の構築年代確認のために放射性炭素年代測定を実施する。

試料は、グリッド A-18C において第 IV 層地山より下層の堆積物から出土したオニグルミ 1 点（試料 1）、柱穴跡 SP145 から出土した木柱根（試料 2）、土坑 B 類 SK158 から出土したオニグルミ 2 点（試料 3・4）、土坑 B 類 SK215 から出土したオニグルミ 2 点（試料 5・6）、土坑 B 類 SK218 から出土した加工痕のある木片 1 点（試料 7）、土坑 B 類 SK219 から出土したオニグルミ 1 点（試料 8）である。分析は、辻本裕也・高橋敦・斉藤紀行・金井慎司（バリノ・サーヴェイ株式会社）が担当した。

## 2 分析方法

オニグルミは、グリッド A-C18 から 23 点、SK158 から 3 点、SK215 から 30 点、SK219 から 44 点と、いずれの地点も複数個体出土している。その中から状態の良い個体を選択した。土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後、酸・アルカリ・酸処理を行う。HCl により炭酸塩等酸可溶成分を除去し、次に NaOH により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去し、最後に HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う。

試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅 (II) と銀箔 (硫化物を除去するため) を加えて、管内を真空にして封じきり、500°C (30 分) 850°C (2 時間) で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO<sub>2</sub> を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO<sub>2</sub> と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650°C で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1 mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着して測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局 (NIST) から提供されるシュウ酸 (HOX-II) とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に 13C/12C の測定も行うため、この値を用いて  $\delta^{13}C$  を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma; 68%) に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

暦年較正とは、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出した年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、及び半減期の違い (14C の半減期 5730 ± 40 年) を較正することである。暦年較正に関しては、本来 10 年単位で表すが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1 年単位で表す。いずれも植物遺体を対象としていることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。暦年較正は、測定誤差  $\sigma$ 、 $2\sigma$  双方の値を計算する。 $\sigma$  は統計的に真の値が 68% の確率で存在する範囲、 $2\sigma$  は真の値が 95% の確率で存在する範囲である。また表中の相対比とは、 $\sigma$ 、 $2\sigma$  の範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

## 3 結果

同位体効果の補正年代値は、試料 1 が 4,100 ± 30 年前、試料 2 が 4,060 ± 30 年前、試料 3 が 4,070 ± 30 年前、試料 4 が 3,970 ± 30 年前、試料 5 が 4,160 ± 30 年前、試料 6 が 4,020 ± 30 年前、試料 7 が 3,780 ± 30 年前、試料 8 が 4,110 ± 30 年前であった (第 60 表)。暦年較正年代は、試料 1 が calBC2,863 ~ 2,500、試料 2 が calBC2,850 ~ 2,487、試料 3 が calBC2,855 ~ 2,491、試料 4 が cal2,574 ~ 2,349、試料 5 が 2,881 ~ 2,629、試料 6 が 2,575 ~ 2,471、試料 7 が 2,297 ~ 2,050、試料 8 が 2,865 ~ 2,576 を示す (第 162 図、第 61 表)。これらの年代値は、谷口による縄文時代遺跡の年代測定値集成に基づく、縄文時代中期後半~後期前半の年代を示していることになる (谷口 2001)。

## 4 考察

富山県小矢部市に所在する桜町遺跡では、串田新Ⅱ期及び前田・岩崎野式期の年代測定を行っている。串田新Ⅱ式期は $4,330 \pm 30$ 年前及び $4,150 \pm 30$ 年前の年代が示されており、前田・岩崎野式期では $3,960 \pm 30$ 年前の結果を得ている(小林2008)。

高遺跡は縄文時代中期中葉から後期初頭にかけての集落跡と考えられる。得られた年代は試料5の $4,160 \pm 30$ 年前から、試料7の $3,780 \pm 30$ 年前の範囲におさまる。これは桜町遺跡で得られているそれぞれの型式の年代と一致しており、このため試料が示す年代に遺跡が構築されたと考えられる。

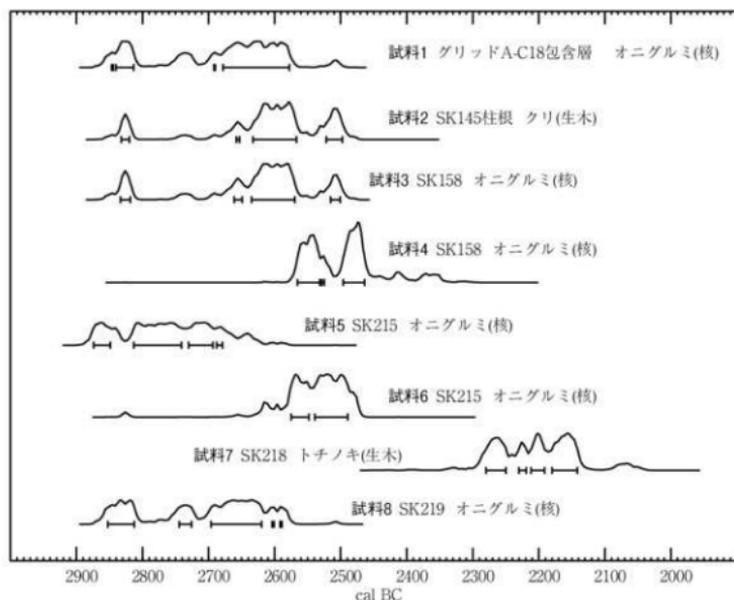
第60表 放射性炭素年代測定結果一覧表

試料 No.	遺構	層位	遺物 No.	遺物取り上げ番号	器種等	試料の質	種類	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代 BP	Code No.
1	-	庭上層	-	3284	-	検定遺体	オニグルミ(核)	$4,100 \text{ A} \pm 30$	$-26.79 \text{ A} \pm 0.37$	$4,130 \text{ A} \pm 30$	IAAA-90410
2	SP145	埋土	347	4462	木柱根	生木	クリ	$4,060 \text{ A} \pm 30$	$-28.44 \text{ A} \pm 0.45$	$4,120 \text{ A} \pm 30$	IAAA-90411
3	SK158	埋土	-	3386	-	検定遺体	オニグルミ(核)	$4,070 \text{ A} \pm 30$	$-30.71 \text{ A} \pm 0.49$	$4,170 \text{ A} \pm 30$	IAAA-90412
4	SK158	埋土	-	3377	-	検定遺体	オニグルミ(核)	$3,970 \text{ A} \pm 30$	$-29.85 \text{ A} \pm 0.59$	$4,050 \text{ A} \pm 30$	IAAA-90413
5	SK215	埋土	-	4845	-	検定遺体	オニグルミ(核)	$4,160 \text{ A} \pm 40$	$-26.67 \text{ A} \pm 0.64$	$4,190 \text{ A} \pm 30$	IAAA-90414
6	SK215	埋土	-	4704	-	検定遺体	オニグルミ(核)	$4,020 \text{ A} \pm 30$	$-28.48 \text{ A} \pm 0.38$	$4,080 \text{ A} \pm 30$	IAAA-90415
7	SK218	埋土	417	4987	加工材	生木	トチノキ	$3,780 \text{ A} \pm 30$	$-26.41 \text{ A} \pm 0.53$	$3,800 \text{ A} \pm 30$	IAAA-90416
8	SK219	埋土	-	4636	-	検定遺体	オニグルミ(核)	$4,110 \text{ A} \pm 30$	$-29.50 \text{ A} \pm 0.50$	$4,190 \text{ A} \pm 30$	IAAA-90417

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。



第162図 暦年較正結果グラフ

第61表 暦年校正結果一覧表

試料 No.	遺構	遺物取り上げ番号	補正年代 (BP)	暦年校正年代 (cal)						相対比	Code No.								
				$\sigma$	cal BC	BC	cal BC	BC	cal BP			BP							
1	グリッド A・C18	3284	4098 $\pm$ 32	$\sigma$	cal BC	2847	-	cal BC	2844	cal BP	4796	-	4.793	IAAA-90410					
					cal BC	2840	-	cal BC	2813	cal BP	4789	-	4.762						
				cal BC	2692	-	cal BC	2690	cal BP	4641	-	4.639	0.010						
				cal BC	2678	-	cal BC	2578	cal BP	4627	-	4.527							
				$2\sigma$	cal BC	2863	-	cal BC	2806	cal BP	4812	-	4.766		0.124				
					cal BC	2759	-	cal BC	2717	cal BP	4708	-	4.666						
2	SP145	4462	4064 $\pm$ 32	$\sigma$	cal BC	2658	-	cal BC	2653	cal BP	4607	-	5.602	IAAA-90411					
					cal BC	2633	-	cal BC	2567	cal BP	4582	-	4.516						
				cal BC	2522	-	cal BC	2497	cal BP	4471	-	4.446	0.204						
				cal BC	2850	-	cal BC	2813	cal BP	4799	-	4.762							
				$2\sigma$	cal BC	2742	-	cal BC	2730	cal BP	4691	-	4.679		0.013				
					cal BC	2694	-	cal BC	2687	cal BP	4643	-	4.636						
3	SK158	3386	4072 $\pm$ 31	$\sigma$	cal BC	2635	-	cal BC	2569	cal BP	4584	-	4.518	IAAA-90412					
					cal BC	2515	-	cal BC	2501	cal BP	4464	-	4.450						
				$2\sigma$	cal BC	2833	-	cal BC	2818	cal BP	4782	-	4.767		0.120				
					cal BC	2661	-	cal BC	2649	cal BP	4610	-	4.598						
				4	SK158	3377	3968 $\pm$ 33	$\sigma$	cal BC	2635	-	cal BC	2569		cal BP	4584	-	4.518	IAAA-90413
									cal BC	2515	-	cal BC	2501		cal BP	4464	-	4.450	
$2\sigma$	cal BC	2855	-					cal BC	2812	cal BP	4804	-	4.761	0.138					
	cal BC	2747	-					cal BC	2725	cal BP	4696	-	4.674						
5	SK215	4845	4164 $\pm$ 35					$\sigma$	cal BC	2565	-	cal BC	2531	cal BP	4514	-	4.480	IAAA-90414	
									cal BC	2529	-	cal BC	2525	cal BP	4478	-	4.474		
				cal BC	2496	-	cal BC	2464	cal BP	4445	-	4.413	0.520						
				cal BC	2574	-	cal BC	2434	cal BP	4523	-	4.383							
				$2\sigma$	cal BC	2422	-	cal BC	2403	cal BP	4371	-	4.352	0.037					
					cal BC	2379	-	cal BC	2349	cal BP	4328	-	4.298						
6	SK215	4704	4023 $\pm$ 32	$\sigma$	cal BC	2874	-	cal BC	2849	cal BP	4823	-	4.798	IAAA-90415					
					cal BC	2813	-	cal BC	2741	cal BP	4762	-	4.680						
				cal BC	2730	-	cal BC	2693	cal BP	4679	-	4.642	0.282						
				cal BC	2688	-	cal BC	2679	cal BP	4657	-	4.628							
				$2\sigma$	cal BC	2881	-	cal BC	2831	cal BP	4830	-	4.780		0.204				
					cal BC	2822	-	cal BC	2629	cal BP	4771	-	4.578						
7	SK215	4704	4023 $\pm$ 32	$\sigma$	cal BC	2575	-	cal BC	2548	cal BP	4524	-	4.497	IAAA-90415					
					cal BC	2539	-	cal BC	2489	cal BP	4488	-	4.438						
				$2\sigma$	cal BC	2620	-	cal BC	2471	cal BP	4569	-	4.420		1.000				
					cal BC	2280	-	cal BC	2250	cal BP	4229	-	4.199						
				8	SK218	4987	3779 $\pm$ 32	$\sigma$	cal BC	2220	-	cal BC	2219		cal BP	4179	-	4.168	IAAA-90416
									cal BC	2212	-	cal BC	2191		cal BP	4161	-	4.140	
cal BC	2180	-	cal BC					2142	cal BP	4129	-	4.091	0.409						
cal BC	2297	-	cal BC					2130	cal BP	4246	-	4.079							
$2\sigma$	cal BC	2086	-					cal BC	2050	cal BP	4035	-	3.999	0.046					
	cal BC	2853	-					cal BC	2812	cal BP	4802	-	4.761						
9	SK219	4636	4113 $\pm$ 30	$\sigma$	cal BC	2744	-	cal BC	2736	cal BP	4693	-	4.675	IAAA-90417					
					cal BC	2696	-	cal BC	2630	cal BP	4645	-	4.569						
				cal BC	2604	-	cal BC	2601	cal BP	4553	-	4.550	0.017						
				cal BC	2592	-	cal BC	2589	cal BP	4541	-	4.538							
				$2\sigma$	cal BC	2865	-	cal BC	2804	cal BP	4814	-	4.753		0.256				
					cal BC	2774	-	cal BC	2770	cal BP	4723	-	4.719						
$2\sigma$	cal BC	2761	-	cal BC	2576	cal BP	4710	-	4.525	0.741									

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and P.J. Reimer) を使用した。
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年校正曲線や暦年校正プログラムが改正された場合の再計算と比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は $\sigma$ は68%、 $2\sigma$ は95%である。
- 5) 相対比は、 $\sigma$ 、 $2\sigma$ のそれぞれを1とした場合、種別的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

### 第3節 柱穴跡 SP145 出土木柱根の底面に付着した黒色物質の同定

#### 1 試料

柱穴跡 SP145 から出土した木柱根 347 の底面に黒色物質が一面に付着していた。付着物は鉱物粒と微細な黒色物質が混和した塊状の物質であり、他に木質片なども含まれる。この黒色付着物が天然アスファルト等であり、柱の腐食を防ぐために意図的に塗布された可能性を検討するため、赤外分光分析により付着物の同定を行った。分析は、辻本裕也・高橋敦・斉藤紀行・金井慎司（バリノ・サーヴェイ株式会社）が担当した。

#### 2 分析方法

##### (1) 赤外線分光分析の原理

有機物を構成している分子は、炭素や酸素、水素などの原子が様々な形で結合している。この結合した原子間は絶えず振動しているが、電磁波のようなエネルギーを受けることにより、その振動の振幅は増大する。この振幅の増大は、その結合の種類によって、ある特定の波長の電磁波を受けたときに突然大きくなる性質がある。この時に、電磁波のエネルギーは結合の振動に使われ、すなわち吸収されて、その物質を透過した後の電磁波の強度は弱くなる。

有機物を構成している分子における結合の場合は、電磁波の中でも赤外線の領域に入る波長を吸収する性質を有するものが多い。そこで、赤外線の波長領域において波長を連続的に変えながら物質を透過させた場合、さまざまな結合を有する分子では、様々な波長において、赤外線の吸収が発生し、いわゆる赤外線吸収スペクトルを得ることができる。通常、このスペクトルは、横軸に波数（波長の逆数  $\text{cm}^{-1}$  で示す）、縦軸に吸光度（ABS）を取った曲線で表されることが多い。したがって、既知の物質において、どの波長でどの程度の吸収が起こるかを調べ、その赤外線吸収スペクトルのパターンを定性的に標準化し、これと未知物質の赤外線吸収スペクトルのパターンとを定性的に比較することにより、未知物質の同定をすることもできる（山田 1986）。

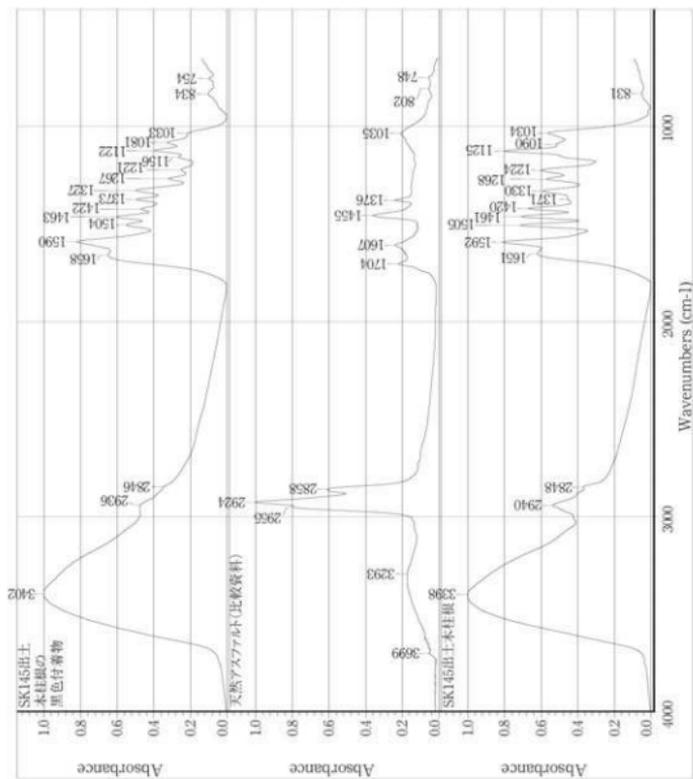
##### (2) 赤外線吸収スペクトルの測定

木柱根底面に付着している黒色物質を採取し、ダイヤモンドエクスプレスにより加圧成型した後、顕微 FT-IR 装置（サーモエレクトロン（株）製 Nicolet Avatar 370, Nicolet Centaurus）を利用し、測定を実施した。なお、赤外線吸収スペクトルの測定は、作成した試料を鏡下で観察しながら測定位置を絞り込み、アパーチャでマスキングした後、透過法で測定した。得られたスペクトルは CO<sub>2</sub> 除去、ベースライン補正などのデータ処理を施した後、吸光度（ABS）で表示している。測定条件及び各種補正処理の詳細については、FT-IR スペクトルと共に図中に併記している。

#### 3 結果

木柱根付着物中の黒色物質の FT-IR スペクトルについて、赤外線吸収特性は、 $3400 \text{ cm}^{-1}$  付近の O-H 基の伸縮振動による幅広い吸収帯のほか、 $2940 \text{ cm}^{-1}$ 、 $2850 \text{ cm}^{-1}$  付近のメチル基およびメチレン基の C-H 伸縮振動や、 $1660 \text{ cm}^{-1}$  以下に見られる複数の吸収帯によって特徴付けられる（第 163 図）。

比較資料として、天然アスファルトおよび試料中に認められた木質片の実測スペクトルの測定を行った。天然アスファルトでは  $2960$ 、 $2920$ 、 $2860$ 、 $1700$ 、 $1610$ 、 $1460$ 、 $1380 \text{ cm}^{-1}$  に見られる脂肪族飽和炭化水素に帰属する吸収帯に特徴がある。また、試料中に認められた木質片では、 $2940 \text{ cm}^{-1}$ 、 $2850 \text{ cm}^{-1}$  などのメチル基およびメチレン基による吸収がやや強い特徴はあるものの、スペクトルバ



第163図 FT-IR スペクトル測定図

**測定情報**

サンプルスキヤン回数: 64  
 バックグラウンドスキヤン回数: 64  
 分解能: 4.000  
 サンプルサイズ: 4.0  
 ミラー速度: 1.89888

**光学系の構成**

検出器: MCT/A  
 ビームスプリッター: KBr  
 光源: IR

**備考**

ダイヤモンドスプレッス成型  
 顕微鏡法  
 可変ファイバーチャ使用  
 CO2除去(直線化)  
 オートベースライン補正  
 スムージング処理  
 Y軸正規化

ターンは木柱根付着物とほぼ一致した。

#### 4 考察

試料と天然アスファルトの赤外吸収特性を比較すると、柱根に付着した黒色物質が天然アスファルトである可能性は極めて低い。試料と木柱根の木質片との赤外吸収特性とがほぼ一致することから、木柱根底面付着物は柱として用いられた木材に由来するものであると考えられる。柱材は同章第1節で示したようにクリ材であり、柱から滲み出たクリ渋の可能性が高いと推定する。各吸収帯の吸収強度がやや異なるのは、変質した木材の特性を反映しているものと考えられる。

### 第4節 土坑 SK335 出土骨片の同定

#### 1 試料

グリッド C-180 に位置する土坑 D 類 SK335 から骨片（試料）が出土した。竪穴建物跡 SB2 よりも下層に位置し、縄文時代中期後葉以前の遺構と考えられる。この骨片が遺跡に生活した人々などのような関わりがあったかを検討するため同定を行った。分析は、辻本裕也・高橋敦・齊藤紀行・金井慎司（パリオ・サーヴェイ株式会社）が担当した。

#### 2 分析方法

一部の試料については、一般工作用接着剤を用いて接合を行う。試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。

#### 3 結果

検出した骨片は破片であったが、そのうち 13 片が接合関係にあり、ニホンジカの角の分枝部付近を復元することができた（第 62 表）。この他、接合不可能であった鹿角片が 6 片みられる。いずれも白色を呈し、表面に細かなひび割れが生じ、また歪な収縮がみられることから、焼骨であると考えられる。なお、ニホンジカは現在の飛騨市にも生息している動物である。

#### 4 考察

骨片は焼骨であり、ニホンジカの角である。頭蓋や四肢骨など他の部位の骨は検出されなかった。また、残存する鹿角には加工した痕跡や切断痕は確認されなかった。焼骨であるため、当時の人間が利用、特に食用としたものと考えられる。その後、SK335 に廃棄されたと考えられる。縄文時代の遺跡から出土する大型獣では、ニホンジカはイノシシと同じ程度利用されていたと考えられている（西本 1991・2010）。当遺跡が位置する飛騨地方北部でもニホンジカが生息し、狩猟対象となっていた可能性が想定される。

第 62 表 骨片同定結果一覧表

遺物取り上げ No.	地区	遺構	種類	部位	部分	数量	備考
2470	C-180	SK335	ニホンジカ	鹿角	破片	7	13 片接合、他に破片 6 片有り
			粘土塊片	-	-	1	-
			種	-	-	1	-
			滓? (破片)	-	-	1	-

## 第5章 総括

### 第1節 鳥遺跡出土の石棒について

#### 1 はじめに

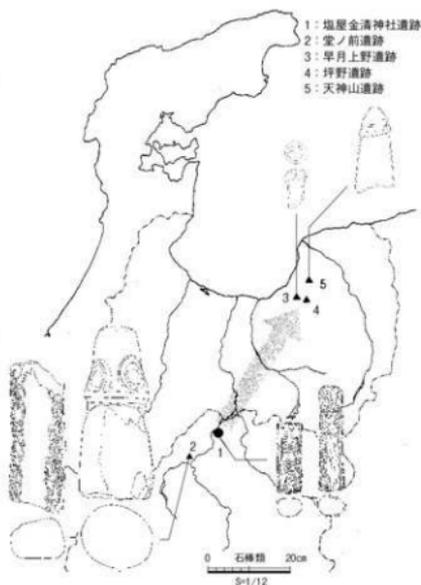
鳥遺跡で出土した石棒類は22点である。その特徴は大型石棒の完成品・未製品が出土した点にあり、鳥遺跡が大型石棒の製作を行った石棒製作遺跡であることを示している。

石棒製作遺跡としては、隣接する塩屋金清神社遺跡において、鳥遺跡同様に“塩屋石”とされる流紋岩質培結凝灰岩の柱状摂理（以下、塩屋石とする）を用いた、後期中葉を中心とする時期の石棒（中型石棒）製作が明らかとなった（小島ほか1999、林ほか2000）。塩屋石製の石棒類は、宮川流域の堂ノ前遺跡（林1996）をはじめ、上流部の高山市周辺から、下流部の富山平野まで分布していることが指摘され（林1996、山本1996）、宮川流域を中心に直線距離にして約50kmの範囲に流通していることが明らかとなった（第164図）。このことは、特定の遺跡で製作された石棒が各地で共有されたことを示しており、地域における石棒を中心とする儀礼行為の共有・精神文化的共通性をも示す事例として注目され、縄文時代研究において石棒製作遺跡が注目される契機となった（宮川村1995）。

しかし塩屋金清神社遺跡で製作された石棒は、後期前葉～中葉にかけて盛行する胴部径が5～10cm程度の中型石棒とされるものであり、各地で出土する塩屋石製の石棒のうち、10cmを超える大型のものについては塩屋金清神社遺跡周辺で製作されていたとの推測にとどまり、中期を主体とする大型石棒製作のあり方については不明な点が多かった。そうしたところ今回の鳥遺跡の調査において、大型石棒未製品を中心とする塩屋石を用いた石棒製作の在り方が判明し、これまで想定に留まっていた塩屋石製大型石棒の製作がようやく明らかとなり、塩屋石製の石棒が中期中葉から後期さらには晩期までの継続期間をもって塩屋地区で製作されたことが提示された。

本稿ではこうした状況を踏まえ、鳥遺跡出土の石棒類について評述するとともに、塩屋石を用いた大型石棒製作の具体的なあり方とその展開について言及するものである。

長田友也（南山大学非常勤講師）



第164図 塩屋石製石棒出土遺跡分布図  
(山本1996を元に作成)

## 2 石棒類について

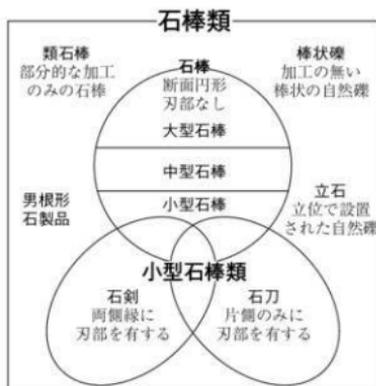
先に触れたように、鳥遺跡で出土した石棒類は22点であるが、ここには大型石棒製品・未製品をはじめとし、立石とされる自然石など様々な資料が含まれる。これらすべてを包括して石棒とする研究もみられるが、大型石棒と樹立した状態である立石、さらには柱状節理の自然石とは、自ずとその精神文化的な意味は異なってくる。本来的には、大型石棒とそれ以外とは切り離して検討すべきであるが、本遺跡は大型石棒製作遺跡であるため、加工の無い自然石についても何らかの関係性を見出す必要が存在する。

そこで最初に、石棒の製作工程を前提として、これらの分類を行った。石棒（完成品）としたものは、製作工程の最終段階に位置づけられ、ほぼ全面に研磨調整を行ったものとした。さらに石棒はその胴部径により、10 cm 以上の大型・10～5 cm の中型・5 cm 以下の小型に三分でき、それぞれの盛行時期が異なることが明らかであり（長田 2005、2009）、本稿においてもこの分類を用いた。石棒未製品としたものは、石棒の製作工程である、剥離→敲打→研磨という各調整段階をそのまま名称としたが、研磨後に部分的な敲打調整を行うといったように、それぞれの製作工程は前後する場合が少なくないため、後に位置づけられる工程に即して工程名を付した。<sup>1)</sup> 加工の施されていない自然石については、石棒に類するものか否かの判断が難しいが、鳥遺跡では“塩屋石”とされる柱状節理のみを用いて石棒製作を行っていることから、“塩屋石”の自然石については、すべて石棒の原石という扱いから石棒類の棒状礫に含めた（第165図）。

これらの結果、本調査では大型石棒（完成品）3点、石棒未製品12点（剥離段階5点、敲打段階6点、研磨段階1点）、柱状節理の自然石7点が出土している（第63表）。

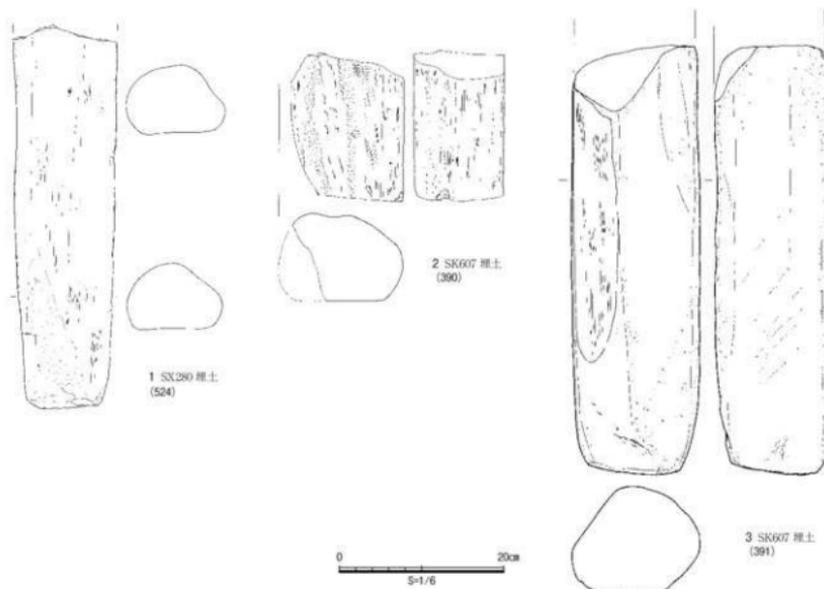
### (1) 大型石棒（完成品）（第166図1～3）

本調査で出土した石棒（完成品）はすべて胴部径が10 cm 以上の塩屋石製の大型石棒である。いずれも胴部ないしは胴下半の破片であり、頭部片がないため形状については不明な点が多い。3点とも胴部断面は正円ではなく、隅丸多角形と柱状節理の形状に近いことから、素材である柱状節理の稜部分を中心に加工を行ったものと考えられ、後述する未製品の在り方も合致する。1（524）は胴部下半であり、丁寧な研磨により仕上げている。2（390）は右半が欠損する胴部片であり、右側は被熱している。中央部の凹みは自然の柱状節理に由来するものである。3（391）は研磨に伴う線条痕はみられないが、敲打痕もみられず、風化により線条痕が遺失してしまったものと考えられる。右側面と裏面を面砥石として転用しているが、使用頻度はあまり顕著ではない。



第165図 石棒類の概念図

<sup>1)</sup> 塩屋金精神社遺跡報告では、石棒類の稜の残存状況と、断面形態についても分類し、さらに各工程についても詳細な細分が行われているが、本稿では資料数が少ないことから、製作の各工程で分類する大分類のみとした。本調査出土資料についても、一覧表において旧調査における分類を提示している。



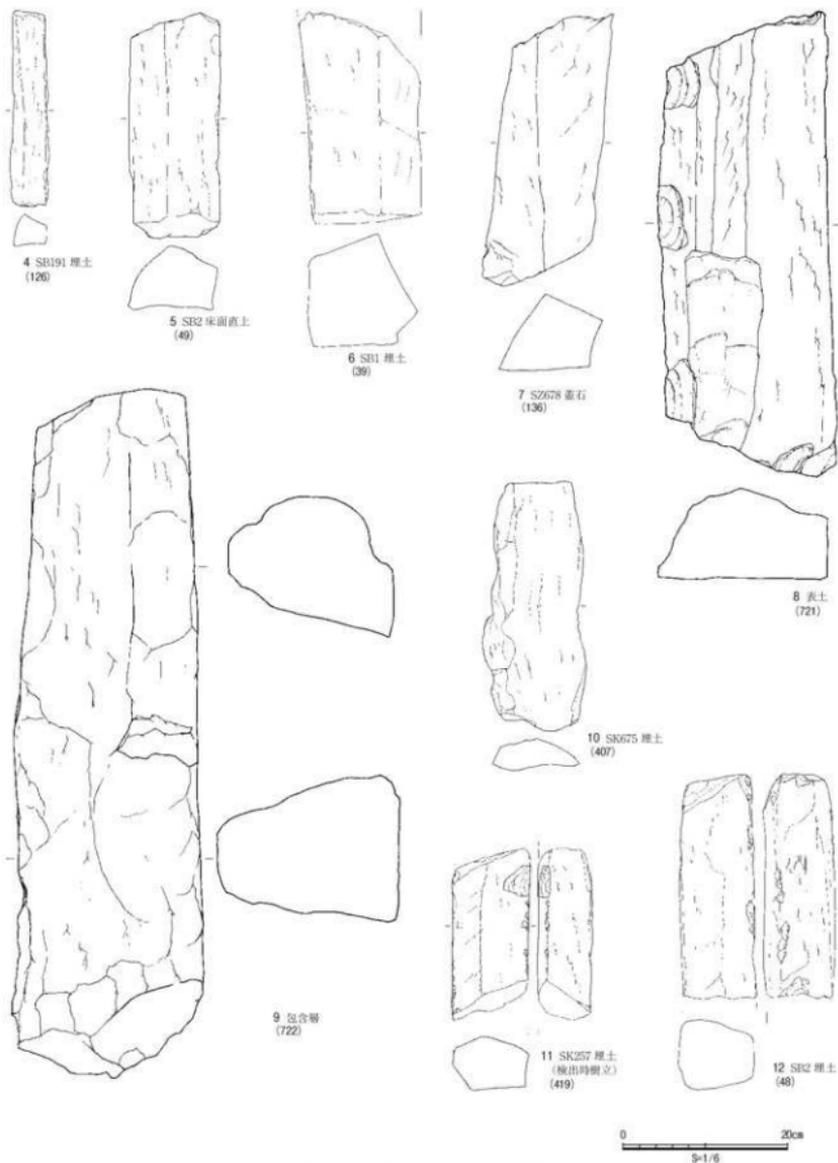
第166図 鳥遺跡出土石棒類 (1) (1～3:大型石棒【製品】)

これらのうち2 (390)・3 (391) はSK607土坑より他の礫と共に出土しており、使用の後に廃棄されたものと考えられる。しかし2 (390) は被熱を伴う儀礼行為の後に、3 (391) は砥石への転用の後に廃棄されており、儀礼・砥面利用されたもののいずれもが、結果的に同様の廃棄行為に至ったものか、3 (391) の砥面利用が儀礼に伴うもの、あるいは2 (390) の被熱が廃棄に伴うもの、廃棄行為に3者が想定でき、石棒儀礼を考慮する上でも注意される出土状況である。これらを含め、石棒製作遺跡である鳥遺跡においても、大型石棒が用いられていた点は重要である。

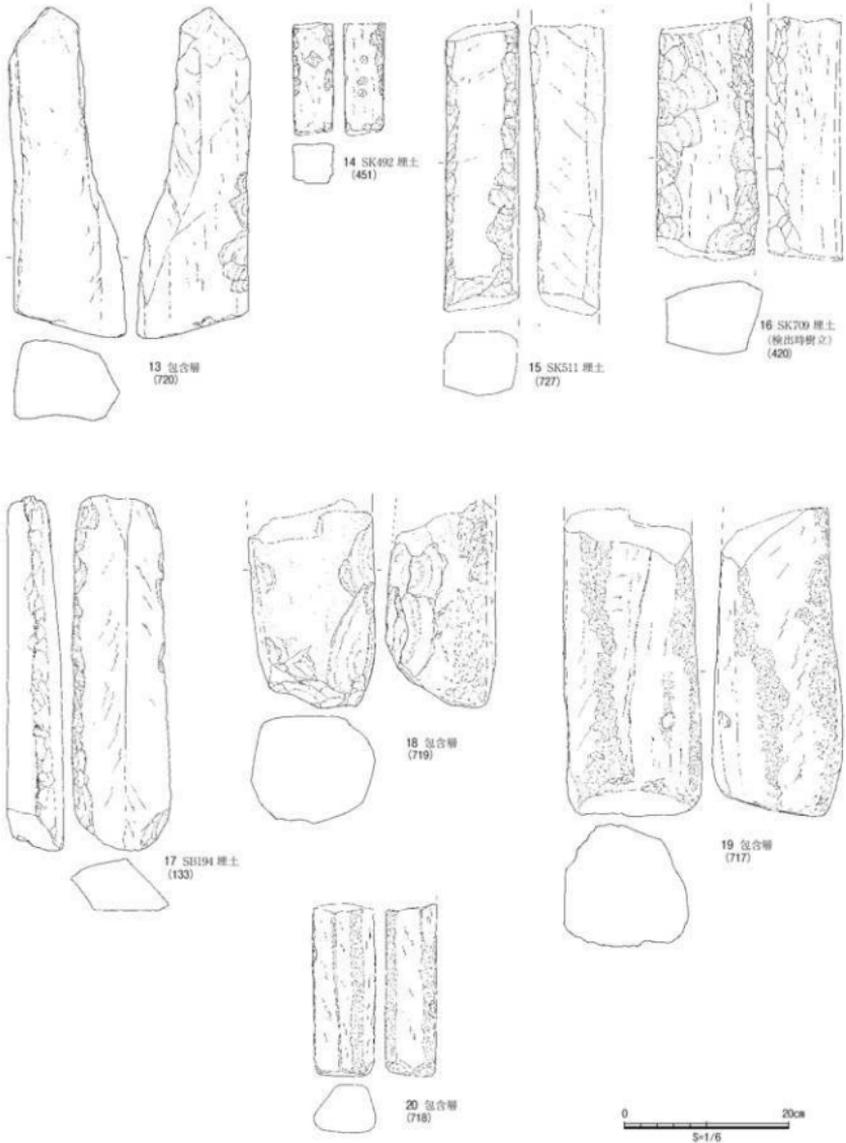
## (2) 柱状節理自然石 (第167図4～10)

柱状節理の自然石は7点あり、すべて塩屋石裂である。4 (126) のように胴部径4 cm程度の細身のものから、9 (722) のように胴部径20 cmを越す太身のもの、10 (407) のように扁平なものなど様々な形状のものがある。これらを先的大型石棒ならびに石棒未製品と比較すると、4 (126) のように胴部径が細身のものや、5 (49) のようにSB2床面直上から出土しているものの、長さが25 cm程度と短いものなどは、大型石棒の素材としては適さず、別の用途に利用されたものと考えられる。そうした観点からすると、大型石棒の素材となりえるものは9 (722) のみであるが、9 (722) についてもやや歪な形状であり、必ずしも大型石棒製作に適した素材とは言い切れない。

以上のことから、鳥遺跡から出土する塩屋石の柱状節理は、大型石棒の素材として持ち込まれたものは少なく、遺構から出土するものも別の用途に用いられたものと考えられる。特に7 (136) のように埋蔵の上面から出土し蓋石的な利用が想定されるものなどは、大形の自然礫と同様な意味合いで用いられたものであったと考えられ、立石状の出土状況を示すものについても、石棒類に含まれるものは少なかったと想定される。



第 167 図 鳥遺跡出土石棒類 (2)  
(4～10：柱状節理自然石、11～12：剥離段階初期)



第168図 鳥遺跡出土石棒類 (3)

(13・14：剥離段階初期、15：剥離段階、16～18：敲打段階初期、19・20 敲打段階)

### (3) 石棒未製品

石棒未製品は12点出土しているが、剥離段階5点、敲打段階6点と石棒製作工程の前半部分に当たるものが大半を占め、さらに部分的な剥離・敲打調整のみといった、製作の初期段階のものが半数近くを占める。

#### 剥離段階（第167図11・12、第168図13～15）

11～14は稜の一部にわずかな剥離がみられる剥離段階初期のものであり、ほぼ自然礫の状態である。12（48）は胴部中央にわずかな線条痕がみられ、面砥石として用いられた可能性も考えられる。13（720）は裏面の左側縁のみに剥離調整がみられる。14（451）も稜の一部のみを剥離調整するのみであり、折損後に正面・左側面を敲石として利用している。

15（727）は正面の両側縁の稜に剥離痕がみられ、左側縁は左側面から右側縁は正面からの連続する剥離調整が加えられている。

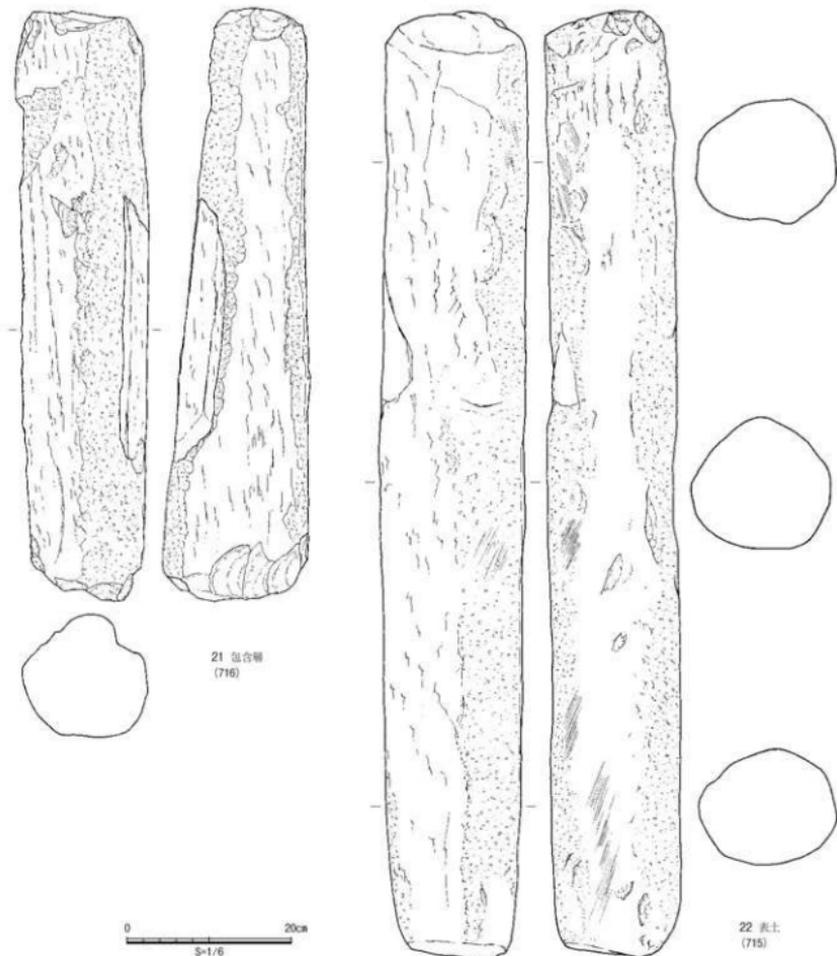
これら剥離段階のものは、いずれも剥離調整がわずかであり、積極的な石棒製作の意図がみられない。さらにこれらの剥離痕に見合う調整剥片も出土していない<sup>2)</sup>ことから、鳥遺跡では剥離段階の工程が積極的に行われていなかったことが考えられる。

#### 敲打段階（第168図16～20、第169図21）

敲打段階としたものも、16～18のように稜を剥離調整した後に敲打によるわずかなツブシがみられる敲打段階初期のものが多い。16（420）は15（727）同様に両側縁の稜に剥離痕がみられるが、左側縁の剥離が細くなり、その一部に敲打によるツブシがみられる。こうした剥離面が小さくなり、さらにツブシ状の敲打痕がみられるというように、漸移的に剥離段階から敲打段階へと移行するものと考えられる。17（133）は唯一の塩屋石以外の石棒類であり、明緑灰色（10GY 7/1）の凝灰岩からなる。この石材は宮川上流の下小島ダム周辺で採取でき、こうした地域からの搬入礫であると考えられる。断面は扁平な菱形を呈し、右側縁を中心に剥離調整が行われ、部分的に敲打によるツブシがみられる。大型石棒以外の石製品を製作意図した可能性も考えられる。18（719）は下端部に近い破片であり、左側縁を中心に調整が加えられ、裏面側は敲打が加えられる。19（717）は全周の稜に敲打調整がみられ、明確な敲打段階の未製品と位置づけられよう。20（718）も小形であるが、全周の稜に敲打調整がみられる。塩屋金清神社遺跡でみられる中型石棒を製作意図したものであろうか。21（716）は全周の稜だけでなく、頭部くびれを敲打調整により作出している。側縁には剥離痕も残っているが、これらをツブすように敲打が加えられ、剥離→敲打という作業工程がうかがえる。頭部のくびれは右側縁を中心としており全周には及んでおらず、また全面には節理面を多く残すことから、敲打段階の未製品と考えられよう。剥離・敲打による大きな欠損はみられないが、正面左側縁に自然の挟れがあり、これを除去できないことから製作放棄したものと考えられる。

敲打段階についても初期段階のものが多いが、19～21のように全周囲に敲打を加えたものや、21（716）のように頭部くびれを作り出すものもみられ、さらに敲打に用いたと考えられるアバタ状痕跡

<sup>2)</sup> 鳥遺跡の調査は、石棒製作遺跡として名高い塩屋金清神社遺跡の下段にあたり、さらに発掘当初に表土面から石棒未製品（22）が出土したこともあり、石棒製作に関連する遺物である敲打具・調整剥片などの抽出に細心の注意を払って調査が行われた。その結果、敲打具は数点出土したが、調整剥片についてはまったく出土しなかった。



第169図 鳥遺跡出土石棒(4) (21: 敲打段階、22: 研磨段階)

を有する敲石（ハンマーストーン、61、123など）も出土していることから、剥離段階に比べ積極的に敲打調整が行われていたものと評価されよう。

**研磨段階（第169図22）**

研磨段階のものは、22 (715) のみである。1点のみの出土は、研磨段階では意図しない欠損や折れなどが生じないため、研磨段階で製作放棄したものが少ないためと考えられる。その点では22 (715) は全石棒類中最大の116cmを誇り、ほぼ全面に断面が丸みを帯びるように敲打調整が施され

ており、部分的に研磨調整がなされている。頸部くびれや頭頂部の加工は行われておらず、正面右側などに節理面を残す部分もあるが、わずかな研磨仕上げを行えば完成品として利用されるものであり、なぜ製作放棄されたのか推測することが難しい。すでに完成品として利用されていた可能性も考えられるが、出土状況・使用痕などからはうかがい知ることができない。本稿では、頭頂部・頸部くびれの加工がなく、部分的に自然節理面を残すことから、研磨段階の未製品とした。また、鳥遺跡では研磨具である砥石がほとんど出土しておらず、大型石棒3(391)のような転用による部分的な砥石のみであり、遺跡内で明確に研磨調整を行ったとは言いがたい点は注意すべきであろう。<sup>31</sup>

いずれにせよ22(715)は、塩屋石を用いた典型的な大型石棒未製品であり、敲打段階を終了し、研磨段階初期へという工程、さらには全面を加工せずとも製品として利用されていた可能性を含め、今後の指標となる石棒であろう。

#### (4) 鳥遺跡における石棒類製作(第170図)

以上のように、鳥遺跡における石棒類製作の在り方を概観した結果、鳥遺跡では量的には少ないものの塩屋石を用いた大型石棒の製作が行われていることを確認した。その製作の在り方は、各工程の未製品出土量、調整剥片・製作具から、敲打段階を中心とする加工が想定された。特に製作の第一段階である剥離調整については、明確な調整剥片が出土せず、また長大な未製品・柱状節理自然石が出土していないことなどから、積極的に行われていないものと判断した。

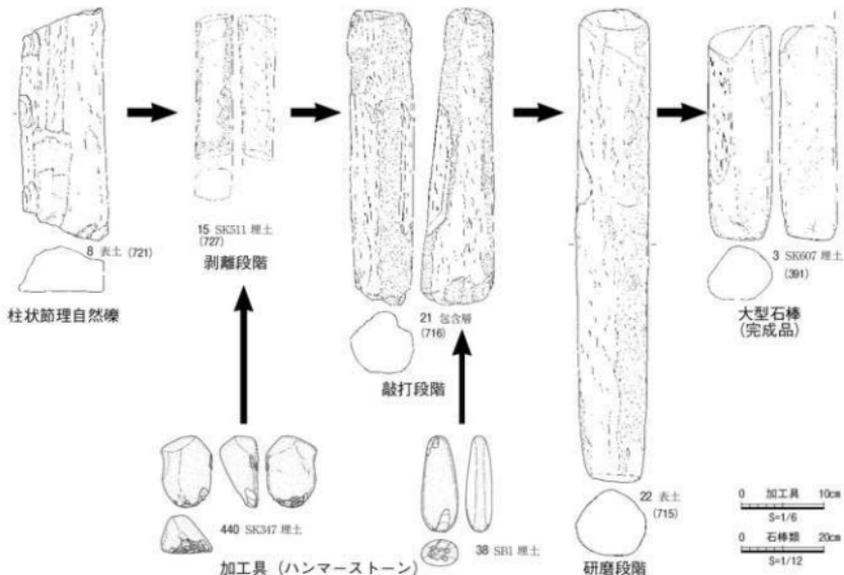
また製作した石棒は、出土する石棒・未製品の胴部径から、大型石棒を製作意図したのと考えられるが、頭部片が無いためどのような大型石棒を製作したのか不明である。21のように頸部くびれを作り出すことから、有頭石棒を製作していた可能性が高いと考えられるが、1例のみであり断定は難しい。

### 3 鳥遺跡・塩屋金清神社遺跡における石棒類製作の在り方

以上のように、本調査によって塩屋地区において、先に発掘調査された塩屋金清神社遺跡に続き、より宮川に近い鳥遺跡において大型石棒の製作が行われていたことが判明し、塩屋地区において中期中葉から後期前半さらには晩期まで、塩屋石を用いた石棒類の製作が明らかとなった。両遺跡とも、塩屋地区特有の塩屋石を用い、剥離→敲打→研磨という工程を経て石棒製作を行っているが、その製作される石棒と時期については大きく異なる。鳥遺跡では中期中葉を中心とした大型石棒製作が行われていたのに対し、塩屋金清神社遺跡では後期前半を中心とした中型石棒製作が行われており、さらに両遺跡における石棒類の出土量も、鳥遺跡22点に対し塩屋金清神社遺跡では1,074点と大量の未製品を中心とした多くの石棒類が出土している。

こうした石棒製作の相違は、遺跡範囲だけでなく、塩屋石の産する露頭・谷筋そして宮川を含めて検討する必要がある。石棒の素材となる塩屋石は、すべて谷筋の上流部にある露頭ないしは露頭直

<sup>31</sup> 石器の研磨には砥石のみならず水が必要であるため、遺跡下の川原周辺にて研磨加工を行い、製品・未製品は住居跡周辺に持ち帰るものの、砥石については川原周辺に放置した可能性も考えられる。上段にあたる塩屋金清神社遺跡では、遺跡から手持ち砥石50点、置き砥石72点と多くの砥石が出土し、これらは谷筋での谷水を利用した研磨を想定している。



第170図 鳥遺跡における石棒製作工程図

下の自然礫が用いられている。この塩屋石は、柱状節理という石棒に類した形状であることが石棒製作に利用された最大の理由であると考えられるが、比較的軟質で加工しやすいという点も重要である。しかし、この軟質で加工しやすいという利点は、同時に製作時の破損が甚大であることを意味しており、剥離・敲打といった工程においては折損・欠損が頻繁に行ったことは、塩屋金清神社遺跡の成果からも明らかである。それを回避するために、大型の石棒を少量製作する中期段階では、露頭直下周辺の素材を得やすい場所で剥離工程から敲打工程の初期段階までが行われ、敲打調整の終盤から研磨調整を中心に遺跡周辺および宮川周辺で行われたものと推測される。一方で、中・小型で比較的多くの石棒を製作する後期段階では、より露頭から沢筋が安定する部分で剥離・敲打・研磨といった各種工程を一連の作業として行い、その結果が大量の未製品と調整切片・製作具の出土につながったものと解釈される。また中期の大型石棒を他遺跡に運ぶためには、宮川の水運ないしは水系筋を利用したものと考えられ、こうしたことも中期の高遺跡が宮川に面した低位面に立地する所以でもあろう。

一方で、中期後半における少量の大型石棒製作と、後期前半における大量の小・中型石棒の製作という相違については、塩屋地区の高遺跡・塩屋金清神社遺跡における相違だけでなく、中期後半と後期前半における石棒の在り方そのものに変化が見られることに大きな要因があると予想される（長田前掲など）。したがって、中期から後期・晩期まで石棒類を製作していた塩屋地区の在り方は、今後の石棒類研究における一翼を担うものとなる重要な成果である。

第63表 鳥遺跡出土石棒類一覧表

番号 岡 番号	遺構	層序	出土状況	器種	分類	保存状況	計測値 (cm, g)				石材	備考	
							長さ	幅	厚さ	重量			
1	SK280	埋土	-	大型石棒	-	胴部下半	(47.1)	12.3	8.5	(6,120)	燧原石	全体に丁寧な研磨	
2	SK607	埋土	-	大型石棒	-	胴部片	(131)	13.4	10.7	(3,400)	燧原石	全体に丁寧な研磨	
3	SK607	埋土	-	大型石棒	-	胴部下半	(53.0)	15.7	13.2	(36,900)	燧原石	右側部・表面を面取石に転用	
4	SK194	埋土	-	柱状節理自然石	-	定形	24.0	4.2	4.0	569	燧原石	小形の自然石	
5	SK2	埋土	床面直上	柱状節理自然石	-	定形	27.4	10.8	7.9	2,820	燧原石		
6	SK1	埋土	-	柱状節理自然石	-	胴部片	(25.7)	13.9	13.7	(6,540)	燧原石		
7	SK268	埋土	埋蓋直上	柱状節理自然石	-	定形	33.1	12.8	9.3	4,720	燧原石		
8	SK2	-	表土	-	柱状節理自然石	-	定形	37.2	20.5	11.1	854	燧原石	部分的に割傷があるが、調整ではない可能性が高い
9	SK2	-	表土	-	柱状節理自然石	-	定形	34.6	22.4	18.1	44,000	燧原石	
10	SK625	埋土	-	柱状節理自然石	-	破片	(30.5)	(10.6)	(4.0)	(1,860)	燧原石		
11	SK268	埋土	検出時横立	石棒未製品	割磨段階初期	胴部片	(21.2)	9.6	6.7	(1,880)	燧原石	棒の一部に割磨調整	
12	SK2	埋土	-	石棒未製品	割磨段階初期	胴部上半	27.7	9.2	8.6	(3,180)	燧原石	棒の一部に研磨痕、破石として転用か?	
13	SK2	-	包含層	-	石棒未製品	割磨段階初期	定形	41.1	12.9	9.5	6,340	燧原石	割磨調整がみられるが、石棒製作を意図したものである可能性もあり
14	SK492	埋土	-	石棒未製品	割磨段階初期	胴部片	(13.7)	5.2	5.1	(536)	燧原石	正面・側面に磨行調整。破石として転用	
15	SK511	埋土	-	石棒未製品	割磨段階	胴部片	(35.0)	8.8	9.8	(4,280)	燧原石	棒を中心に割磨調整	
16	SK709	埋土	検出時横立	石棒未製品	磨行段階初期	胴部片	(29.6)	11.6	8.8	(4,940)	燧原石	棒のみを磨行調整	
17	SK194	埋土	-	石棒未製品	磨行段階初期	定形	43.9	12.0	6.3	4,220	流紋岩	右側部のみ割磨・磨行、石材は下小鳥ズム周辺で採集されることから輸入産	
18	SK719	-	包含層	-	石棒未製品	磨行段階初期	胴部下半	(25.4)	15.3	12.8	(5,800)	燧原石	部分的に磨行調整
19	SK717	-	包含層	-	石棒未製品	磨行段階	胴部下半	(37.8)	16.1	15.2	(12,400)	燧原石	棒を中心に磨行調整
20	SK718	-	包含層	-	石棒未製品	磨行段階	胴部下半	(21.2)	7.2	5.7	(1,340)	燧原石	棒のみを磨行調整
21	SK716	-	包含層	-	石棒未製品	磨行段階	定形	72.6	17.8	15.0	25,000	燧原石	柄部を磨行により作出
22	SK715	-	表土	-	石棒未製品	磨行段階初期	定形	116.6	17.4	16.2	50,900	燧原石	

謝辞 本稿をなすにあたっては、発掘調査現場見学や整理作業などで多くの方々にご教示いただきました。末尾ながらご芳名を明記して深謝の意を表する次第である。

株式会社パスコ、岩田 崇、大石崇史、小島俊彰、後藤太一、戸田哲也、馬場伸一郎

(敬称略・五十音順)

#### [引用・参考文献]

- 長田友也 2005 「愛知県出土の大型石棒」『三河考古』第18号 1-20頁 三河考古刊行会
- 長田友也 2009 「新潟県における石棒・石剣・石刀の変遷」『新潟県の考古学Ⅱ』 227-246頁 新潟県考古学会
- 早川正一ほか 1981 「塩屋金清神社遺跡」人類学博物館紀要第3号 南山大学人類学博物館
- 小島 功 1999 「塩屋金清神社遺跡 (B地点) 発掘調査報告書」宮川村教育委員会
- 林 直樹ほか 1996 「堂ノ前遺跡発掘調査報告書」宮川村教育委員会
- 林 直樹ほか 2000 「塩屋金清神社遺跡 (A地点) 発掘調査報告書」宮川村教育委員会
- 林 直樹 1992 「柱状節理利用の石棒製作址」『季刊 考古学』第41号 85・86頁 雄山閣
- 林 直樹 1996 「縄文後期の石棒製作址—塩屋金清神社遺跡—」『考古学ジャーナル』No.398 5-10頁 ニューサイエンス社
- 宮川村教育委員会 1995 「飛騨みやがわシンポジウム 石棒の謎を探る」
- 山本正敏 1996 「石棒の流通に関する一考察」『埋蔵文化財調査概要—平成7年度—』99-102頁 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

## 第2節 集落の変遷と石棒製作との関わり

### 1 集落の変遷

高遺跡では、縄文時代中期前葉（新崎式期）から後期前葉（高波式期）までの出土遺物を確認できる。そのうち遺構内出土遺物から、縄文時代中期中葉（古府式期）から縄文時代中期後葉（前田・岩崎野式期）にかけて集落が営まれたと考えられる。集落内における遺構配置と変遷について述べる。

遺構配置としては、宮川に向かって半弧状に張り出す堅穴建物跡群、山側に向かって半弧状に張り出す土坑A類、それらの内側に土坑C類（立石遺構）が建ち並び、中心には広場が設けられている。集落の南東隅には湧水地点があり、一帯は低湿地の様相をなす。周囲には土坑B類（貯蔵穴）が配置されている。堅穴建物跡検出レベルのまま、宮川に向かうと約6mで段丘崖にあたる。このため、集落の西端は調査区とほぼ変わらないと考えられる。また東側においては、堅穴建物跡SB1004より東側で地山の立ち上がりを確認した。調査区より東側で段丘斜面が始まり、集落東側も調査区とほぼ変わらないことを確認した。北側においては、2000年（平成12）の試掘調査により、これ以上遺構が広がらないことを確認している。このため、堅穴建物跡としては、SB1004・SB1046が北端であったことを確認した。また、南側については、事前調査により、調査範囲の南側には遺構が広がらないことを確認している。このため、堅穴建物跡としては、SB456・SB610が南端であったことを確認した。

集落内で確認した堅穴建物跡のうち、出土遺物の型式的まとまりをもとに5時期に分類を行った（第64表）。

**第I期** 北陸系古府式期である（第171図）。該当する堅穴建物跡は1軒（SB1006）である。その他には土器埋設遺構SZ38も確認している。しかし当該時期に属する遺構及び2群の遺物は少ない。出土遺物では北陸系及び在地系以外のものは認められない。第I期には、北陸地方との結びつきが強い小規模な集落が営まれていたものと考えられる。

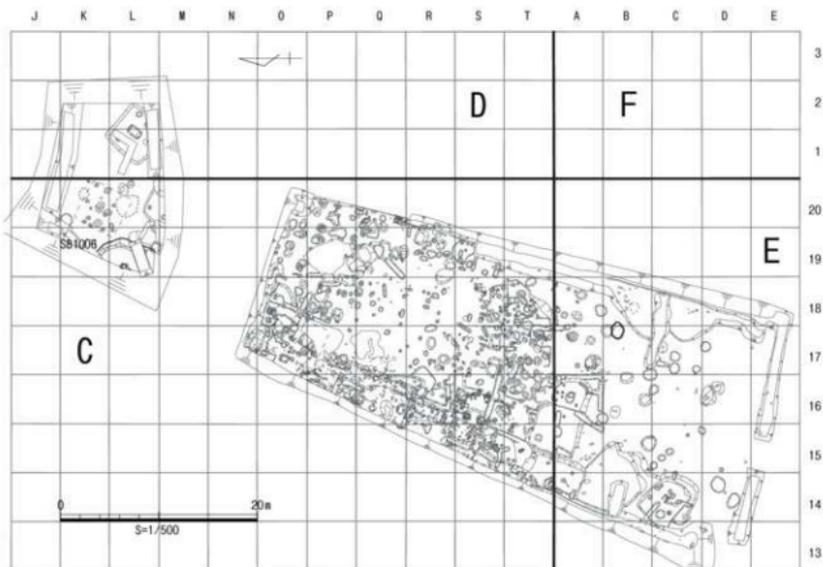
第64表 堅穴建物跡時期別一覧表

段階	遺構番号	時期	軒数
第I期	SB1006	中期中葉（古府式期）	1軒
第II期	SB1001	中期中葉（古府～古串田新式期）	4軒
	SB118	中期中葉（古串田新式期）	
	SB472	中期中葉（古串田新式期）	
	SB1004	中期中葉（古串田新式期）	
第III期	SB410	中期中葉末～中期後葉初葉（古串田新～串田新I式期）	6軒
	SB55	中期後葉（串田新I式期）	
	SB456	中期後葉（串田新I式期）	
	SB191	中期後葉（串田新I式期）	
	SB192	中期後葉（串田新I式期）	
	SB610	中期後葉（串田新I式期）	
第IV期	SB710	中期後葉（串田新I～II式期）	9軒
	SB2	中期後葉（串田新II式期）	
	SB119	中期後葉（串田新II式期）	
	SB120	中期後葉（串田新II式期）	
	SB194	中期後葉（串田新II式期）	
	SB384	中期後葉（串田新II式期）	
	SB1002	中期後葉（串田新II式期）	
	SB1008	中期後葉（串田新II式期）	
	SB1033	中期後葉（串田新II式期）	
第V期	SB1	中期後葉～末葉（串田新II～前田・岩崎野式期）	1軒

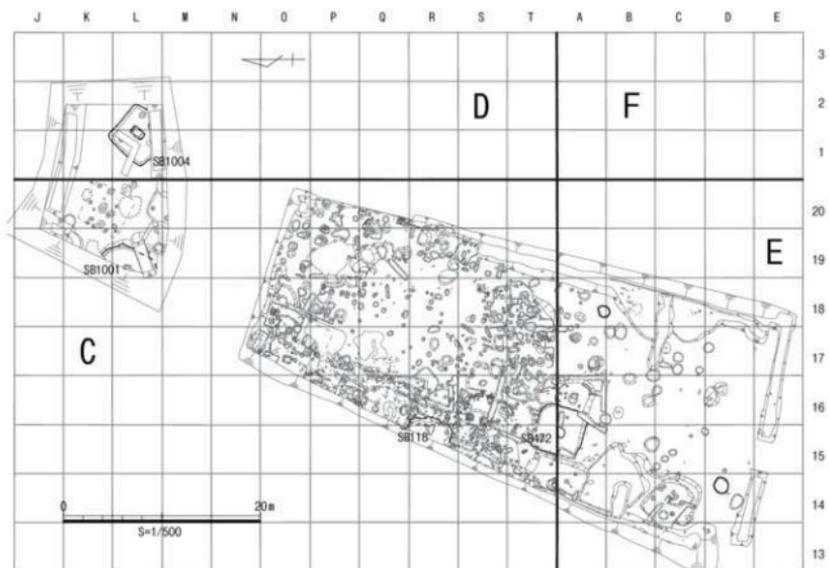
第Ⅱ期 北陸系古串田新式期である（第172図）。該当する竪穴建物跡は4軒（SB118・SB472・SB1001・SB1004）である。竪穴建物跡SB1001のように、古府式期から古串田新式期に属するものがある。竪穴建物跡は帯状に形成されるものと推測され、土坑B類にもこの時期に属するものもある。出土遺物もこの時期の遺物が急激に増加する時期である（第4表）。北陸系・在地系だけでなく、東海系及び東北系のものが、ごく僅か3点であるが認められる。第Ⅱ期は、当地での定住化が始まり、広域での交流を行った時期と考えられる。

第Ⅲ期 北陸系串田新Ⅰ式期である（第173図）。該当する竪穴建物跡は6軒（SB55・SB191・SB192・SB410・SB456・SB610）である。竪穴建物跡SB410のように古串田新式期から串田新Ⅰ式期に属するものがある。第Ⅱ期と同じように帯状に連なる竪穴建物跡を確認でき、この時期に該当する土坑A類・土坑B類がある。竪穴建物跡SB191は竪穴建物跡SB710に切れ、竪穴建物跡SB192を切る。このことより、第Ⅲ期のなかで建て替えが認められる。第Ⅱ期から始まった定住化がさらに進んだ時期と考えられる。

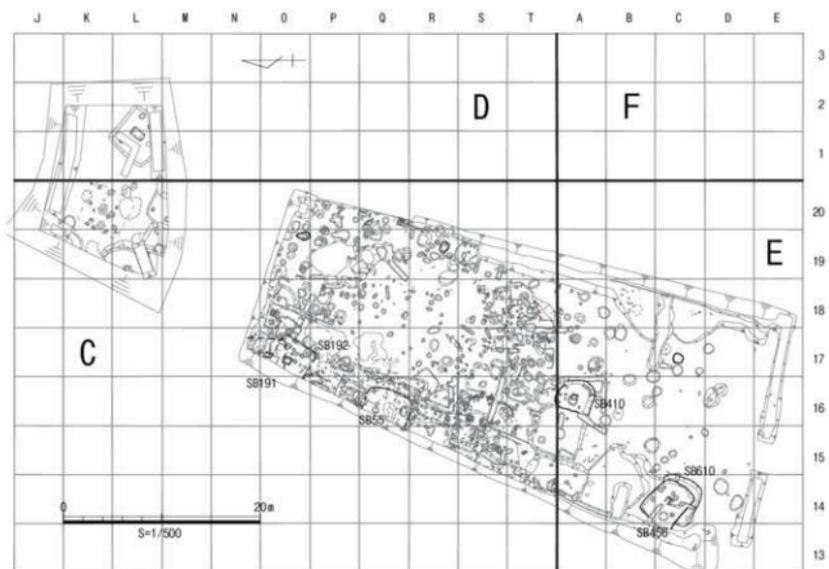
第Ⅳ期 北陸系串田新Ⅱ式期である（第174図）。該当する竪穴建物跡は9軒（SB710・SB2・SB119・SB120・SB194・SB384・SB1002・SB1008・SB1033）である。第Ⅱ期・第Ⅲ期の分布を踏襲して、弧状に連なる竪穴建物跡群を形成したものと考えられる。出土遺物は北陸系・在地系に加え、信州系のものが一部認められる。竪穴建物跡SB194・土坑A類・土坑B類と、第Ⅳ期に属すると考えられる遺構も多い。また、遺物では、竪穴建物跡SB120やSB384、土坑A類SK27において、串田新Ⅱ式の9群の土器と共に、飛騨地方独自の14群が出土していることが注目される。最も多くの竪穴建物跡を確認した時期であり、最大規模の集落を形成した段階と考えられる。



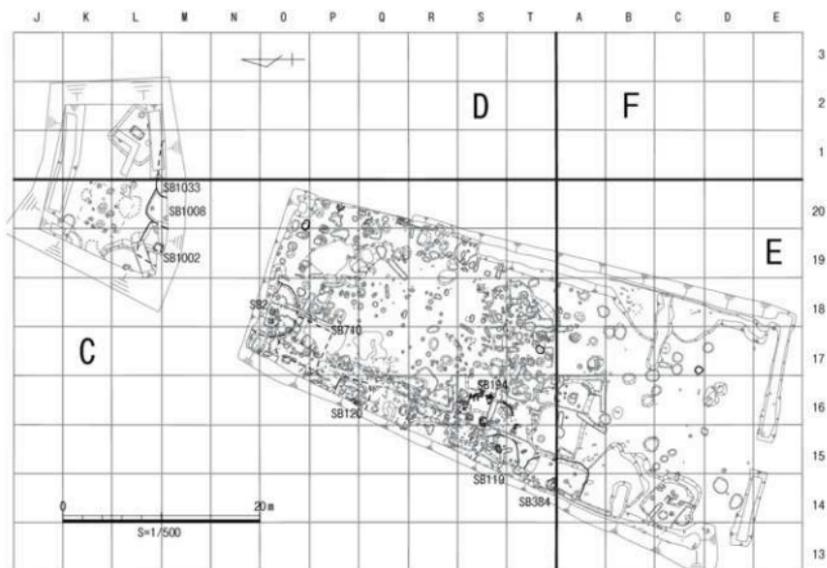
第171図 第Ⅰ期（古府式期）竪穴建物跡位置図



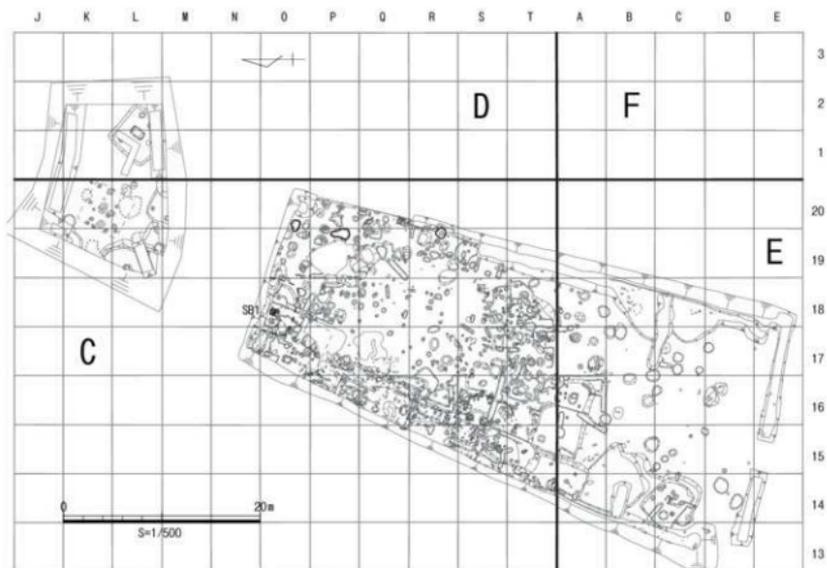
第172図 第Ⅱ期（古串田新式期）竪穴建物跡位置図



第173図 第Ⅲ期（串田新Ⅰ式期）竪穴建物跡位置図



第174図 第Ⅳ期(串田新Ⅱ式期)竪穴建物跡位置図



第175図 第Ⅴ期(串田新Ⅱ式～前田・岩崎野式期)竪穴建物跡位置図

**第V期** 北陸系前田・岩崎野式期である(第175図)。該当する竪穴建物跡は1軒(SB1)である。15群・16群に属する出土遺物も、前時期から見ると減少傾向である。小規模な集落を営んだ時期であり、当期を最後に集落の姿を失ったものと考えられる。

このように、鳥遺跡では川縁の狭い河岸段丘上に縄文時代中期中葉から末葉にかけて営まれた集落の全貌を明らかにすることができた。これは、これまでの縄文時代集落研究を検証する事例の一つになると考えられる。

## 2 塩屋石製石製品製作のあり方と製作地の移り変わり

塩屋石製石製品については、①中期中葉以降の大型石棒を製作していた段階、②後期前葉の小型石棒を製作していた段階、③後期中葉から晩期の石冠等の石製品を製作していた段階と、製作されている石製品により3時期を想定している(林1996・2007)。

①中期中葉から後葉の大型石棒は、飛騨地方・富山県の6遺跡で確認している(第176図、第65表)。今回調査では、前節で述べたように石棒と未製品22点が加工工具と共に出土し、これらから中期石棒の製作過程が判明した。このことにより、これまで各地で出土していた中期石棒の製作遺跡が明らかになった。また、大型石棒の完成品は3点しか出土せず、完成品は主に遺跡外に持ち出されたと考えられる。なお、完成品のうち2点は土坑A類SK607から、他の礫と共に廃棄された状態で出土した。これは、儀礼での使用後に廃棄されたものと推定され、石棒製作遺跡である鳥遺跡でも、石棒を儀礼に使用していたと考えられる。

②後期前葉の小型石棒は、飛騨地方・富山県の8遺跡で確認している(第177図、第65表)。製作遺跡は、1992年度に調査を行った塩屋金清神社遺跡(A地点)である。調査において、1,000点を越える石棒が出土し、当地において石棒製作が最盛期を迎えていた時期と考えられる。

③後期中葉から晩期にかけての石製品については、塩屋金清神社遺跡(A地点)で、石刀21点、石冠9点、御物石器1点、不明石製品3点を確認しており、この段階にも塩屋石の柱状節理を利用して石製品を製作していた可能性がある(宮川村教育委員会2000a)。出土した遺跡は、岐阜県内の奥美濃から飛騨の遺跡を中心とした7遺跡である(第176図、第65表)。なお、宮嶋遺跡や伊川津貝塚(ともに愛知県)出土の石冠に塩屋石製のものが含まれているという指摘がある(齋藤2002)。

①～③の3時期の塩屋石製石製品製作数を見ると、①後期前葉が突出して多い。しかし、時期が変わっても塩屋石製石製品が出土した遺跡の数に大きな変化はない。このことより、②後期前葉の石棒製作には儀礼に使用するためだけでない、別の意図があったと想定される。これまでも、後期前葉には、石棒の製作数に対し分布が希薄であるという疑問点が指摘されている。その理由としては、後期前葉に塩屋で行われていた石棒製作自体が儀礼の一つであった可能性が考えられる(林2007)。

また石棒製作地については、①中期に川縁に営まれた鳥遺跡から、②後期には山側の塩屋金清神社遺跡に移動していることも明らかとなった(第177図)。この理由は水利に求めることができる。研磨工程には水の利用が不可欠であるため、多量の石棒製作を行った②後期前葉の時期に、沢の水を利用しやすい山側へ作業場を求めたものと考えられる。なお、これは研磨のための道具である砥石類が塩屋金清神社遺跡で出土しているのに対し、今回調査では確認できなかったことも関係があろう。

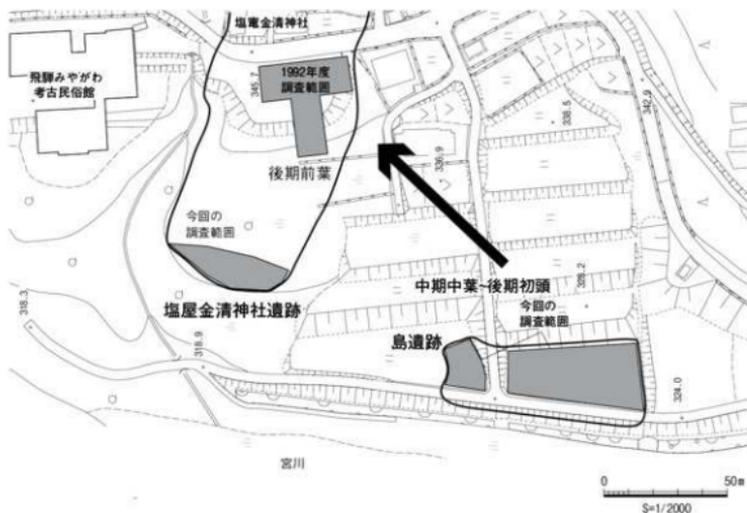
このように宮川町塩屋区では、石棒を中期から後期にかけて連続と製作していたため、時期により異なる石棒製作のあり方と、石棒製作を根拠とした土地利用の変遷を示すことができた。ここに塩屋における発掘調査の最大の意義を見出すことができる。



第176図 塩屋石製石製品分布図

第65表 塩屋石製石製品出土遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	器種	時期
1	天神山遺跡	富山県魚津市小川寺	石罫	中期
2	下田遺跡	岐阜県飛騨市河合町角川	石罫	中期
3	堂ノ前遺跡	岐阜県飛騨市宮川町西芝	石罫	中期
4	寺林遺跡	岐阜県飛騨市神岡町寺林	石罫	中期
5	岡前遺跡	岐阜県飛騨市古川町杉崎	石罫	中期
6	中野山越遺跡	岐阜県飛騨市古川町中野	石罫	中期
7	早月上野遺跡	富山県魚津市上野	石罫	後期
8	坪野遺跡	富山県魚津市坪野	石罫	後期
9	瑞穂遺跡	岐阜県飛騨市宮川町杉原	石罫	後期
10	入与遺跡	岐阜県飛騨市宮川町打保	石罫	後期
11	宮ノ前遺跡	岐阜県飛騨市宮川町西芝	石罫・ 石刀・石冠	後中期
12	家ノ下遺跡	岐阜県飛騨市宮川町林	石罫	後期
13	(麻生野表採)	岐阜県飛騨市神岡町麻生野	石罫	後期
14	寺楽遺跡	岐阜県高山市岩井町寺楽	石罫	後期
15	(大沢野表採)	富山県富山市大沢野町	石冠	後中期
16	(戸谷表採)	岐阜県飛騨市宮川町戸谷	石冠	後中期
17	中沢上遺跡	岐阜県飛騨市宮川町中沢上	両面石罫	後中期
18	店町遺跡	岐阜県郡上市明宝町畑佐字間名藪	石冠	後中期
19	宮崎遺跡	愛知県北設楽郡豊根村大字字場字宮崎	石冠	後中期
20	伊津川貝塚	愛知県田原市伊津津町郡中	石冠	後中期



第177図 塩屋石製石製品製作地変遷図

## 引用・参考文献

- 愛知県史編さん委員会 2002『愛知県史』（資料編1 考古1 旧石器・縄文）愛知県
- 阿部昭典 2009「縄文時代における徳利形土器の祭祀的側面の検討—中期末葉の東北地方を中心に—」  
『國學院大學伝統文化リサーチセンター研究紀要』第1号 國學院大學研究開発推進機構伝統文化リサーチセンター
- 一戸町教育委員会 2004『御所野遺跡Ⅱ』
- 伊東隆夫 1995「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究』資料31 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1996「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究』資料32 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1997「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究』資料33 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1998「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究』資料34 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1999「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究』資料35 京都大学木質科学研究所
- 伊藤正人 2008「縄文時代の土製蓋（追考）」『古代学研究会』第180号 古代学研究会
- 江馬修（赤木清）1937「吉城郡坂下村打保出土の石冠と枕石」『ひだびと』第5年第10号
- 江馬修（赤木清）1938「飛驒土偶の新資料」『ひだびと』第6年第12号
- 大沢野町教育委員会 1977『大沢野町布尻遺跡』
- 大野政雄ほか 1983『門端縄文遺跡発掘調査報告書』清見村教育委員会
- 大野郡久々野町教育委員会 1997『堂之上遺跡』
- 大場啓雄 1938「飛驒国発見の銅鐸」『ひだびと』第6年第6号
- 岡巖 1887「飛驒の石器」『東京人類学会雑誌』第3巻第21号
- 奥美濃地域研究会 2006「岐阜県奥美濃地域の遺跡紹介2—郡上市立明宝歴史民俗資料館収蔵資料の紹介その2—」『美濃の考古学』第9号 美濃の考古学刊行会
- 奥美濃地域研究会 2007「岐阜県奥美濃地域の遺跡紹介3—郡上市・古今伝授の里フィールドミュージアム収蔵試料の紹介—」『美濃の考古学』第10号 美濃の考古学刊行会
- 長田友也 2000「石棒の製作遺跡」『季刊 考古学』第73号 雄山閣出版
- 長田友也 2008「大型石棒にみる儀礼行為」『考古学ジャーナル』No.578 ニューサイエンス社
- 小矢部市教育委員会 2006a『桜町遺跡縄文土器検討会資料集』（縄文時代中期末・後期初頭について）
- 小矢部市教育委員会 2006b『桜町遺跡発掘調査報告書』（縄文土器・石器編Ⅰ、第1分冊）
- 河合村教育委員会 1971『下小島ダム関係埋蔵文化財調査報告書』
- 河合村教育委員会 1987『下田遺跡』（奥飛驒の縄文遺跡）
- 川崎保 2005「球状耳飾—玉の類型編年—」『季刊 考古学』第89号 雄山閣
- 川添和暁 2007「東海地方の諸遺跡」『季刊 考古学』第101号 雄山閣
- 関西縄文文化研究会 2000『関西の縄文墓地』（葬り葬られた関西縄文人 第2回関西縄文文化研究会資料集）
- 関西縄文文化研究会 2003『関西縄文時代の集落・墓地と生業』（関西縄文論集Ⅰ）
- 関西縄文文化研究会 2008『関西の縄文中期末土器』（北白川C式とその周辺 第9回関西縄文文化研究会資料集）

- 岐阜県土木部・財団法人岐阜県文化財保護センター 1995『岡前遺跡』
- 桑門智重紀編 2011『季刊 考古学』第114号(特集西日本の縄文集落と地域社会) 雄山閣
- 國學院大學研究開発推進機構学術資料館大形石棒プロジェクトチーム 2011『縄文時代の大型石棒』
- 小島俊彰 1986『鏝をもつ縄文中期の大型石棒』『大境』第10号 富山考古学会
- 小島俊彰 2007『桜町遺跡の縄文時代中期後葉から後期初頭土器の位置付け』『桜町遺跡発掘調査報告書 縄文時代総括編』小矢部市教育委員会
- 小林達雄編 1988『縄文土器大観』3(中期Ⅱ) 小学館
- 小林達雄編 2008『総覧縄文土器』株式会社アム・プロモーション
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 1988『湯屋遺跡』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 1993『荒城神社遺跡』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 2000『戸入村平遺跡Ⅱ 小谷戸遺跡』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 2003『岩垣内遺跡』
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2007『塚奥山遺跡』
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2009『有坂薬師堂遺跡』
- 齋藤基生 2002『石器の石材』『愛知県史』(資料編1 考古1 旧石器・縄文) 愛知県史編さん委員会
- 佐藤泰郷 1886『千代の鏡』
- 佐藤泰郷 1886『千代乃かみ 捨遺』
- 鈴木克彦編 2007『季刊 考古学』第101号(特集日本のストーンサークル) 雄山閣
- 島地謙・伊東隆夫 1982『図説木材組織』地球社
- 高山市教育委員会 1988『寺東遺跡、西保木(対岸)遺跡』
- 田中正太郎 1894『越中旅行見聞録』『東京人類学会雑誌』第9巻第94号
- 谷口康浩 2001『縄文時代遺跡の年代』『季刊 考古学』第77号 雄山閣
- 東海縄文研究会 2009『飛騨地方における縄文時代中期中葉から後葉の諸様相資料集』東海縄文研究会第8回研究会(岐阜県)
- 殿村遺跡発掘調査団 1987『殿村遺跡』
- 長野県中央道遺跡調査団 1981『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』(原村その4 昭和51・52年度) 日本道路公団名古屋建設局・長野県教育委員会
- 富山県埋蔵文化財センター 1991『北陸自動車道遺跡調査報告』(朝日町編6 境A遺跡土器編) 富山県教育委員会
- 富山県埋蔵文化財センター 2008『飛越交流～飛騨の考古学～』
- 富山市教育委員会埋蔵文化財センター 2003『富山市 開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡 開ヶ丘中山Ⅰ遺跡 開ヶ丘中山Ⅳ遺跡 開ヶ丘狐谷Ⅳ遺跡発掘調査報告書』(県営畑地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(5))
- 富山市教育委員会埋蔵文化財センター 2004『富山市 開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡発掘調査報告書』(県営畑地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(8))
- 中野山越遺跡発掘調査団 1993『中野山越遺跡発掘調査報告書』古川町教育委員会
- 南山大学人類学博物館 1981『塩屋金清神社遺跡』(人類学博物館紀要第3号)

- 新津建 2002「釣手土器の使用痕跡—山梨県内の事例から—」『土器から探る縄文社会』（2002年度研究会資料集）山梨県考古学協会
- 西川麻野 2006「富山県における石組炉に関する一考察」『富山考古学研究』（紀要第9号）財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 西本豊弘 1991「縄文時代のシカ・イノシシ狩猟」『古代』第91号 早稲田大学考古学会
- 西本豊弘・新美倫子 2010『事典 人と動物の考古学』吉川弘文館
- 能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団 2002『真脇遺跡 2002』
- 八幡一郎 1932「今年のプラン」『ひだびと』第7年第1号
- 早川荘作 1940「吉城郡塩屋発見の土製品」『ひだびと』第8年第7号
- 林魁一 1941「飛騨塩屋発見の土偶」『ひだびと』第9年第3号
- 林昭三 1991『日本産木材 顕微鏡写真集』京都大学木質科学研究所
- 林直樹 1992「柱状節理利用の石棒製作址」『季刊 考古学』第41号 雄山閣出版
- 林直樹ほか 1995「岐阜県宮川下流域の打製石斧」『会報嬰蛇』高山歴史研究会
- 林直樹 1996「縄文後期の石棒製作址」『考古学ジャーナル』No.398 ニューサイエンス社
- 林直樹 2007「石棒製作のムラー塩屋金清神社遺跡—」『縄文時代の考古学』6（ものづくり—道具製作の技術と組織）同成社
- 日義村教育委員会 1998『長野県木曾郡お玉の森遺跡』
- 福中町教育委員会 2000『外輪野Ⅰ遺跡・鏡坂Ⅰ遺跡発掘調査報告』
- 古川町 1986『古川町史』（史料編三）
- 北陸の縄文土器を見る会 1995『北陸における中期末葉・後期前葉の土器群の展開』
- 穂高町教育委員会 2001『他谷遺跡調査報告書』
- 藤田富士夫 1998「日本列島の球状耳飾の起源に関する試論」『東亜玉器』香港中文大学
- 松本市教育委員会 1991『松本市南中島遺跡』
- 松本市教育委員会 1992『松本市大村塚田遺跡』
- 明方村教育委員会 1990『店町遺跡発掘調査報告書』
- 南久和 1985『北陸の縄文時代中期の編年』（南久和著作集第1集）転形書房
- 宮川村誌編纂委員会 1981『宮川村誌』（通史編上）宮川村
- 宮川村・宮川村教育委員会 1995『石棒の謎をさぐる』（飛騨みやがわシンポジウム）
- 宮川村教育委員会 1996a『杉原瑞穂遺跡発掘調査報告書』
- 宮川村教育委員会 1996b『堂ノ前遺跡発掘調査報告書』
- 宮川村教育委員会 1997『家ノ下遺跡』
- 宮川村教育委員会 1998『宮ノ前遺跡発掘調査報告書』
- 宮川村教育委員会 1999『塩屋金清神社遺跡 B 地点発掘調査報告書』
- 宮川村教育委員会 2000a『塩屋金清神社遺跡（A 地点）』
- 宮川村教育委員会 2000b『宮ノ前遺跡発掘調査報告書（Ⅱ）』
- 宮川村教育委員会 2002『宮ノ前遺跡Ⅲ・塩屋島遺跡』
- 山田富貴子 1986『赤外線吸収スペクトル法』『機器分析のてびき』第1集 化学同人
- 山本暉久 2008「柄鏡形（敷石）住居址の地域的展開（1）—相模川流域の事例から—」『縄文時代』

## 第19号 縄文時代文化研究会

- 山本典幸 2009 「環状木柱列と祖霊（上）—祭祀論の再構築を目指して—」『史観』第161冊 早稲田大学史学会
- 山本典幸 2010 「環状木柱列と祖霊（下）—分析と解釈—」『史観』第163冊 早稲田大学史学会
- 山本正敏 1996 「石棒の流通に関する一考察」『埋蔵文化財調査概要』（平成7年度）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 山本正敏 2011 「石冠の型式分類と編年—富山県の資料を中心として—」『縄文時代』第22号 縄文時代文化研究会
- 吉見芳孝・神田孝平 1888 「飛驒ノ石器」『東京人類学会雑誌』第4年33号
- 綿田弘実 1999 「長野県富士見町札沢遺跡出土の釣手土器」『長野県立歴史館研究紀要』第5号 長野県立歴史館
- 渡邊裕之 2007 「北陸地方の諸遺跡」『季刊 考古学』第101号 雄山閣
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. 編 1998 「広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト」（伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩（日本語版監修））海青社 [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].



竪穴建物跡 SB1 遺物出土状況 (西から)



竪穴建物跡 SB1 完掘状況 (西から)



竪穴建物跡 SB1 に伴う炉跡 SF290 遺物出土状況 (東から)



竪穴建物跡 SB2 に伴う炉跡 SF474 遺物出土状況 (北から)



竪穴建物跡 SB1・SB2 完掘状況 (南東から)

図版2 遺構 (2)



竪穴建物跡 SB2に伴う壁面を挽き固めた土坑 SK458(南西から)



竪穴建物跡 SB710 完掘状況 (南から)



竪穴建物跡 SB191に伴う炉跡 SF711 完掘状況(東から)



竪穴建物跡 SB710に伴う埋壘 SZ473 検出状況(南から)



竪穴建物跡 SB191・SB192 完掘状況 (南から)



竪穴建物跡SB192に伴う炉跡SF712完掘状況(東から)



竪穴建物跡SB120完掘状況(東から)



竪穴建物跡SB55に伴う埋壘S2228検出状況(南から)



竪穴建物跡SB120に伴う炉跡SF363完掘状況(東から)



竪穴建物跡SB55完掘状況(南東から)

図版 4 遺構 (4)



竪穴建物跡 SB118 完掘状況 (南東から)



竪穴建物跡 SB119 完掘状況 (南から)



竪穴建物跡 SB118 に伴う埋壺 SZ337 検出状況 (南から)



竪穴建物跡 SB119 遺物出土状況 (南東から)



竪穴建物跡 SB119 玦状耳飾出土状況



竪穴建物跡 SB119 完掘状況 (南東から)



竪穴建物跡 SB384 遺物出土状況 (西から)



竪穴建物跡 SB384 遺物出土状況 (北から)



竪穴建物跡 SB384 に伴う埋壺 SB2678 検出状況 (南から)



竪穴建物跡 SB384 に伴う炉跡 SF681 完掘状況 (南から)

図版 6 遺構 (6)



竪穴建物跡 SB472 完掘状況 (西から)



竪穴建物跡 SB410 遺物出土状況 (西から)



竪穴建物跡 SB410 完掘状況 (北西から)



竪穴建物跡 SB410 に伴う炉跡 SF685 完掘状況 (北から)



竪穴建物跡 SB410・SB472 完掘状況 (南から)



竪穴建物跡 SB610 に伴う埋壺 SZ713 検出状況 (南から) 竪穴建物跡 SB456 遺物出土状況 (東から)



竪穴建物跡 SB456 に伴う炉跡 SF655 遺物出土状況 (南西から) 竪穴建物跡 SB456 に伴う埋壺 SZ611 検出状況 (東から)



竪穴建物跡 SB456・SB610 完堀状況 (西から)

図版 8 遺構 (8)



竪穴建物跡 SB1001・SB1006 完掘状況 (北東から)



竪穴建物跡 SB1002 完掘状況 (北から)



竪穴建物跡 SB1004 に伴う埋葬 SZ1031 (北から)



竪穴建物跡 SB1004 に伴う炉跡 SF1043 完掘状況 (北東から)



竪穴建物跡 SB1004 完掘状況 (北東から)



竪穴建物跡 SB1033 完掘状況 (北西から)



竪穴建物跡 SB1008 遺物 327 出土状況 (南から)



竪穴建物跡 SB194 に伴う炉跡 SF274 完掘状況 (南西から)



炉跡 SF285 完掘状況 (西から)

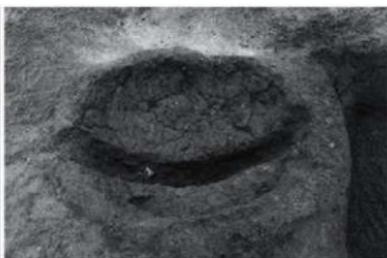


竪穴建物跡 SB194 完掘状況 (南西から)

図版 10 遺構 (10)



竪穴建物跡 SB194 に伴う配石遺構 SI121 検出状況(南西から)



竪穴建物跡 SB1046 に伴う炉跡 SF1025 完掘状況(北から)



炉跡 SF278 完掘状況(西から)



土坑 A 類 SK27 遺物出土状況(西から)



土坑 A 類 SK607 石棒出土状況(北から)



土器埋設遺構 SZ38 検出状況 (西から)



柱穴跡 SP145 柱根出土状況 (南から)



土坑 A 類 SK39 遺物出土状況 (西から)



土坑 A 類 SK664 遺物出土状況 (北から)



土坑 B 類 SK219 オニグルミ出土状況 (北から)



土坑 C 類 SK87 断面層位 (西から)



土坑 C 類 SK709 断面層位 (北から)



遺物集積遺構 SX471 遺物出土状況 (南西から)

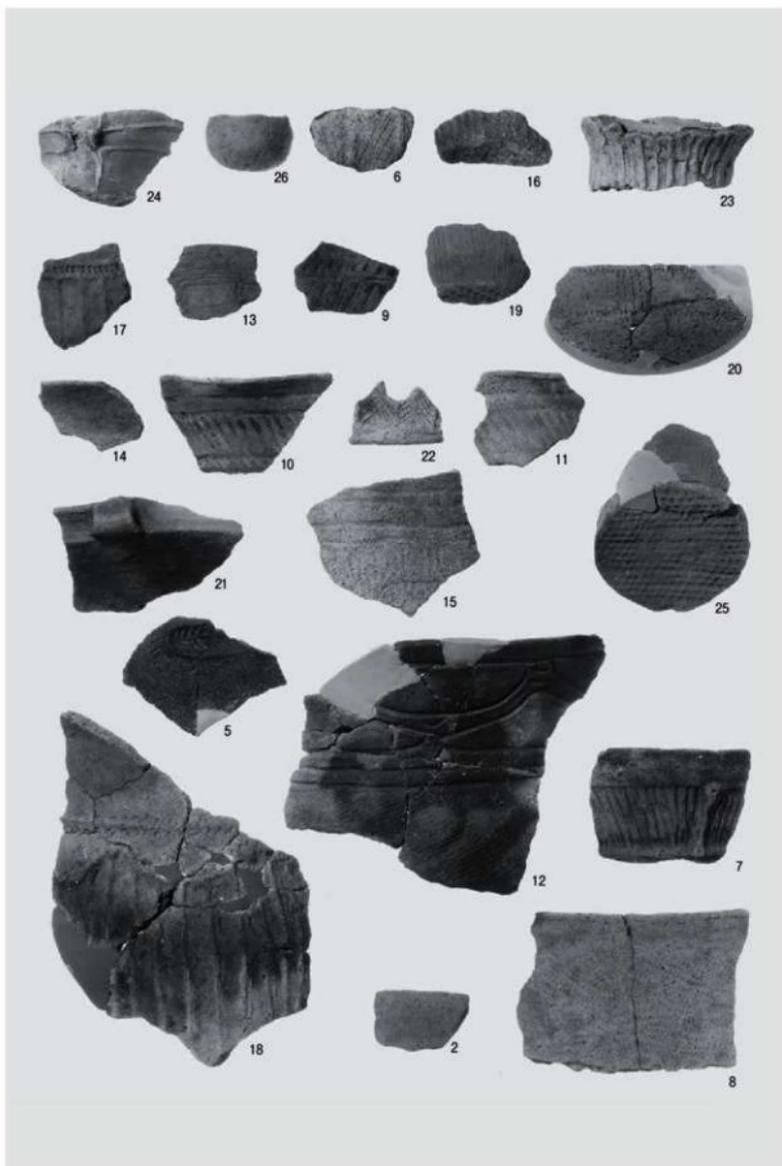
図版 12 遺構 (12)



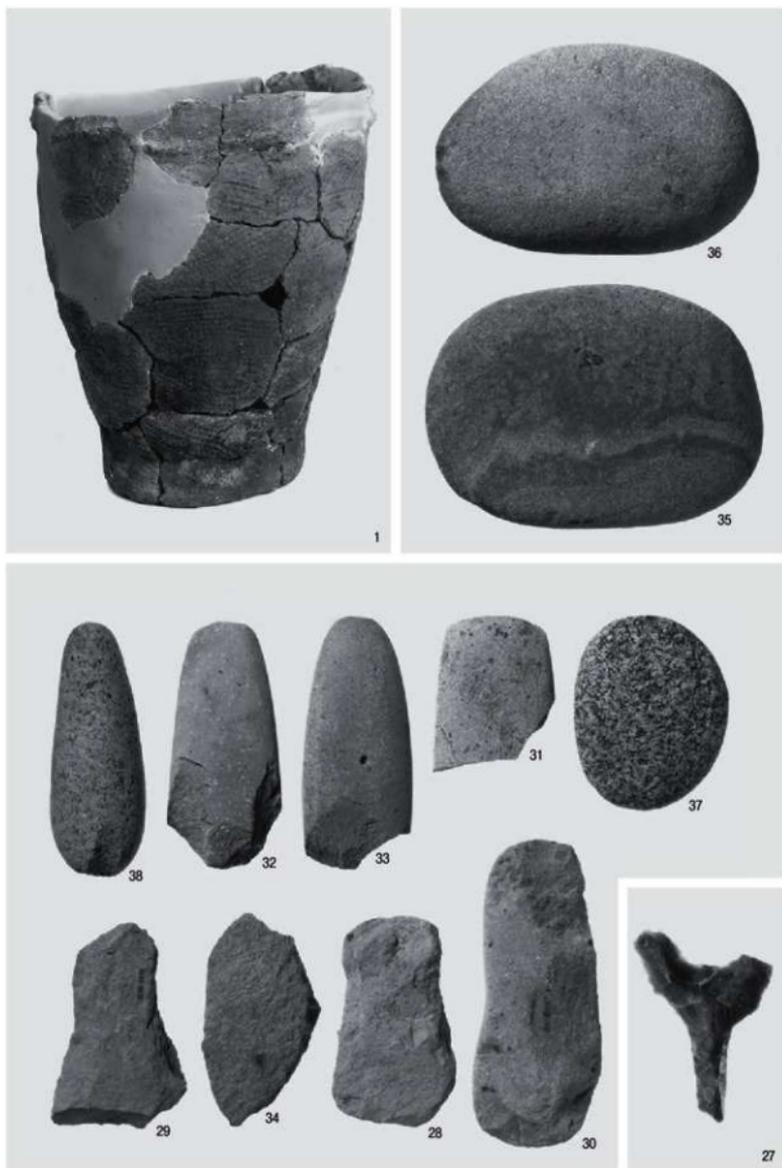
土坑 A 類完掘状況 (北から)

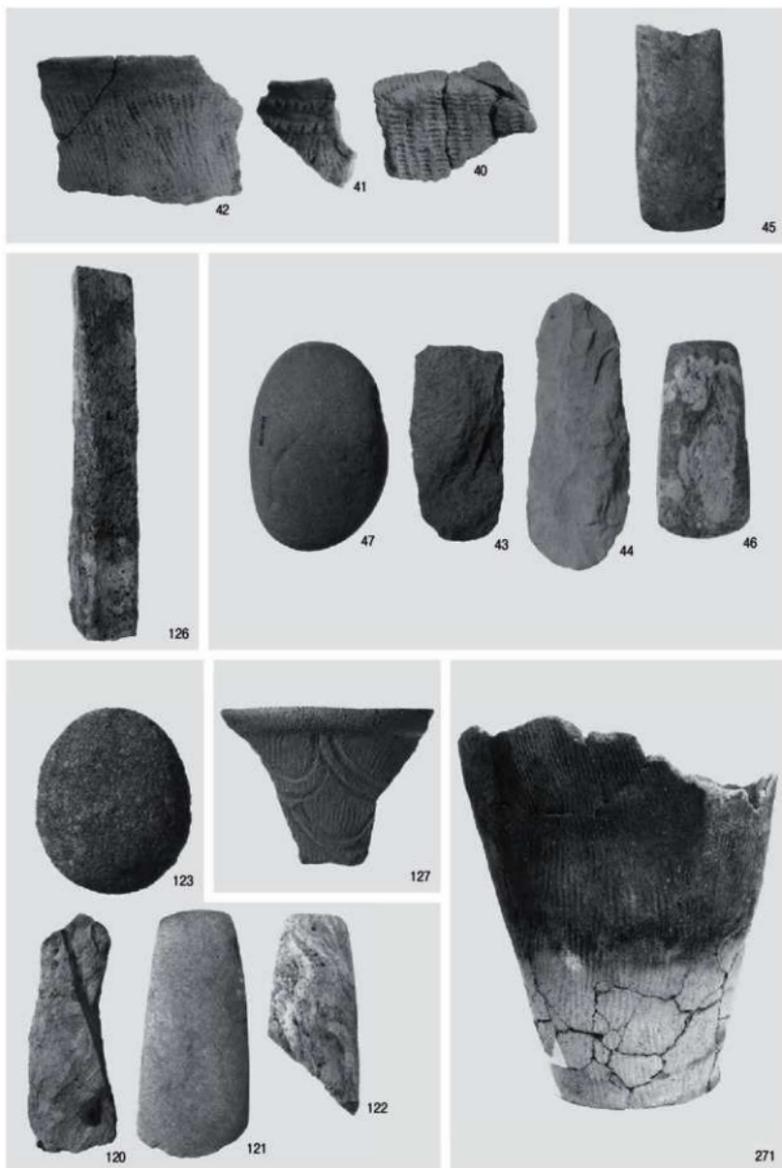


土坑 B 類と湧水地点 (北西から)

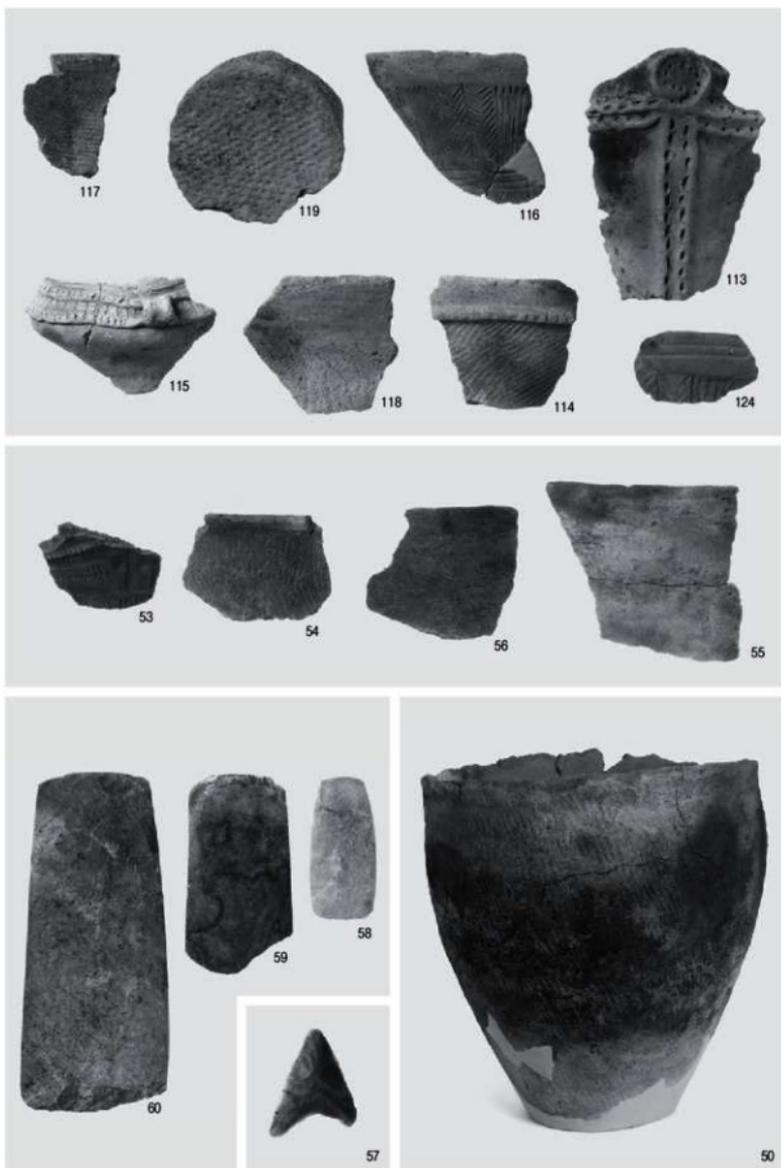


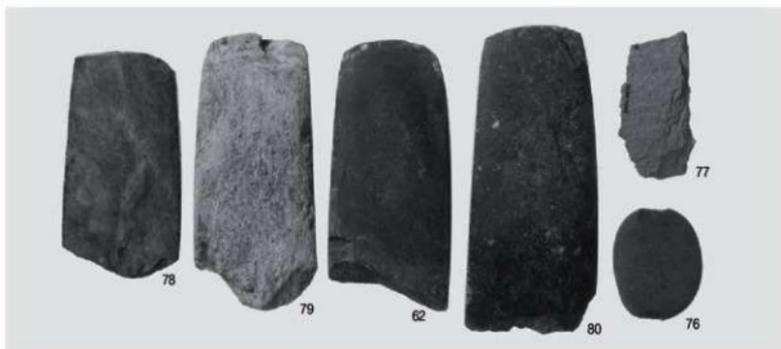
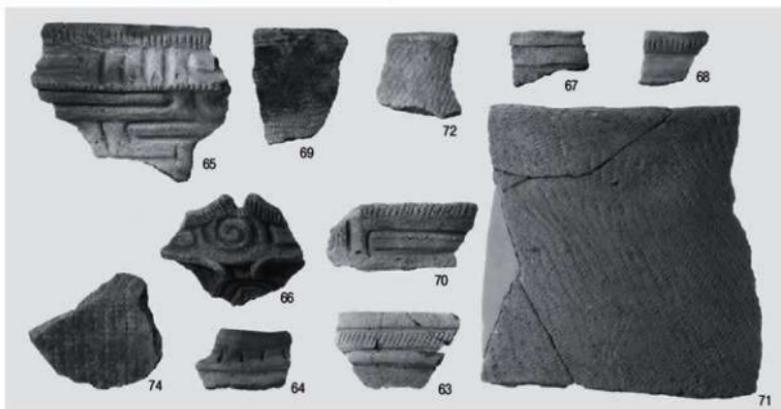
図版 14 遺物 (2) 竪穴建物跡 SB1 (2)



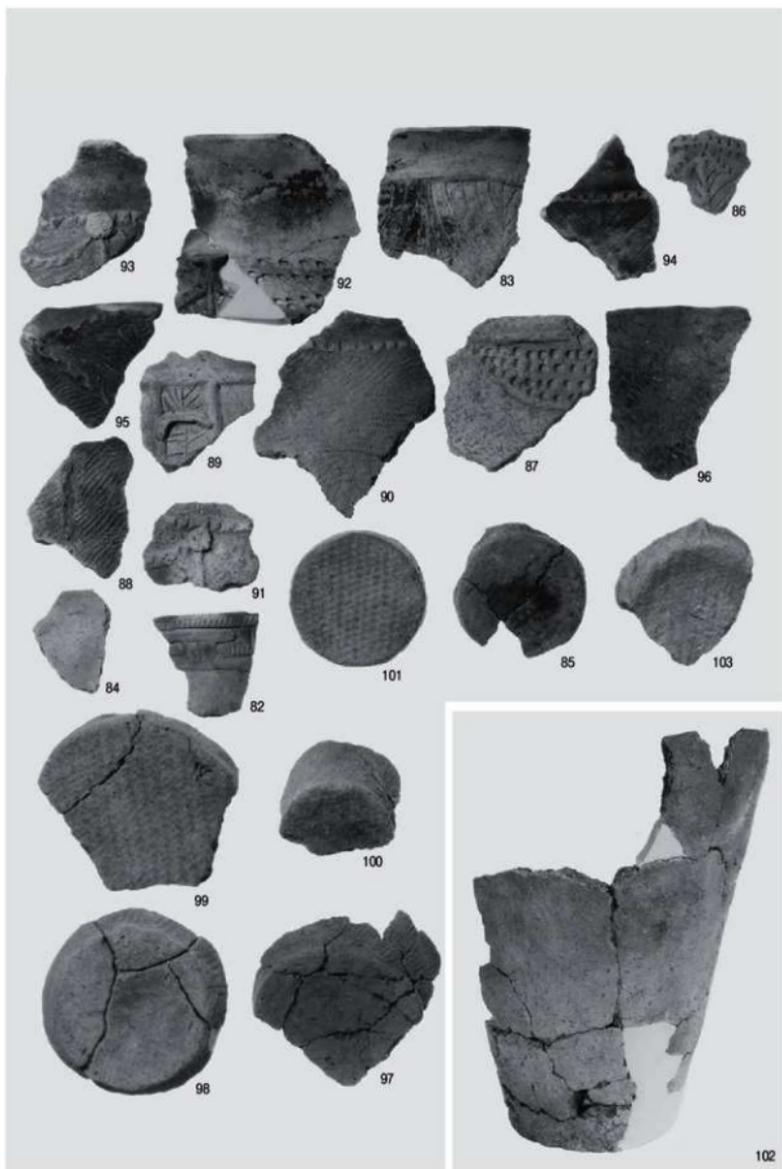


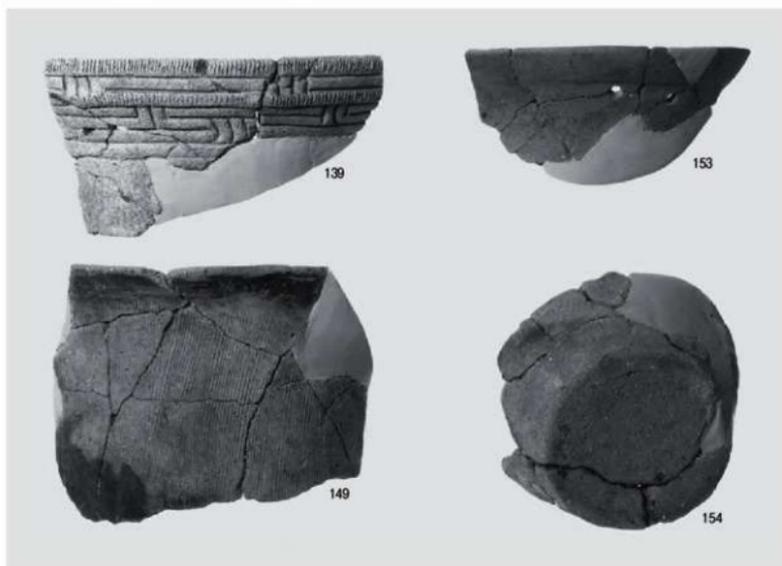
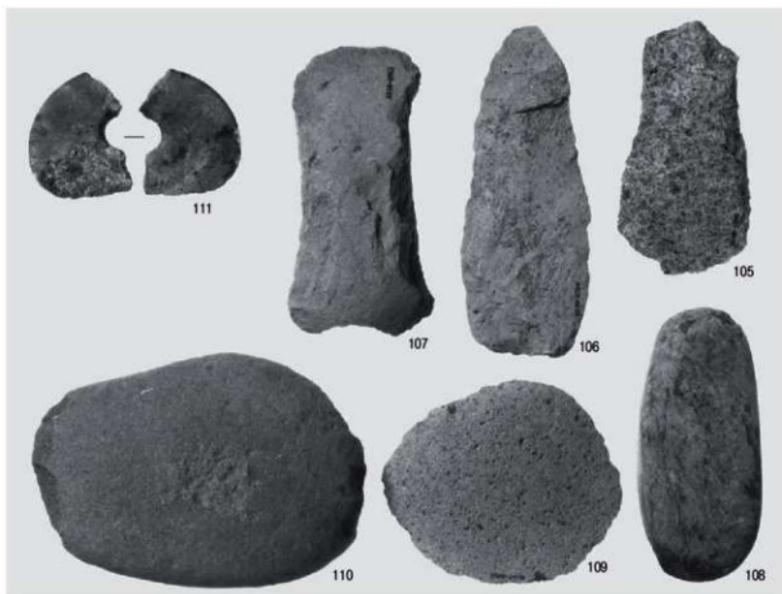
圖版 16 遺物 (4) 豎穴建物跡 SB55・SB120 (2)



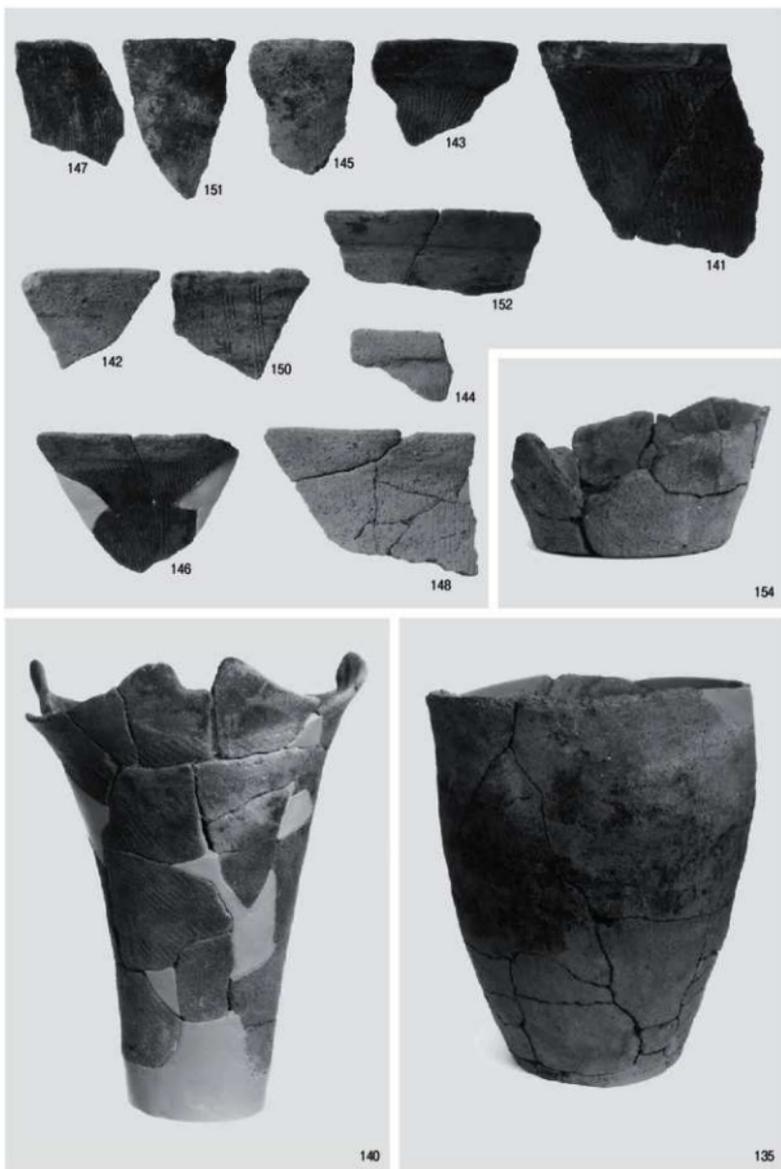


圖版 18 遺物 (6) 豎穴建物跡 SB119 (1)



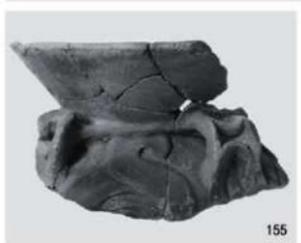
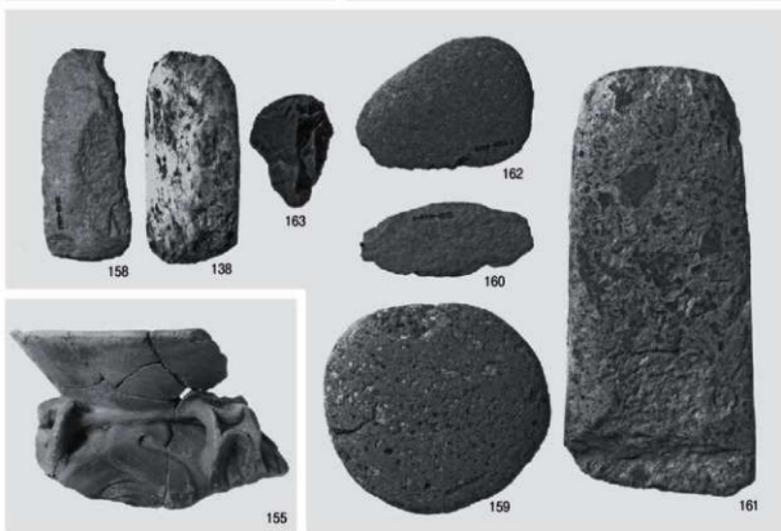


図版 20 遺物 (B) 竪穴建物跡 SB384 (2)

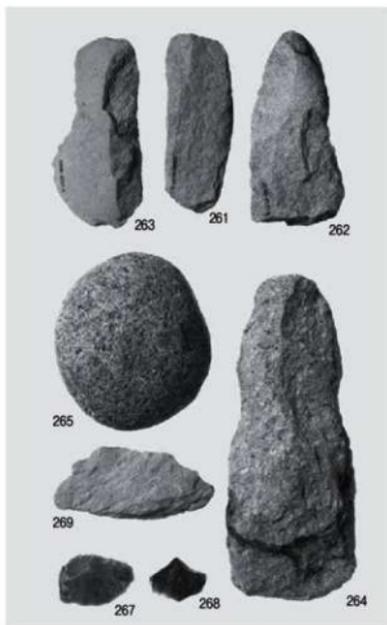


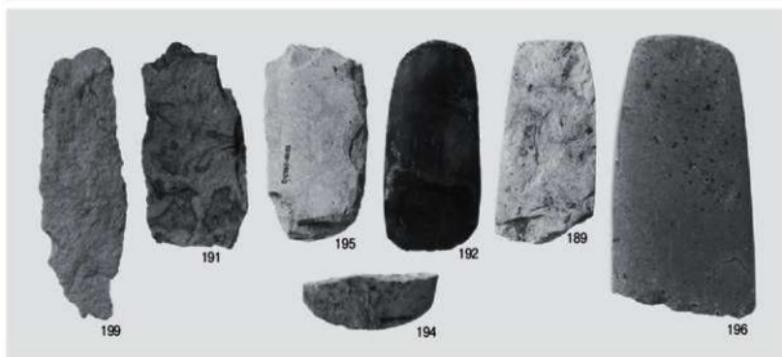
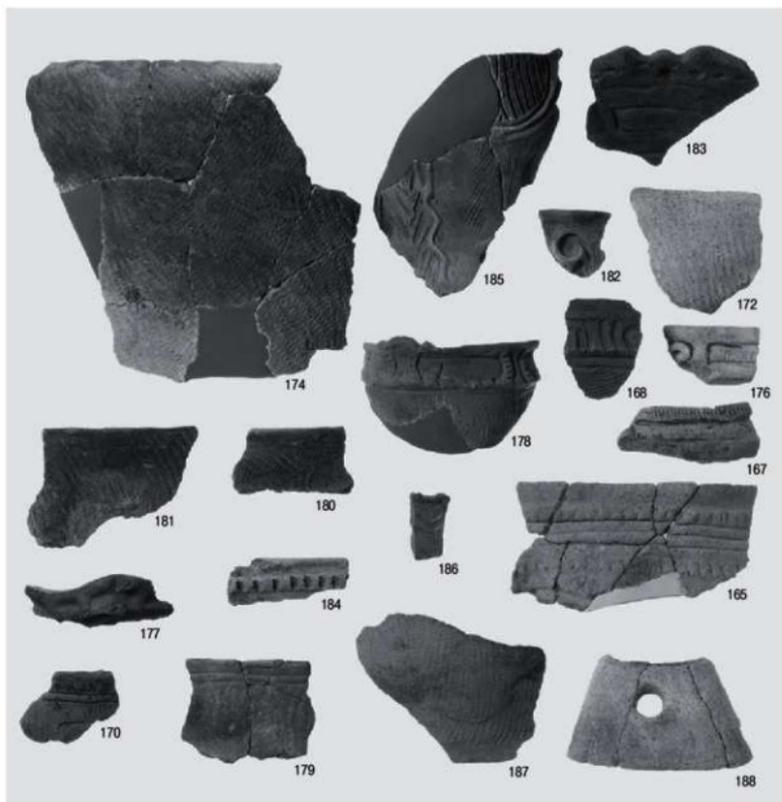
140

135



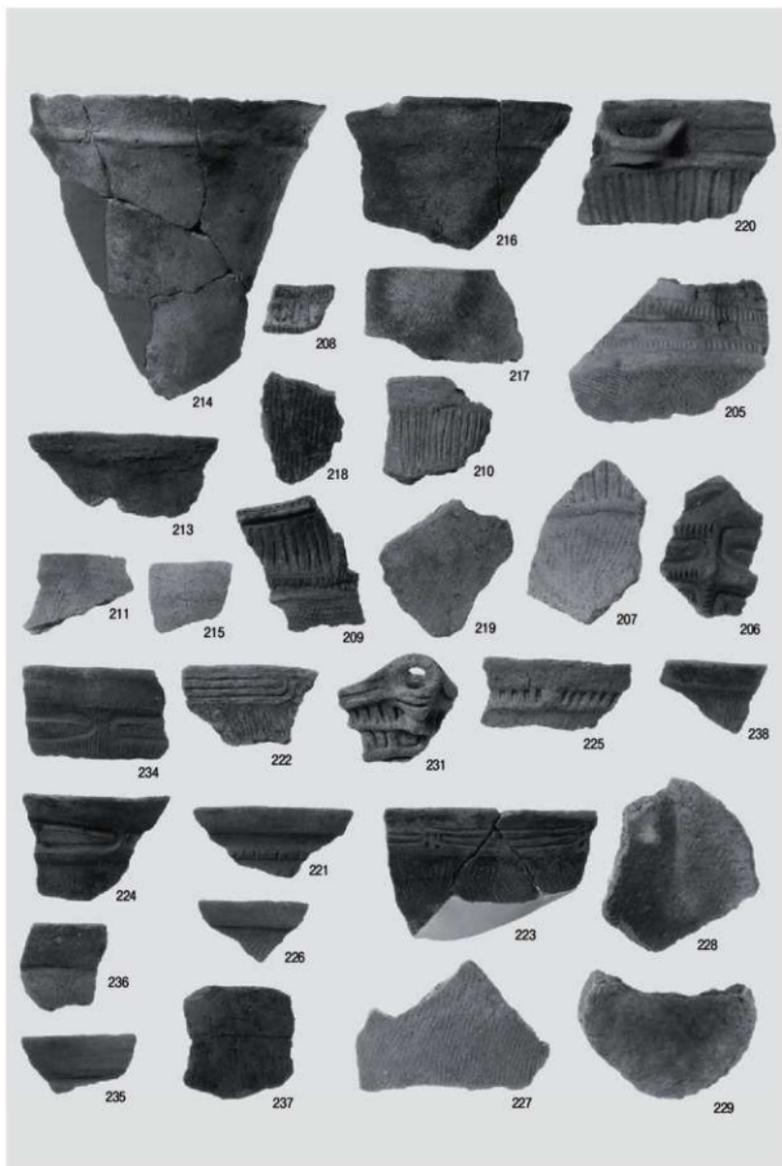
図版 22 遺物 (10) 竪穴建物跡 SB410 (1)・SB472 (2)



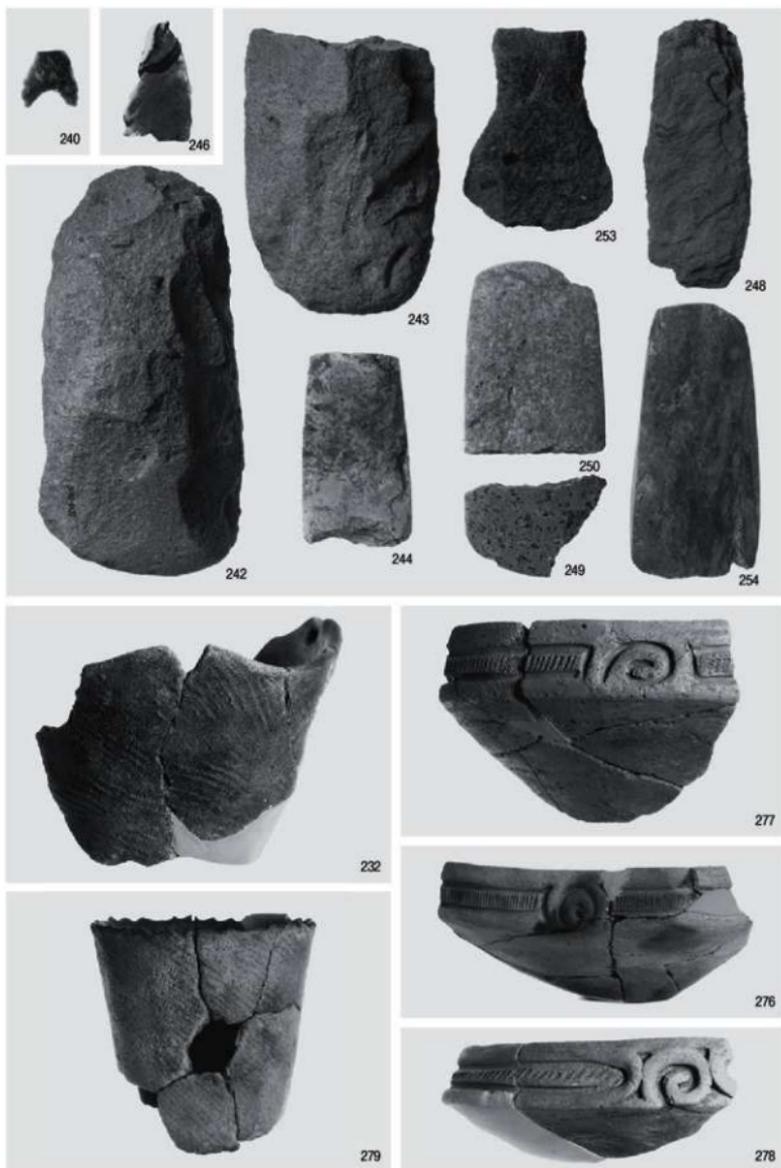


図版 24 遺物 (12) 竪穴建物跡 SB410 (3)・SB456 (1)・SB610、炉跡 SF278





図版 26 遺物 (14) 竪穴建物跡 SB456 (3)・SB1001 (1)



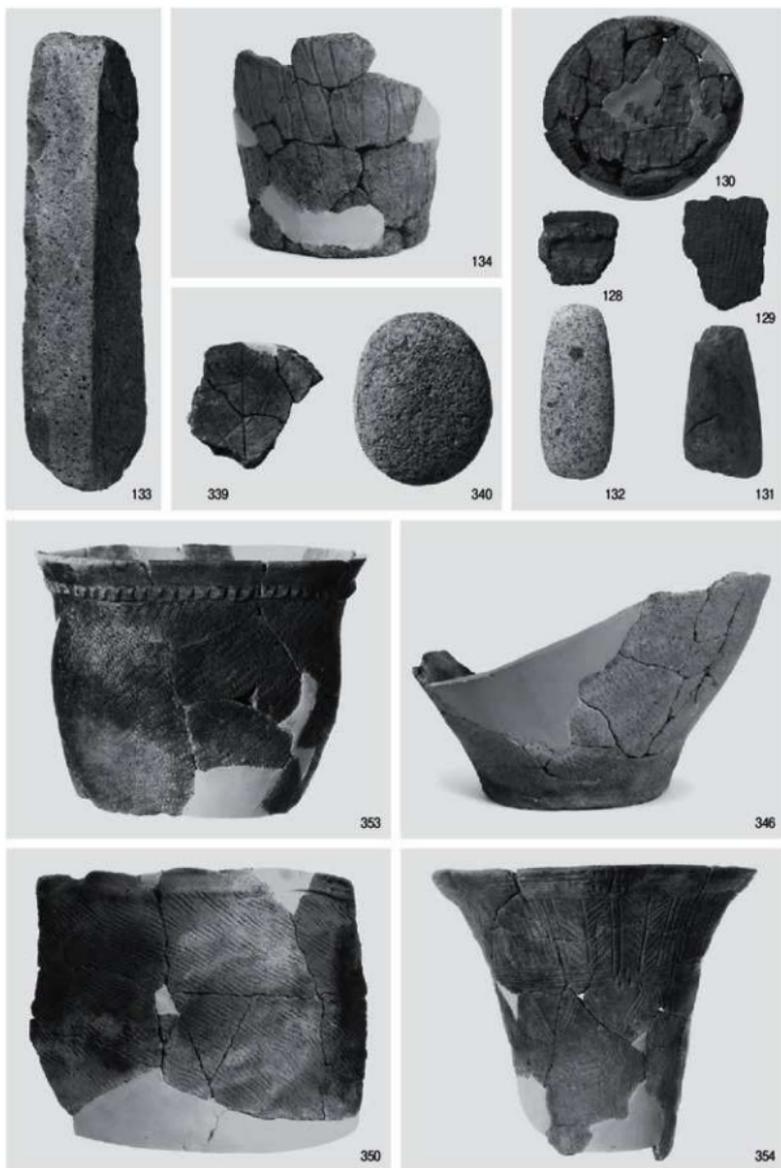


図版 28 遺物 (16) 竪穴建物跡 SB1002 (2)・SB1004 (1)・SB1008





図版 30 遺物 (18) 竪穴建物跡 SB194・SB1046、土坑 A 類 SK27



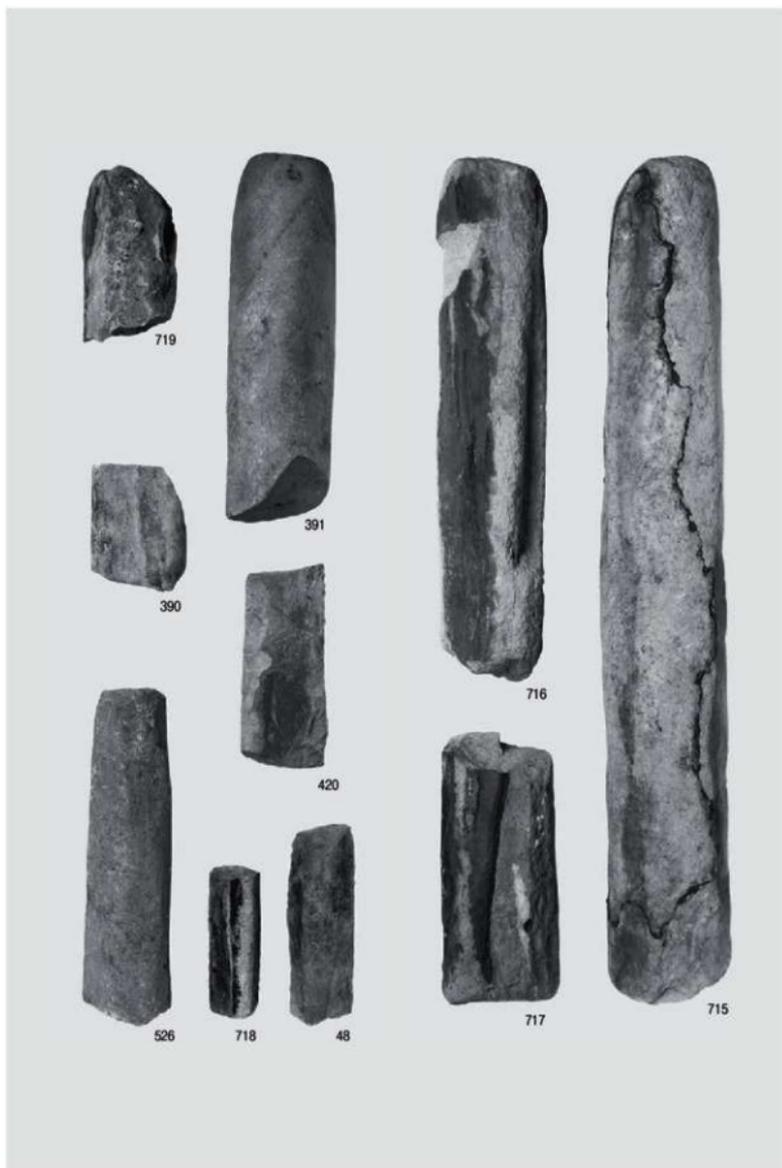


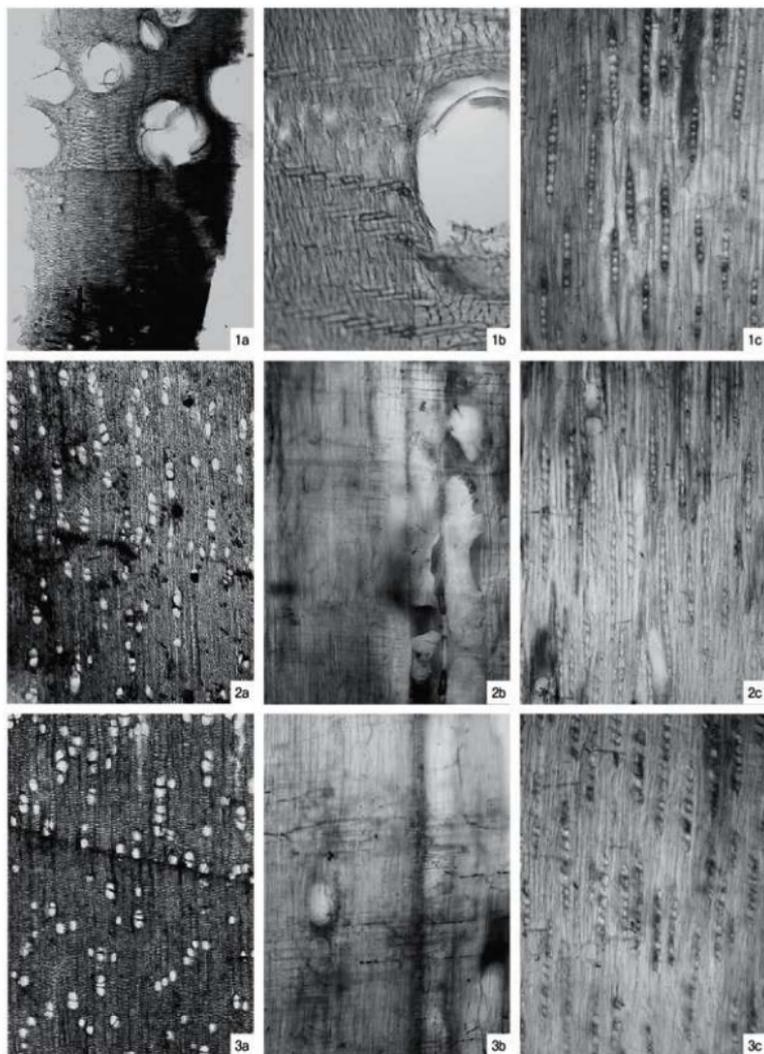
図版 32 遺物 (20) 遺物集積遺構 SX280 (1)





図版 34 遺物 (22) 石棒類





1. クリ (SP145 No.347)  
 2. トチノキ (SK218 No.417)  
 3. トチノキ (SK218 No.-)  
 a: 木口, b: 柎目, c: 板目

300  $\mu$ m: a  
 200  $\mu$ m: b, c



1. ニホンジカ角 (SK335 遺物取り上げ No.2470)

0 5cm

## 報告書抄録

ふりがな	しまいせき2・しおやきんせいじんじゃいせき3								
書名	鳥道跡2・塩屋金清神社遺跡3								
副書名	-								
シリーズ名	飛騨市文化財調査報告書								
シリーズ番号	第4集								
編著者名	三好清超 長田友也								
編集機関	飛騨市教育委員会								
所在地	〒509-4292 岐阜県飛騨市古川町本町2番22号 TEL 0577-73-7496 FAX 0577-73-7497								
発行年月日	2012年3月23日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
鳥道跡	岐阜県飛騨市 宮川町 塩屋	21217	00037	36°	137°	20080820 ～ 20081209	1512㎡	国道360号種 倉・打保バイパス 道路改築事業 に伴う記録保存 調査	
				23°	10°				
				21°	59°	20081209			
塩屋金清神社遺跡	岐阜県飛騨市 宮川町 塩屋	21217	00035	36°	137°	20080820 ～ 20081209	484㎡		
				23°	10°				
				24°	59°	20081209			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
鳥道跡	集落跡	縄文時代	竪穴建物跡26軒 炉跡1基 土器埋設遺構6基 柱穴跡1基 土坑325基 広場跡 遺物集積遺構3基	縄文土器、石器・石製品、木製品、骨片など85,460点	弧状に連なる竪穴建物跡など縄文時代中期中葉から後期初頭にかけての集落跡を検出。また、地元産出の塩屋石製石棒の製作と廃棄の痕跡を確認した。				
塩屋金清神社遺跡	集落跡	縄文時代	土坑31基	縄文土器 61点 石器・石製品 4点	縄文時代中期の土坑を検出。				
要約	<p>岐阜県飛騨市宮川町塩屋の西向き緩斜面では、川縁に鳥道跡、山際に塩屋金清神社遺跡が立地する。</p> <p>鳥道跡では、宮川に向かって弧状に張り出す形で、竪穴建物跡26軒を確認した。その内側には広場跡があり、広場跡を取り囲むように立石遺構と礎を伴う土坑が配置されていた。それらの南側には貯蔵穴と考えられる土坑群も確認した。出土遺物の年代観から、縄文時代中期中葉から後期初頭にかけての集落の様子が明らかになったものと考えられる。また、地元産出の塩屋石製の中期石棒と未製品22点が出土し、中期の石棒製作過程が明らかになった。なお、石棒製作跡である鳥道跡においても、石棒の使用が推定された。</p> <p>塩屋金清神社では、1992年度に宮川村教育委員会（当時）が実施した発掘調査により、1,000点を越える石棒と未製品が出土し、縄文時代後期前葉に石棒製作を行っていたことが判明していた。今回はそれに西接する調査区で、縄文時代中期の土坑を確認した。</p> <p>これらのことより、飛騨市宮川町塩屋区において、縄文時代中期から後期にかけて石棒製作が連続と行われていたことが明らかとなり、各時期による石棒製作のあり方の違いを提示することができた。さらに製作地は、川縁の鳥道跡から山際の塩屋金清神社遺跡に移ったことが判明した。この遺跡変遷の理由は、後期石棒の研削工程に水の利用が不可欠であり、沢の水を求めて山側へ作業場を求めたものと考えられた。</p> <p>このように、時期により異なる石棒製作のあり方と、石棒製作を根拠とした土地利用の変遷を示すことができた。</p>								

飛驒市文化財調査報告書 第4集

## 島遺跡2・塩屋金清神社遺跡3

発行日 2012年3月23日

編集・発行 飛驒市教育委員会

〒509-4292

岐阜県飛驒市古川町本町2番22号

TEL 0577(73)7496

印刷 有限会社村坂印刷